



Tokushima University

ラーニングライフ

第8回学生の学修に関する実態調査報告書



令和5年3月
徳島大学

まえがき

ラーニングライフ ー第8回学生の学修に関する実態調査報告書ーをお届け致します。徳島大学では、これまでほぼ2年ごとに「学生生活に関する実態調査」を行い、学生のキャンパスライフ全般にわたる状況の調査結果を報告し、教育や学生指導に役立てて参りました。これに加えて、15年前から「学生の学習に関する実態調査」（平成28年度実施分からは「学生の学修に関する実態調査」に変更）を実施し、本年度は第8回目の調査結果がまとまりましたのでご報告致します。なお、本調査は令和2年度から実施形態を見直し、大学IRコンソーシアムの学生調査と合同して学部1年生及び3年生を対象に、毎年実施することになっています。

さて本報告書には、学生自身のこと・全般的な学修状況・英語の学修状況・大学生活に対する考えや満足度・入学前について（1年生対象）・将来について（3年生対象）等、全体で151の質問により調査されたアンケート結果をまとめています。続いて、それらの結果の分析から明らかになった各学部における学びの現状と課題、さらに全学的なまとめと教育の質向上の手がかりとなる提言により構成されています。より良い徳島大学の教育実現に向けて、学部のみならず、学科やコース等のオリエンテーションの際、また日頃の教育活動・学生指導においてこれらのデータや分析結果をご活用いただければ幸いです。

今回のアンケート結果においても3年を越えるコロナ禍の影響が少なからず反映されていると感じますが、本稿の執筆時点では、新型コロナウイルス感染症流行の第8波も全国的に終息に向かいつつあり、来たる5月8日には新型コロナウイルス感染症の感染症法分類も5類へと移行する予定になりました。今後本学におきましても、本感染症の動向を注視しつつ、学生や教職員の皆様には教育研究体制の正常化に向けてのご協力をお願いすることになると考えています。特に、令和2年度からコロナ禍に対応した教育体制への移行によって、様々な形態の遠隔授業を含めた新しい教授方法が一気に加速・浸透しましたが、今後はそこで工夫された教授方法の良い点は残しながら、さらにポスト/ウィズコロナ時代の高等教育体制として最適化した新たな教育体制への移行が進められることとなります。学生の学修をより深め、その学びの質を高めるよう、教職員一同が連携して取り組んで参りたいと存じます。

本調査の実施と報告書の作成にあたりまして、教育の質に関する専門委員会及び高等教育研究センター教育の質保証支援室の先生方や学務部職員の皆様には、アンケート項目の設定から、調査の実施、集計、結果の分析に至るまで、精力的に遂行頂き早期に報告書としておまとめいただきました。最後になりますが、教育の質に関する専門委員会委員長 金丸芳教授をはじめとする関係の皆様には厚く御礼を申し上げます。また、調査にご協力下さいました学生皆様にも深く感謝を申し上げます。

令和5年3月

徳島大学理事（教育担当）・副学長
大学教育委員会委員長
長 宗 秀 明

目 次

まえがき	1
序 章 学生の学修に関する実態調査の概要	
1 調査の目的	3
2 調査の組織	3
3 調査の対象及び方法	3
4 調査の時期	3
5 調査の内容	3
6 調査票の回収状況	4
7 図中の%表示	4
令和4年度 学生の学修に関する実態調査回収率	5
第1章 設問・調査結果	
1 1年生調査 設問	6
2 1年生調査 結果	19
3 3年生調査 設問	109
2 3年生調査 結果	122
第2章 学部等の現状と課題	
1 総合科学部	213
2 医学部医学科	215
3 医学部医科栄養学科	217
4 医学部保健学科	219
5 歯学部	221
6 薬学部	227
7 理工学部	230
8 生物資源産業学部	232
9 教養教育（全学共通教育）	236
10 FD（Faculty Development）の観点から	240
11 eラーニング	242
12 附属図書館	245
第3章 まとめと提言	246

序章 学生の学修に関する実態調査の概要

1. 調査の目的

学生の学修意識や学修に関する実態を把握し、今後の教育改革並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の組織

教育の質に関する専門委員会委員の次の委員及び高等教育研究センター教育の質保証支援室が中心となり調査を実施し、分析作業を行った。

区分	氏名	部局	職名
委員長	金丸 芳	生物資源産業学部	教授
委員	中村 豊	総合科学部	教授
委員	常山 幸一	医学部	教授
委員	工藤 保誠	歯学部	教授
委員	石田 竜弘	薬学部	教授
委員	高岩 昌弘	理工学部	教授
委員	渡部 稔	教養教育院	教授
委員	吉田 博	高等教育研究センター	准教授
委員	松浦 健二	情報センター	教授
委員	吉永 哲哉	医学部	教授
委員	瀬川 博子	医学部	教授
	塩川 奈々美	高等教育研究センター	助教

3. 調査の対象及び方法

この調査は、本学に在学する1年生（1,292人）及び3年生（1,308人）（令和4年10月1日に在籍するものから留年・休学・退学者を除いたもの）を調査対象とした。

調査方法は、各学部の学務（教務）係及び教育の質に関する専門委員会委員の協力を得て調査票を配布し、教務システム上（Web）で実施した。

4. 調査の時期

この調査は、令和4年10月1日から11月30日まで実施し、10月1日現在の実状について回答を依頼した。

5. 調査の内容

調査項目は、学生の学修意識や学修に関する実態を把握する目的に基づき、IRコンソーシアムの学生調査項目及び「教育の質に関する専門委員会」委員・高等教育研究センター教育改革推進部門が作成した、全151項目とした。

6. 調査票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者1年生1,292人及び3年生1,308人のうち回答数は、1年生807人及び3年生684人で、回収率は1年生62.5%及び3年生52.3%であった。学部・学科別の回収状況は次表のとおりである。

7. 図中の%表示

複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

令和4年度 学生の学修に関する実態調査回答率

1年生

学部・学科・コース・専攻	回答数	学生数	回収率
総合科学部	94	173	54.3%
医学部医学科	62	112	55.4%
医学部医科栄養学科	40	50	80.0%
医学部保健学科（看護）	72	72	100.0%
医学部保健学科（放射）	38	38	100.0%
医学部保健学科（検査）	13	17	76.5%
歯学部歯学科	25	37	67.6%
歯学部口腔保健学科	13	15	86.7%
薬学部薬学科	70	84	83.3%
理工学部理工学科（社会基盤デザイン）	60	86	69.8%
理工学部理工学科（機械科学）	71	117	60.7%
理工学部理工学科（応用化学システム）	44	84	52.4%
理工学部理工学科（電気電子システム）	61	107	57.0%
理工学部理工学科（知能情報）	35	86	40.7%
理工学部理工学科（光システム）	40	48	83.3%
理工学部理工学科（自然科学）	14	32	43.8%
理工学部理工学科（数理科学）	18	34	52.9%
生物資源産業学部	37	100	37.0%
合計	807	1292	62.5%

3年生

学部・学科・コース・専攻	回答数	学生数	回収率
総合科学部	63	178	35.4%
医学部医学科	51	124	41.1%
医学部医科栄養学科	51	53	96.2%
医学部保健学科（看護）	72	72	100.0%
医学部保健学科（放射）	33	33	100.0%
医学部保健学科（検査）	14	14	100.0%
歯学部歯学科	31	40	77.5%
歯学部口腔保健学科	8	15	53.3%
薬学部薬学科	32	37	86.5%
薬学部創製薬科学科	33	36	91.7%
理工学部理工学科（社会基盤デザイン）	46	83	55.4%
理工学部理工学科（機械科学）	71	129	55.0%
理工学部理工学科（応用化学システム）	27	68	39.7%
理工学部理工学科（電気電子システム）	22	118	18.6%
理工学部理工学科（情報光）	68	155	43.9%
理工学部理工学科（応用理数）	15	56	26.8%
生物資源産業学部	47	97	48.5%
合計	684	1308	52.3%

※理工学部の学生数には、夜間主の学生数も含まれています。

1年生調査 設問

I. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

〔1〕徳島大学学習に関する実態調査（大学 IR コンソーシアム調査）の主旨を確認し、データ利用について同意してください。

1. 同意する

※徳島大学学習に関する実態調査の主旨

「徳島大学学習に関する実態調査」は、学生の学習の実態を把握し、教育活動の効果を検証し、今後の改善に活かすために実施します。調査データは統計的に処理され、成績等のデータとともに分析を行うことがあります。個人を特定したり、成績に影響させることはありません。ただし、回答率が低い場合は、回答を促す連絡を個人にする場合があります。

また、複数の大学の状況と比較するために、調査データを本学が加盟している大学 IR コンソーシアムの学生調査にも使用し、他の加盟校（約 50 校）と集計結果を共有しますが、その場合も個人を特定したり、成績に影響させることはありません。

〔2〕あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。

1. 30分未満
2. 30分以上－1時間未満
3. 1時間以上－1時間30分未満
4. 1時間30分以上－2時間未満
5. 2時間以上

〔3〕あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。

1. 家族または親戚と暮らしている
2. アパート・学生マンションでひとり暮らし
3. 大学寮や合宿所
4. その他

II. 大学に入学してからのあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

	ひんぱんにあった	ときどきあった	あまりなかった	まったくなかった
〔4〕 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ	4	3	2	1
〔5〕 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ	4	3	2	1
〔6〕 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する	4	3	2	1
〔7〕 授業の一環でボランティア活動をする	4	3	2	1
〔8〕 学生自身が文献や資料を調べる	4	3	2	1
〔9〕 定期的に小テストやレポートが課される	4	3	2	1

[10]	教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する	4	3	2	1
[11]	学生が自分の考えや研究を発表する	4	3	2	1
[12]	授業中に学生同士が議論をする	4	3	2	1
[13]	授業で検討するテーマを学生が設定する	4	3	2	1
[14]	授業の進め方に学生の意見が取り入れられる	4	3	2	1
[15]	取りたい授業を履修登録できなかった	4	3	2	1
[16]	出席することが重視される	4	3	2	1
[17]	TA や SA などの授業補助者から補助を受ける	4	3	2	1

[18] 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

1. 80%以上 2. 70%以上 3. 60%以上 4. 60%未満

[19] あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。(複数回答可)

1. 課題演習 2. 質疑応答 3. 振り返り※1 4. グループワーク
5. ディスカッション 6. 反転授業※2 7. ラーニング・ポートフォリオ※3

※1 学んだことについてまとめ、その内容を学生同士あるいは教員が確認しフィードバックを行う方法

※2 授業を受講する前に講義や説明の部分を事前に配付資料や動画で学修し、その内容に関する確認課題(簡単な復習テスト等)を行い、対面の授業時間内では講義以外の授業方法を取り入れて、学生の能動的な学修を促進する方法

※3 授業のある単元が終了した後で、学生が学修(実験、実習、演習等)に関する振り返りを行い、その内容を記述し、他者と共有できる形で蓄積し、フィードバックを受けることができるシステムまたは教材等を取り入れた方法

大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

	ひんばんにした	ときどきした	あまりしなかった	まったくしなかった	
[20]	授業課題のために図書館の資料を利用した	4	3	2	1
[21]	授業課題のために Web 上の情報を利用した	4	3	2	1
[22]	インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした	4	3	2	1
[23]	提出期限までに授業課題を完成できなかった	4	3	2	1
[24]	授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした	4	3	2	1
[25]	授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた	4	3	2	1
[26]	授業を欠席した	4	3	2	1
[27]	授業に遅刻した	4	3	2	1

[28]	授業をつまらなく感じた	4	3	2	1
[29]	授業中に居眠りをした	4	3	2	1
[30]	学内での学習支援を受けた（教職員に学習に関する相談をした、学内の学習支援室を利用した等）	4	3	2	1
[31]	単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した	4	3	2	1
[32]	大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）	4	3	2	1
[33]	教員に親近感を感じた	4	3	2	1

入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

	全然ない	1時間未満	1 2時間	3 5時間	6 10時間	11 15時間	16 20時間	20時間以上	
[34]	授業や実験に出る	1	2	3	4	5	6	7	8
[35]	授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[36]	授業時間外に、授業に関連しない勉強をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[37]	オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する	1	2	3	4	5	6	7	8
[38]	部活動や同好会に参加する	1	2	3	4	5	6	7	8
[39]	大学外でアルバイトや仕事をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[40]	読書をする（マンガ・雑誌を除く）	1	2	3	4	5	6	7	8
[41]	個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）	1	2	3	4	5	6	7	8

入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

	大きく増えた	増えた	変化なし	減った	大きく減った	
[42]	一般的な教養	5	4	3	2	1
[43]	分析力や問題解決能力	5	4	3	2	1
[44]	専門分野や学科の知識	5	4	3	2	1
[45]	批判的に考える能力	5	4	3	2	1
[46]	異文化の人々に関する知識	5	4	3	2	1
[47]	リーダーシップの能力	5	4	3	2	1
[48]	人間関係を構築する能力	5	4	3	2	1
[49]	他の人と協力して物事を遂行する能力	5	4	3	2	1

[50]	異文化の人々と協力する能力	5	4	3	2	1
[51]	地域社会が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[52]	国民が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[53]	文章表現の能力	5	4	3	2	1
[54]	外国語の運用能力	5	4	3	2	1
[55]	コミュニケーションの能力	5	4	3	2	1
[56]	プレゼンテーションの能力	5	4	3	2	1
[57]	数理的な能力	5	4	3	2	1
[58]	コンピュータの操作能力	5	4	3	2	1
[59]	時間を効果的に利用する能力	5	4	3	2	1
[60]	グローバルな問題の理解	5	4	3	2	1
[61]	卒業後に就職するための準備の度合い	5	4	3	2	1
[62]	職業人・社会の一員として求められる倫理観	5	4	3	2	1
[63]	生涯学び続け、教養・専門性を高める能力	5	4	3	2	1
[64]	必要な情報を収集・取捨選択する能力	5	4	3	2	1
[65]	データを読み、理解し、活用する能力	5	4	3	2	1
[66]	新しいことに積極的に挑戦する姿勢	5	4	3	2	1
[67]	ストレスに対処する能力	5	4	3	2	1
[68]	柔軟に発想し、表現する能力	5	4	3	2	1

[69] 大学における教育に対して、何を期待しますか。(複数回答可)

1. 社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能
2. 人生を支える幅広い教養
3. 資格取得に必要な知識あるいはその受験に必要な単位
4. 特に期待するものはない

[70] 大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。

1. 一般知識・教養
2. 専門的知識
3. 課題発見・解決力
4. チームで目標を達成するマネジメント能力
5. コミュニケーション能力
6. 討論する能力
7. 語学力
8. 情報機器を活用する力
9. 論理的な文章を書く能力

[71] 徳島大学では「GPA（自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値）」を成績表に記載しています。自身の「GPA」について確認していますか。

1. 確認している
2. 確認していない

[72] レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)

1. 教科書・参考書・授業での配付資料
2. インターネット
3. 教員
4. 友人・先輩
5. 図書館の書籍・文献(電子版含む)
6. 講義ノート

[73] 教科書を購入していない場合の理由は何ですか。(複数回答可)

1. 必要な教科書は全て購入している
2. 教科書がなくても授業内容が理解できる
3. 教科書が高価である
4. 先輩、友人の本を使う
5. 図書館などの本を利用する
6. 購入しても、読まない。内容が理解できない
7. 講義資料・試験対策プリントで学修する

[74] 大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)

1. 教養や社会問題の理解に役立つ読書
2. 語学など自分の将来を考えたスキルの修得
3. 数学や理科のような基礎的能力を強化するための学修
4. 自分の興味あるテーマの探究
5. 資格取得や受験に備えた学修
6. 卒業研究につながる実験・調査・研究レビュー等
7. 大学の授業以外で、実行や計画していることはない

[75] 高校で履修していない数学、物理、化学、生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)

1. 高校の教科書、参考書を使い、勉強した
2. 教養教育で開講されている高大接続科目や自然科学入門又はその他の科目を受講した
3. HP上の徳島大学LMS(リメディアル教材)を利用して勉強した
4. 勉強の必要性を感じたが、何もしていない
5. 支障を感じないので何もしていない

III. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から自己評価した場合に、「①入学時」と「②現在」それぞれについて、到達していると思うレベルを、1つ答えてください。

[76] 聞く力		①入学時	②現在	
		↓	↓	
レベル 低  高	A1	はっきりと、ゆっくり話してもらえれば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	1	1
	A2	最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。	2	2
	B1	身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。	3	3
	B2	テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。	4	4
	C1	特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	5	5

C2	母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。	6	6
----	--	---	---

〔77〕 読む力



		①入学時 ↓	②現在 ↓
A1	掲示やポスター、カタログなどの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	1	1
A2	ごく短い簡単な文章や、簡単で短い個人的な手紙は理解できる。	2	2
B1	日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単で個人的な手紙を理解できる。	3	3
B2	現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	4	4
C1	複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的記事も理解できる。	5	5
C2	抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。	6	6

〔78〕 会話力



		①入学時 ↓	②現在 ↓
A1.1	決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。	1	1
A1.2	家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。	2	2
A2.1	短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けるのが、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。	3	3
A2.2	準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。	4	4
B1	日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。	5	5
B2	身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。	6	6
C1	社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。	7	7
C2	いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。	8	8

〔79〕 表現力



		①入学時 ↓	②現在 ↓
A1	住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	1	1
A2	家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。	2	2
B1	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語るができる。	3	3
B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。	4	4
C1	複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	5	5
C2	論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にことめさせることができる。	6	6

〔80〕 書く力



		①入学時 ↓	②現在 ↓
A1	お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。	1	1
A2	簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。	2	2
B1	身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。	3	3

B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。	4		4
C1	手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。	5		5
C2	論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。	6		6

[81] どのように、英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)

1. テレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
2. 英会話スクールを利用している
3. 図書館または大学の英語教材、施設を利用して英語を勉強している
4. TOEIC、TOEFLや英検などの参考書、問題集を購入して勉強している
5. TOEIC、TOEFLや英検などの英語能力試験を受験している
6. 授業で使用している教科書、英語論文を勉強している
7. 大学が実施している英語のプログラムに参加して勉強している
8. 特に何もしていない

[82] アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外（インド、シンガポール等）などへの渡航経験（期間）についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを旨とした渡航経験があれば、その期間（複数回の経験がある場合は最長のもの）について1つ選んで回答してください。

1. 渡航したことはない
2. 10日未満
3. 10日以上1ヶ月未満
4. 1ヶ月以上6ヶ月未満
5. 6ヶ月以上

[83] 徳島大学における英語の授業についてどう思いますか。(複数回答可)

1. 教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である
2. もっと授業数を増やしてほしい
3. もっと授業数を減らしてほしい
4. もっと少人数のクラスにしてほしい
5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
6. 専門教育の英語の時間を増やしてほしい
7. 専門教育の英語のライティングに重点を置いた授業を増やしてほしい
8. 専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やしてほしい

IV. 次に、大学生活に対するあなたの考えや満足度についておうかがいします。

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいうまくいきましたか。

	とても うまく いった	いづらか うまく いった	あまり うまくいか なかった	まったく うまくいか なかった
--	-------------------	--------------------	----------------------	-----------------------

[84]	大学の学生向けサービスを上手に利用する	4	3	2	1
[85]	大学教員の学問的な期待を理解する	4	3	2	1
[86]	効果的に学習する技能を修得する	4	3	2	1
[87]	大学が求める水準に応じて学習する	4	3	2	1
[88]	時間を効果的に使う	4	3	2	1
[89]	大学教員と顔見知りになる	4	3	2	1
[90]	他の学生との友情を深める	4	3	2	1

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

	非常にそう思う	そう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	全くそう思わない	
[91]	自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる	5	4	3	2	1
[92]	日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている	5	4	3	2	1
[93]	現在の自分の学修時間や学修態度に満足している	5	4	3	2	1

[94] あなたの学生生活は充実していますか。

4. 充実している 3. まあまあ充実している
2. あまり充実していない 1. 充実していない

あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

	とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満	
[95]	共通教育あるいは教養教育の授業	5	4	3	2	1
[96]	SIH 道場～アクティブラーニング入門～の授業	5	4	3	2	1
[97]	初年次生を対象とした教育プログラム内容（フレッシュセミナー、基礎ゼミなど）	5	4	3	2	1
[98]	授業の全体的な質	5	4	3	2	1
[99]	日常生活と授業内容との関連	5	4	3	2	1
[100]	将来の仕事と授業内容の結びつき	5	4	3	2	1
[101]	教員と話をする機会	5	4	3	2	1
[102]	学習支援や個別の学習指導	5	4	3	2	1
[103]	他の学生と話をする機会	5	4	3	2	1

[104]	大学のなかでの学生同士の一体感	5	4	3	2	1
[105]	多様な考え方を認め合う雰囲気	5	4	3	2	1
[106]	大学での経験全般について	5	4	3	2	1
[107]	1つの授業を履修する学生数					

[108] 教養教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。(複数回答可)

1. 広い教養を身に付けるため
2. 専門の基礎を築くため
3. 好きな科目や面白そうな科目を選択した
4. 単位をとりやすい授業を選択した
5. 授業科目を選択する余地がなかった
6. 特に基準はない

[109] 教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)

1. 「履修の手引き」やシラバスに記載された情報
2. 教員からの助言や情報
3. 事務職員からの助言や情報
4. 先輩からの助言や情報
5. 友人からの助言や情報

[110] 「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。(複数回答可)

1. 専門分野の体験学習
2. 文章（レポート）の書き方
3. プレゼンテーションの仕方
4. 他者と協働して学修や活動に取り組むこと
5. 学修の振り返りを行い次の学修に活かすこと
6. 大学における学修の仕方・取り組み方
7. 主体的な学修習慣を身につけること

[111] 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると感じますか。(複数回答可)

1. 専門の知識を身に付けるのに役立った
2. 自分の進路について考えることができるようになった
3. 学問・研究に興味を湧いた
4. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立った
5. 特に得るものはなかった

[112] 教養教育科目の授業内容の難易度についてどう感じますか。

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易しくすべきである

[113] 専門教育科目の授業内容の難易度についてどう感じますか。

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易しくすべきである

あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

	とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満
[114] 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）	5	4	3	2	1
[115] 実験室の設備や器具	5	4	3	2	1
[116] コンピュータの施設や設備	5	4	3	2	1
[117] コンピュータの訓練や援助	5	4	3	2	1
[118] インターネットの使いやすさ	5	4	3	2	1
[119] 奨学金など学費援助の制度	5	4	3	2	1
[120] 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）	5	4	3	2	1
[121] レクリエーション施設（ジムの設備など）	5	4	3	2	1
[122] キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）	5	4	3	2	1
[123] クラス担任制度	5	4	3	2	1

[124] 図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。（複数回答可）

1. 教員・学修支援アドバイザーによる学修相談（SSS）
2. 授業サポートナビ（各講義の参考図書、関連情報提供サービス）
3. 学修に関するイベント（講習会等）
4. 文献複写サービス 5. 本の購入リクエスト 6. グループ学修スペースの利用
7. 調べもの相談 8. 利用していない

[125] あなたは、読書についてどのように考えていますか。

1. 読書は習慣として身に付いている
2. もっと読書したいが、現在読みたい書籍はない
3. もっと読書したいが、時間がない 4. 読書の必要性を感じない

[126] 徳島大学では、履修者が11名以上の授業では、自分の成績や成績の分布が確認できるようになっていることを知っていますか。また、役立っていますか。

1. 知っており、確認したことがある。また、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っている。
2. 知っており、確認したことがある。ただ、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っていない。
3. 知っており、確認したことがある。ただ、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っているかどうかわからない。
4. 知っているが確認したことがない
5. 知らない

[127] 徳島大学では、卒業に必要な履修科目やそれらの科目を学修していく順序等を一覧できる「カリキュラムマップ」を公開していることを知っていますか。

1. 知っており、見たことがある 2. 知っているが見たことはない 3. 知らない

[128] 徳島大学では、学部の授業科目のレベルに基づく学修の段階や順序を整理し適切な番号を付与した「科目ナンバリング」を公開していることを知っていますか。

1. 知っており、見たことがある 2. 知っているが見たことはない 3. 知らない

[129] シラバスはどのように利用していますか。

1. 毎週確認し、授業の予習・復習に役立っている
 2. 気になった時に時々確認している
 3. 初回の授業を受ける前に確認したが、その後はほとんど見ていない
 4. 授業の選択を考える時に確認したが、その後はほとんど見ていない
 5. 全く見ていない

[130] 徳島大学のeラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことのある人は以下の項目から利用したことのあるサービスを選んでください（複数選択可）。

1. Moodle（全学） 2. Manaba（全学） 3. スーパー英語（全学）
 4. 各学部やコース内で提供されているeラーニングサービス
 5. 利用したことはない

本学では、学生のみなさんに対して、上記のようなeラーニングサービスを提供しています。Eラーニングサービスに関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

	非常に 思う	そう 思う	どちら でもない	あまり 思わ ない	全く 思わ ない
[131] 本学のeラーニングサービスは、学修に役立つ	5	4	3	2	1
[132] 本学が提供しているようなeラーニングによる学修科目を、今後も増やした方が良いと思うか	5	4	3	2	1

本学では、学生のみなさんに対して、授業の中間期および最後に「授業評価アンケート」をおこなっています。この「授業評価アンケート」に関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

	非常に 思う	そう 思う	どちら でもない	あまり 思わ ない	全く 思わ ない
[133] 「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である	5	4	3	2	1

[134] 大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか。

1. 100-91 2. 90-81 3. 80-71 4. 70-61 5. 60-51 6. 50-0

[135] あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。1つ選んで回答してください。

- 1. 就職する
- 2. 大学院に進学する
- 3. 留学する
- 4. 他大学に（編）入学する
- 5. 専門学校に入学する
- 6. まだわからない
- 7. その他

[136] 将来の見通しに関する以下の2つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

- ・あなたは、将来の見通し（将来こういう風でありたいという考え）を持っていますか。
- ・その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。また、それを実行していますか。

- 1. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているし、実行もしている
- 2. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているが、実行はできていない
- 3. 将来の見通しを持っている+何をすべきかわからない
- 4. 将来の見通しを持っていない

V. 最後に、大学に入学する前や高校時代のことについておうかがいします。

[137] あなたは現役で本学に入学しましたか、それとも浪人しましたか。

- 1. 現役
- 2. 浪人
- 3. その他（留学生、社会人など）

[138] あなたの志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。

- 1. 第1志望だった
- 2. 第1志望ではなかった

[139] あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

- 1. 上位の方
- 2. 中の上くらい
- 3. 中くらい
- 4. 中の下くらい
- 5. 下位の方
- 6. その他（わからない、覚えていない、など）

あなたが高校3年生だった時、次のことがらをどの程度しましたか。

	ひんばん にした	ときどき した	あまり しなかった	まったく しなかった
[140] 授業中に質問した	4	3	2	1
[141] 自分の意見を論理的に主張した	4	3	2	1
[142] 問題の解決方法を探し、それを他の人に説明した	4	3	2	1

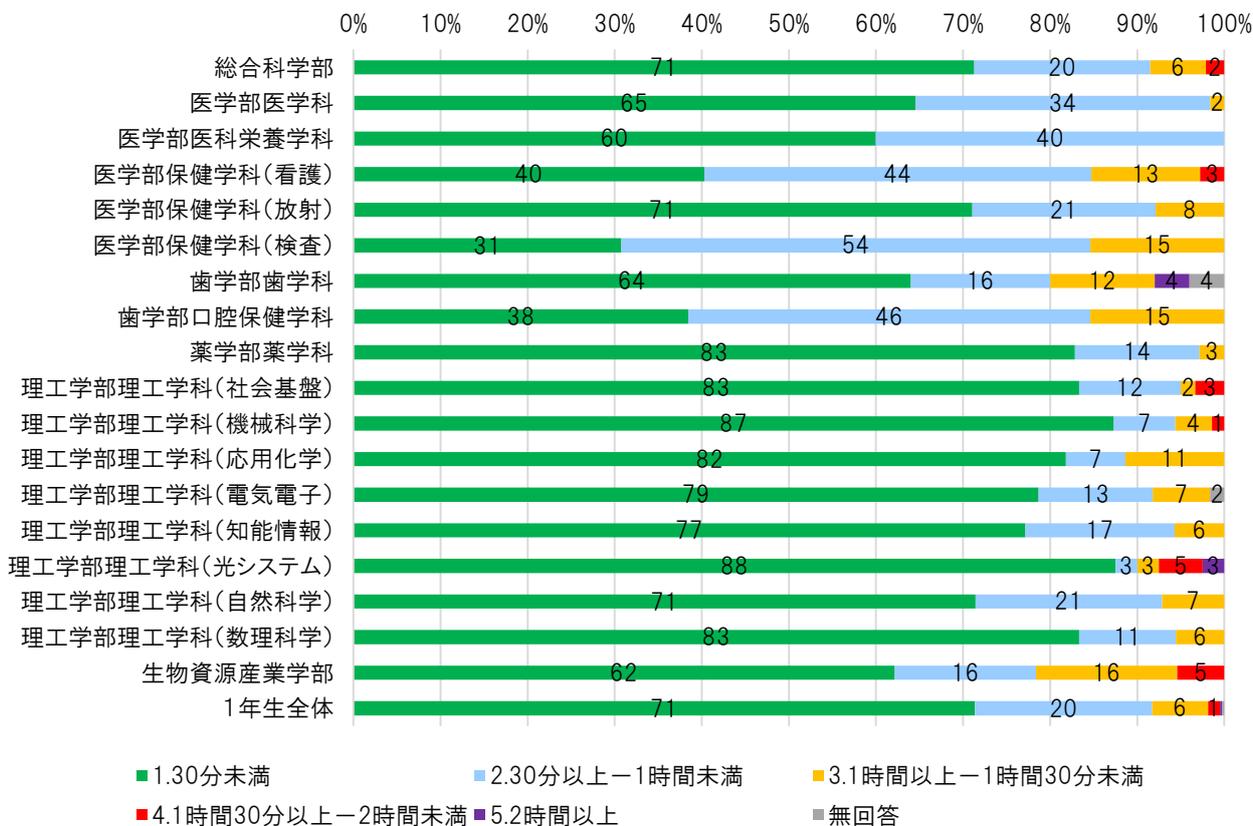
[143]	科学的研究の記事や論文を読んだ	4	3	2	1
[144]	自発的に作文の練習をした	4	3	2	1
[145]	インターネット上の情報が事実かどうか確認した	4	3	2	1
[146]	授業の予習や復習、宿題をした	4	3	2	1
[147]	授業以外に興味のあることを自分で勉強した	4	3	2	1
[148]	自分の失敗から学んだ	4	3	2	1
[149]	困難なことにあえて挑戦した	4	3	2	1
[150]	自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた	4	3	2	1
[151]	読書をした（マンガ・雑誌を除く）	4	3	2	1

質問は以上です。ご協力どうもありがとうございました。

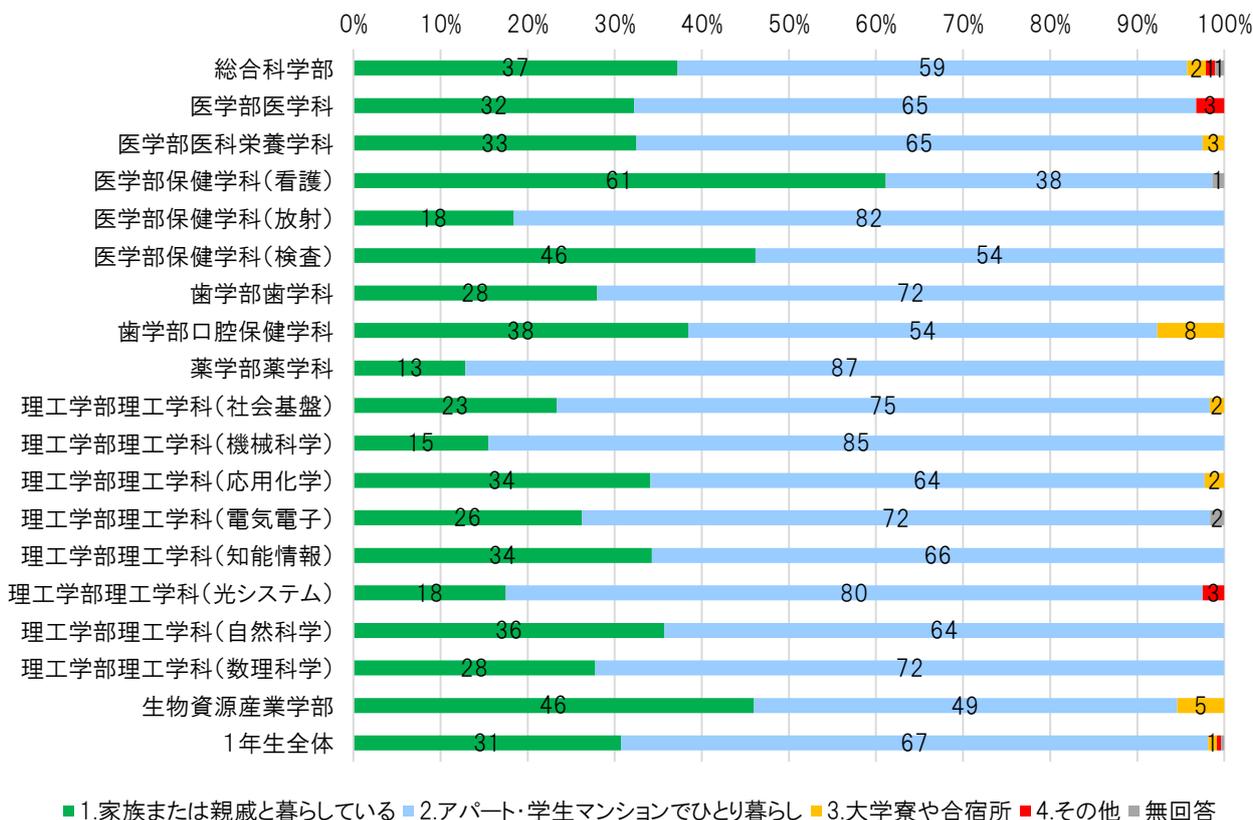
1年生調査結果

1. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

[2]あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。



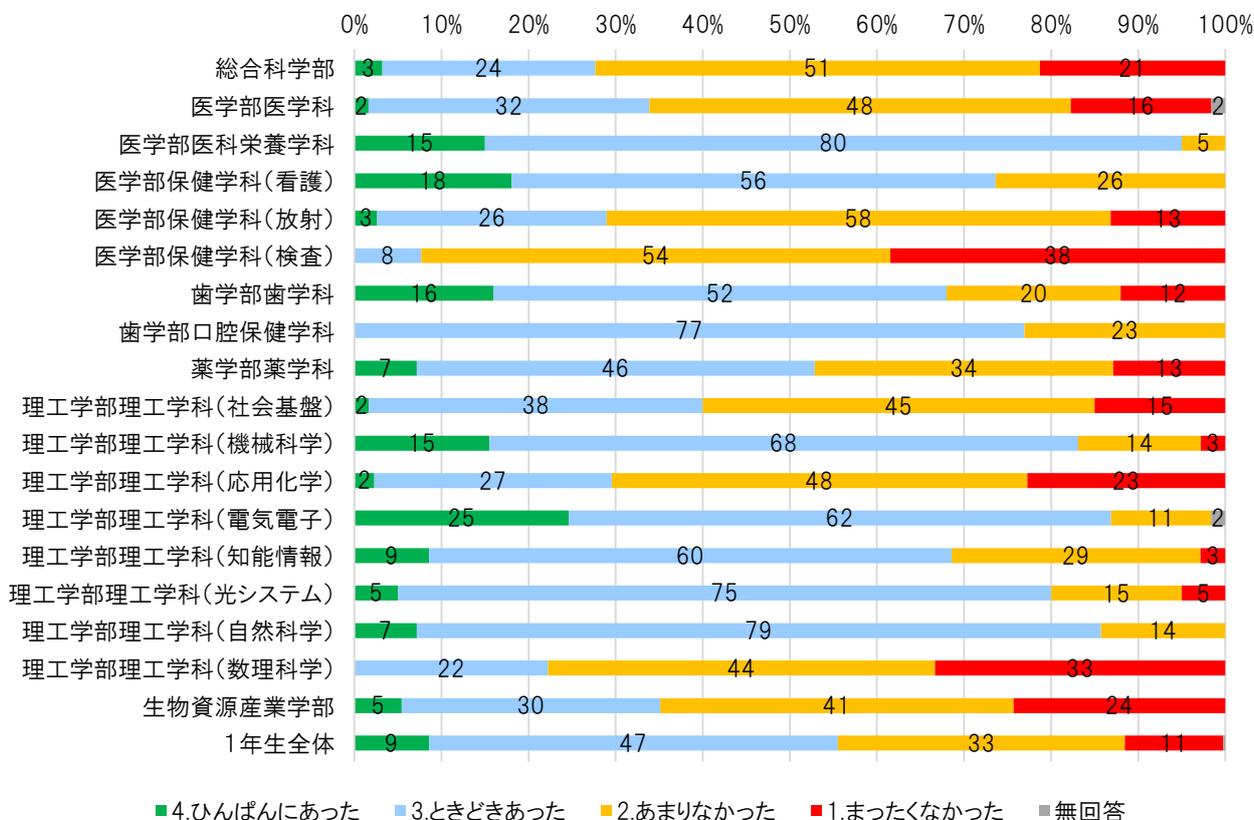
[3]あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。



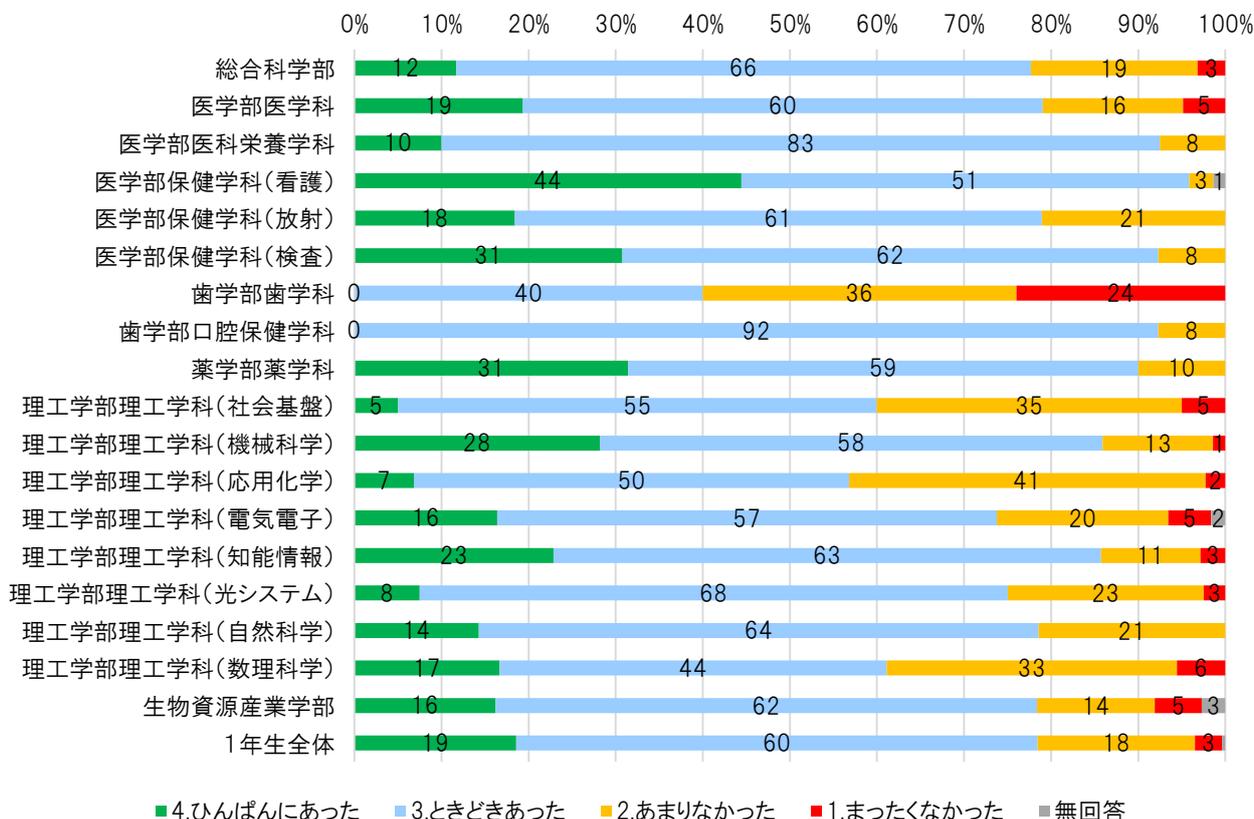
II. 大学に入学してからのあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

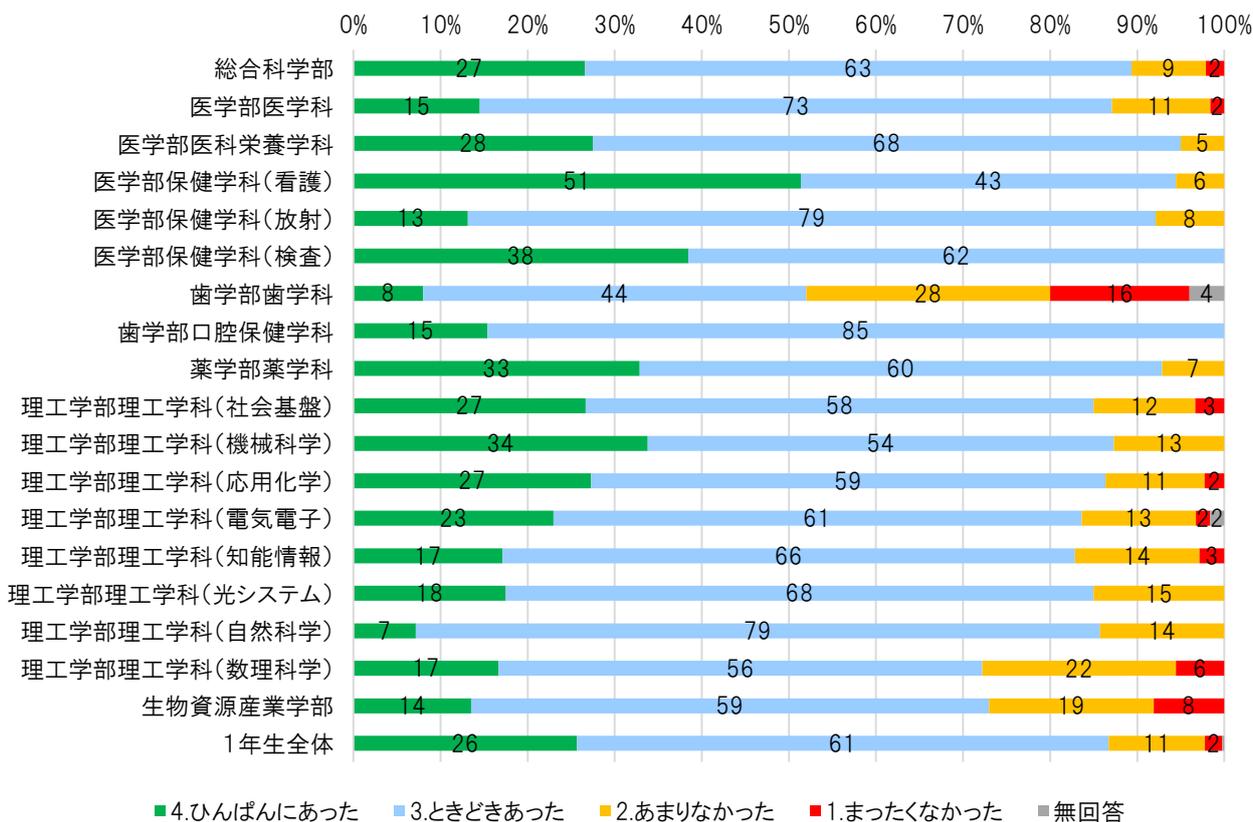
〔4〕実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



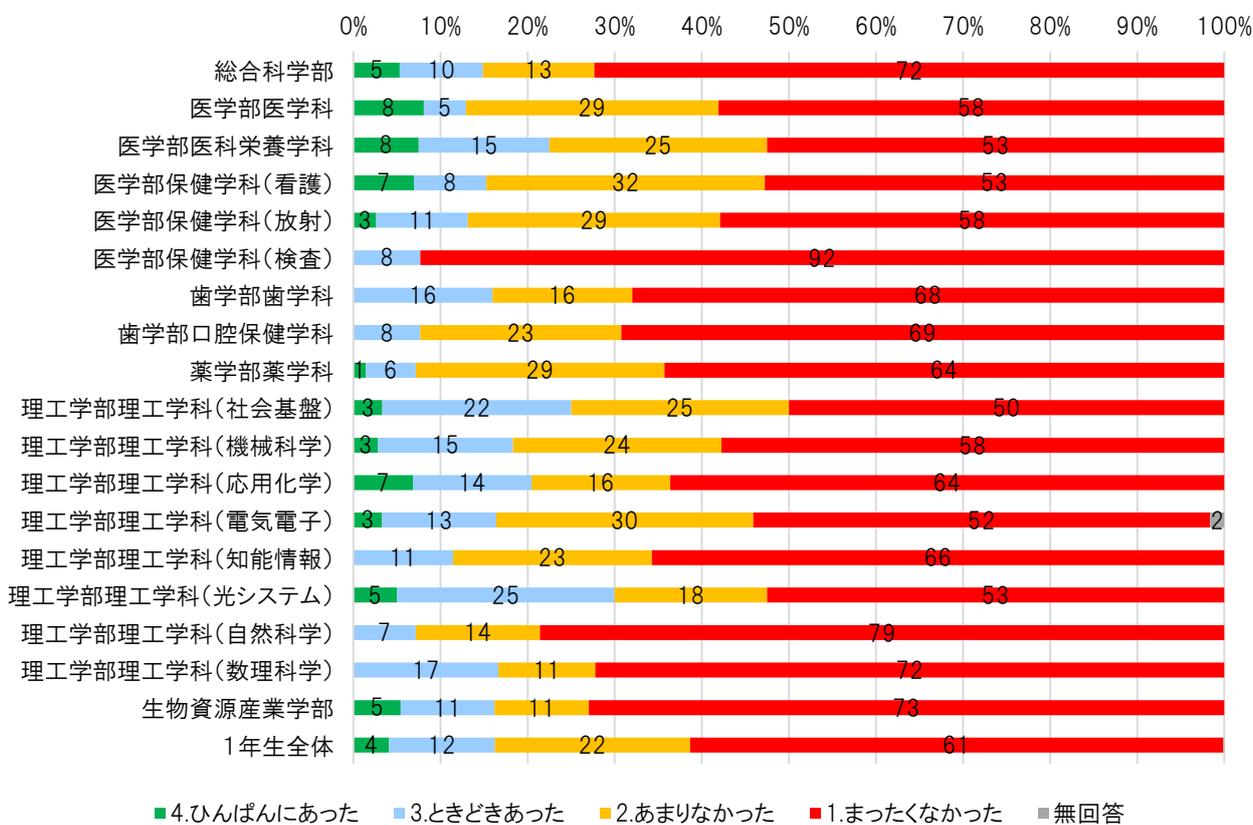
〔5〕仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



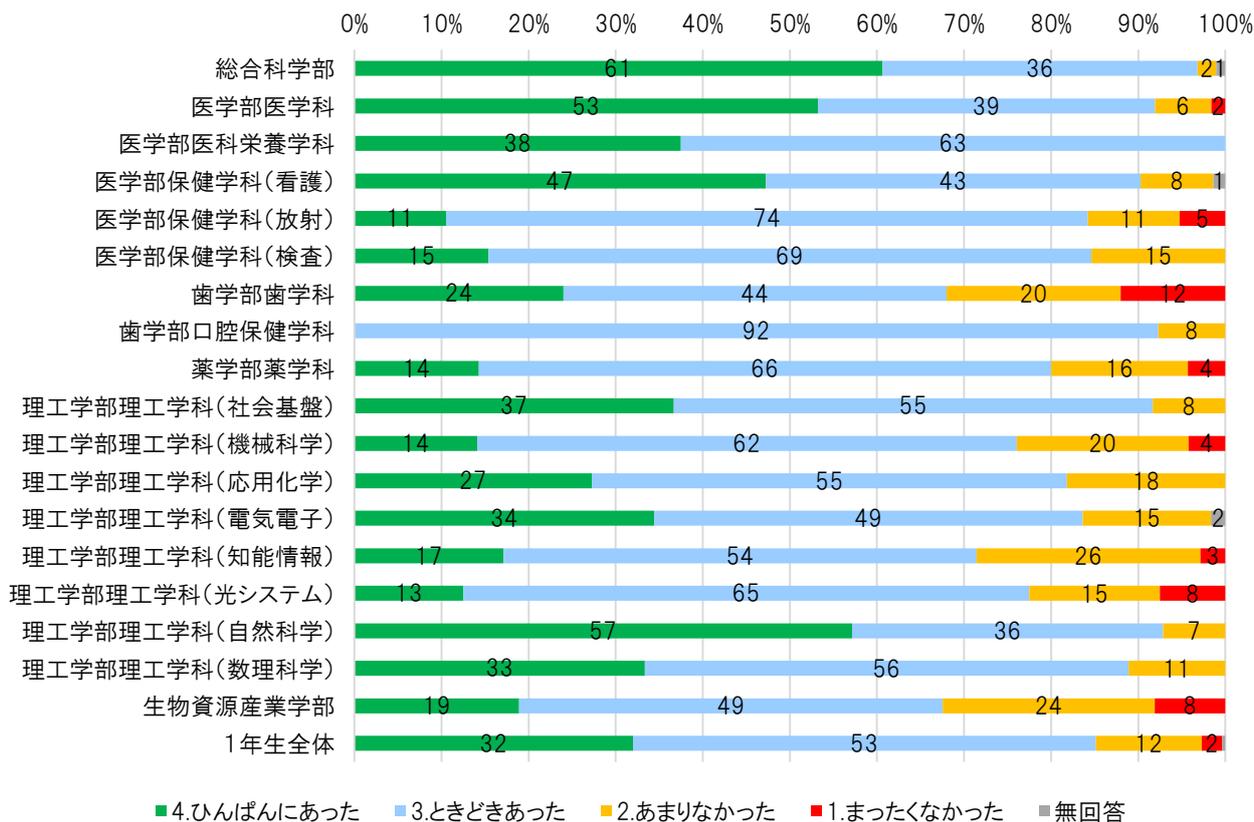
[6]授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する



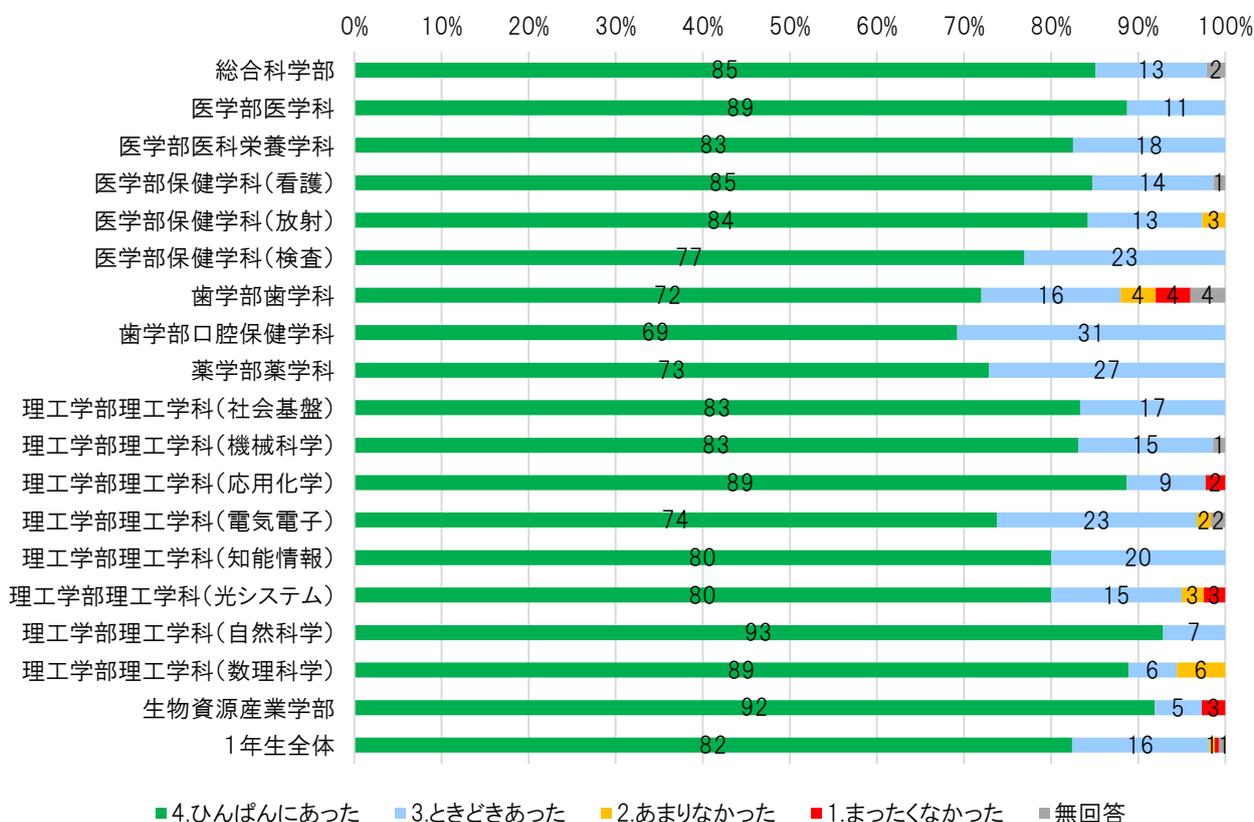
[7]授業の一環でボランティア活動をする



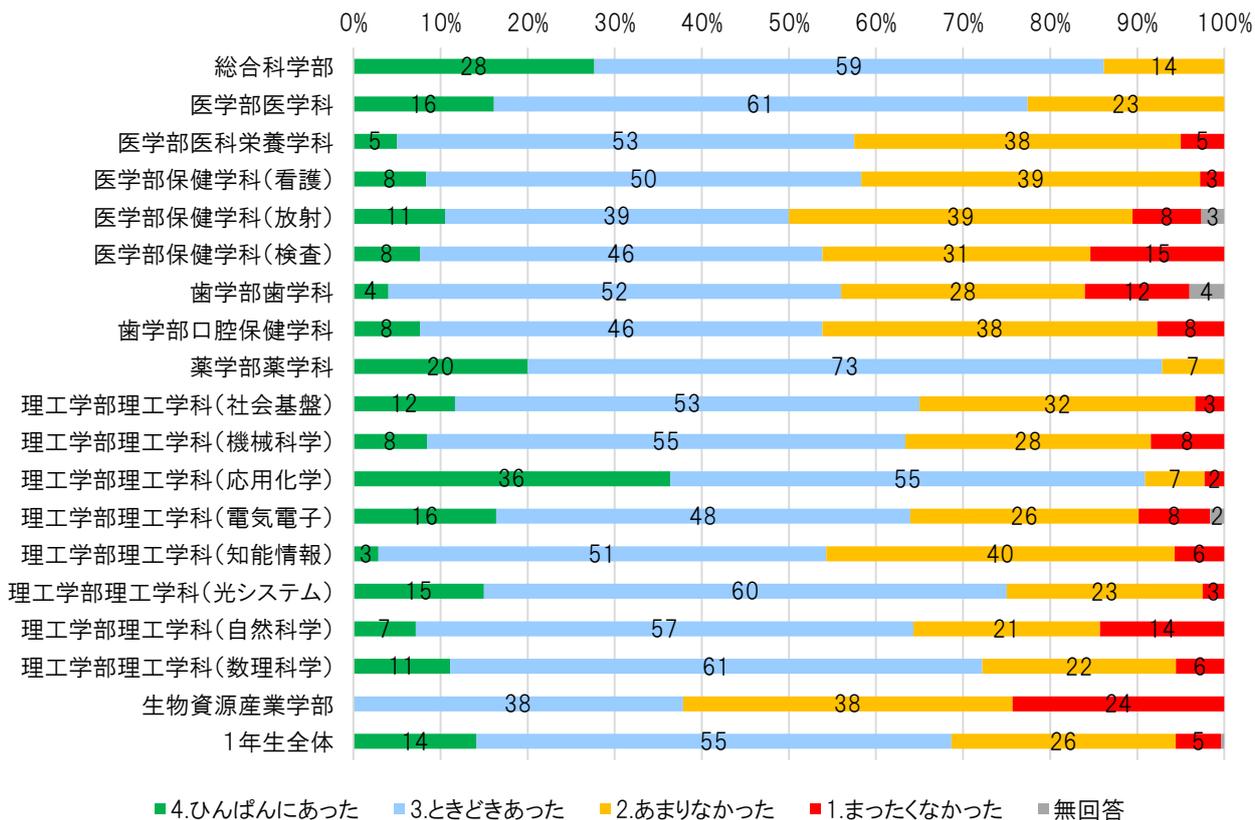
[8] 学生自身が文献や資料を調べる



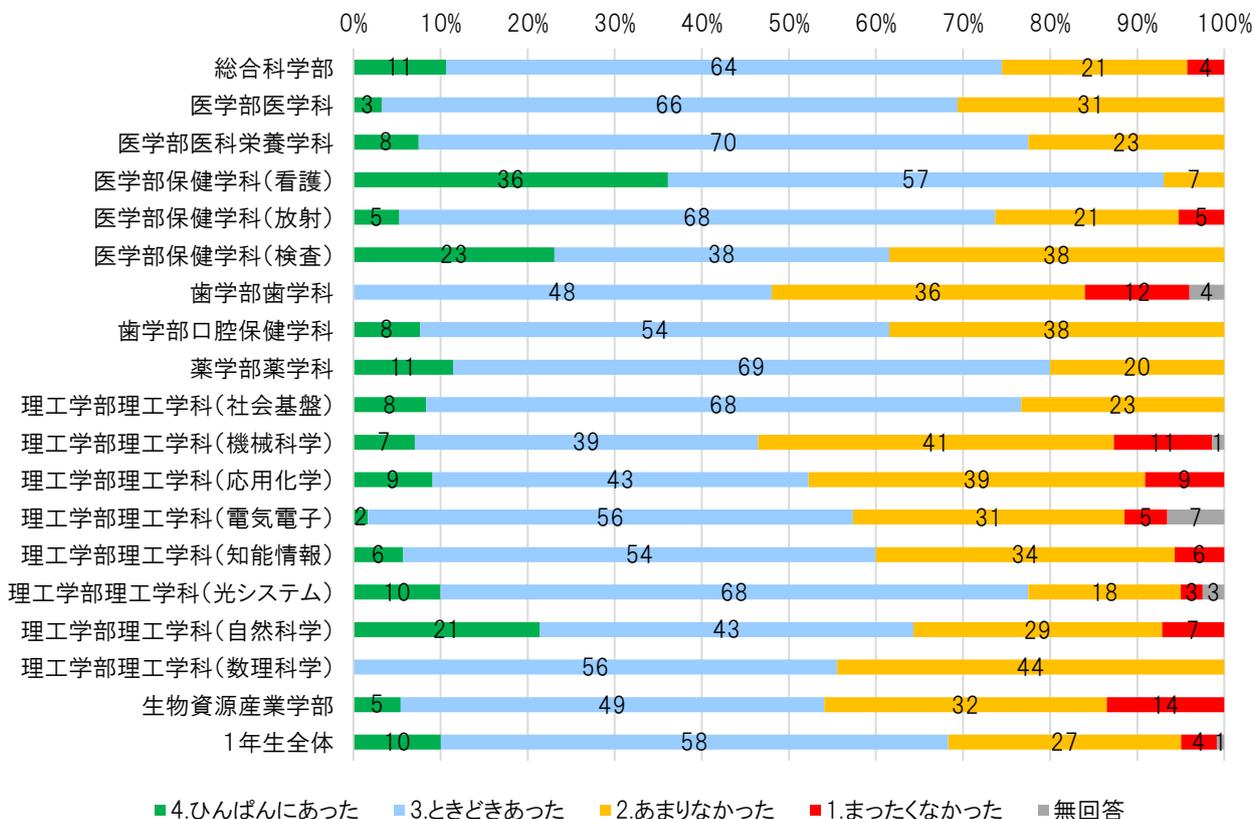
[9] 定期的の小テストやレポートが課される



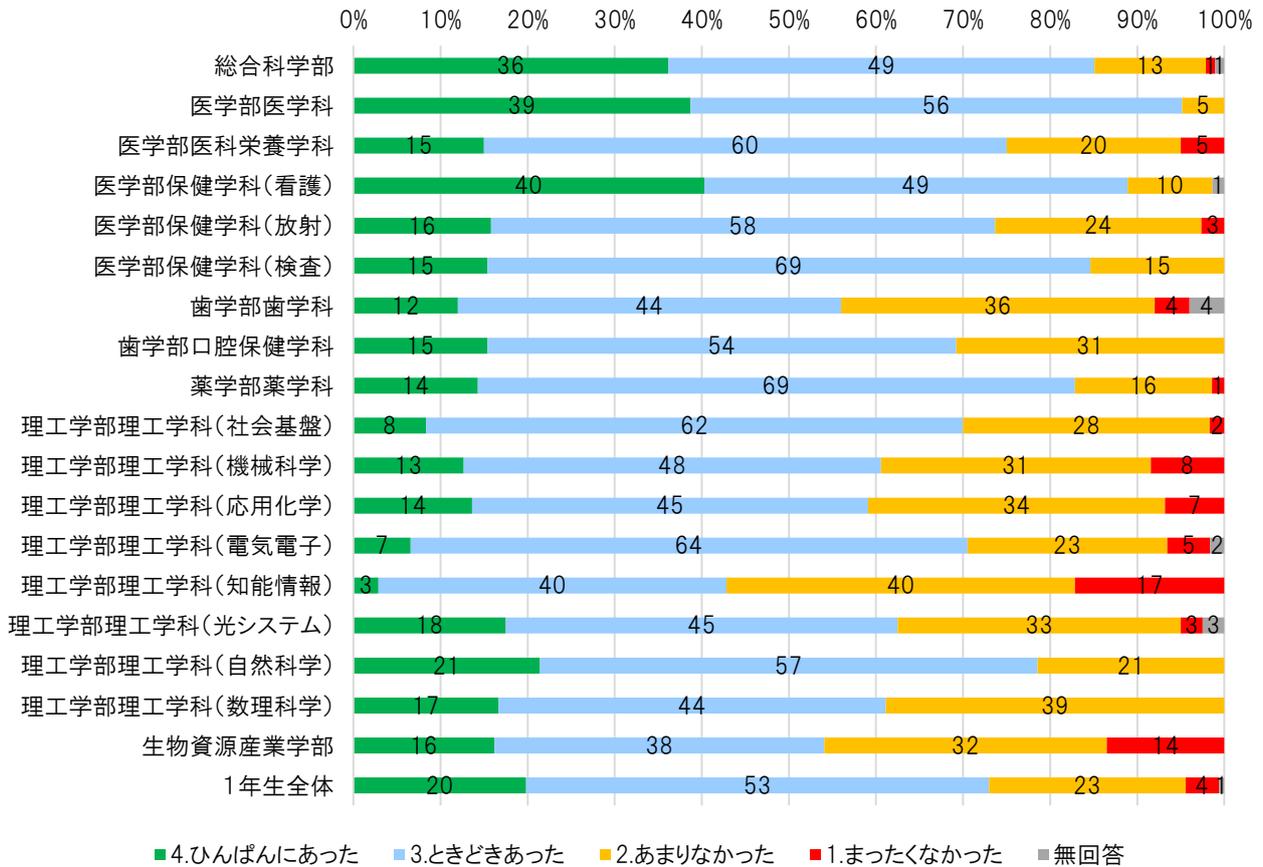
[10]教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



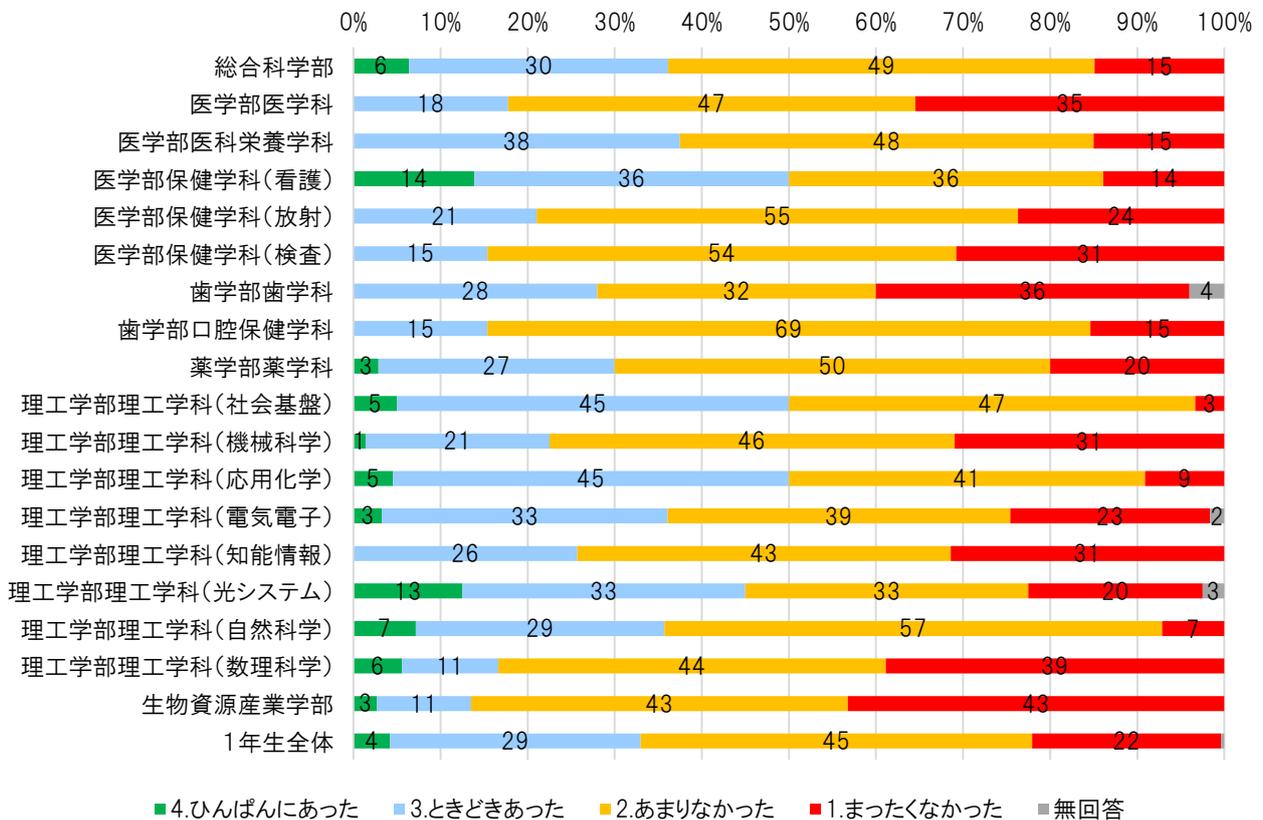
[11]学生が自分の考えや研究を発表する



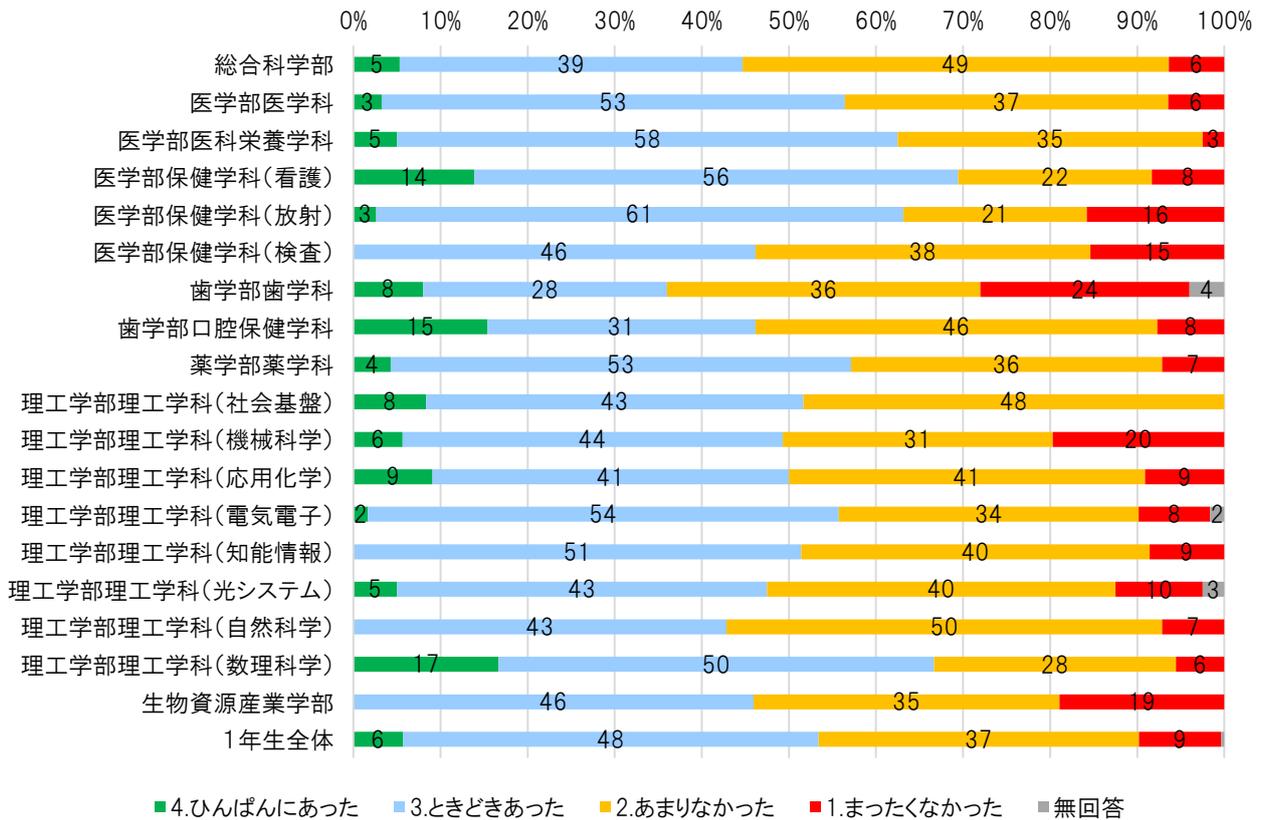
〔12〕授業中に学生同士が議論をする



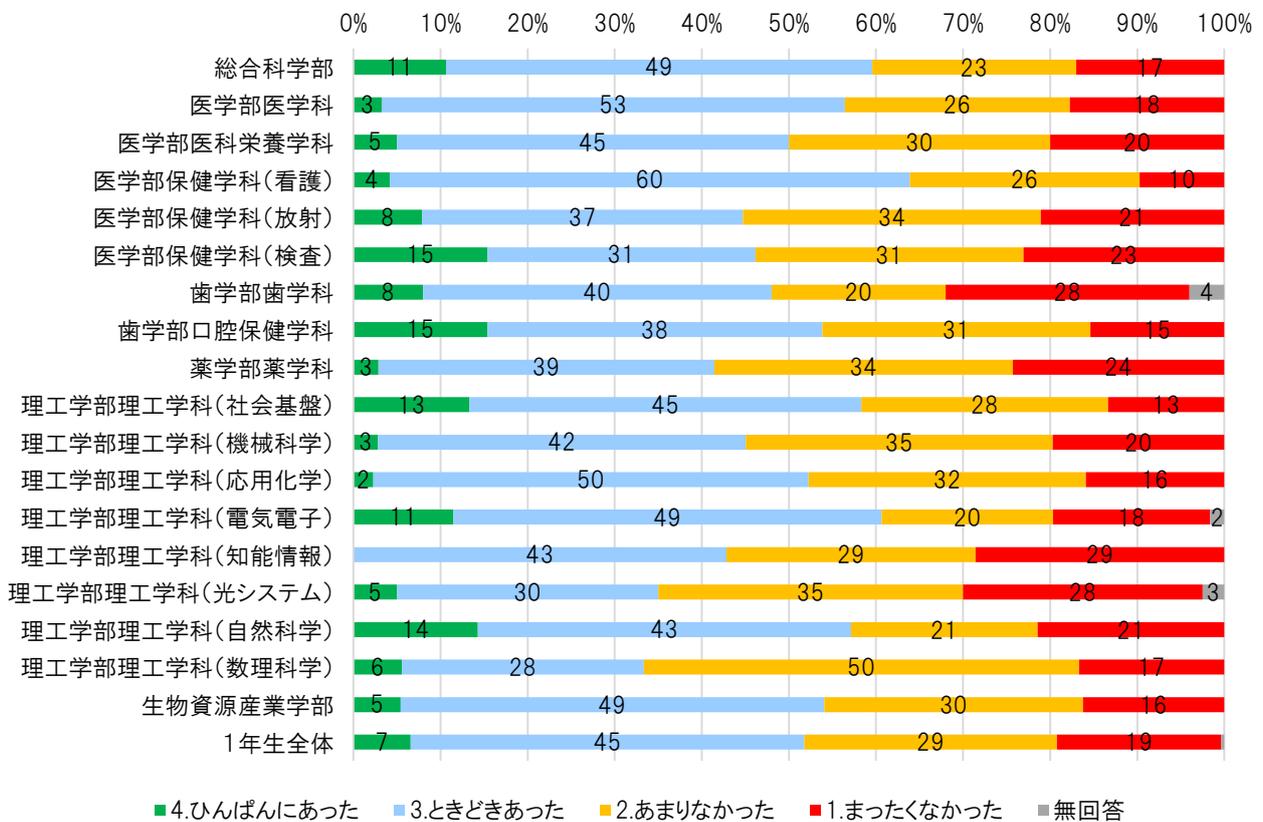
〔13〕授業で検討するテーマを学生が設定する



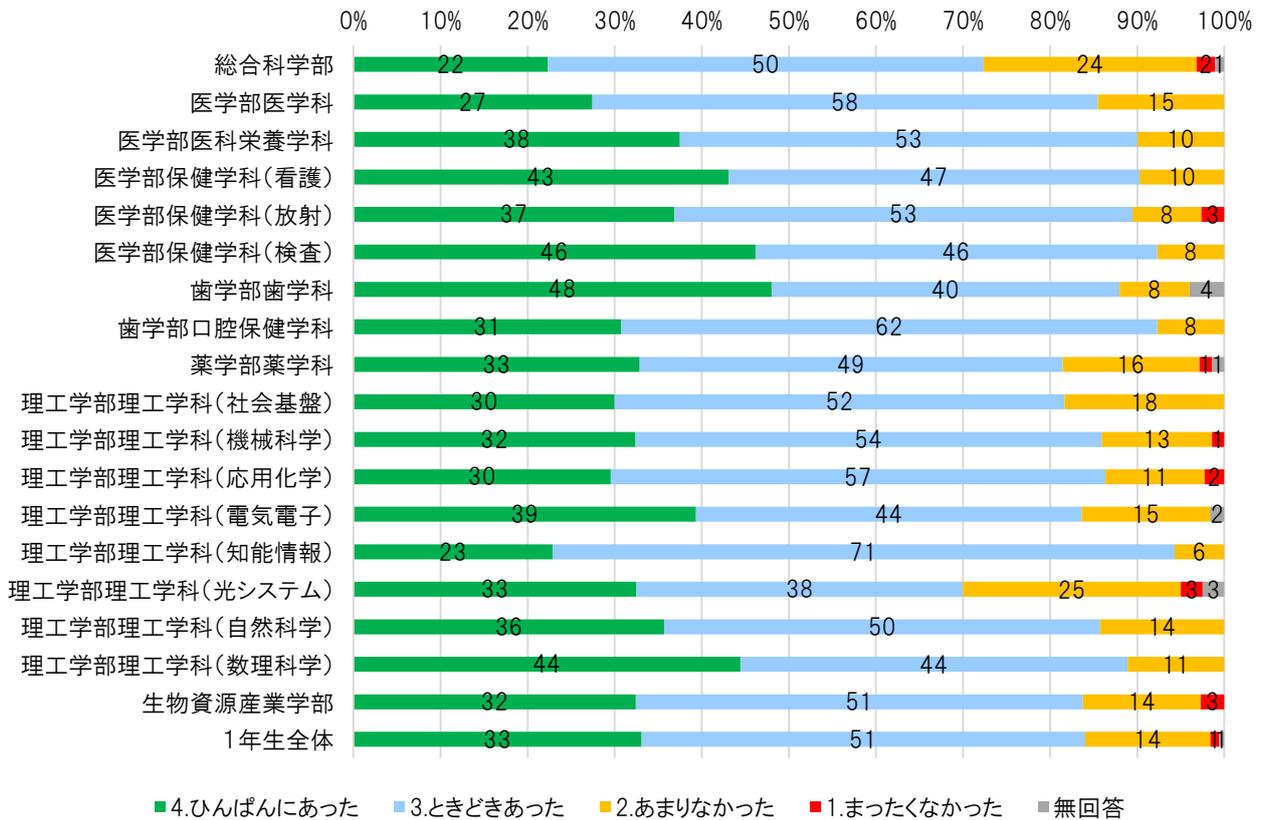
[14] 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



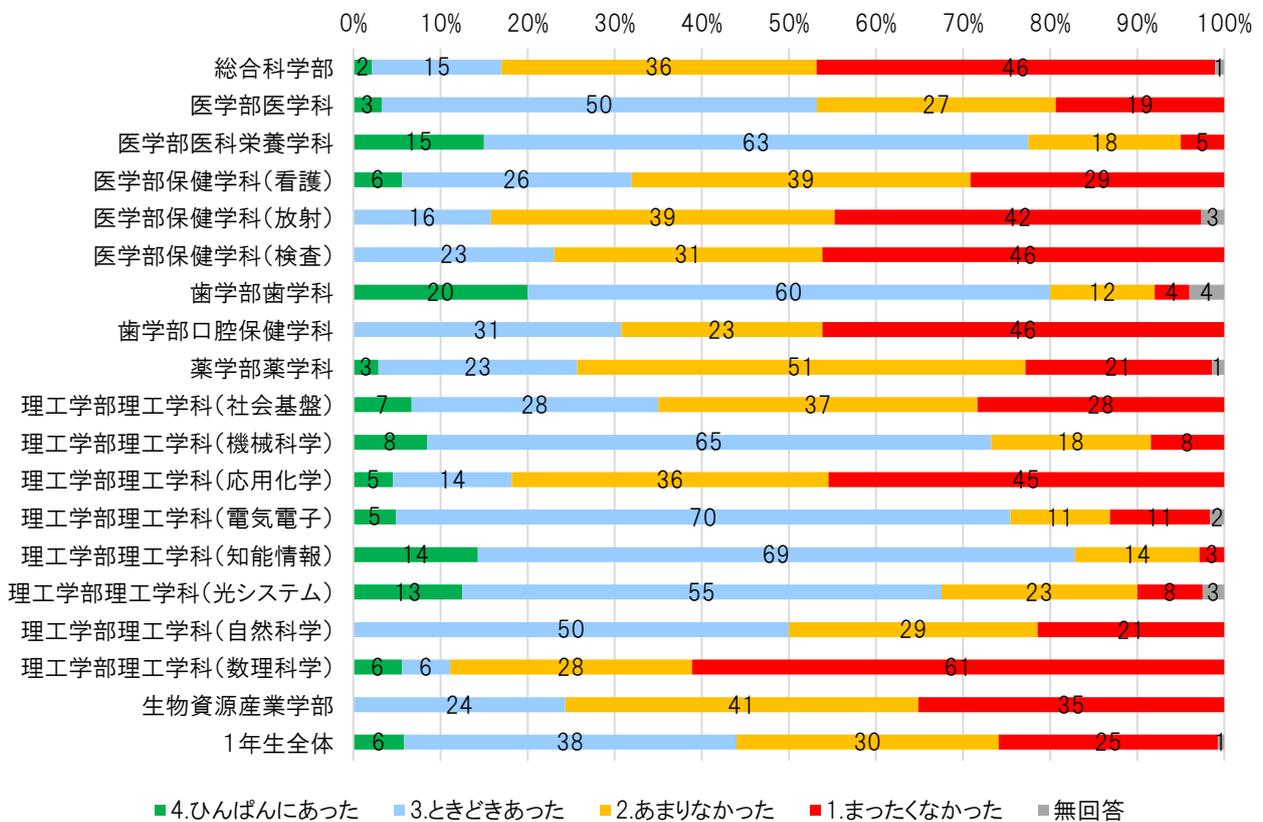
[15] 取りたい授業を履修登録できなかった



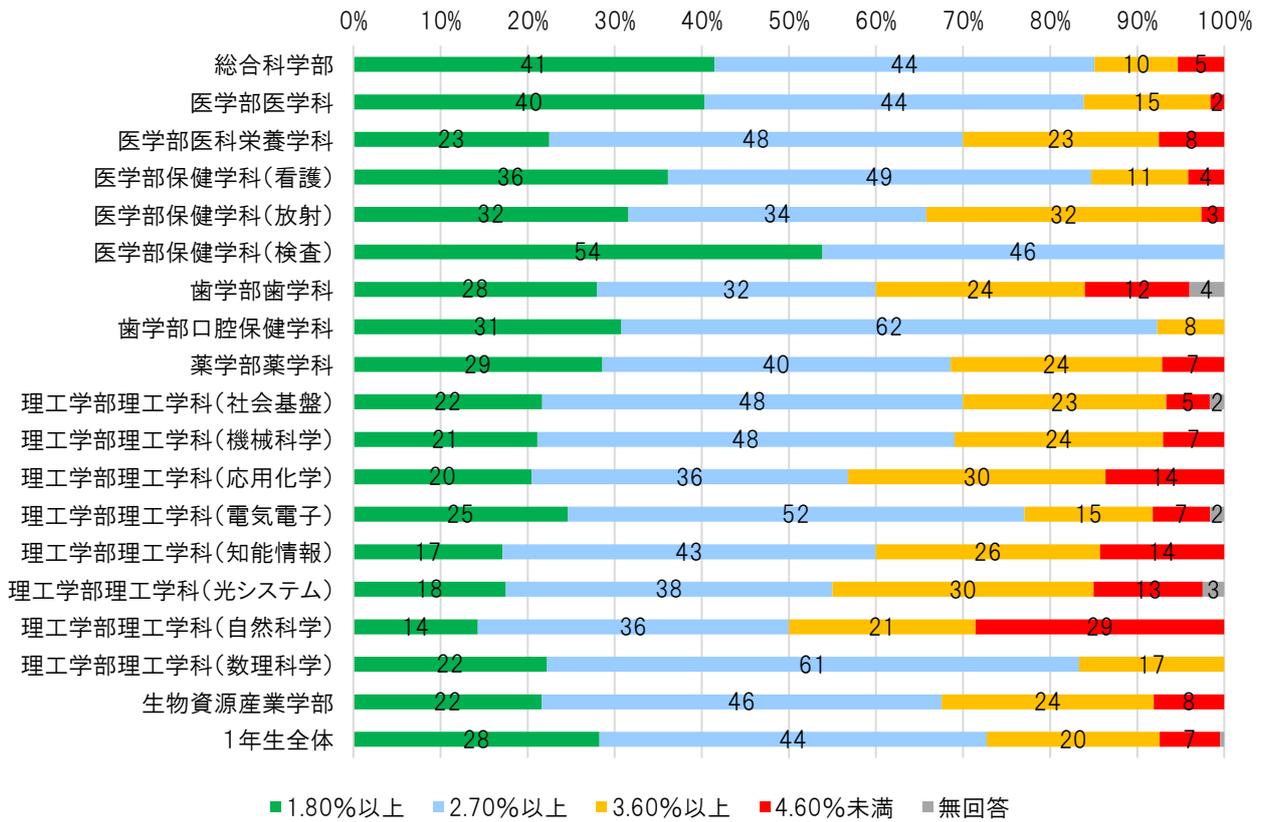
[16]出席することが重視される



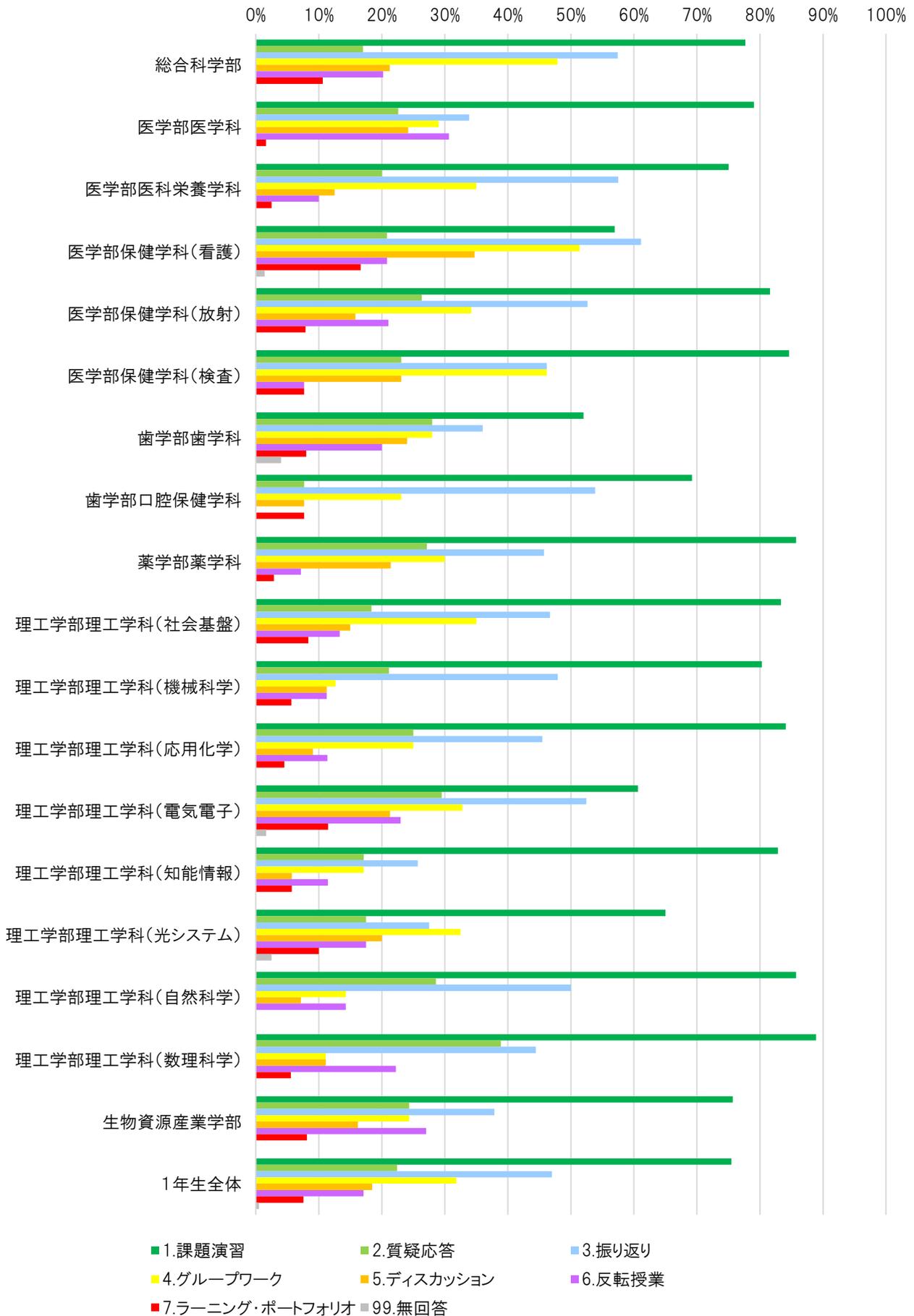
[17]TA や SA などの授業補助者から補助を受ける



[18]授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

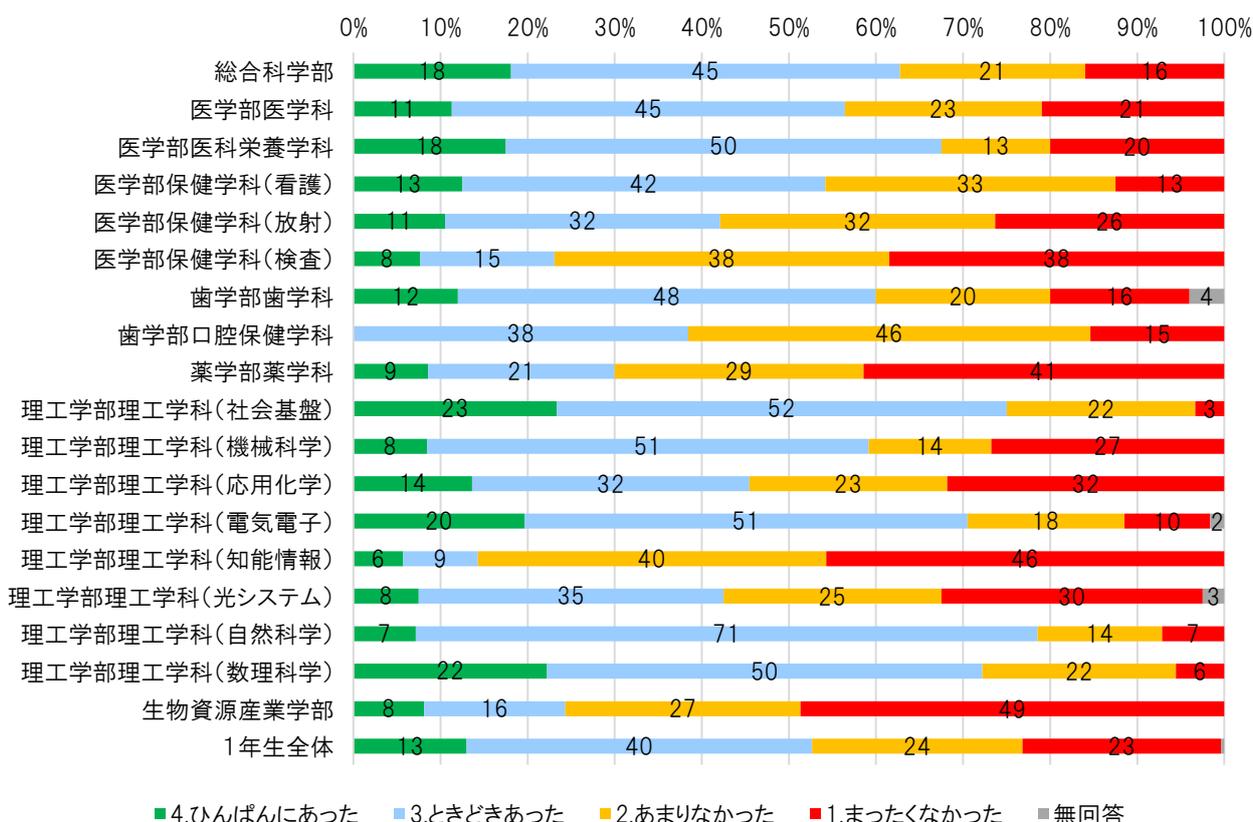


[19]あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。(複数回答可)

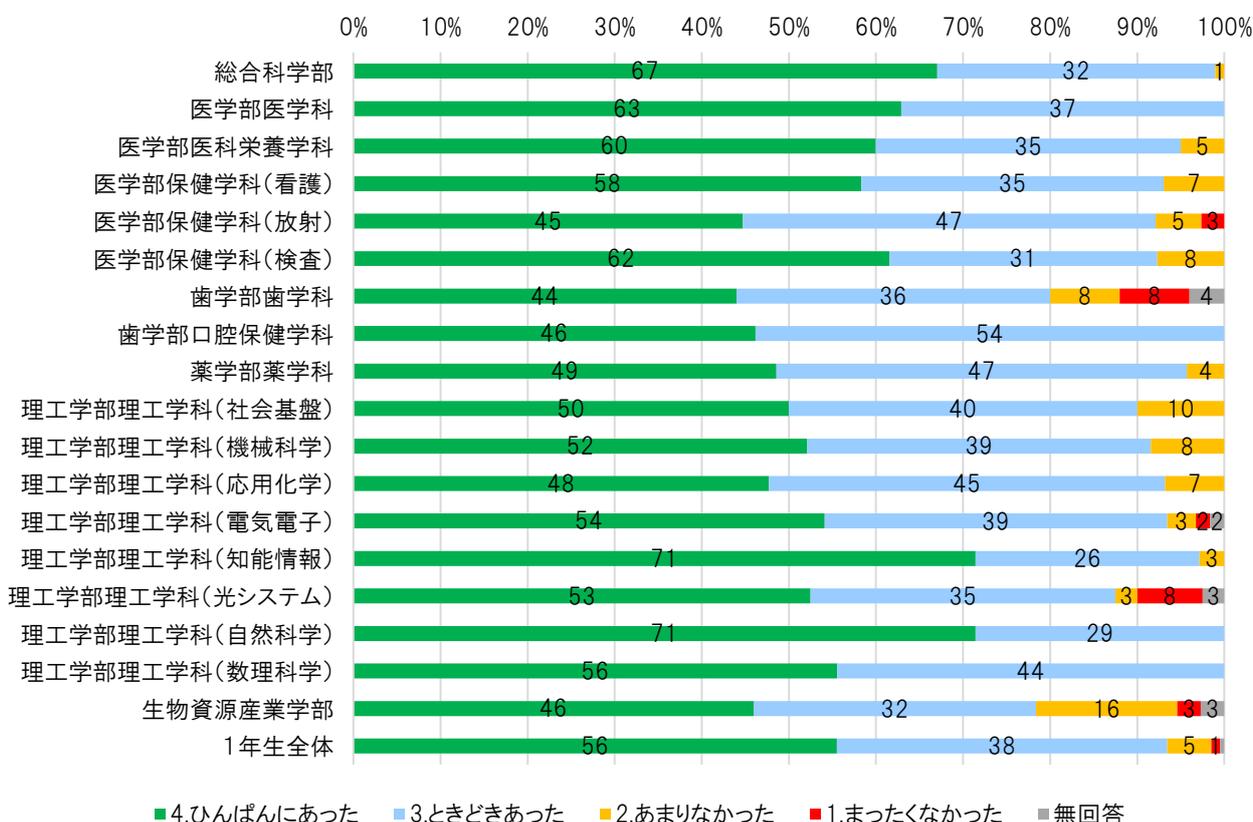


大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

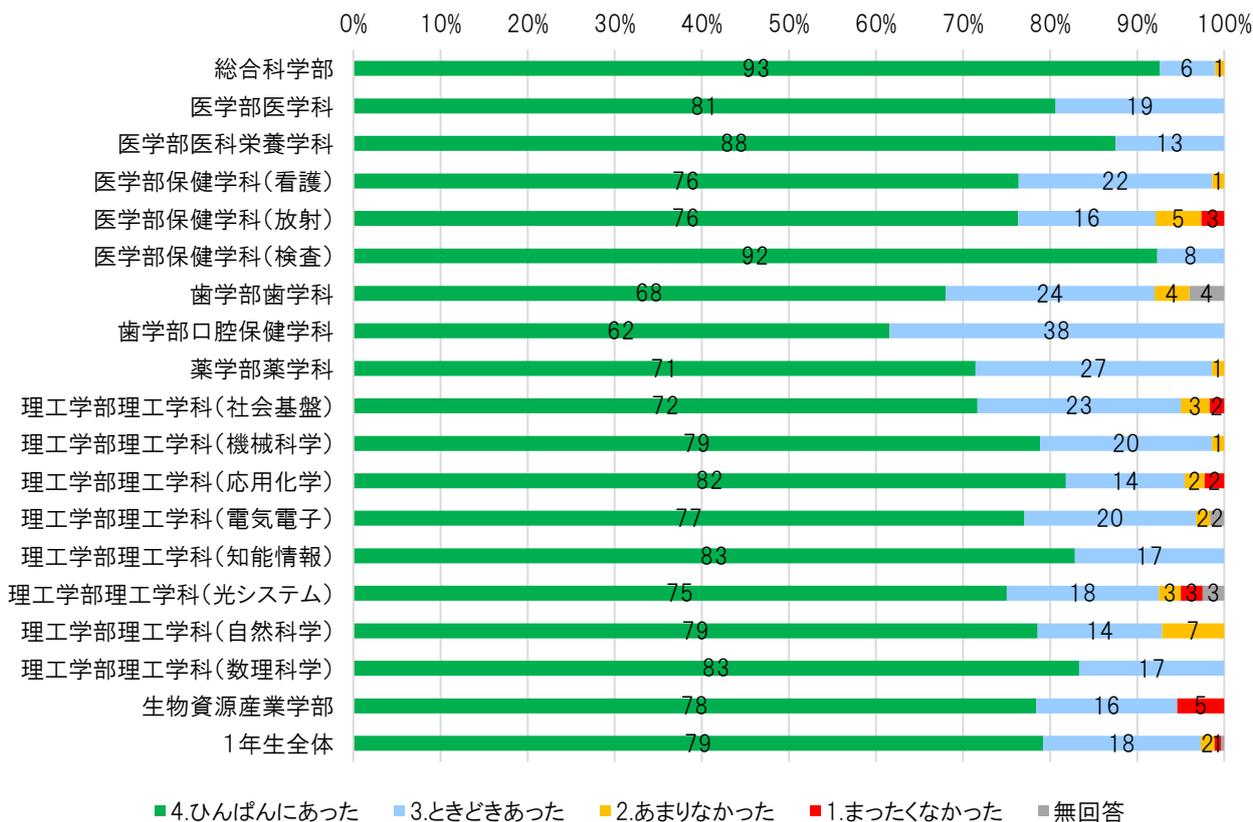
〔20〕授業課題のために図書館の資料を利用した



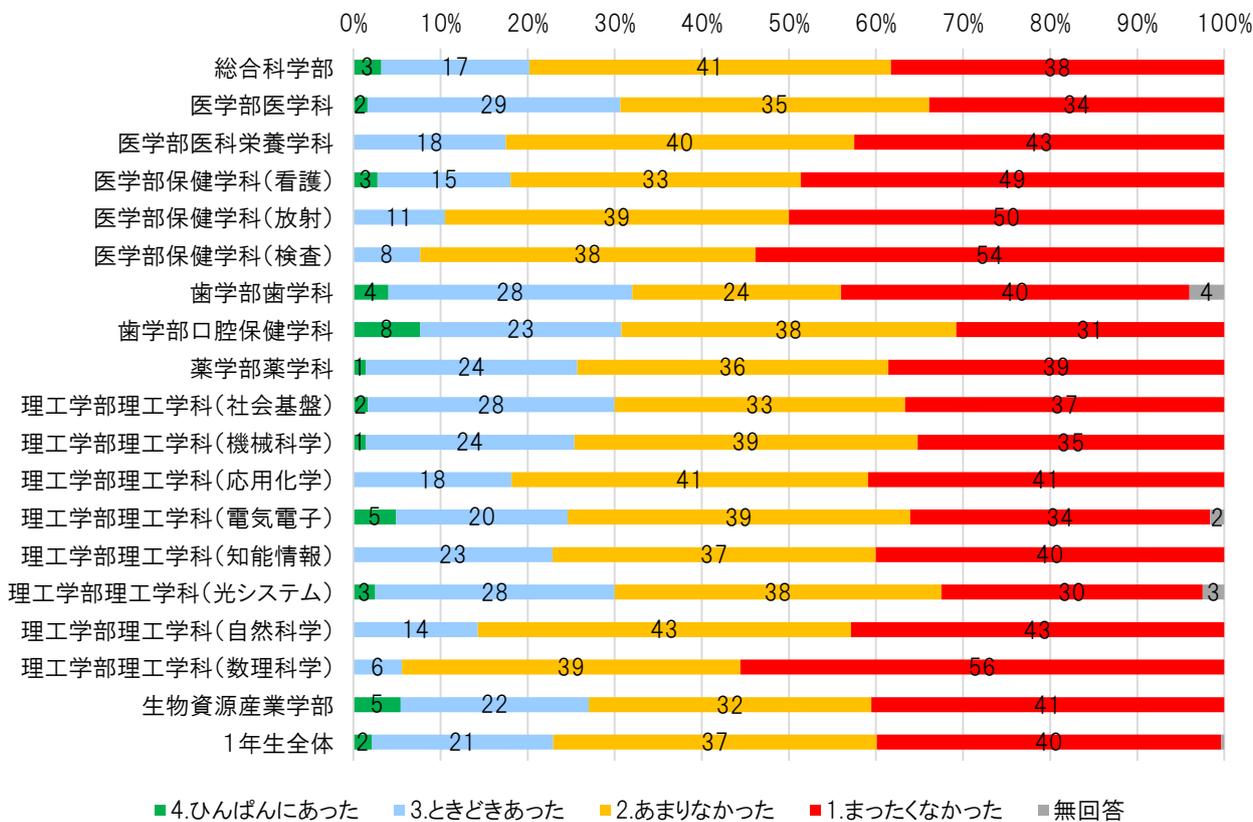
〔21〕授業課題のためにWeb上の情報を利用した



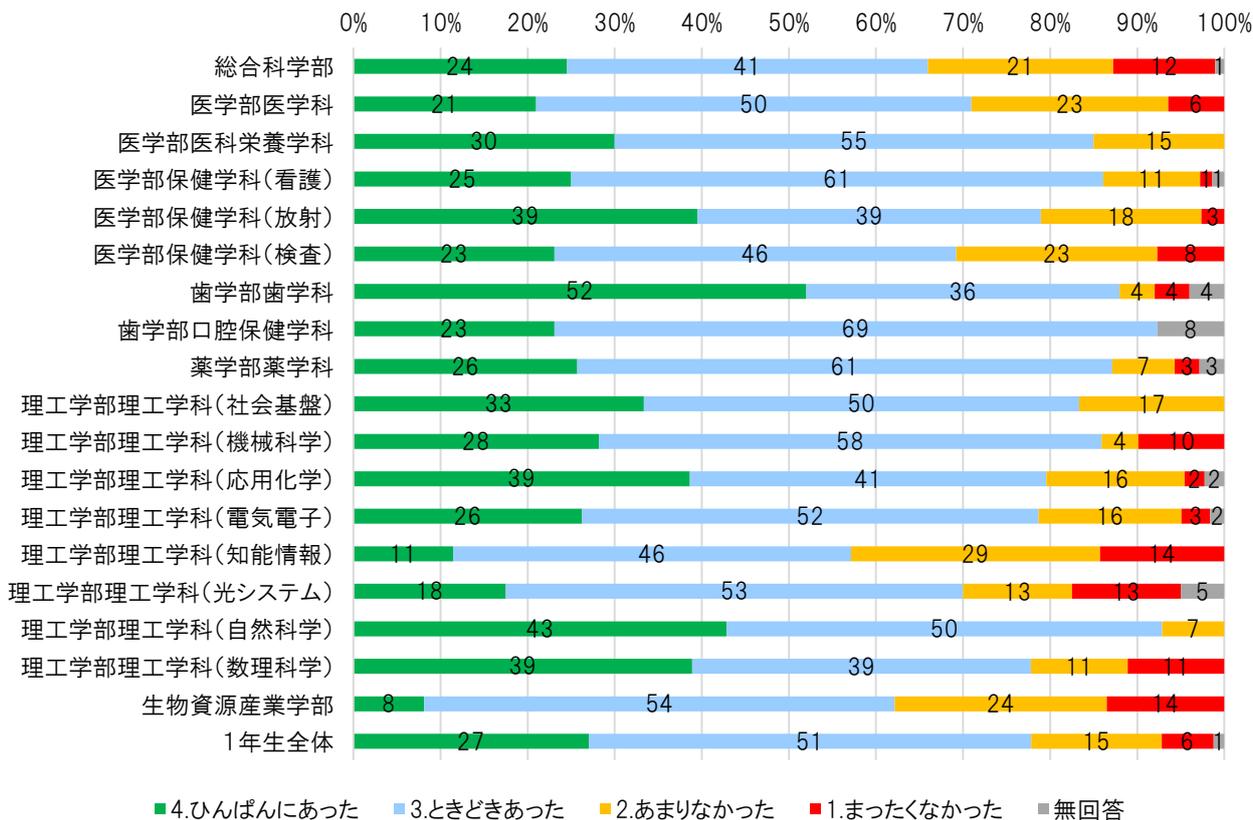
[22]インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



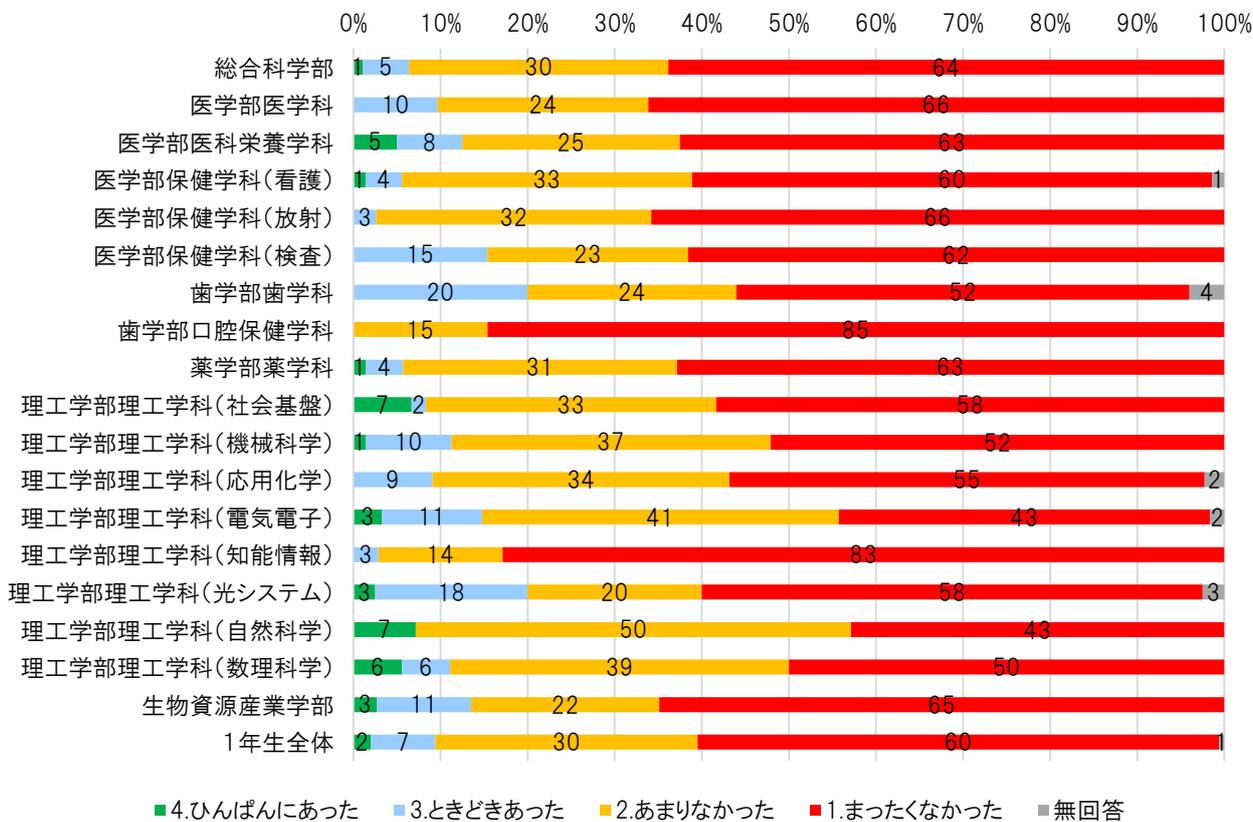
[23]提出期限までに授業課題を完成できなかった



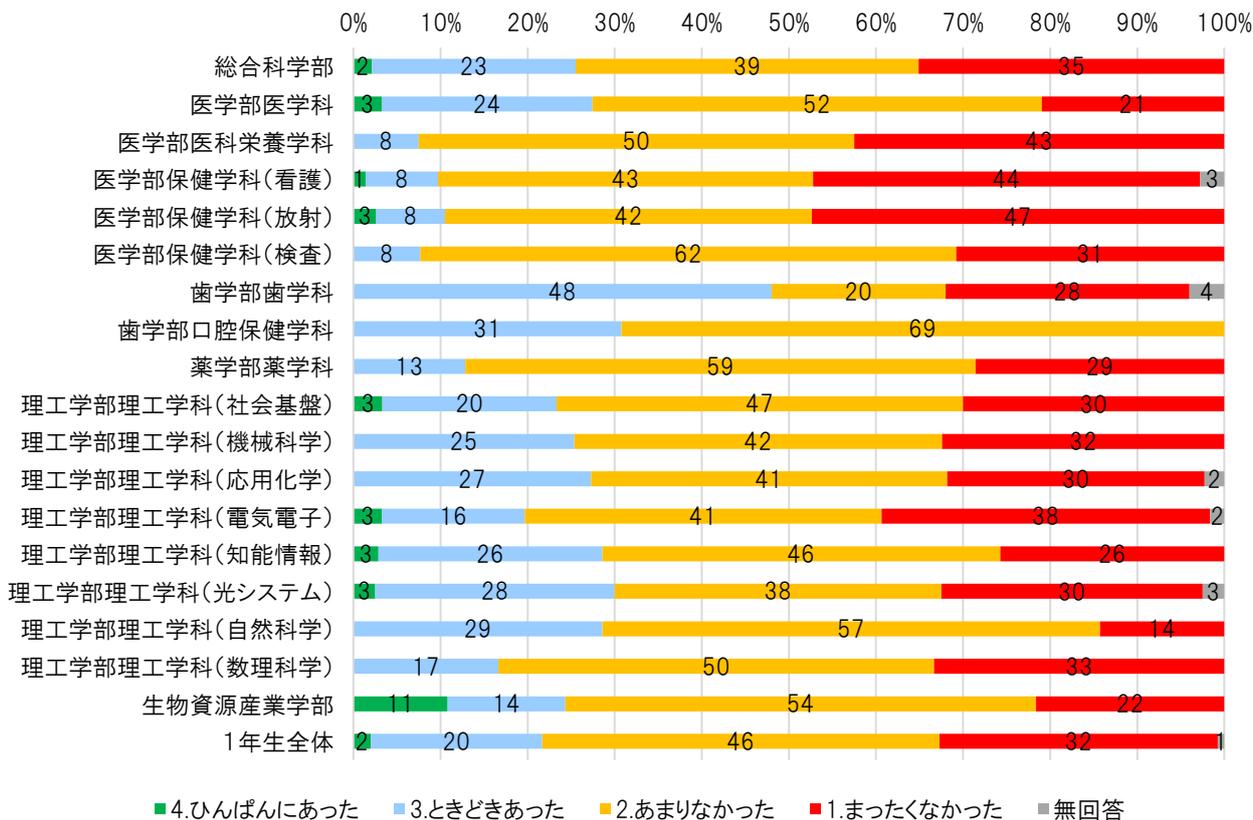
[24]授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした



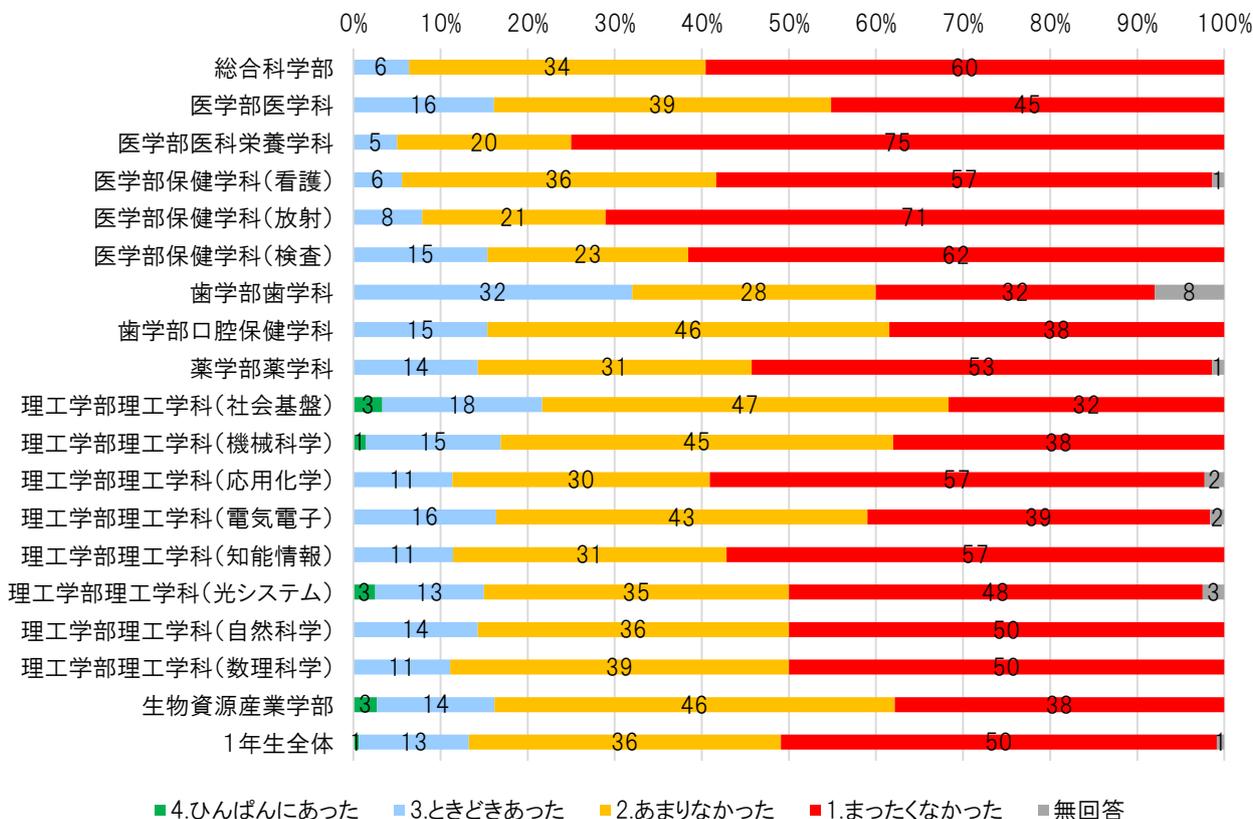
[25]授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



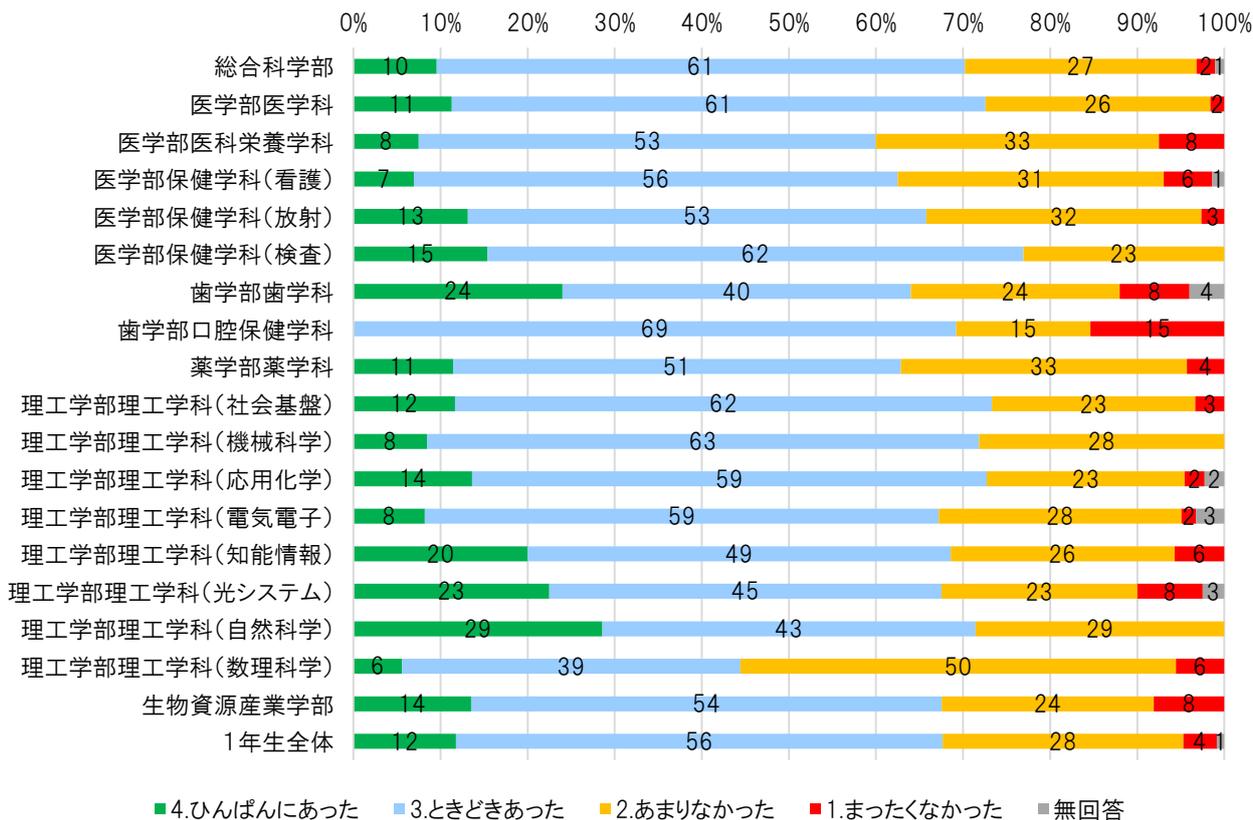
[26]授業を欠席した



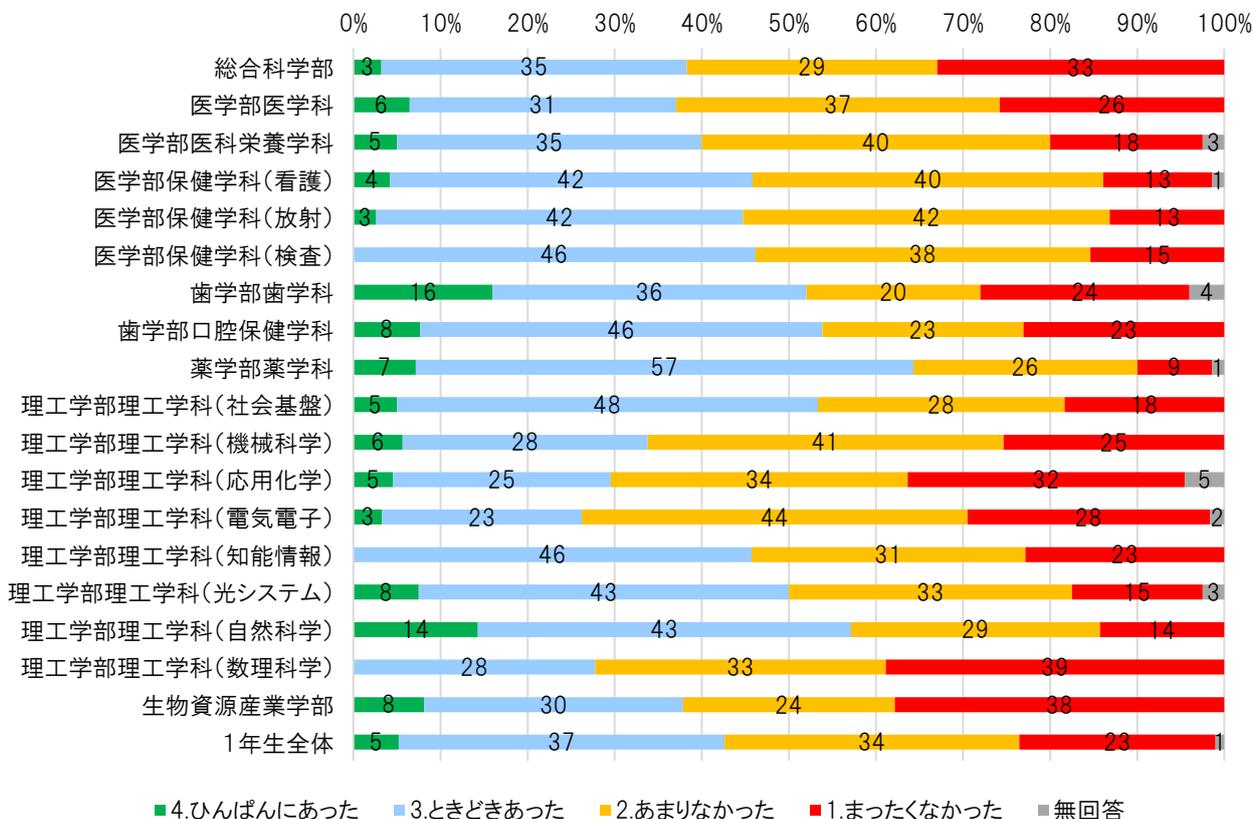
[27]授業に遅刻した



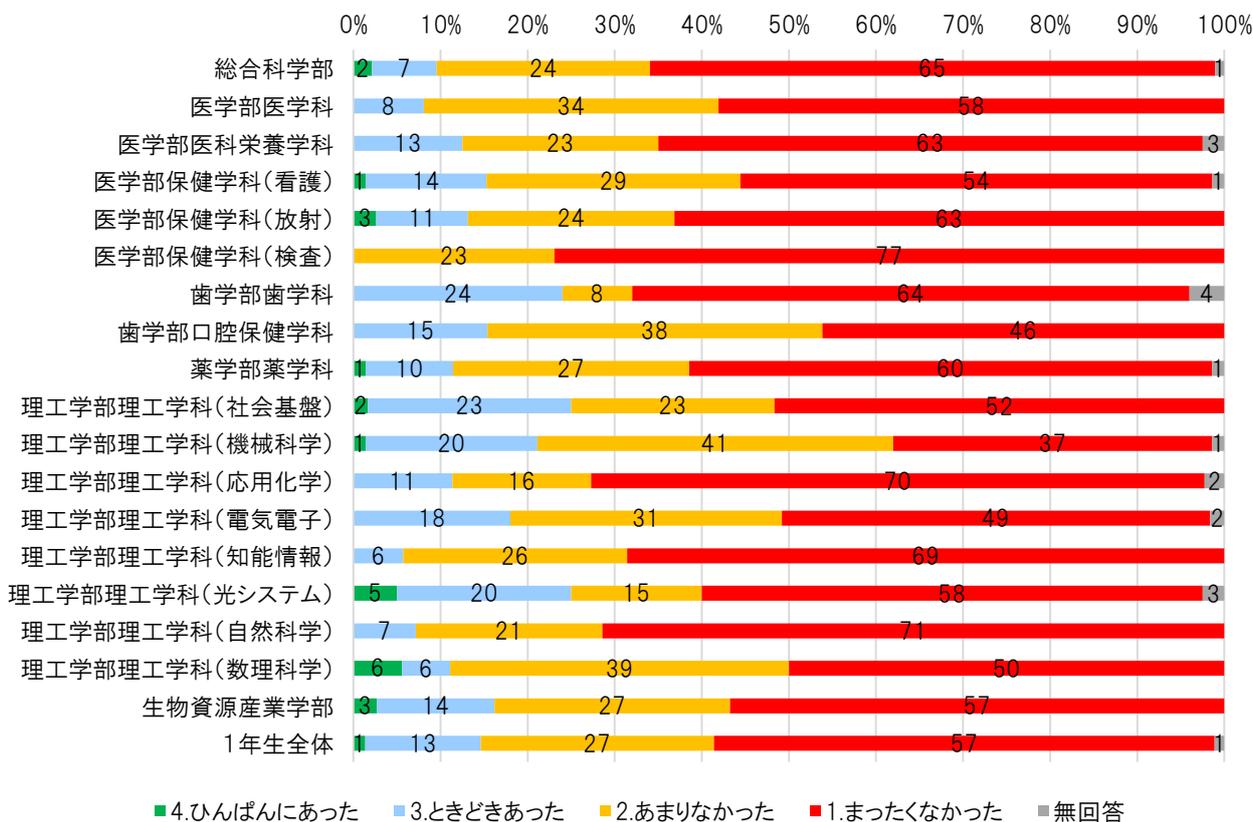
〔28〕授業をつまらなく感じた



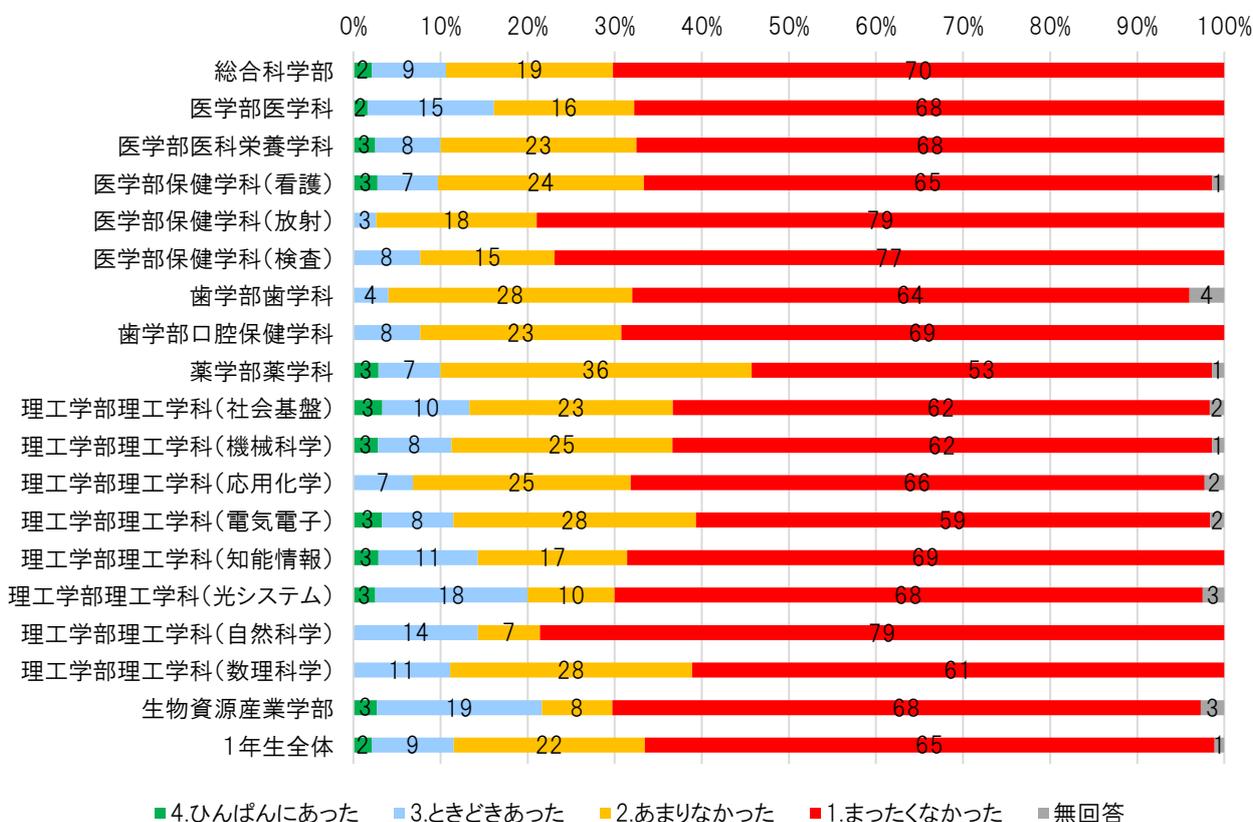
〔29〕授業中に居眠りをした



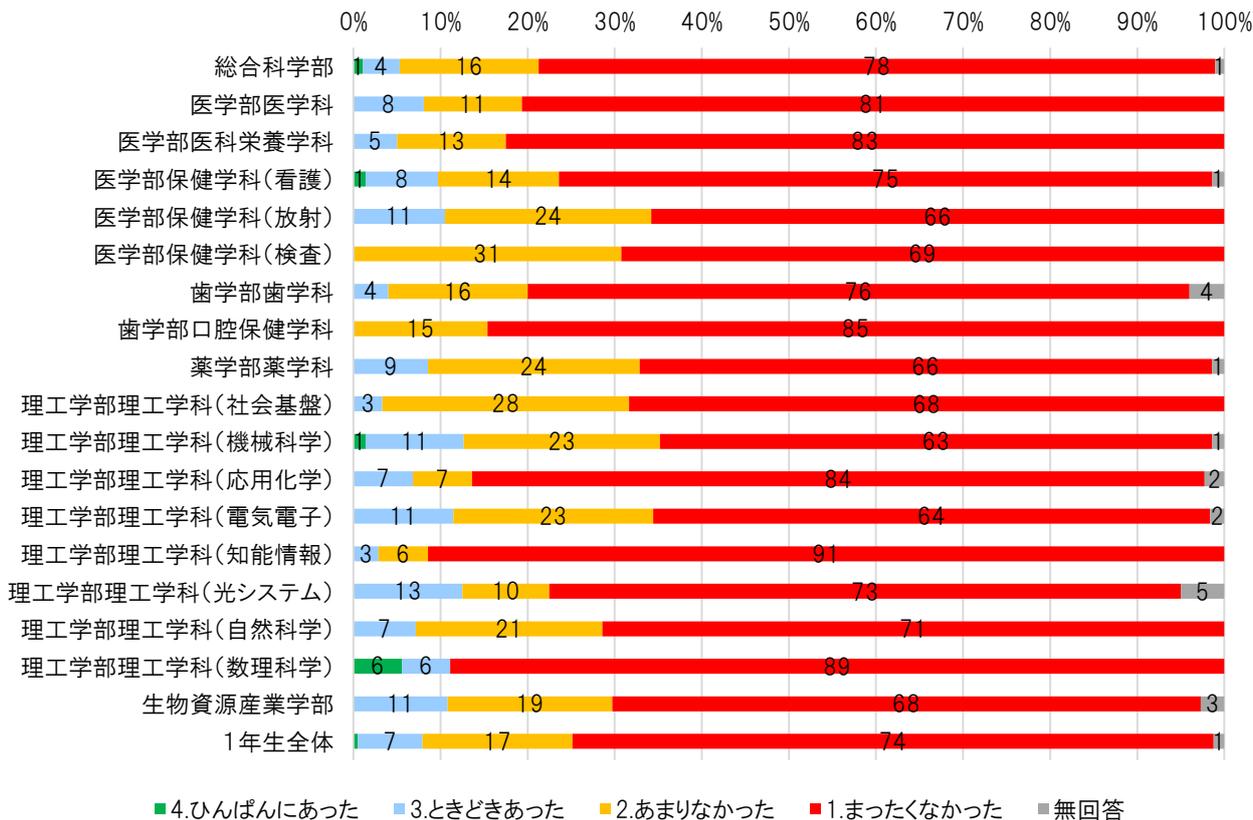
〔30〕教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした



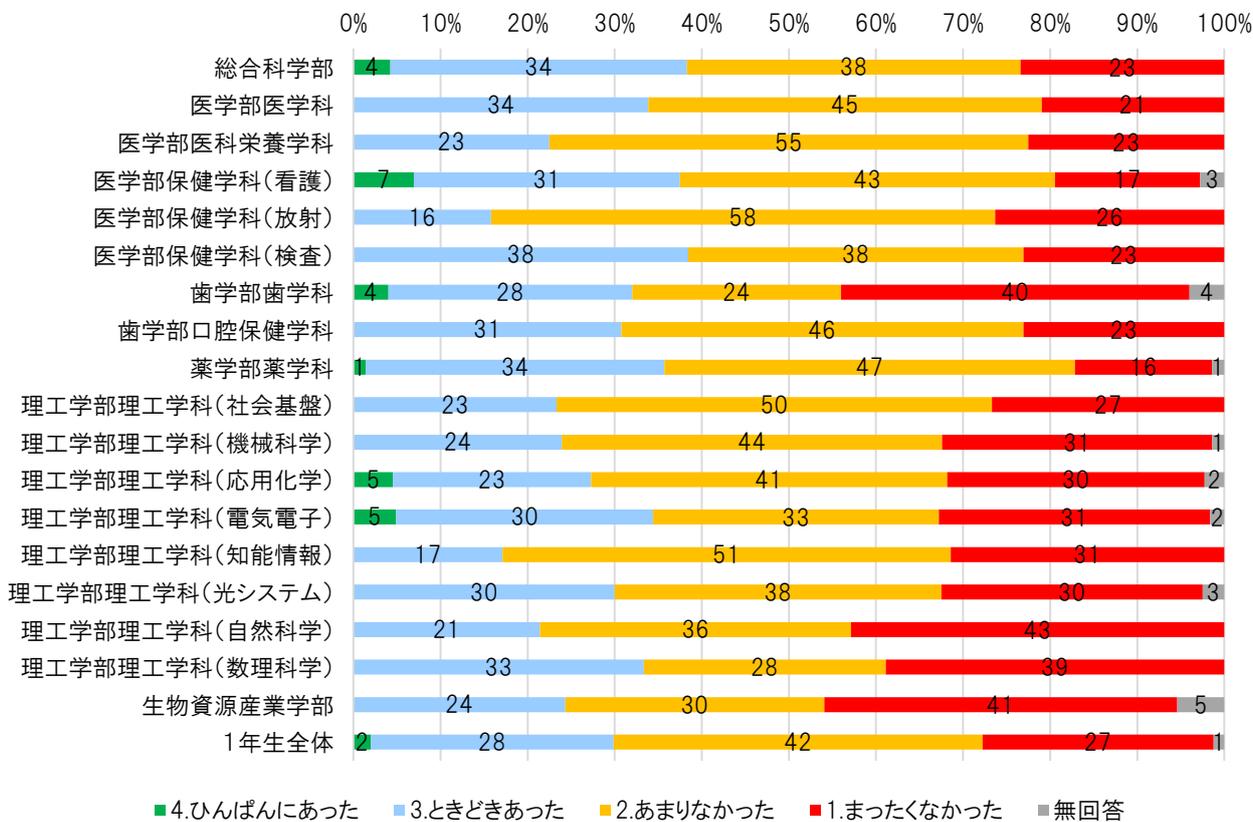
〔31〕単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した



[32]大学の教職員に将来のキャリアの相談をした(卒業後の進路や職業選択など)

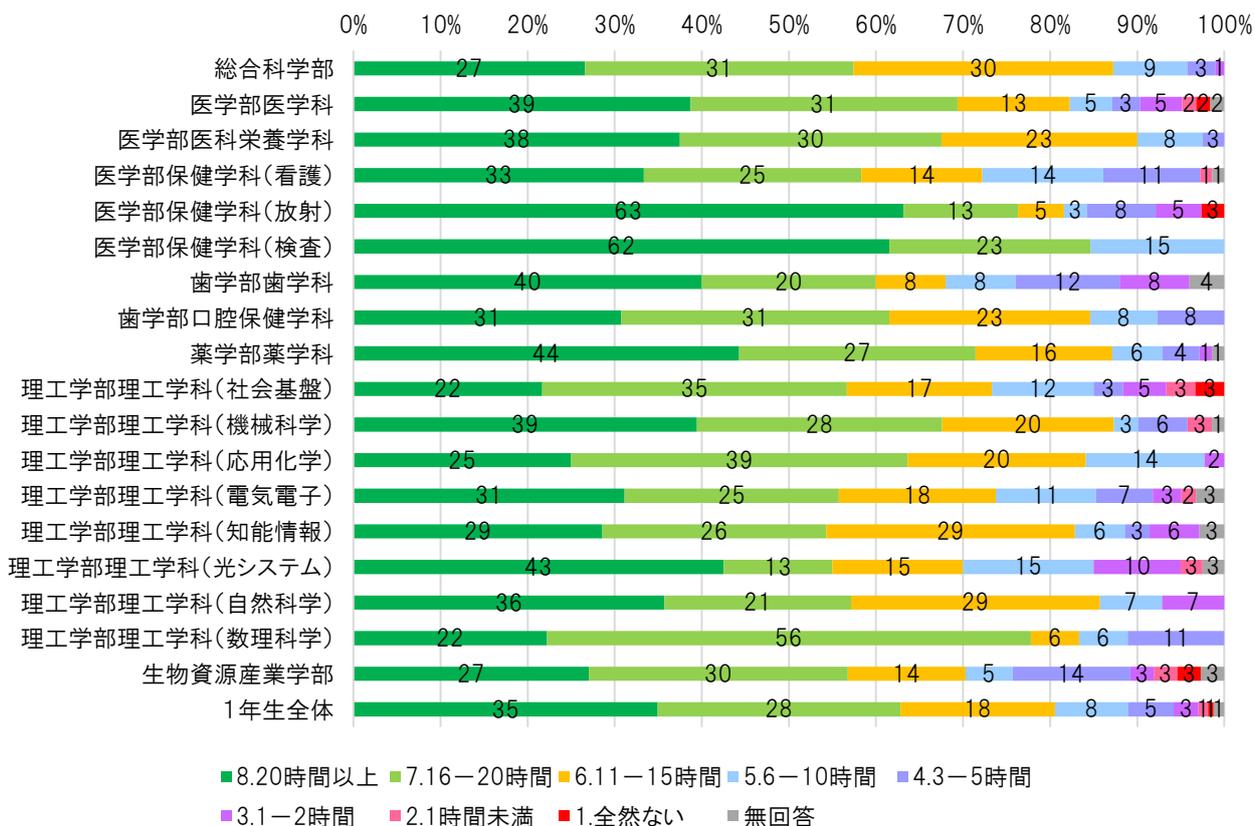


[33]教員に親近感を感じた

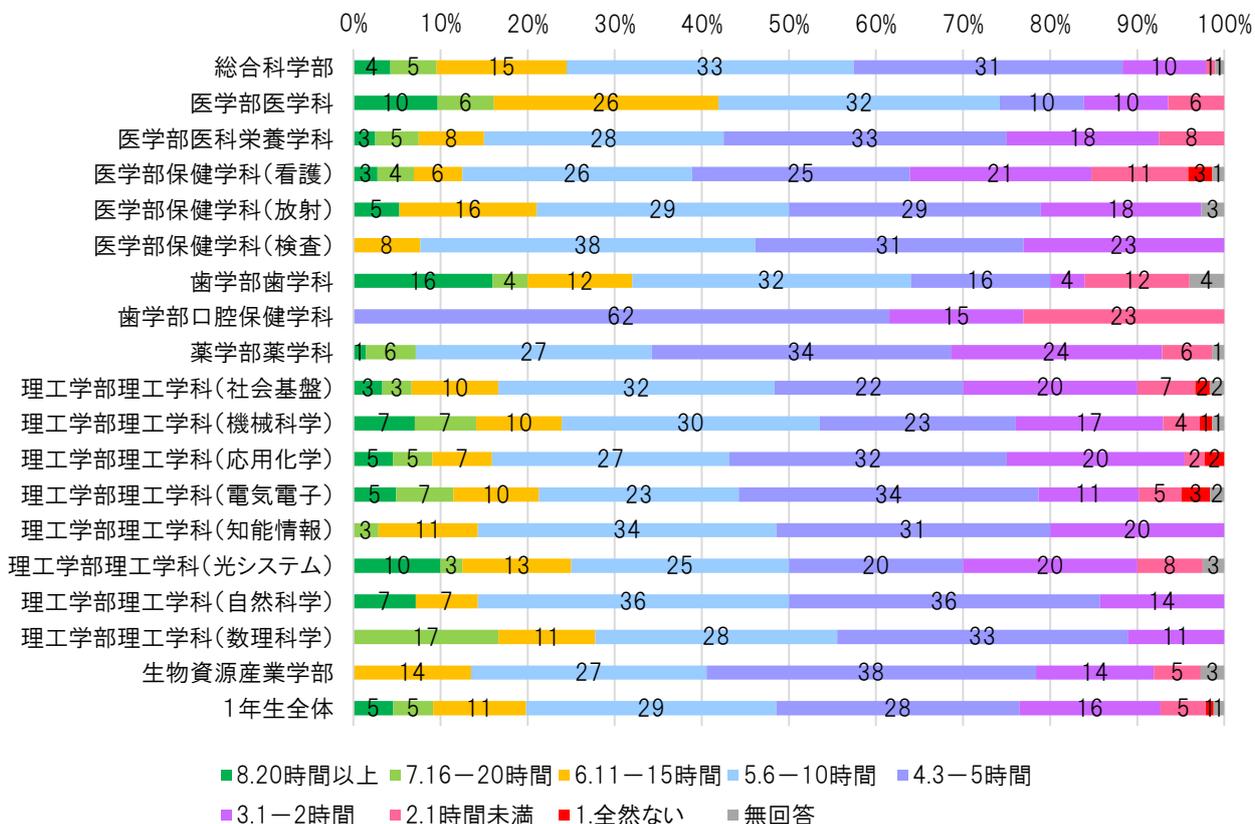


入学以来、あなたは次の活動に 1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

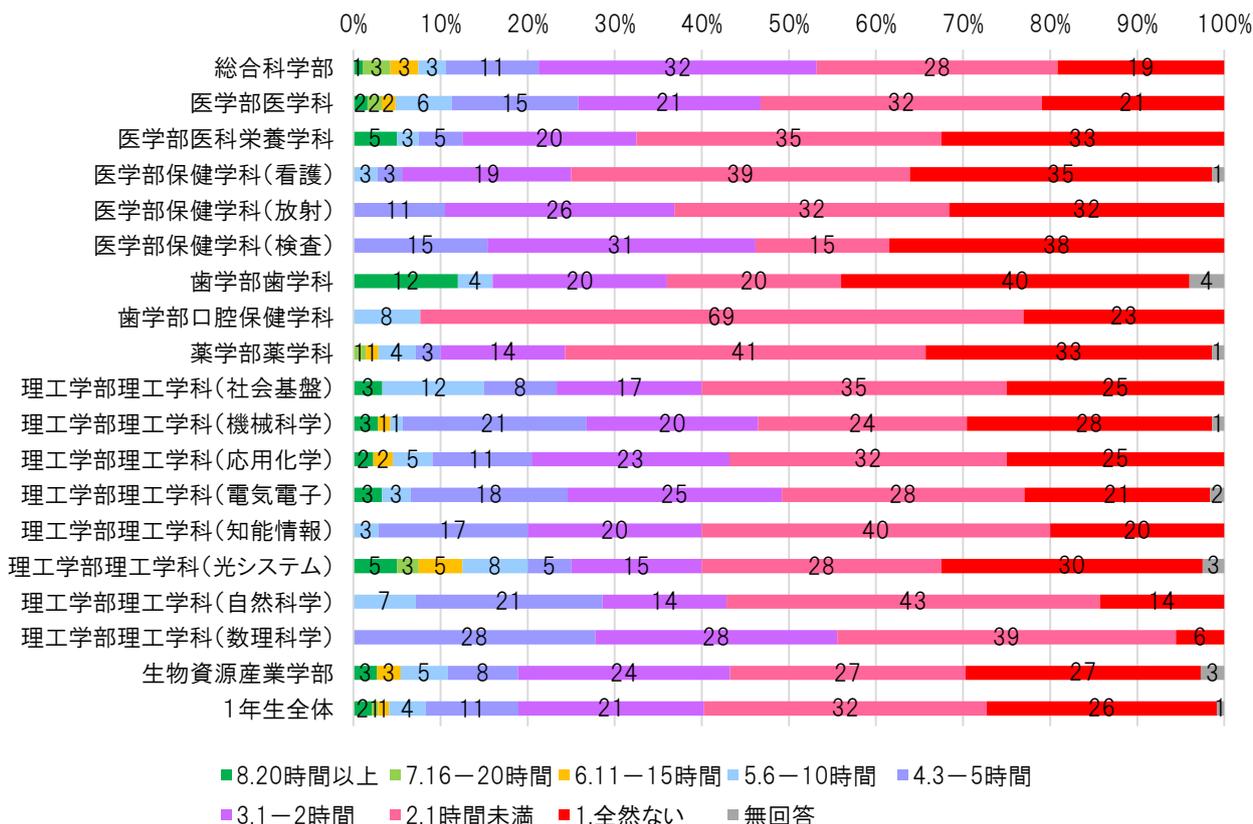
[34] 授業や実験に出る



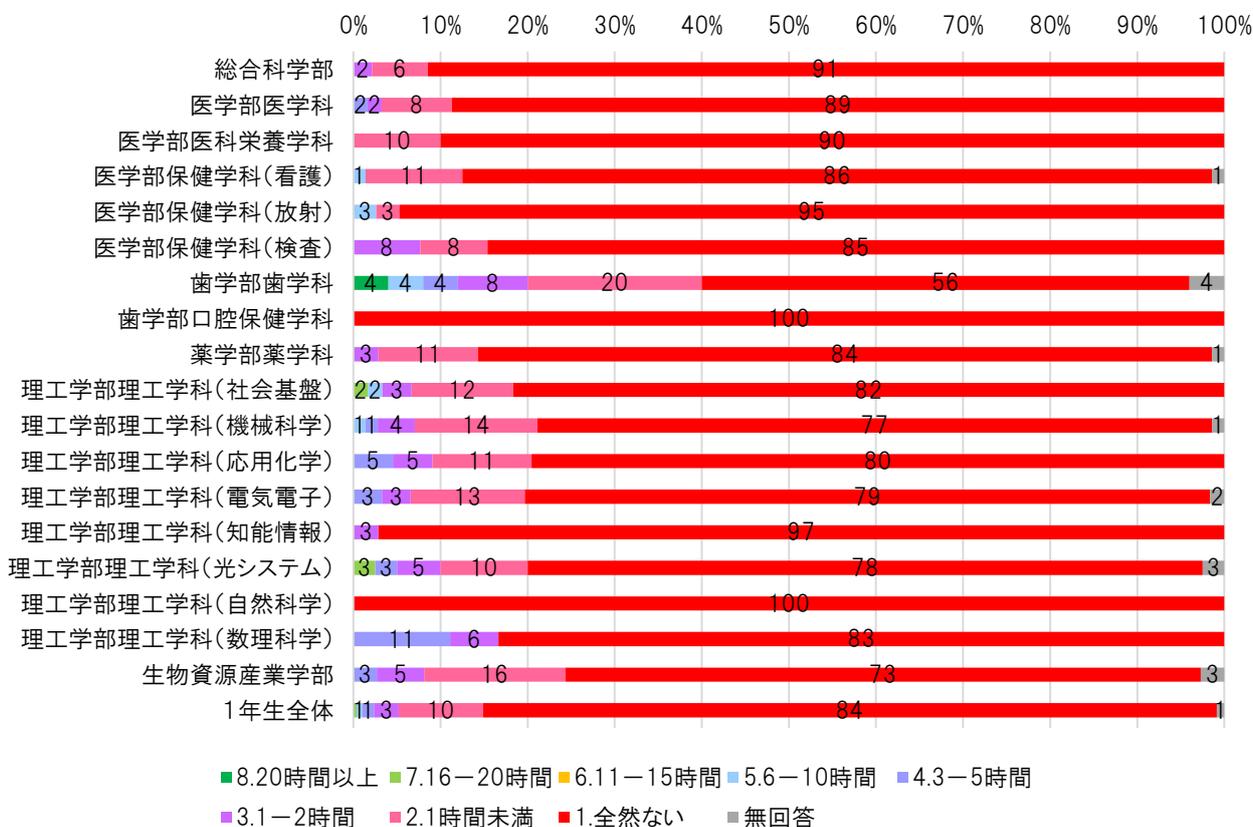
[35] 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする



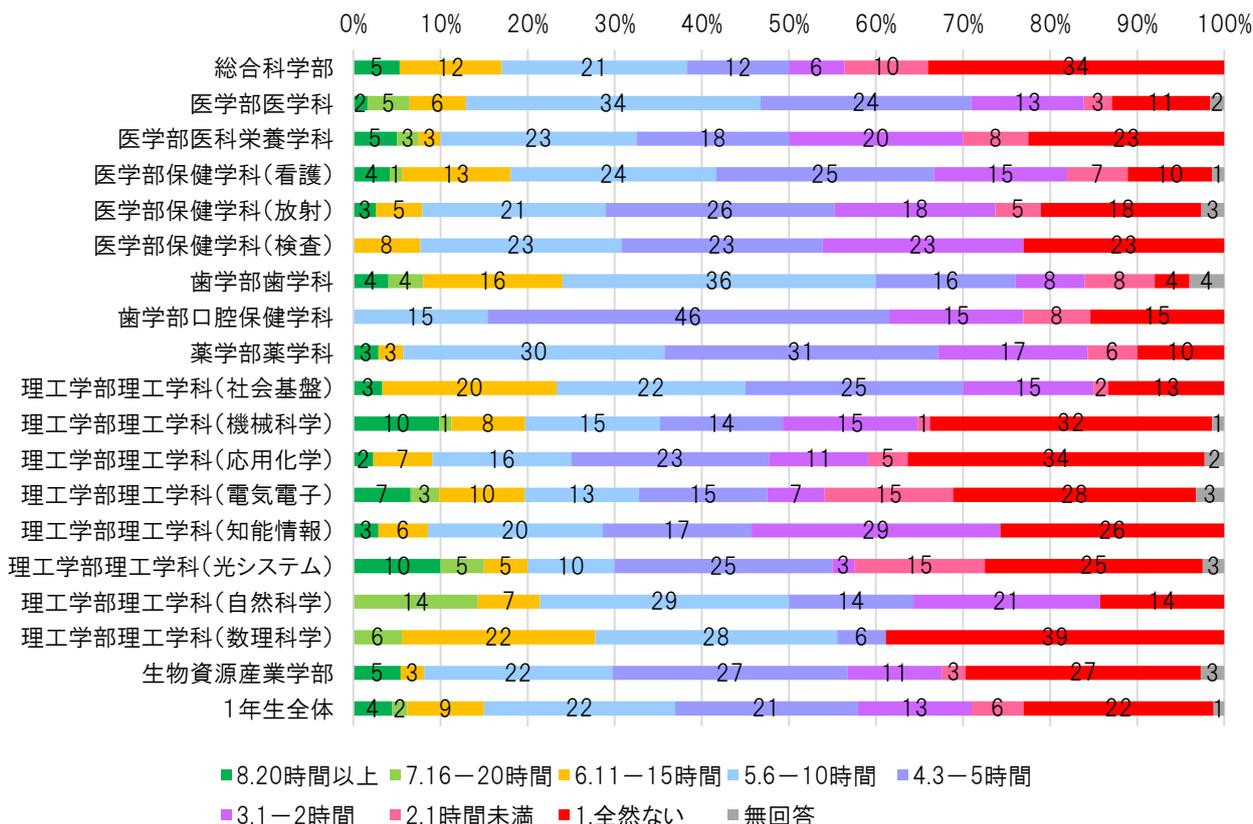
[36]授業時間外に、授業に関連しない勉強をする



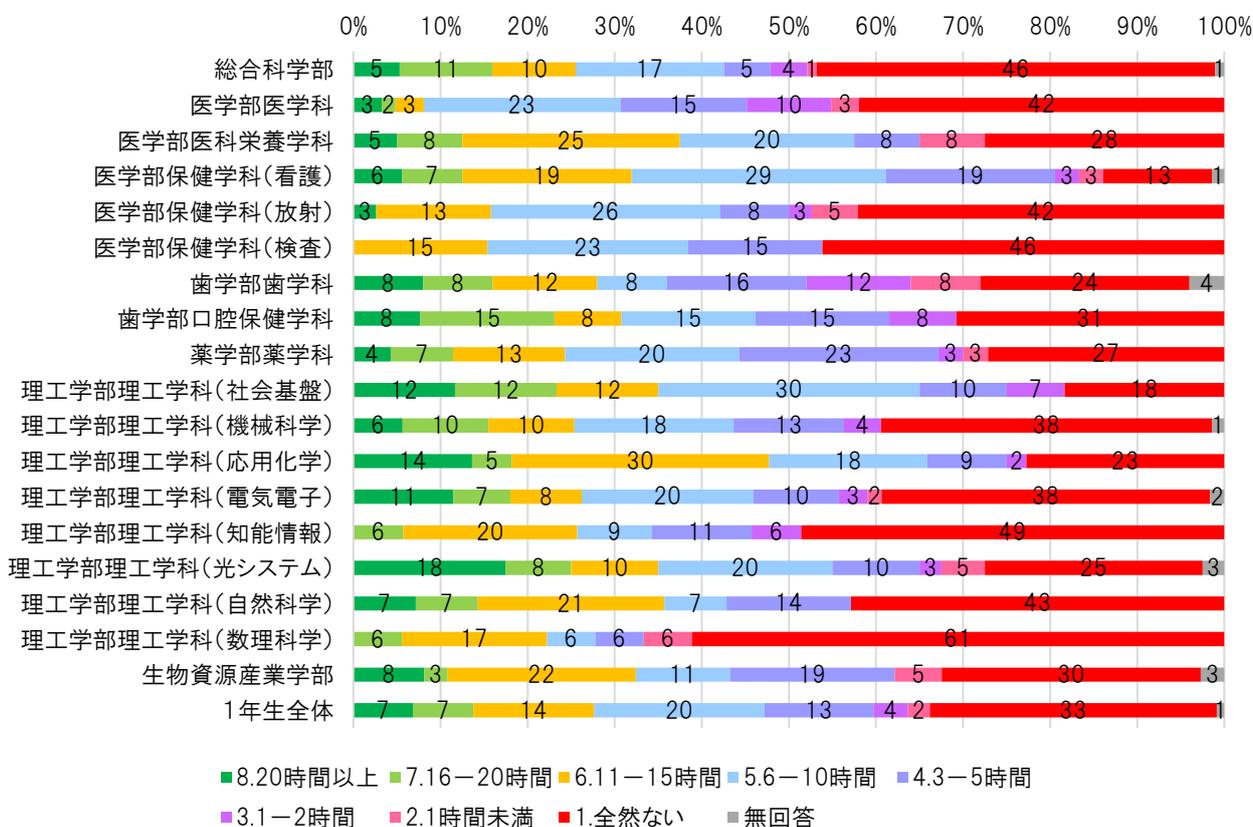
[37]オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する



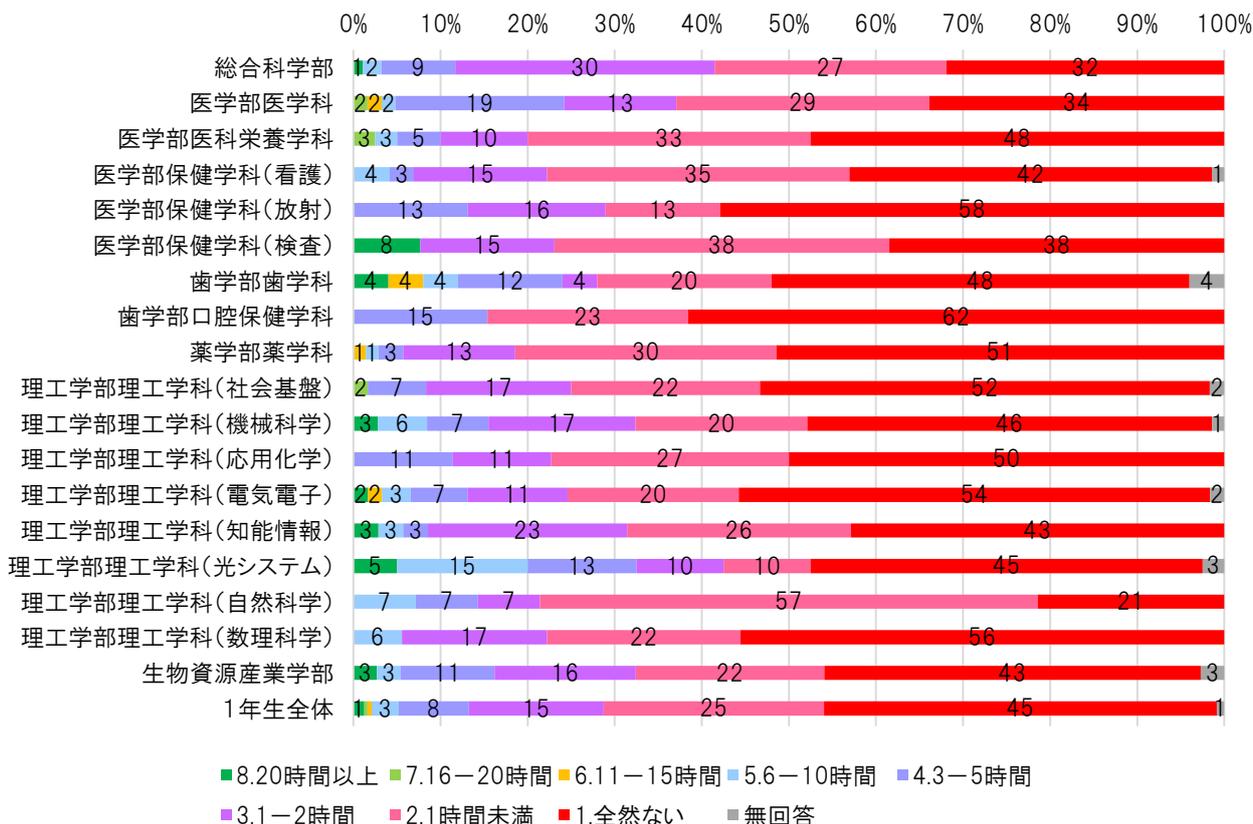
[38]部活動や同好会に参加する



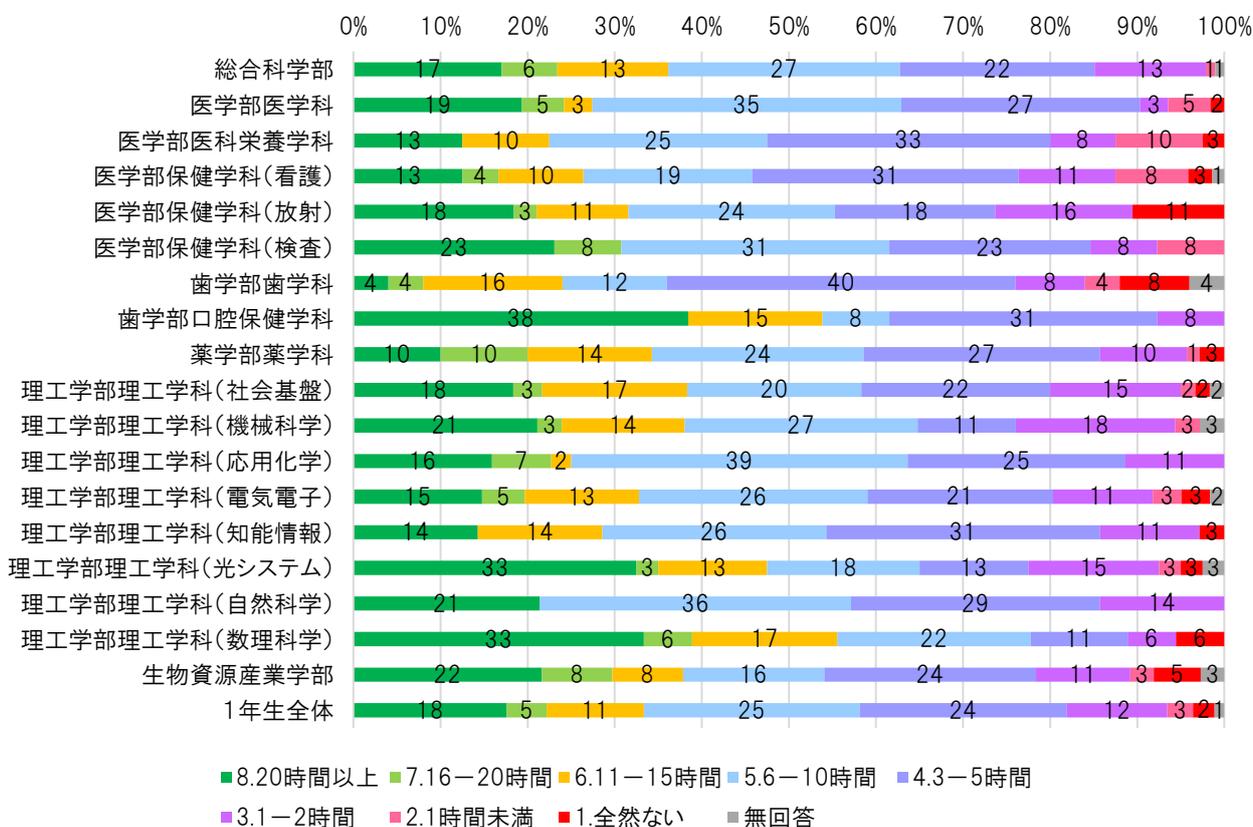
[39]大学外でアルバイトや仕事をする



[40] 読書をする(マンガ・雑誌を除く)

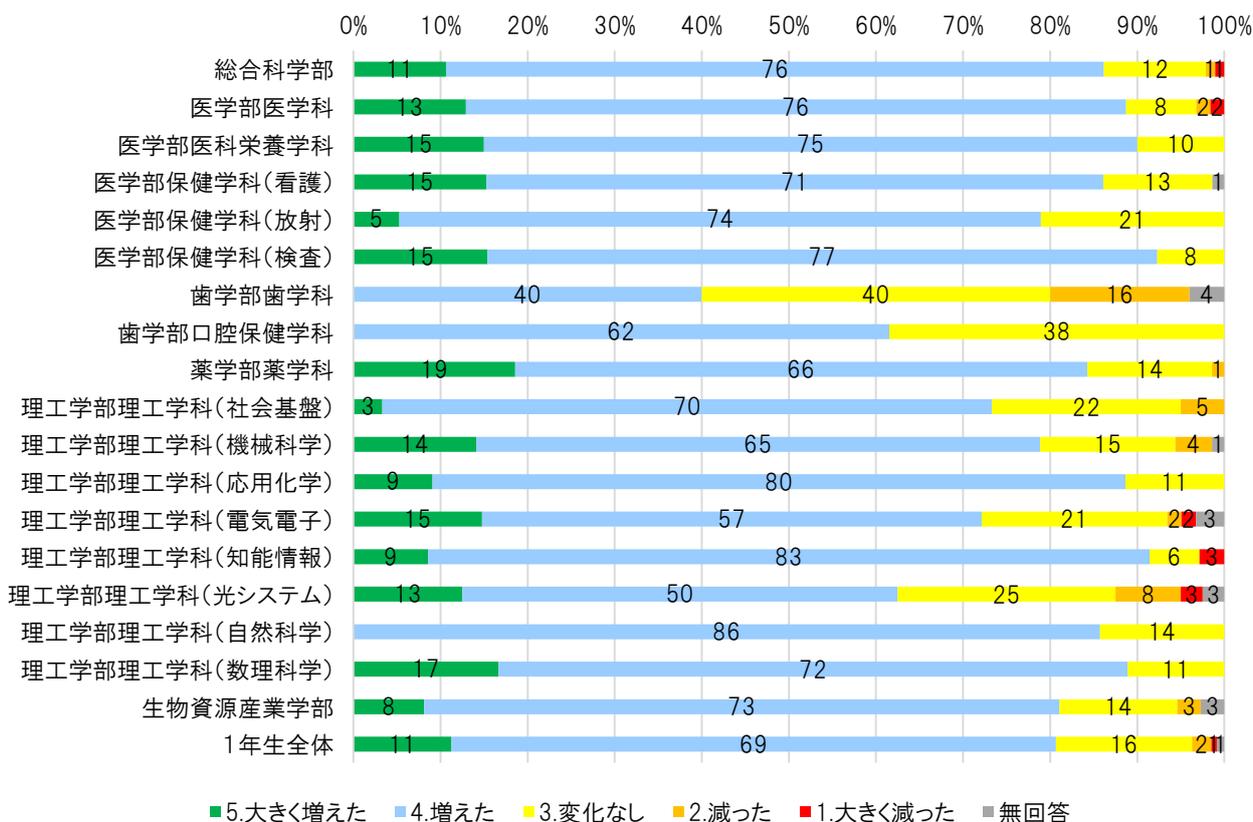


[41] 個人的な趣味活動をする(テレビやゲーム、映画鑑賞など)

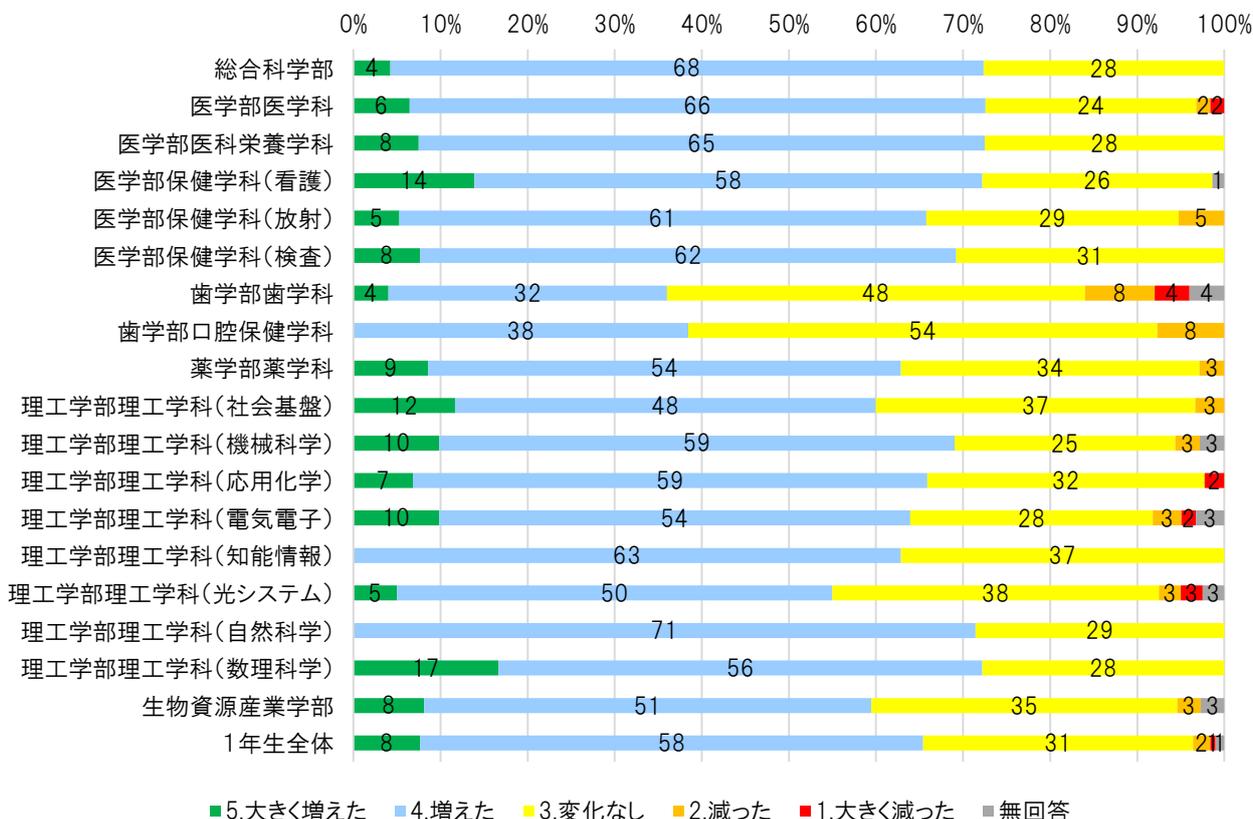


入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

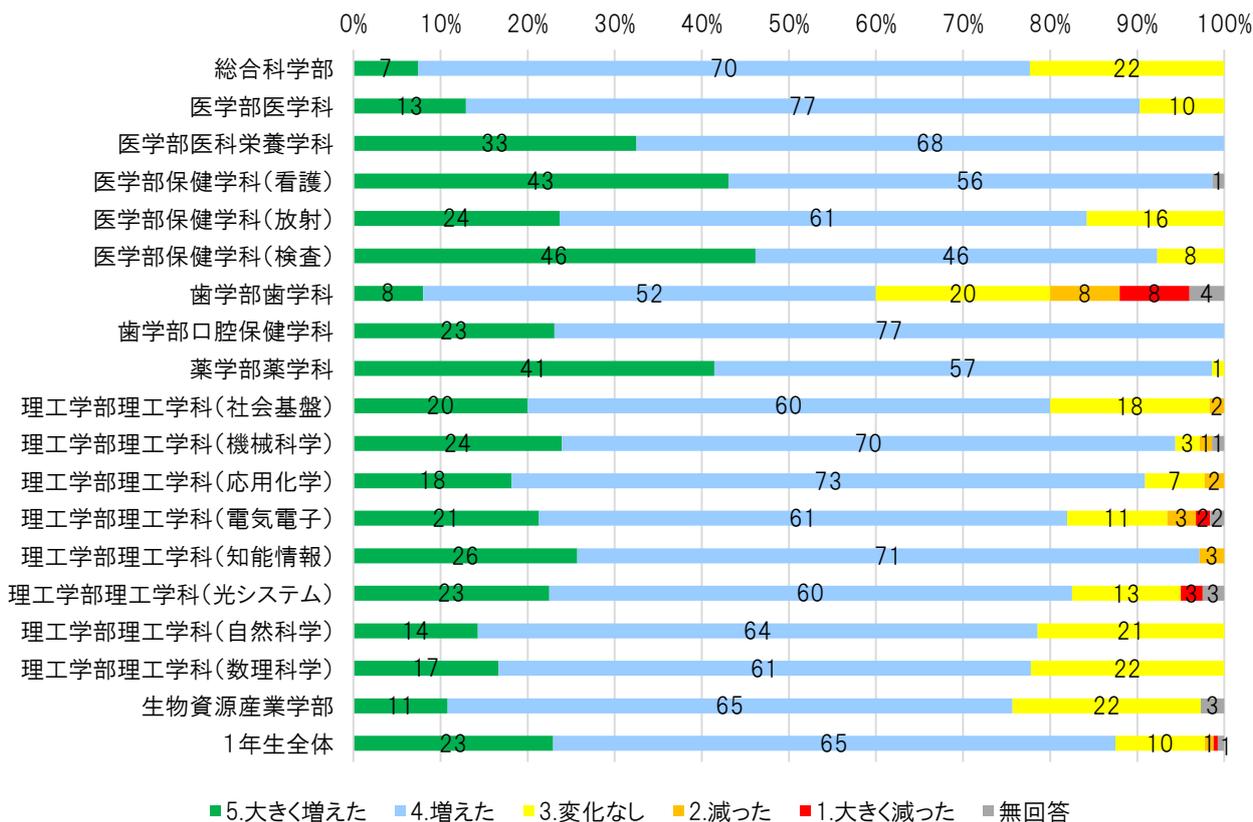
[42]一般的な教養



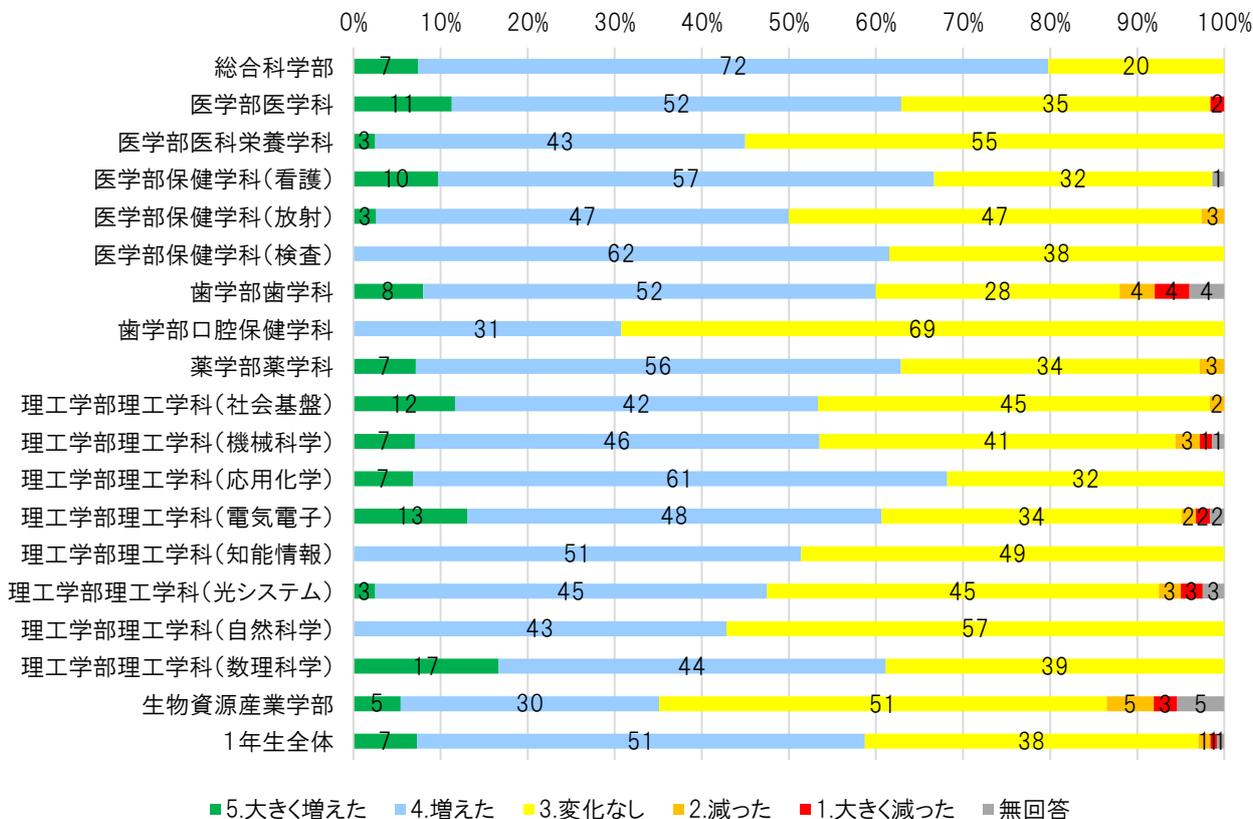
[43]分析力や問題解決能力



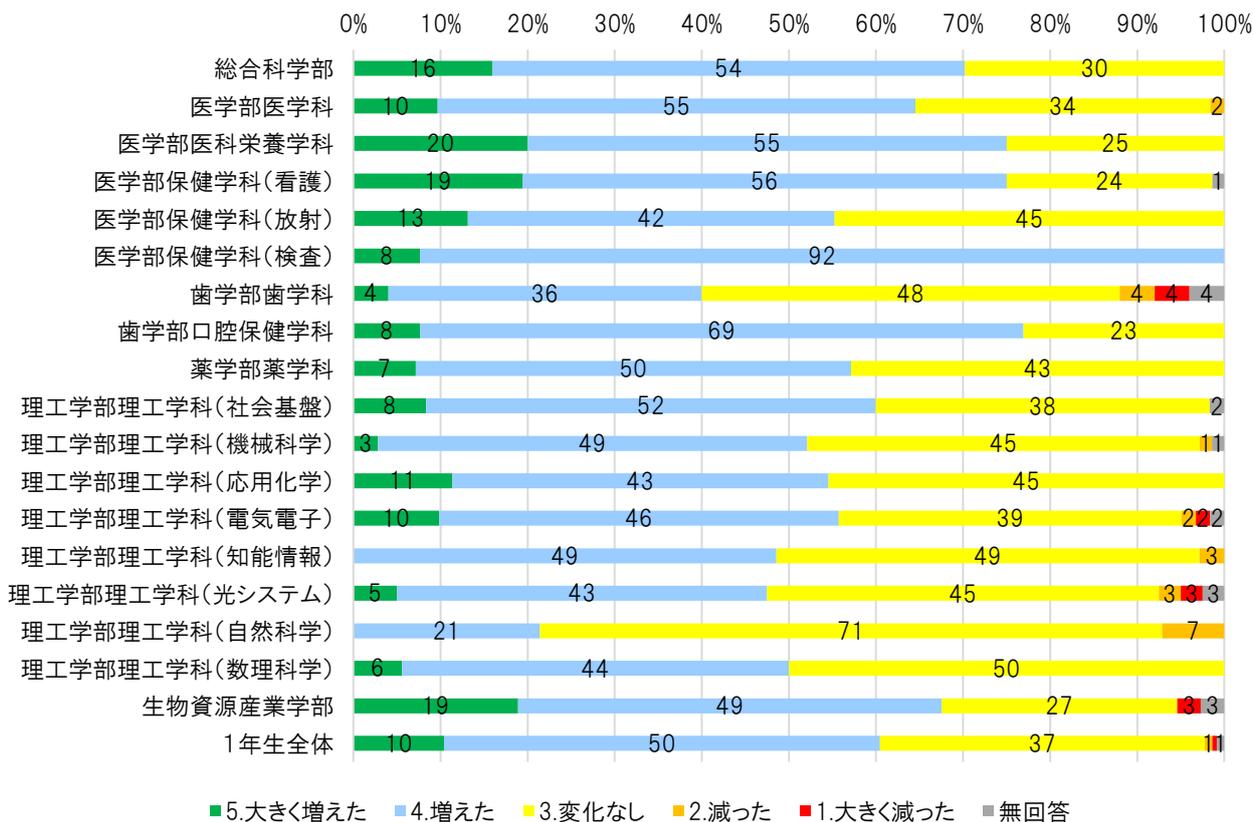
[44] 専門分野や学科の知識



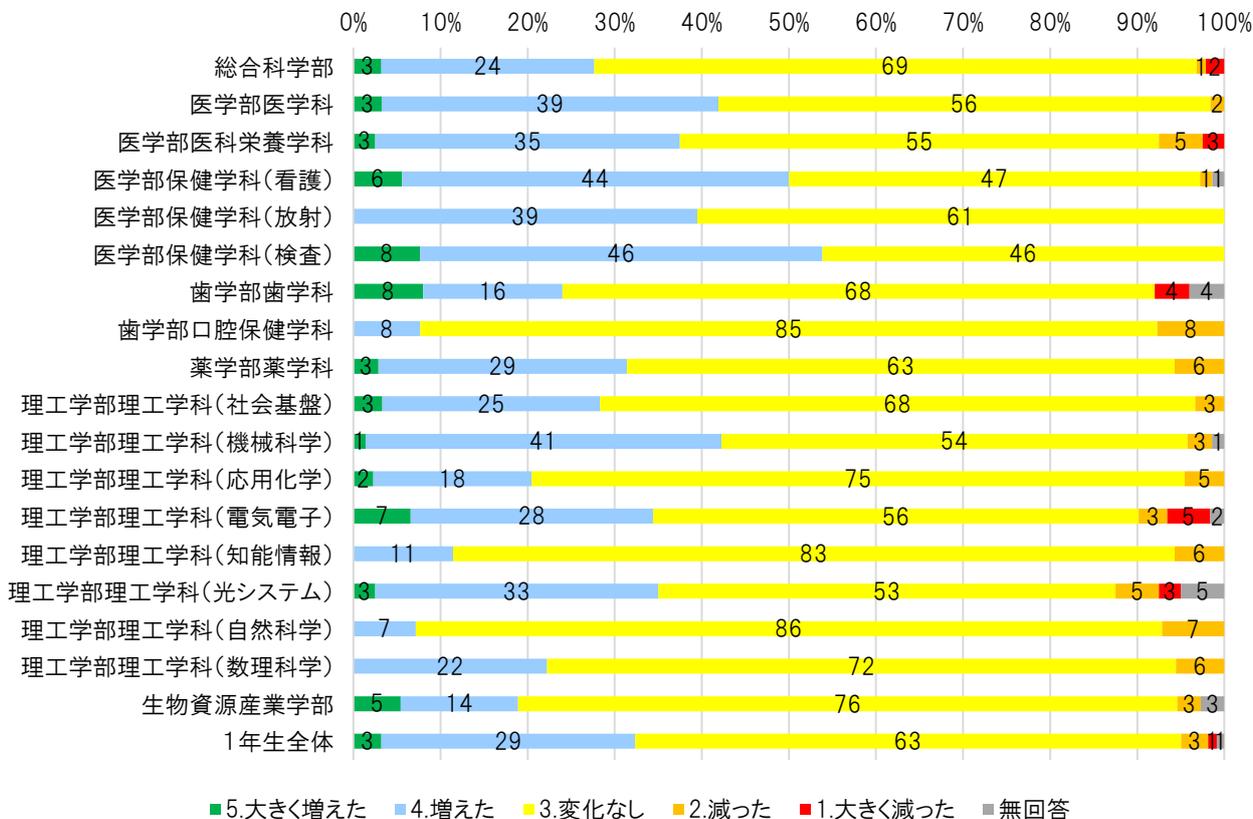
[45] 批判的に考える能力



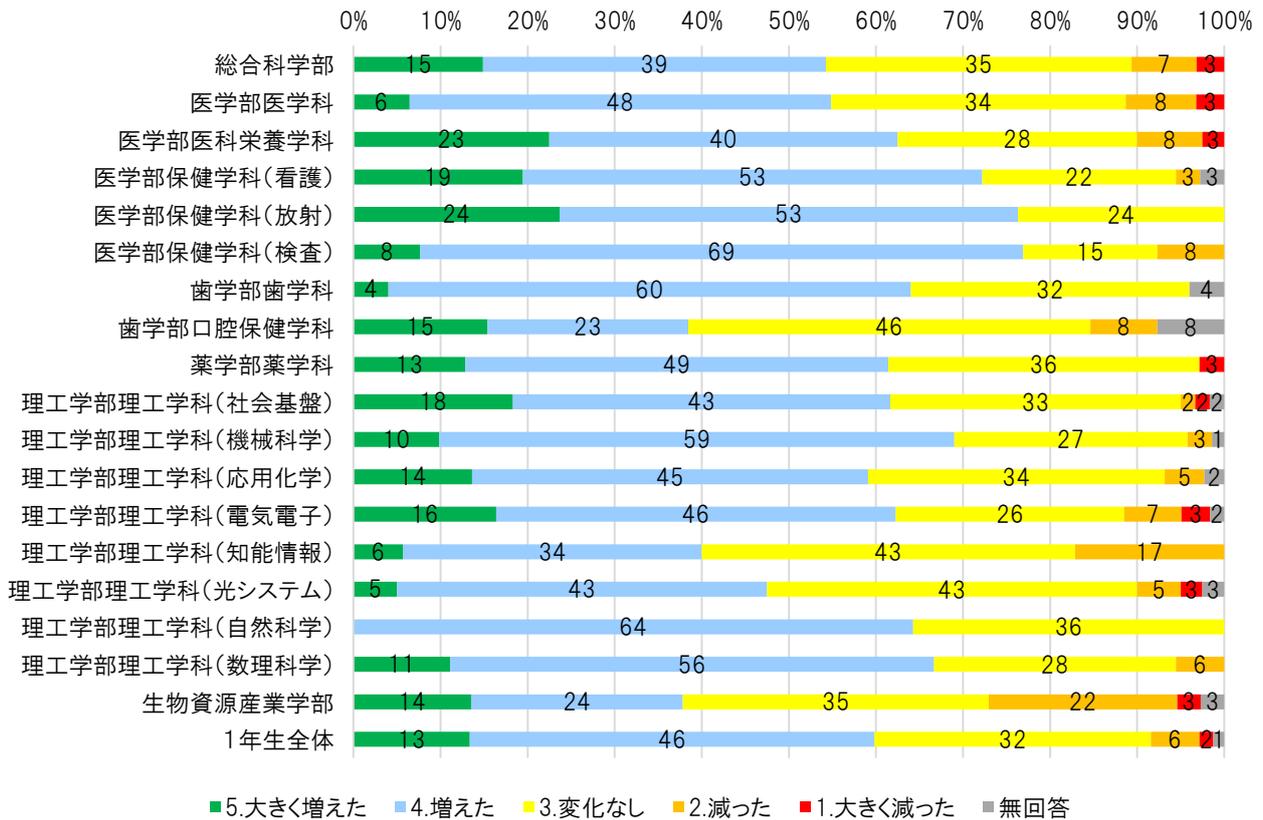
[46]異文化の人々に関する知識



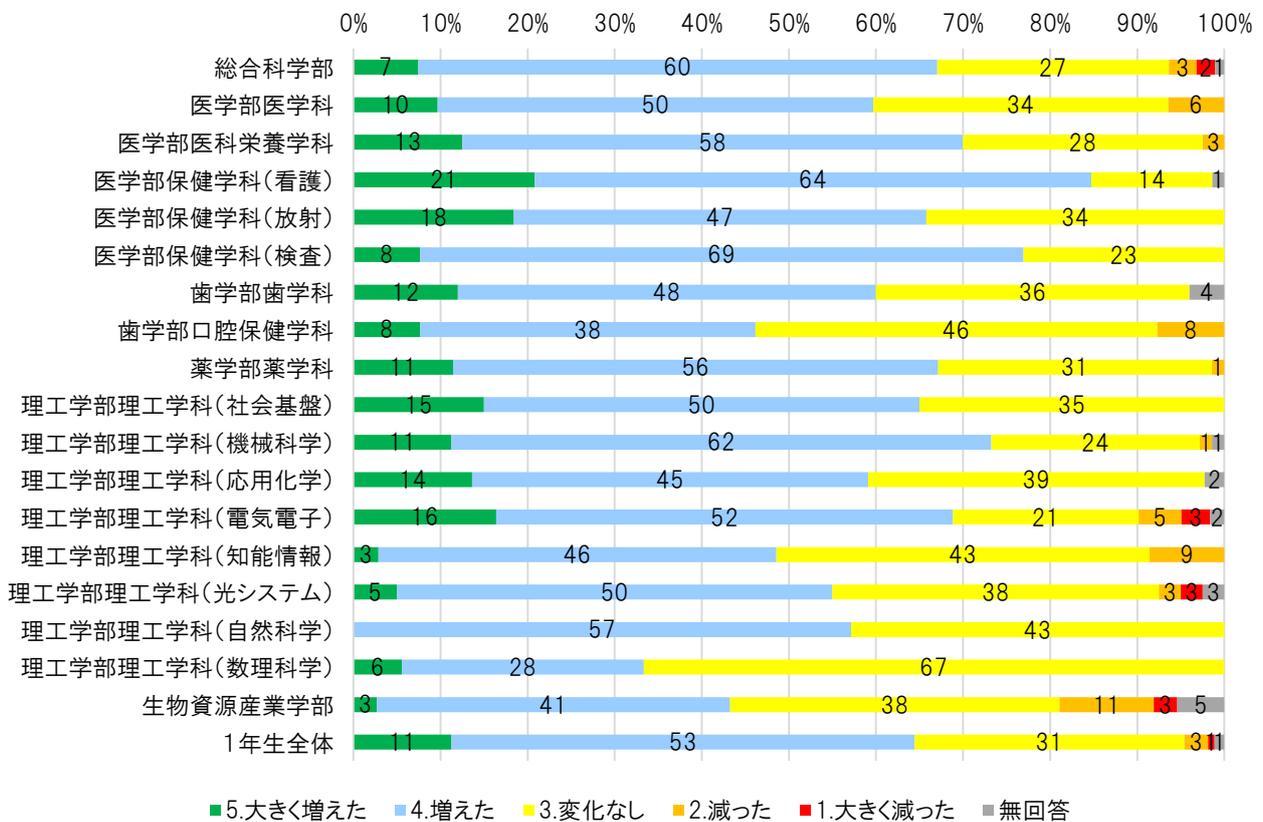
[47]リーダーシップの能力



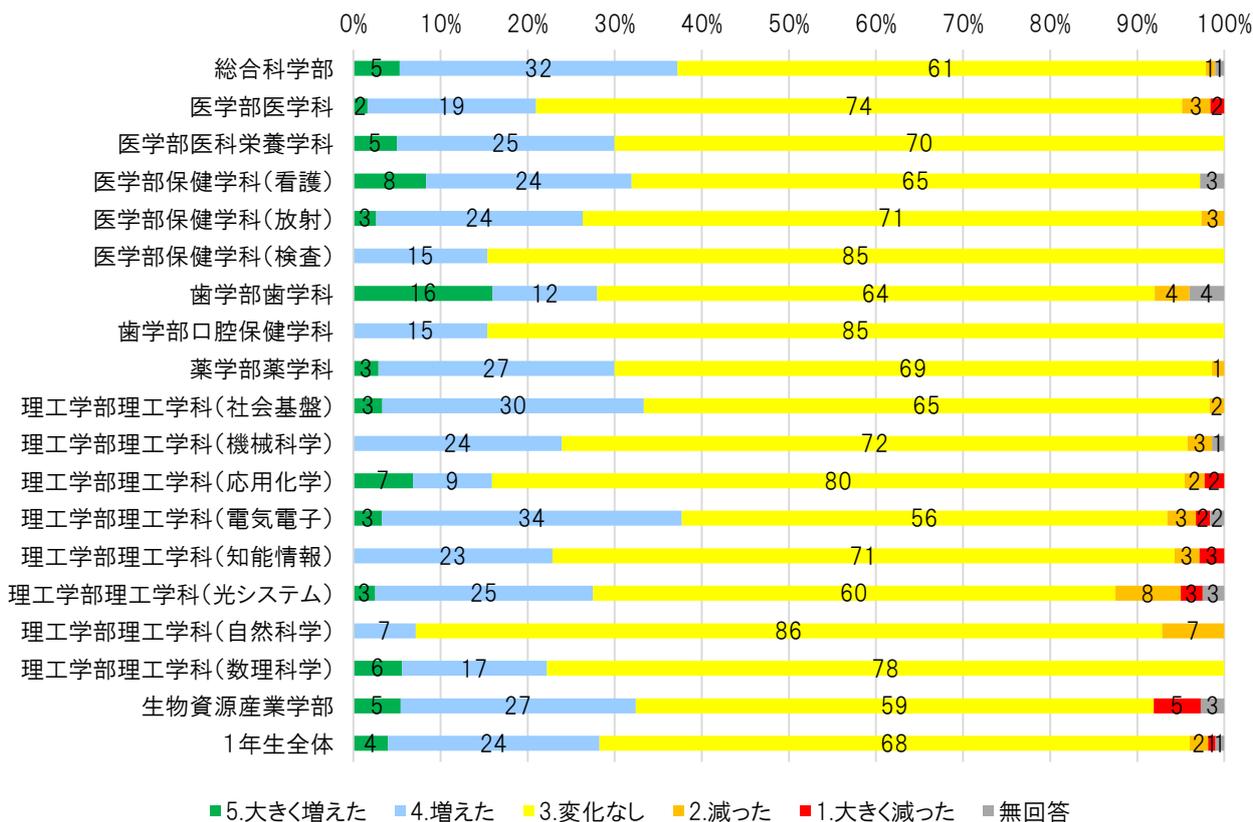
[48]人間関係を構築する能力



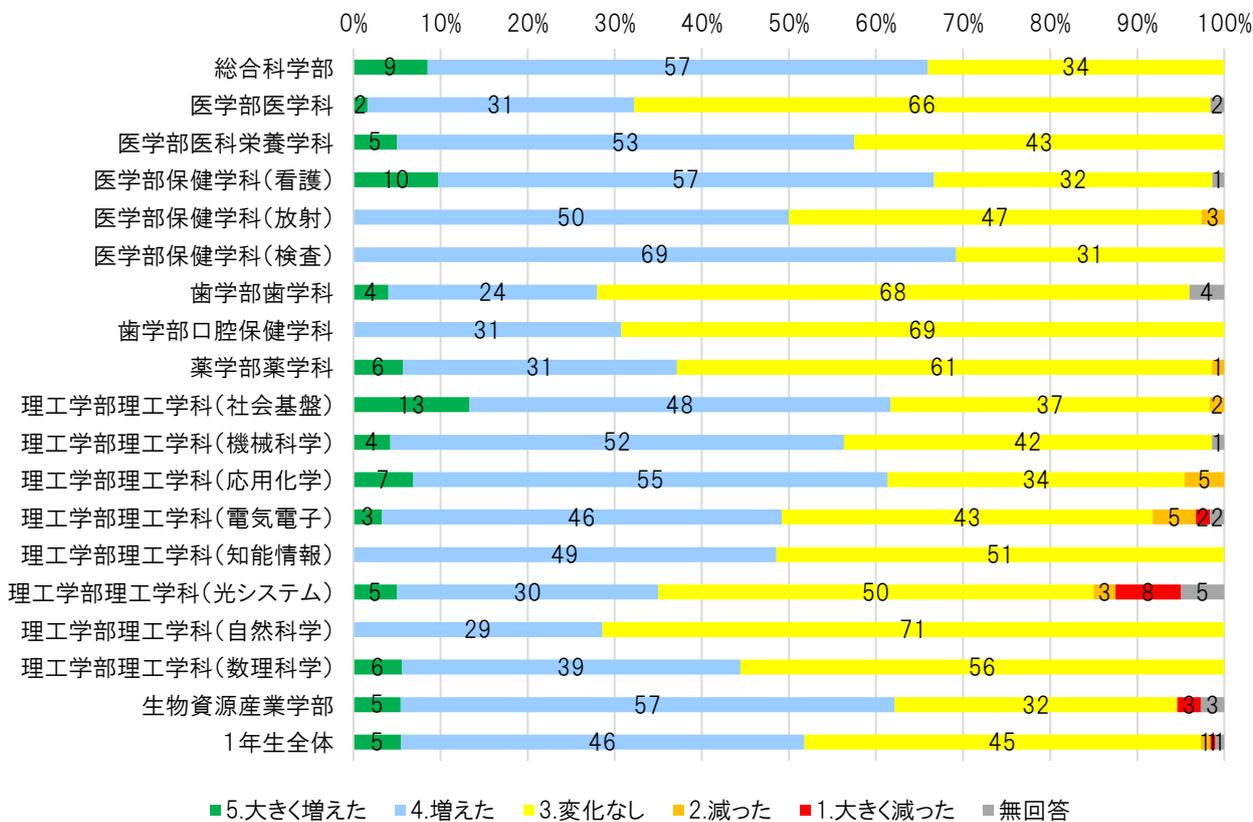
[49]他の人と協力して物事を遂行する能力



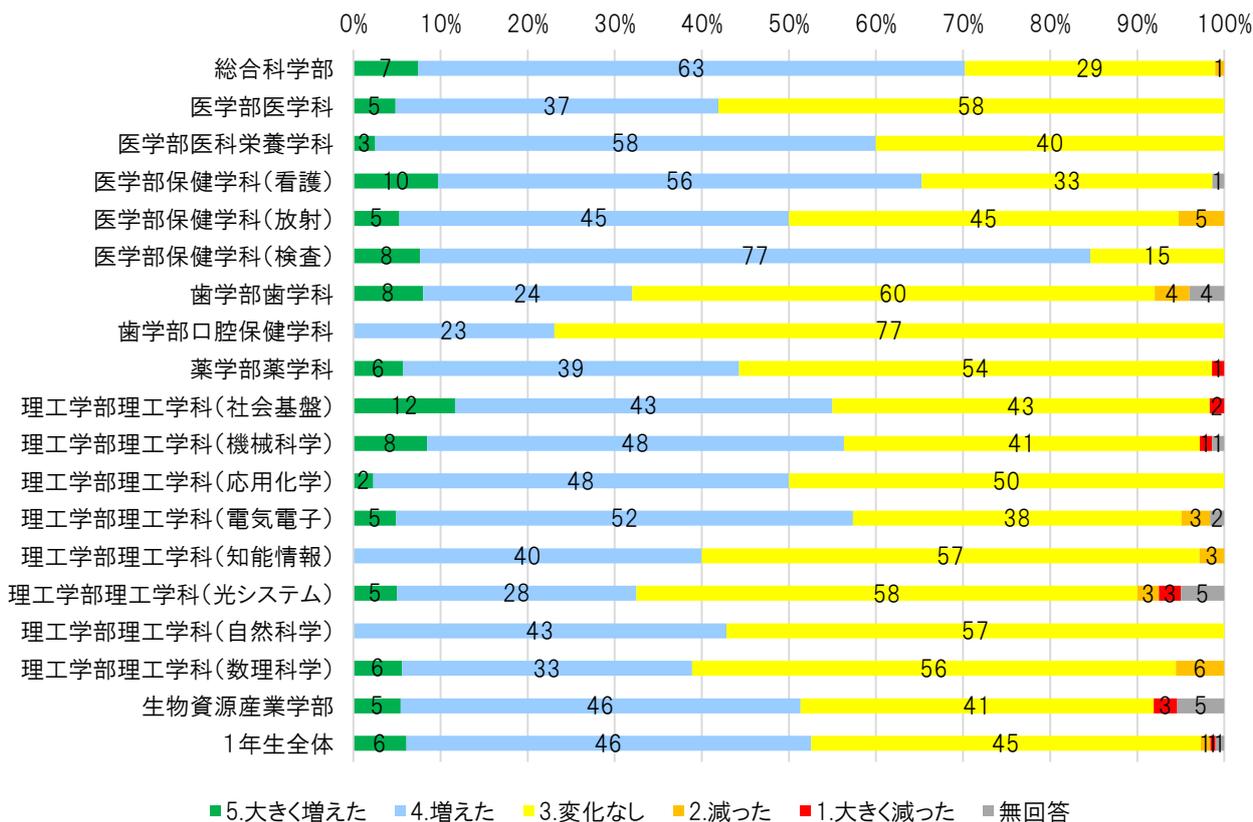
[50]異文化の人々と協力する能力



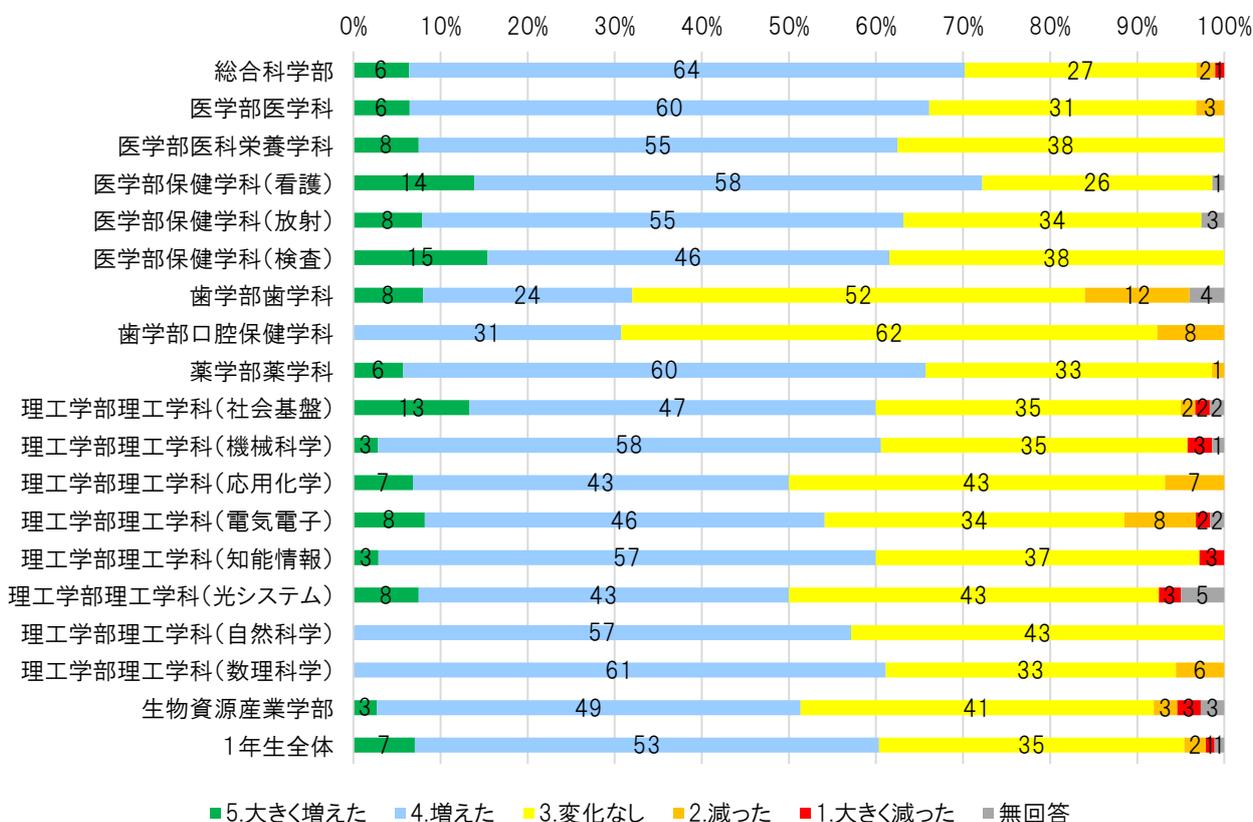
[51]地域社会が直面する問題を理解する能力



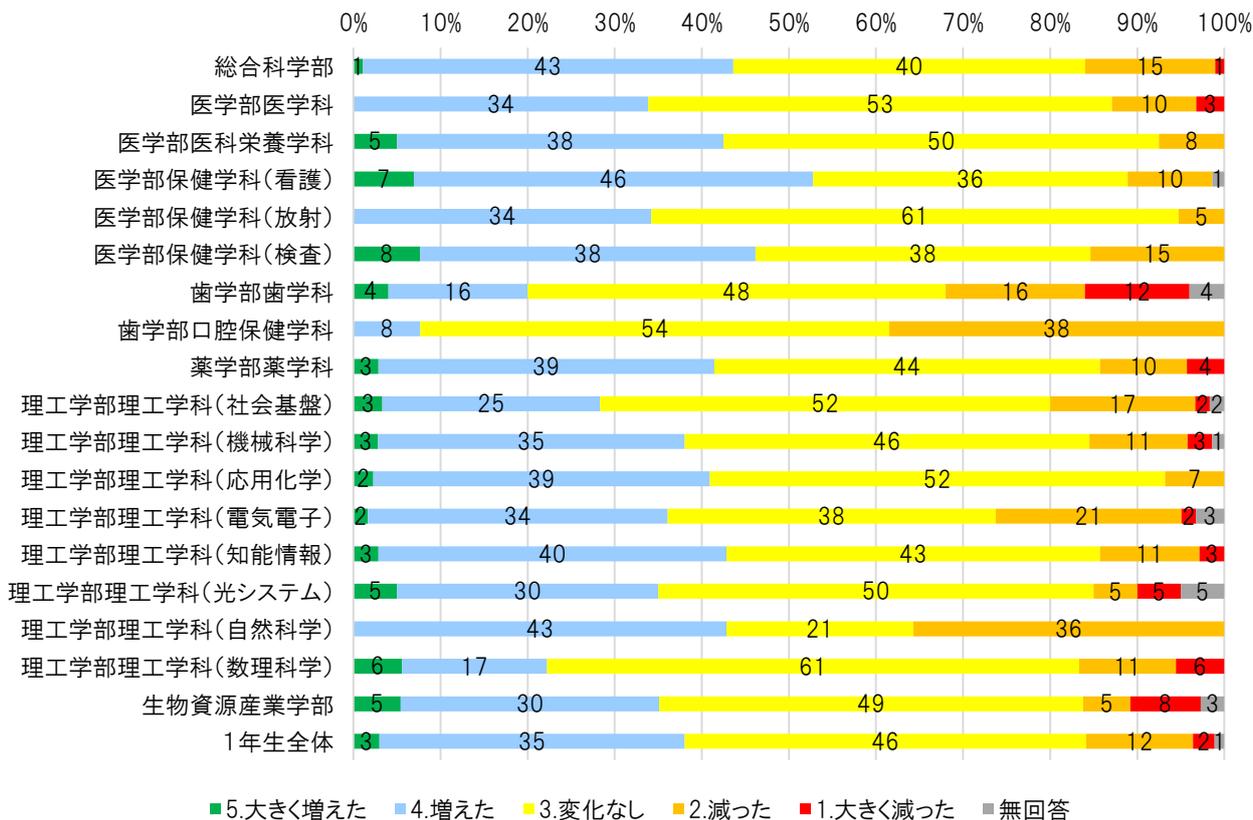
[52] 国民が直面する問題を理解する能力



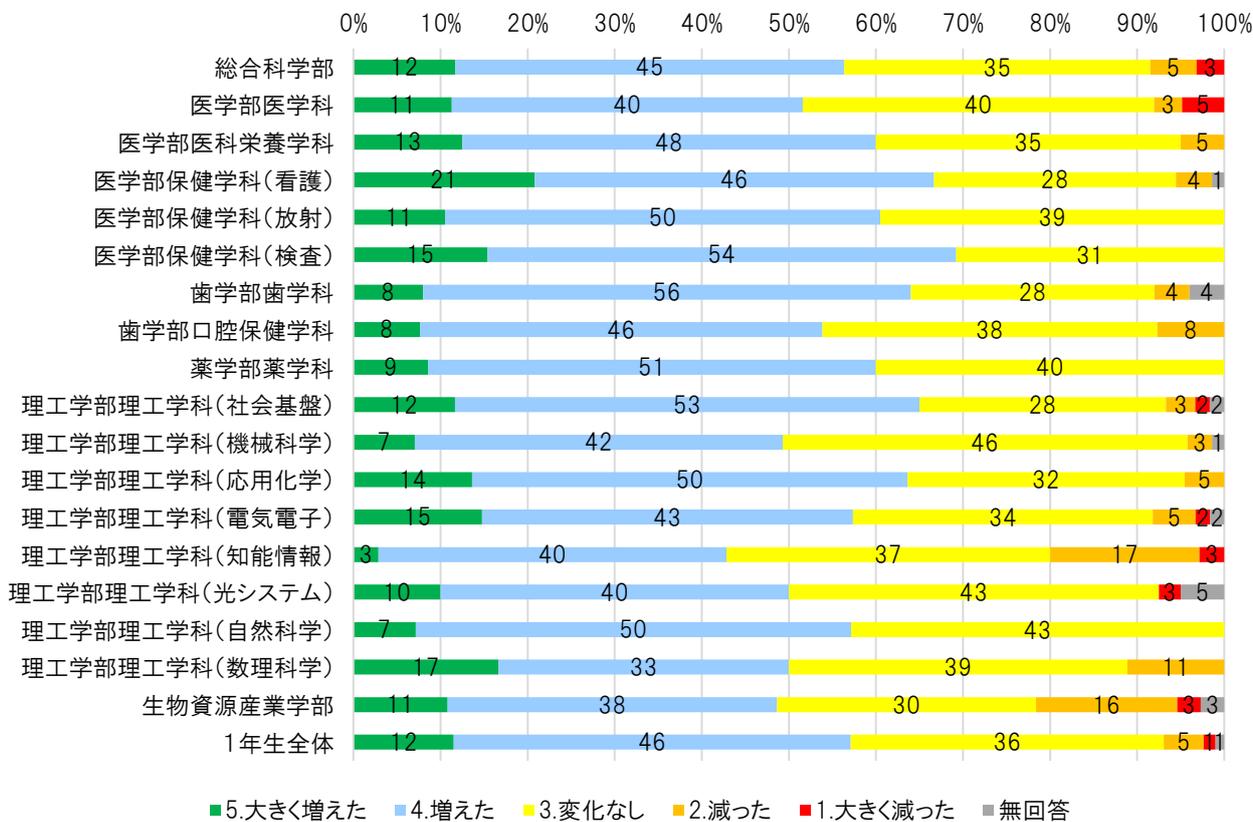
[53] 文章表現の能力



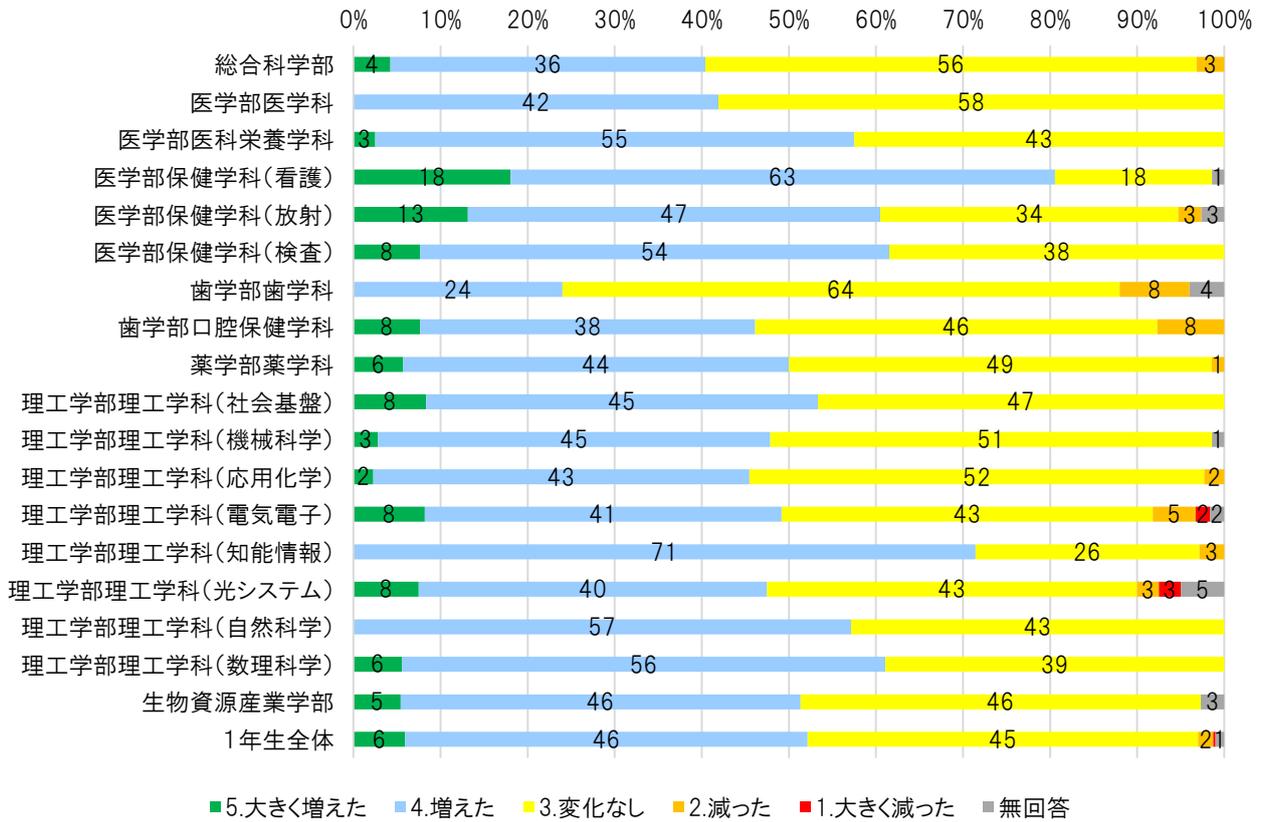
[54]外国語の運用能力



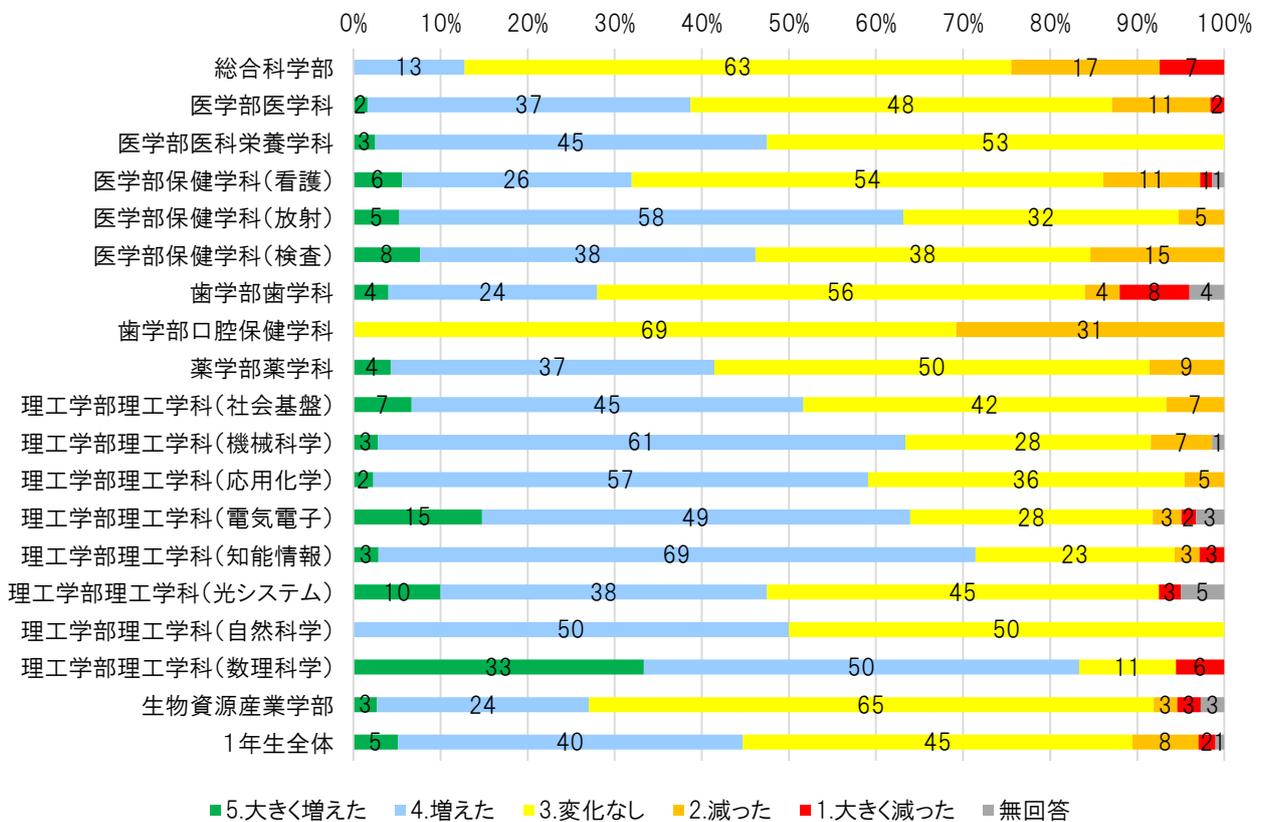
[55]コミュニケーションの能力



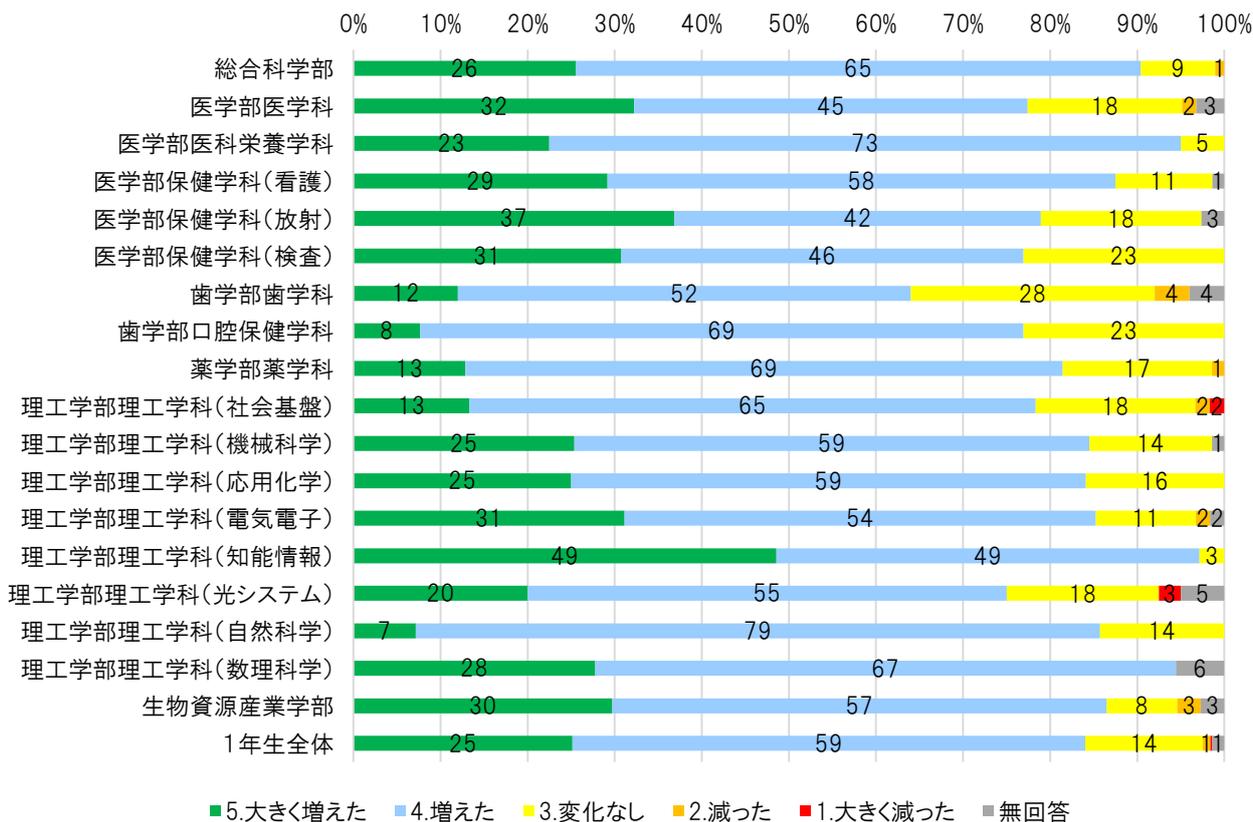
[56]プレゼンテーションの能力



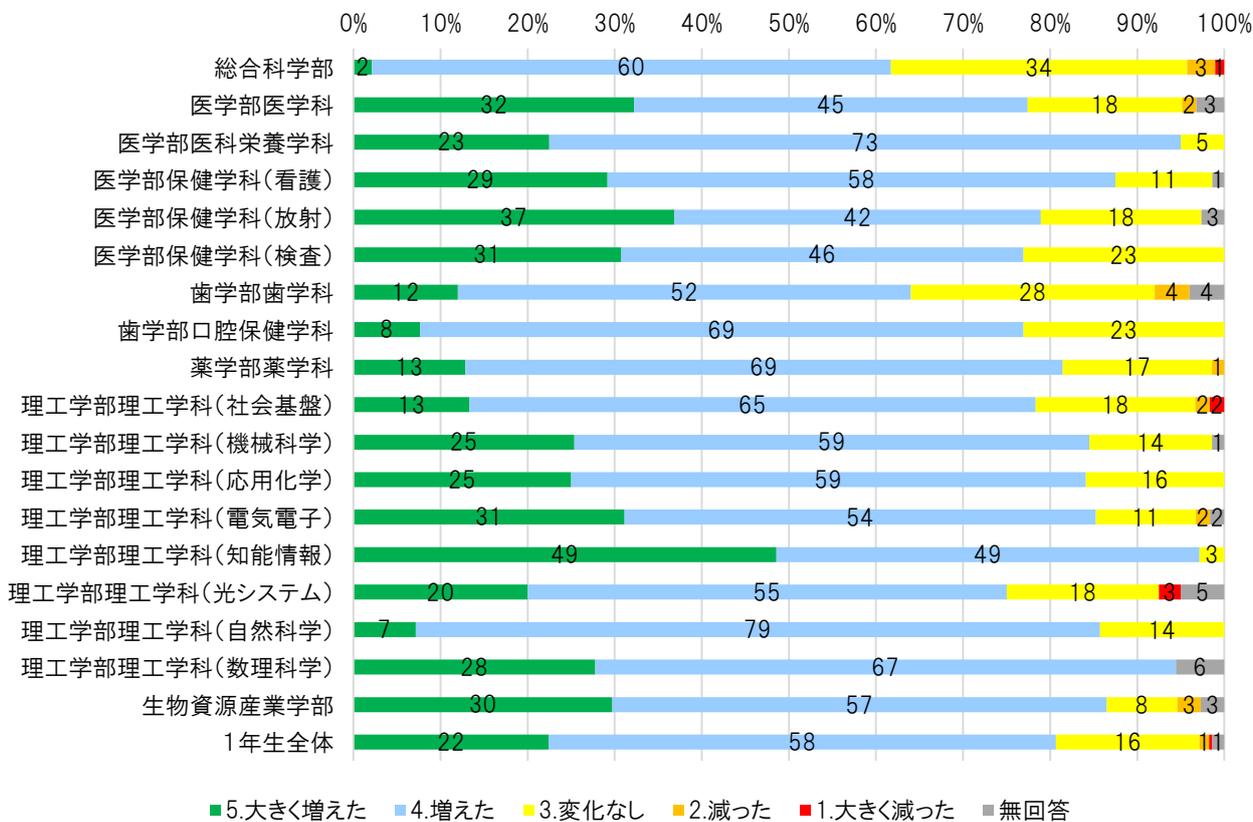
[57]数理的な能力



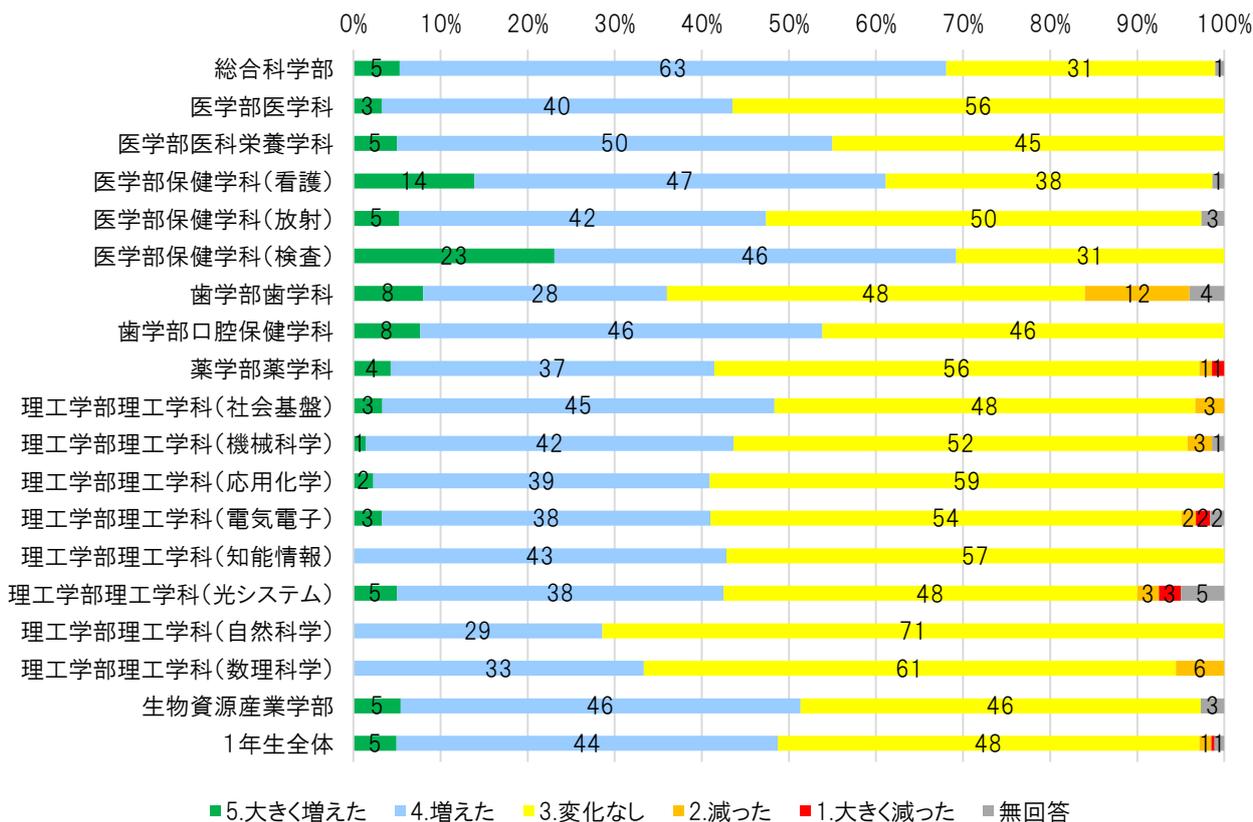
[58] コンピュータの操作能力



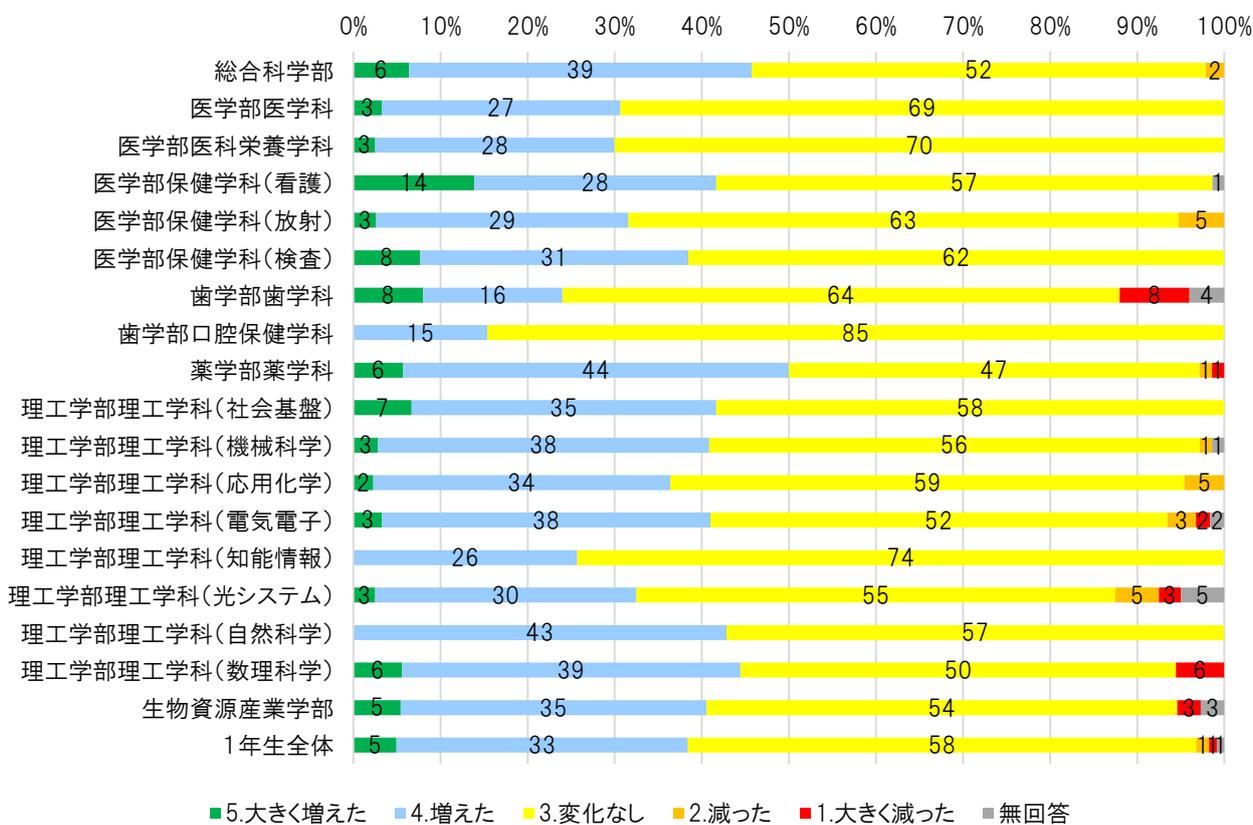
[59] 時間を効果的に利用する能力



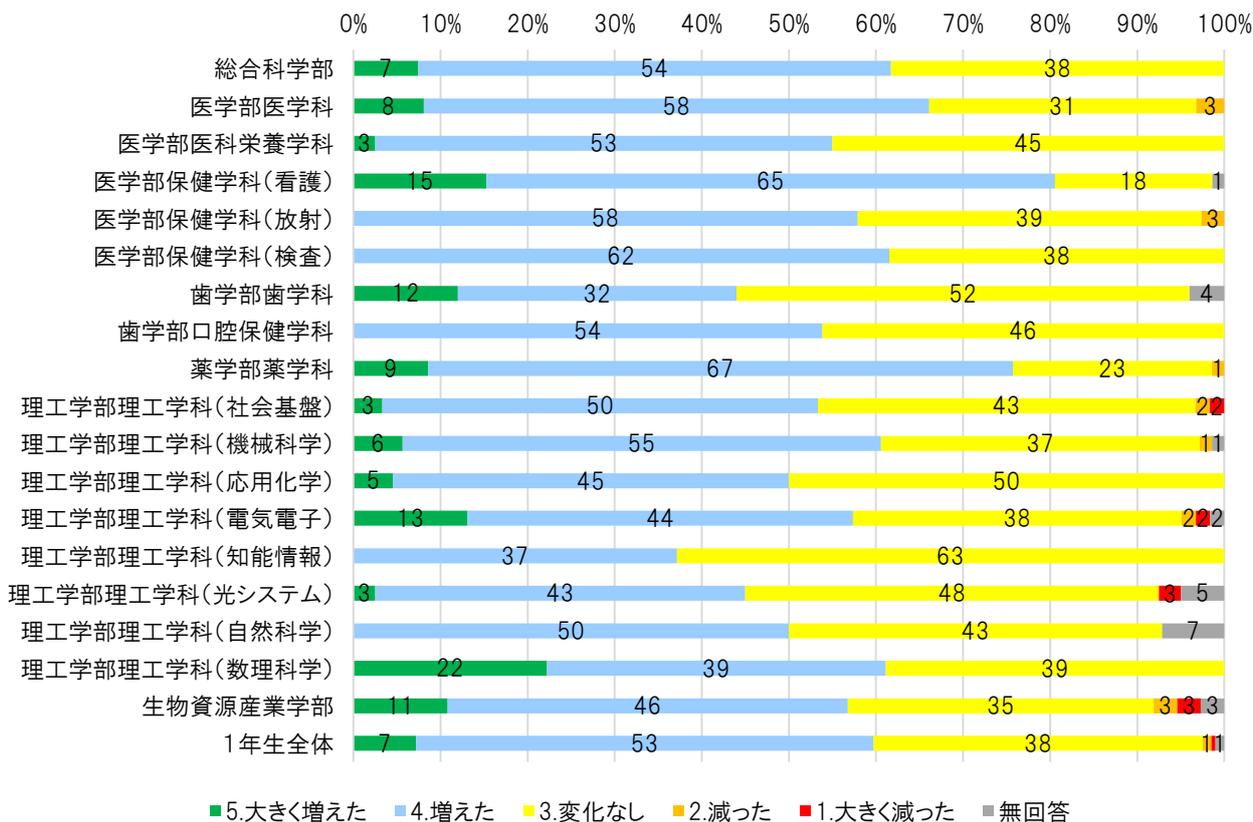
[60]グローバルな問題の理解



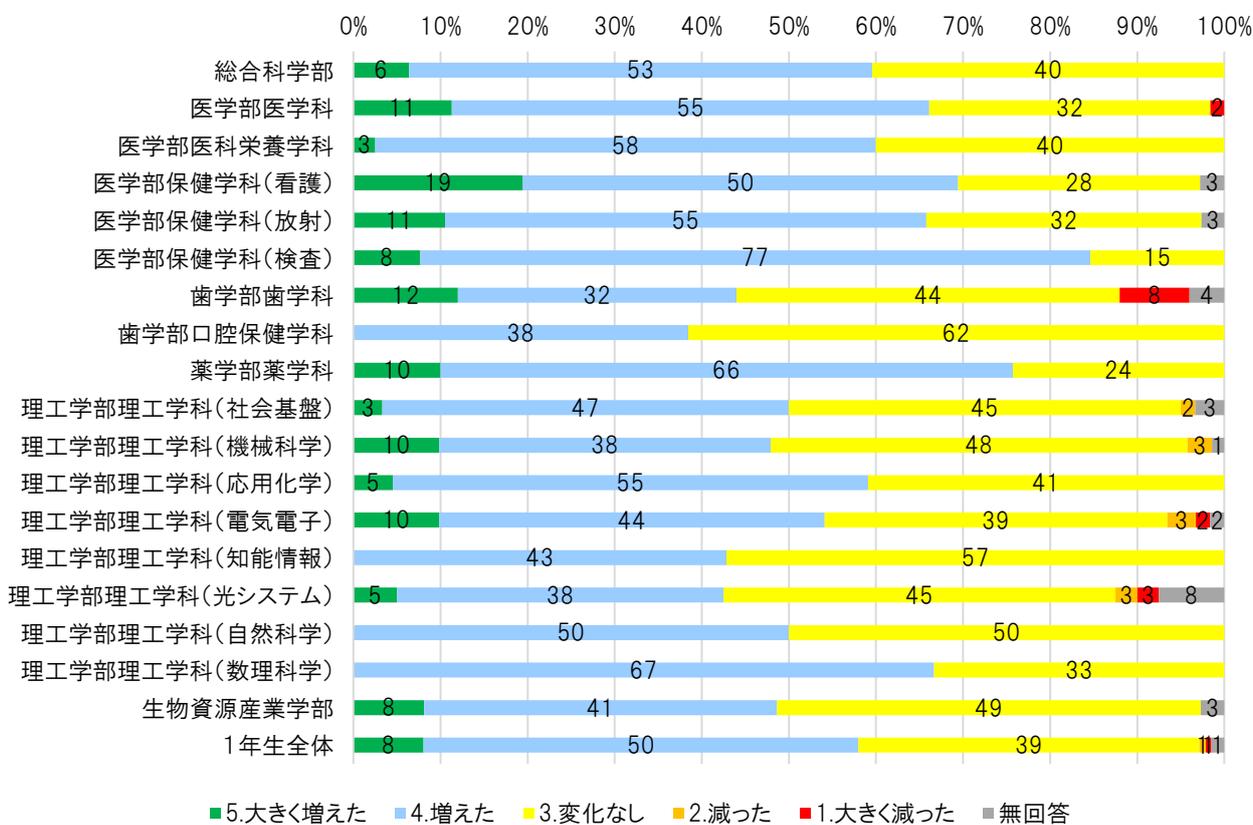
[61]卒業後に就職するための準備の度合い



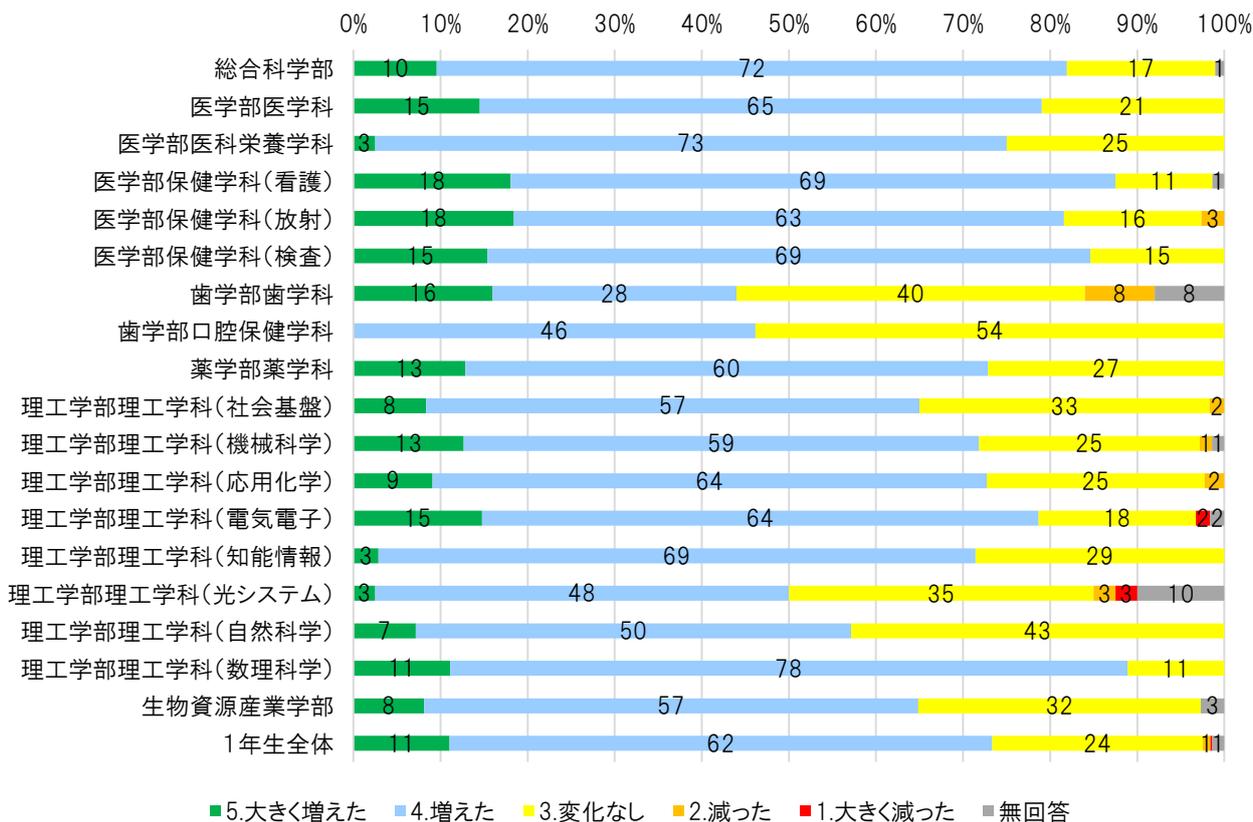
[62]職業人・社会の一員として求められる倫理観



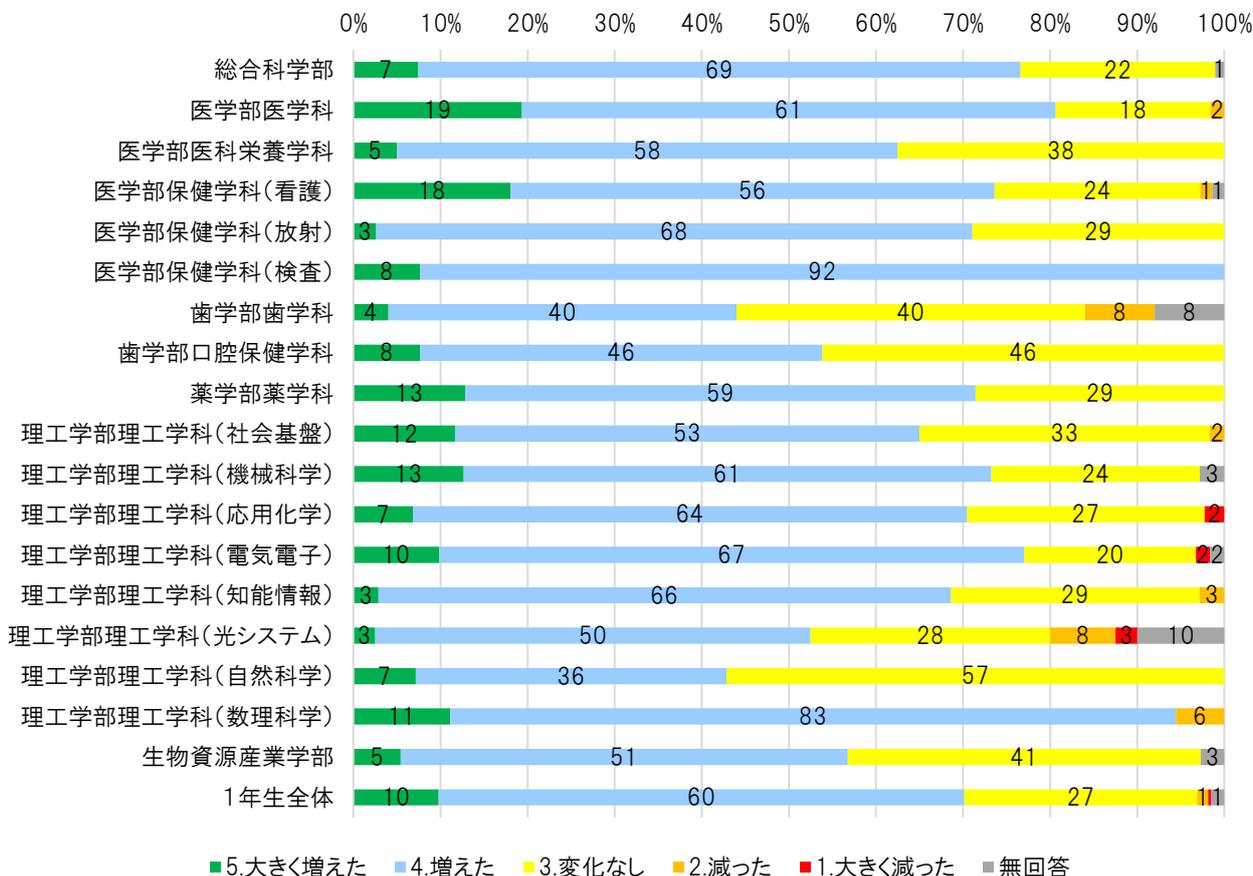
[63]生涯学び続け、教養・専門性を高める能力



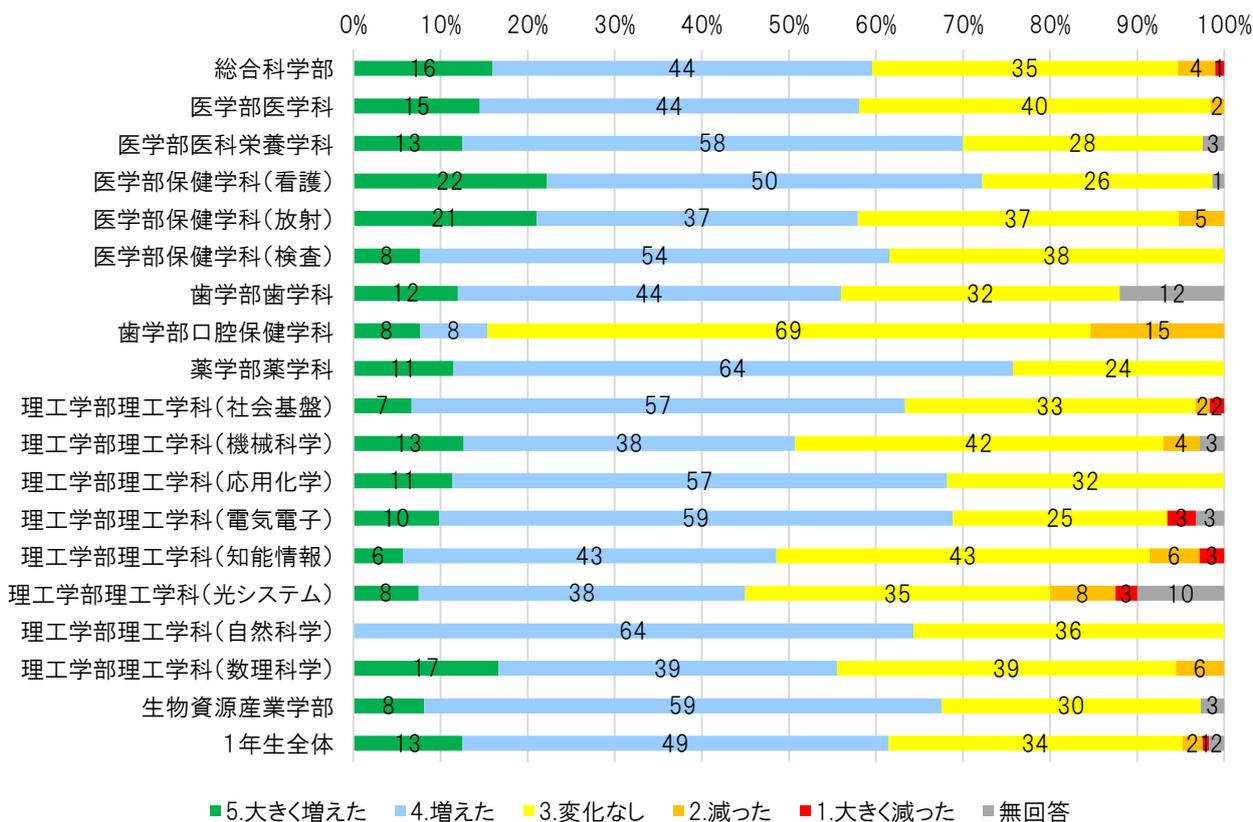
[64] 必要な情報を収集・取捨選択する能力



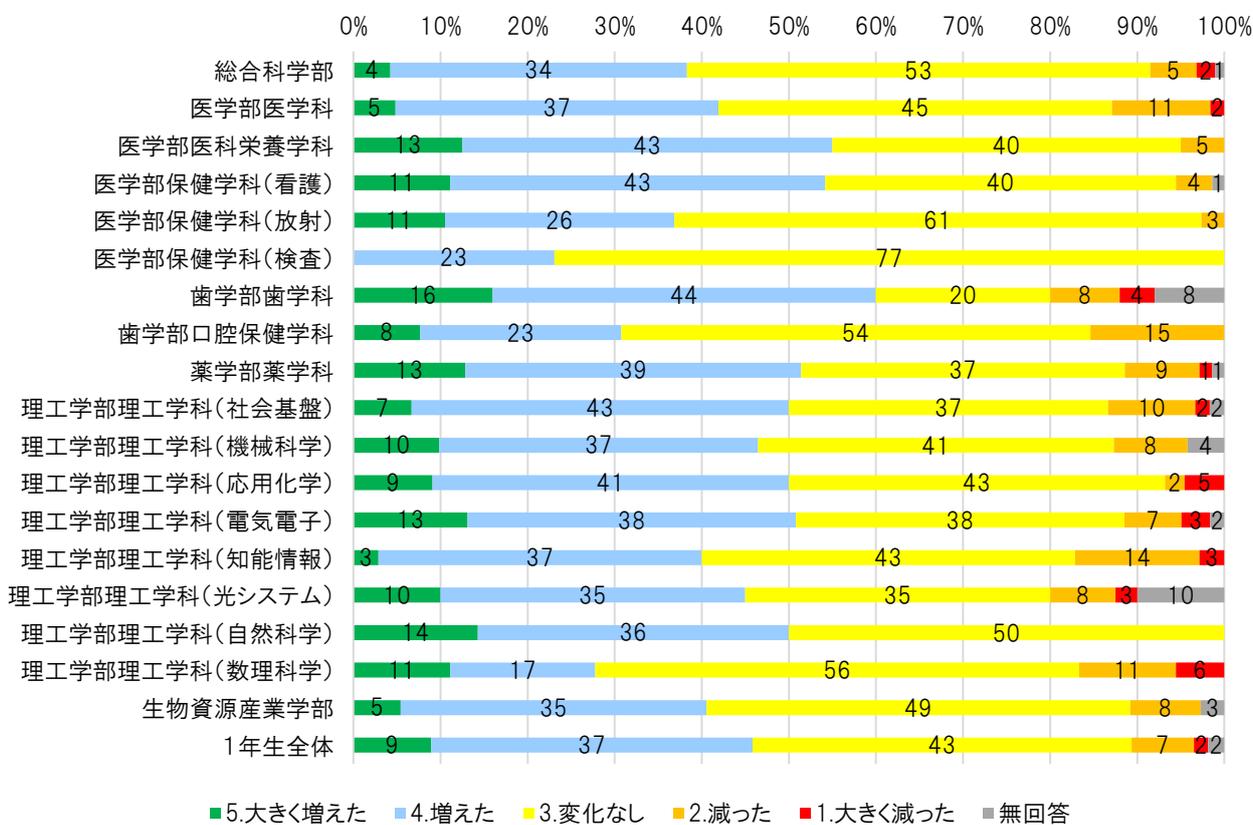
[65] データを読み、理解し、活用する能力



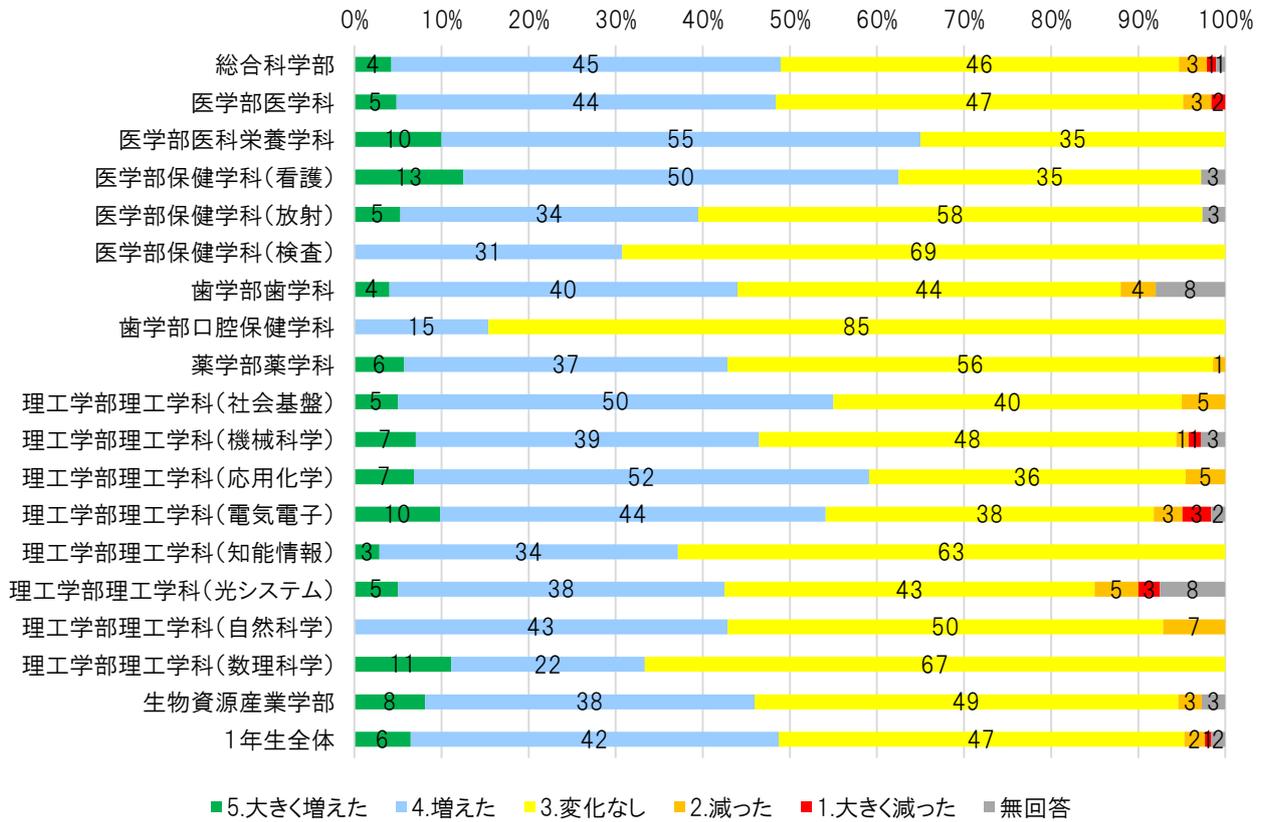
[66]新しいことに積極的に挑戦する姿勢



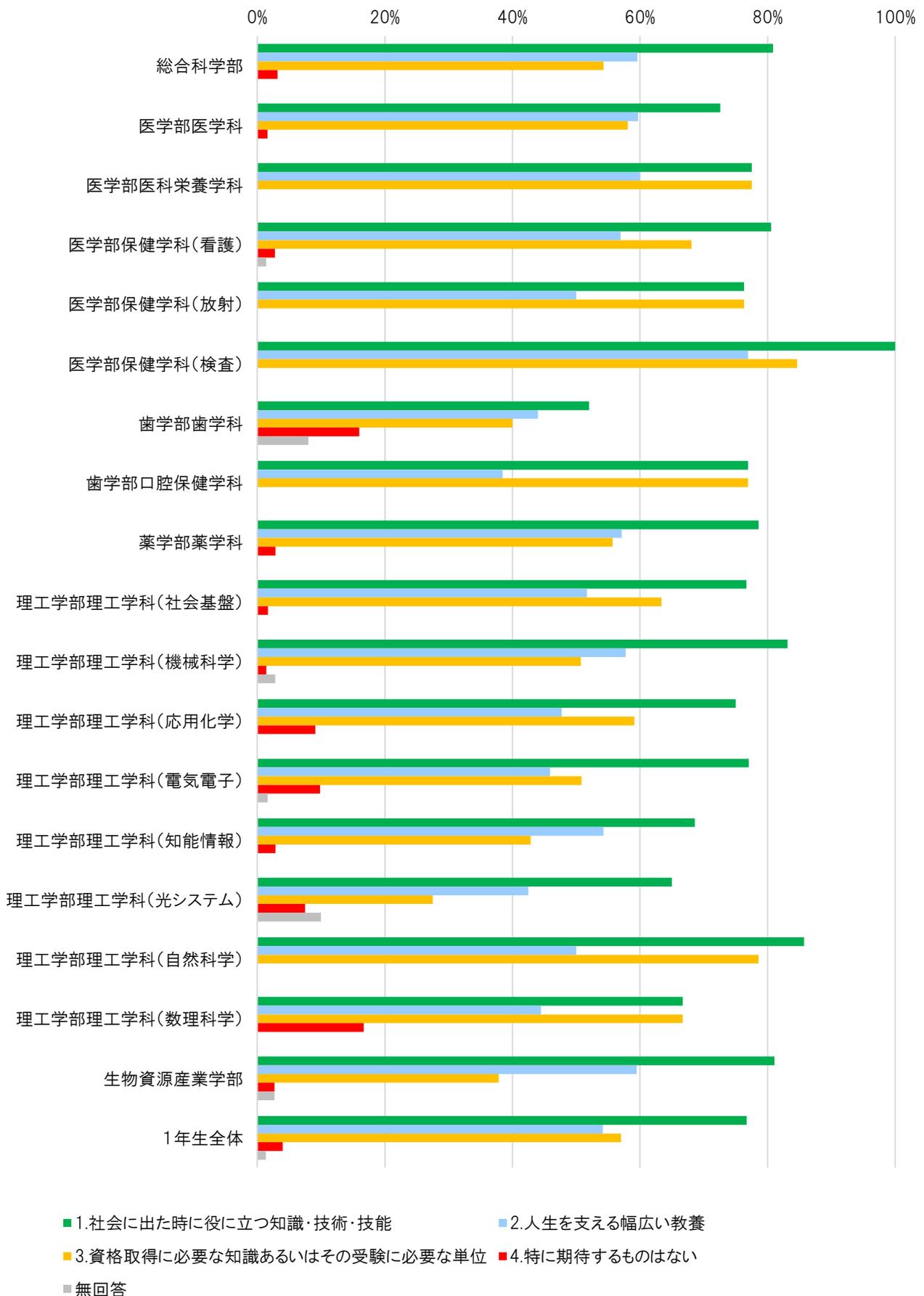
[67]ストレスに対処する能力



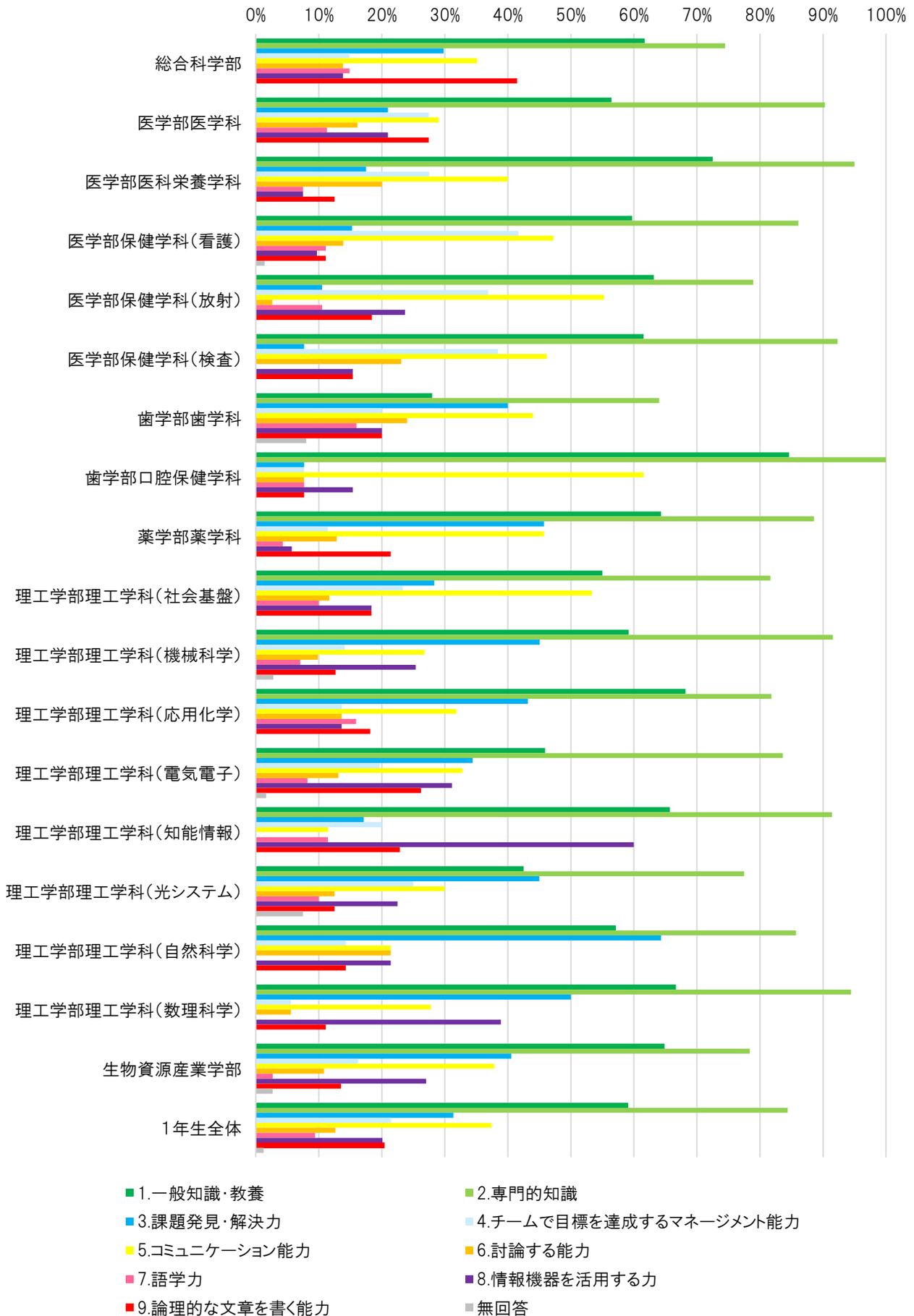
[68]柔軟に発想し、表現する能力



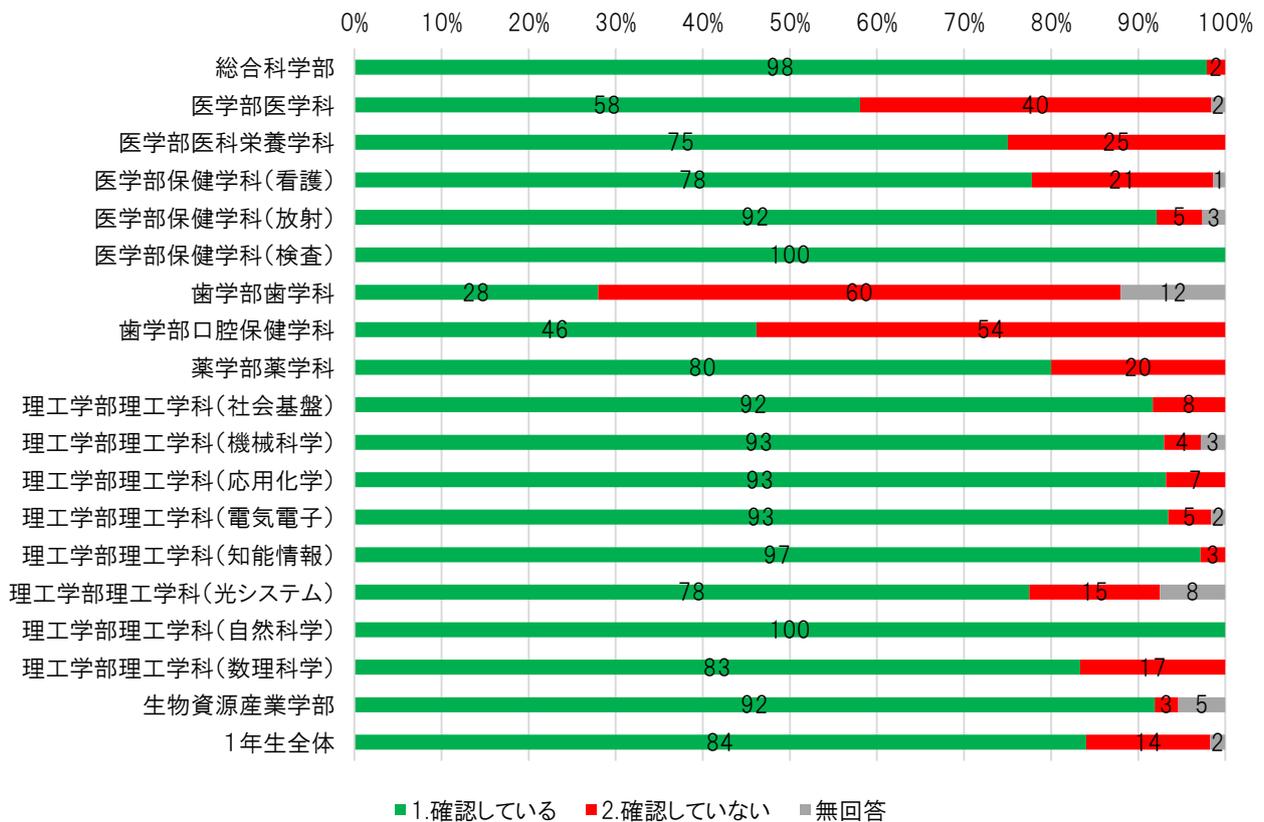
[69]大学における教育に対して、何を期待しますか。(複数回答)



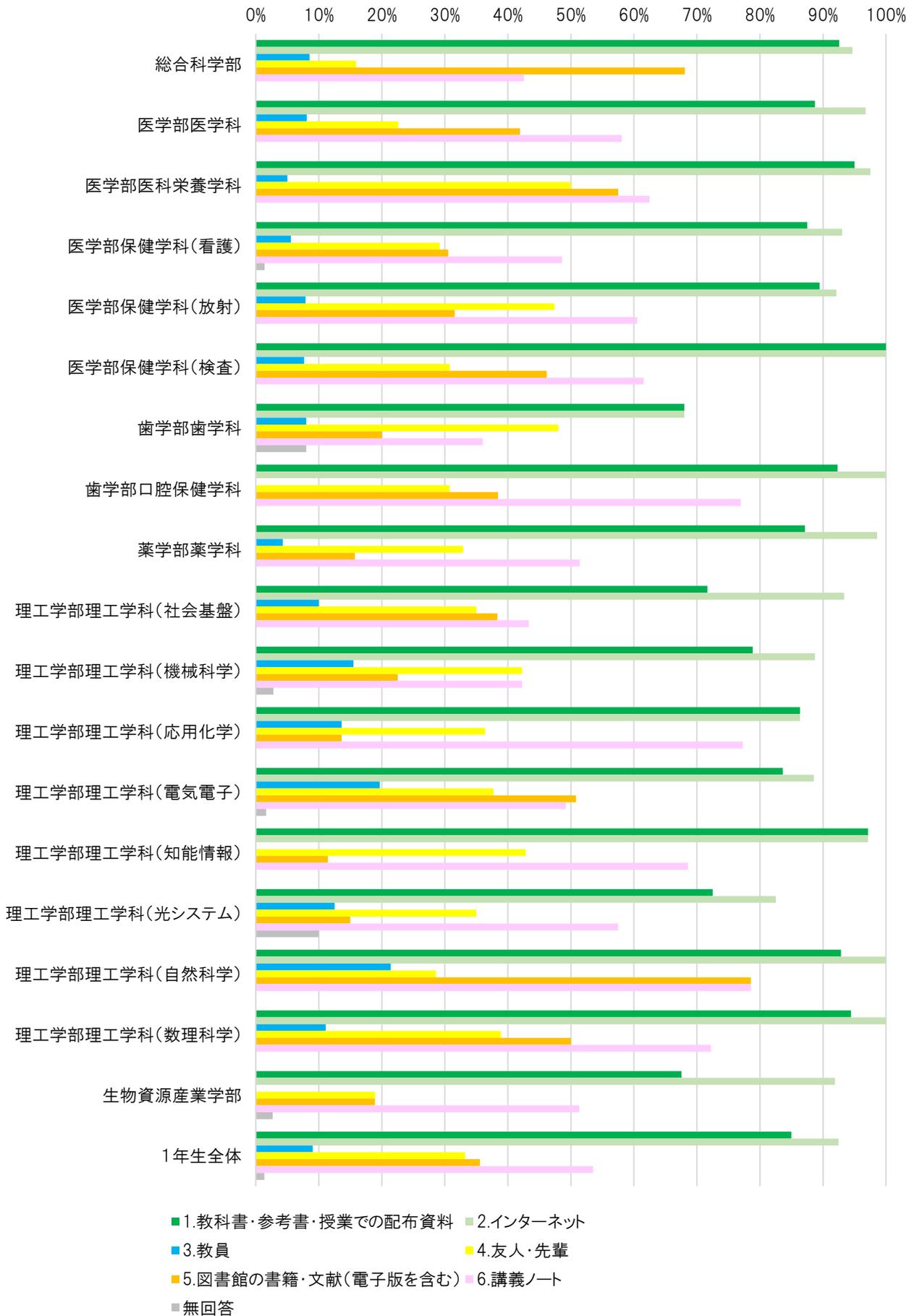
[70]大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。(複数回答)



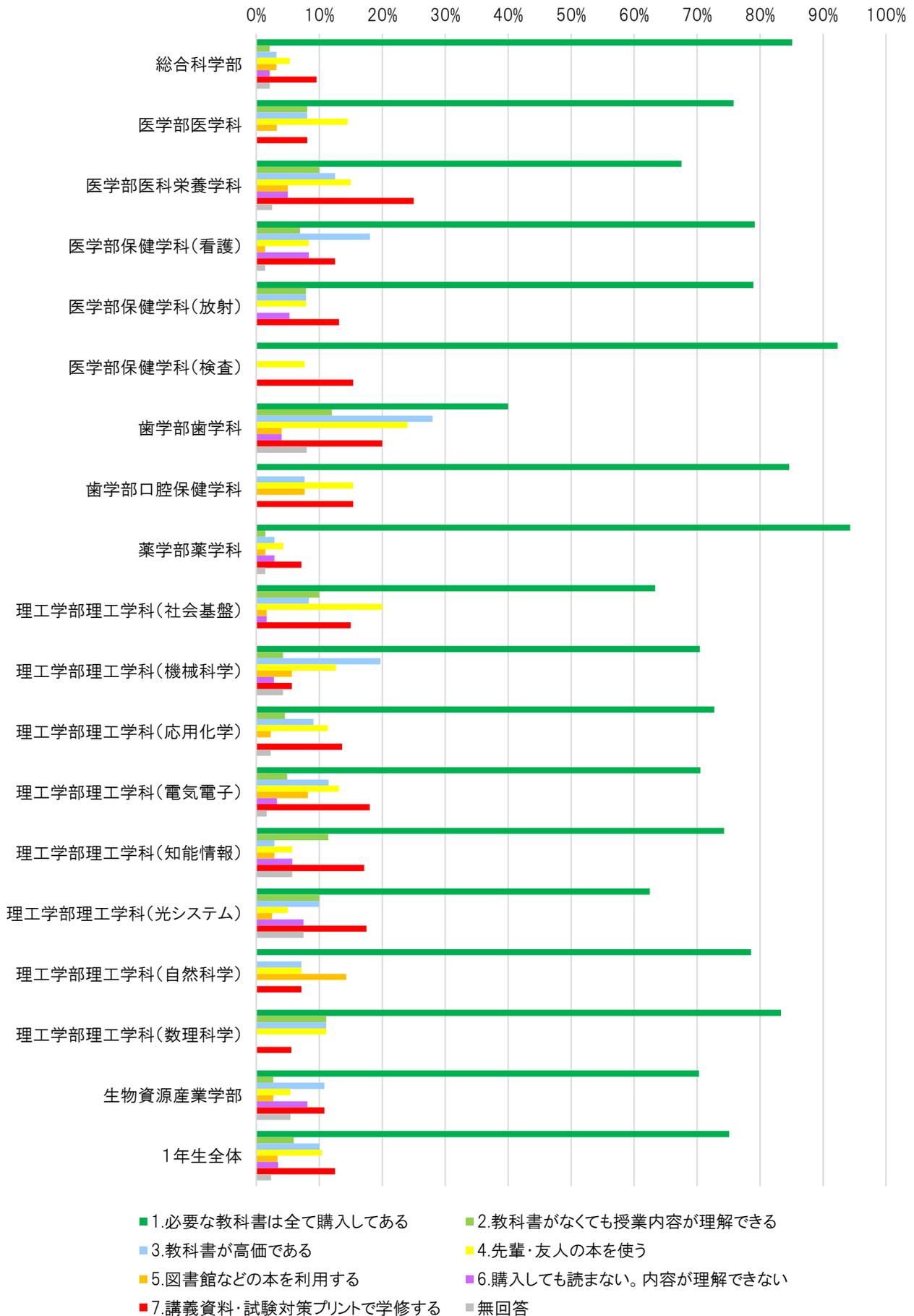
[71]徳島大学では「GPA(自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値)」を成績表に記載して
います。自身の「GPA」について確認していますか。



[72]レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)



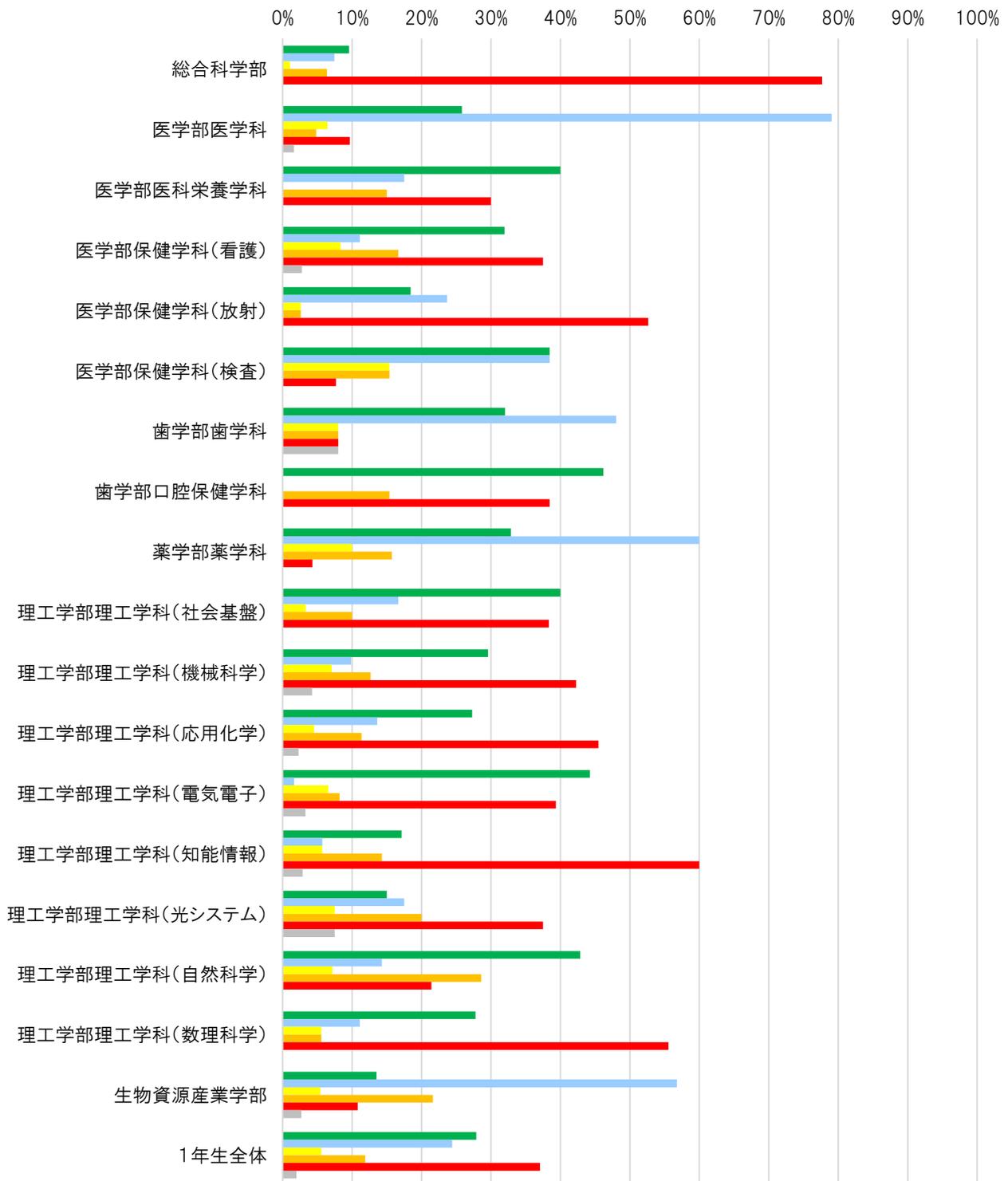
[73]教科書を購入していない場合の理由は何ですか。(複数回答可)



[74]大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)



[75]高校で履修していない数学、物理、化学、生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)



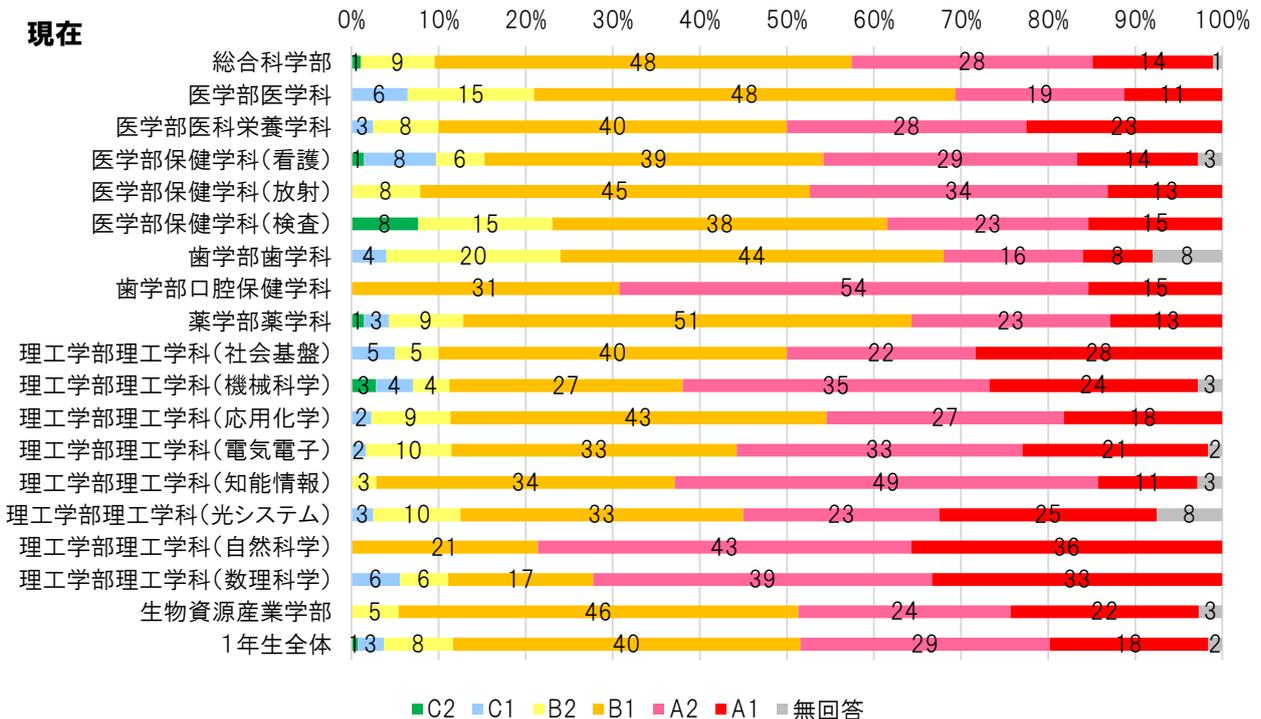
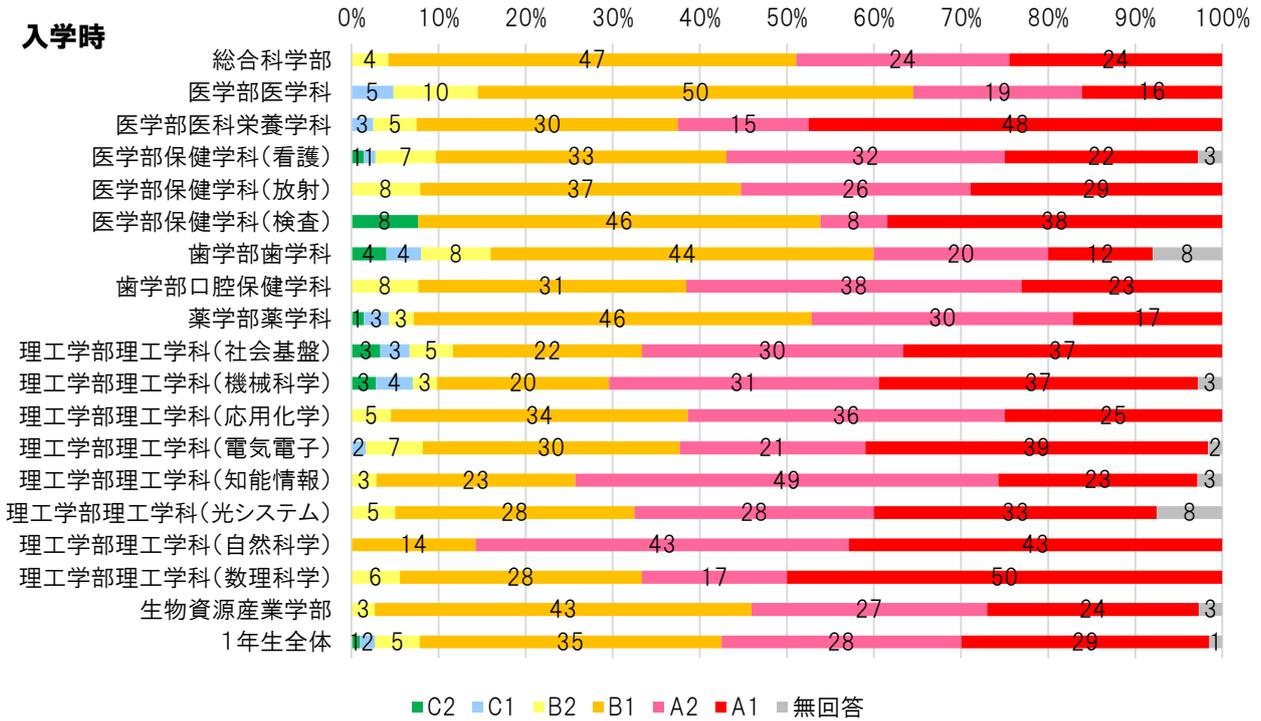
- 1.高校の教科書、参考書を使い、勉強した
- 2.教養教育で開講されている高大接続科目や自然科学入門又はその他の科目を受講した
- 3.HP上の徳島大学LMS(リメディアル教材)を利用して勉強した
- 4.勉強の必要性を感じたが、何もしていない
- 5.支障を感じないので何もしていない
- 6.無回答

Ⅲ. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から自己評価した場合に、「①入学時」と「②現在」それぞれについて、到達していると思うレベルを、1つ答えてください。

[76]聞く力

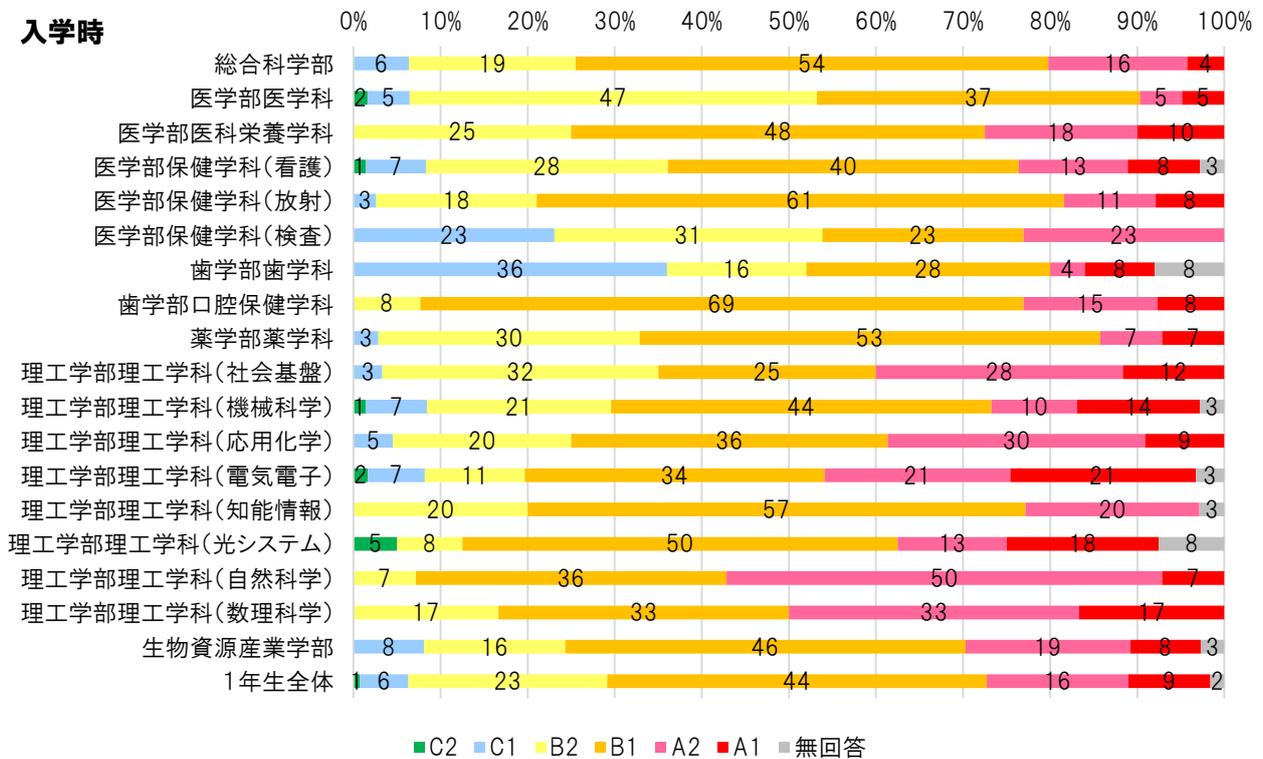
- A1 はっきりと、ゆっくり話してもらえれば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
- A2 最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。
- B1 身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。
- B2 テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。
- C1 特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。
- C2 母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。



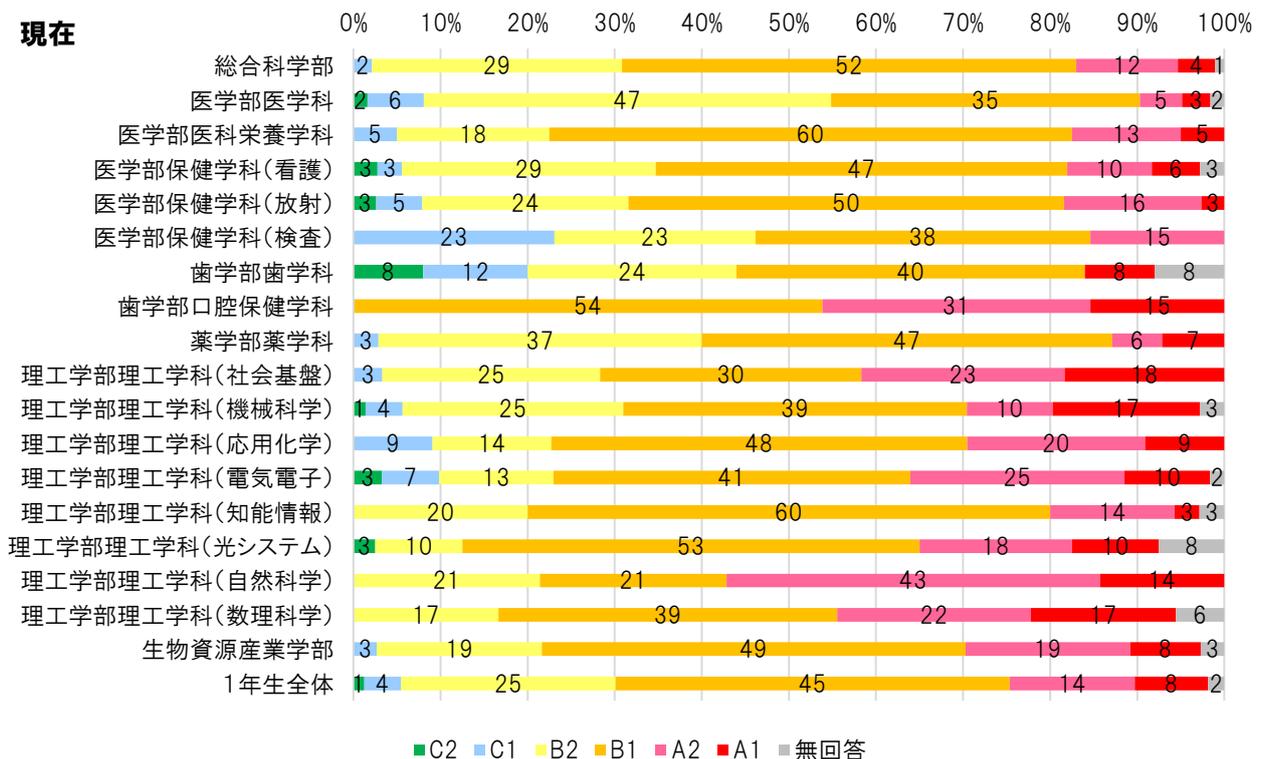
〔77〕読む力

- A1 掲示やポスター、カタログなどの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
 A2 ごく短い簡単な文章や、簡単で短い個人的な手紙は理解できる。
 B1 日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単で個人的な手紙を理解できる。
 B2 現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。
 C1 複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的文章も理解できる。
 C2 抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。

入学時



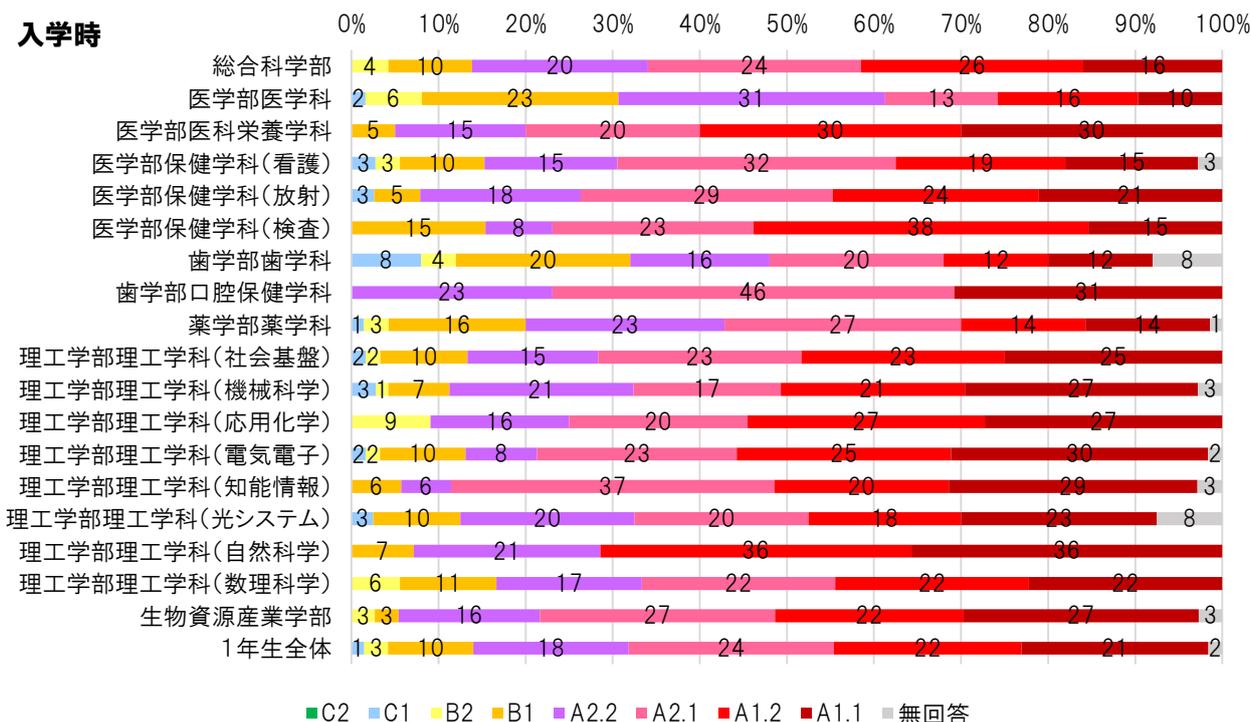
現在



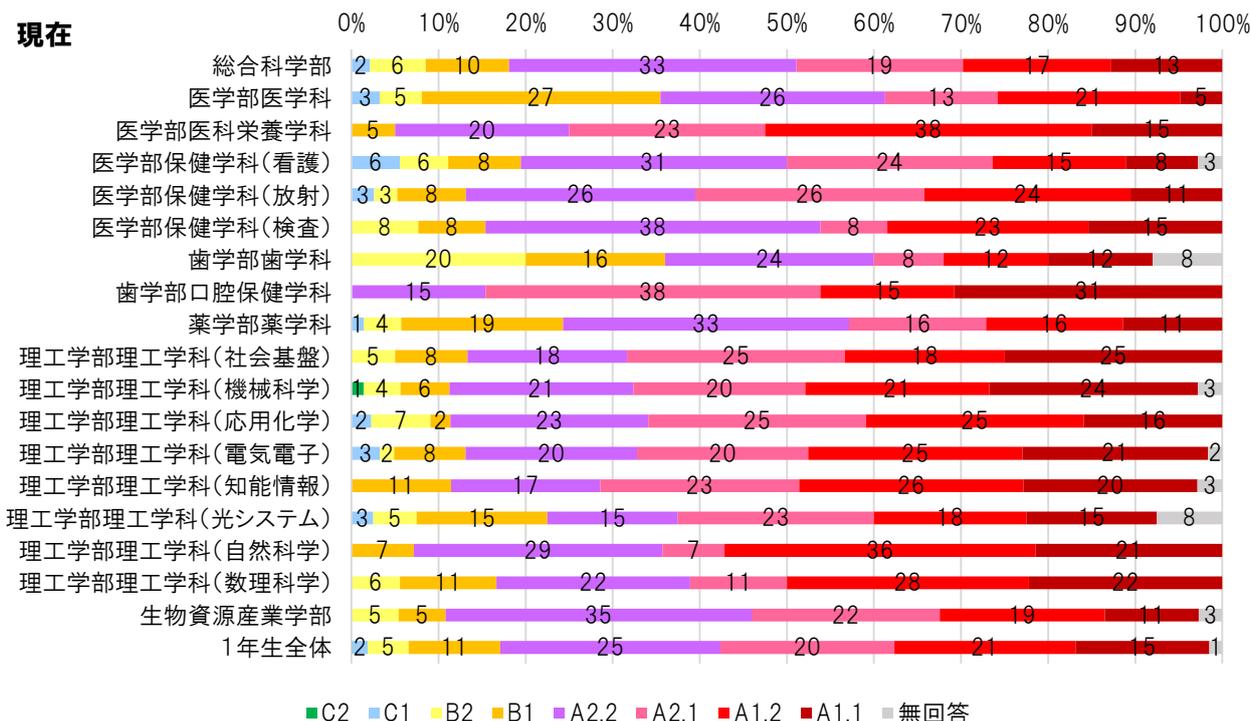
[78]会話力

- A1.1 決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。
- A1.2 家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。
- A2.1 短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくい、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。
- A2.2 準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。
- B1 日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。
- B2 身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。
- C1 社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。
- C2 いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。

入学時



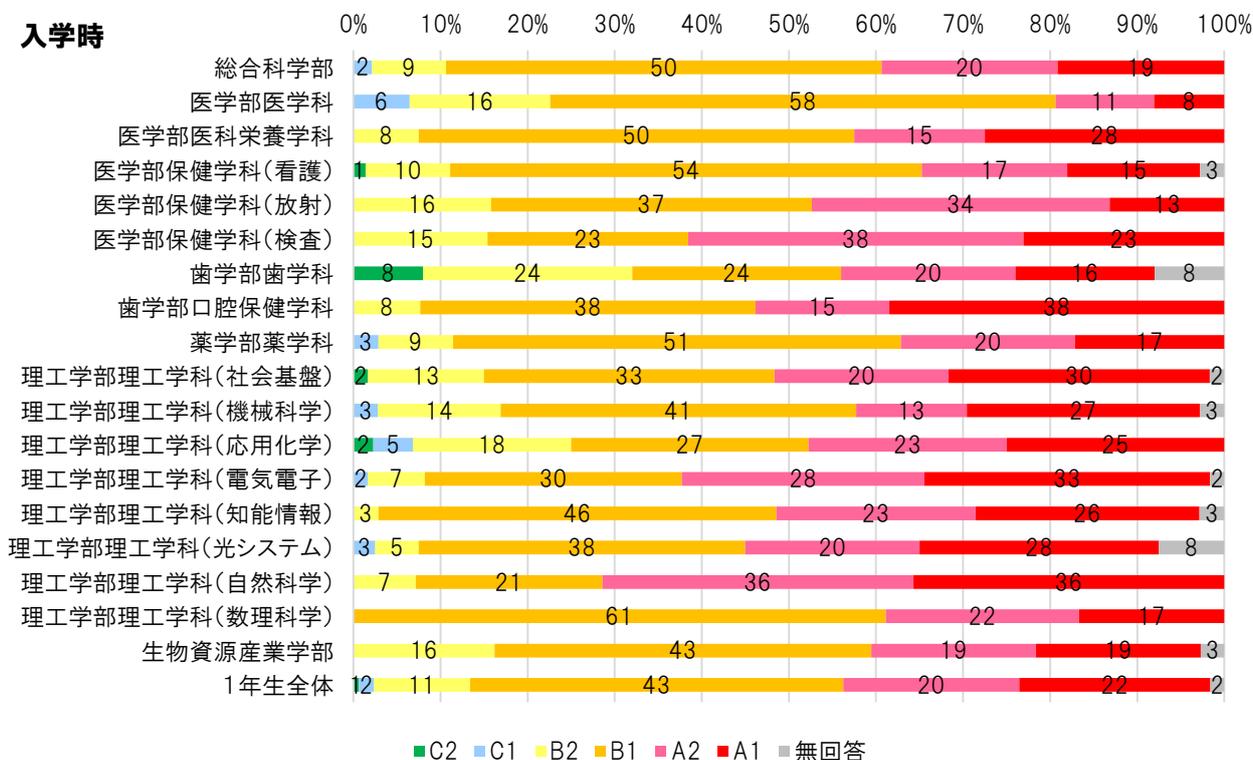
現在



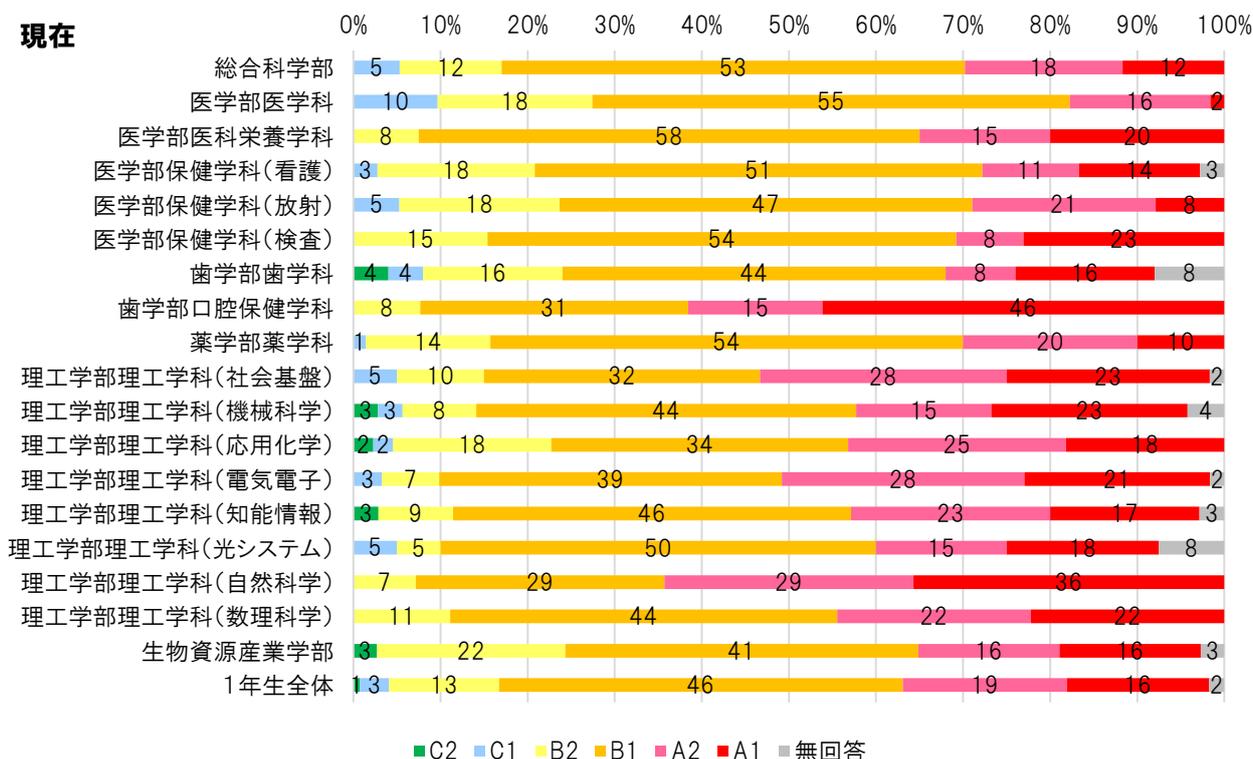
〔79〕表現力

- A1 住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
- A2 家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。
- B1 簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語るができる。
- B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。
- C1 複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。
- C2 論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。

入学時



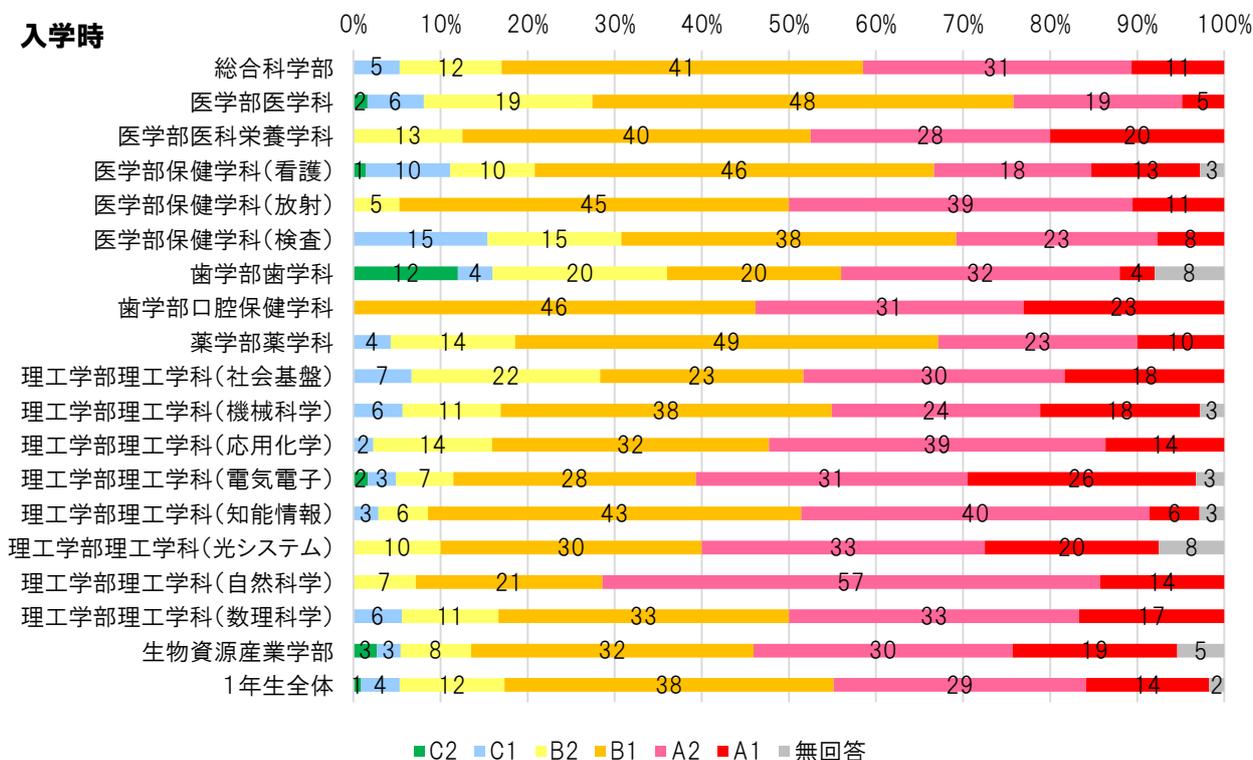
現在



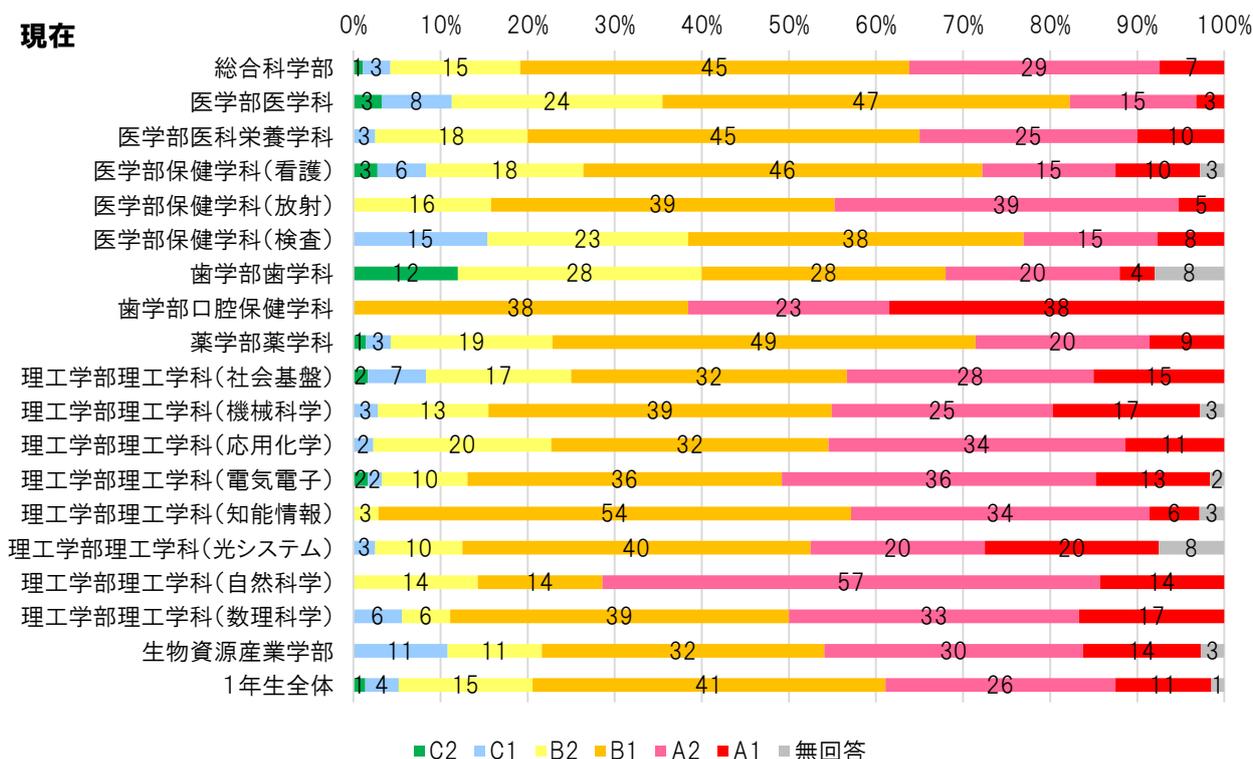
[80]書く力

- A1 お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。
- A2 簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。
- B1 身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。
- B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。
- C1 手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。
- C2 論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。

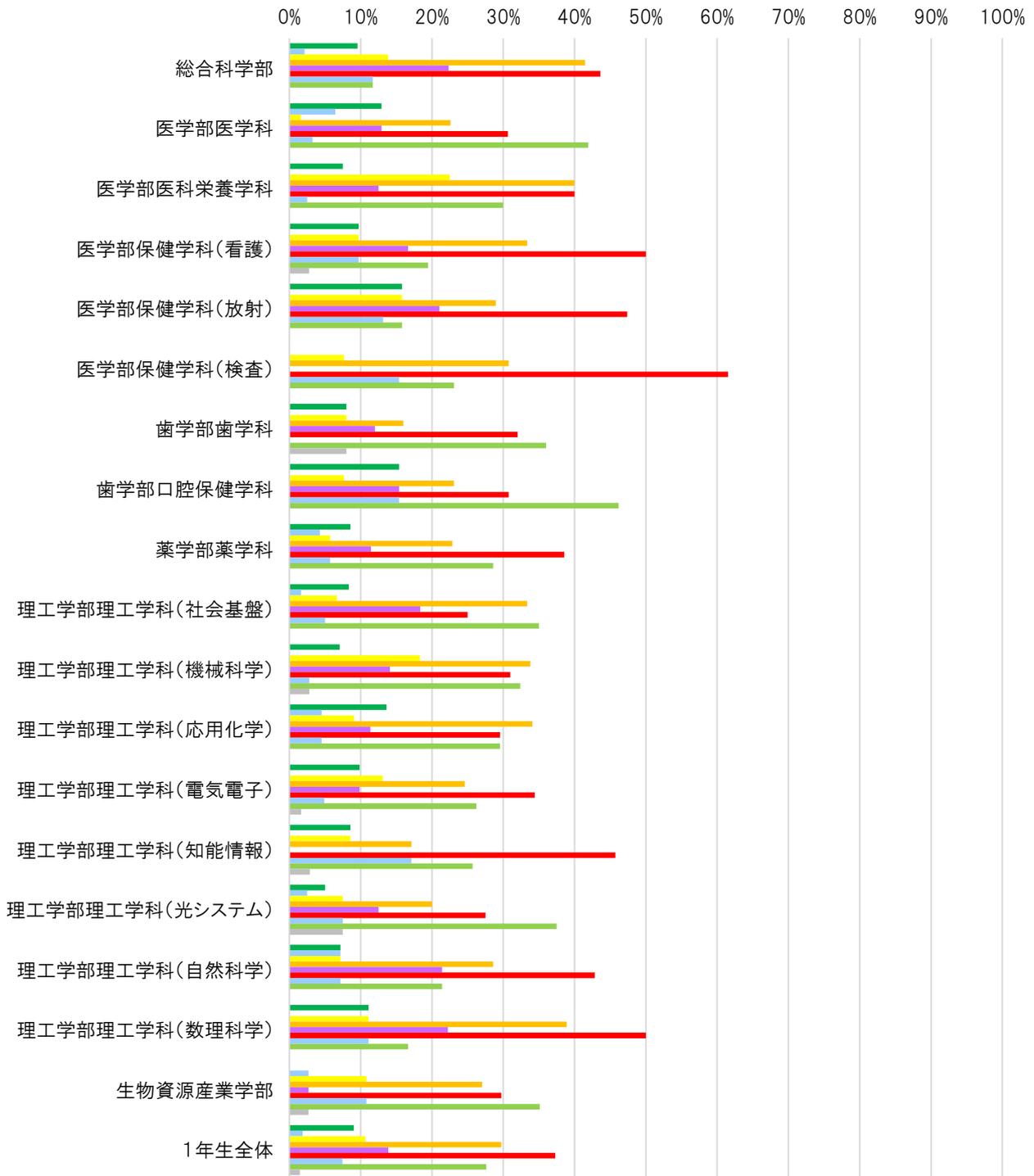
入学時



現在

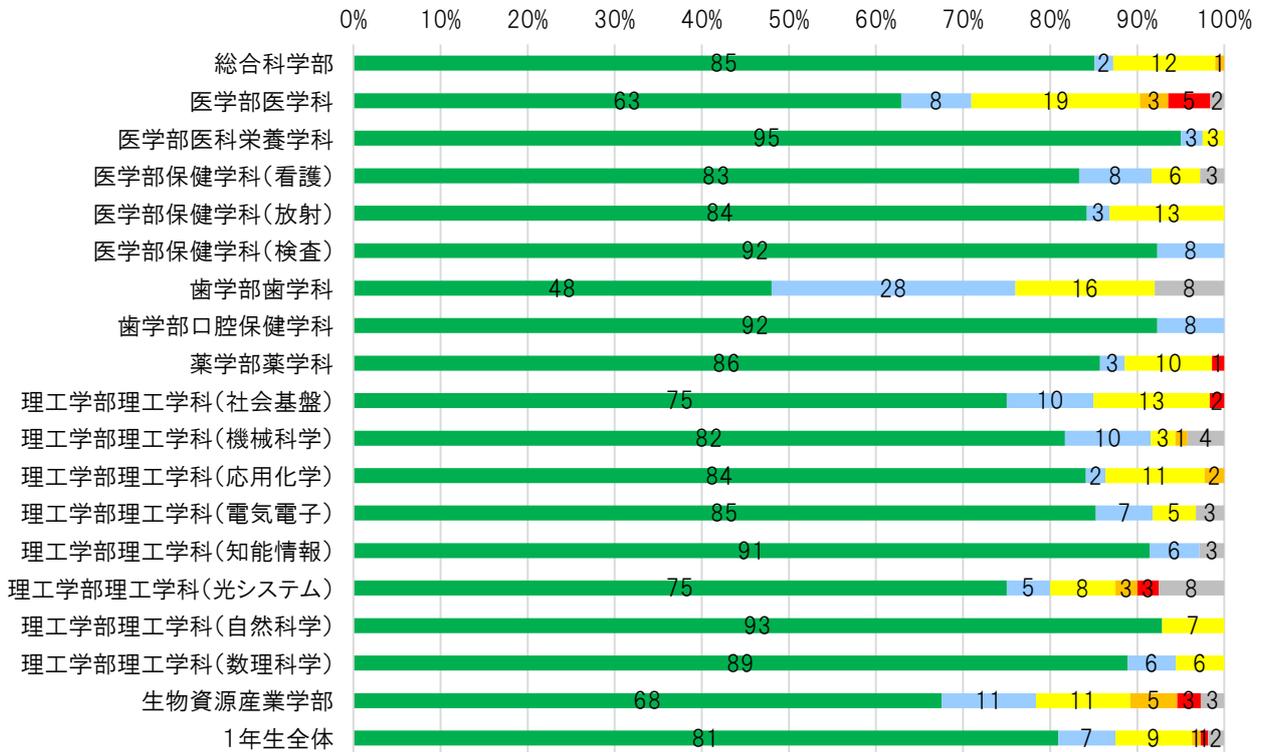


[81]どのように、英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)



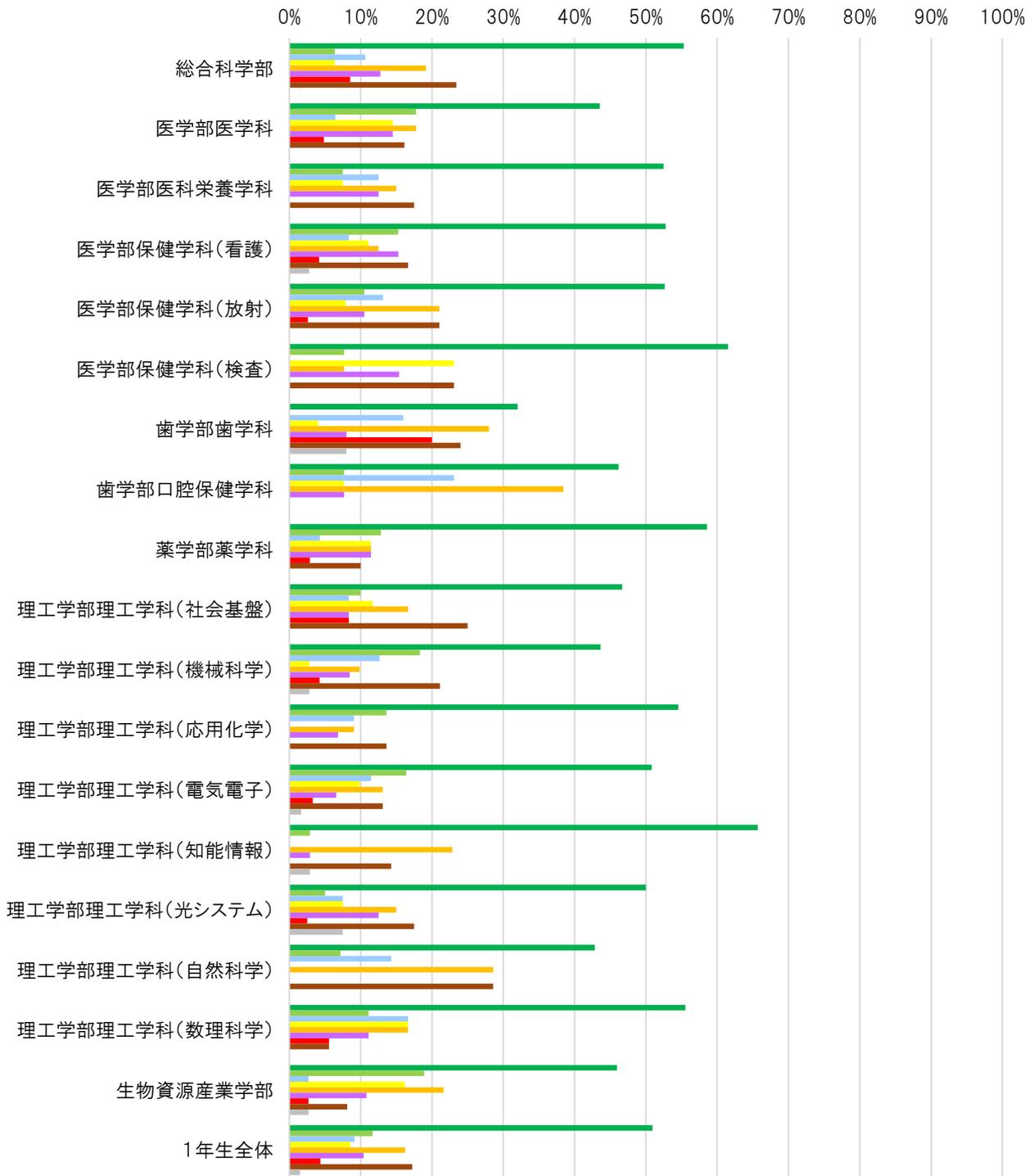
- 1. テレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
- 2. 英会話スクールを利用して
- 3. 図書館または大学の英語教材、施設を利用して英語を勉強している
- 4. TOEICなどの参考書、問題集を購入して勉強している
- 5. TOEIC, TOEFLや英検などの英語能力試験を受験している
- 6. 授業で使用している教科書、英語論文を勉強している
- 7. 大学が実施している英語のプログラムに参加して勉強している
- 8. 特に何もしていない
- 無回答

[82]アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外(インド、シンガポール等)などへの渡航経験(期間)についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを旨とした渡航経験があれば、その期間(複数回の経験がある場合は最長のもの)について1つ選んで回答してください。



■ 1. 渡航したことはない ■ 2. 10 日未満 ■ 3. 10 日以上1 ヶ月未満 ■ 4. 1 ヶ月以上6 ヶ月未満 ■ 5. 6 ヶ月以上 ■ 6. 無回答

[83]徳島大学における英語の授業についてどう思いますか。(複数回答可)

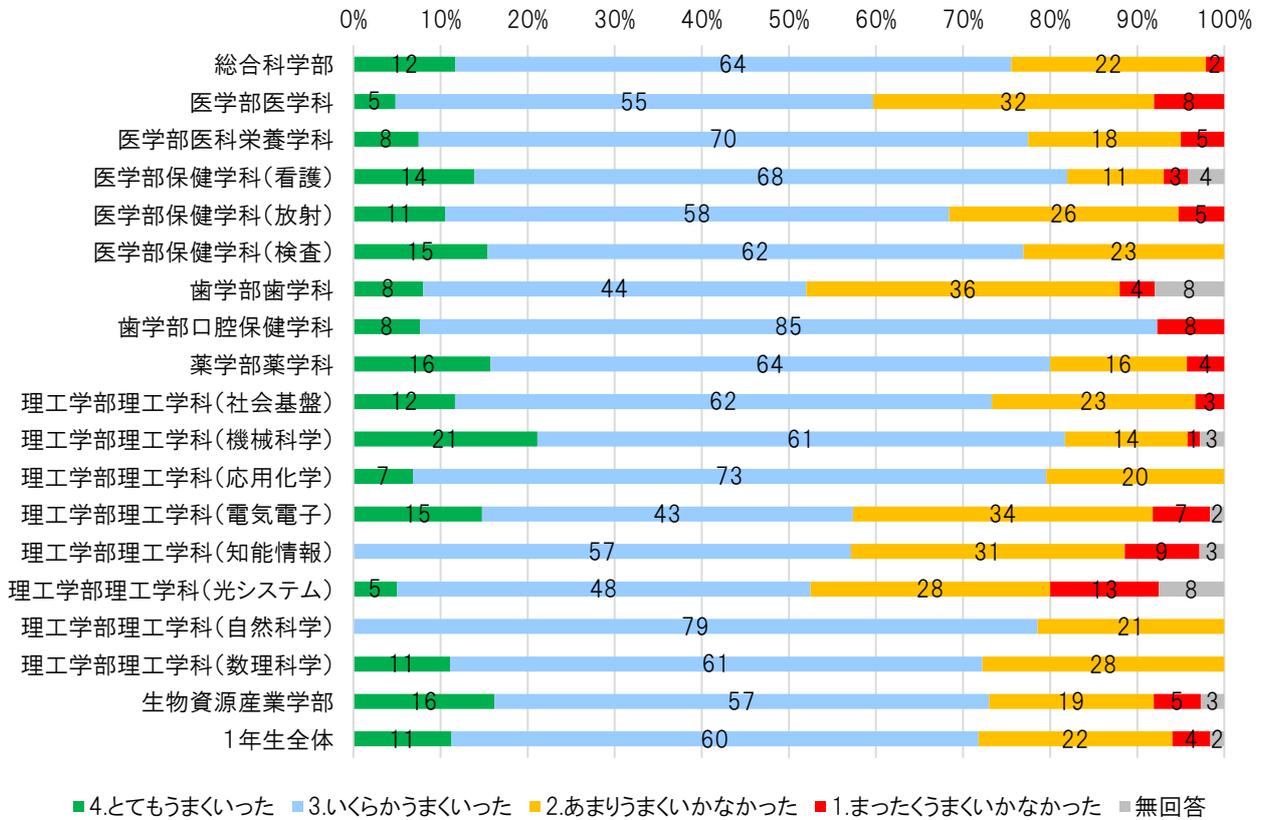


- 1.教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である
- 2.もっと授業数を増やしてほしい
- 3.もっと授業数を減らしてほしい
- 4.もっと少人数のクラスにしてほしい
- 5.ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
- 6.専門教育の英語の時間を増やしてほしい
- 7.専門教育の英語のライティングに重点を置いた授業を増やしてほしい
- 8.専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やしてほしい
- 無回答

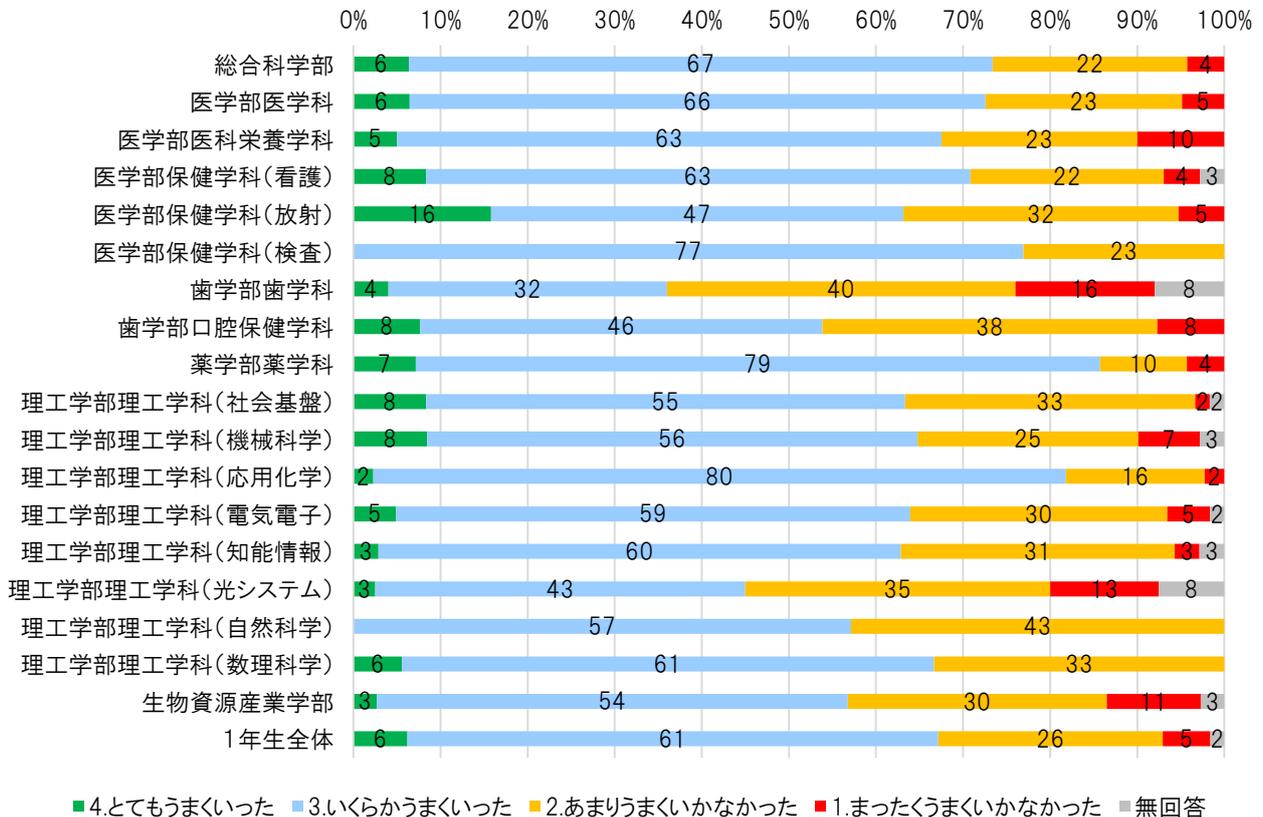
IV. 次に、大学生活に対するあなたの考えや満足度についておうかがいします。

本学に入学してから、あなたにとって次のことはどれくらいうまくいきましたか。

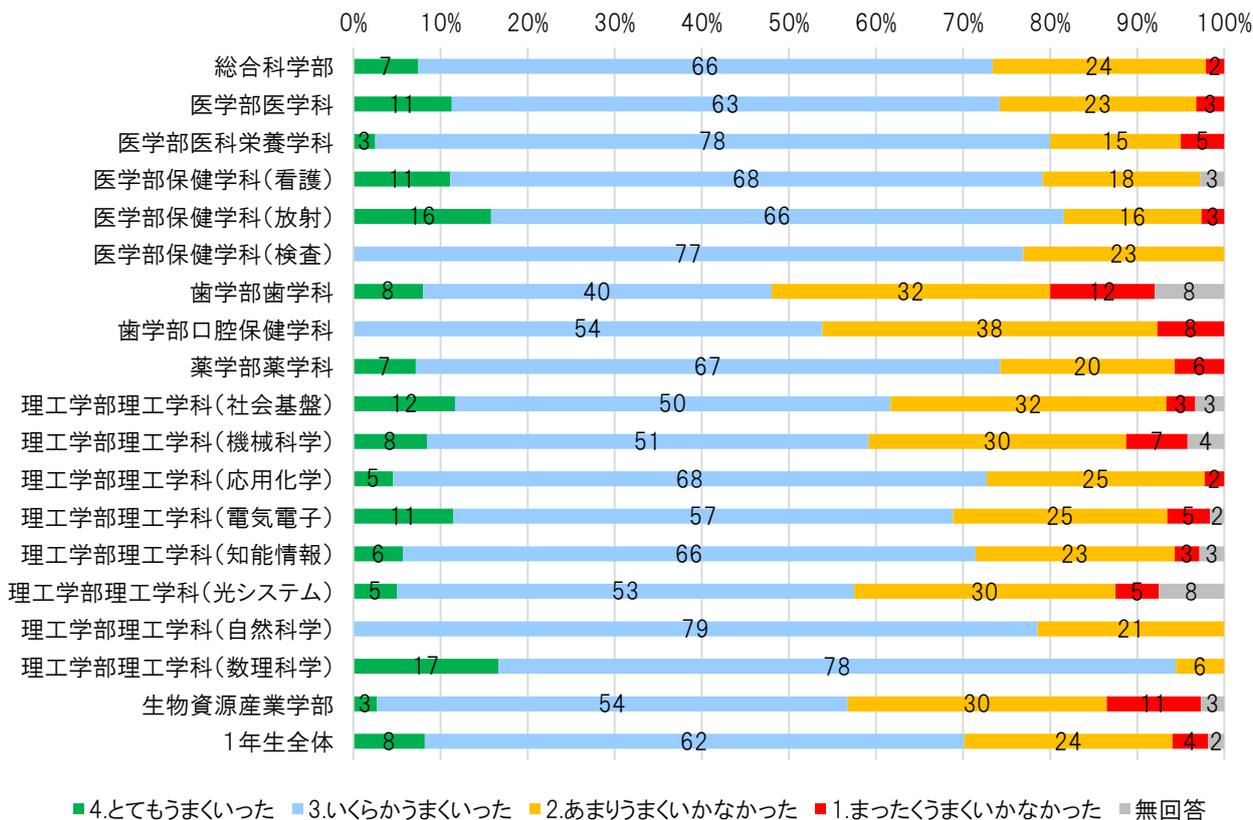
[84]大学の学生向けサービスを上手に利用する



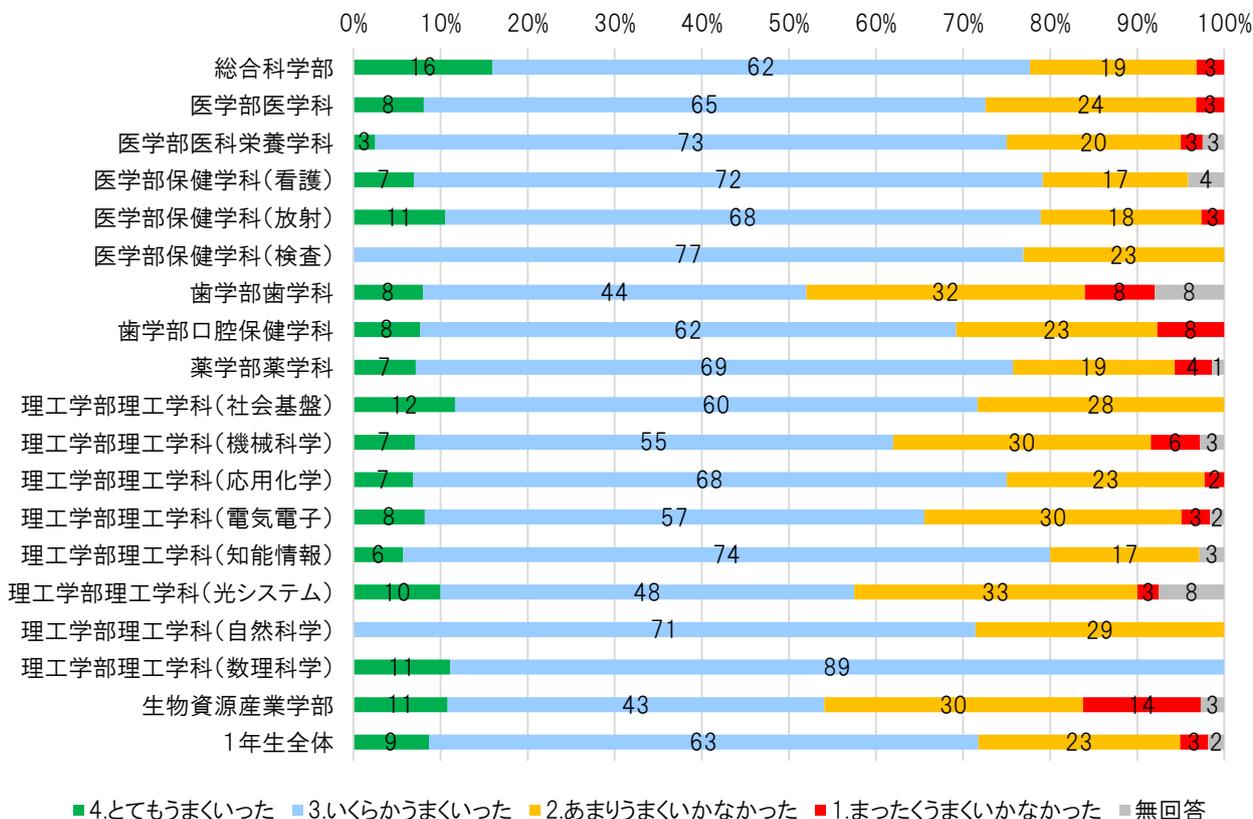
[85]大学教員の学問的な期待を理解する



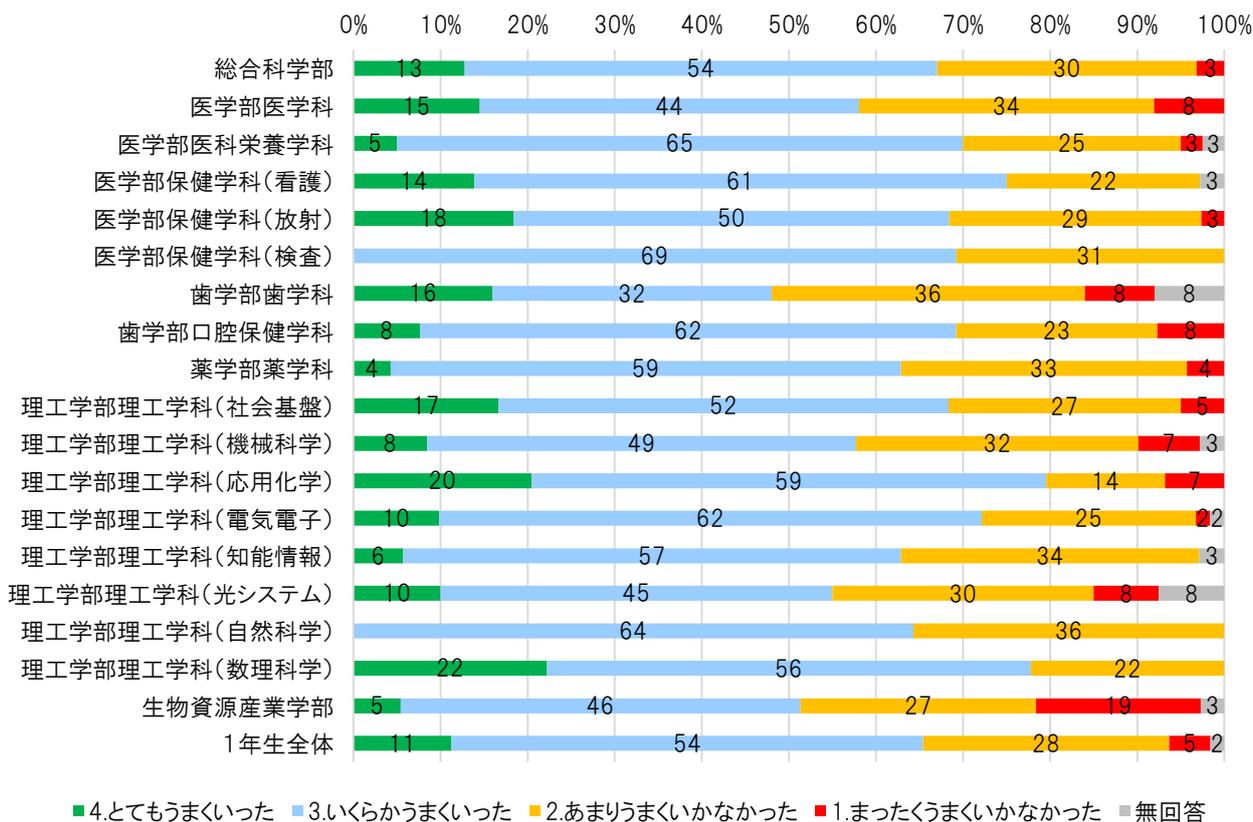
[86]効果的に学習する技能を修得する



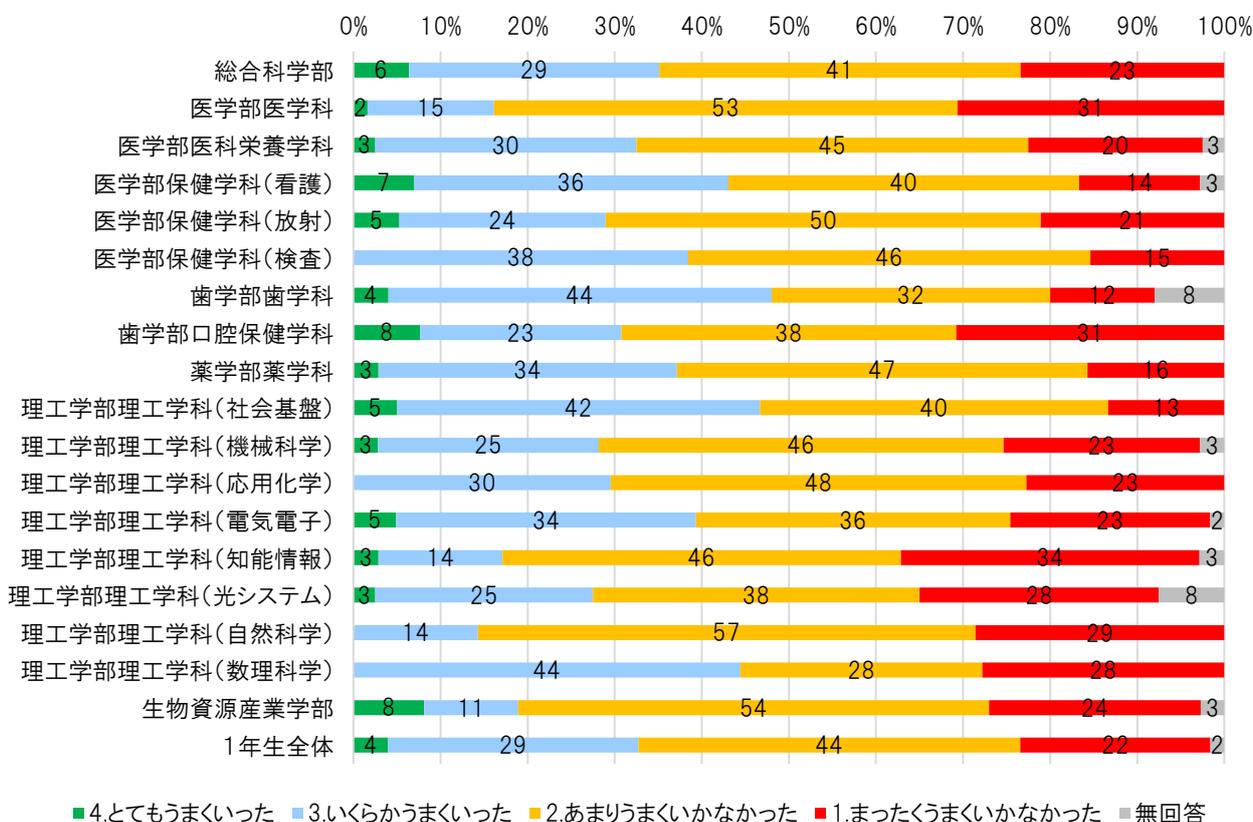
[87]大学が求める水準に応じて学習する



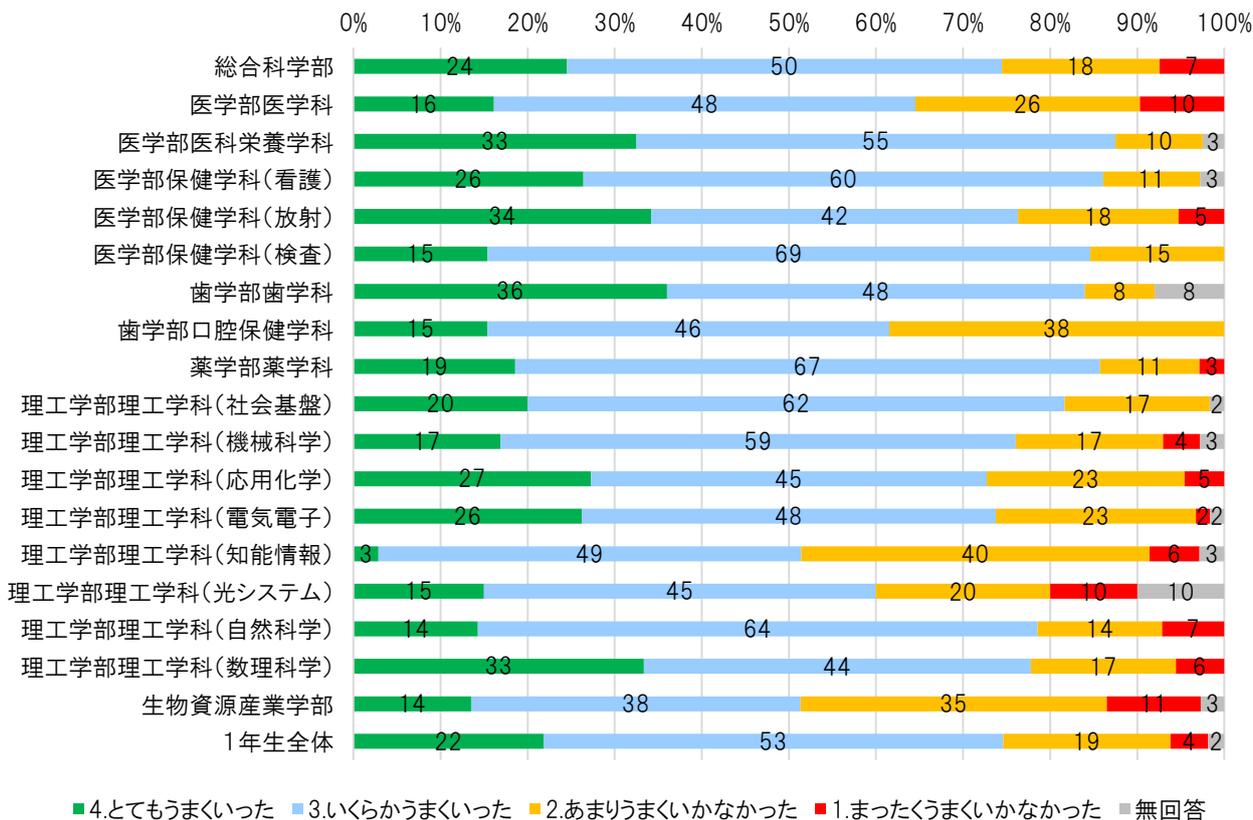
[88]時間を効果的に使う



[89]大学教員と顔見知りになる

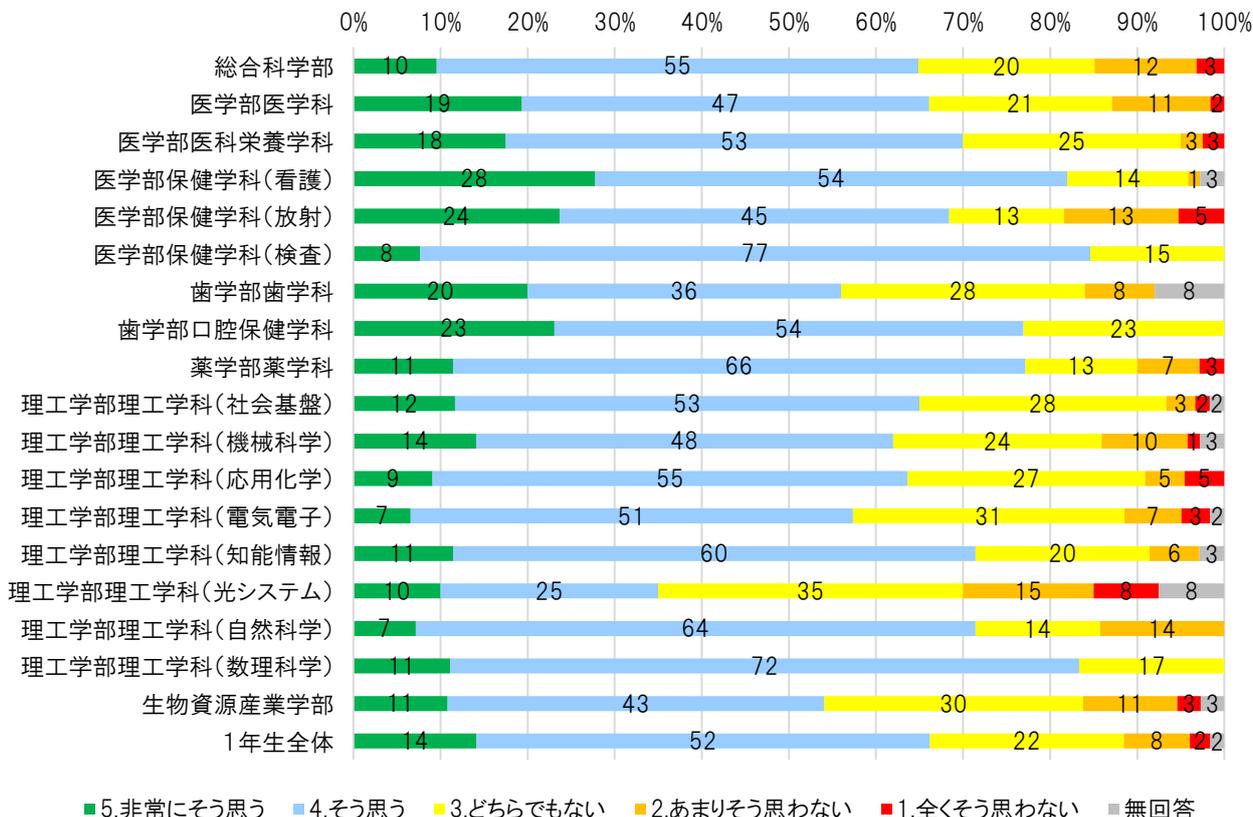


[90]他の学生との友情を深める

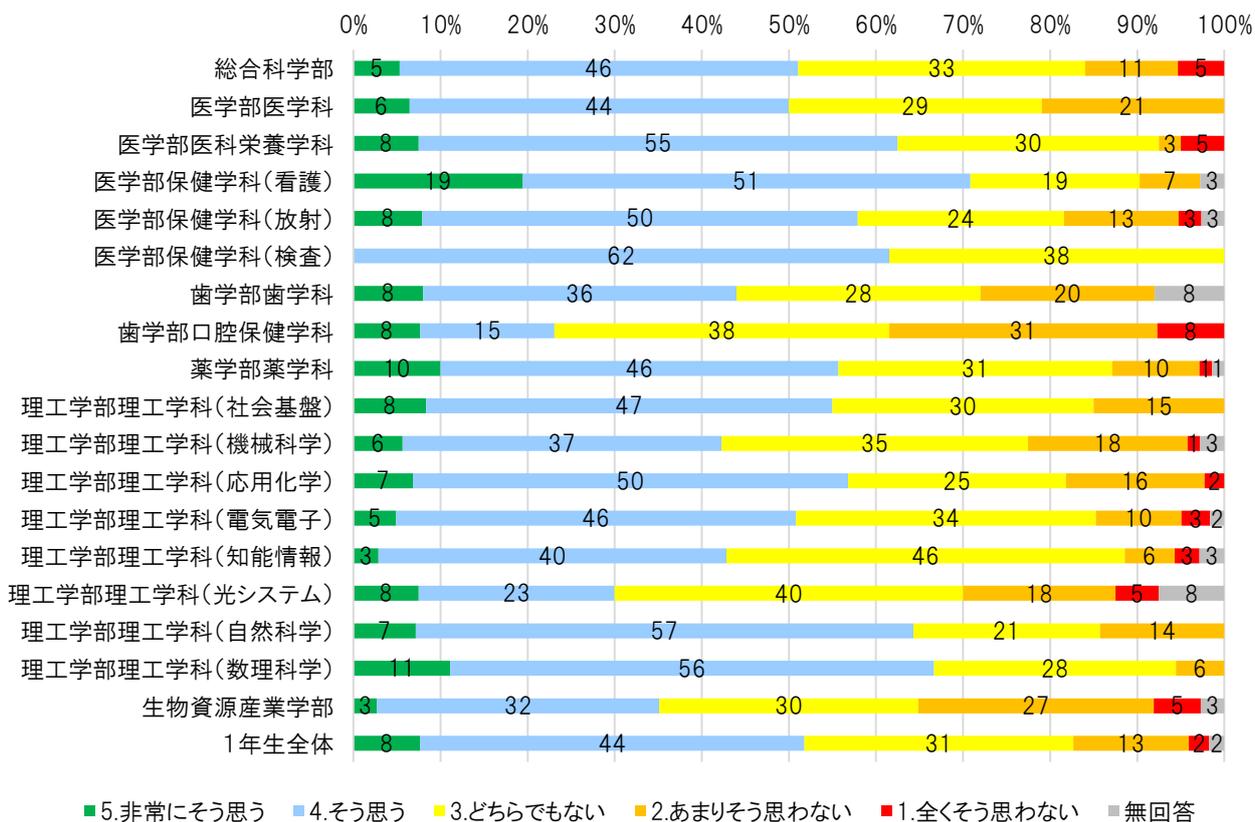


本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

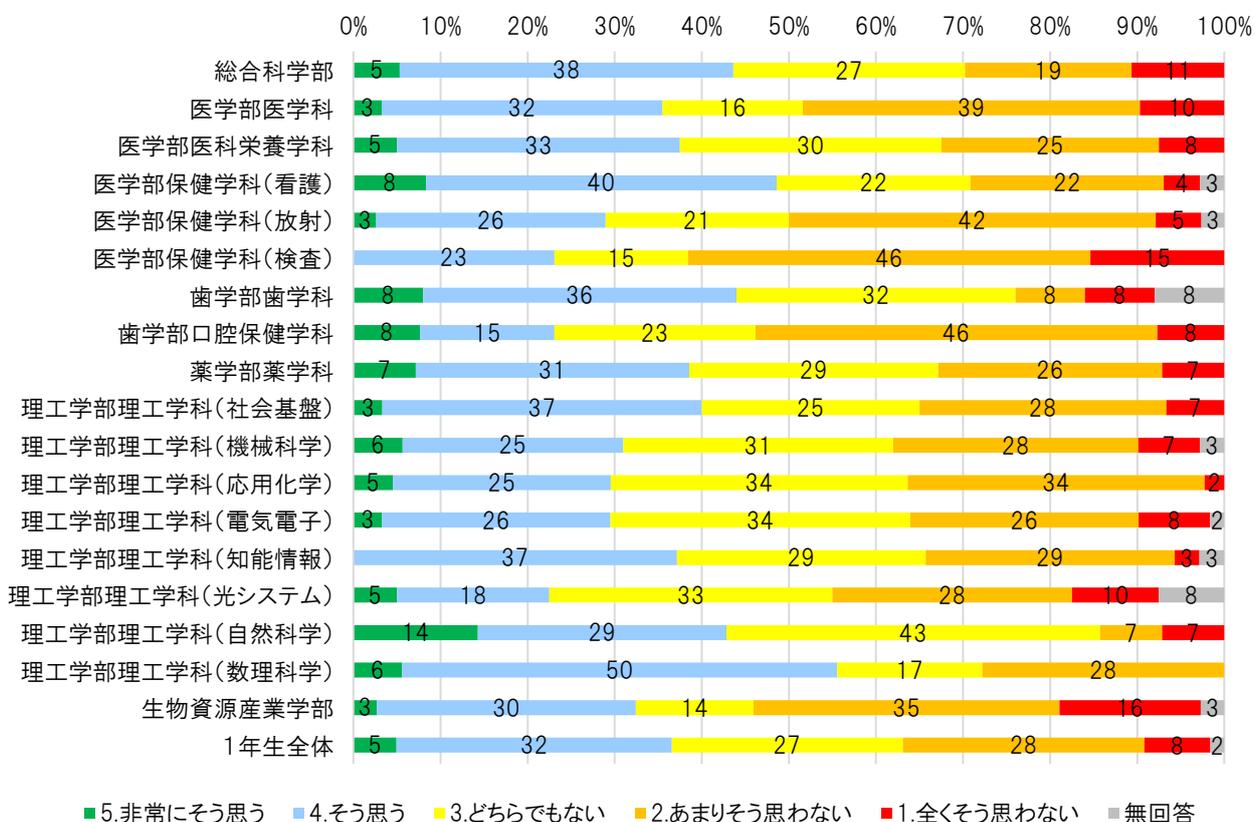
[91]自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる



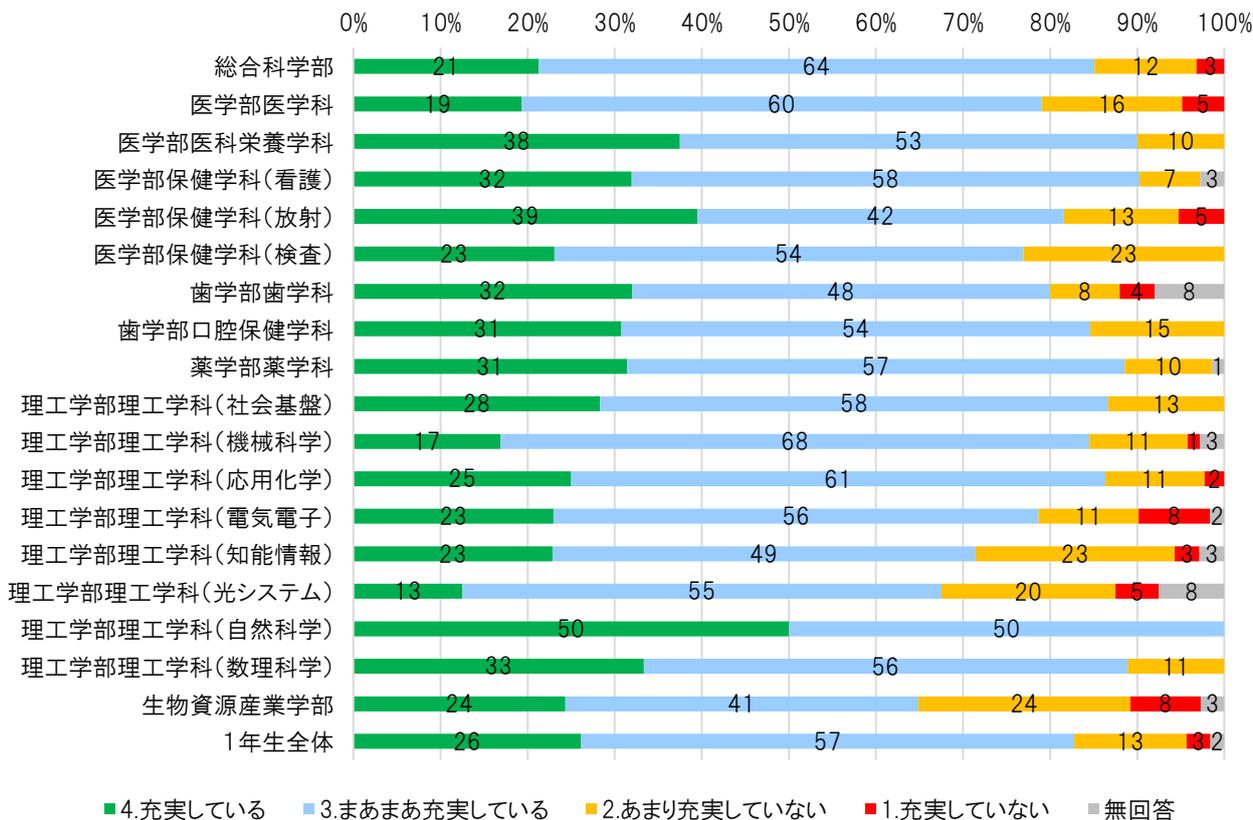
[92]日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている



[93]現在の自分の学修時間や学修態度に満足している

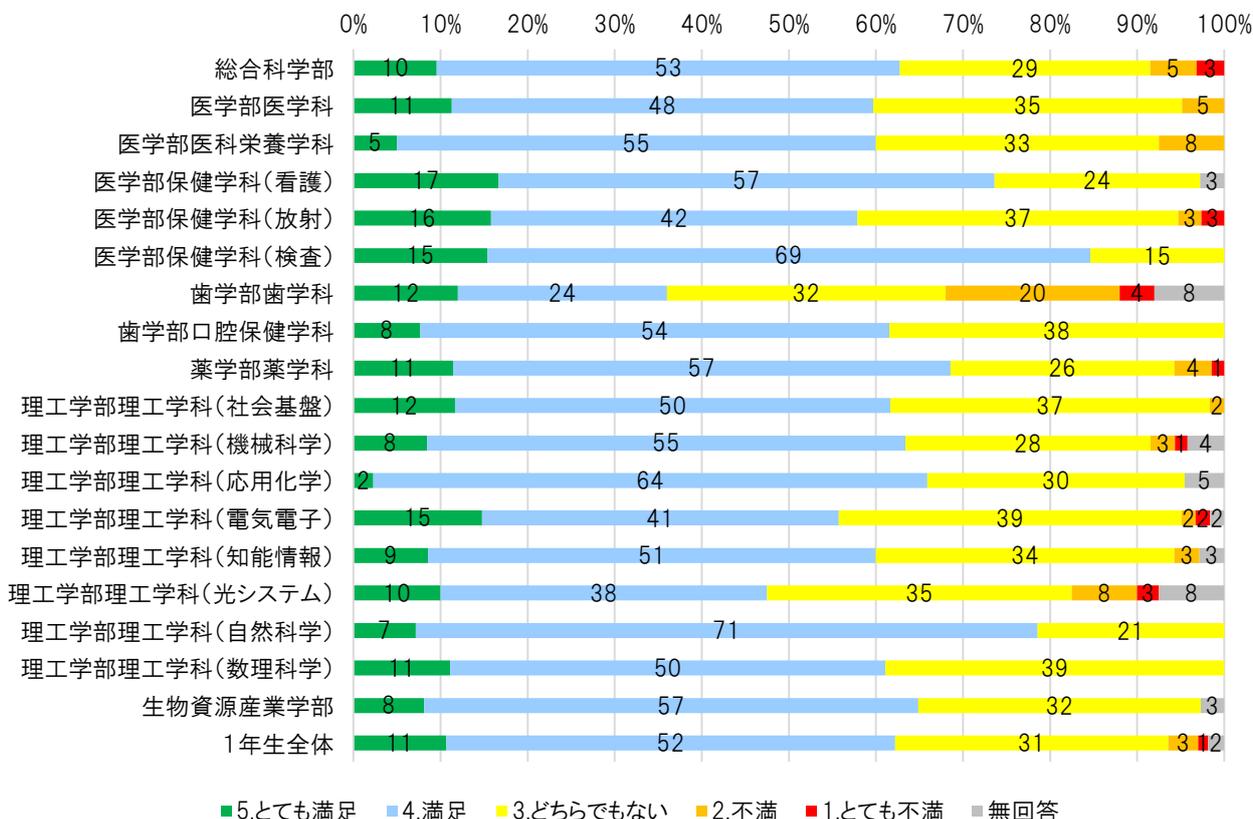


[94]あなたの学生生活は充実していますか。

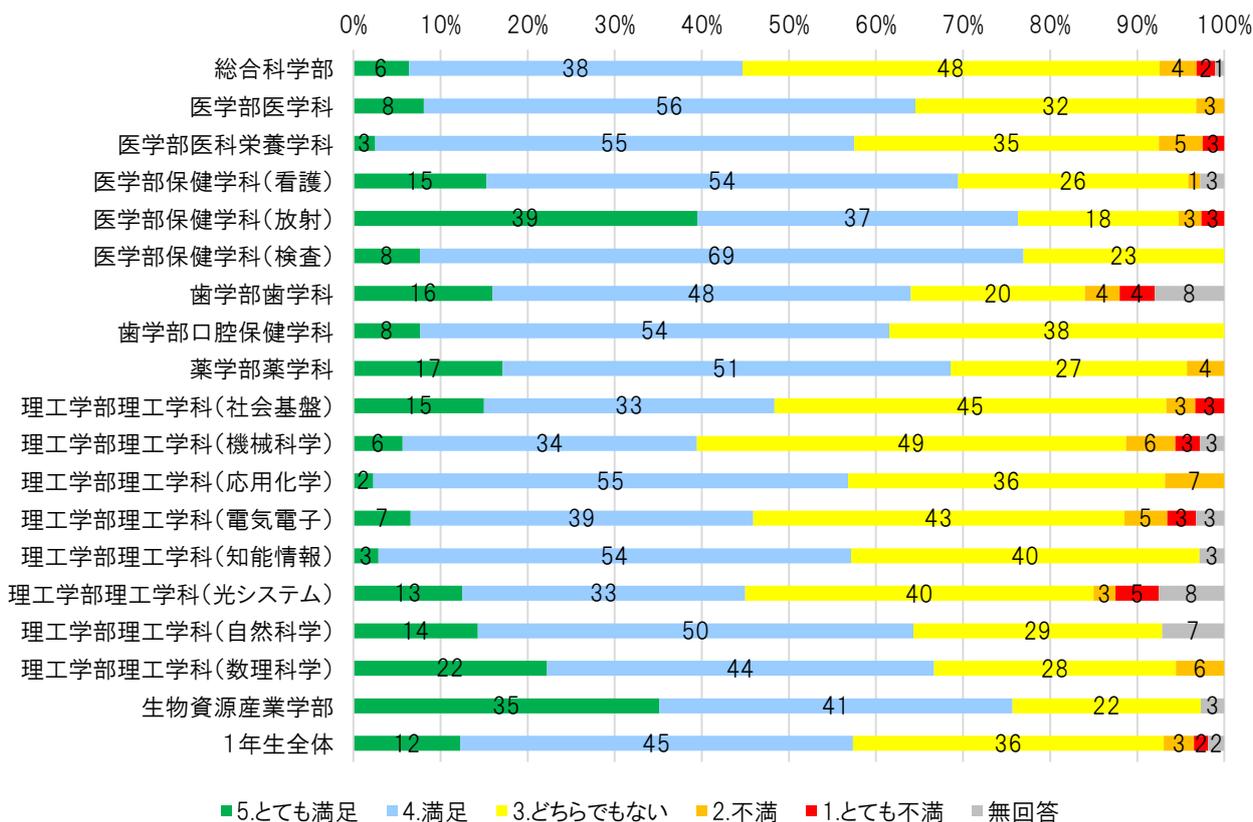


あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

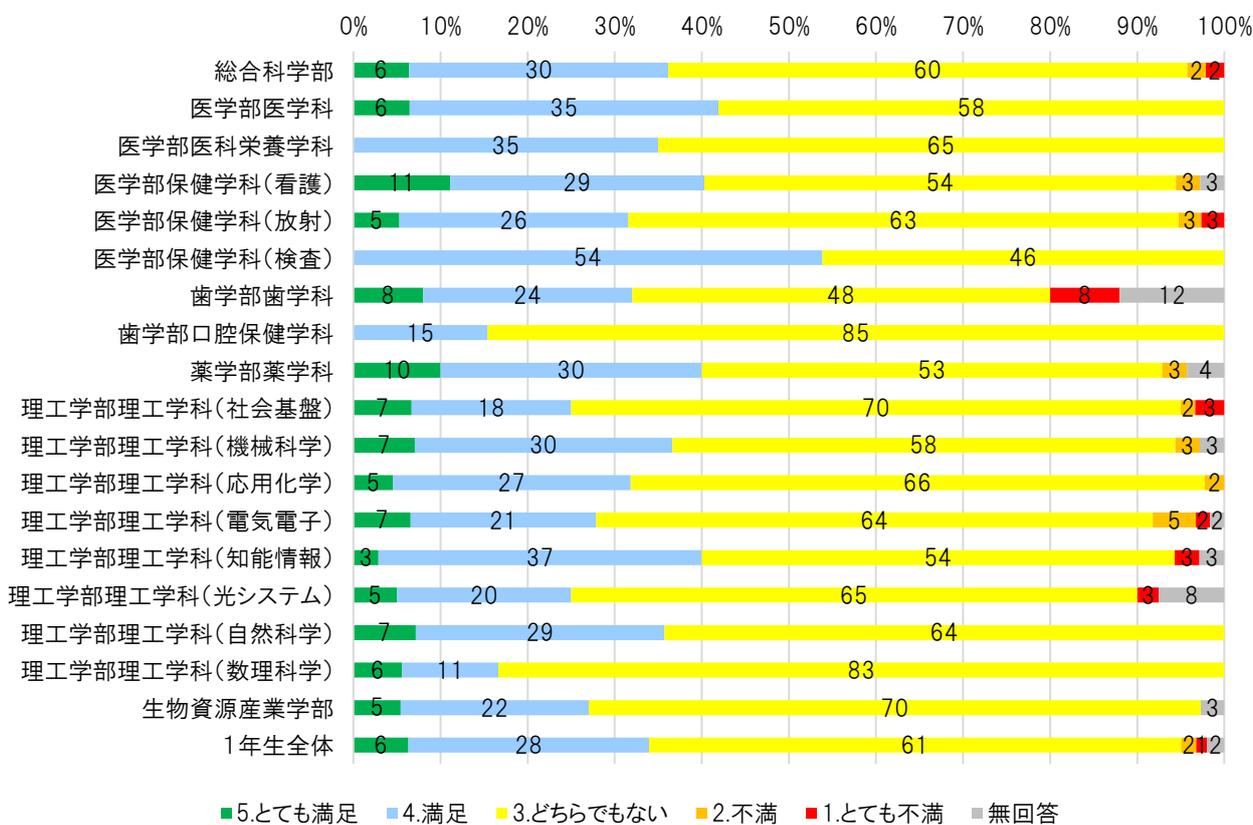
[95]共通教育あるいは教養教育の授業



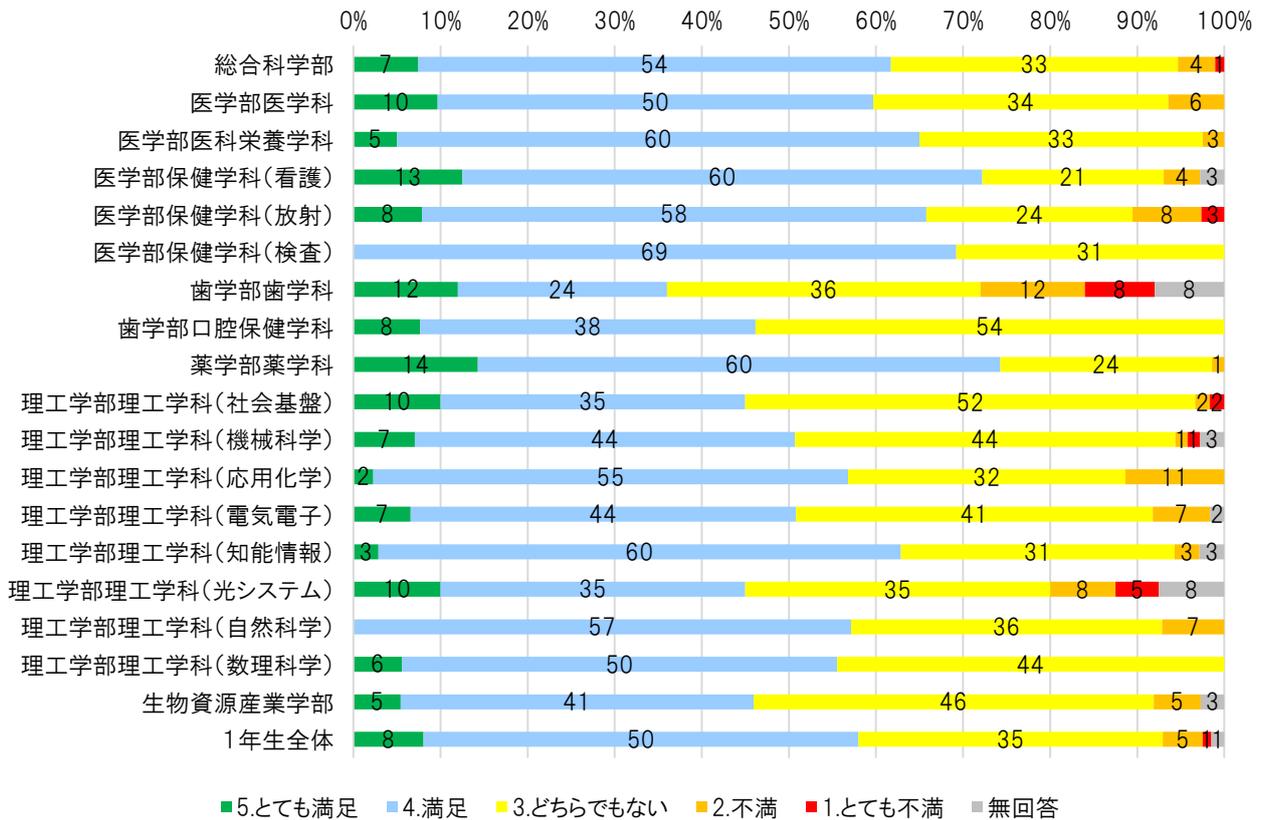
[96]SIH 道場～アクティブラーニング入門～の授業



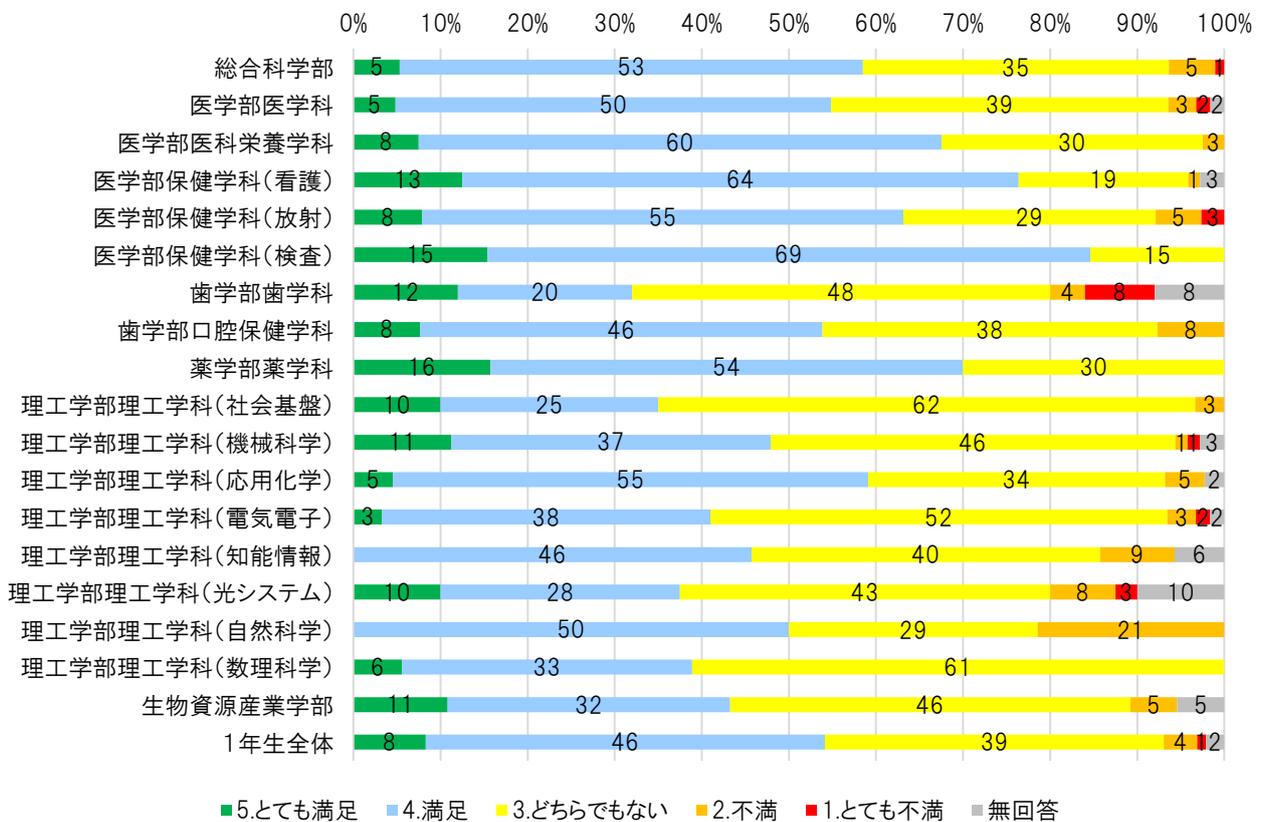
[97]初年次生を対象とした教育プログラム内容(フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど)



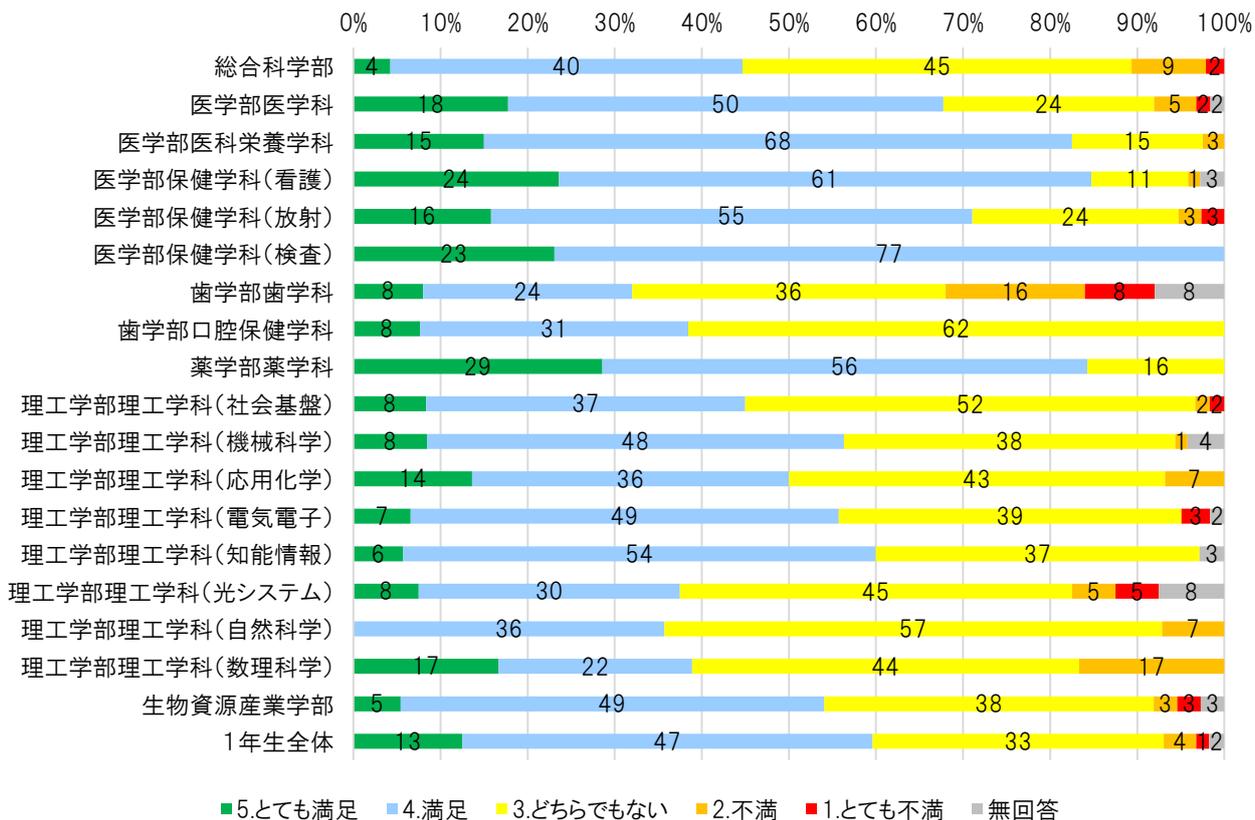
[98]授業の全体的な質



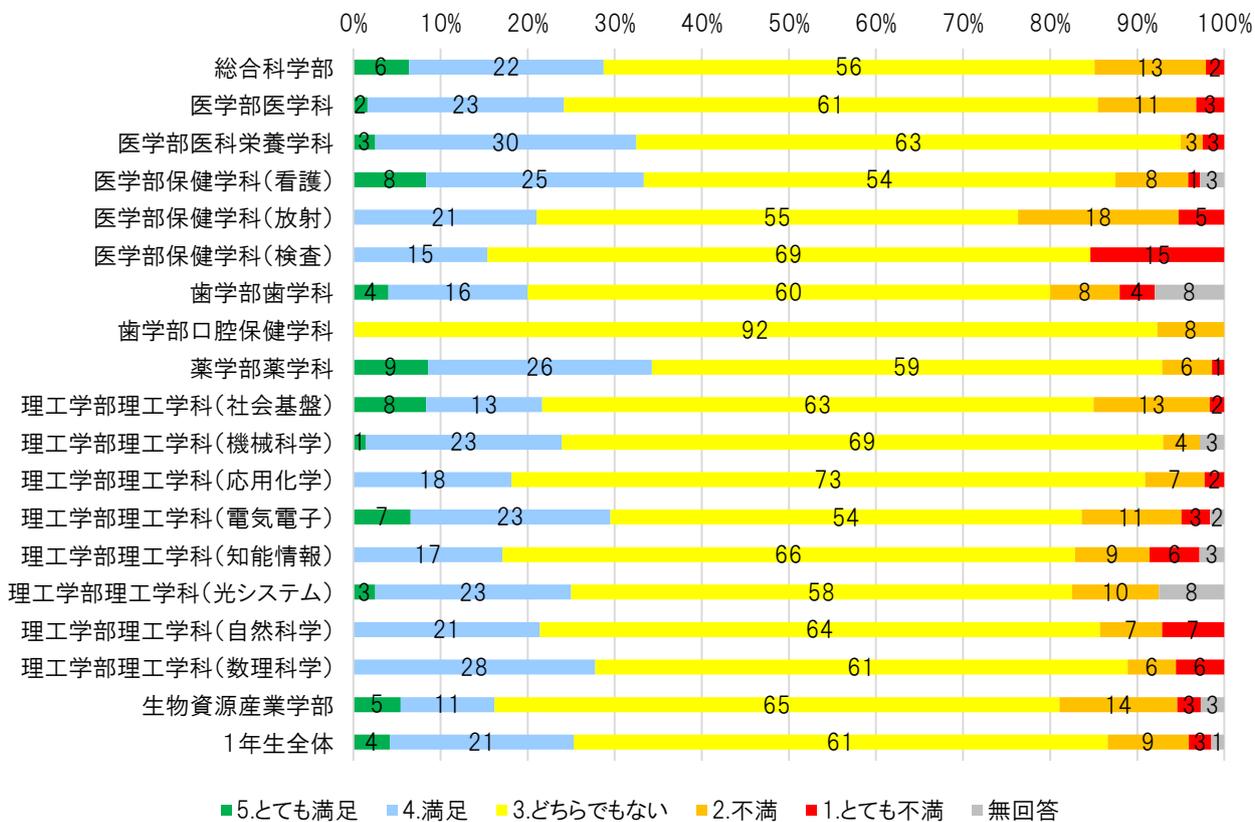
[99]日常生活と授業内容との関連



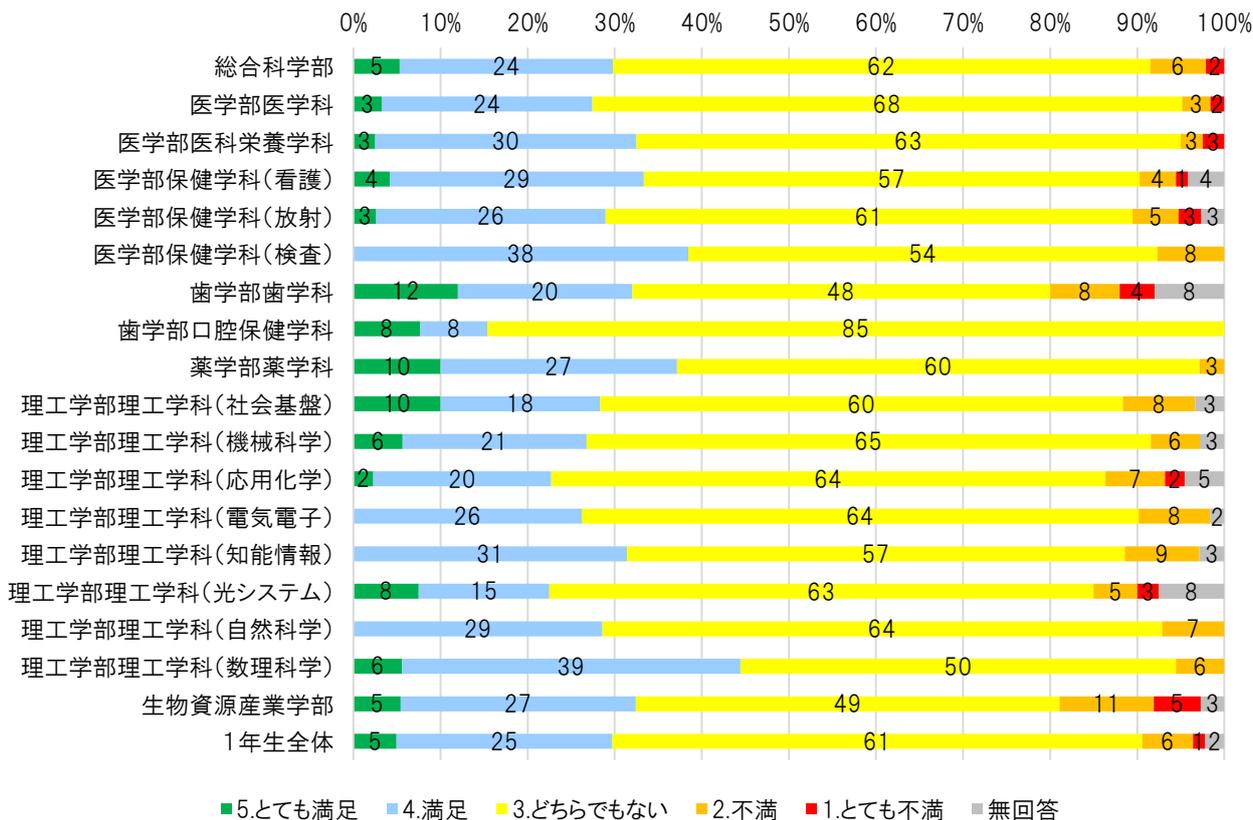
[100] 将来の仕事と授業内容の結びつき



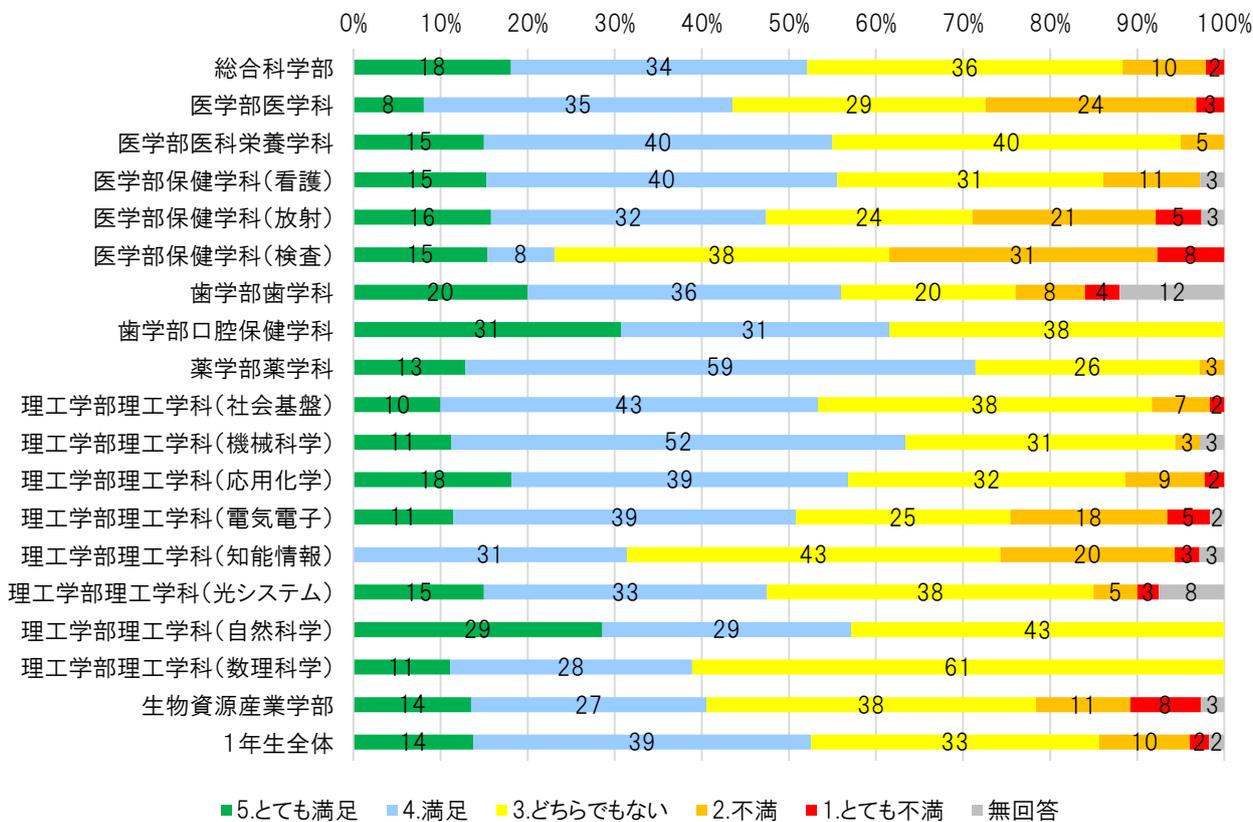
[101] 教員と話をする機会



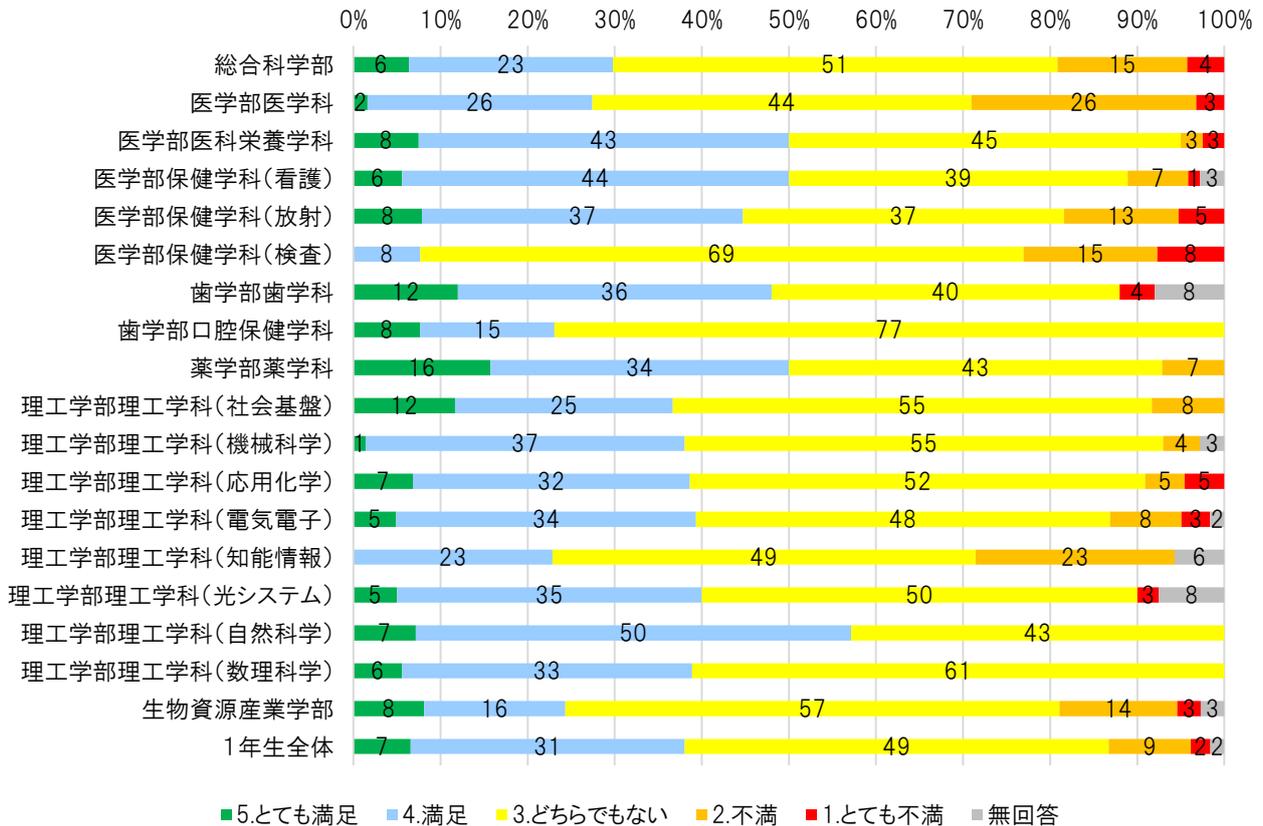
[102]学習支援や個別の学習指導



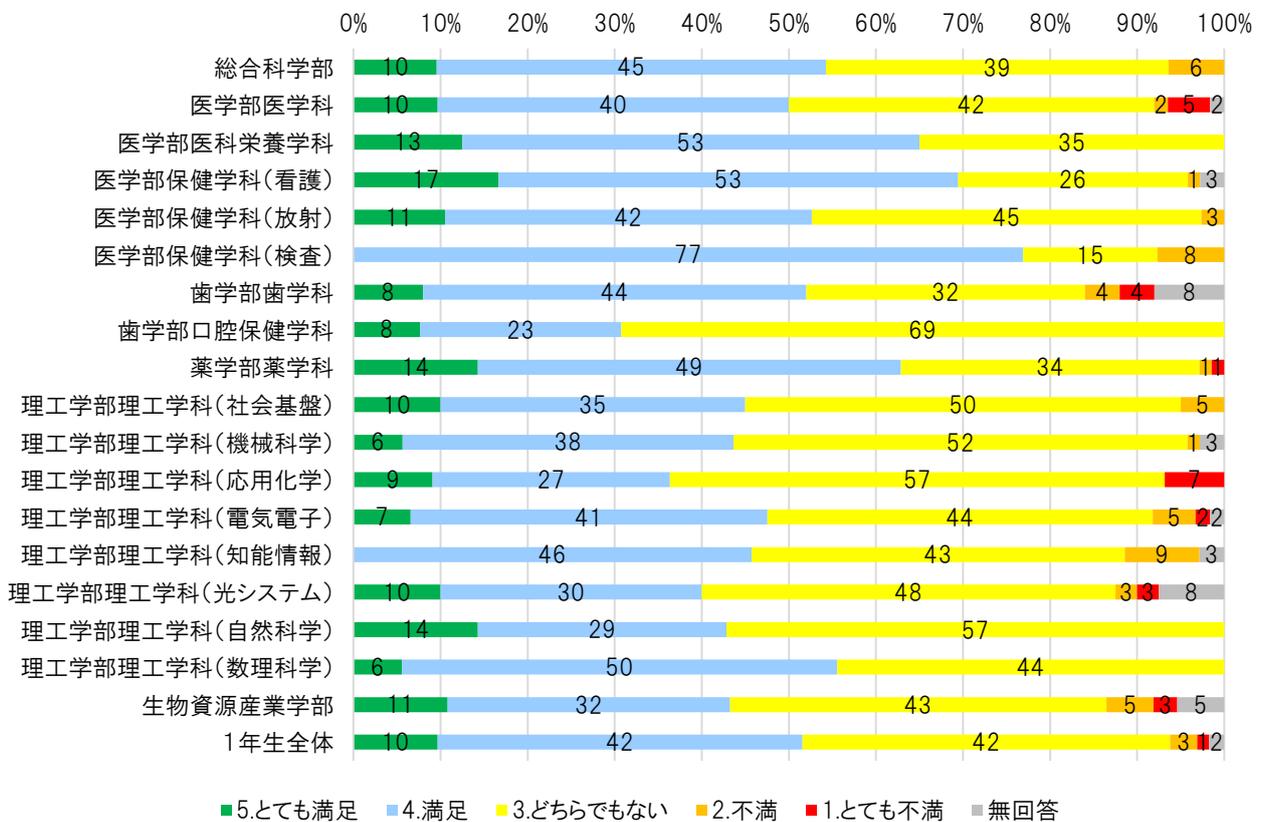
[103]他の学生と話をする機会



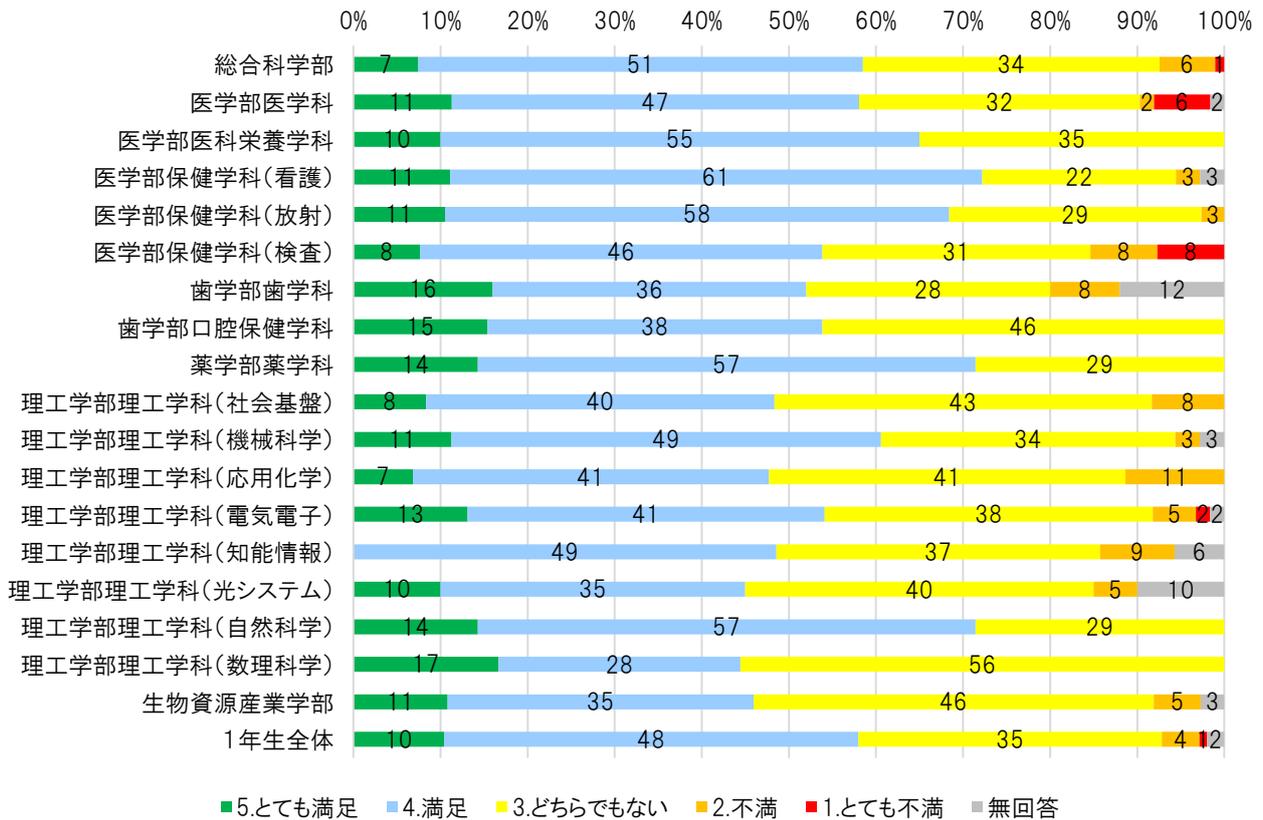
[104]大学のなかでの学生同士の一体感



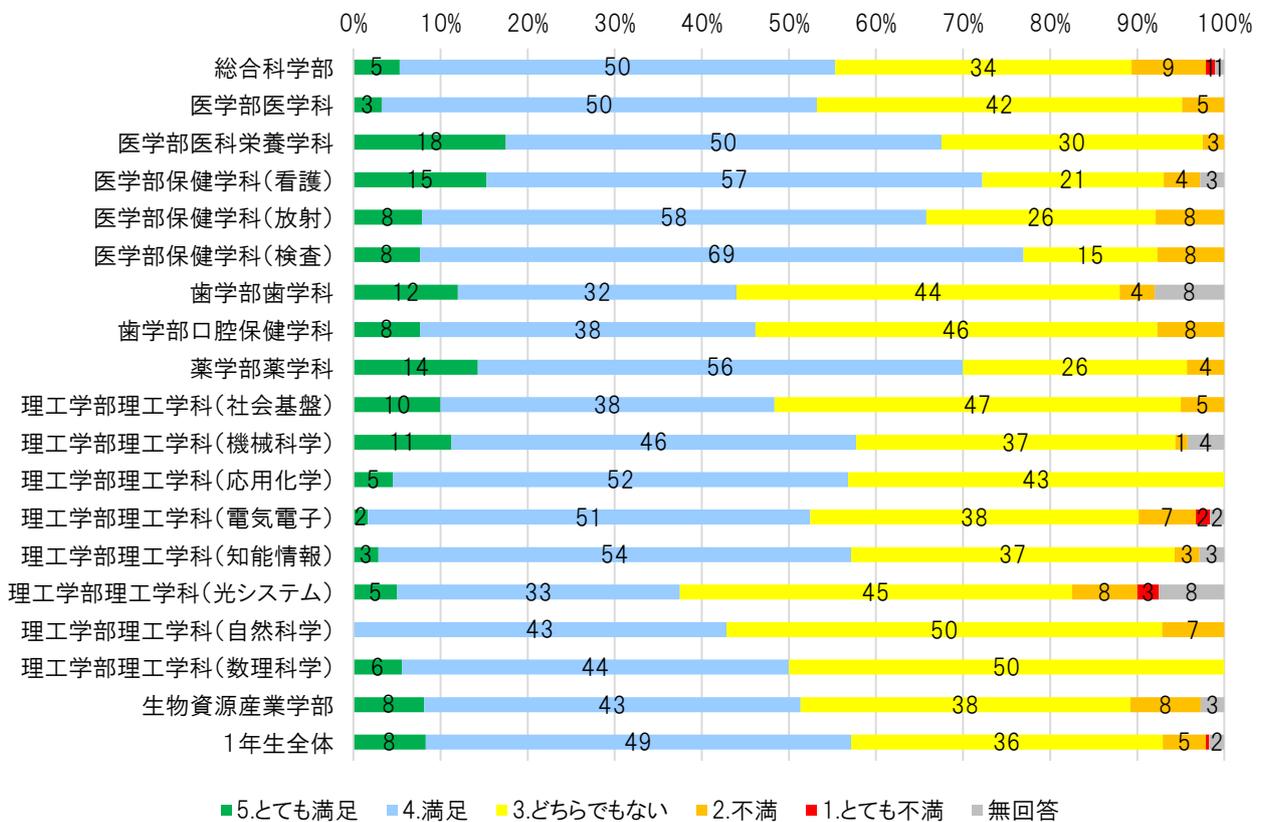
[105]多様な考え方を認め合う雰囲気



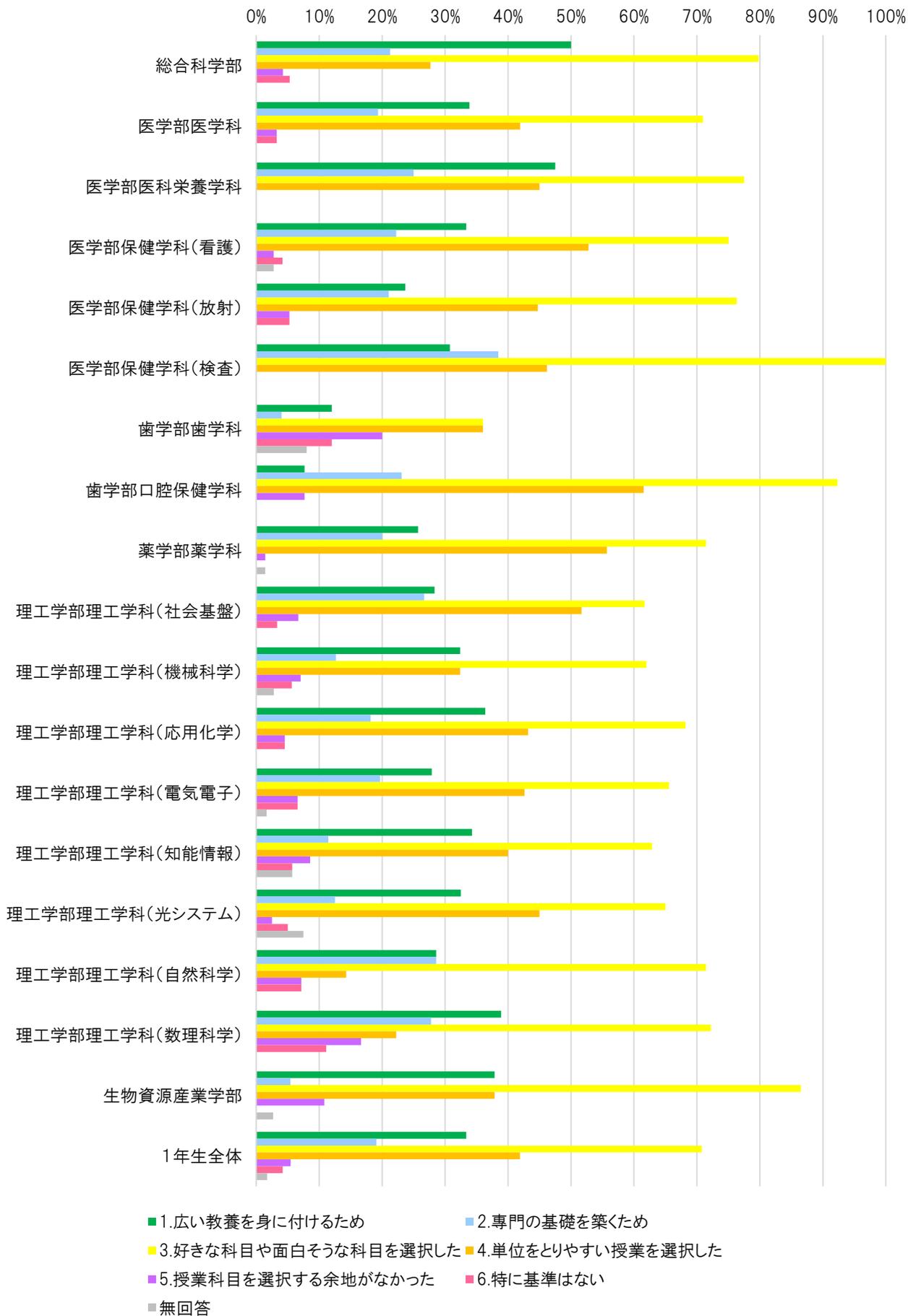
[106]大学での経験全般について



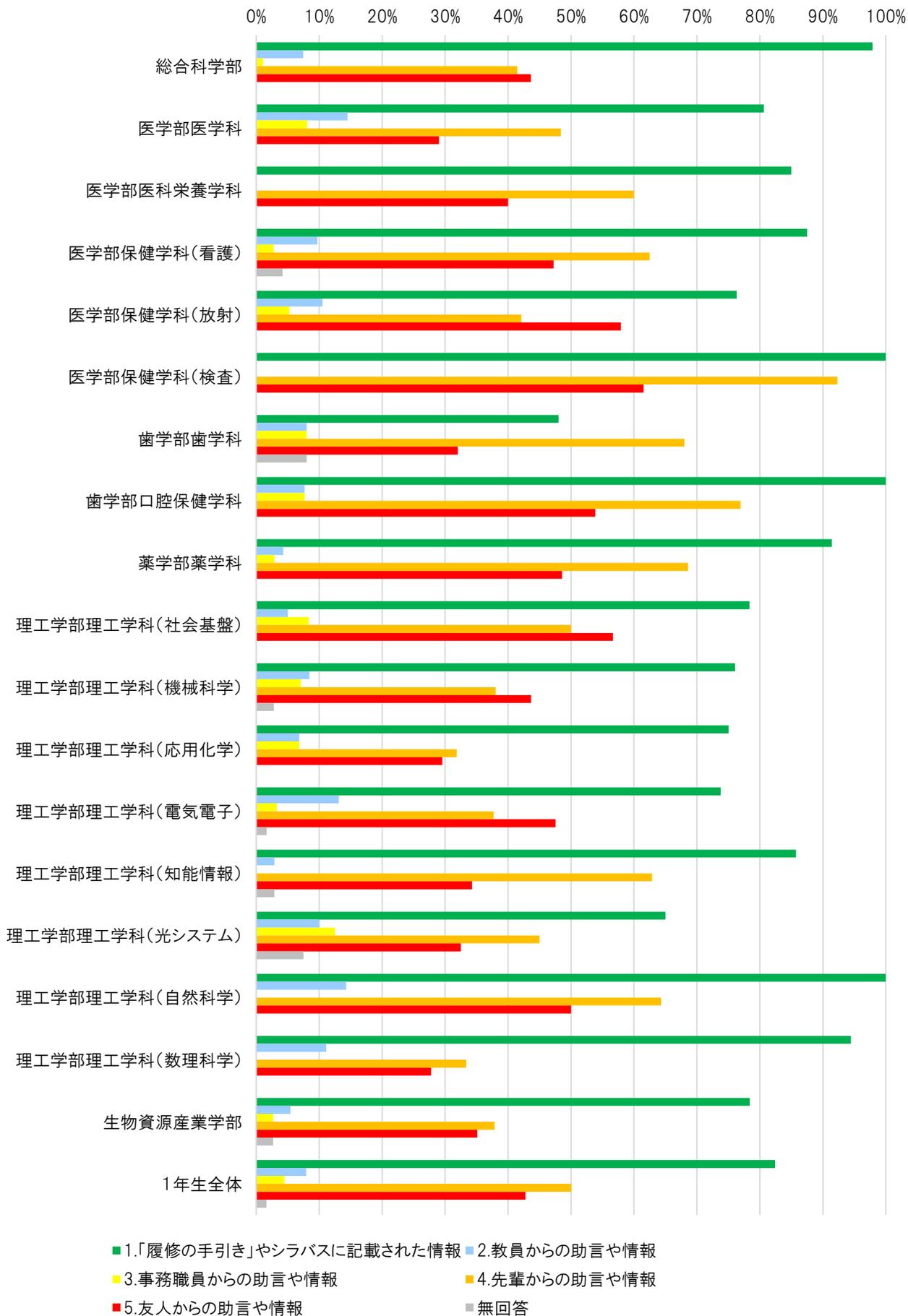
[107]1つの授業を履修する学生数



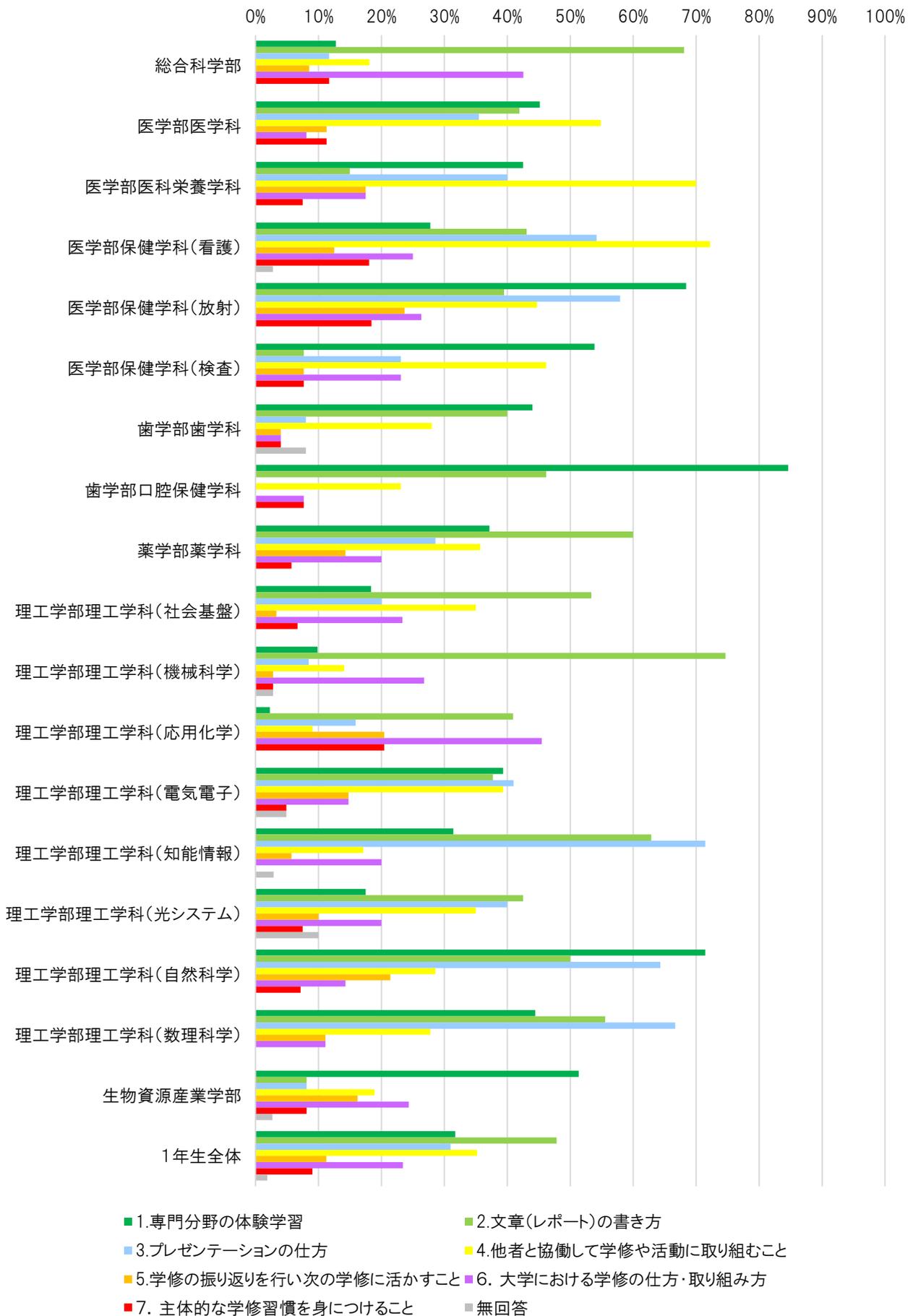
[108]教養教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。(複数回答可)



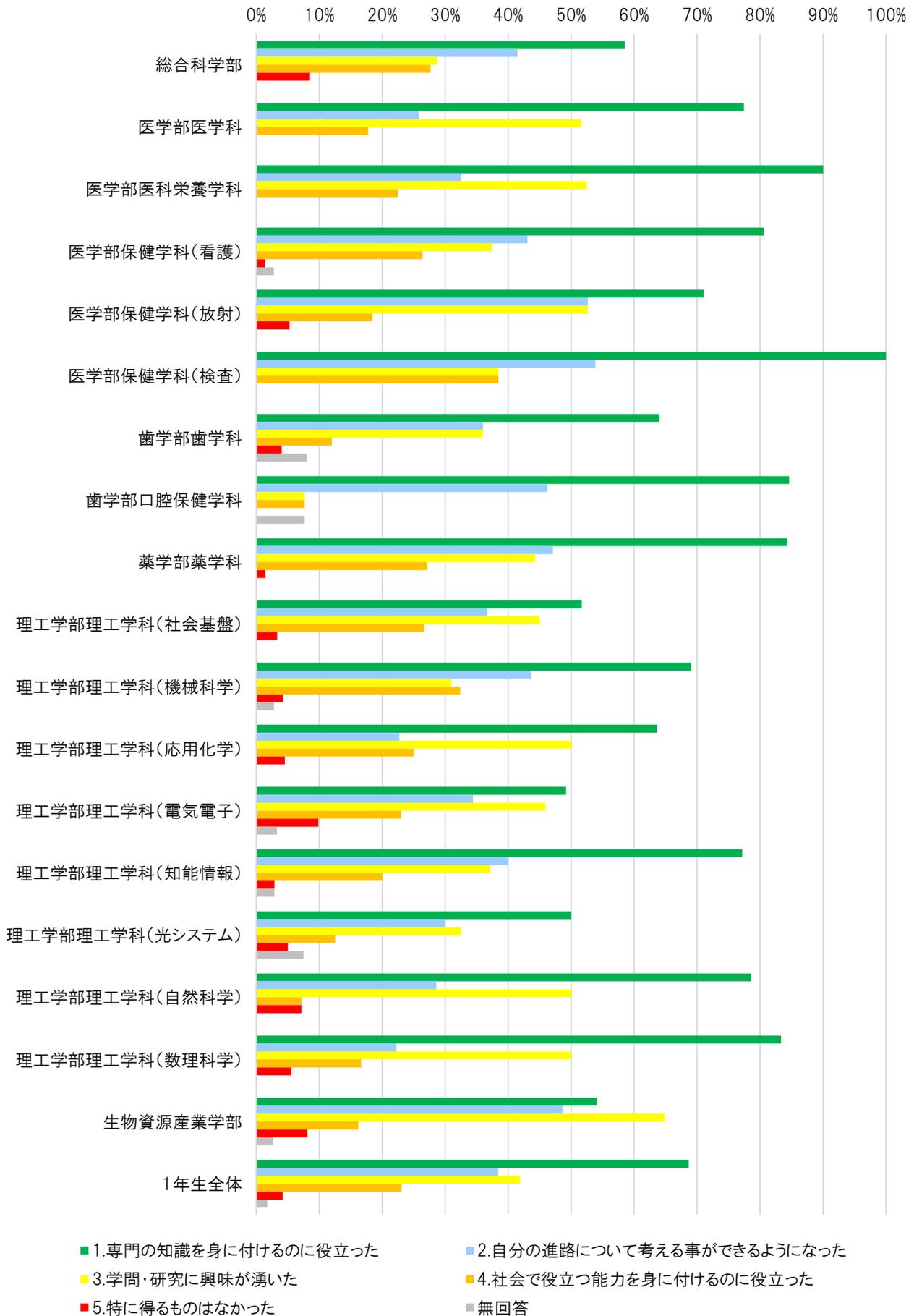
[109]教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)



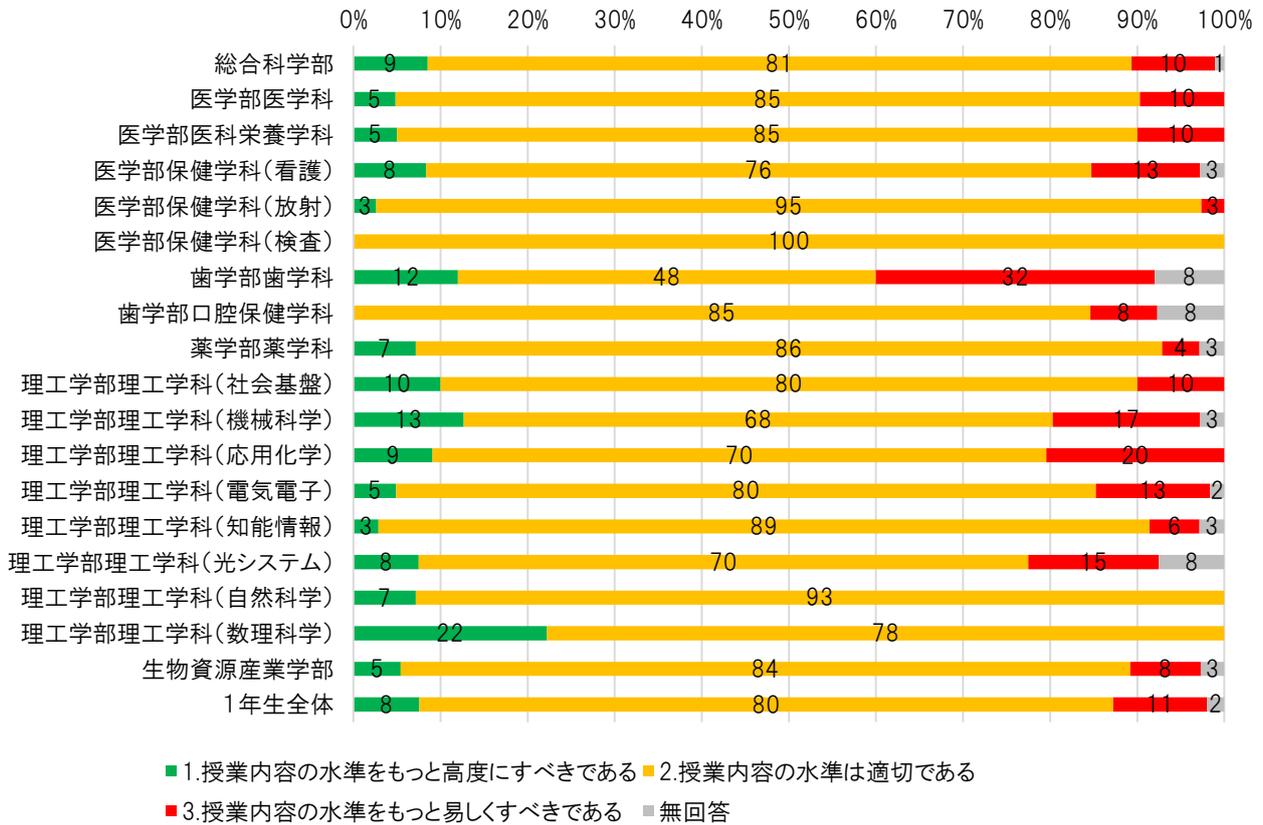
[110]「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。(複数回答可)



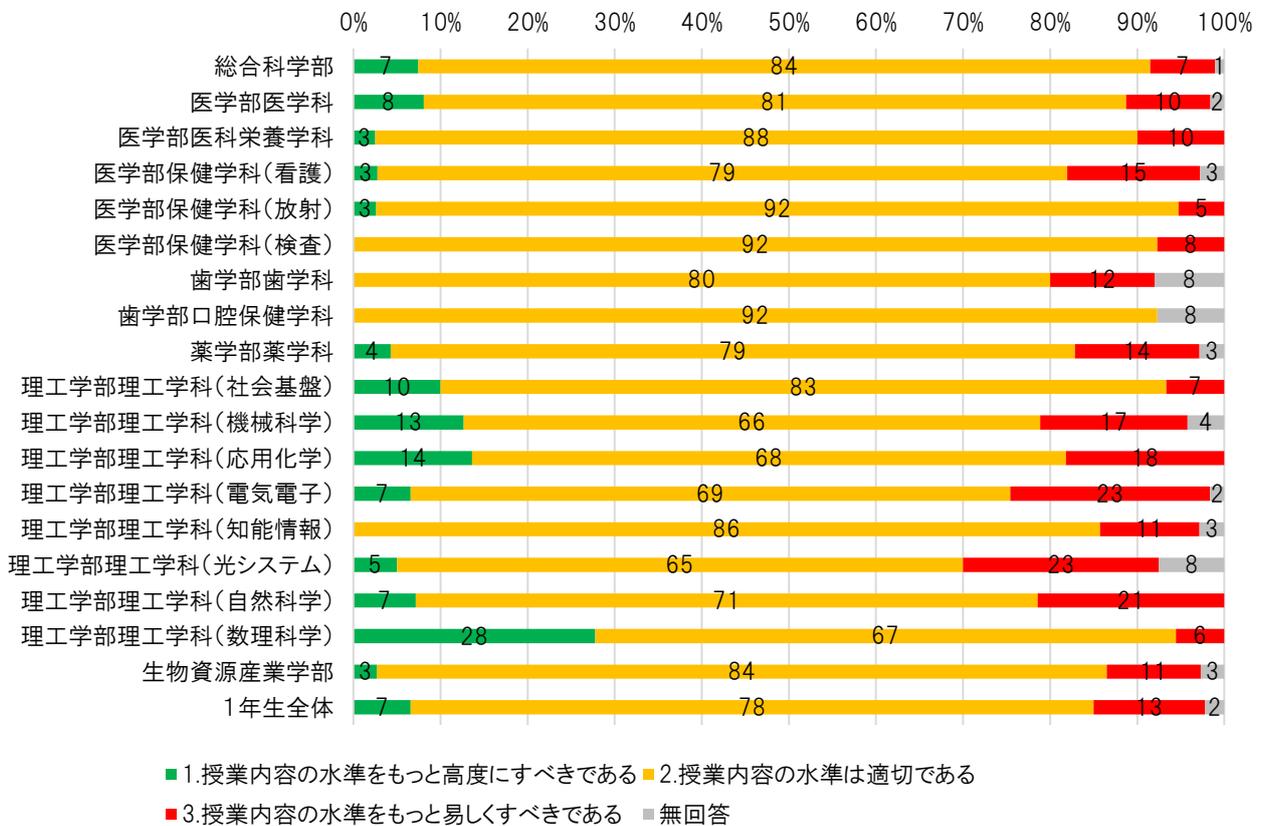
[111]専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると思いますか。(複数回答可)



[112]教養教育科目の授業内容の難易度についてどう思いますか。

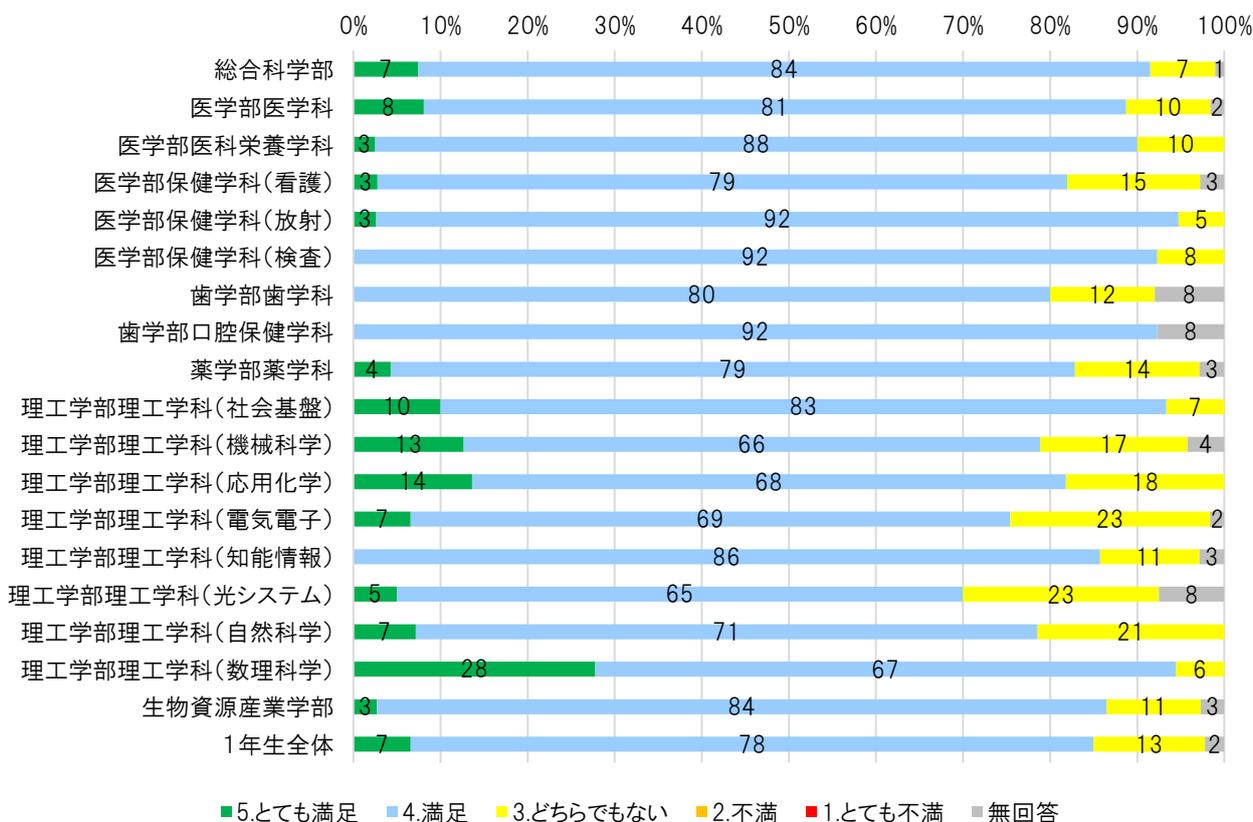


[113]専門教育科目の授業内容の難易度についてどう思いますか。

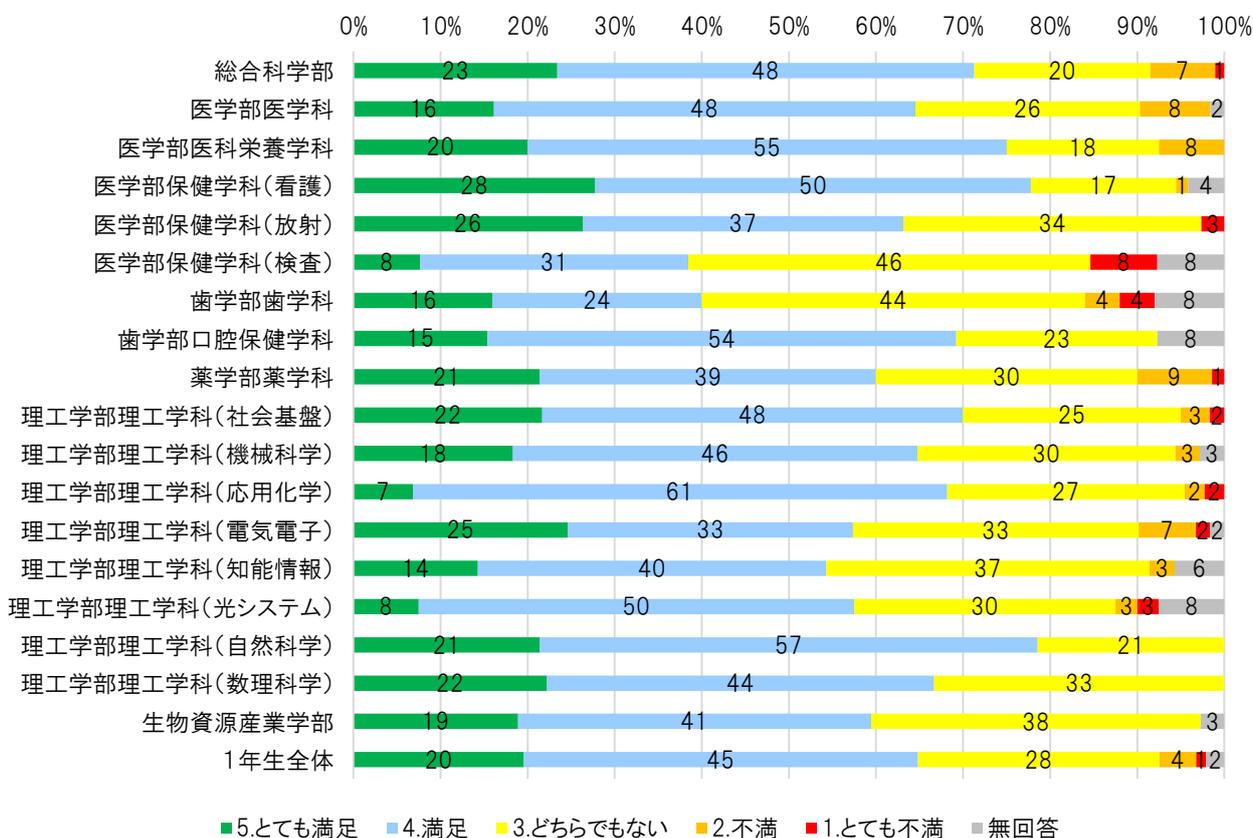


あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

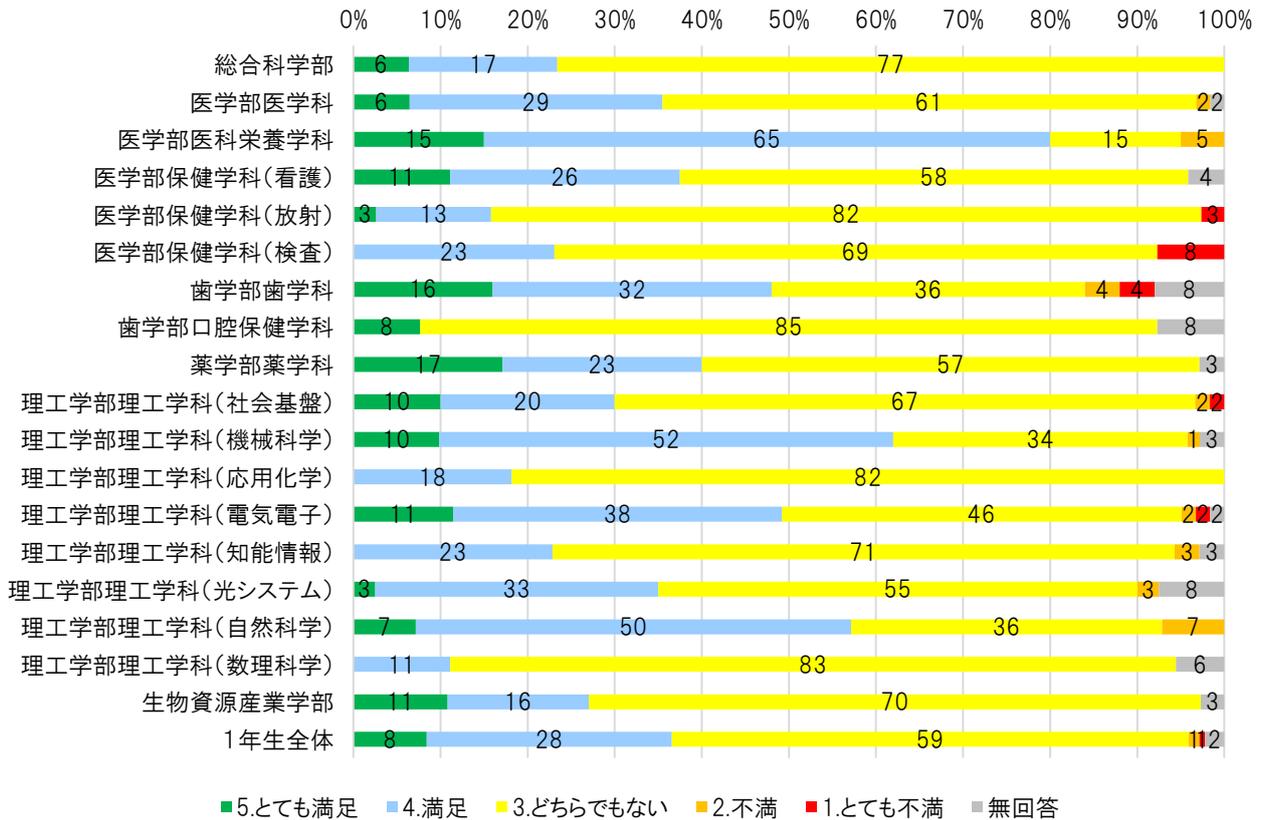
[114]図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス)



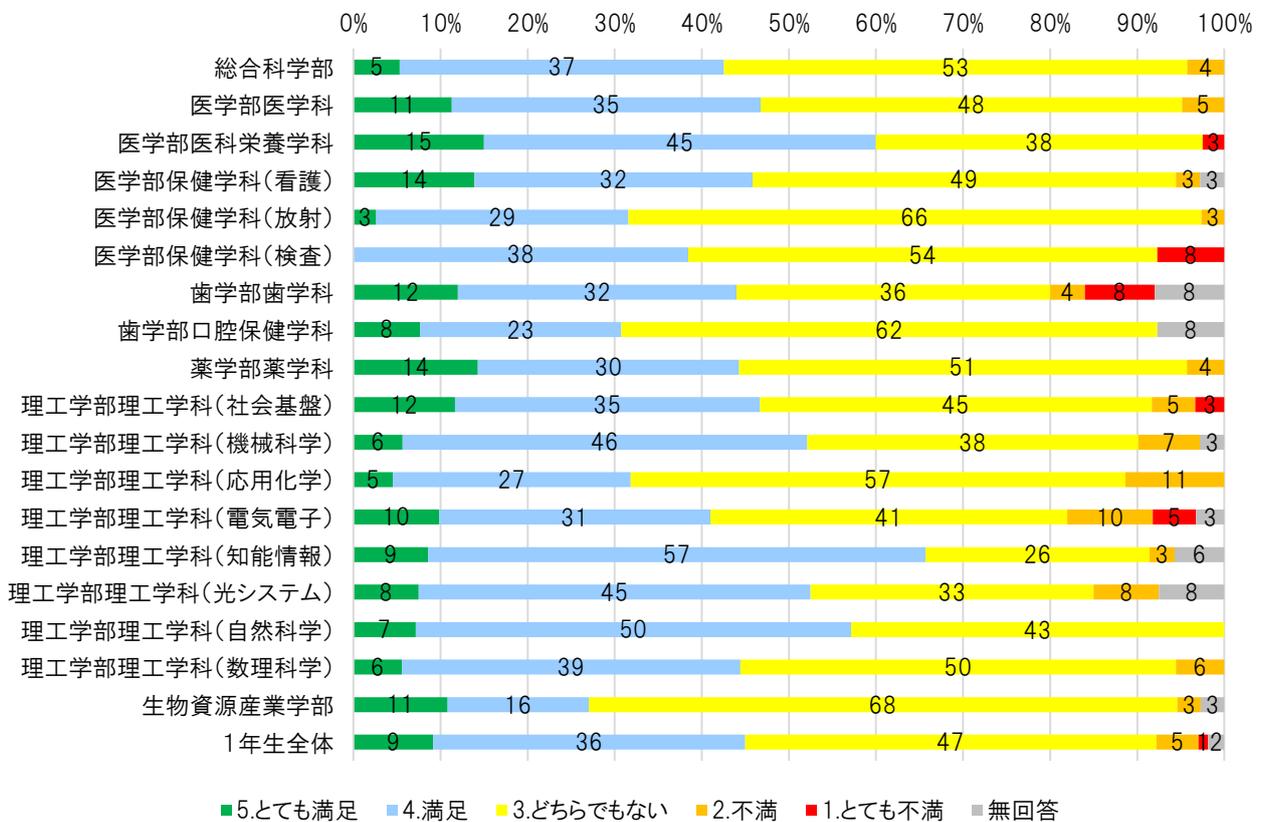
[115]実験室の設備や器具



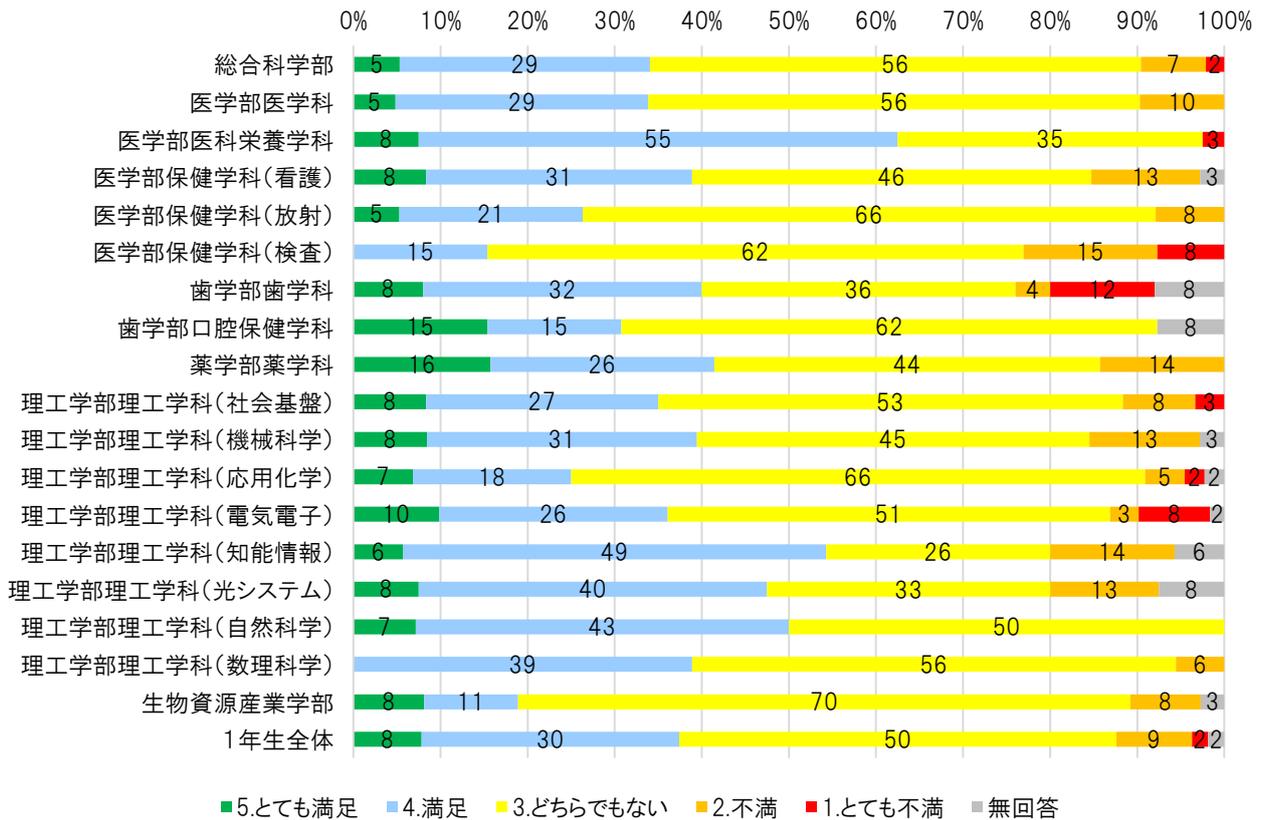
[116]コンピュータの施設や設備



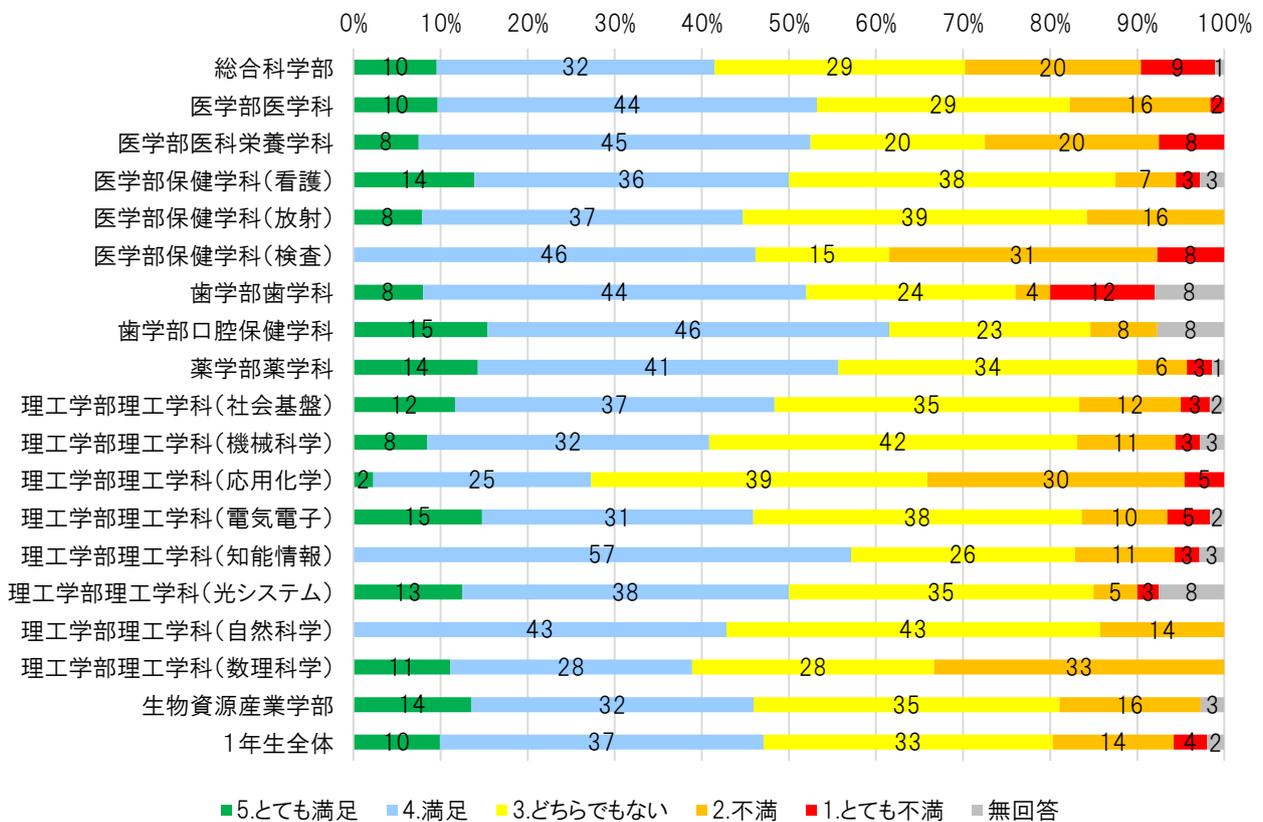
[117]コンピュータの訓練や援助



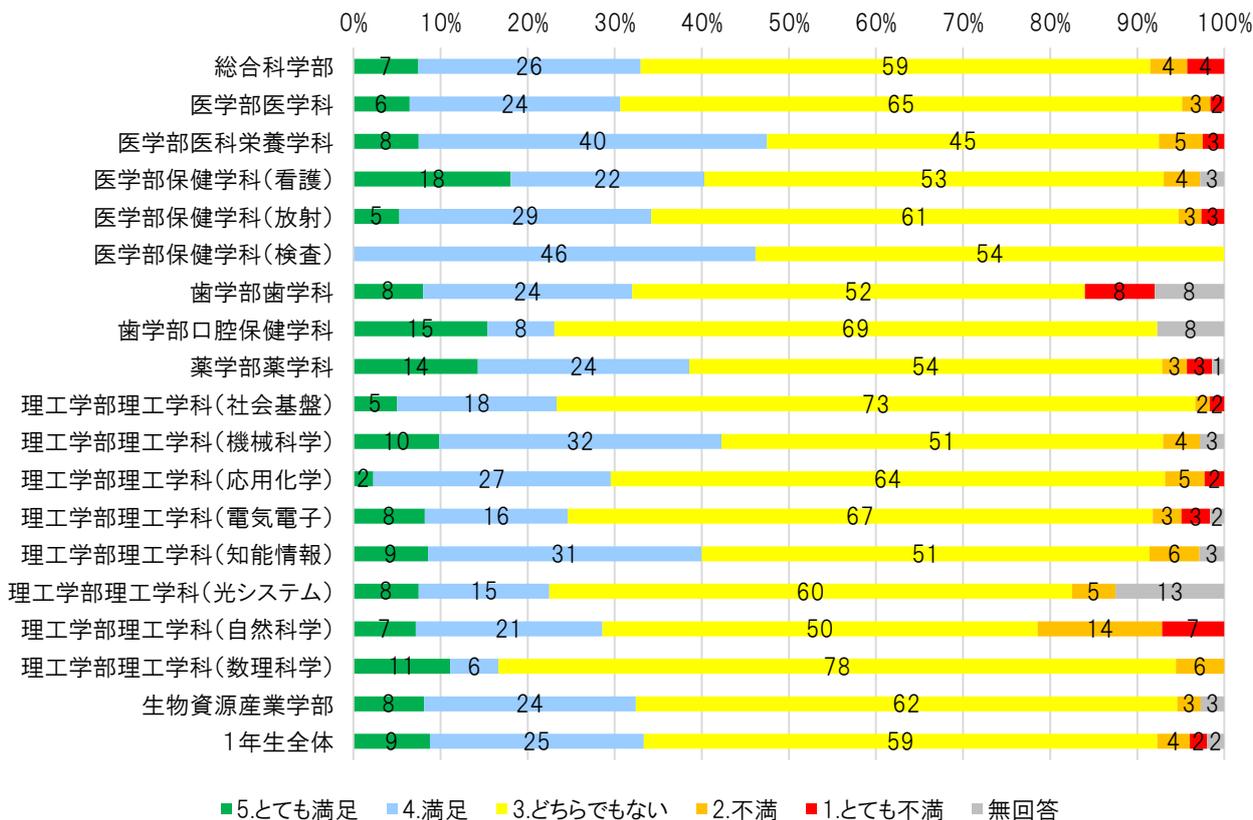
[118]インターネットの使いやすさ



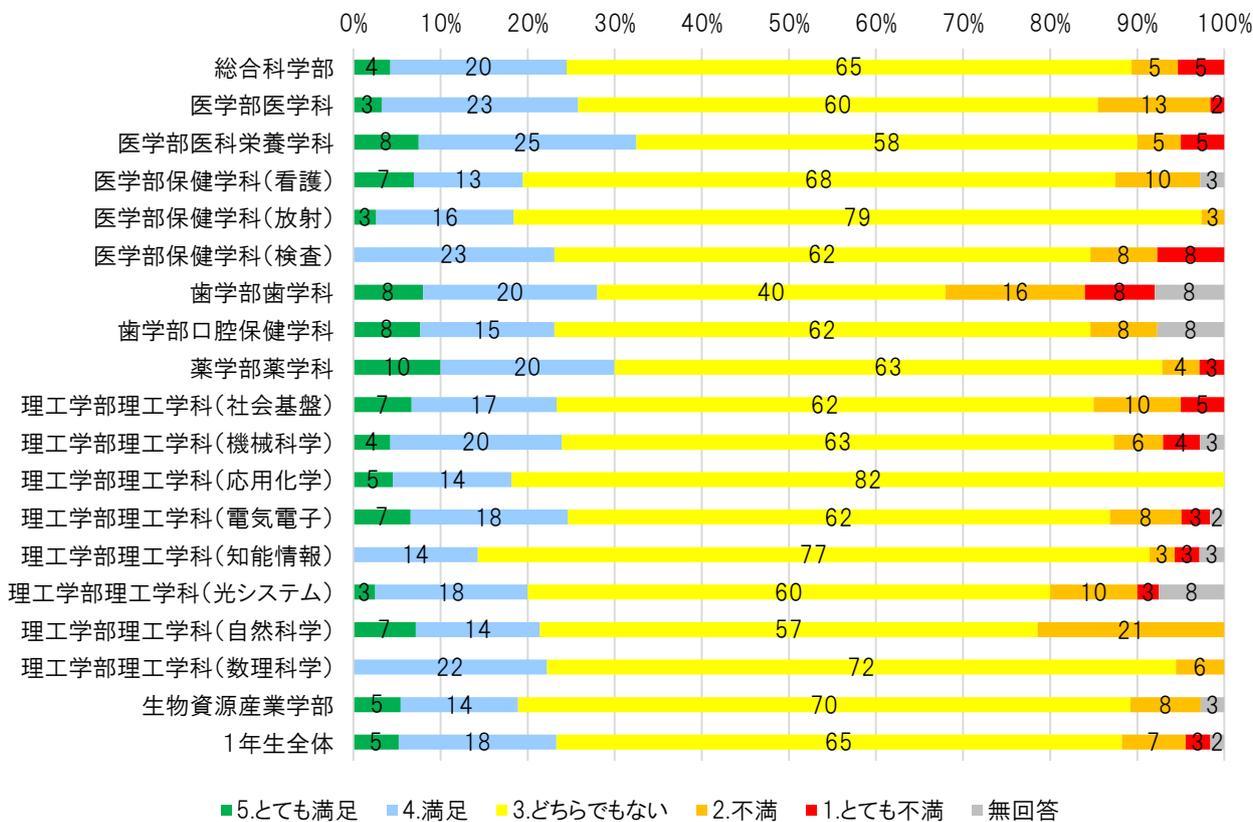
[119]奨学金など学費援助の制度



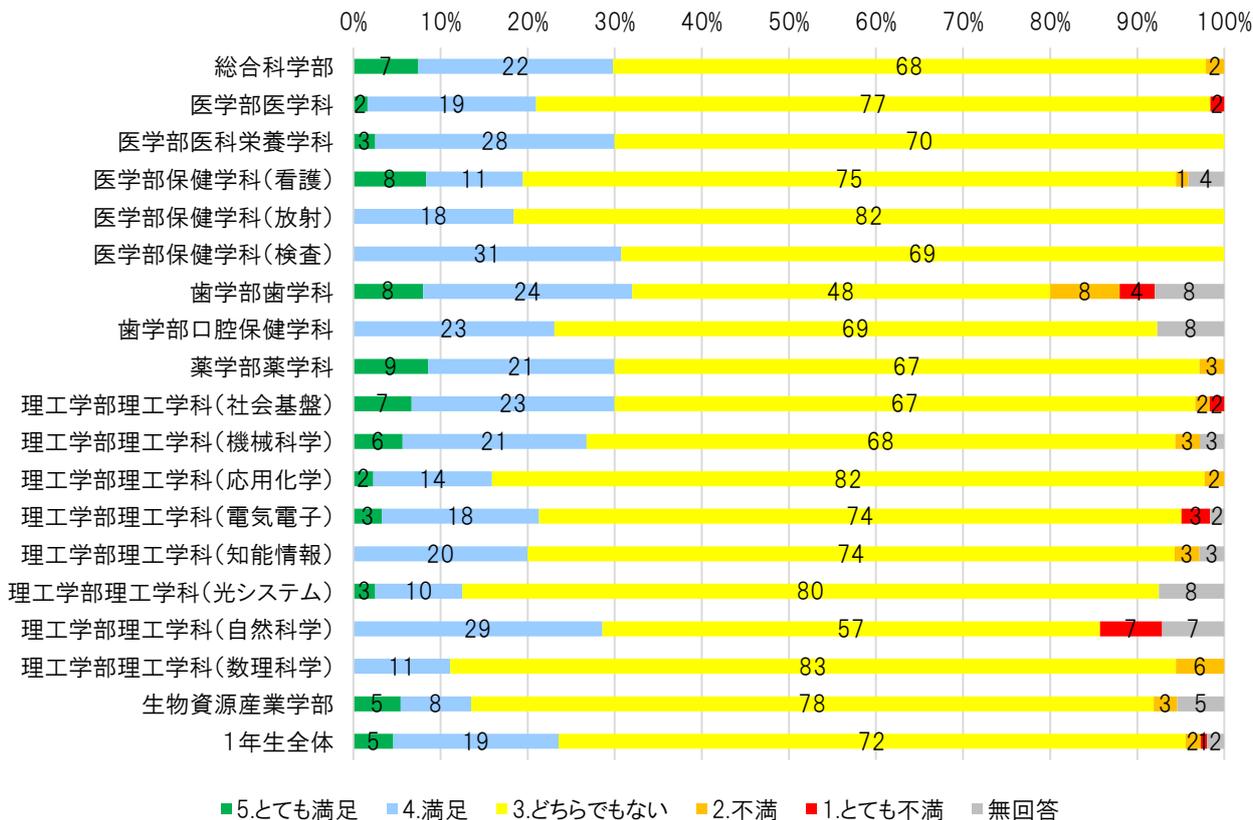
[120]健康・保健サービス(心身の健康に関わる問題についての診療や相談)



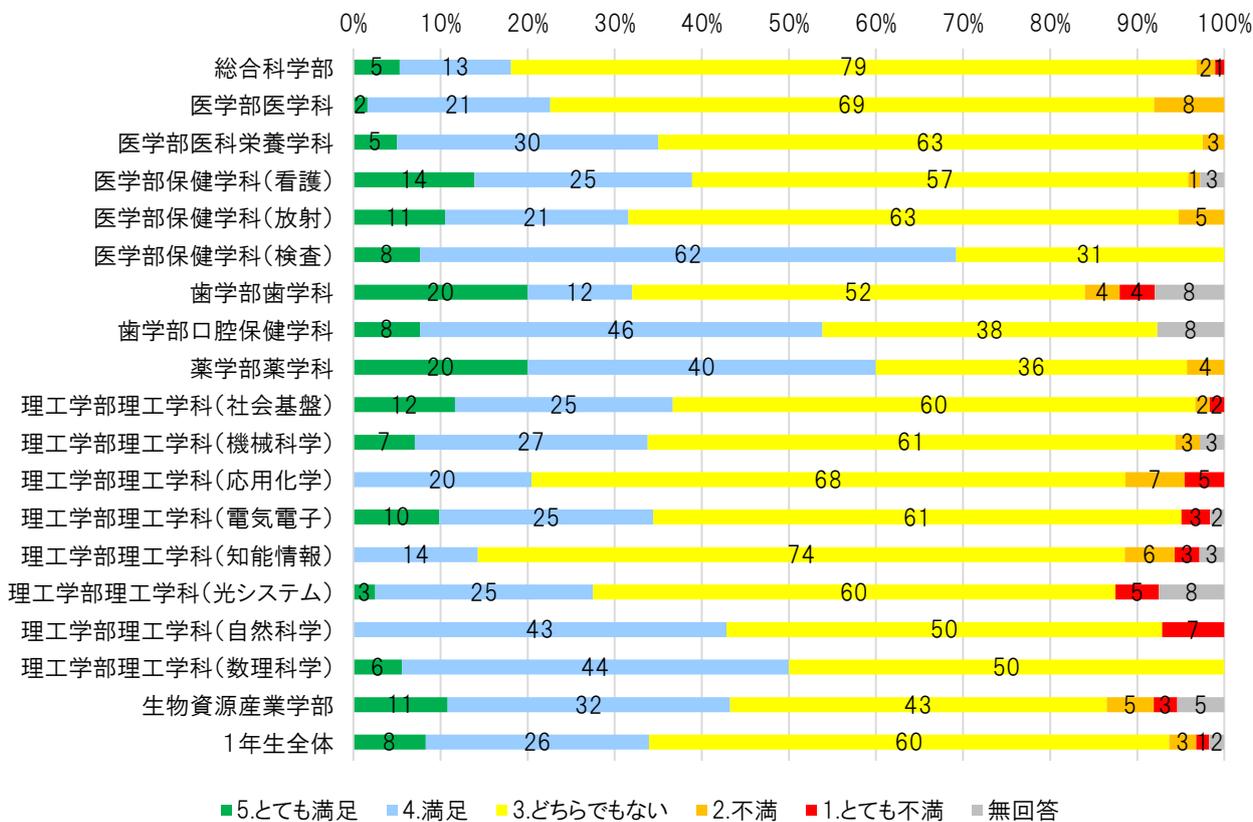
[121]レクリエーション施設(ジムの設備など)



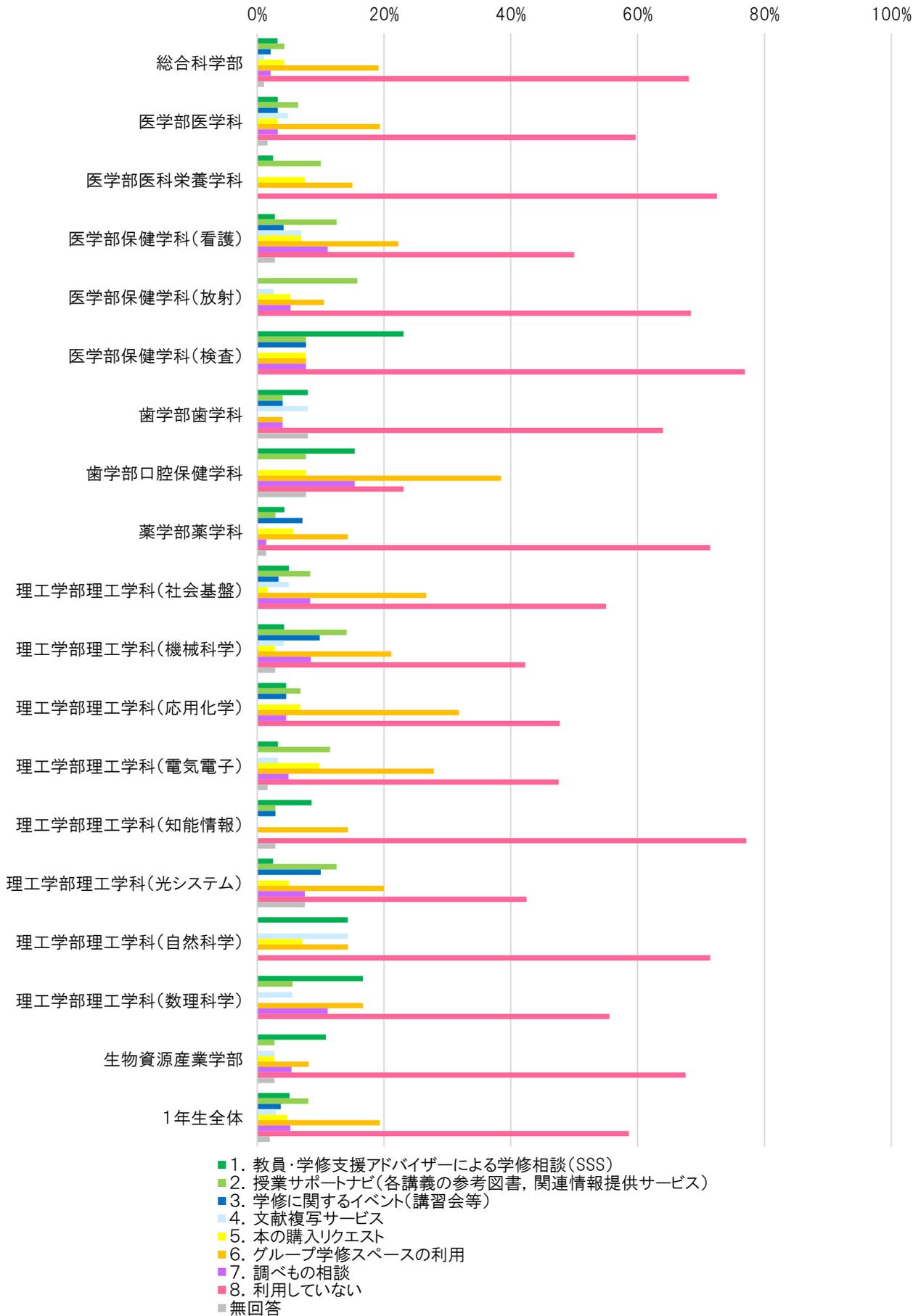
[122]キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)



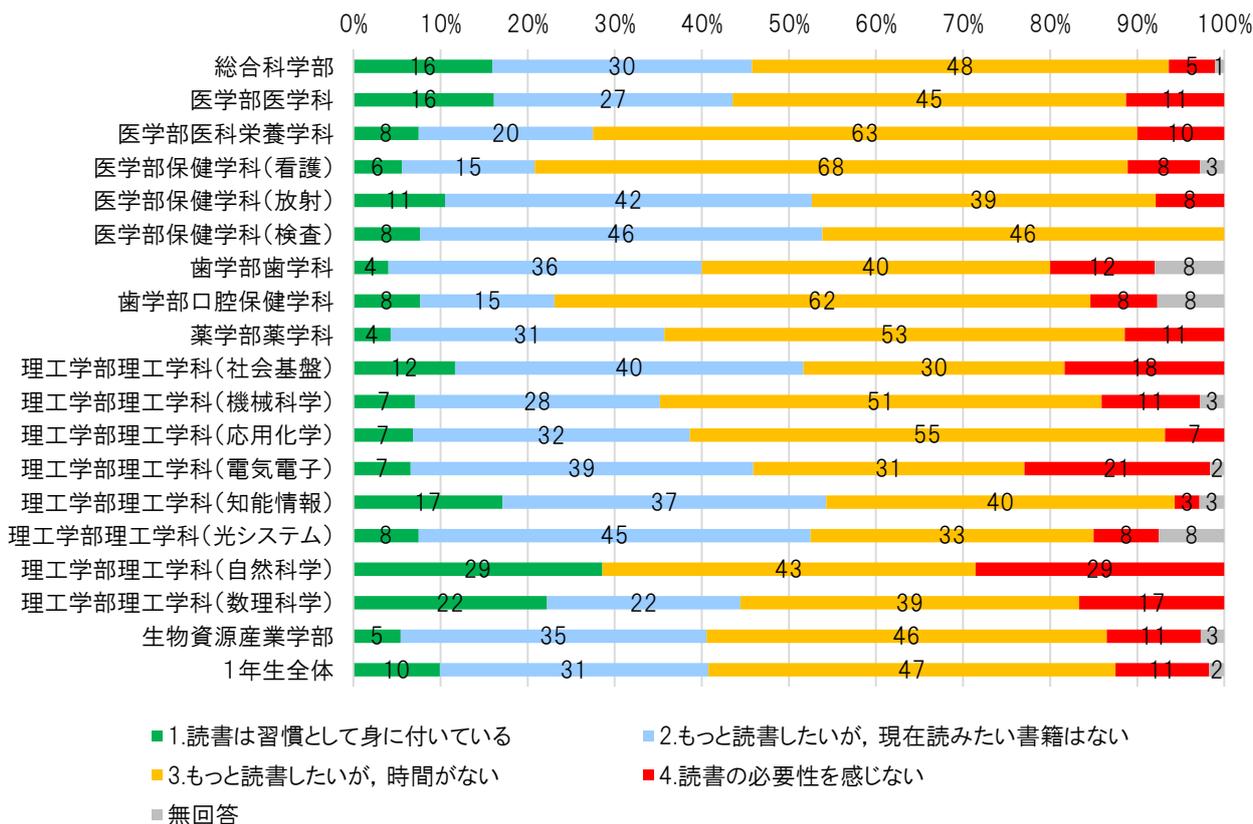
[123]クラス担任制度



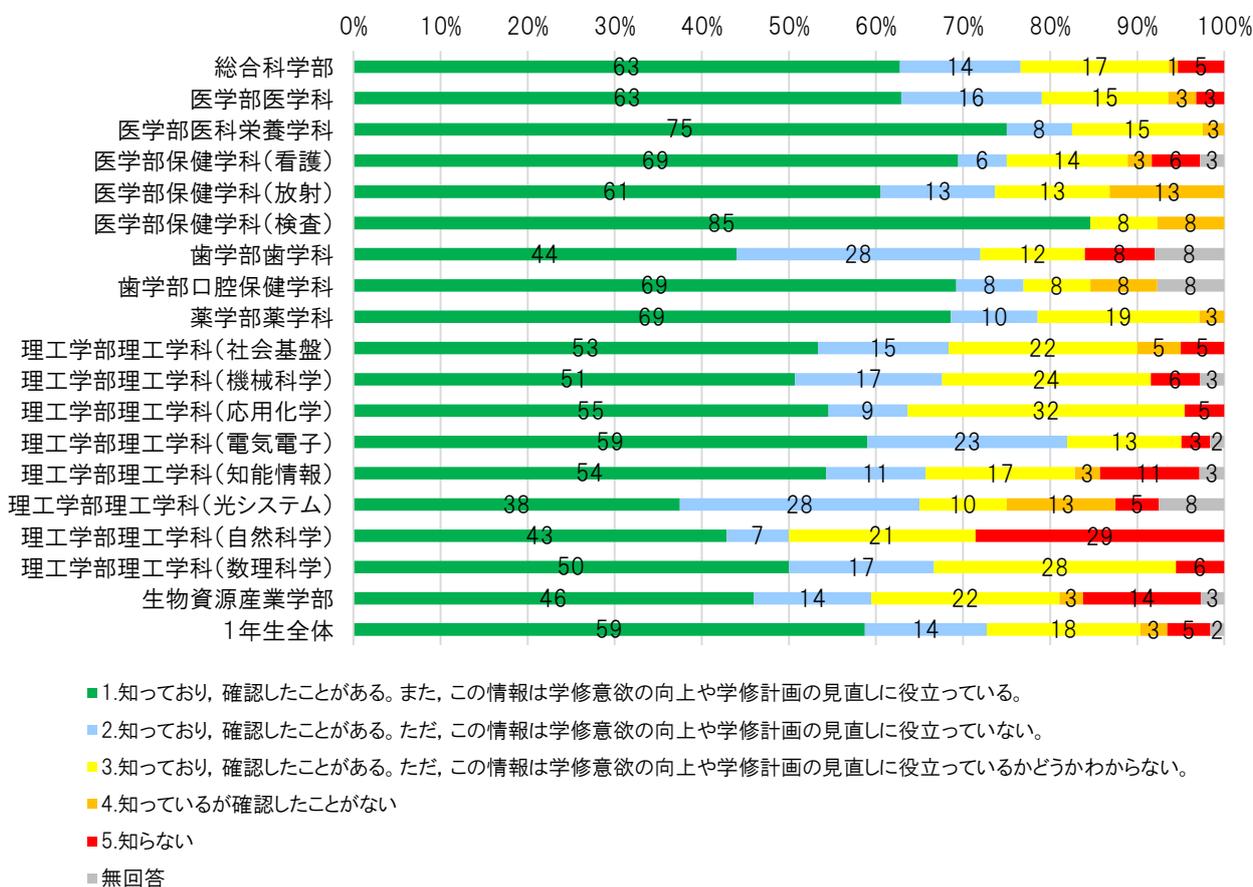
[124]図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。(複数回答可)



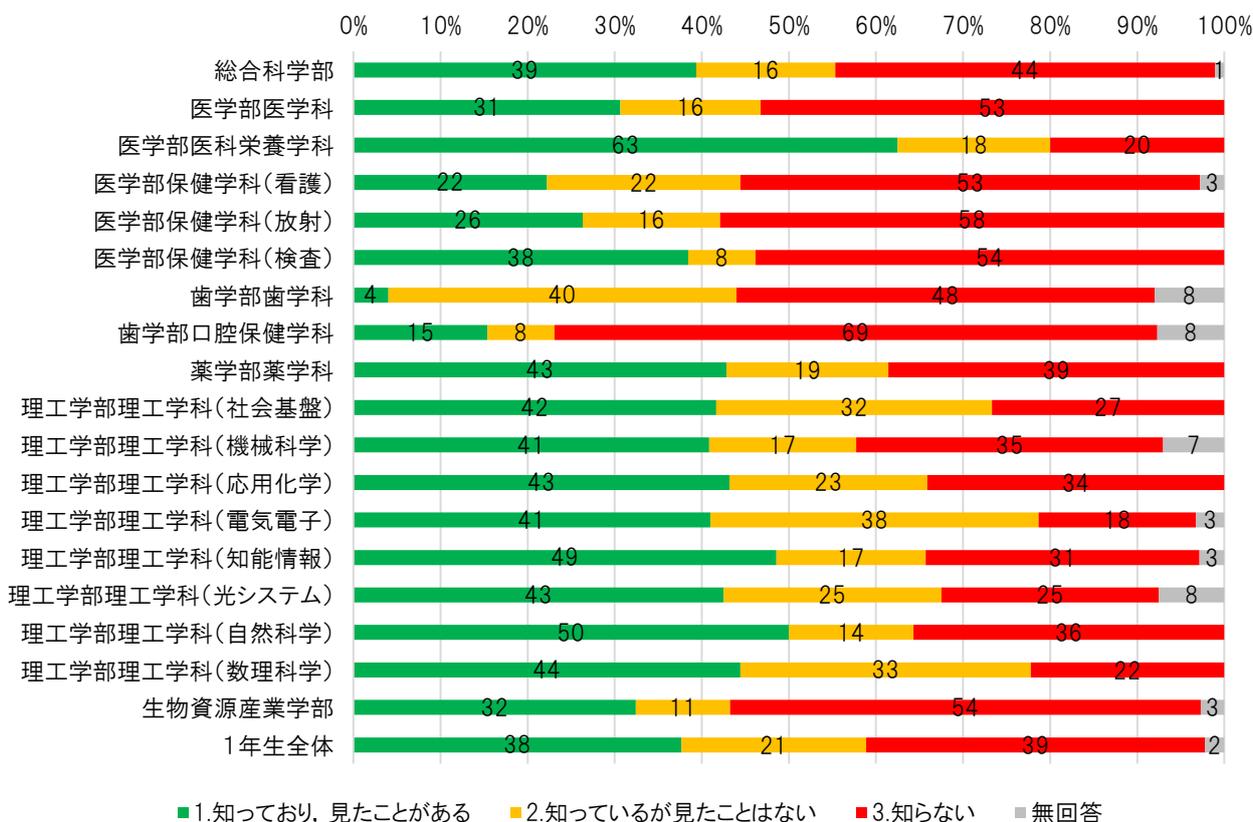
[125]あなたは、読書についてどのように考えていますか。



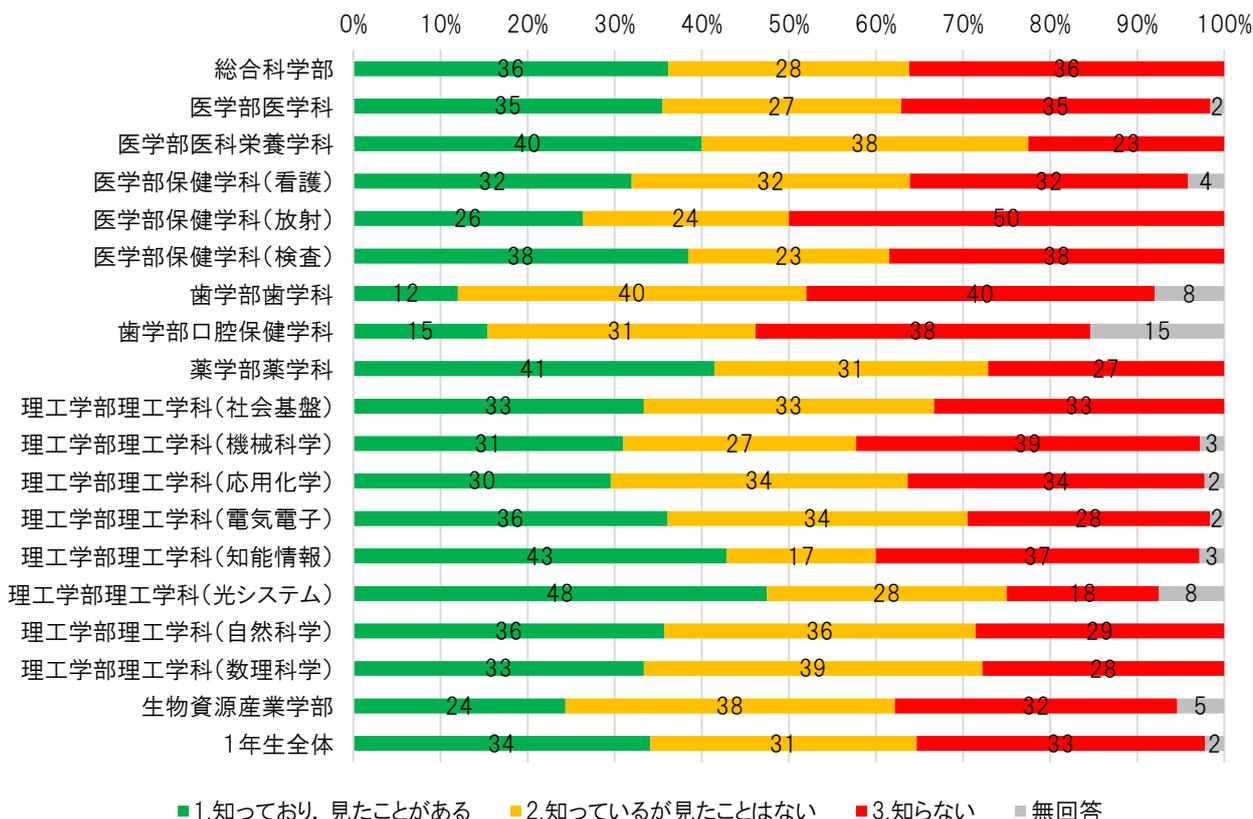
[126]徳島大学では、履修者が11名以上の授業では、自分の成績や成績の分布が確認できるようになっていることを知っていますか。また、役立っていますか



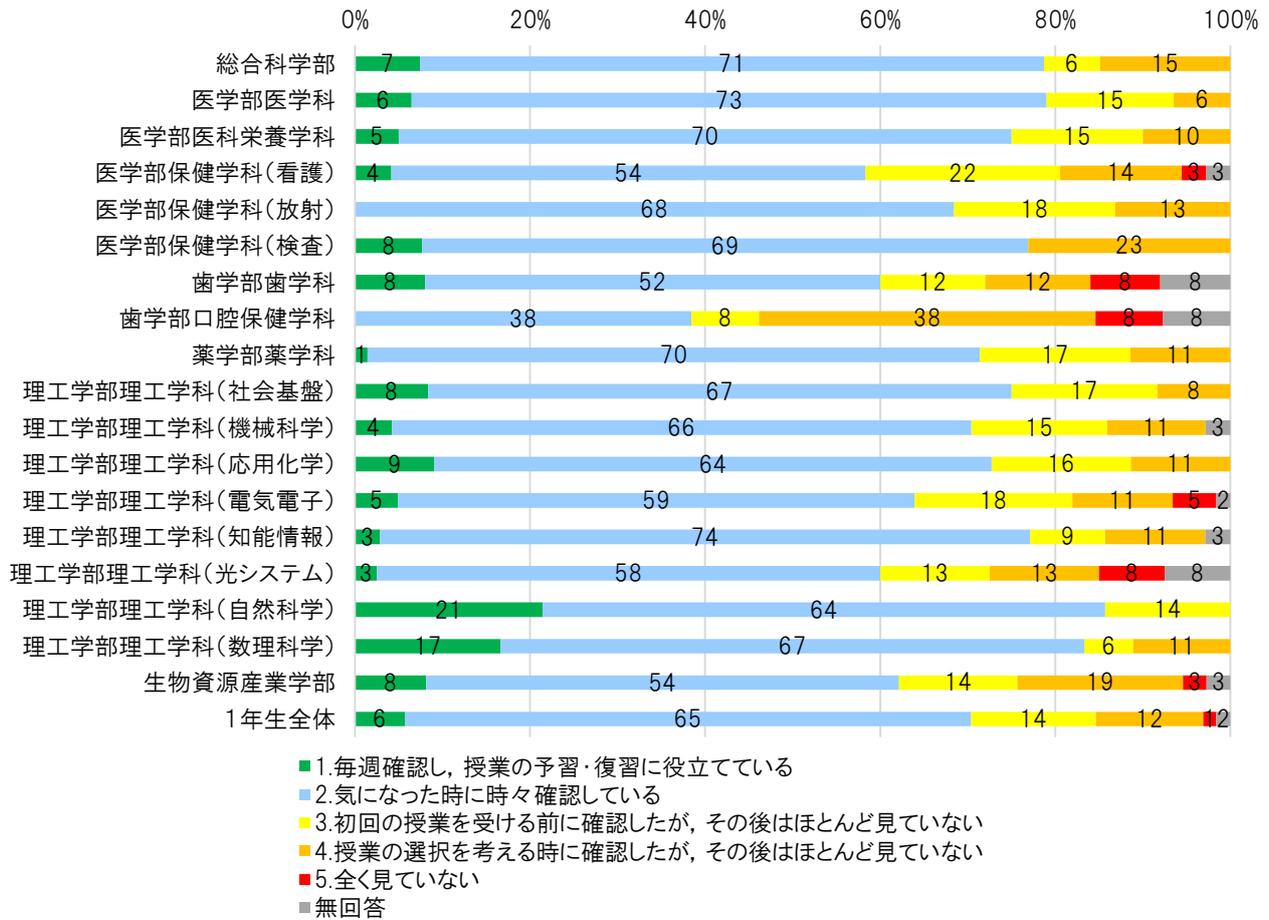
〔127〕徳島大学では、卒業に必要な履修科目やそれらの科目を学修していく順序等を一覧できる「カリキュラムマップ」を公開していることを知っていますか。



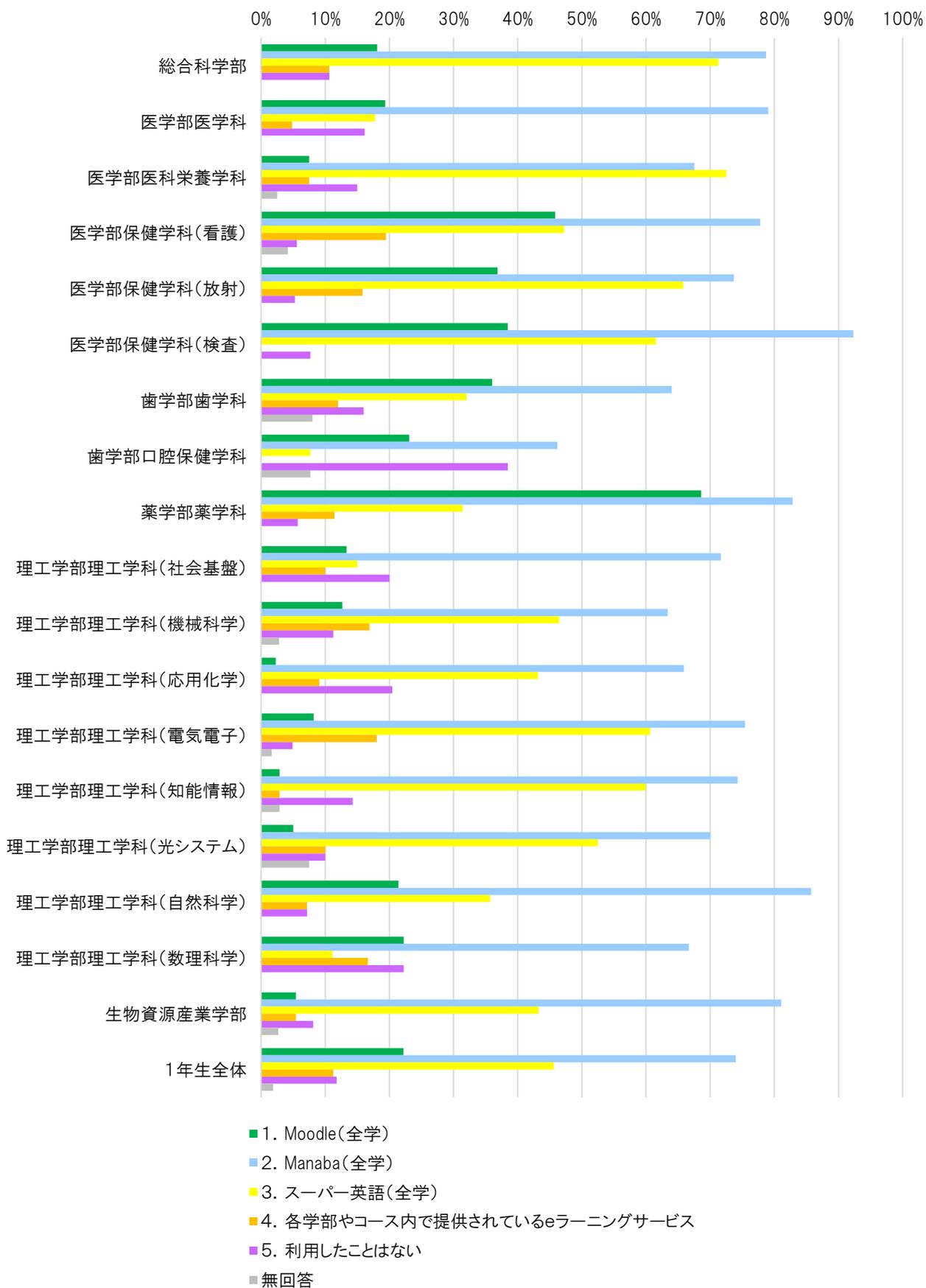
〔128〕徳島大学では、学部の授業科目のレベルに基づく学修の段階や順序を整理し適切な番号を付与した「科目ナンバリング」を公開していることを知っていますか。



[129]シラバスはどのように利用していますか。

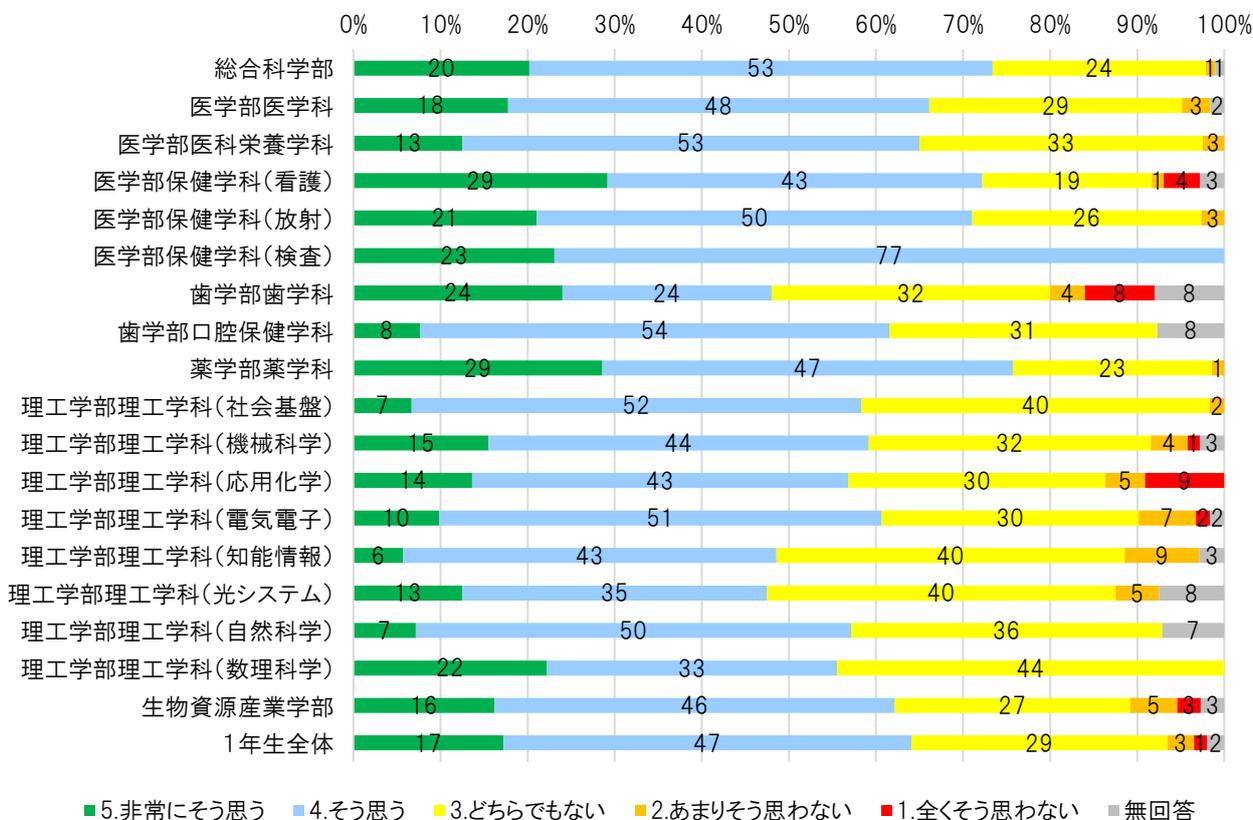


[130]徳島大学のeラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことのある人は以下の項目から利用したことのあるサービスを選んでください(複数選択可)

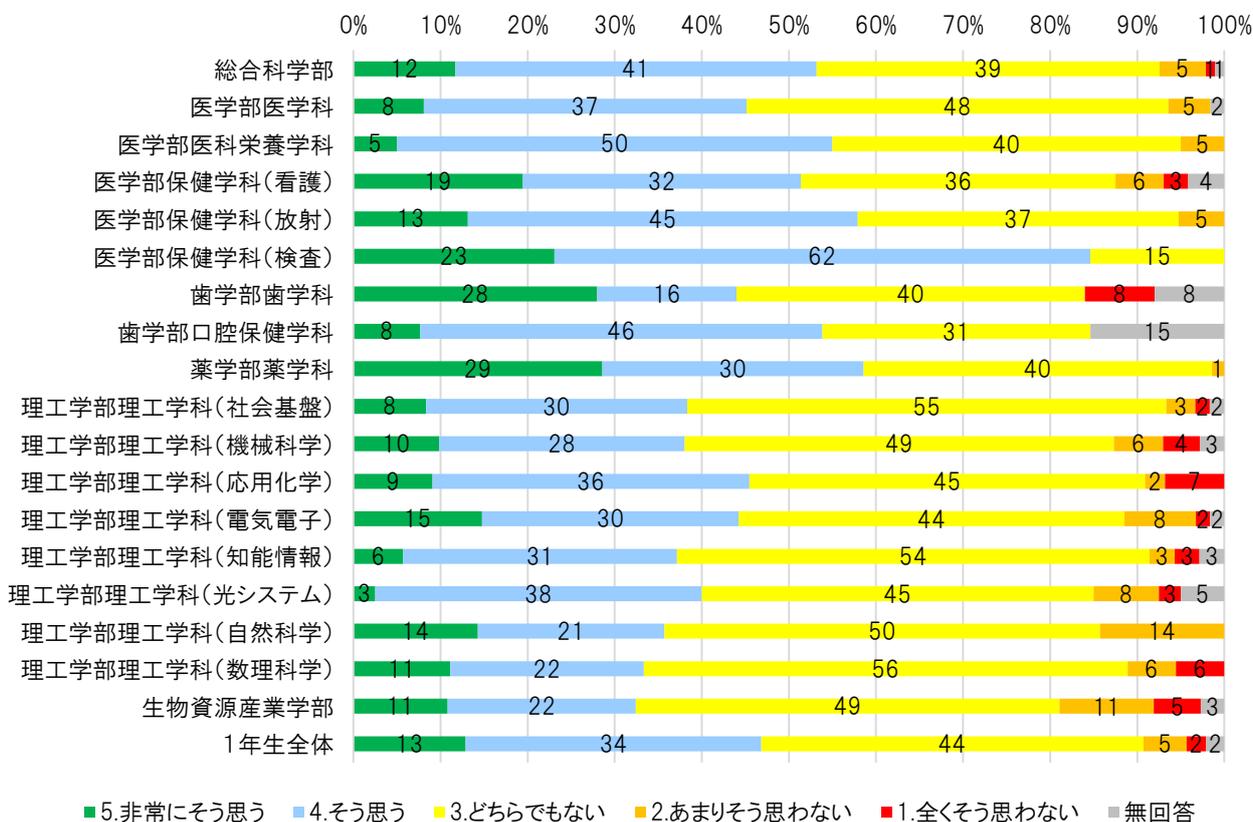


本学では、学生のみなさんに対して、上記のようなeラーニングサービスを提供しています。eラーニングサービスに関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

[131]本学のeラーニングサービスは、学修に役立つ

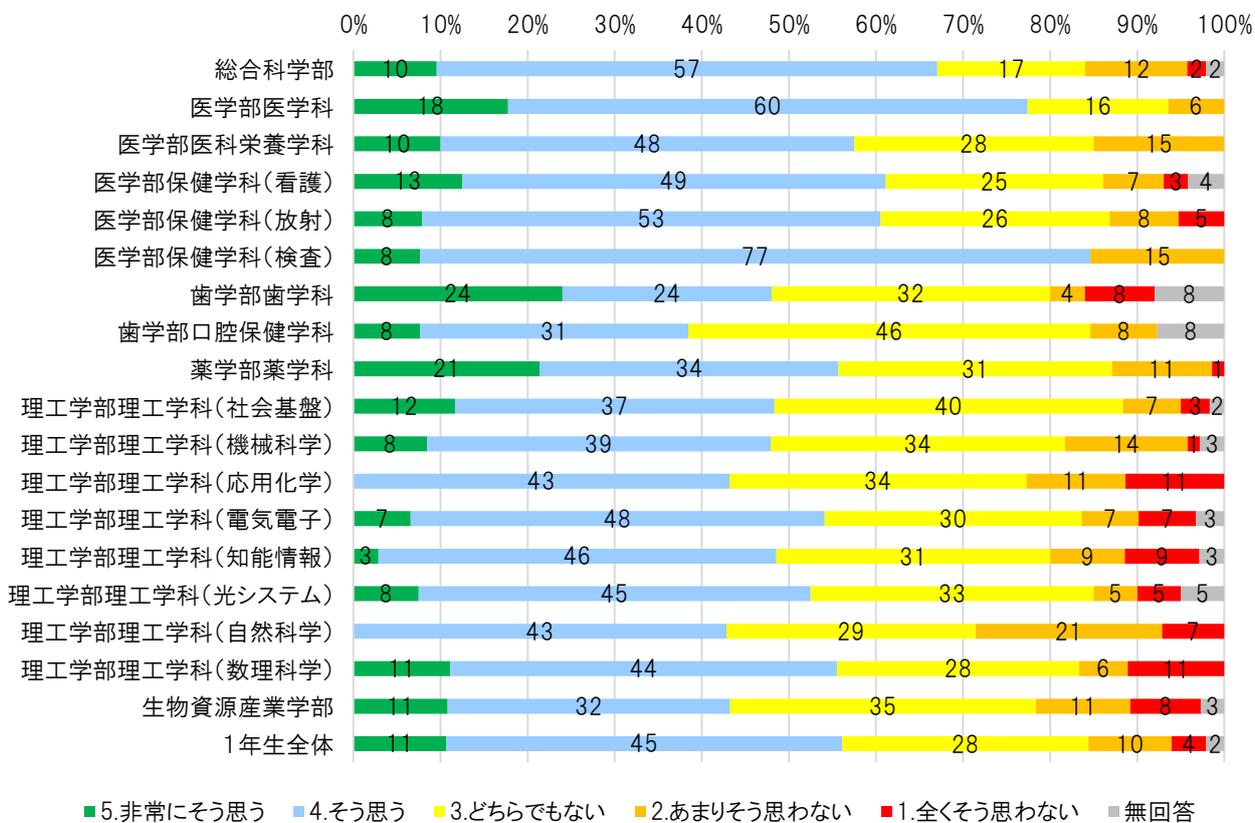


[132]本学が提供しているようなオンライン学修科目を、今後も増やした方が良いと思うか

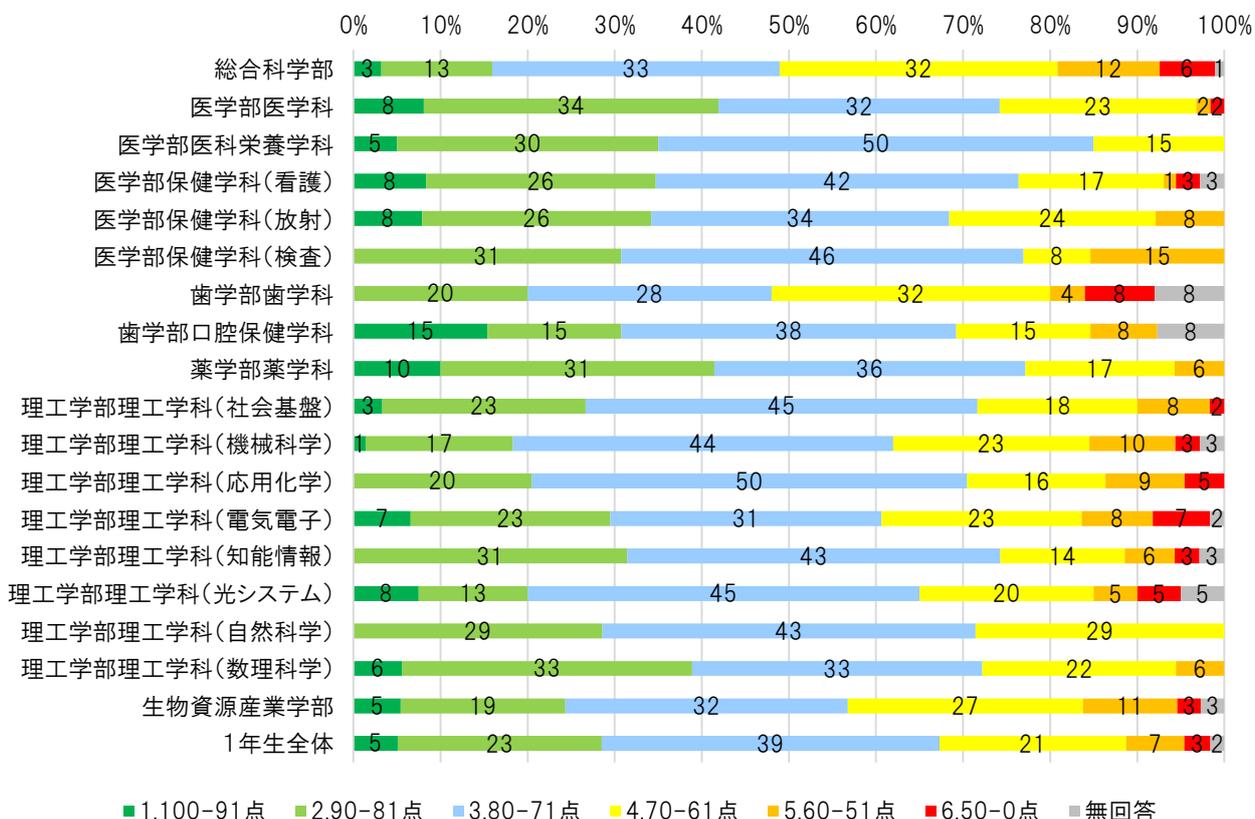


本学では、学生のみなさんに対して、授業の中間期および最後に「授業評価アンケート」をおこなっています。この「授業評価アンケート」に関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

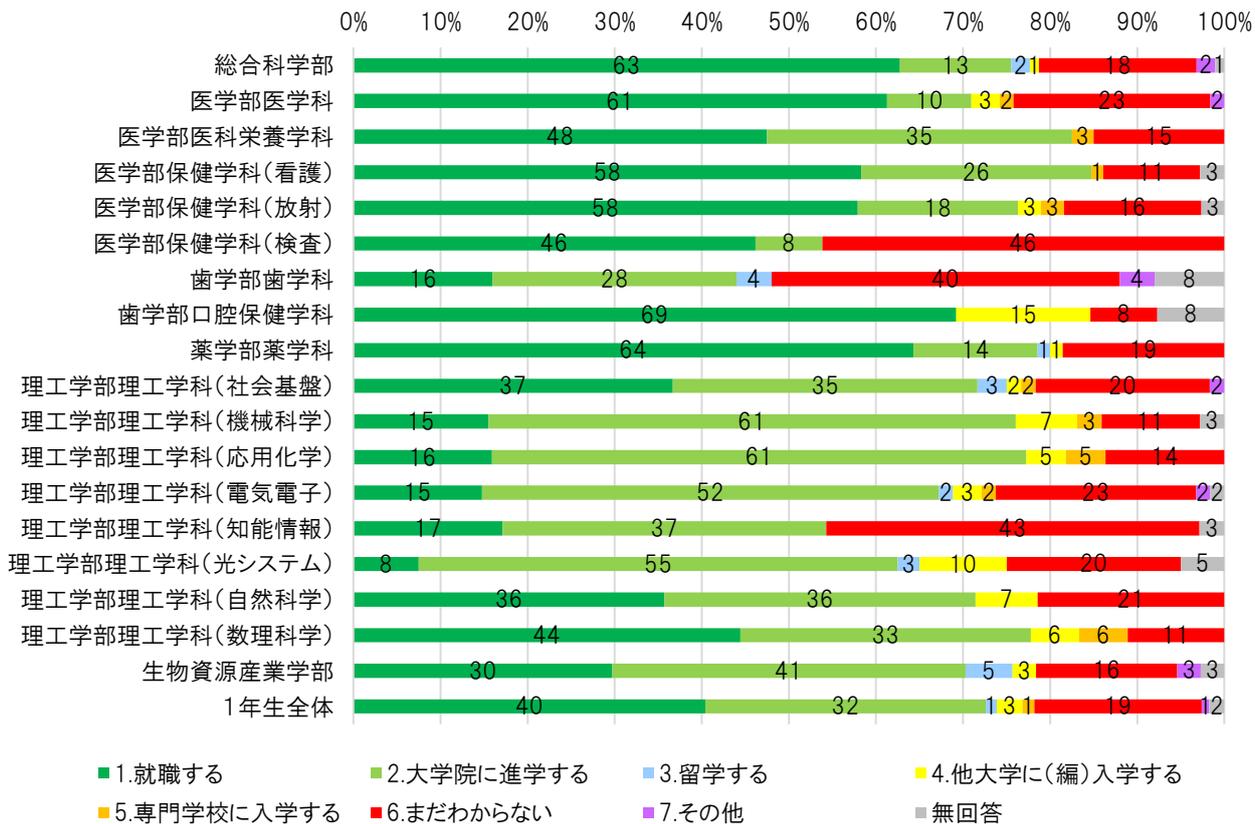
[133]「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である



[134]大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか。

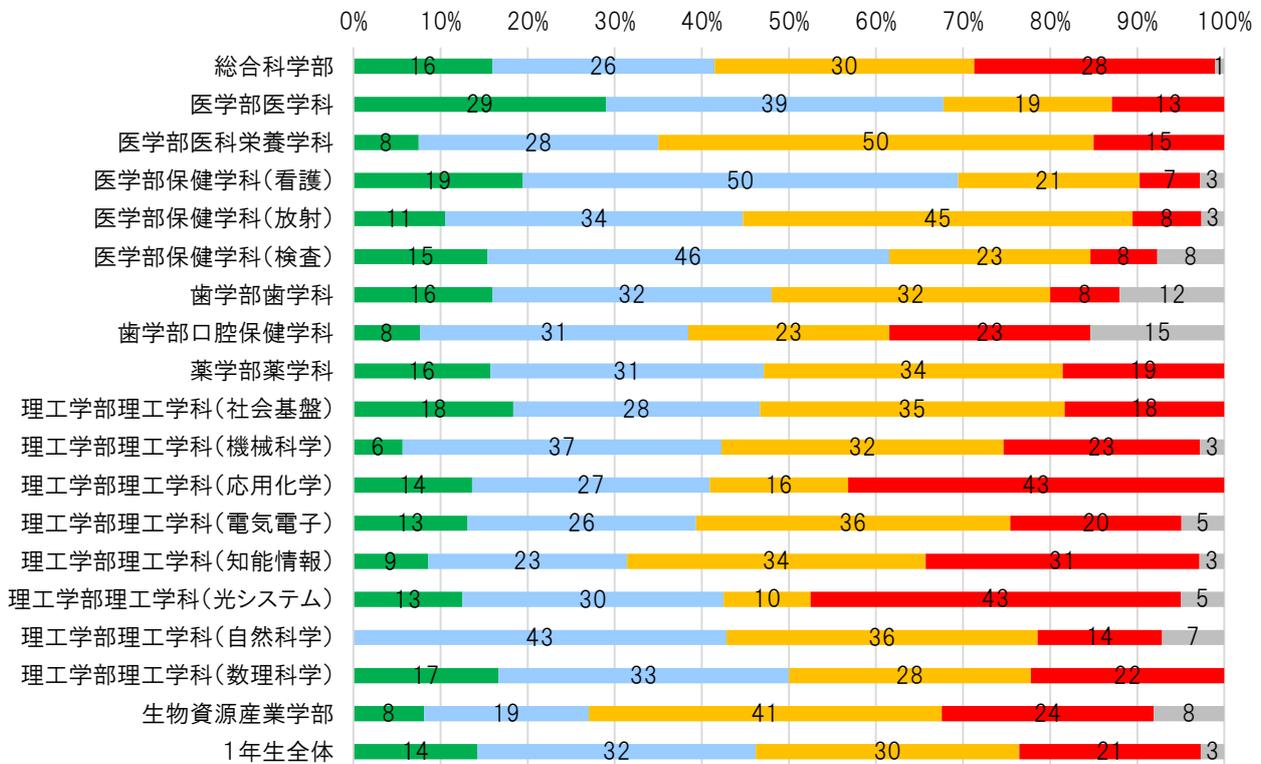


[135]あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。



[136] 将来の見通しに関する以下の2つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

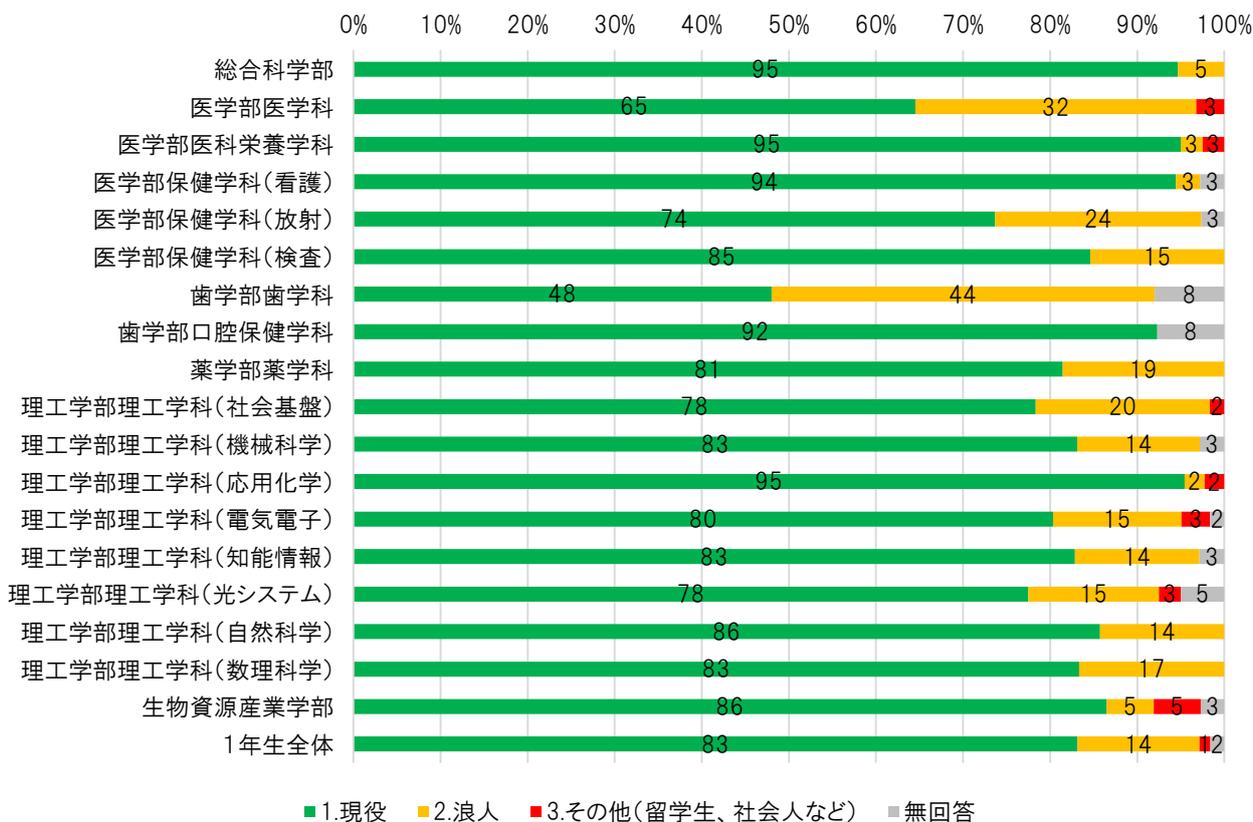
- あなたは、将来の見通し(将来こういう風でありたいという考え)を持っていますか。
- その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。また、それを実行していますか。



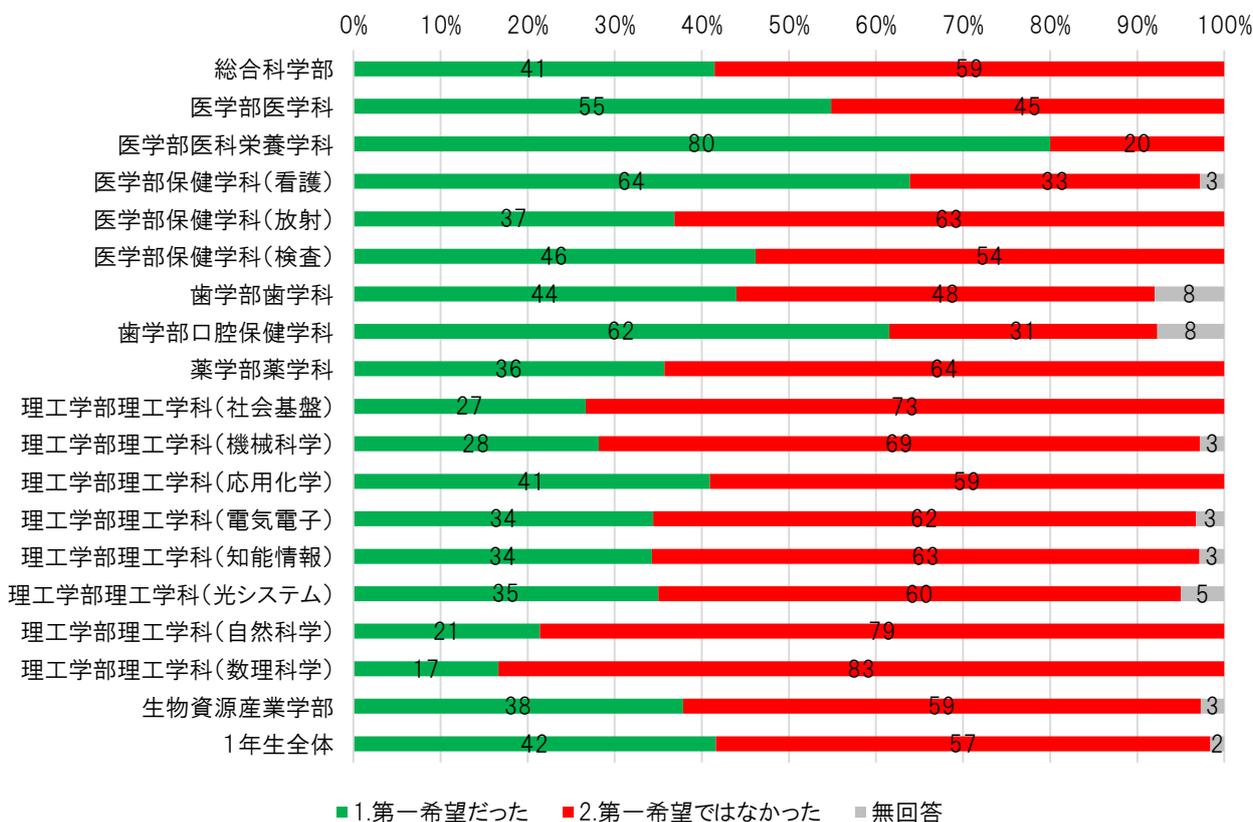
- 1. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているし、実行もしている
- 2. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているが、実行はできていない
- 3. 将来の見通しを持っている+何をすべきかわからない
- 4. 将来の見通しを持っていない
- 無回答

V. 最後に、大学に入学する前や高校時代のことについておうかがいします。

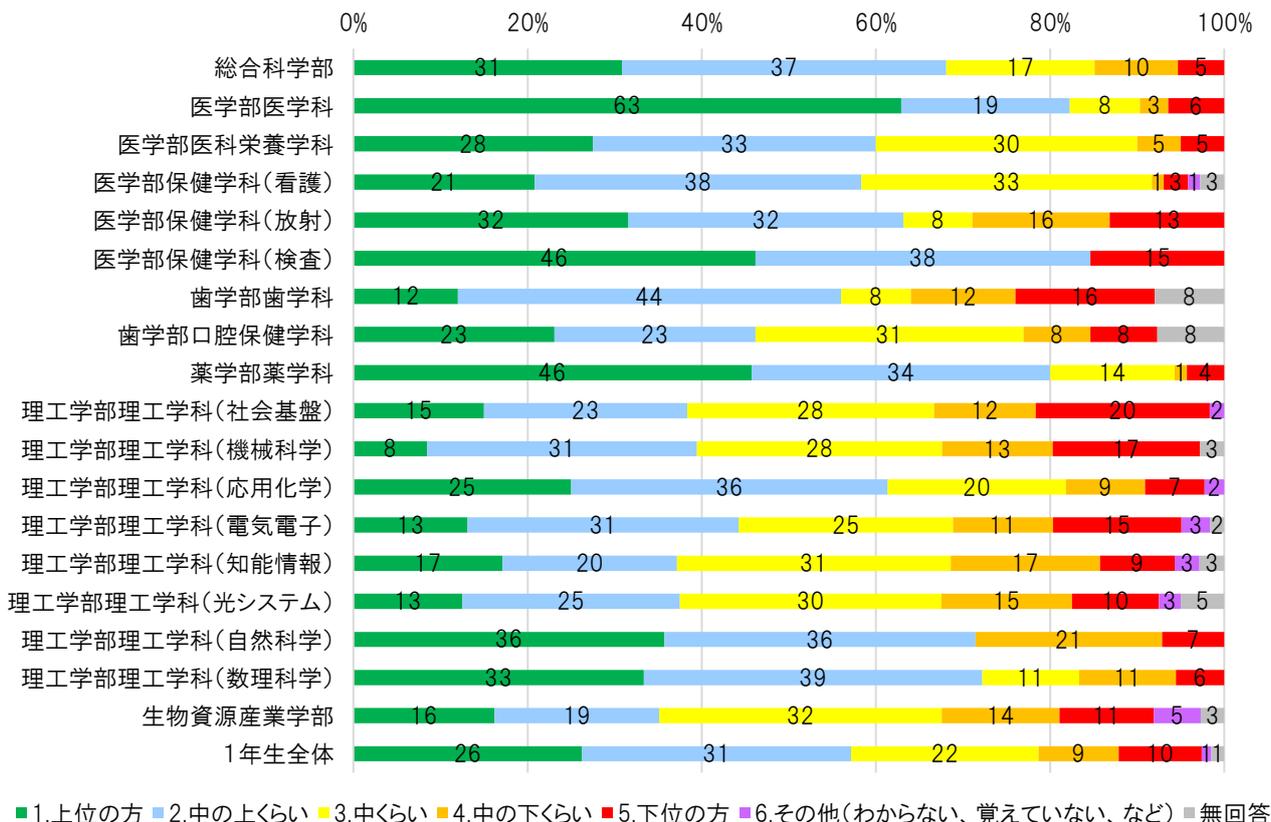
[137]あなたは現役で本学に入学しましたが、それとも浪人しましたか。



[138]あなたの志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。

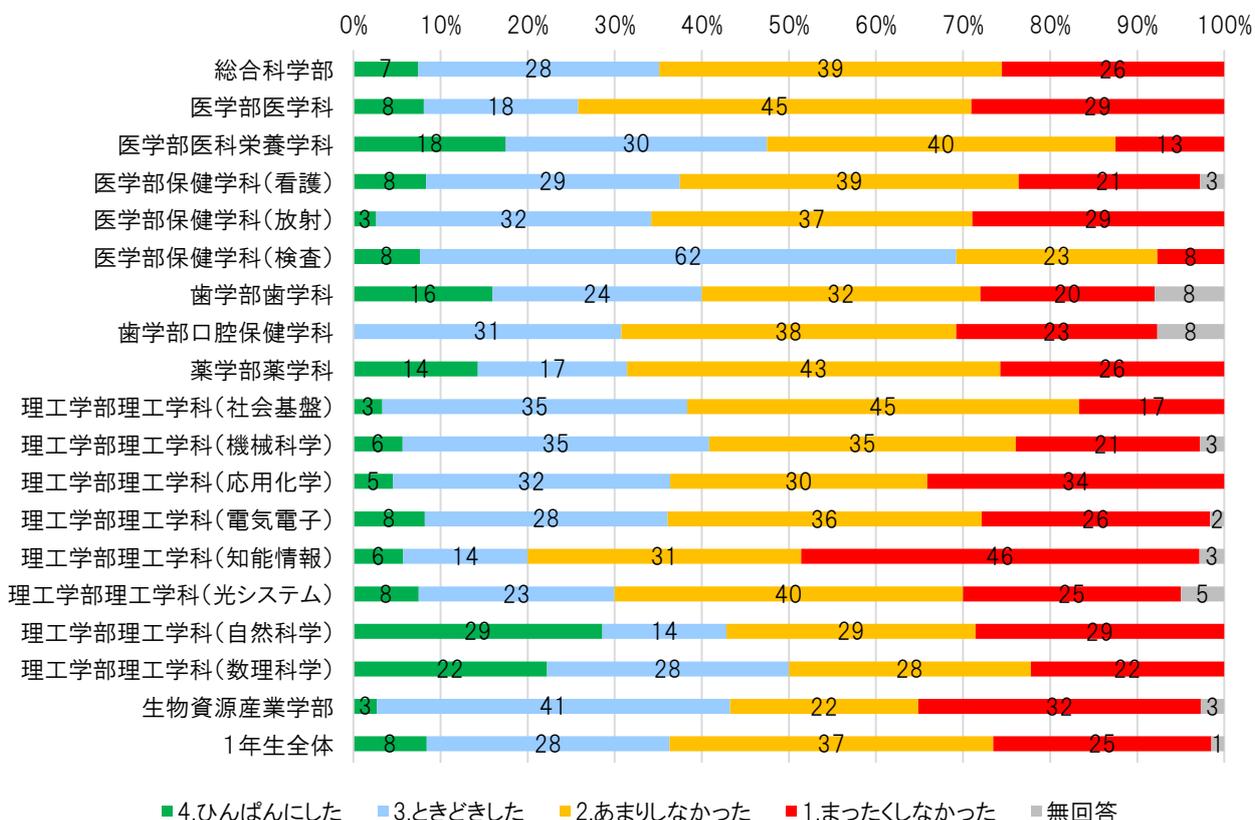


[139]あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

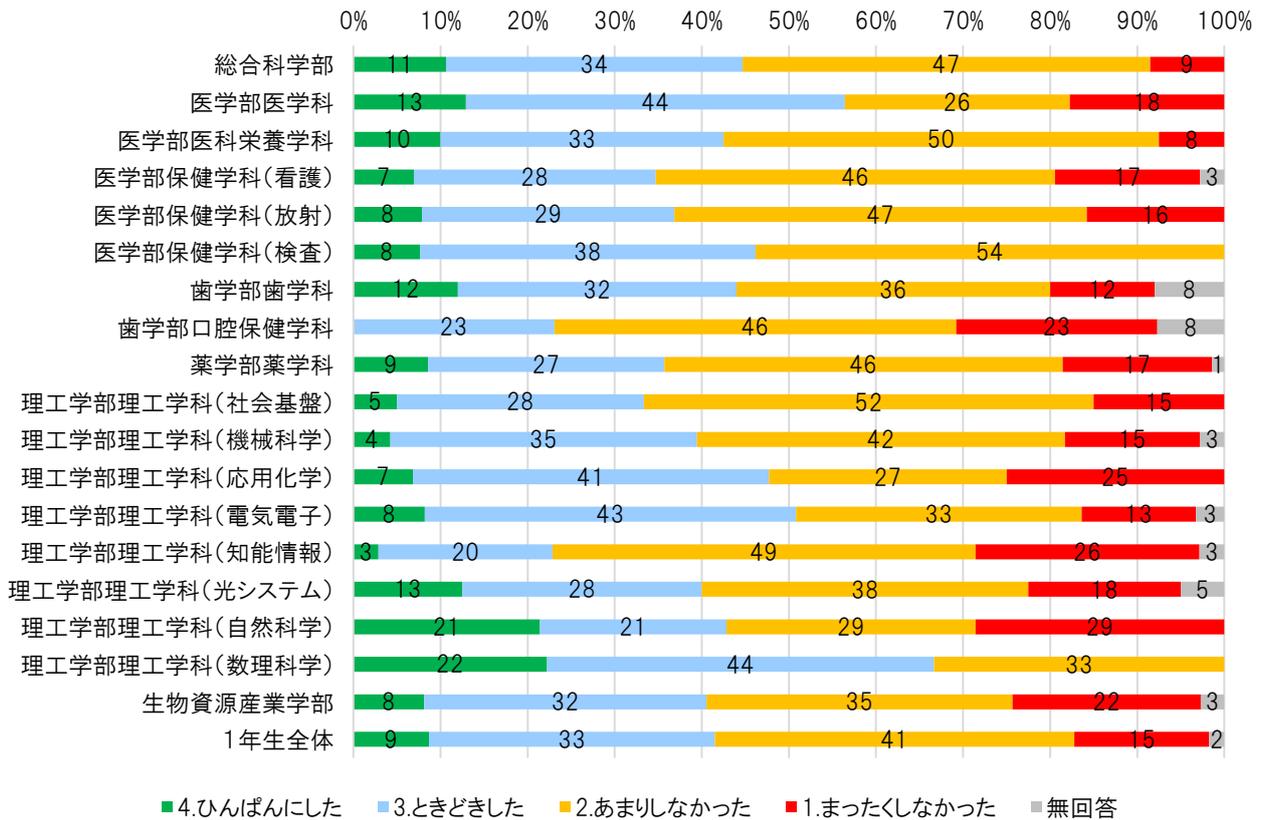


あなたが高校3年生だった時、次のことがらをどの程度しましたか。

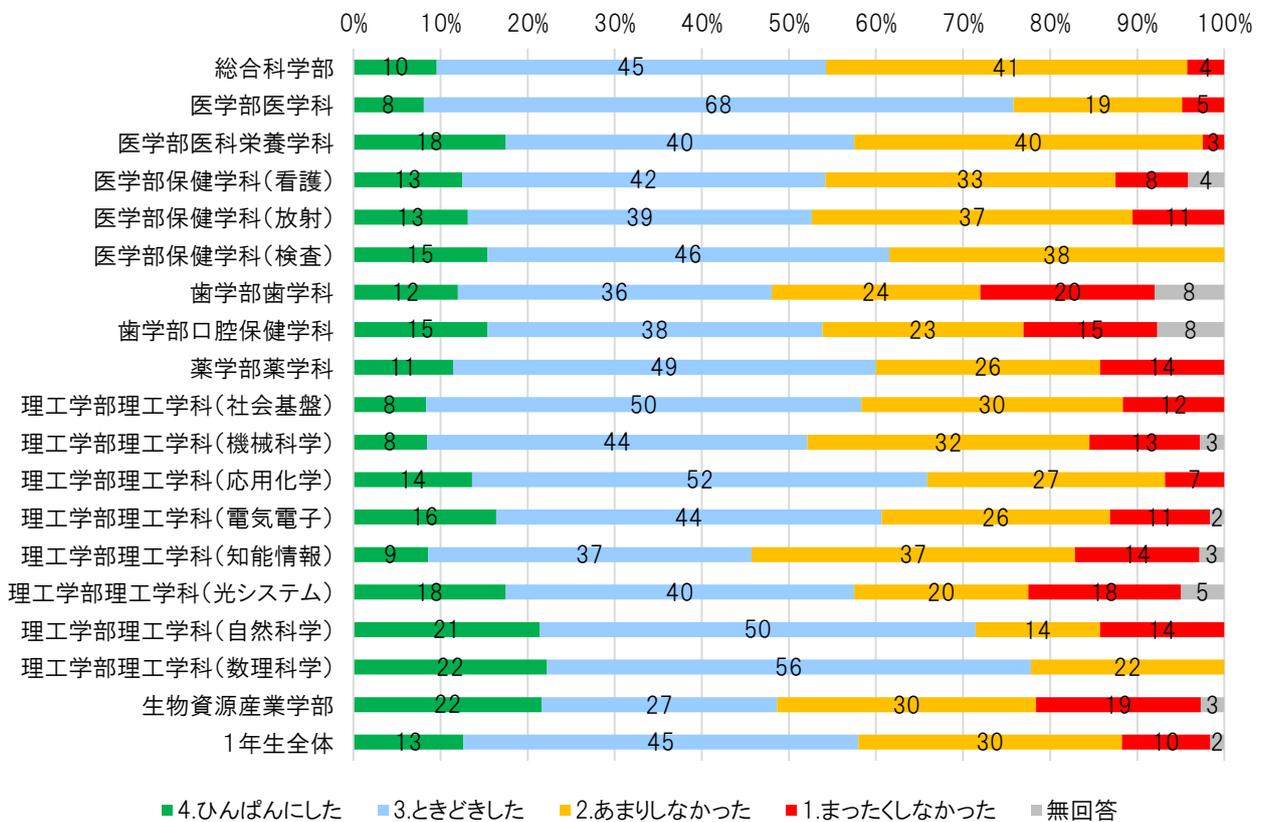
[140]授業中に質問した



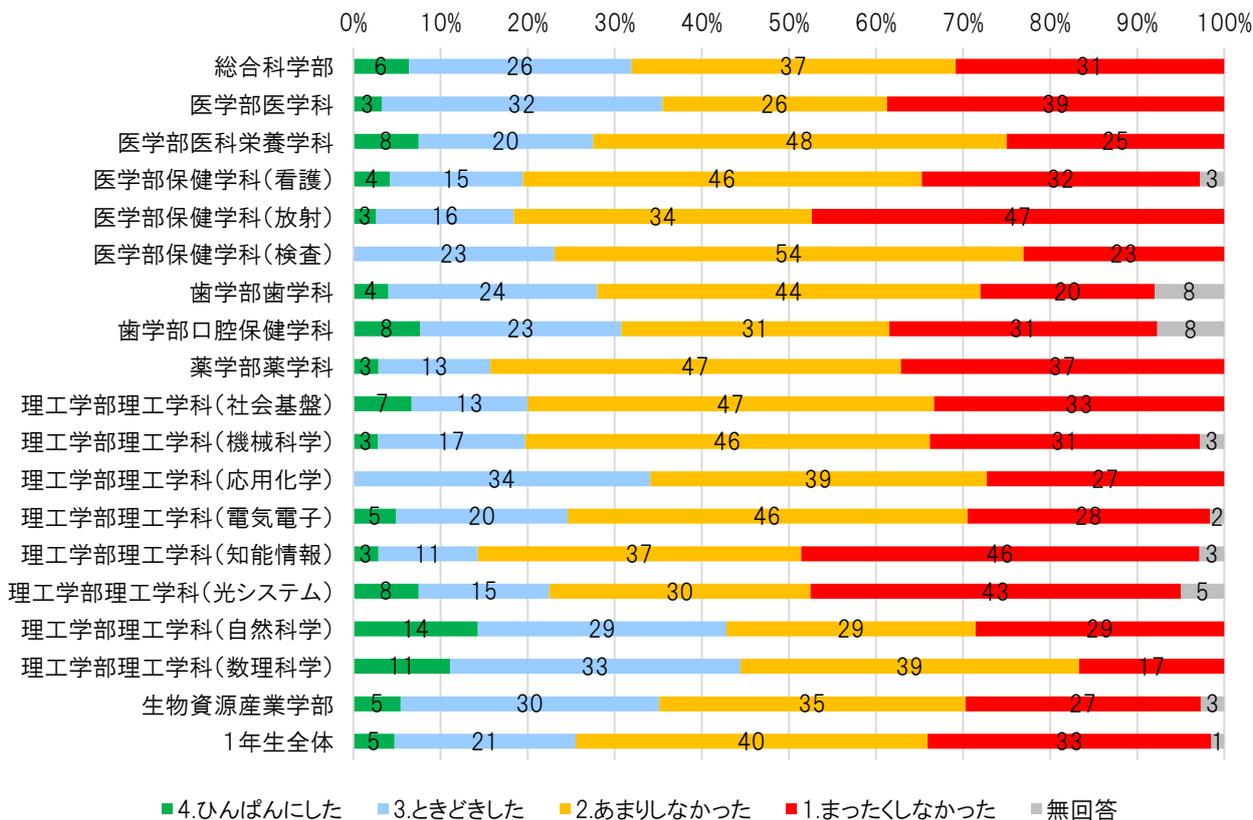
[141]自分の意見を論理的に主張した



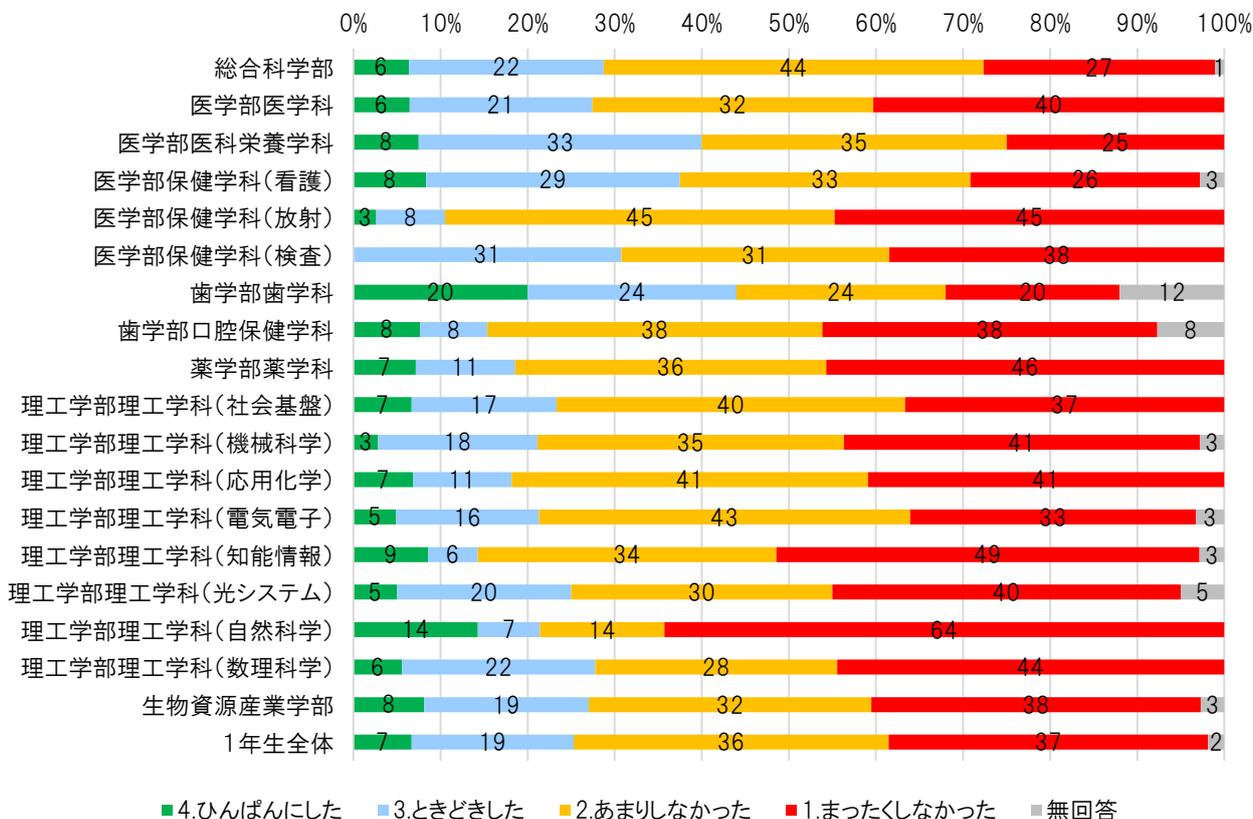
[142]問題の解決方法を探し、それを他の人に説明した



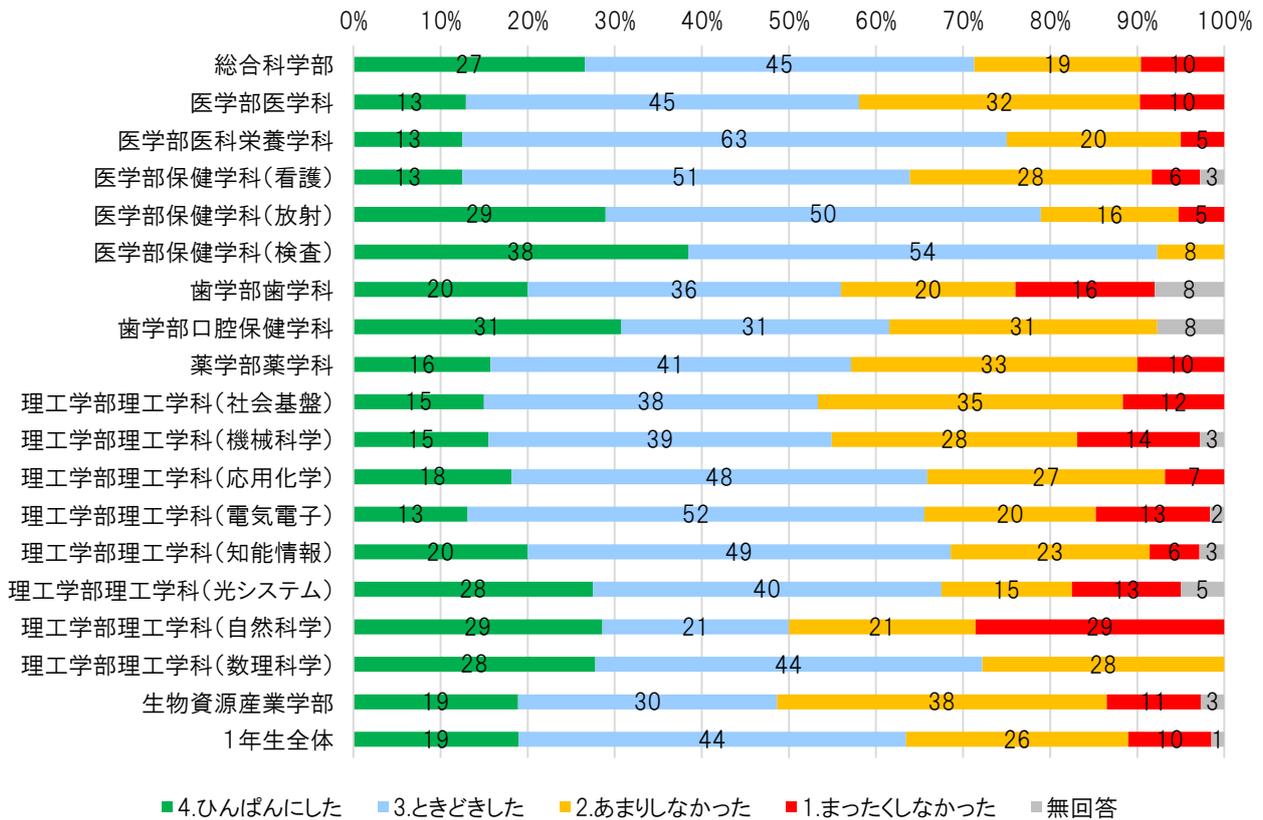
[143] 科学的研究の記事や論文を読んだ



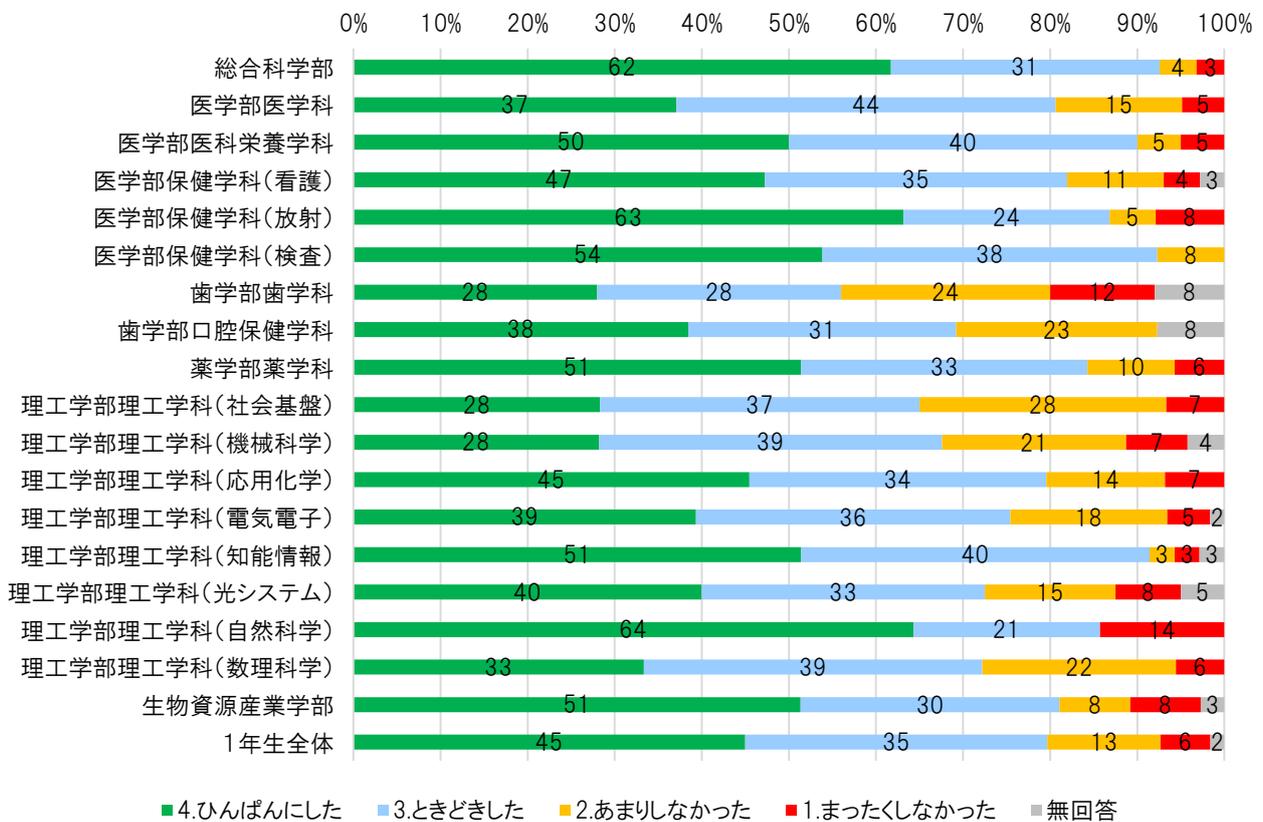
[144] 自発的に作文の練習をした



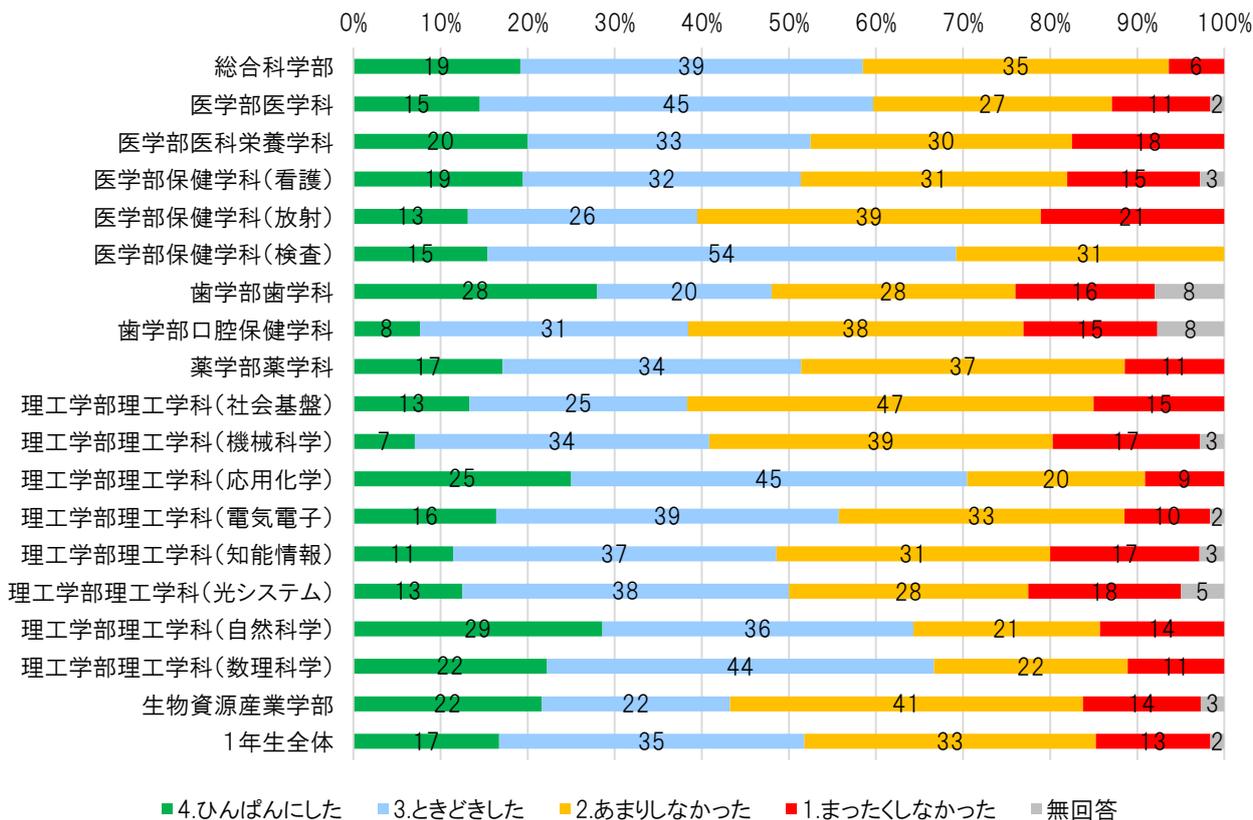
[145]インターネット上の情報が事実かどうか確認した



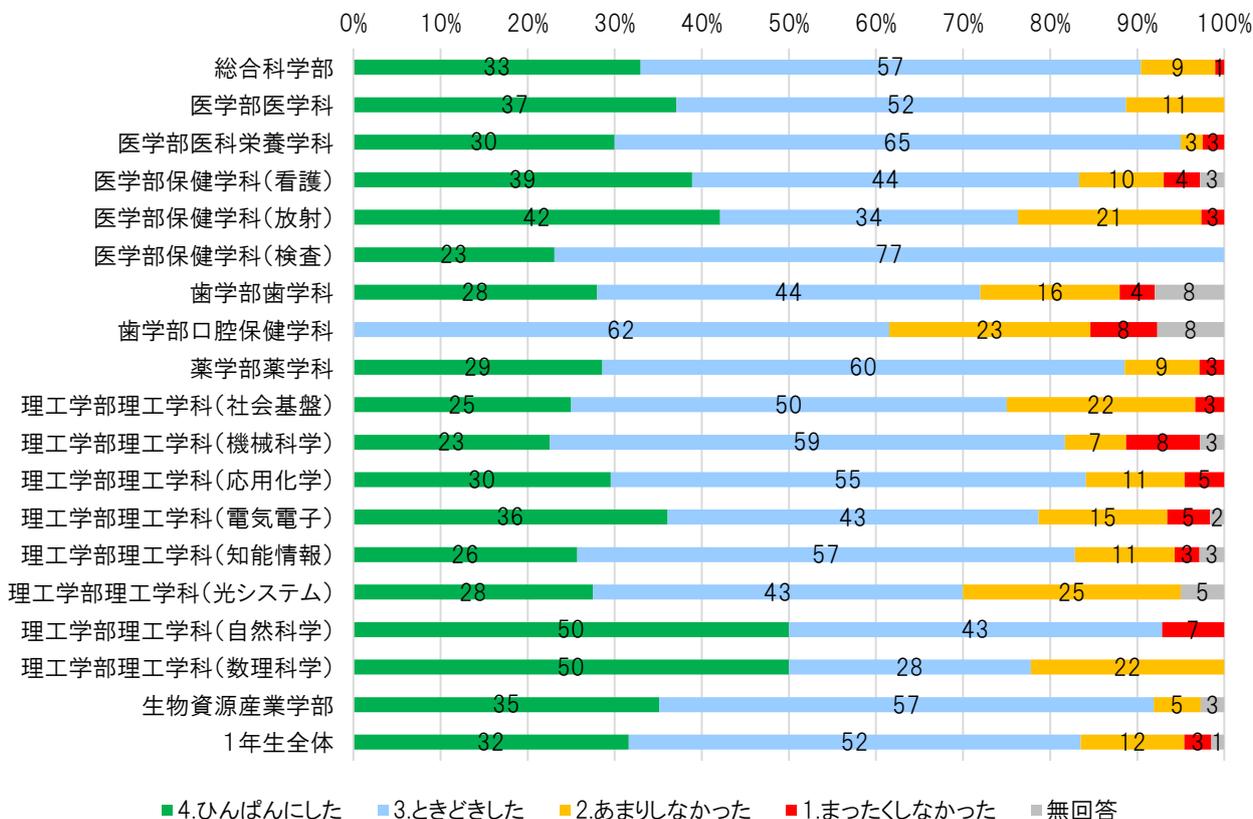
[146]授業の予習や復習、宿題をした



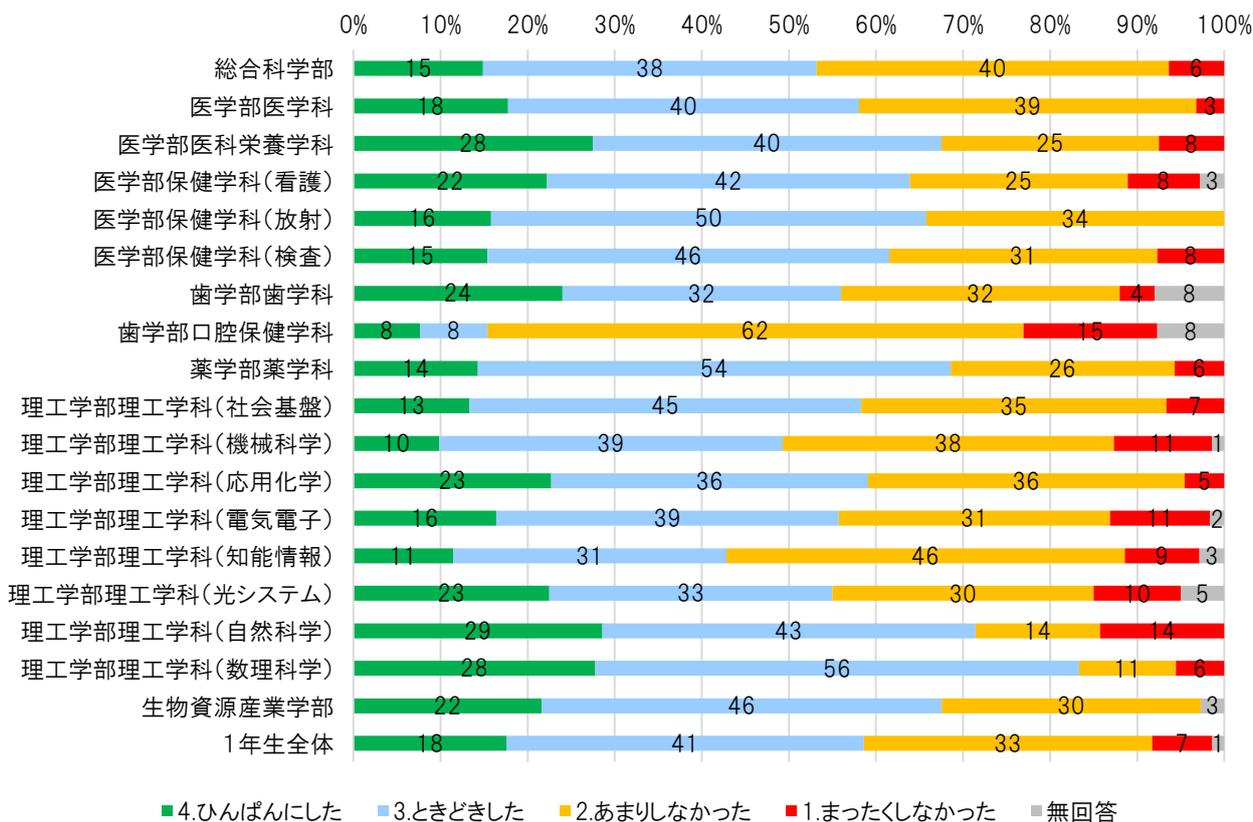
[147]授業以外に興味のあることを自分で勉強した



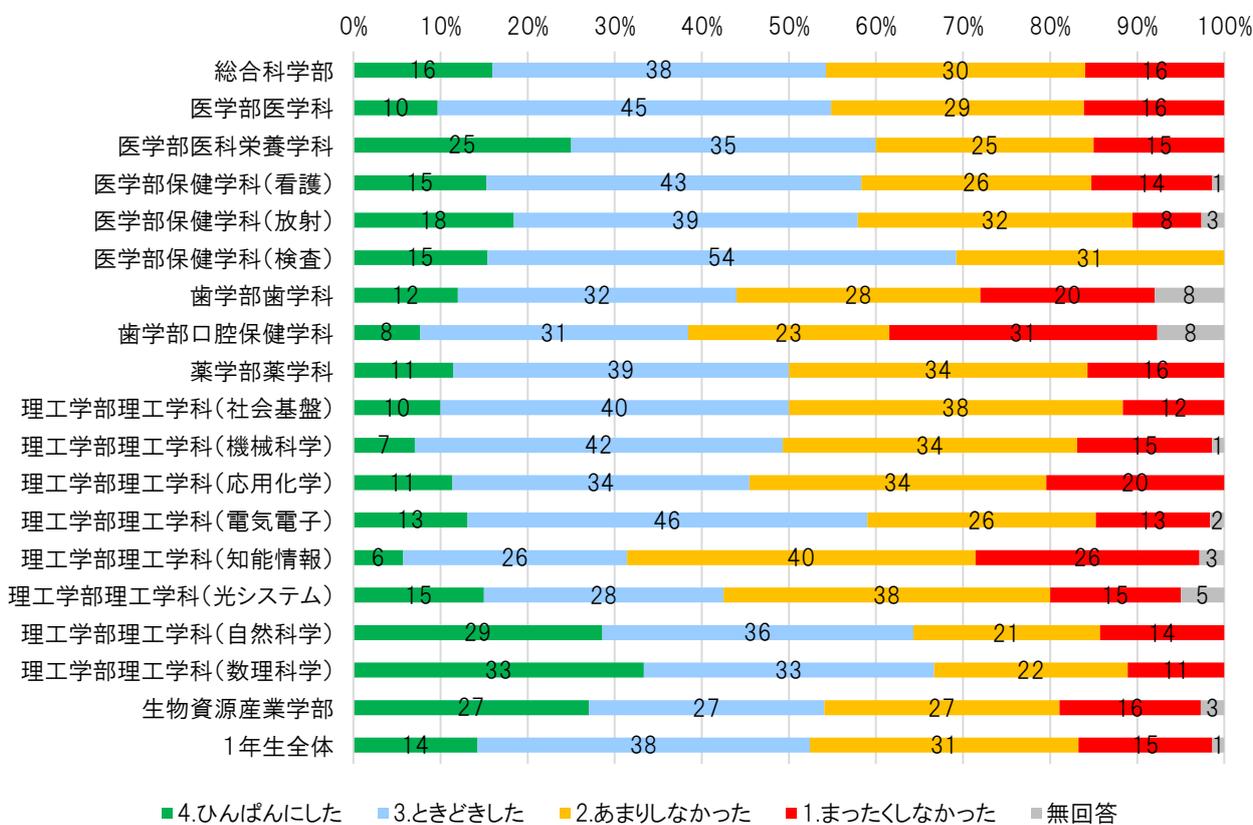
[148]自分の失敗から学んだ



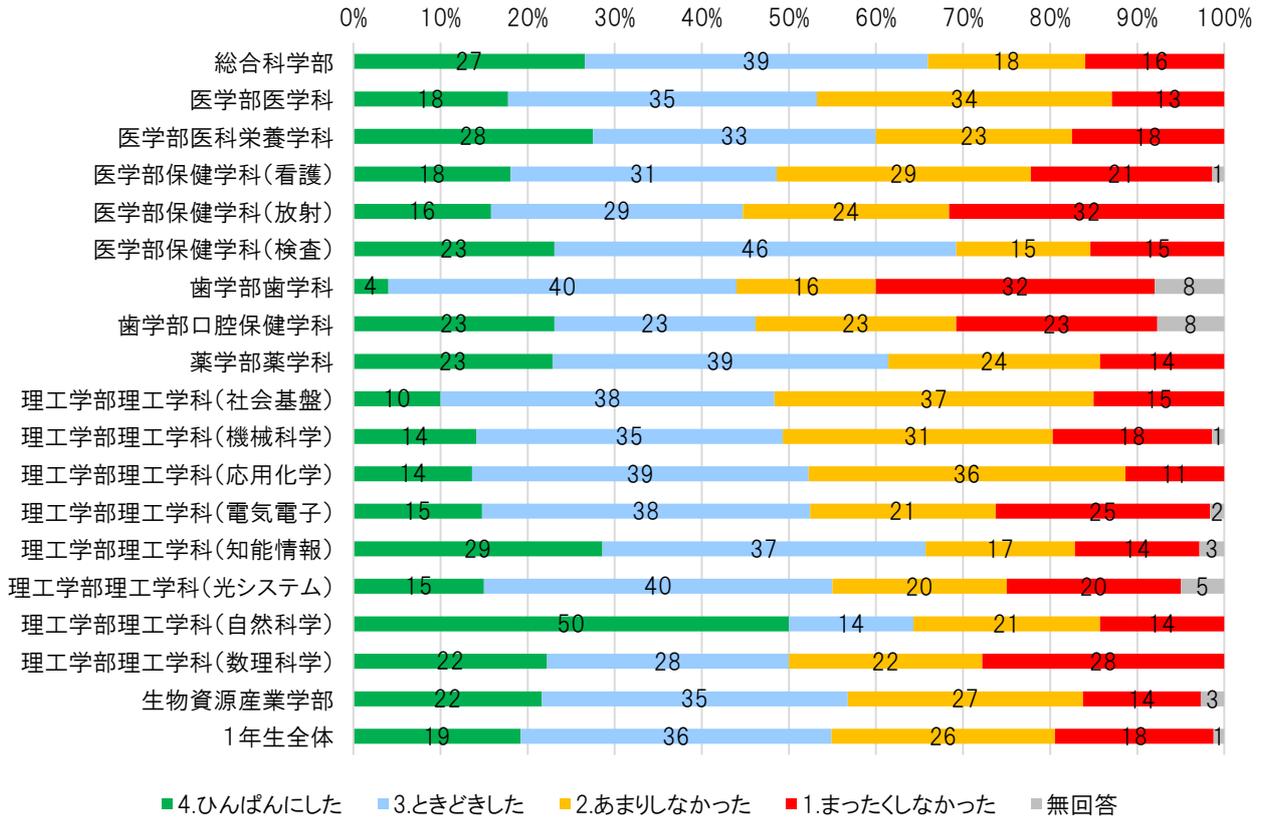
[149] 困難なことにあえて挑戦した



[150] 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた



[151]読書をした(マンガ・雑誌を除く)



3年生調査 設問

I. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

〔1〕徳島大学学習に関する実態調査（大学 IR コンソーシアム調査）の主旨を確認し、データ利用について同意してください。

1. 同意する

※徳島大学学習に関する実態調査の主旨

「徳島大学学習に関する実態調査」は、学生の学習の実態を把握し、教育活動の効果を検証し、今後の改善に活かすために実施します。調査データは統計的に処理され、成績等のデータとともに分析を行うことがあります。個人を特定したり、成績に影響させることはありません。ただし、回答率が低い場合は、回答を促す連絡を個人にする場合があります。

また、複数の大学の状況と比較するために、調査データを本学が加盟している大学 IR コンソーシアムの学生調査にも使用し、他の加盟校（約 50 校）と集計結果を共有しますが、その場合も個人を特定したり、成績に影響させることはありません。

〔2〕あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。

1. 30分未満
2. 30分以上－1時間未満
3. 1時間以上－1時間30分未満
4. 1時間30分以上－2時間未満
5. 2時間以上

〔3〕あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。

1. 家族または親戚と暮らしている
2. アパート・学生マンションでひとり暮らし
3. 大学寮や合宿所
4. その他

II. 現在のあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

	ひんばん にあった	ときどき あった	あまり なかった	まったく なかった
〔4〕 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、 学生が体験的に学ぶ	4	3	2	1
〔5〕 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ	4	3	2	1
〔6〕 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、 教員が説明する	4	3	2	1
〔7〕 授業の一環でボランティア活動をする	4	3	2	1
〔8〕 学生自身が文献や資料を調べる	4	3	2	1
〔9〕 定期的に小テストやレポートが課される	4	3	2	1

[10]	教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する	4	3	2	1
[11]	学生が自分の考えや研究を発表する	4	3	2	1
[12]	授業中に学生同士が議論をする	4	3	2	1
[13]	授業で検討するテーマを学生が設定する	4	3	2	1
[14]	授業の進め方に学生の意見が取り入れられる	4	3	2	1
[15]	取りたい授業を履修登録できなかった	4	3	2	1
[16]	出席することが重視される	4	3	2	1
[17]	TA や SA などの授業補助者から補助を受ける	4	3	2	1

[18] 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

1. 80%以上 2. 70%以上 3. 60%以上 4. 60%未満

[19] あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。(複数回答可)

1. 課題演習 2. 質疑応答 3. 振り返り※1 4. グループワーク
5. ディスカッション 6. 反転授業※2 7. ラーニング・ポートフォリオ※3

※1 学んだことについてまとめ、その内容を学生同士あるいは教員が確認しフィードバックを行う方法

※2 授業を受講する前に講義や説明の部分を事前に配付資料や動画で学修し、その内容に関する確認課題(簡単な復習テスト等)を行い、対面の授業時間内では講義以外の授業方法を取り入れて、学生の能動的な学修を促進する方法

※3 授業のある単元が終了した後で、学生が学修(実験、実習、演習等)に関する振り返りを行い、その内容を記述し、他者と共有できる形で蓄積し、フィードバックを受けることができるシステムまたは教材等を取り入れた方法

大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

	ひんばんにした	ときどきした	あまりしなかった	まったくしなかった	
[20]	授業課題のために図書館の資料を利用した	4	3	2	1
[21]	授業課題のために Web 上の情報を利用した	4	3	2	1
[22]	インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした	4	3	2	1
[23]	提出期限までに授業課題を完成できなかった	4	3	2	1
[24]	授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした	4	3	2	1
[25]	授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた	4	3	2	1
[26]	授業を欠席した	4	3	2	1

[27]	授業に遅刻した	4	3	2	1
[28]	授業をつまらなく感じた	4	3	2	1
[29]	授業中に居眠りをした	4	3	2	1
[30]	学内での学習支援をうけた（教職員に学習に関する相談をした、学内の学習支援室を利用した等）	4	3	2	1
[31]	単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した	4	3	2	1
[32]	大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）	4	3	2	1
[33]	教員に親近感を感じた	4	3	2	1

今年度になってから、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

	全然ない	1時間未満	1～2時間	3～5時間	6～10時間	11～15時間	16～20時間	20時間以上	
[34]	授業や実験に出る	1	2	3	4	5	6	7	8
[35]	授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[36]	授業時間外に、授業に関連しない勉強をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[37]	オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する	1	2	3	4	5	6	7	8
[38]	部活動や同好会に参加する	1	2	3	4	5	6	7	8
[39]	大学外でアルバイトや仕事をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[40]	読書をする（マンガ・雑誌を除く）	1	2	3	4	5	6	7	8
[41]	個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）	1	2	3	4	5	6	7	8

入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

	大きく増えた	増えた	変化なし	減った	大きく減った	
[42]	一般的な教養	5	4	3	2	1
[43]	分析力や問題解決能力	5	4	3	2	1
[44]	専門分野や学科の知識	5	4	3	2	1
[45]	批判的に考える能力	5	4	3	2	1
[46]	異文化の人々に関する知識	5	4	3	2	1
[47]	リーダーシップの能力	5	4	3	2	1
[48]	人間関係を構築する能力	5	4	3	2	1
[49]	他の人と協力して物事を遂行する能力	5	4	3	2	1

[50]	異文化の人々と協力する能力	5	4	3	2	1
[51]	地域社会が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[52]	国民が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[53]	文章表現の能力	5	4	3	2	1
[54]	外国語の運用能力	5	4	3	2	1
[55]	コミュニケーションの能力	5	4	3	2	1
[56]	プレゼンテーションの能力	5	4	3	2	1
[57]	数理的な能力	5	4	3	2	1
[58]	コンピュータの操作能力	5	4	3	2	1
[59]	時間を効果的に利用する能力	5	4	3	2	1
[60]	グローバルな問題の理解	5	4	3	2	1
[61]	卒業後に就職するための準備の度合い	5	4	3	2	1
[62]	職業人・社会の一員として求められる倫理観	5	4	3	2	1
[63]	生涯学び続け、教養・専門性を高める能力	5	4	3	2	1
[64]	必要な情報を収集・取捨選択する能力	5	4	3	2	1
[65]	データを読み、理解し、活用する能力	5	4	3	2	1
[66]	新しいことに積極的に挑戦する姿勢	5	4	3	2	1
[67]	ストレスに対処する能力	5	4	3	2	1
[68]	柔軟に発想し、表現する能力	5	4	3	2	1

[69] 大学における教育に対して、何を期待しますか。(複数回答可)

1. 社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能
2. 人生を支える幅広い教養
3. 資格取得に必要な知識あるいはその受験に必要な単位
4. 特に期待するものはない

[70] 大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。

- | | |
|----------------|------------------------|
| 1. 一般知識・教養 | 2. 専門的知識 |
| 3. 課題発見・解決力 | 4. チームで目標を達成するマネジメント能力 |
| 5. コミュニケーション能力 | 6. 討論する能力 |
| 7. 語学力 | 8. 情報機器を活用する力 |
| 9. 論理的な文章を書く能力 | |

[71] 徳島大学では「GPA（自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値）」を成績表に記載しています。自身の「GPA」について確認していますか。

1. 確認している
2. 確認していない

[72] レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)

1. 教科書・参考書・授業での配付資料
2. インターネット
3. 教員
4. 友人・先輩
5. 図書館の書籍・文献(電子版含む)
6. 講義ノート

[73] 教科書を購入していない場合の理由は何ですか。(複数回答可)

1. 必要な教科書は全て購入している
2. 教科書がなくても授業内容が理解できる
3. 教科書が高価である
4. 先輩、友人の本を使う
5. 図書館などの本を利用する
6. 購入しても、読まない。内容が理解できない
7. 講義資料・試験対策プリントで学修する

[74] 大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)

1. 教養や社会問題の理解に役立つ読書
2. 語学など自分の将来を考えたスキルの修得
3. 数学や理科のような基礎的能力を強化するための学修
4. 自分の興味あるテーマの探究
5. 資格取得や受験に備えた学修
6. 卒業研究につながる実験・調査・研究レビュー等
7. 大学の授業以外で、実行や計画していることはない

[75] 高校で履修していない数学、物理、化学、生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)

1. 高校の教科書、参考書を使い、勉強した
2. 教養教育(全学共通教育)で開講されている高大接続科目や自然科学入門又はその他の科目を受講した
3. HP上の徳島大学LMS(リメディアル教材)を利用して勉強した
4. 勉強の必要性を感じたが、何もしていない
5. 支障を感じないので何もしていない

III. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から自己評価した場合に、現在、到達していると思うレベルを1つずつ答えてください。

レベル	[76] 聞く力	回答欄	
低	A1	はっきりと、ゆっくり話してもらえれば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	↓ 1
	A2	最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。	2
	B1	身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。	3
高	B2	テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。	4

C1	特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	5
C2	母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。	6



〔77〕読む力

回答欄
↓
1
2
3
4
5
6

A1	掲示やポスター、カタログなどの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	1
A2	ごく短い簡単な文章や、簡単で短い個人的な手紙は理解できる。	2
B1	日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単で個人的な手紙を理解できる。	3
B2	現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	4
C1	複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門の記事も理解できる。	5
C2	抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。	6



〔78〕会話力

回答欄
↓
1
2
3
4
5
6
7
8

A1.1	決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。	1
A1.2	家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。	2
A2.1	短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくいのが、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。	3
A2.2	準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。	4
B1	日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。	5
B2	身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。	6
C1	社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。	7
C2	いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。	8



〔79〕表現力

回答欄
↓
1
2
3
4
5
6

A1	住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	1
A2	家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。	2
B1	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語るができる。	3
B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。	4
C1	複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	5
C2	論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。	6



〔80〕書く力

回答欄
↓
1
2
3

A1	お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。	1
A2	簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。	2
B1	身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。	3

B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。	4
C1	手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。	5
C2	論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。	6

[81] どのように、英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)

1. テレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
2. 英会話スクールを利用している
3. 図書館または大学の英語教材、施設を利用して英語を勉強している
4. TOEIC、TOEFLや英検などの参考書、問題集を購入して勉強している
5. TOEIC、TOEFLや英検などの英語能力試験を受験している
6. 授業で使用している教科書、英語論文を勉強している
7. 大学が実施している英語のプログラムに参加して勉強している
8. 特に何もしていない

[82] アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外（インド、シンガポール等）などへの渡航経験（期間）についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを旨とした渡航経験があれば、その期間（複数回の経験がある場合は最長のもの）について1つ選んで回答してください。

1. 渡航したことはない
2. 10日未満
3. 10日以上1ヶ月未満
4. 1ヶ月以上6ヶ月未満
5. 6ヶ月以上

[83] 徳島大学における英語の授業についてどう思いますか。(複数回答可)

1. 教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である
2. もっと授業数を増やしてほしい
3. もっと授業数を減らしてほしい
4. もっと少人数のクラスにしてほしい
5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
6. 専門教育の英語の時間を増やしてほしい
7. 専門教育の英語のライティングに重点を置いた授業を増やしてほしい
8. 専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やしてほしい

IV. 次に、大学生活に対するあなたの考えや満足度についておうかがいします。

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらほどれくらいうまくいきましたか。

	とても うまく いった	いづらか うまく いった	あまり うまくいか なかった	まったく うまくいか なかった
--	-------------------	--------------------	----------------------	-----------------------

[84]	大学の学生向けサービスを上手に利用する	4	3	2	1
[85]	大学教員の学問的な期待を理解する	4	3	2	1
[86]	効果的に学習する技能を修得する	4	3	2	1
[87]	大学が求める水準に応じて学習する	4	3	2	1
[88]	時間を効果的に使う	4	3	2	1
[89]	大学教員と顔見知りになる	4	3	2	1
[90]	他の学生との友情を深める	4	3	2	1

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

		非常にそう思う	そう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	全くそう思わない
[91]	自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる	5	4	3	2	1
[92]	日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている	5	4	3	2	1
[93]	現在の自分の学修時間や学修態度に満足している	5	4	3	2	1

[94] あなたの学生生活は充実していますか。

4. 充実している 3. まあまあ充実している
2. あまり充実していない 1. 充実していない

あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

		とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満
[95]	共通教育あるいは教養教育の授業	5	4	3	2	1
[96]	1年生の時に受講した「SIH 道場～アクティブラーニング入門～」の授業	5	4	3	2	1
[97]	初年次生を対象とした教育プログラム内容（フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど）	5	4	3	2	1
[98]	授業の全体的な質	5	4	3	2	1
[99]	日常生活と授業内容との関連	5	4	3	2	1
[100]	将来の仕事と授業内容の結びつき	5	4	3	2	1
[101]	教員と話をする機会	5	4	3	2	1
[102]	学習支援や個別の学習指導	5	4	3	2	1
[103]	他の学生と話をする機会	5	4	3	2	1
[104]	大学のなかでの学生同士の一体感	5	4	3	2	1

[105]	多様な考え方を認め合う雰囲気	5	4	3	2	1
[106]	大学での経験全般について	5	4	3	2	1
[107]	1つの授業を履修する学生数	5	4	3	2	1

[108] 教養教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。(複数回答可)

1. 広い教養を身に付けるため
2. 専門の基礎を築くため
3. 好きな科目や面白そうな科目を選択した
4. 単位をとりやすい授業を選択した
5. 授業科目を選択する余地がなかった
6. 特に基準はない

[109] 教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)

1. 「履修の手引き」やシラバスに記載された情報
2. 教員からの助言や情報
3. 事務職員からの助言や情報
4. 先輩からの助言や情報
5. 友人からの助言や情報

[110] 「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。(複数回答可)

1. 専門分野の体験学習
2. 文章(レポート)の書き方
3. プレゼンテーションの仕方
4. 他者と協働して学修や活動に取り組むこと
5. 学修の振り返りを行い次の学修に活かすこと
6. 大学における学修の仕方・取り組み方
7. 主体的な学修習慣を身につけること

[111] 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると感じますか。(複数回答可)

1. 専門の知識を身に付けるのに役立つ
2. 自分の進路について考えることができるようになった
3. 学問・研究に興味を湧かした
4. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立つ
5. 特に得るものはなかった

[112] 教養教育科目の授業内容の難易度についてどう感じますか。

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易くすべきである

[113] 専門教育科目の授業内容の難易度についてどう感じますか

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易くすべきである

あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

	とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満
[114] 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）	5	4	3	2	1
[115] 実験室の設備や器具	5	4	3	2	1
[116] コンピュータの施設や設備	5	4	3	2	1
[117] コンピュータの訓練や援助	5	4	3	2	1
[118] インターネットの使いやすさ	5	4	3	2	1
[119] 奨学金など学費援助の制度	5	4	3	2	1
[120] 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）	5	4	3	2	1
[121] レクリエーション施設（ジムの設備など）	5	4	3	2	1
[122] キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）	5	4	3	2	1
[123] クラス担任制度	5	4	3	2	1

[124] 図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。（複数回答可）

1. 教員・学修支援アドバイザーによる学修相談（SSS）
2. 授業サポートナビ（各講義の参考図書、関連情報提供サービス）
3. 学修に関するイベント（講習会等）
4. 文献複写サービス
5. 本の購入リクエスト
6. グループ学修スペースの利用
7. 調べもの相談
8. 利用していない

[125] あなたは、読書についてどのように考えていますか。

1. 読書は習慣として身に付いている
2. もっと読書したいが、現在読みたい書籍はない
3. もっと読書したいが、時間がない
4. 読書の必要性を感じない

[126] 徳島大学では、履修者が11名以上の授業では、自分の成績や成績の分布が確認できるようになっていることを知っていますか。また、役立っていますか。

1. 知っており、確認したことがある。また、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っている。
2. 知っており、確認したことがある。ただ、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っていない。
3. 知っており、確認したことがある。ただ、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っているかどうか分からない。
4. 知っているが確認したことがない
5. 知らない

[127] 徳島大学では、卒業に必要な履修科目やそれらの科目を学修していく順序等を一覧できる「カリキュラムマップ」を公開していることを知っていますか。

1. 知っており、見たことがある
2. 知っているが見たことはない
3. 知らない

[128] 徳島大学では、学部の授業科目のレベルに基づく学修の段階や順序を整理し適切な番号を付与した「科目ナンバリング」を公開していることを知っていますか。

1. 知っており、見たことがある
2. 知っているが見たことはない
3. 知らない

[129] シラバスはどのように利用していますか。

1. 毎週確認し、授業の予習・復習に役立てている
2. 気になった時に時々確認している
3. 初回の授業を受ける前に確認したが、その後はほとんど見ていない
4. 授業の選択を考える時に確認したが、その後はほとんど見ていない
5. 全く見ていない

[130] 卒業研究、医学研究実習（医学科）、看護研究（保健学科看護学専攻）、研究基礎ゼミ（歯学科）の研究室をどういう基準で決めましたか。（複数回答可）

1. 関心の深い研究内容であったから
2. 将来のやりたい仕事や進路に必要と思ったから
3. 先輩や友人の勧めで
4. 教員の人柄に魅力を感じたから
5. 研究室の雰囲気
6. やむを得ず入った
7. どこでもよかった

[131] 卒業研究、医学研究実習（医学科）、看護研究（保健学科看護学専攻）、研究基礎ゼミ（歯学科）によって何が得られると思いますか。（複数回答可）

1. 専門的知識や技術
2. 進路を考えるための広い視野
3. 学問・研究への興味や知的好奇心
4. コミュニケーション能力や対人関係能力
5. 課題発見能力や問題解決能力
6. プレゼンテーション能力
7. 文章作成能力
8. 大学院への進学意欲の向上
9. 特に得るものがない

[132] 研究を進めるための設備、スペース、物品等は確保されていますか。

1. 設備、スペース、物品等ともに十分である
2. 設備、スペースともに十分であるが、物品等が足りない
3. 設備は十分であるが、スペース、物品等が足りない
4. 設備、物品等は十分であるが、スペースが足りない
5. スペースは十分であるが、設備、物品等が足りない
6. スペース、物品等は十分であるが、設備が足りない
7. 物品等は足りているが、設備、スペースが足りない
8. 設備、スペース、物品等すべて足りない

[133] 徳島大学のeラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことのある人は以下の項目から利用したことのあるサービスを選んでください（複数選択可）。

1. Moodle（全学）
2. Manaba（全学）
3. スーパー英語（全学）
4. 各学部やコース内で提供されているeラーニングサービス
5. 利用したことはない

本学では、学生のみなさんに対して、上記のようなeラーニングサービスを提供しています。Eラーニングサービスに関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

		非常に そう 思う	そう 思う	どちら でも ない	あまり そ う 思 わ な い	全く そ う 思 わ な い
[134]	本学のeラーニングサービスは、学修に役立つ	5	4	3	2	1
[135]	本学が提供しているようなeラーニングによる学修科目を、今後も増やした方が良いと思うか	5	4	3	2	1

本学では、学生のみなさんに対して、授業の中間期および最後に「授業評価アンケート」をおこなっています。この「授業評価アンケート」に関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

		非常に そう 思う	そう 思う	どちら でも ない	あまり そ う 思 わ な い	全く そ う 思 わ な い
[136]	「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である	5	4	3	2	1

[137] 大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか。

1. 100-91
2. 90-81
3. 80-71
4. 70-61
5. 60-51
6. 50-0

V. 最後に、将来のことについておうかがいします。

[138] あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。

1. 就職する
2. 大学院に進学する
3. 留学する
4. 他大学に（編）入学する
5. 専門学校に入学する
6. まだわからない
7. その他

[139] 将来の見通しに関する以下の2つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

- ・あなたは、将来の見通し（将来こういう風でありたいという考え）を持っていますか。
- ・その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。また、それを実行していますか。

1. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているし、実行もしている
2. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているが、実行はできていない
3. 将来の見通しを持っている+何をすべきかわからない
4. 将来の見通しを持っていない

あなたが大学（学部）卒業後の進路の準備をしたり考えたりするために、次のようなことがらを大学在学中に経験したいと思いますか。

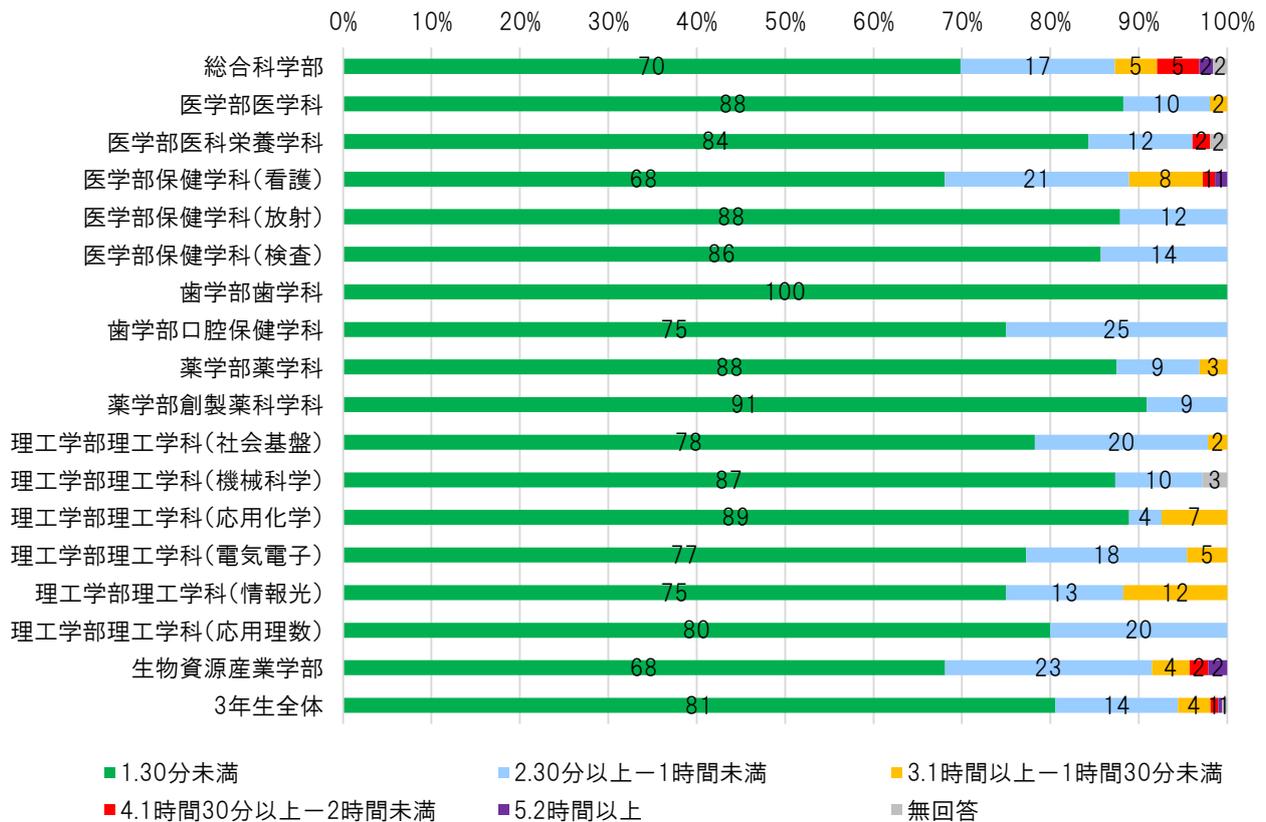
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
[140] 専門分野をしっかり身につける	4	3	2	1
[141] 専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる	4	3	2	1
[142] 職業意識の形成につながる教育を受ける	4	3	2	1
[143] 企業での体験実習等を踏まえた上で、専門知識を学ぶ	4	3	2	1
[144] 教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける	4	3	2	1
[145] 自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける	4	3	2	1
[146] ディベートやプレゼンテーションの訓練を受ける	4	3	2	1
[147] 実践的で専門性のある資格を取得するためのプログラムを受ける	4	3	2	1
[148] レポートや論文指導により、文書作成能力を高める	4	3	2	1
[149] 卒業後の進路について、教職員に対して個別に相談する	4	3	2	1
[150] 卒業後の進路について、本学の卒業生や先輩と話をする	4	3	2	1
[151] 本学の教職員以外の大人と話をする	4	3	2	1

質問は以上です。ご協力どうもありがとうございました。

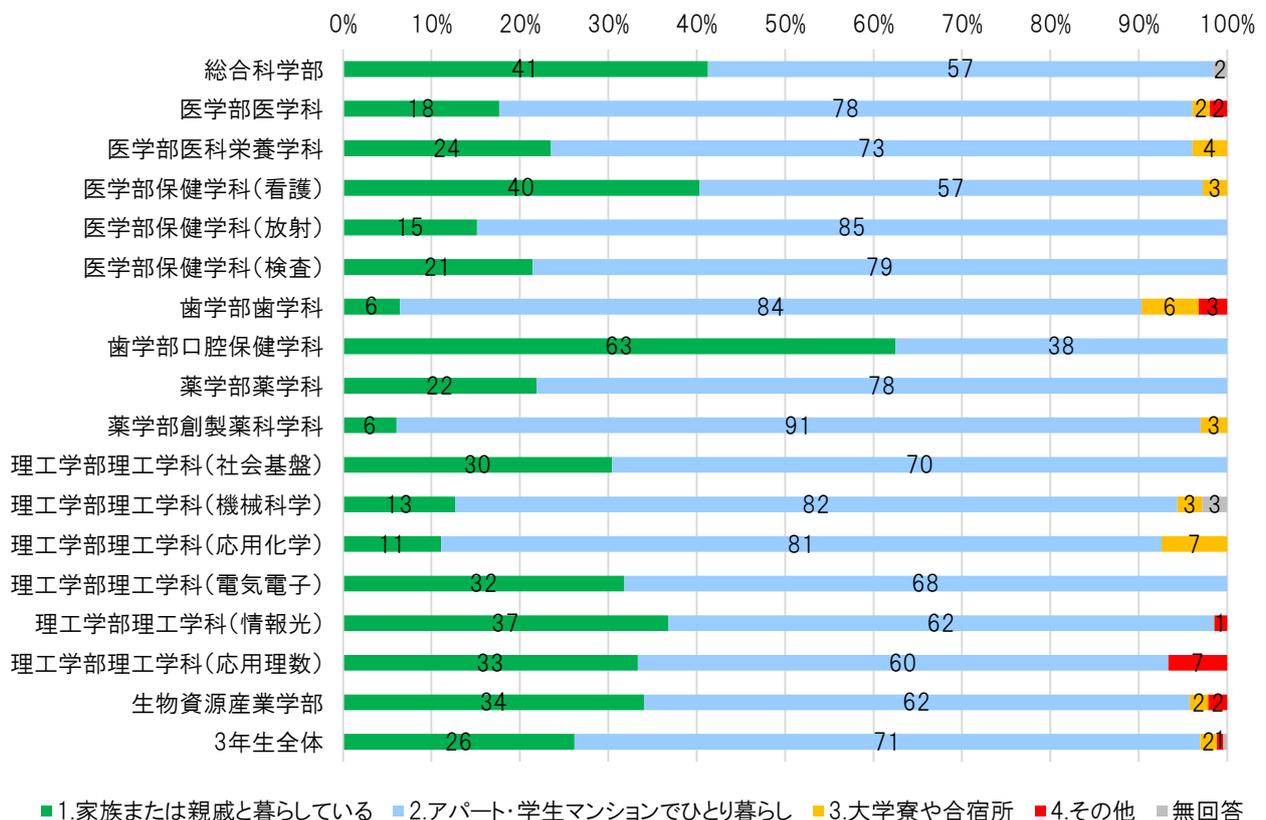
3年生調査結果

1. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

〔2〕あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。



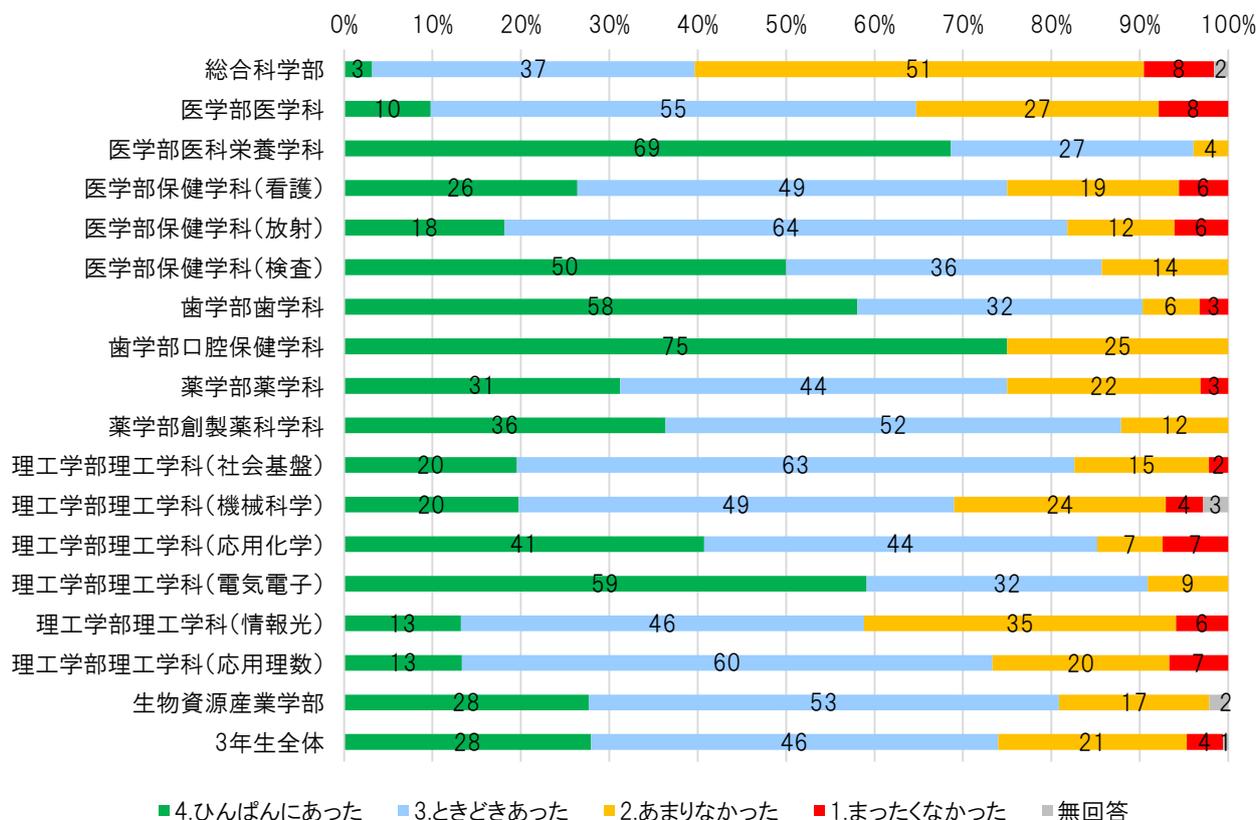
〔3〕あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。



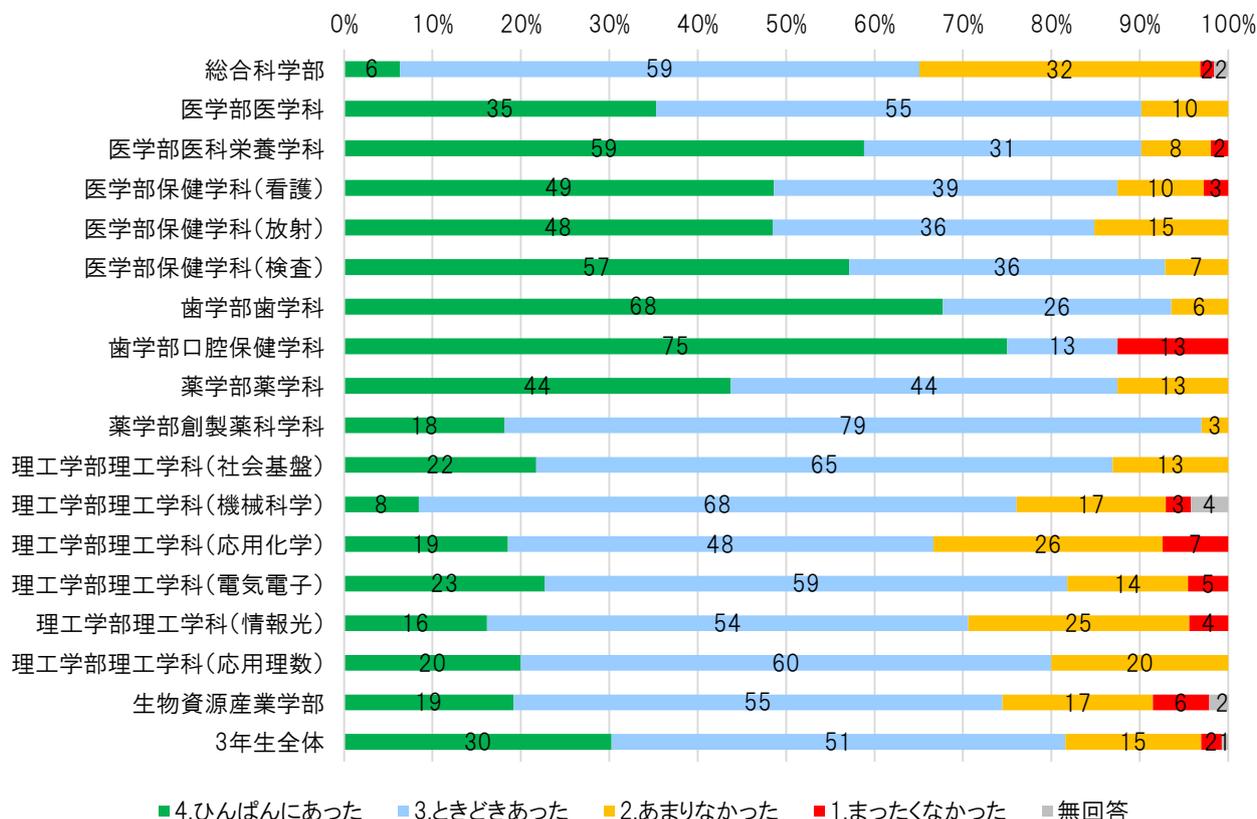
II. 現在のあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

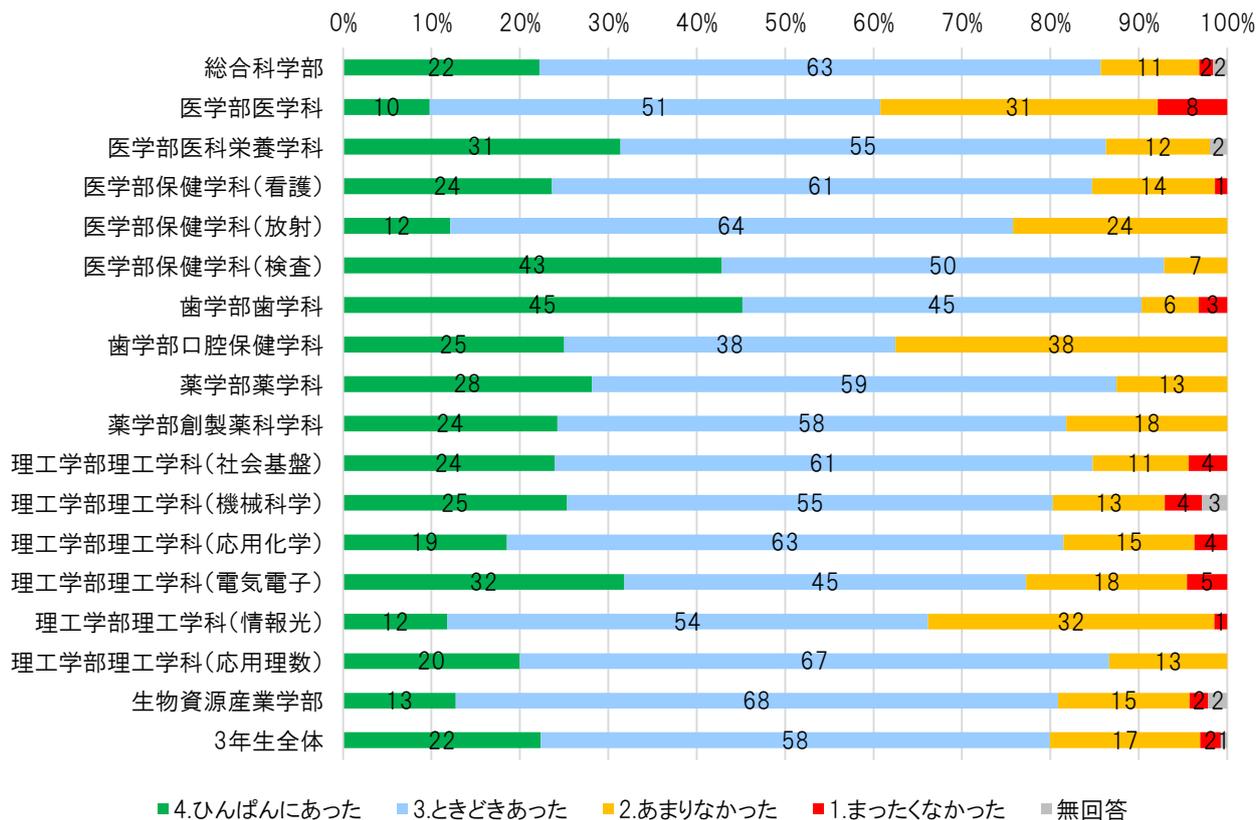
〔4〕実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



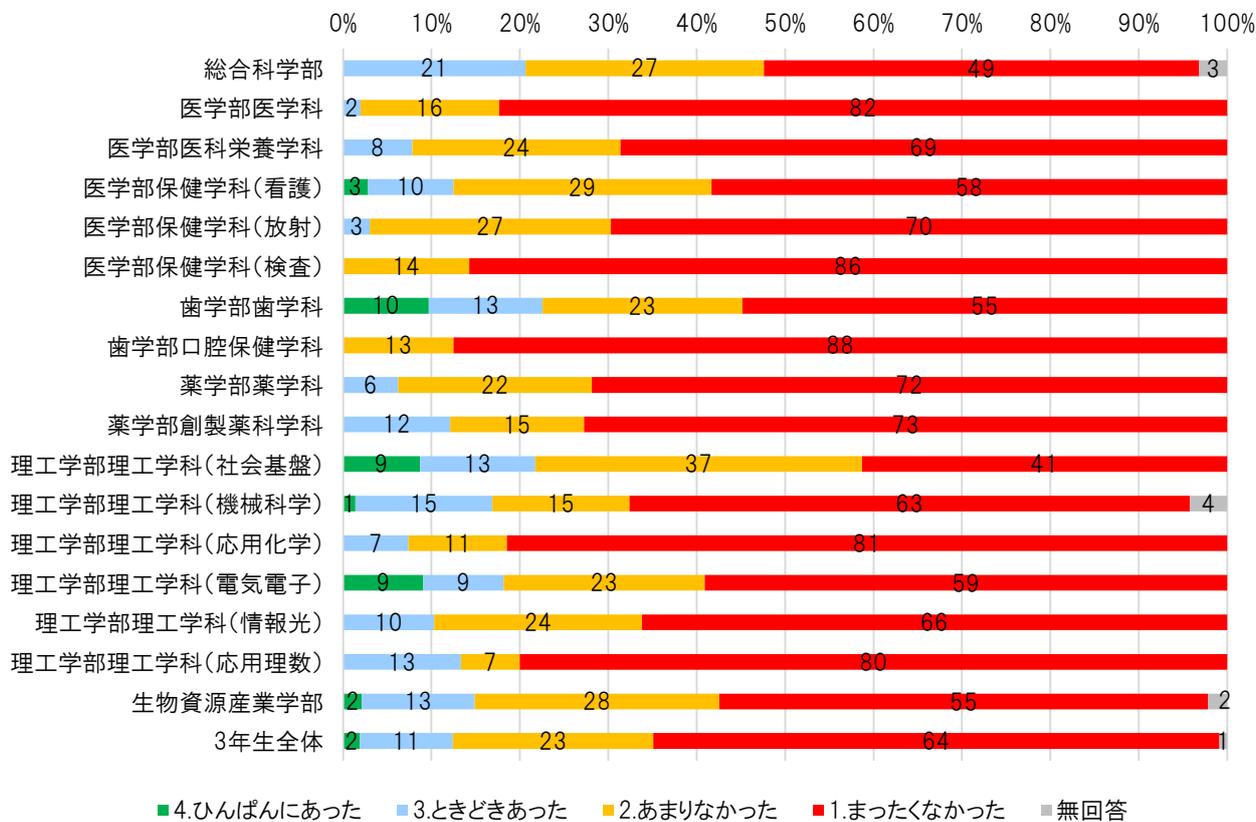
〔5〕仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



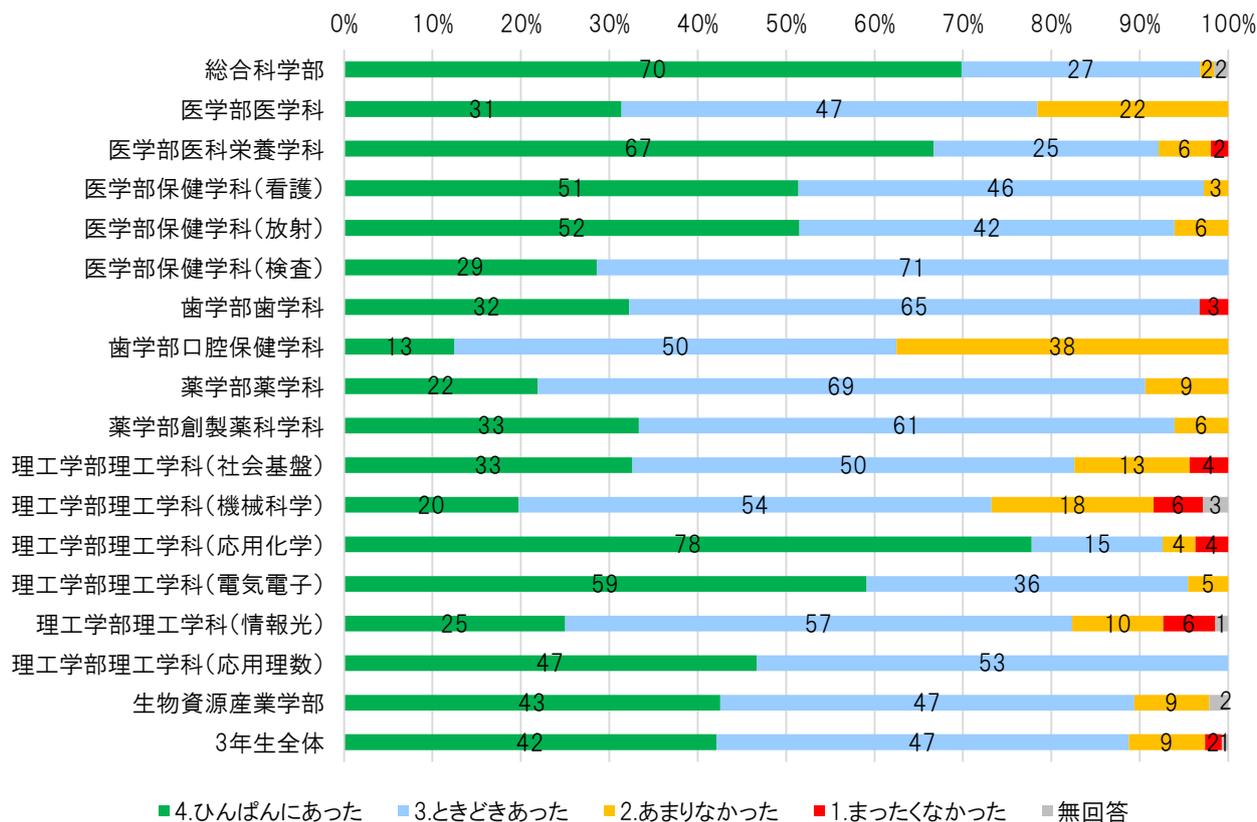
〔6〕授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する



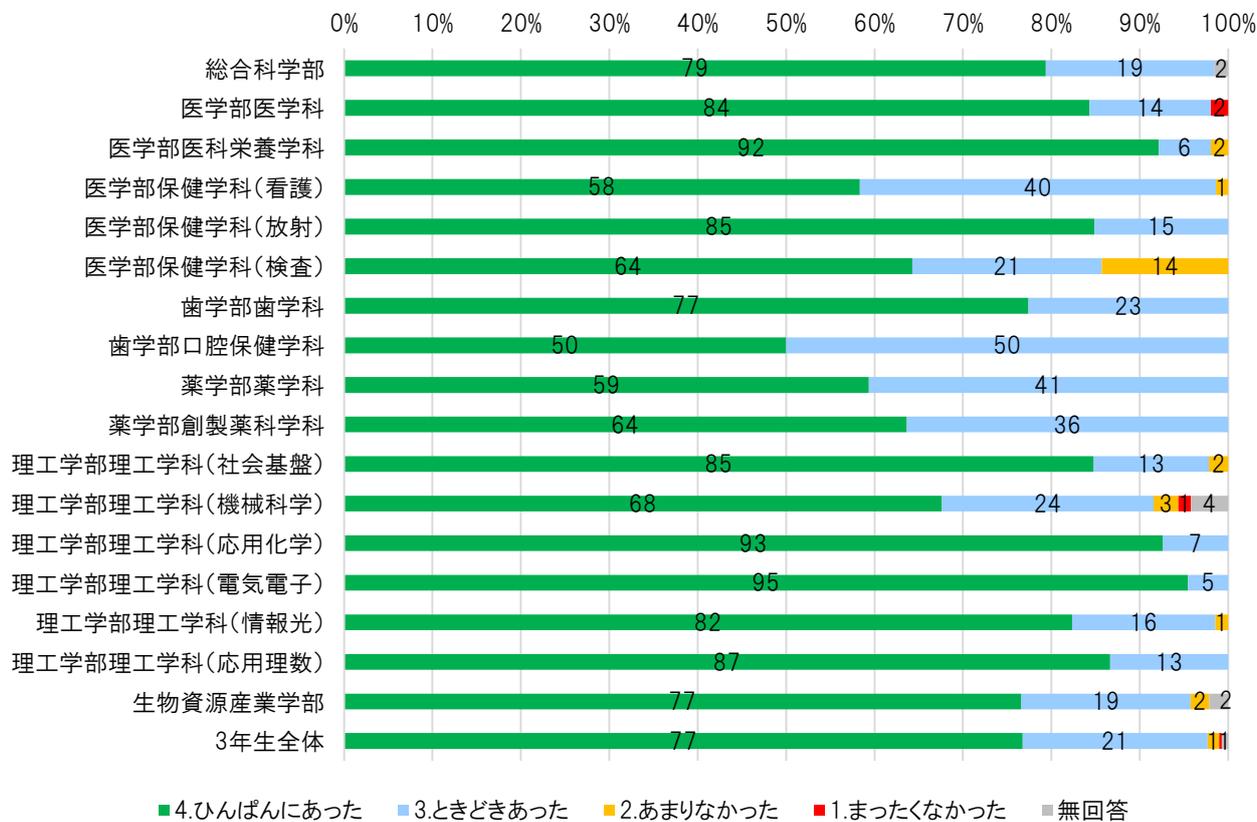
〔7〕授業の一環でボランティア活動をする



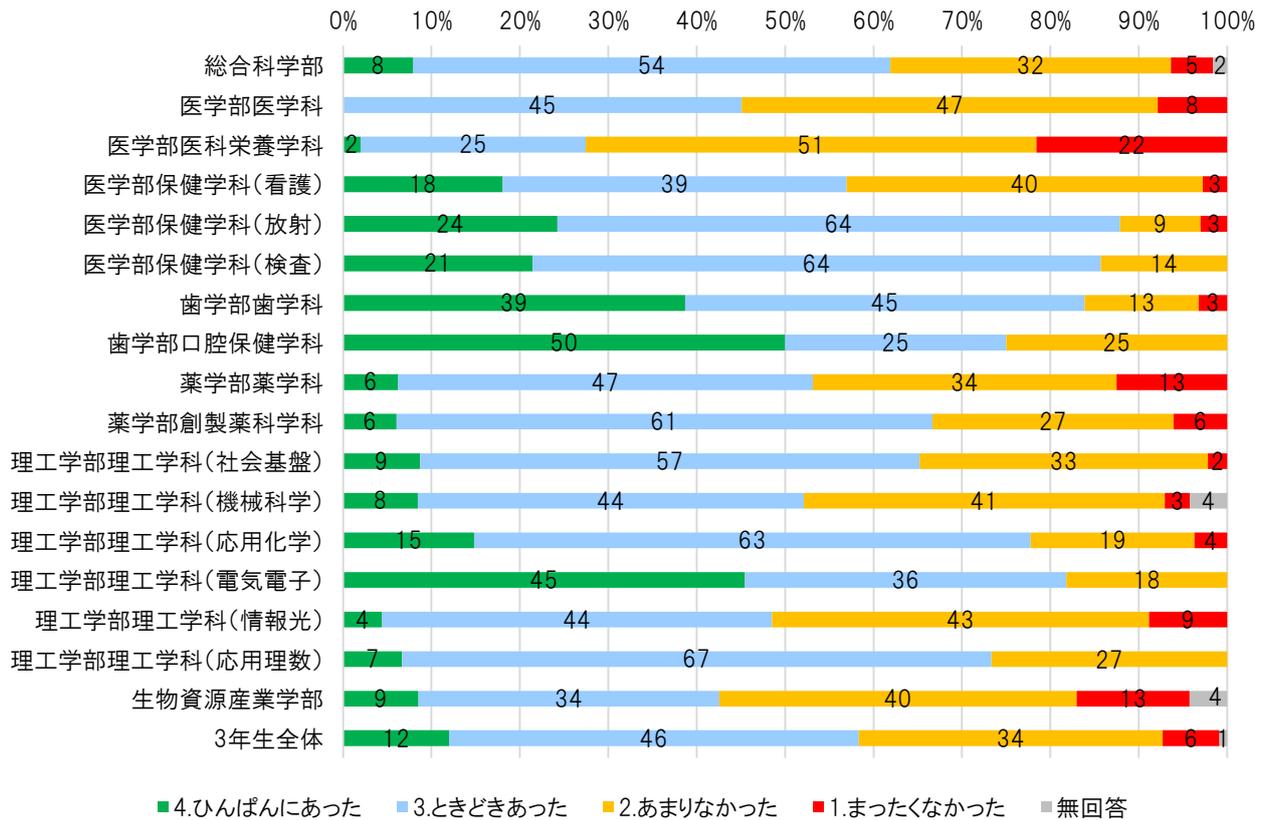
[8] 学生自身が文献や資料を調べる



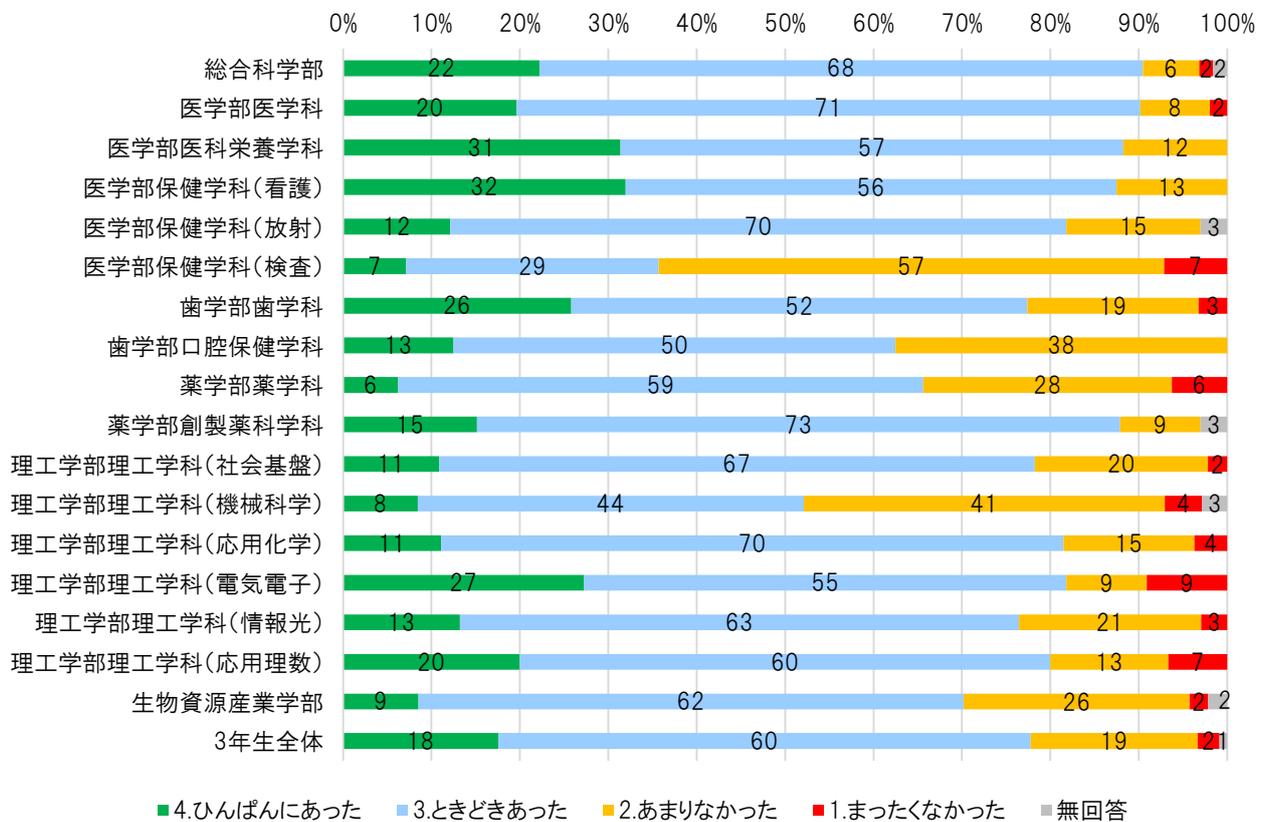
[9] 定期的に小テストやレポートが課される



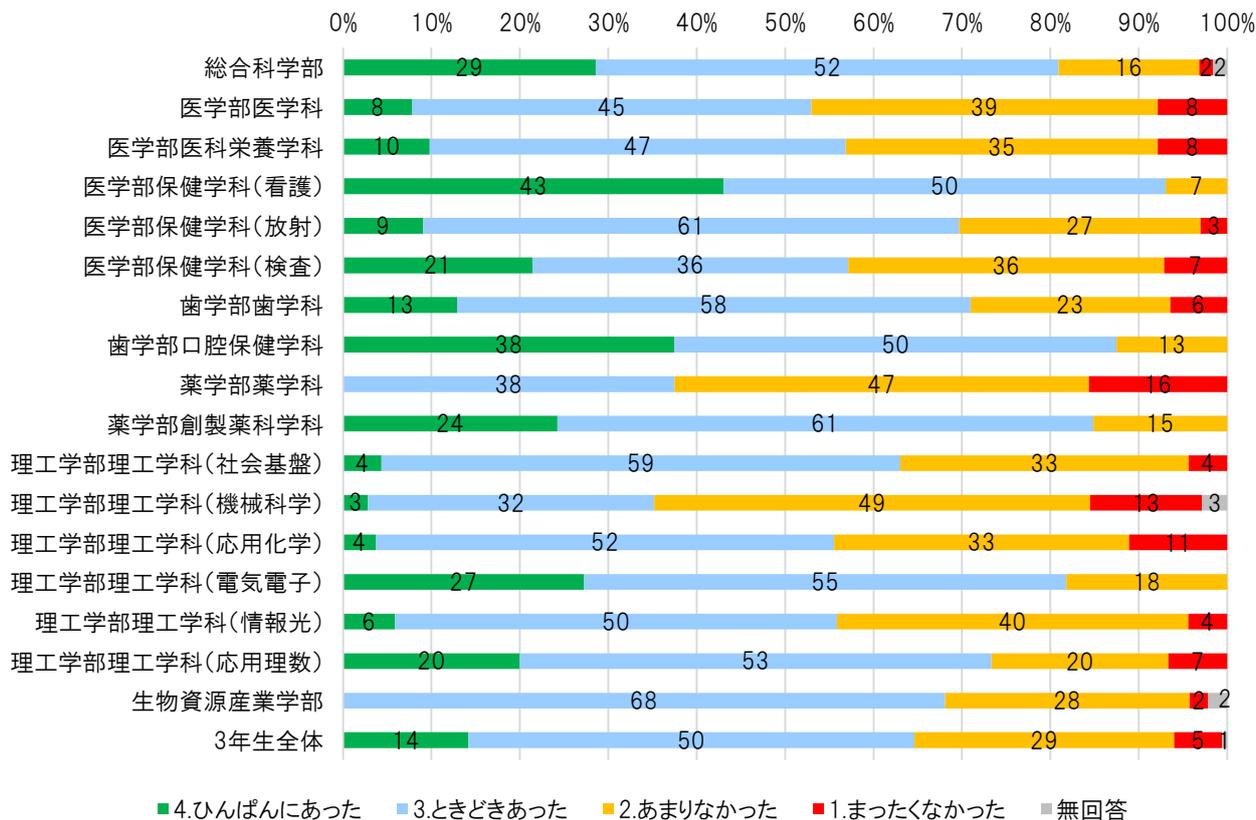
[10]教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



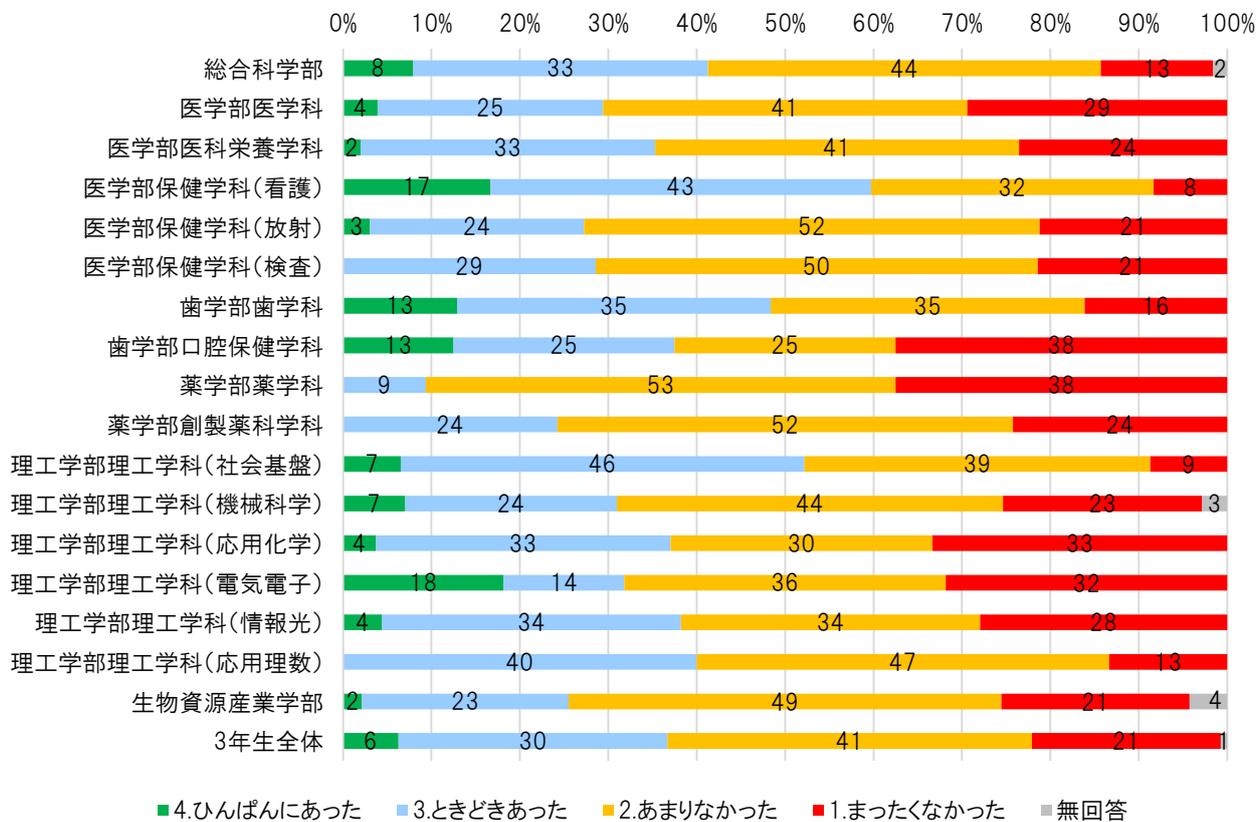
[11]学生が自分の考えや研究を発表する



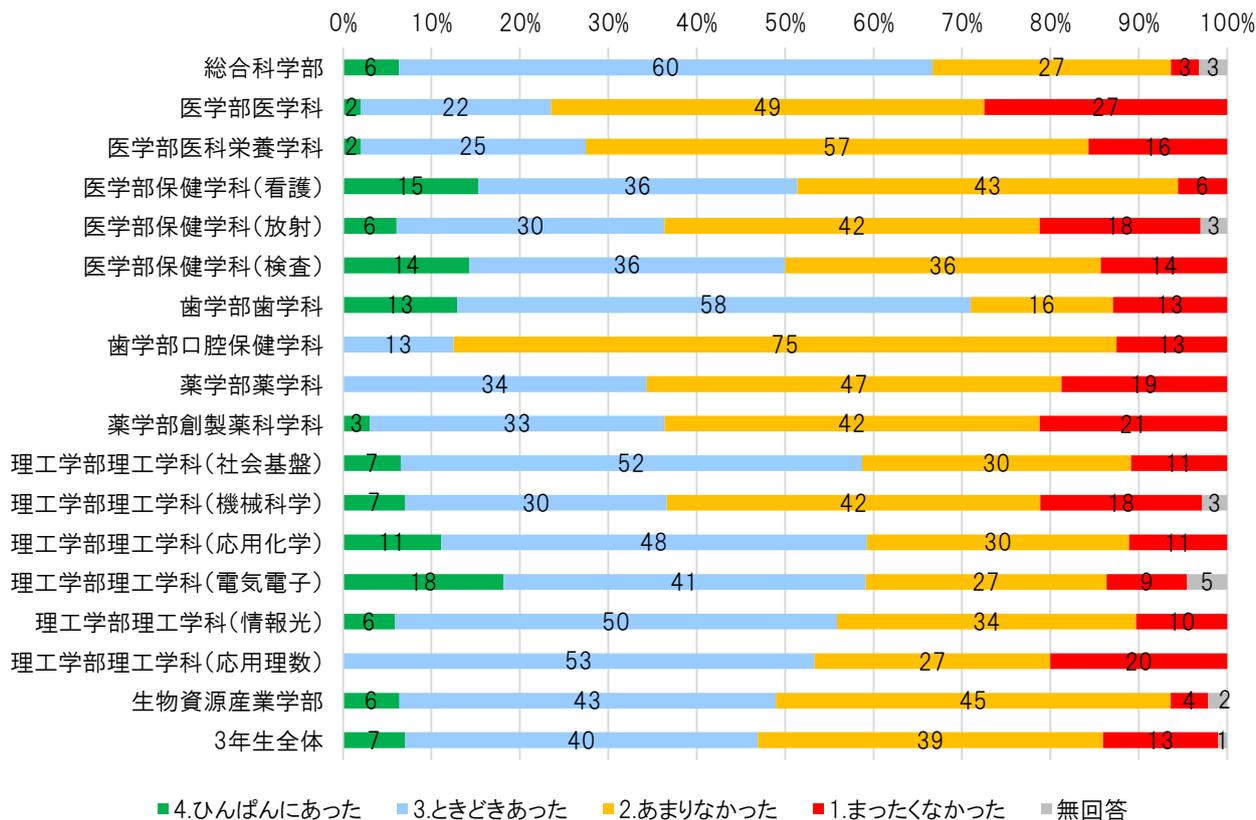
[12]授業中に学生同士が議論をする



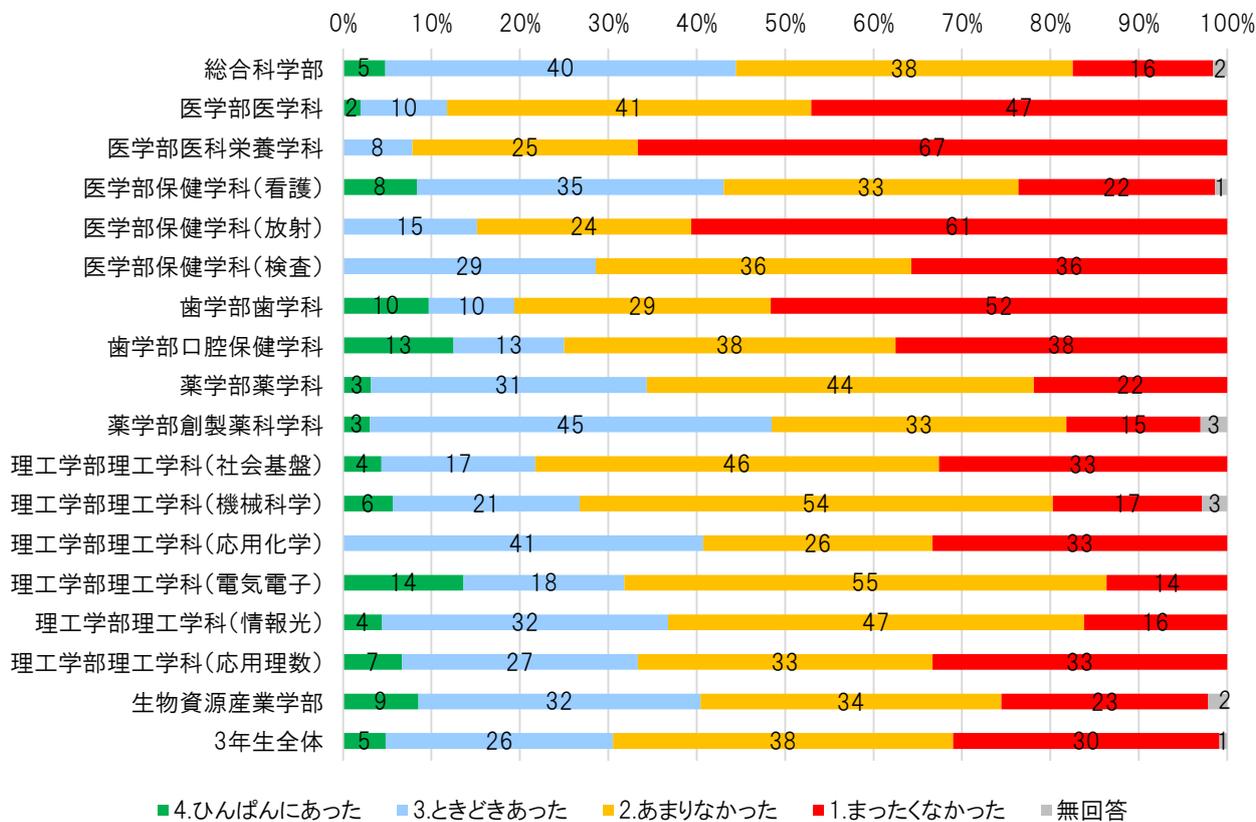
[13]授業で検討するテーマを学生が設定する



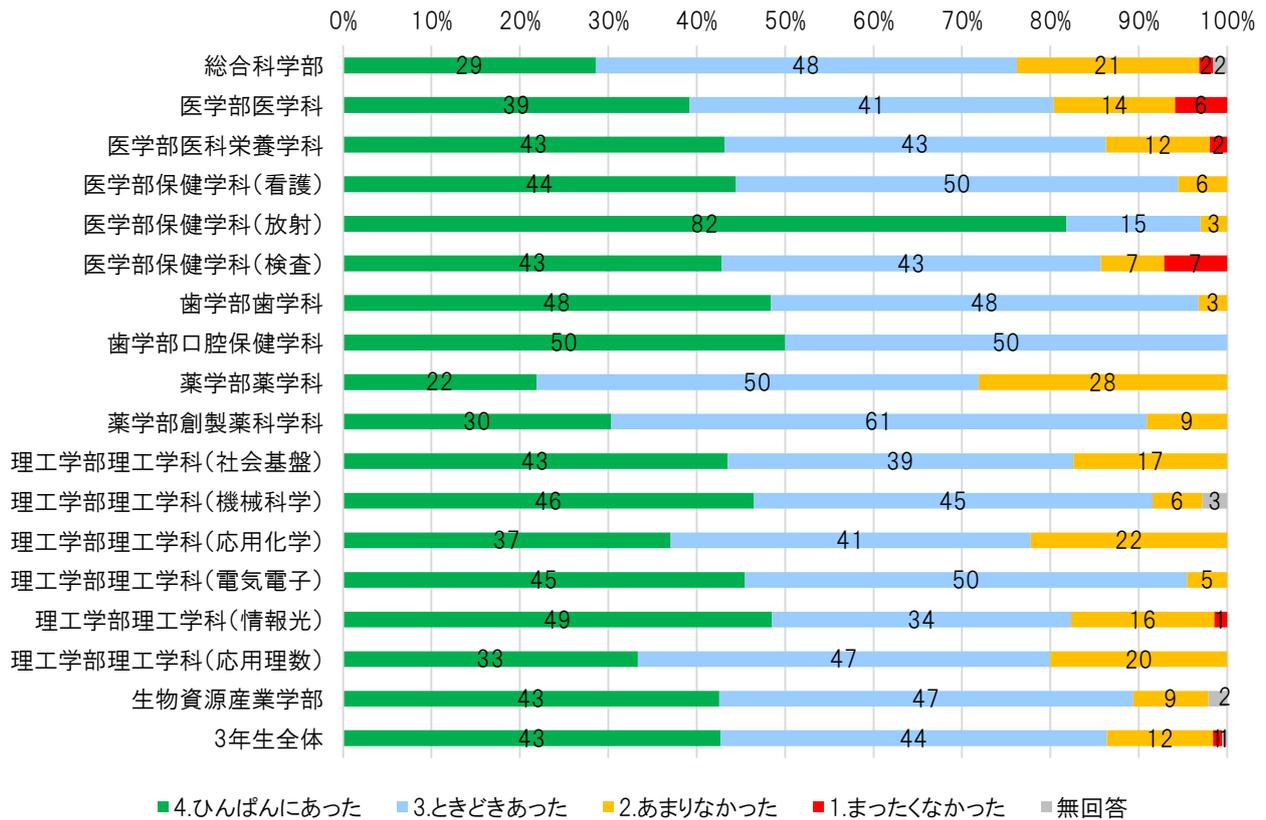
[14]授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



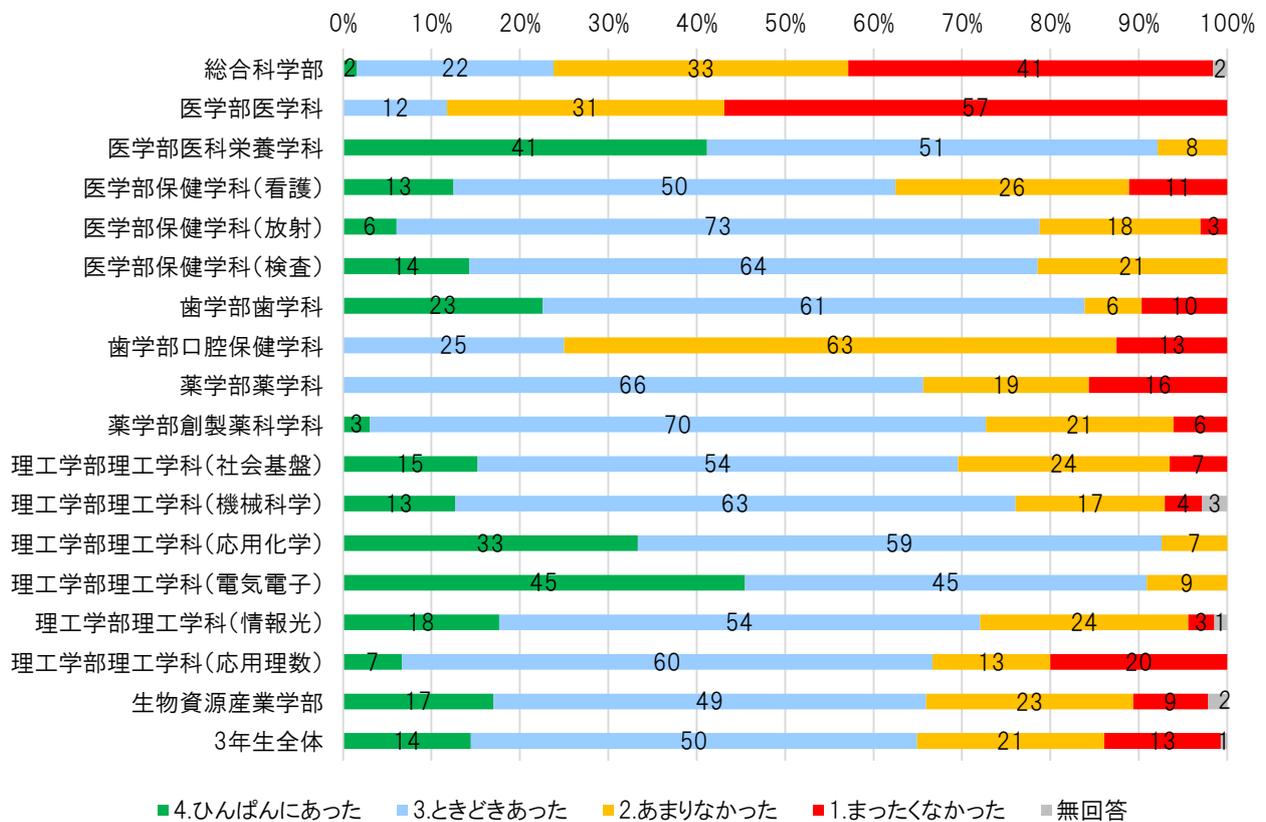
[15]取りたい授業を履修登録できなかった



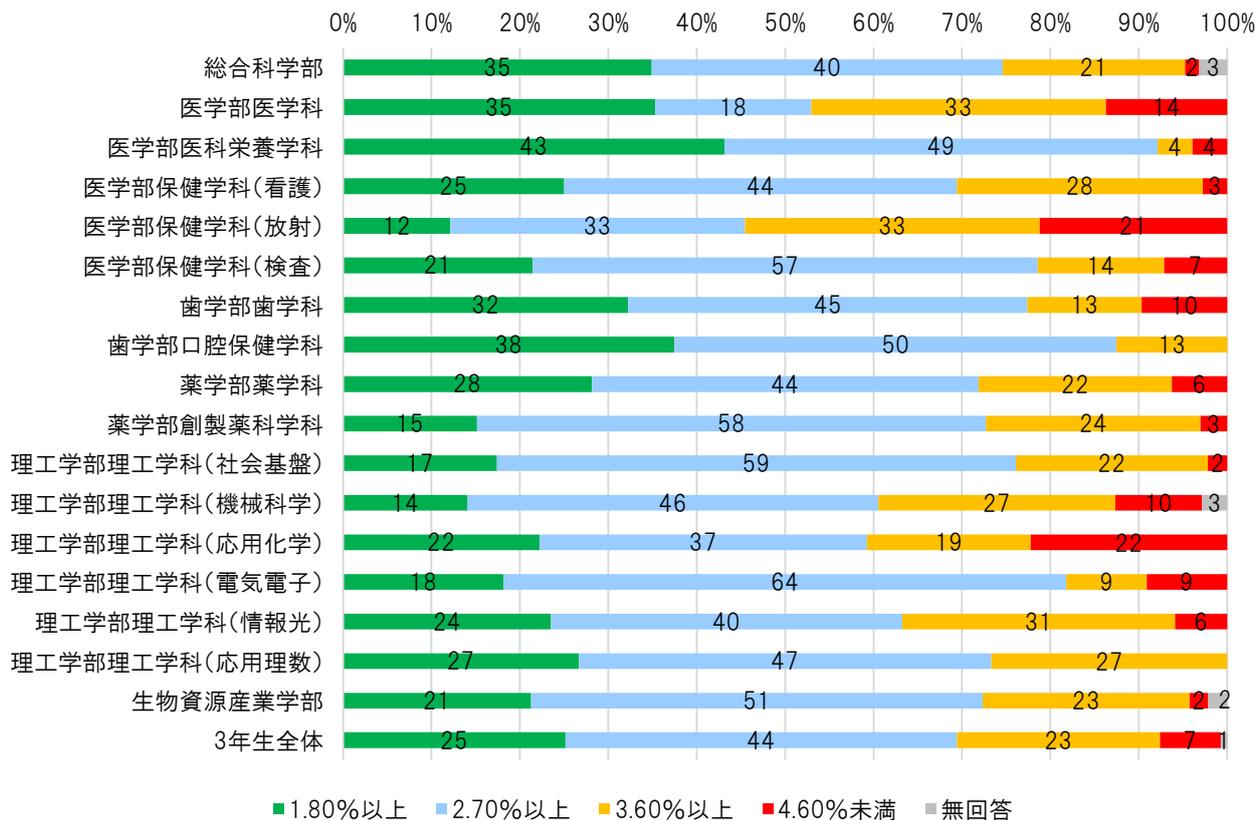
[16]出席することが重視される



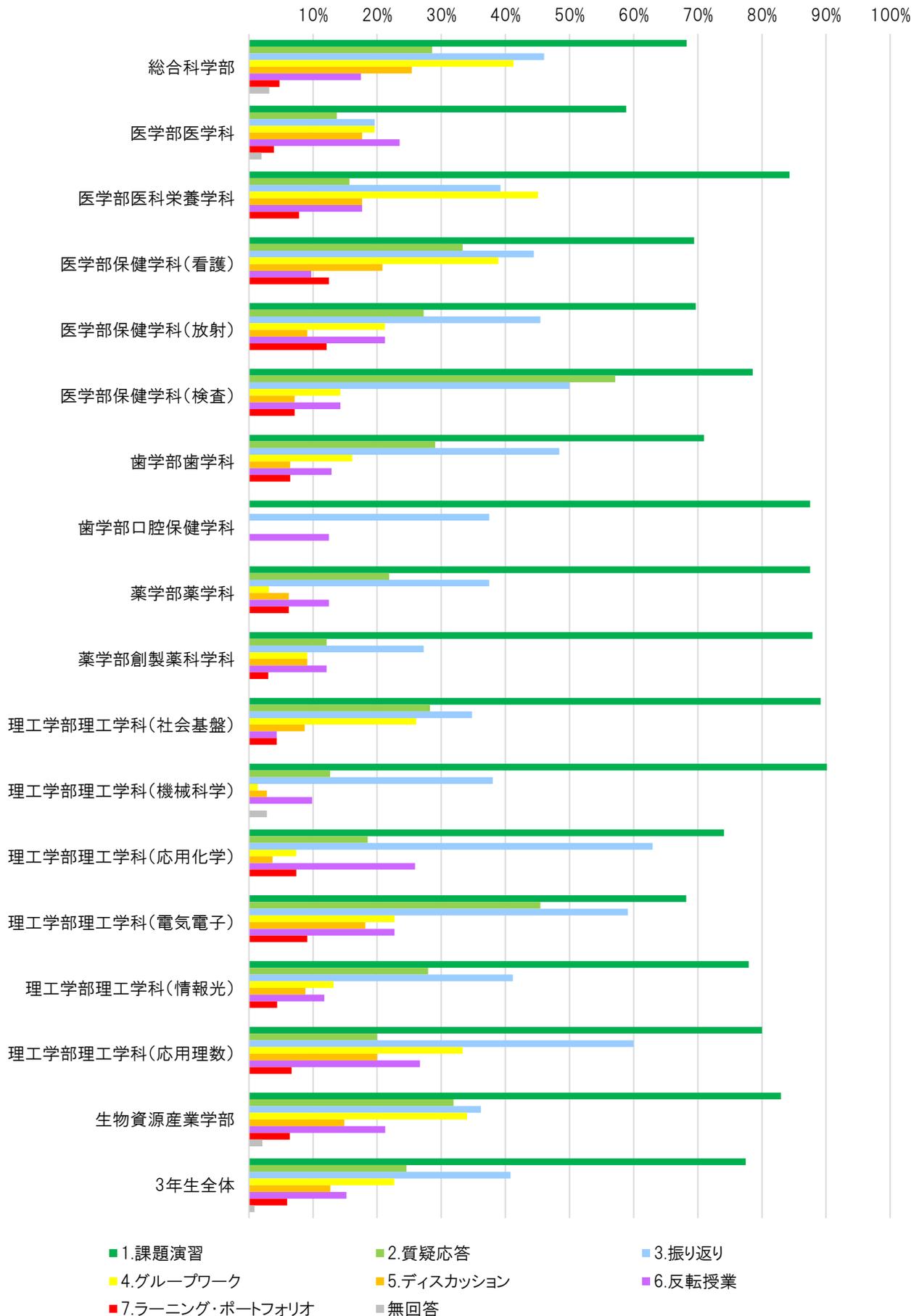
[17]TA や SA などの授業補助者から補助を受ける



[18]授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

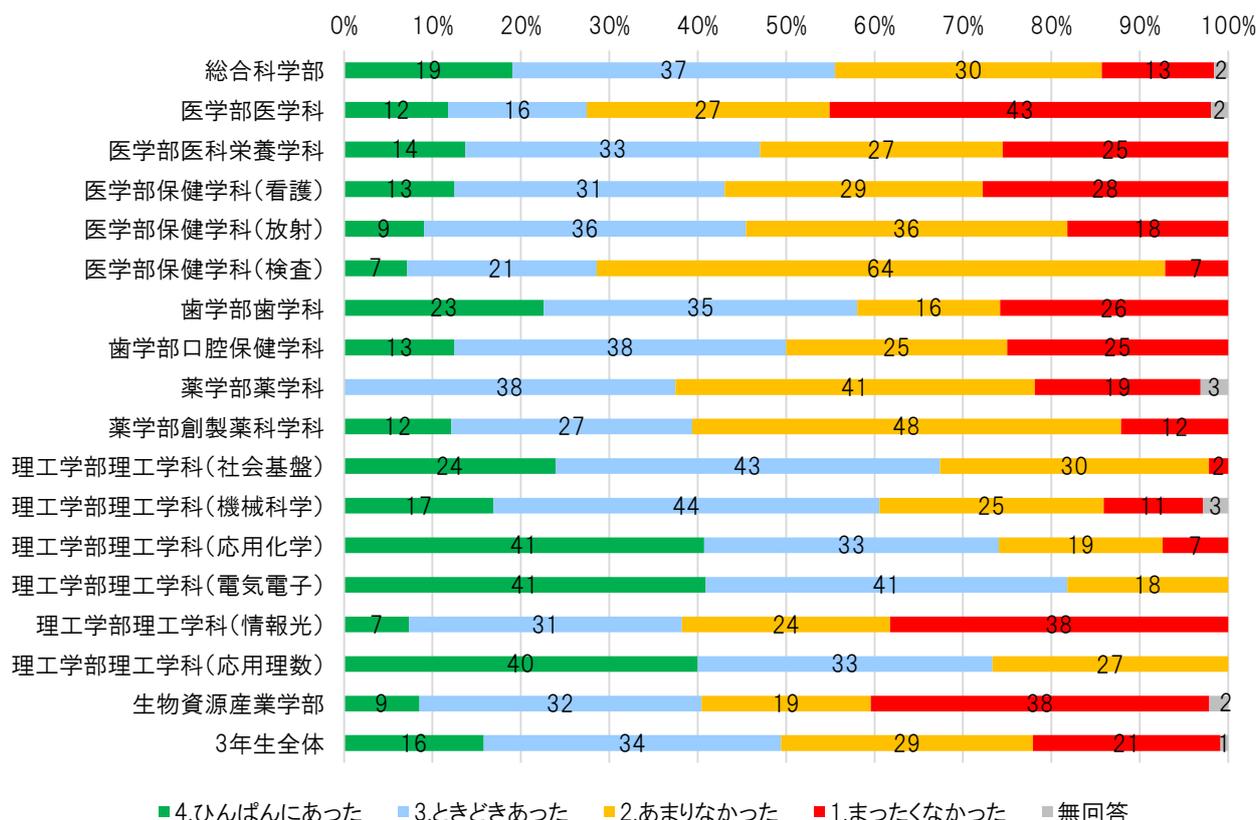


[19]あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。(複数回答)

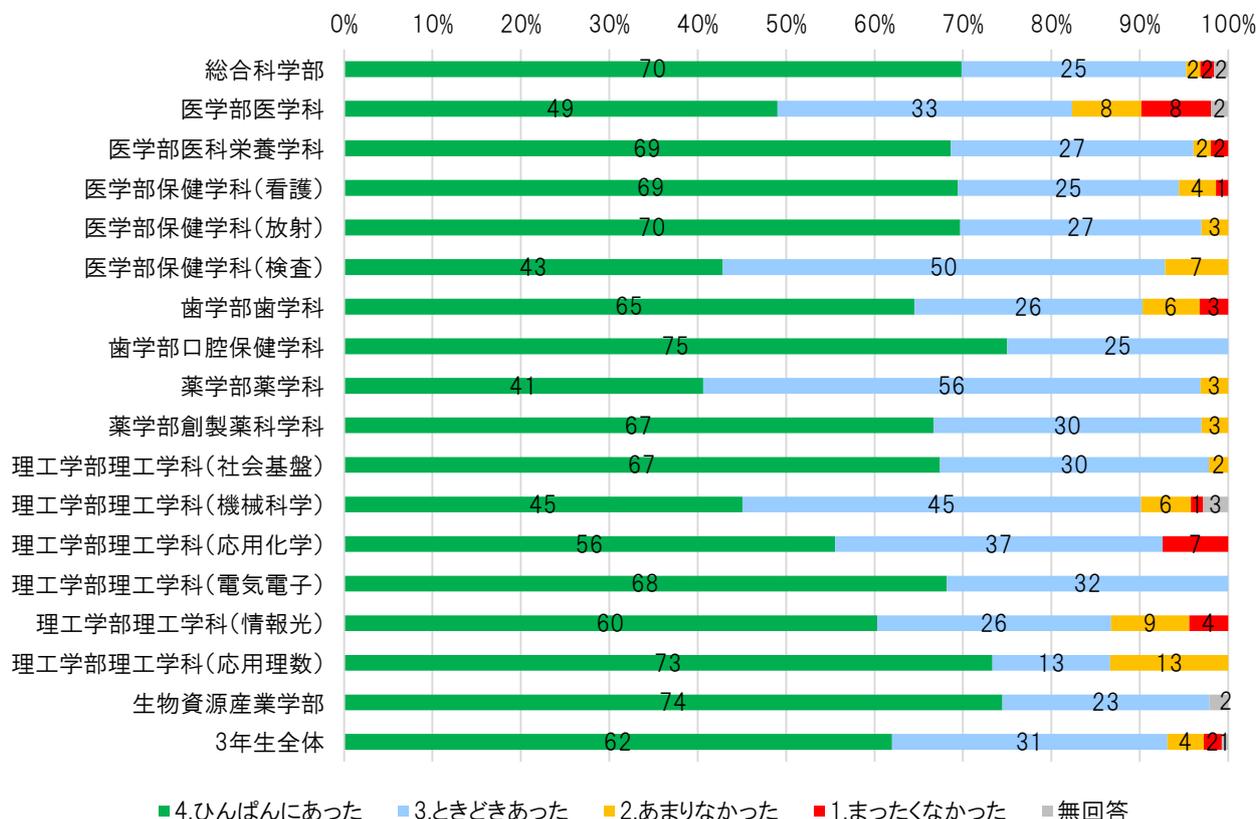


大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

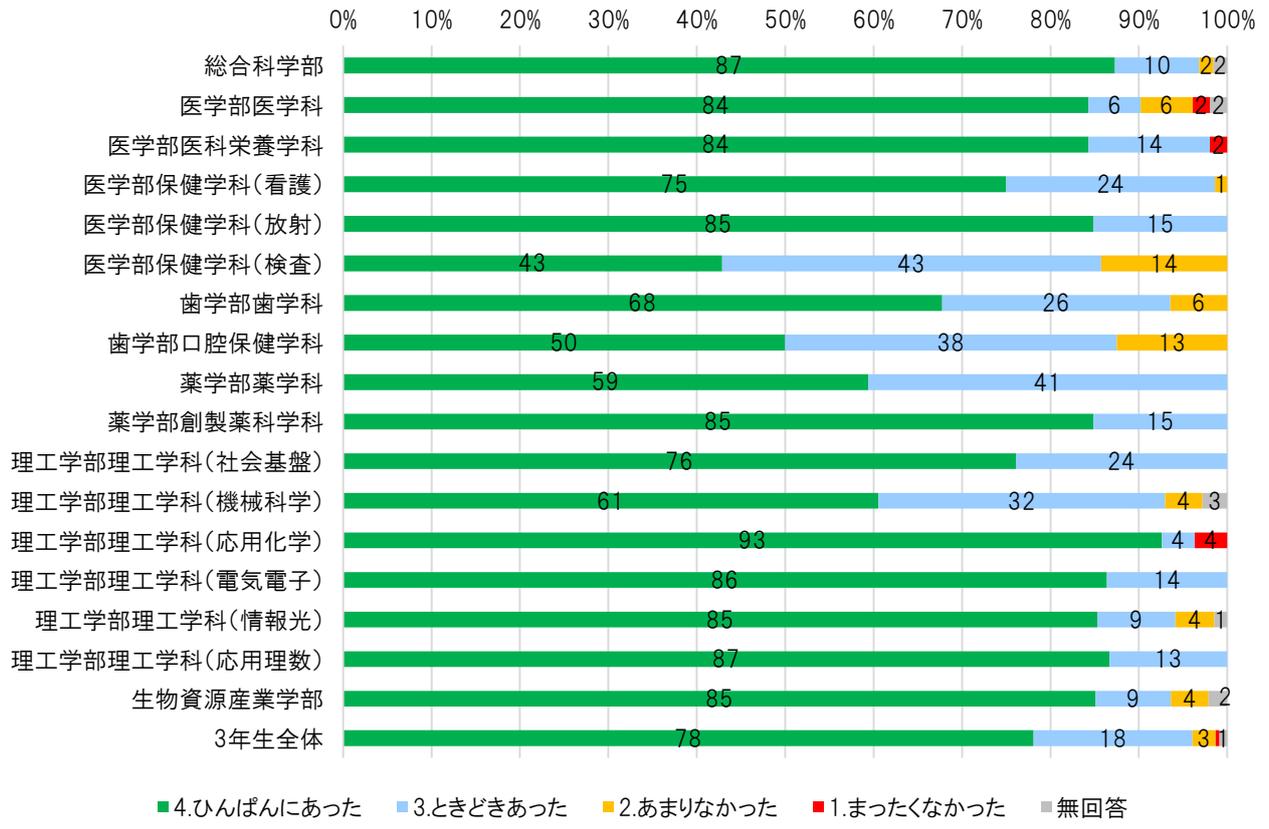
〔20〕授業課題のために図書館の資料を利用した



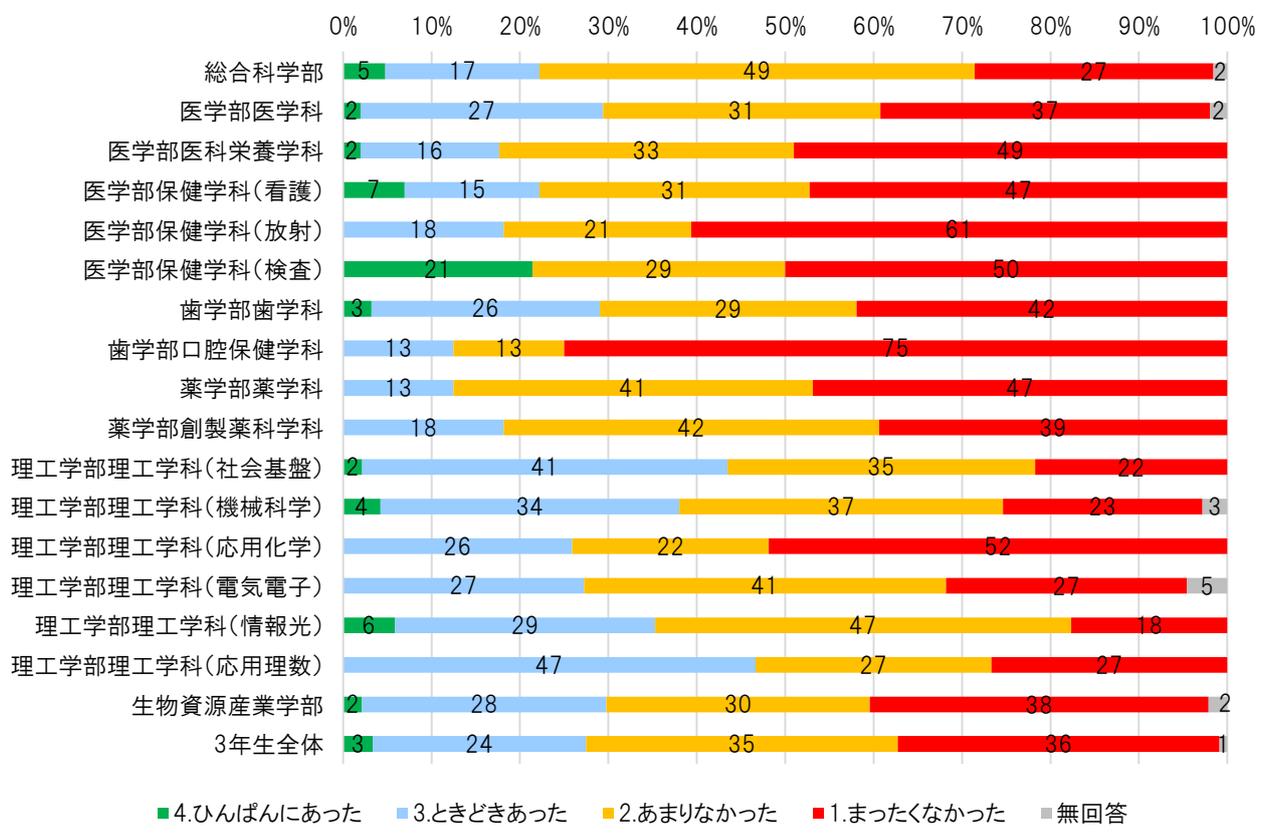
〔21〕授業課題のために Web 上の情報を利用した



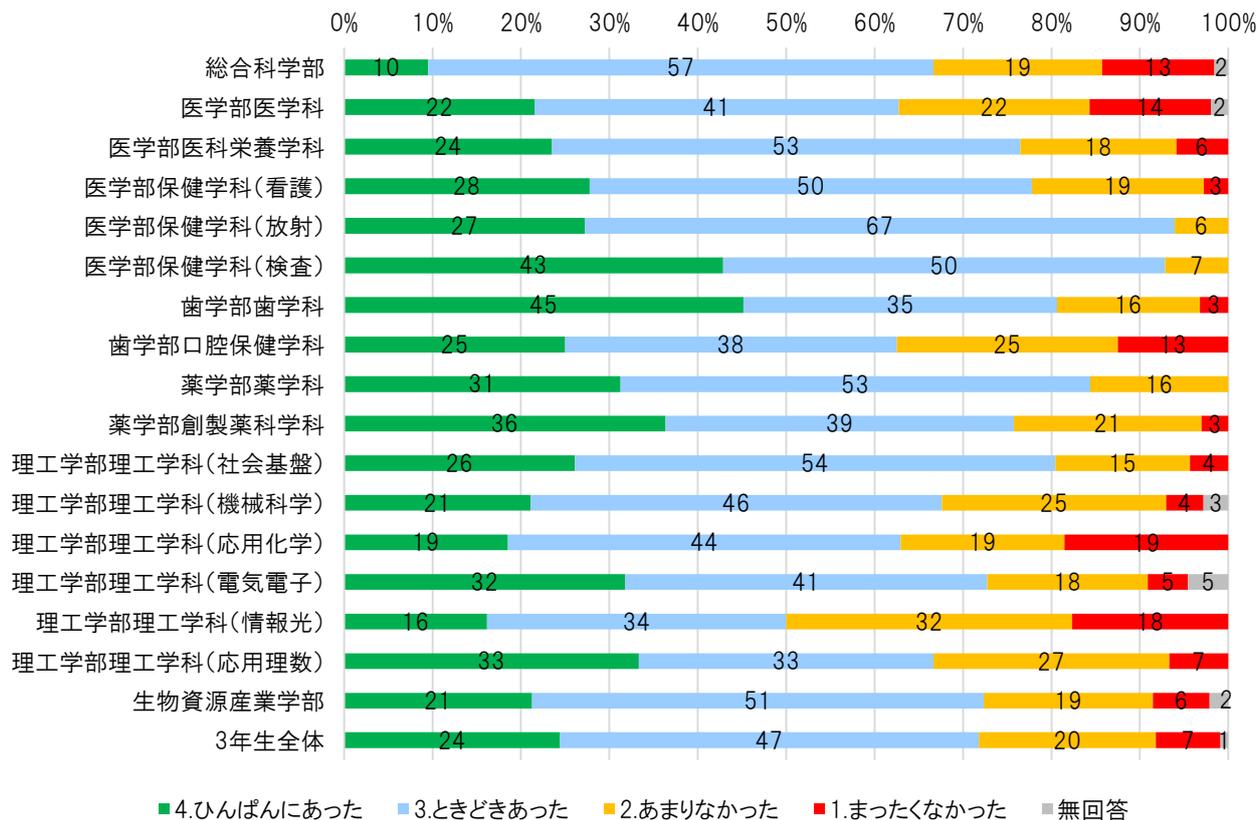
[22]インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



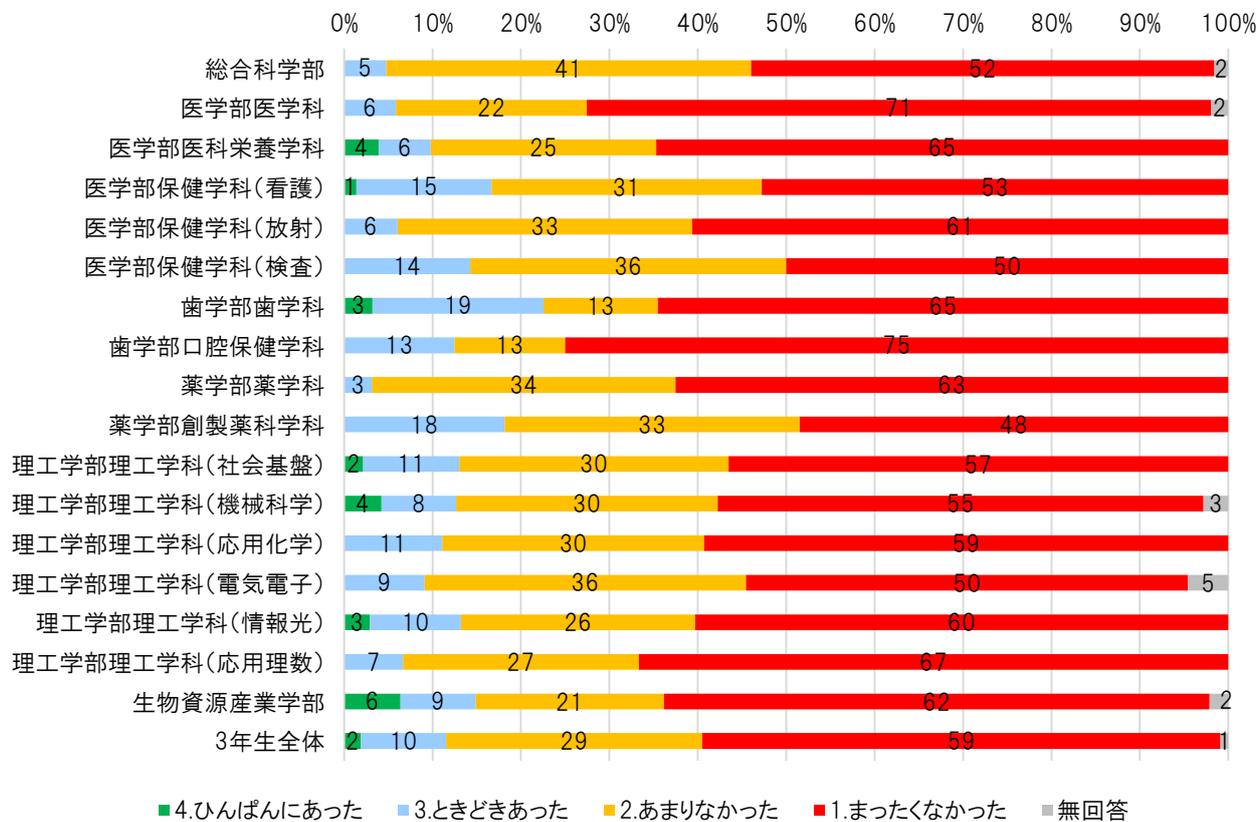
[23]提出期限までに授業課題を完成できなかった



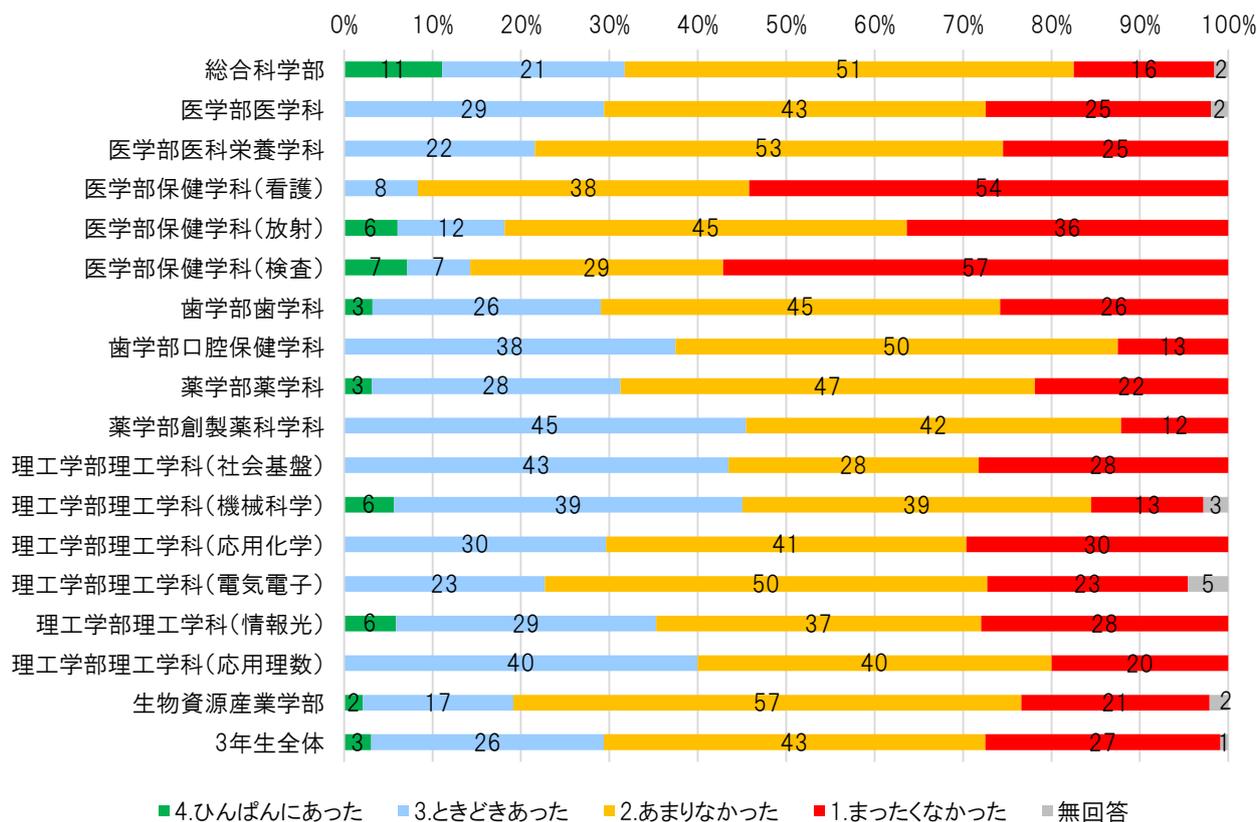
[24]授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした



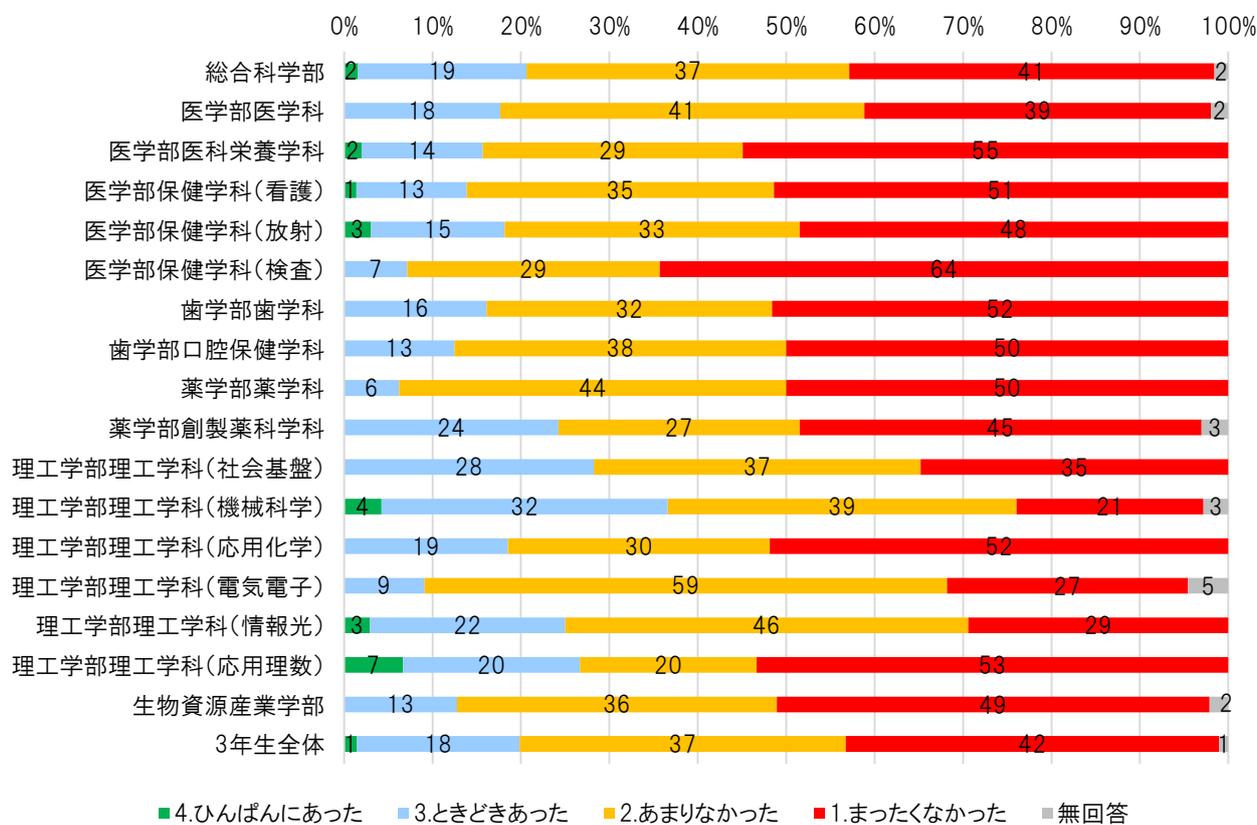
[25]授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



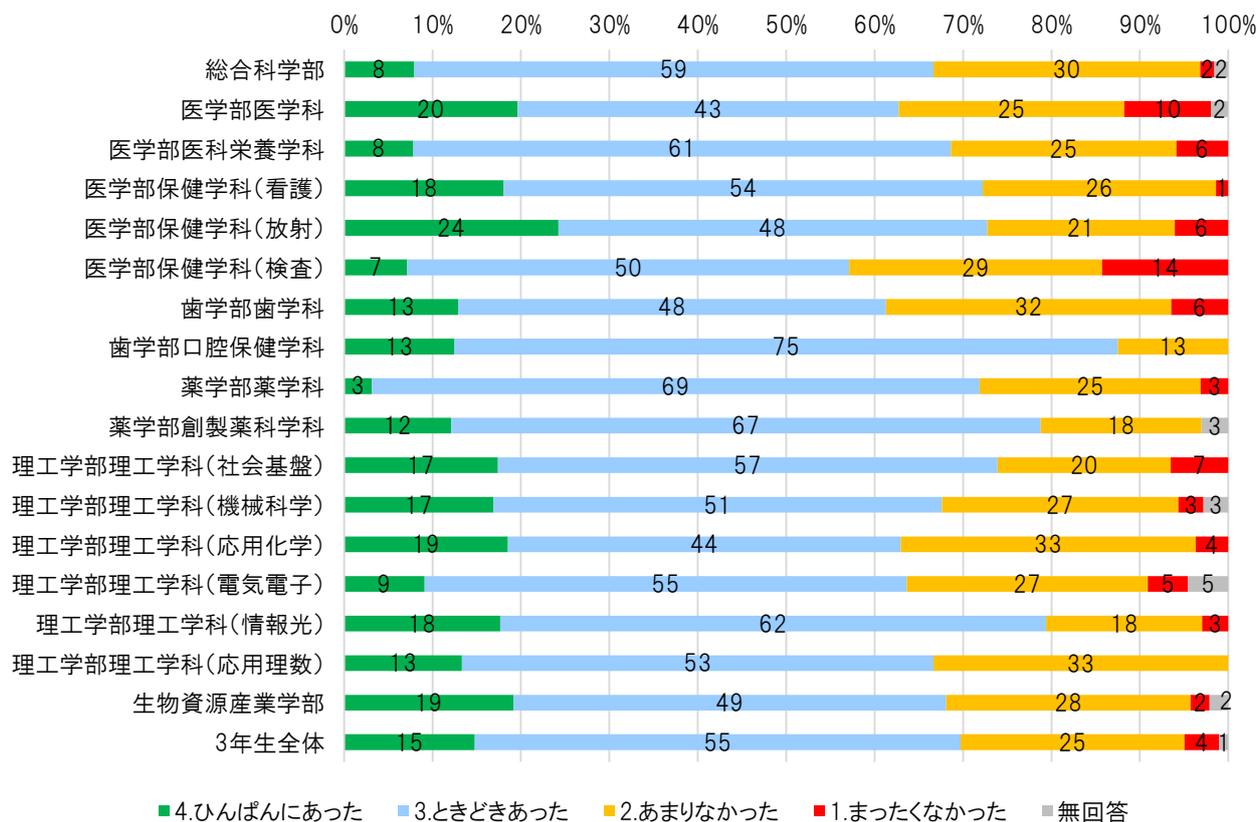
[26]授業を欠席した



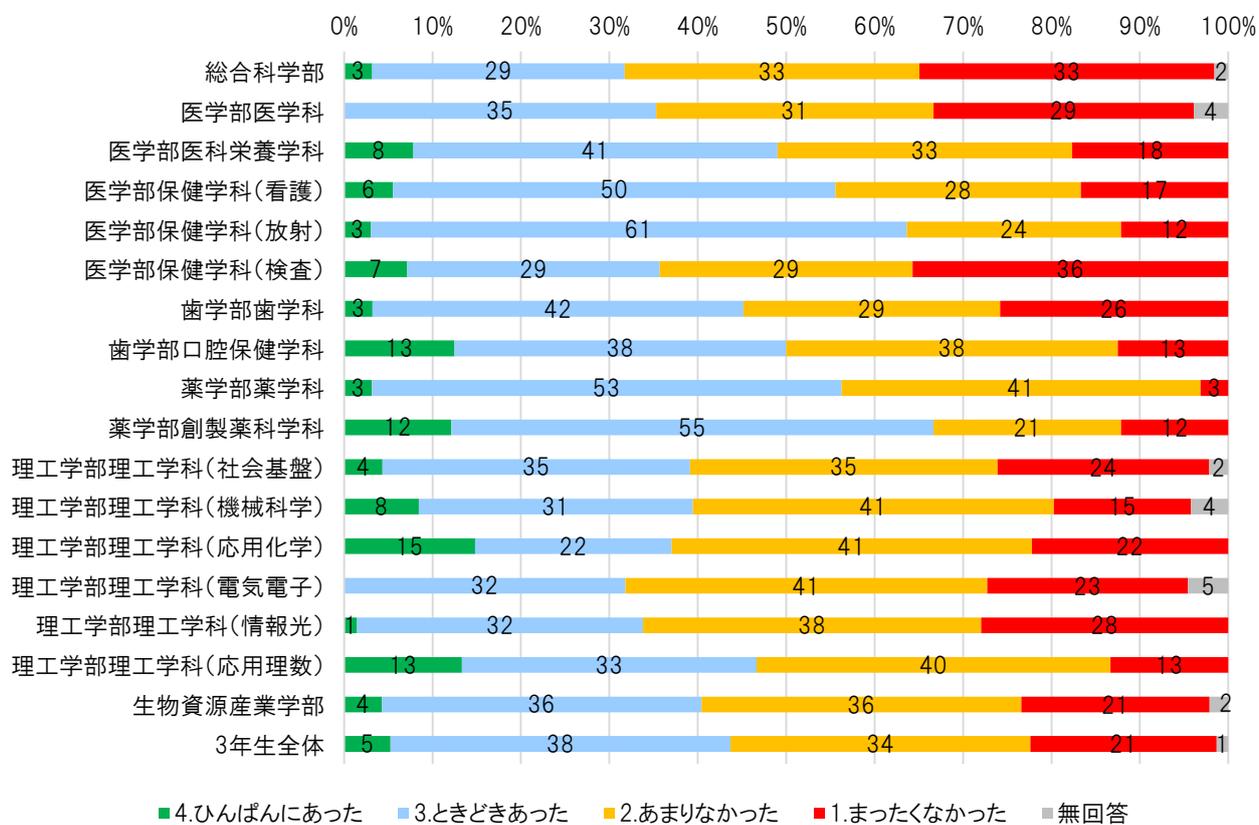
[27]授業に遅刻した



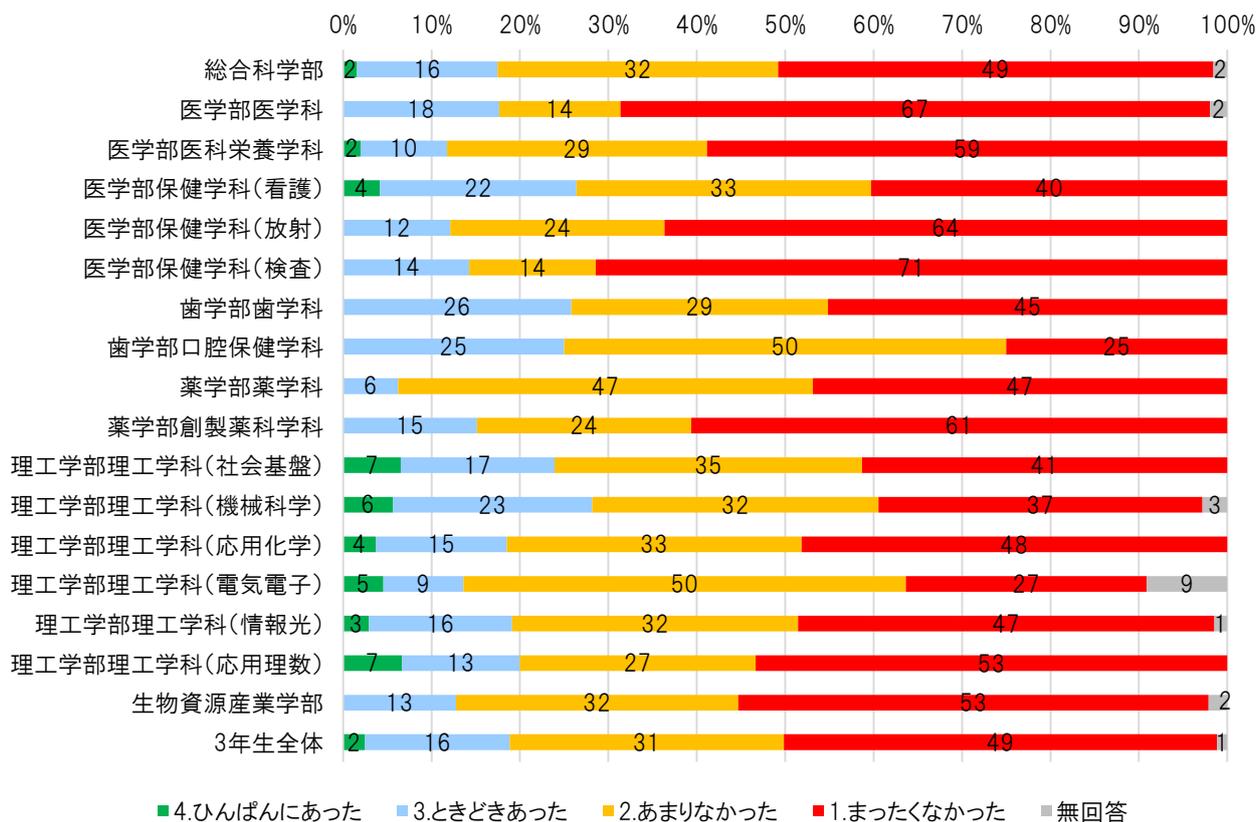
[28]授業をつまらなく感じた



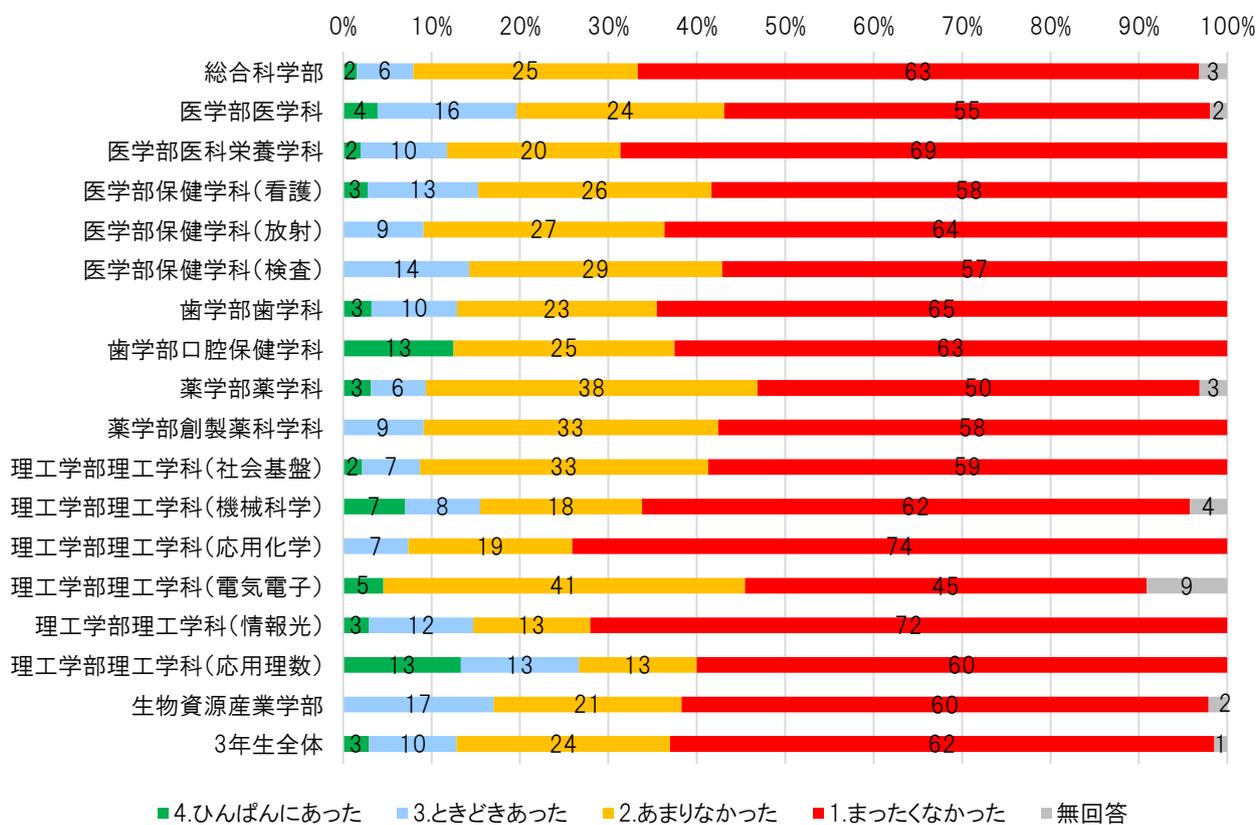
[29]授業中に居眠りをした



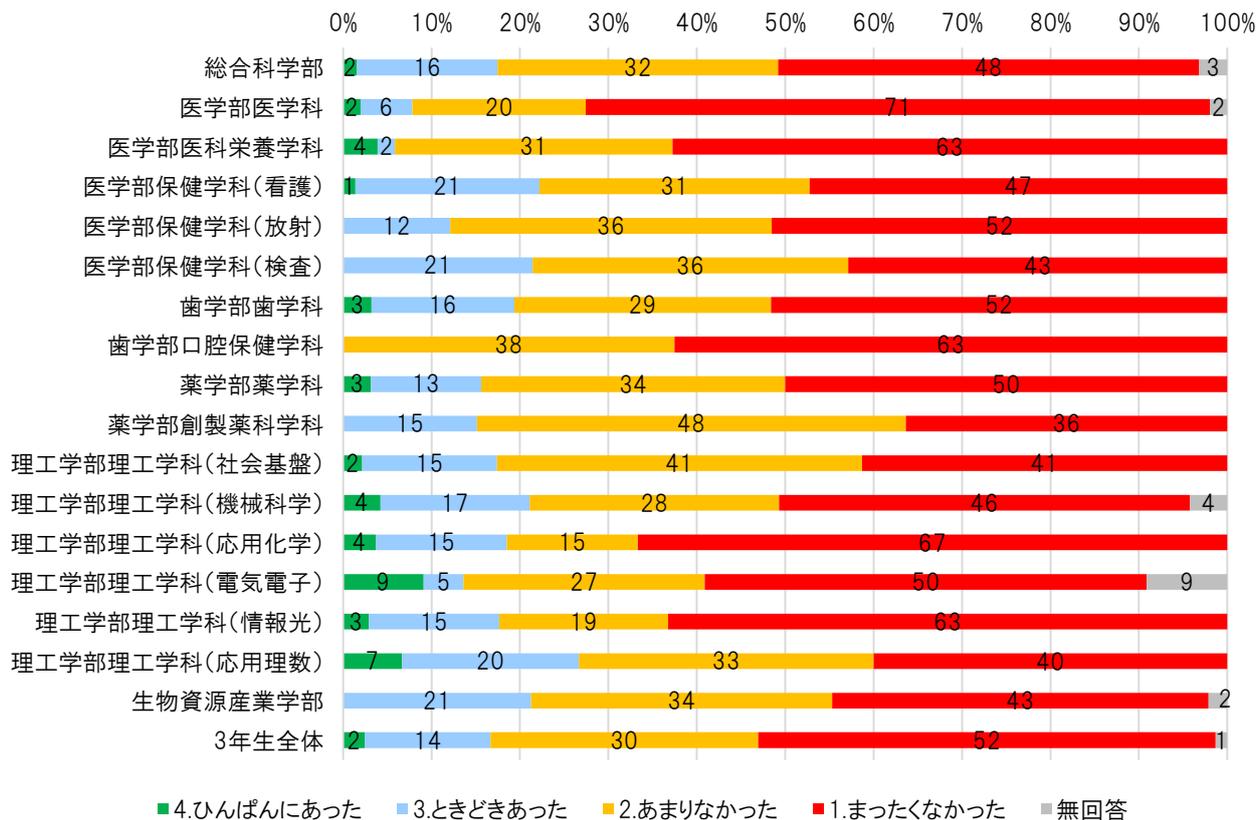
[30]学内で学習支援をうけた(教職員に学習に関する相談をした、学内の学習支援室を利用した等)



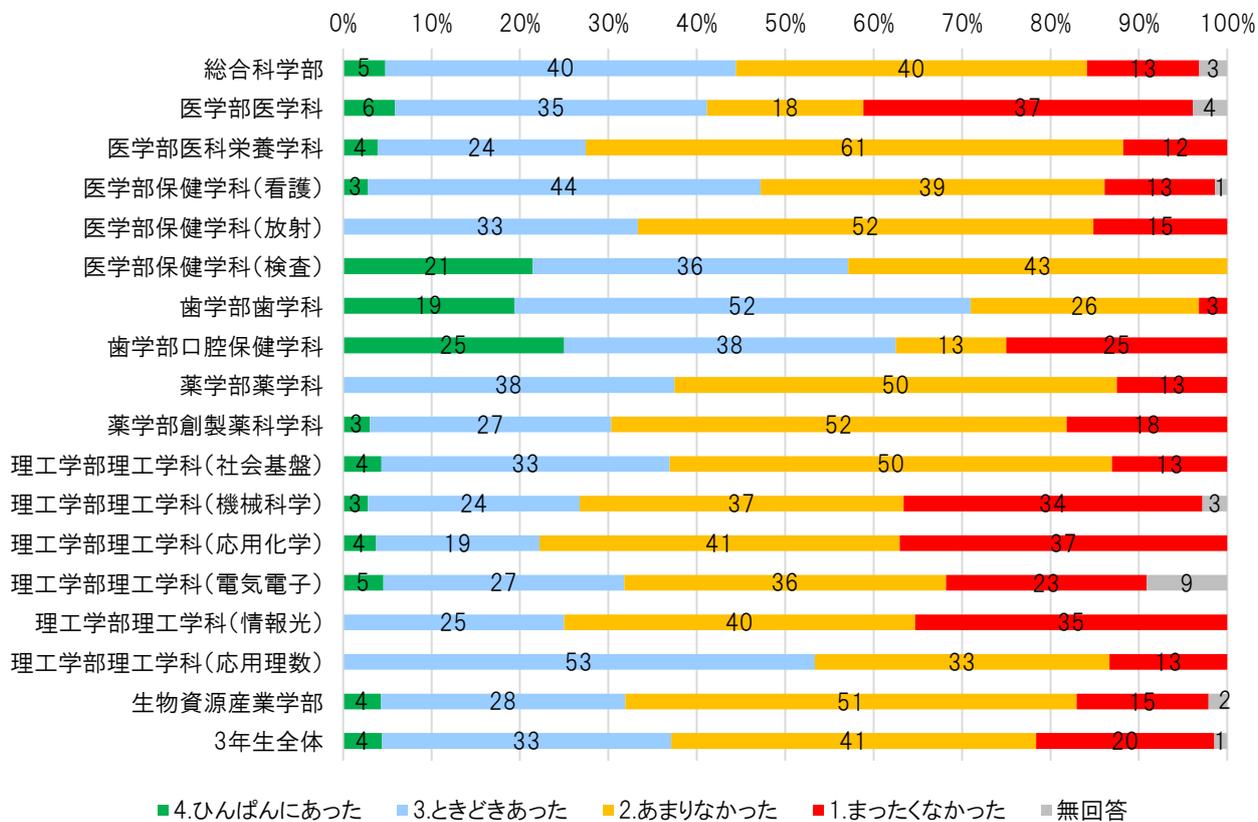
[31]単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した



[32]大学の教職員に将来のキャリアの相談をした(卒業後の進路や職業選択など)

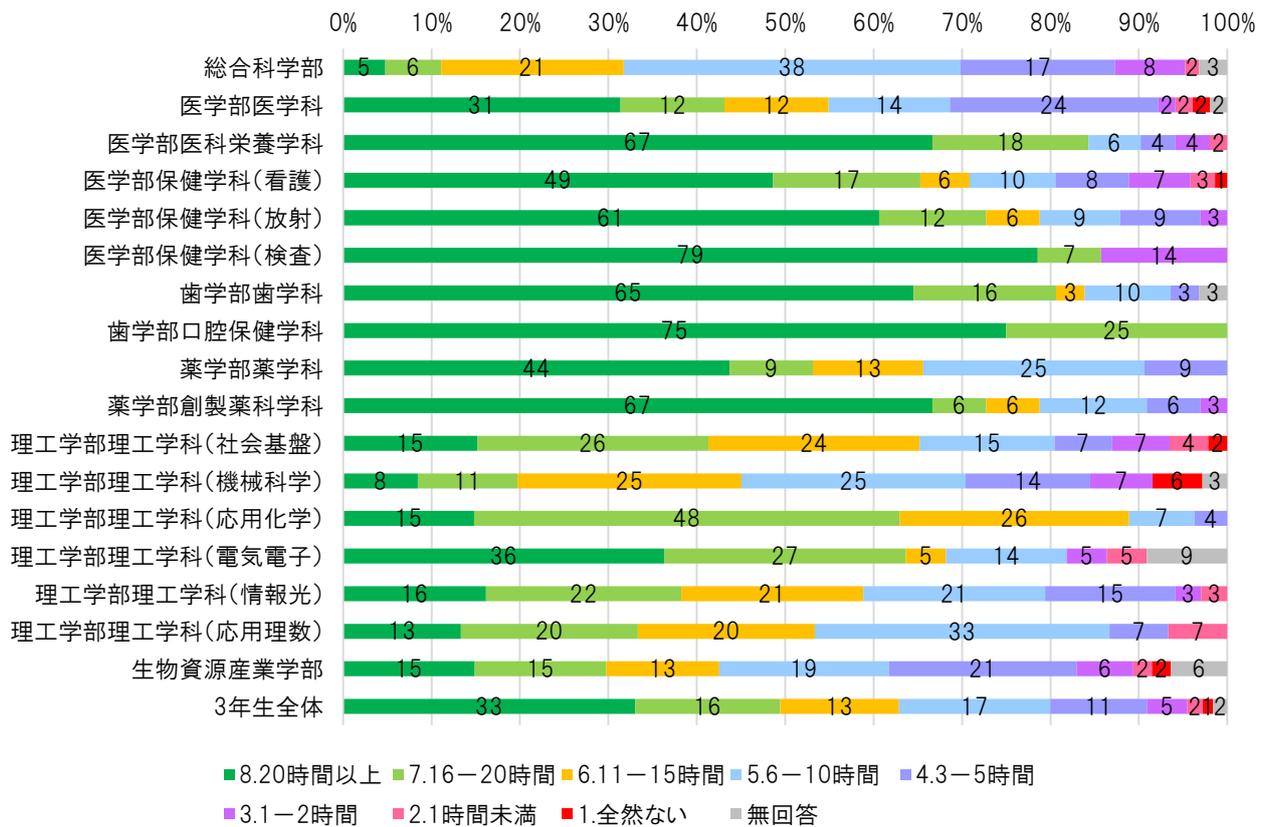


[33]教員に親近感を感じた

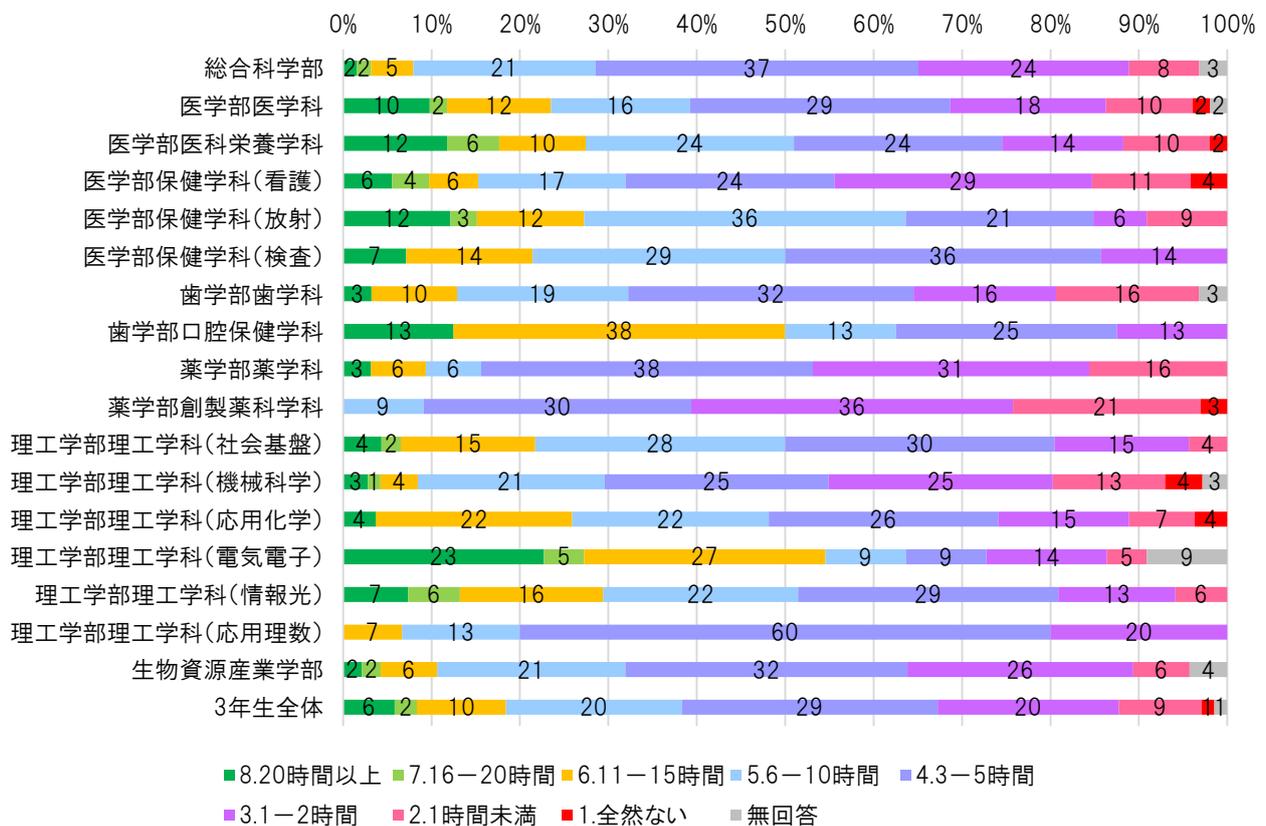


入学以来、あなたは次の活動に 1 週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

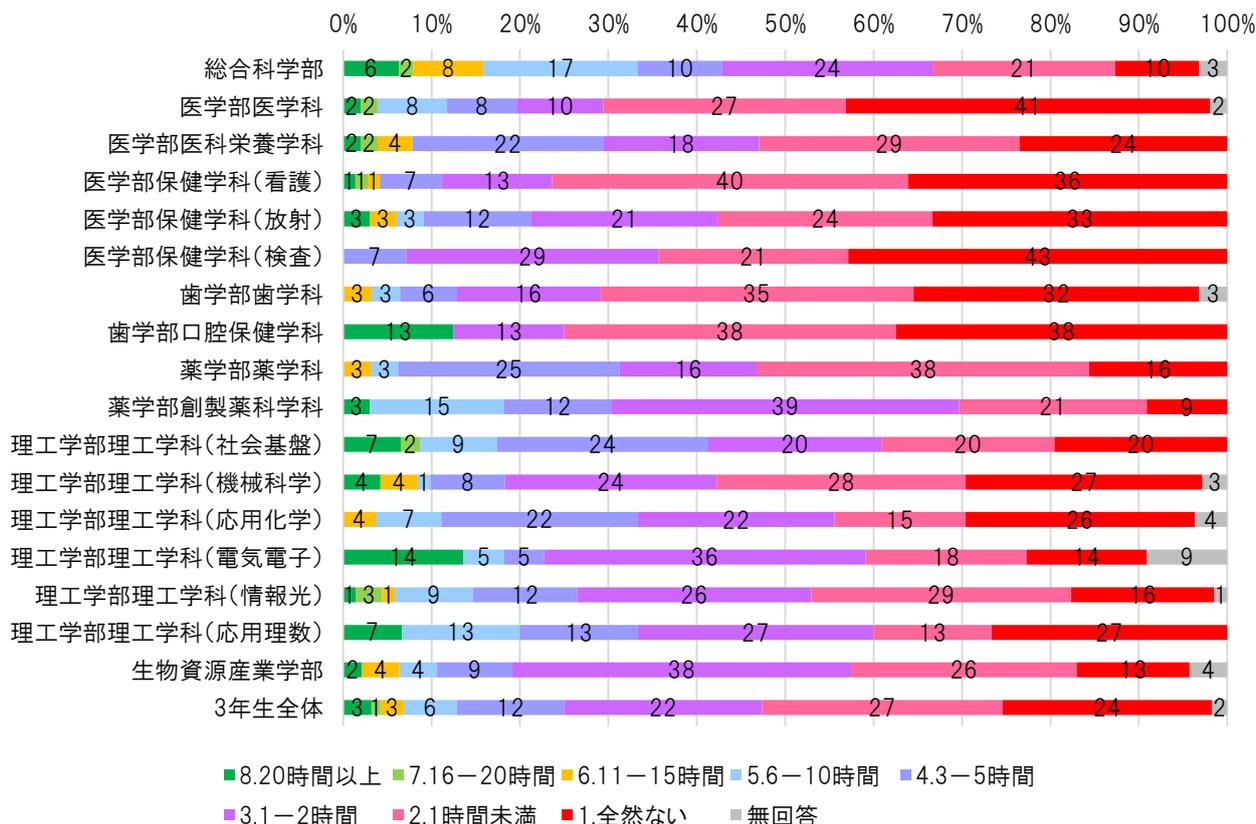
[34] 授業や実験に出る



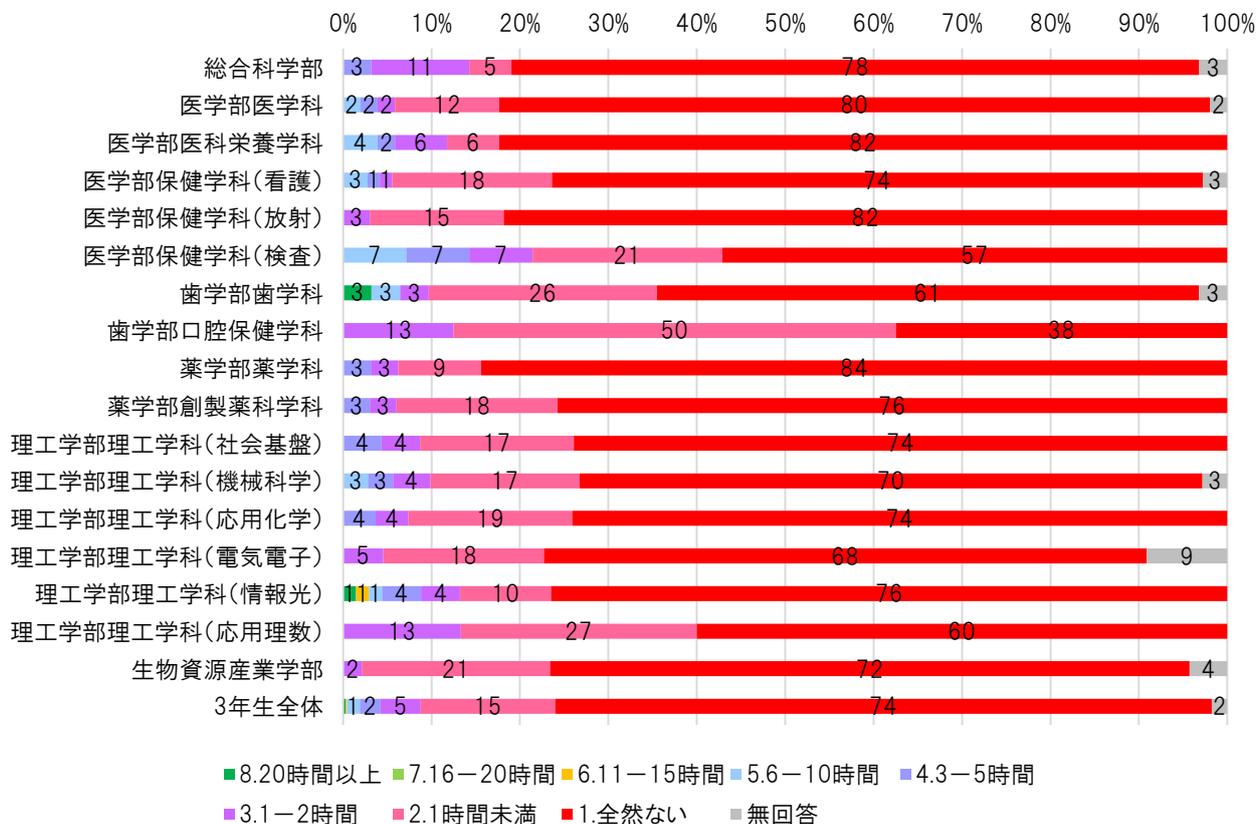
[35] 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする



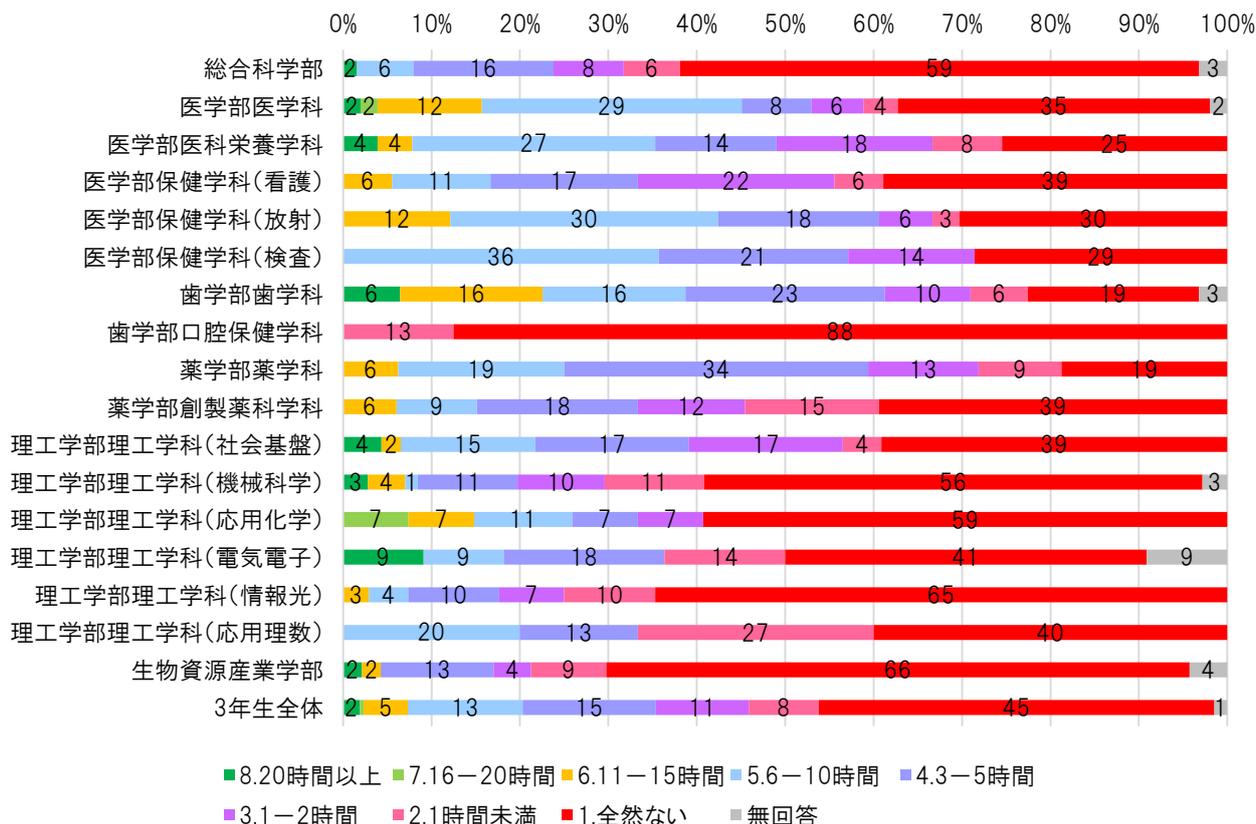
[36]授業時間外に、授業に関連しない勉強をする



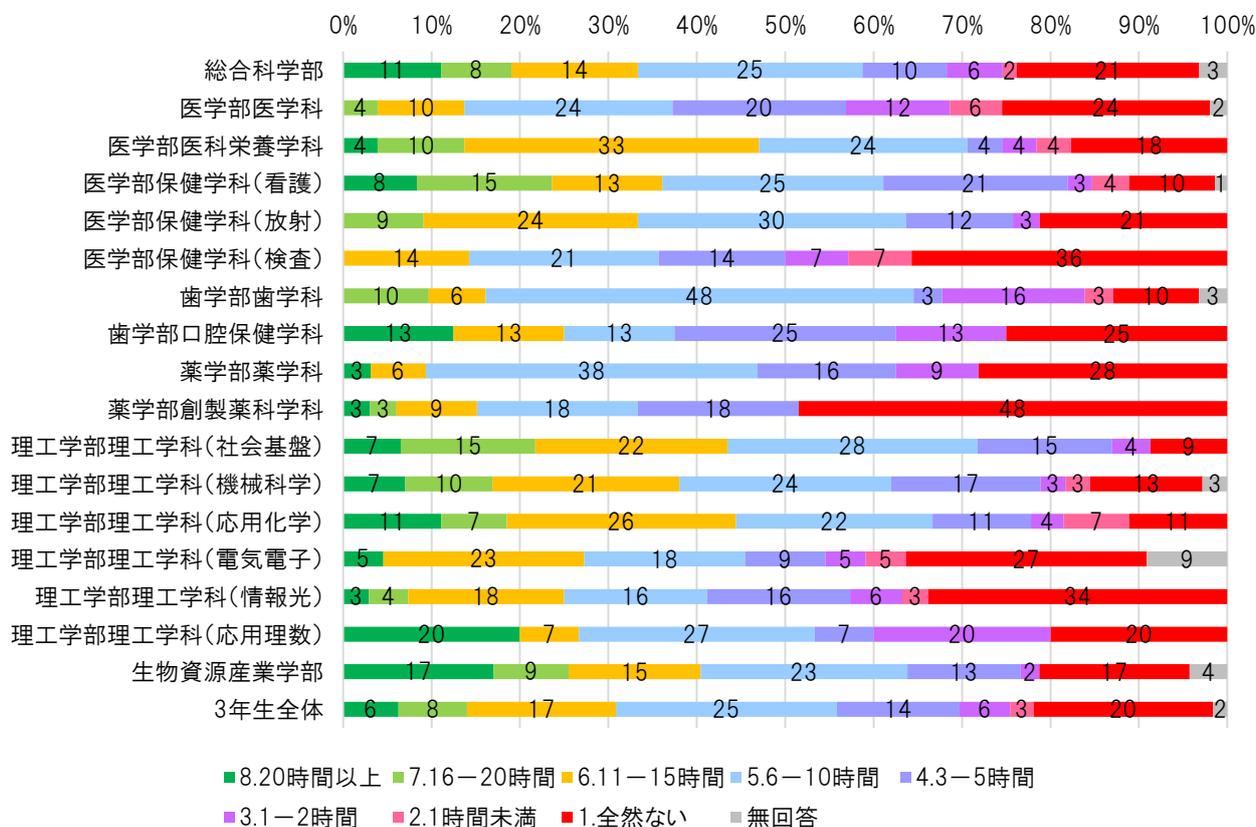
[37]オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する



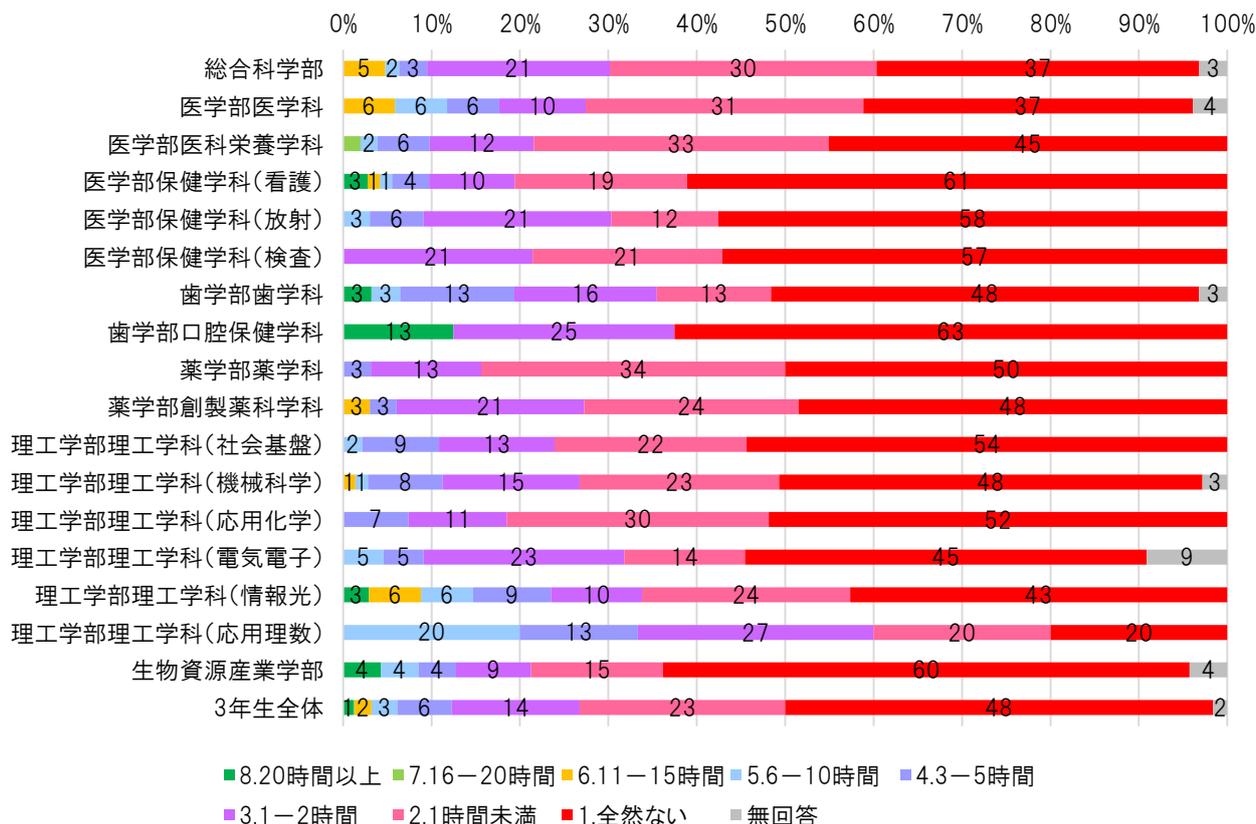
[38]部活動や同好会に参加する



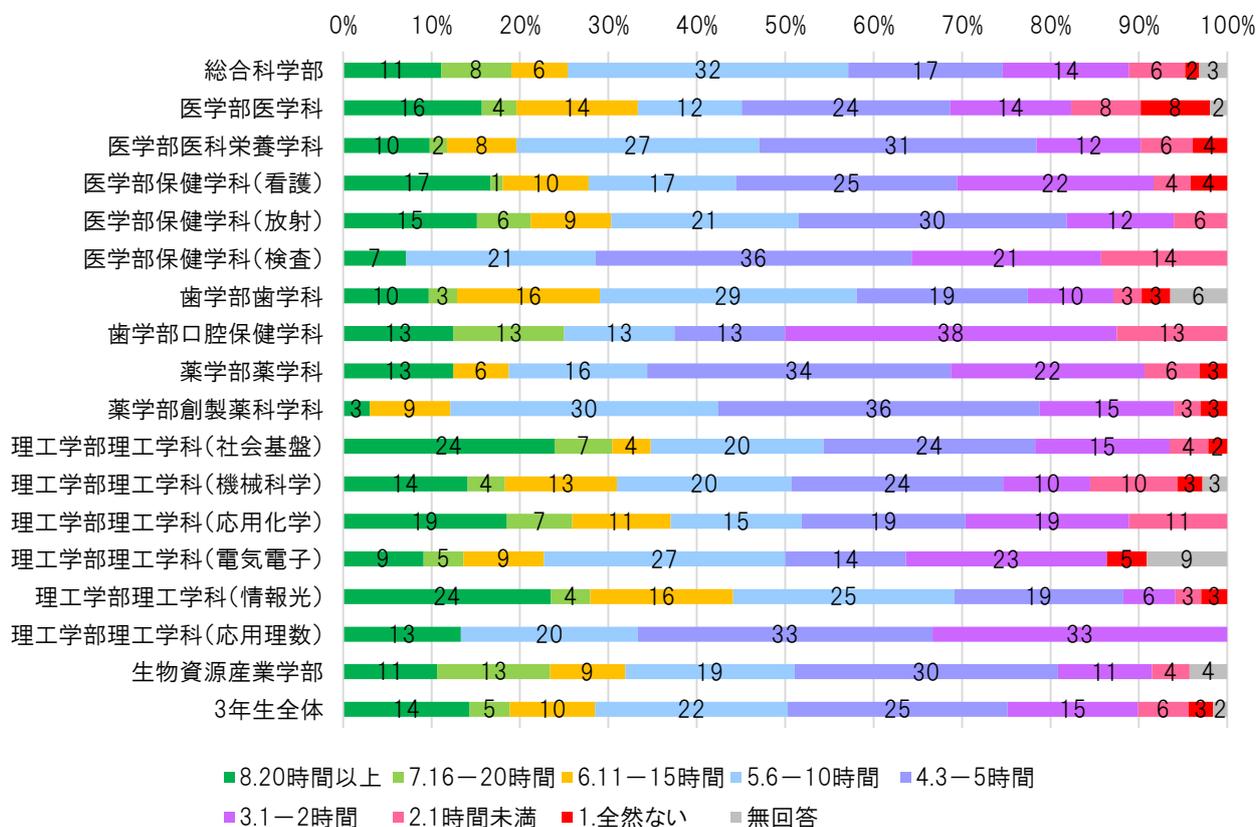
[39]大学外でアルバイトや仕事をする



[40]読書をする(マンガ・雑誌を除く)

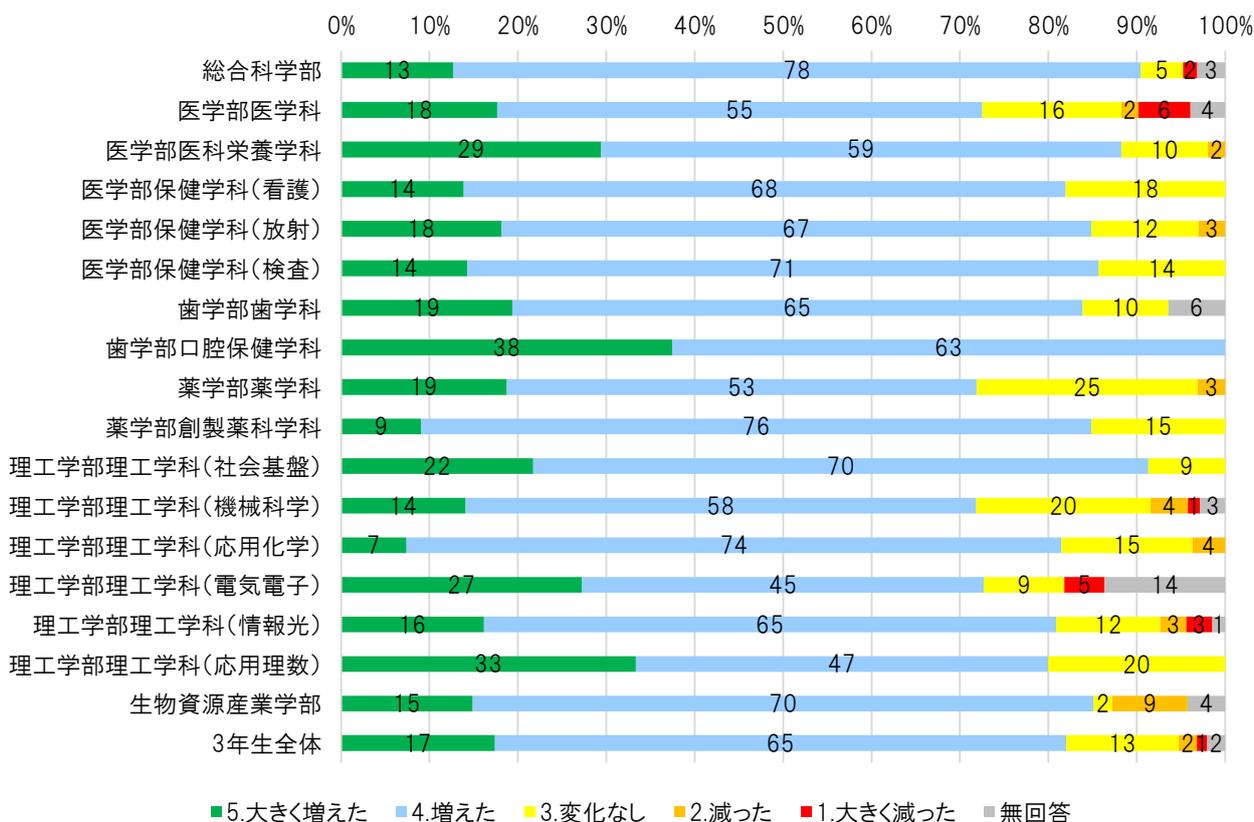


[41]個人的な趣味活動をする(テレビやゲーム、映画鑑賞など)

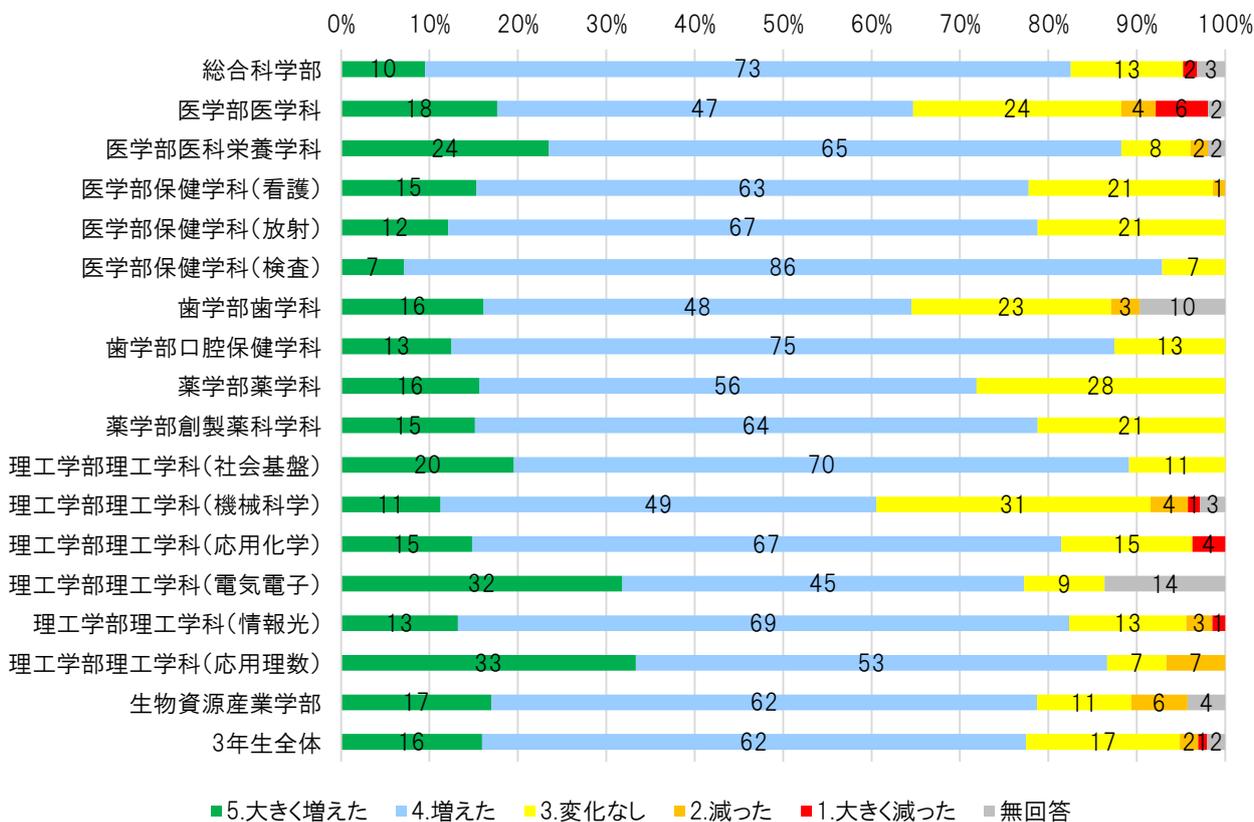


入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

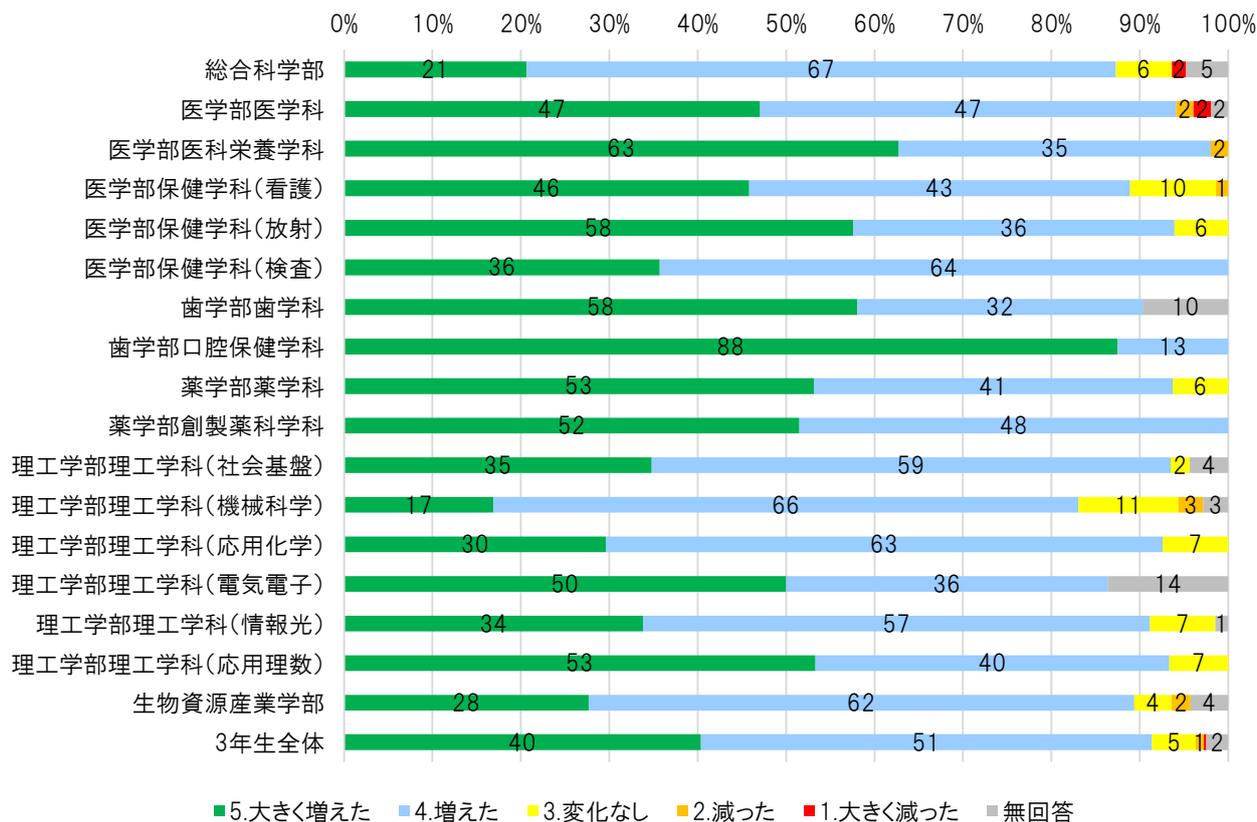
[42]一般的な教養



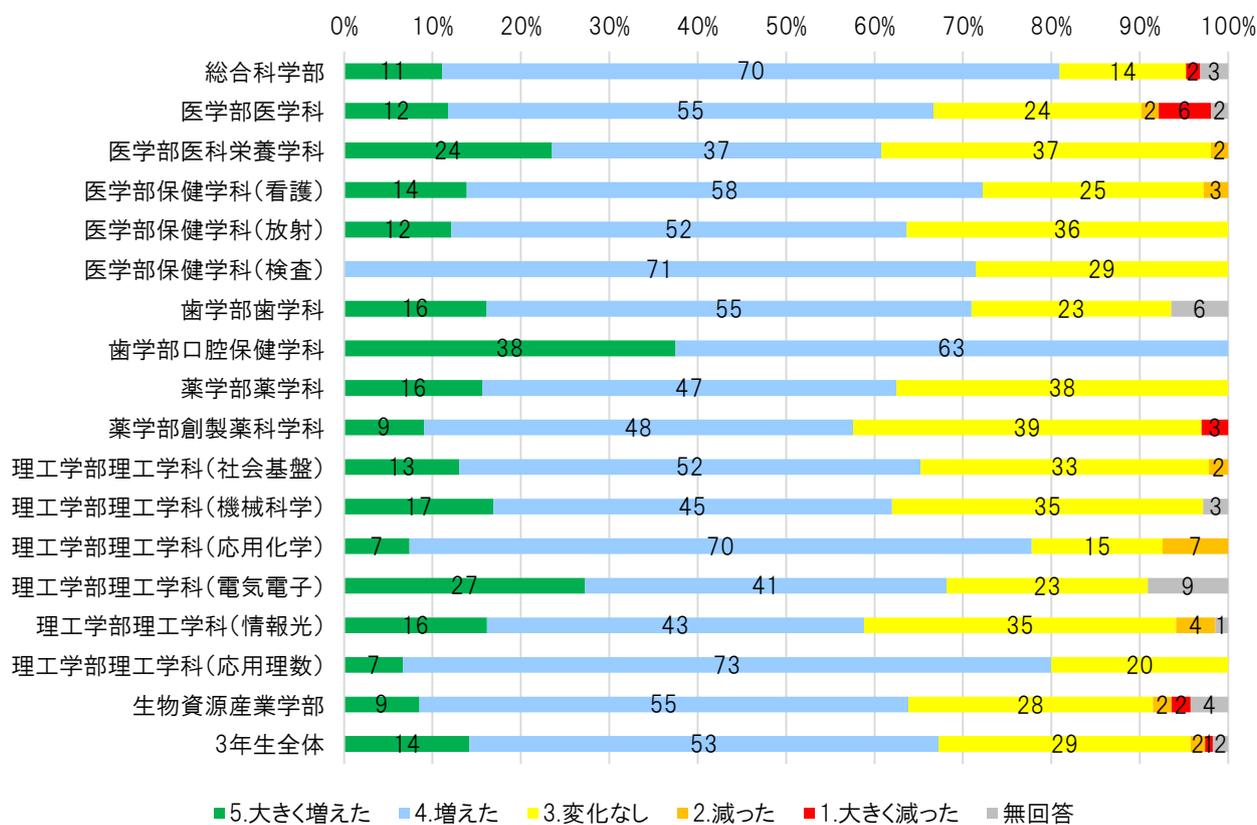
[43]分析力や問題解決能力



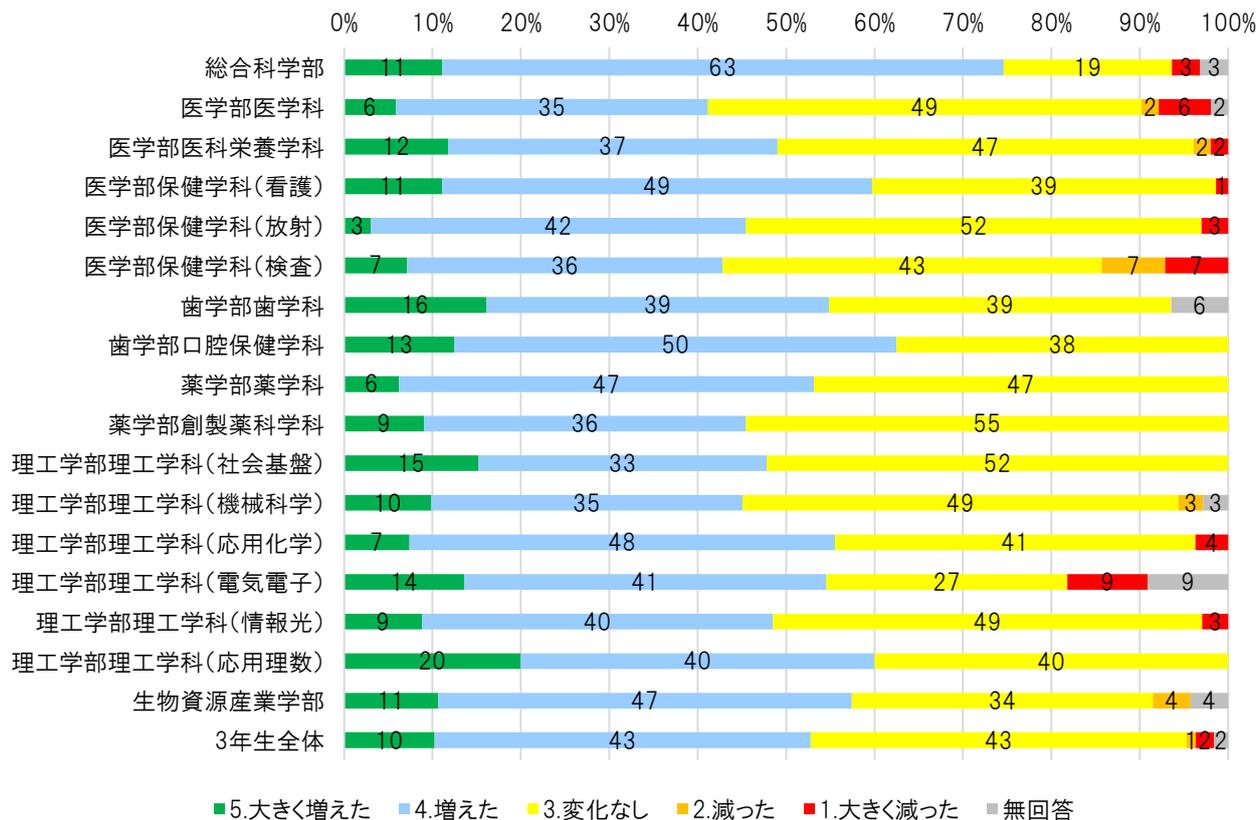
[44] 専門分野や学科の知識



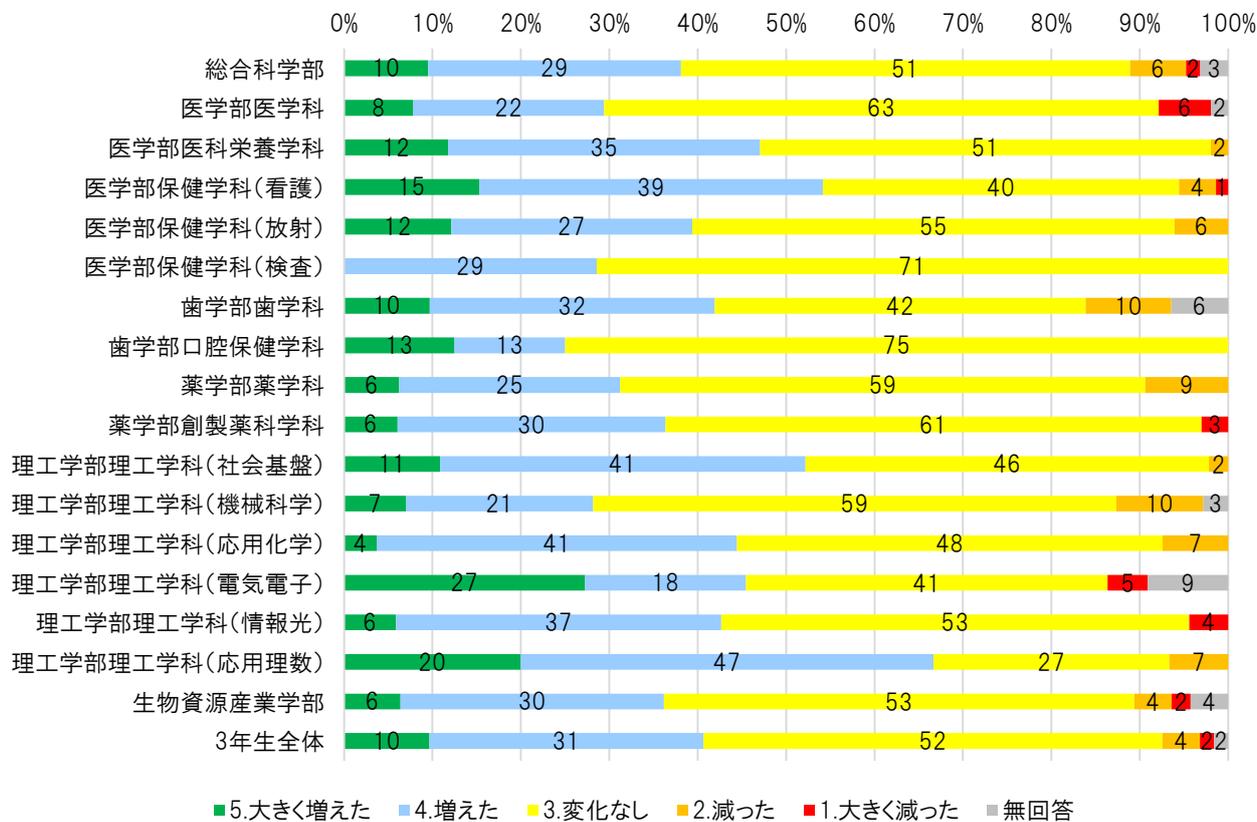
[45] 批判的に考える能力



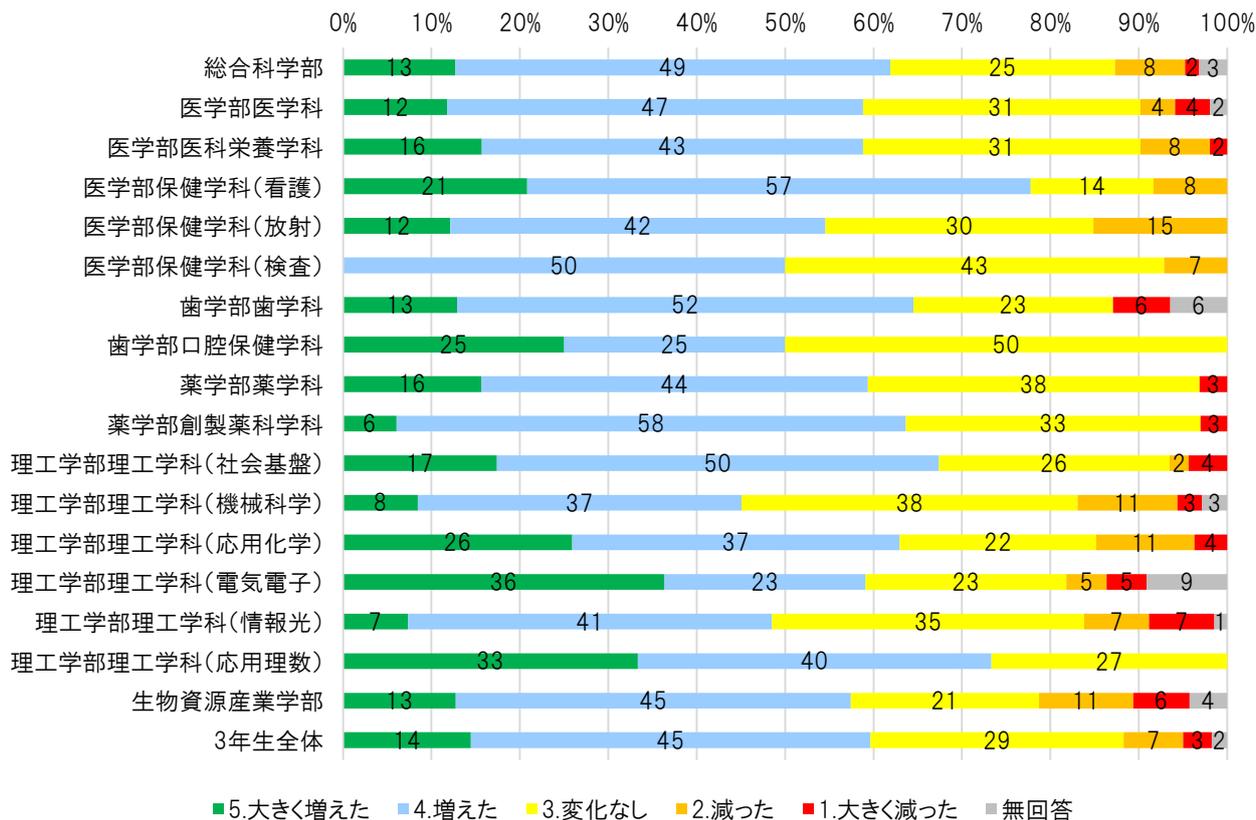
[46]異文化の人々に関する知識



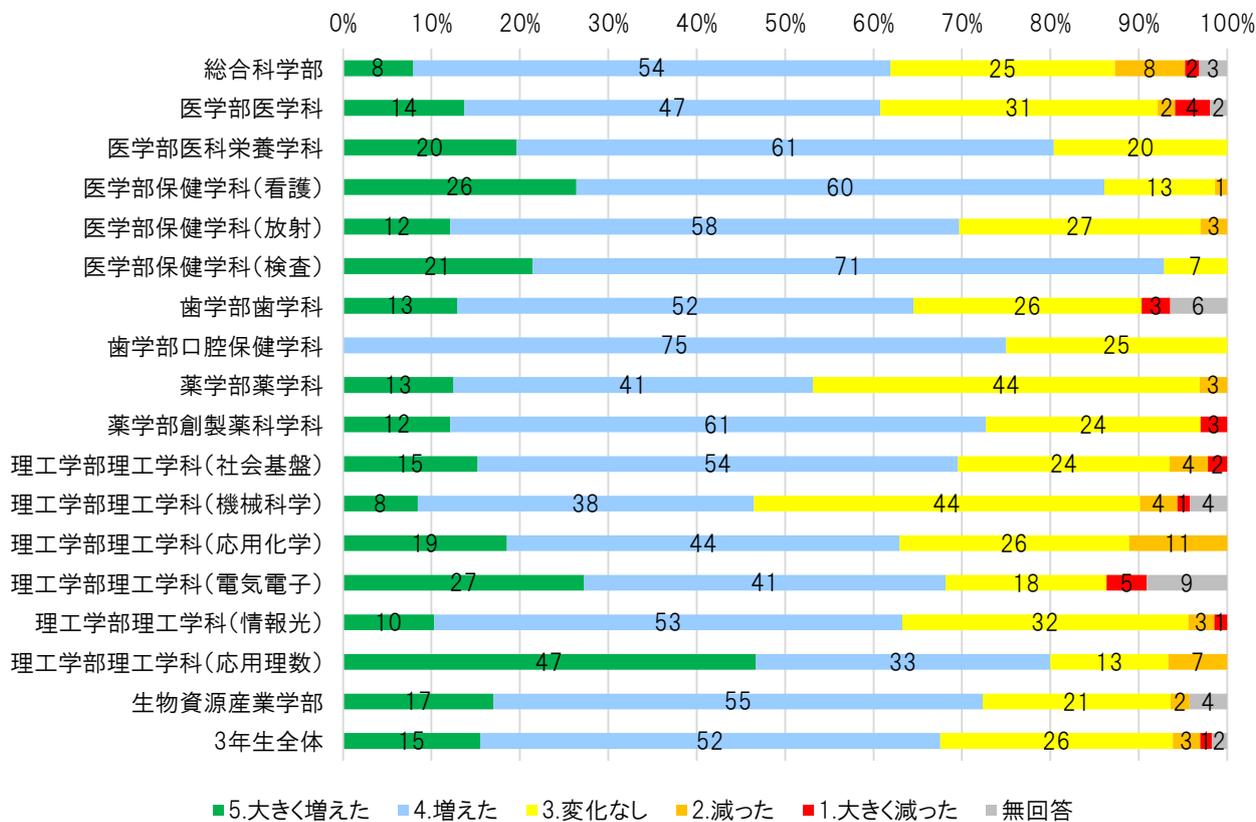
[47]リーダーシップの能力



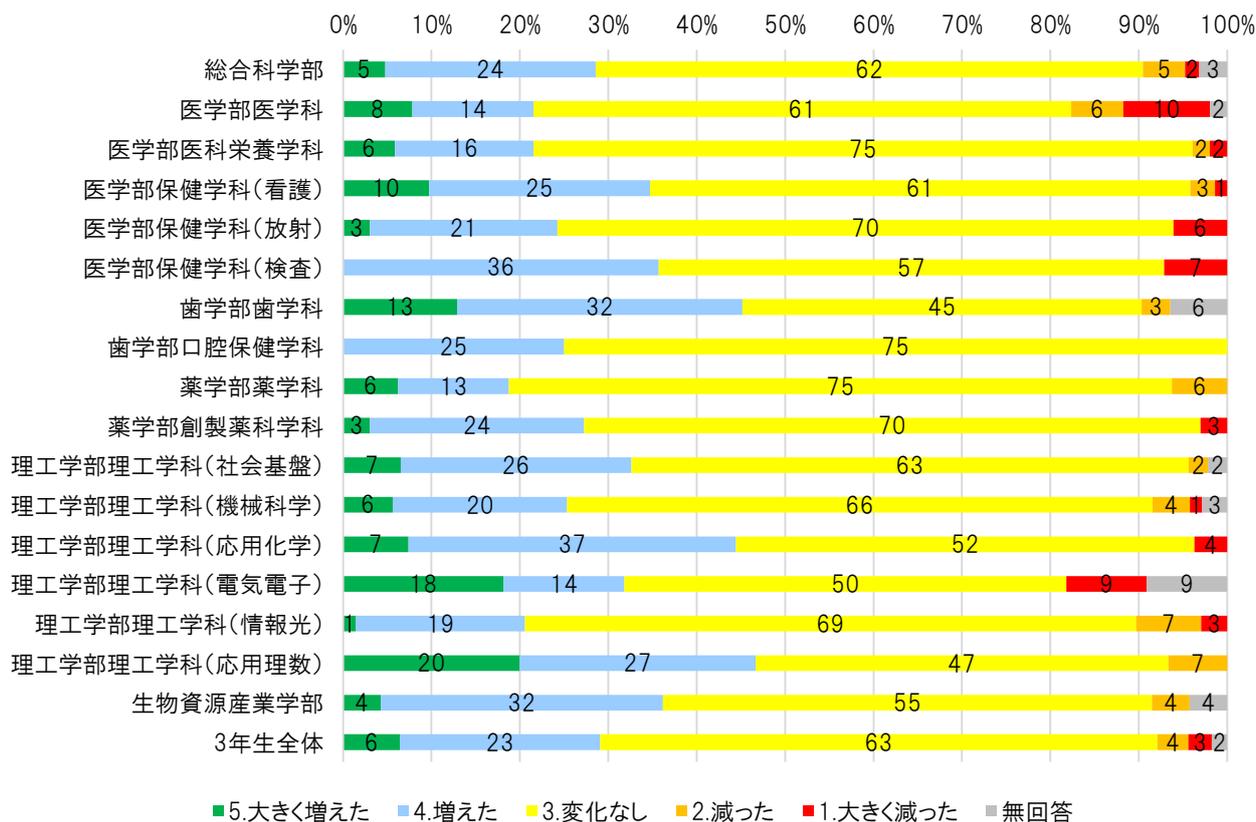
[48]人間関係を構築する能力



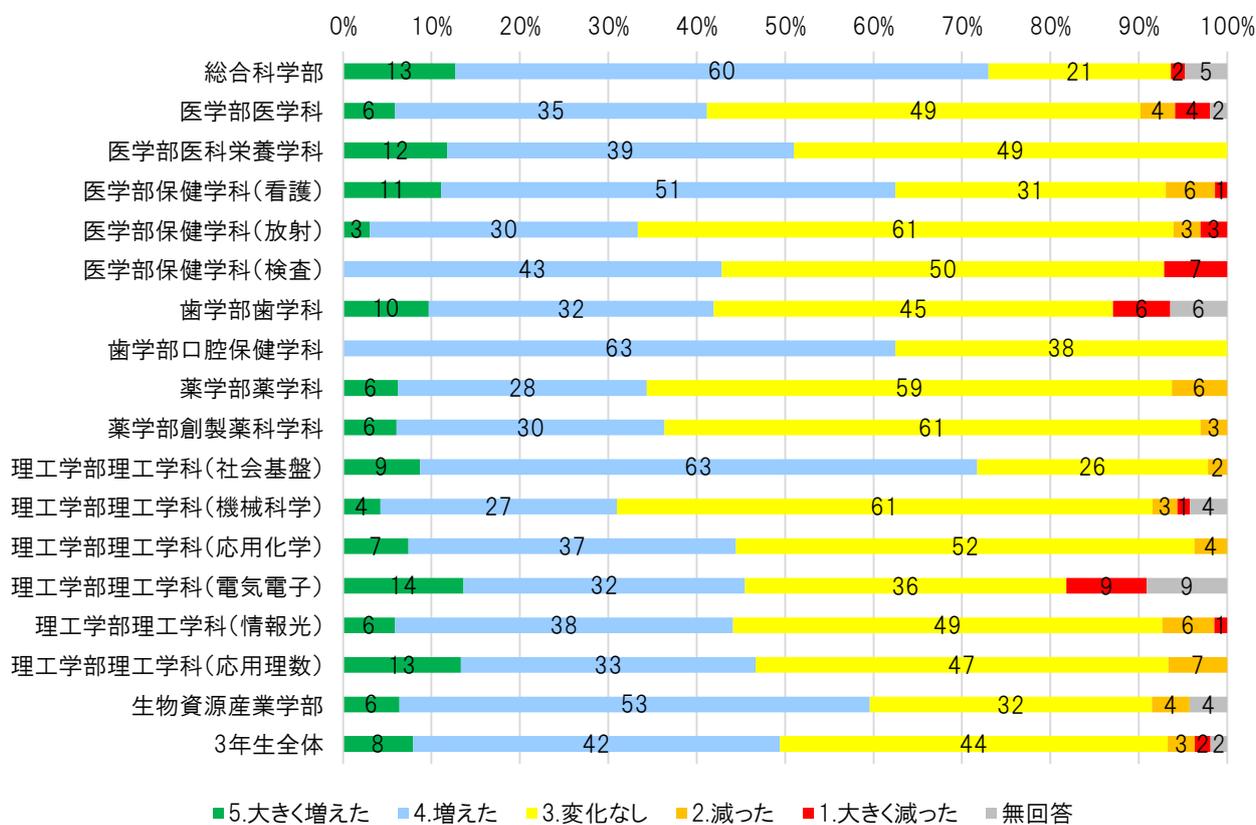
[49]他の人と協力して物事を遂行する能力



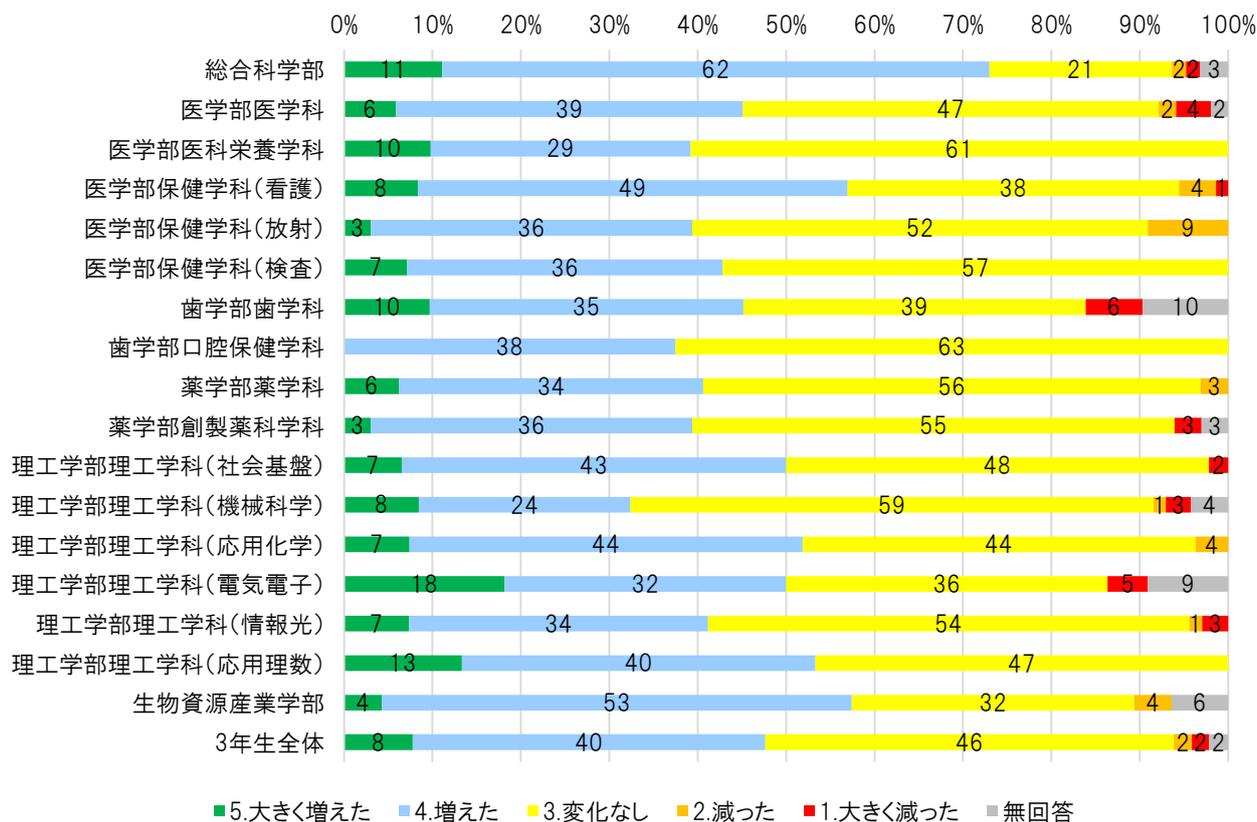
[50]異文化の人々と協力する能力



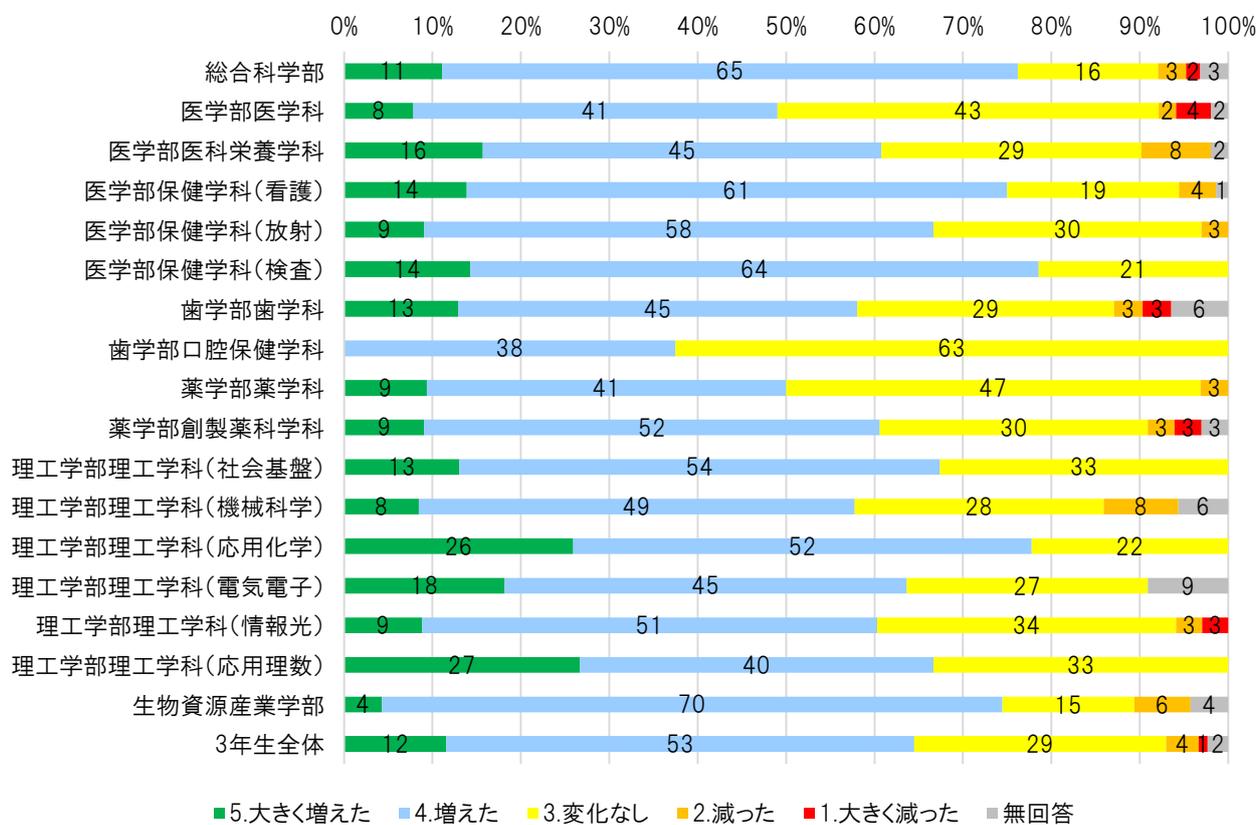
[51]地域社会が直面する問題を理解する能力



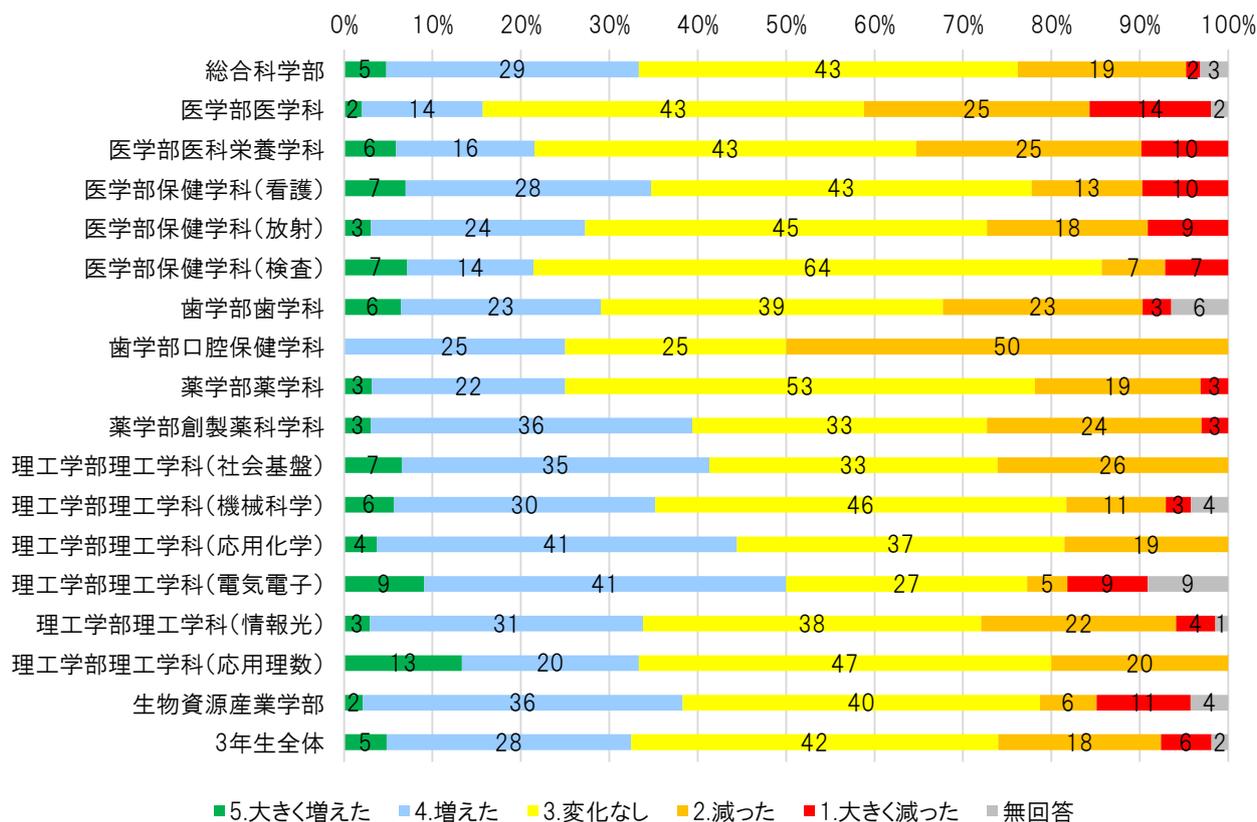
[52]国民が直面する問題を理解する能力



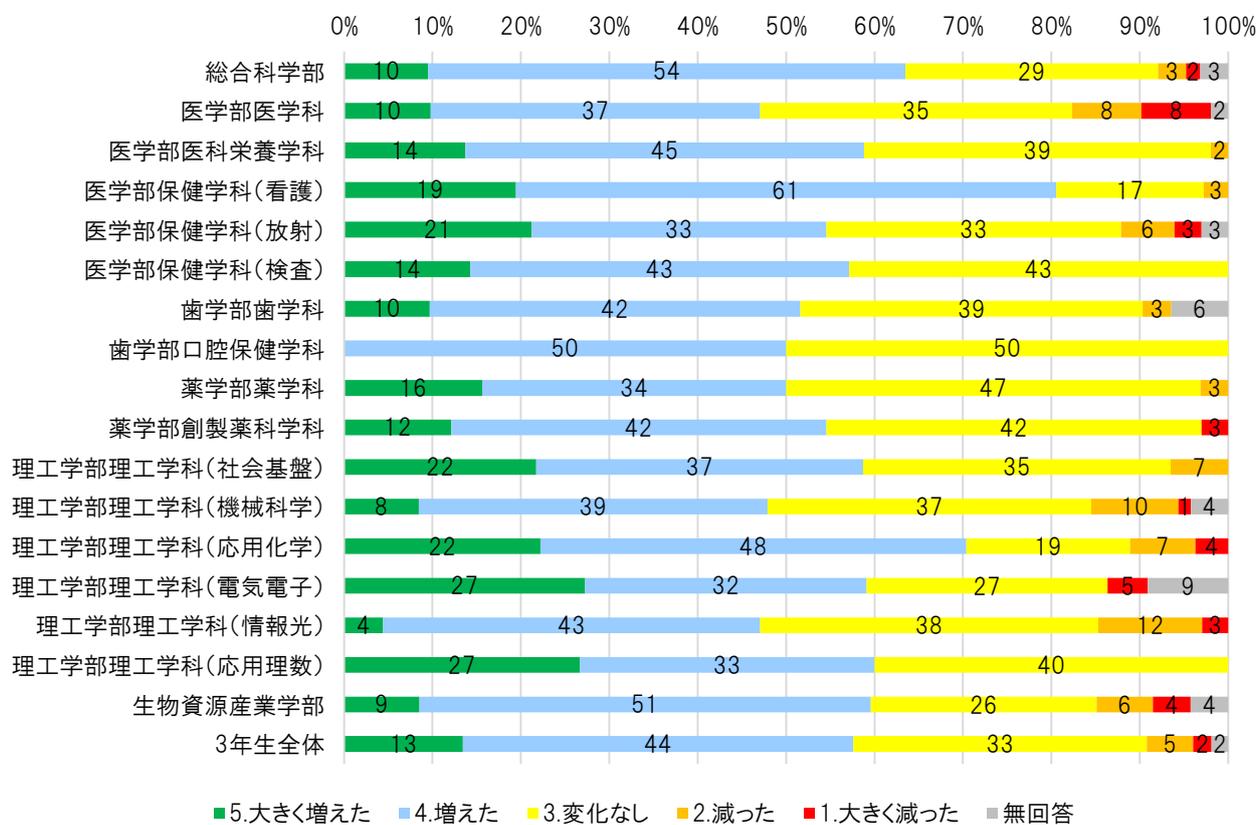
[53]文章表現の能力



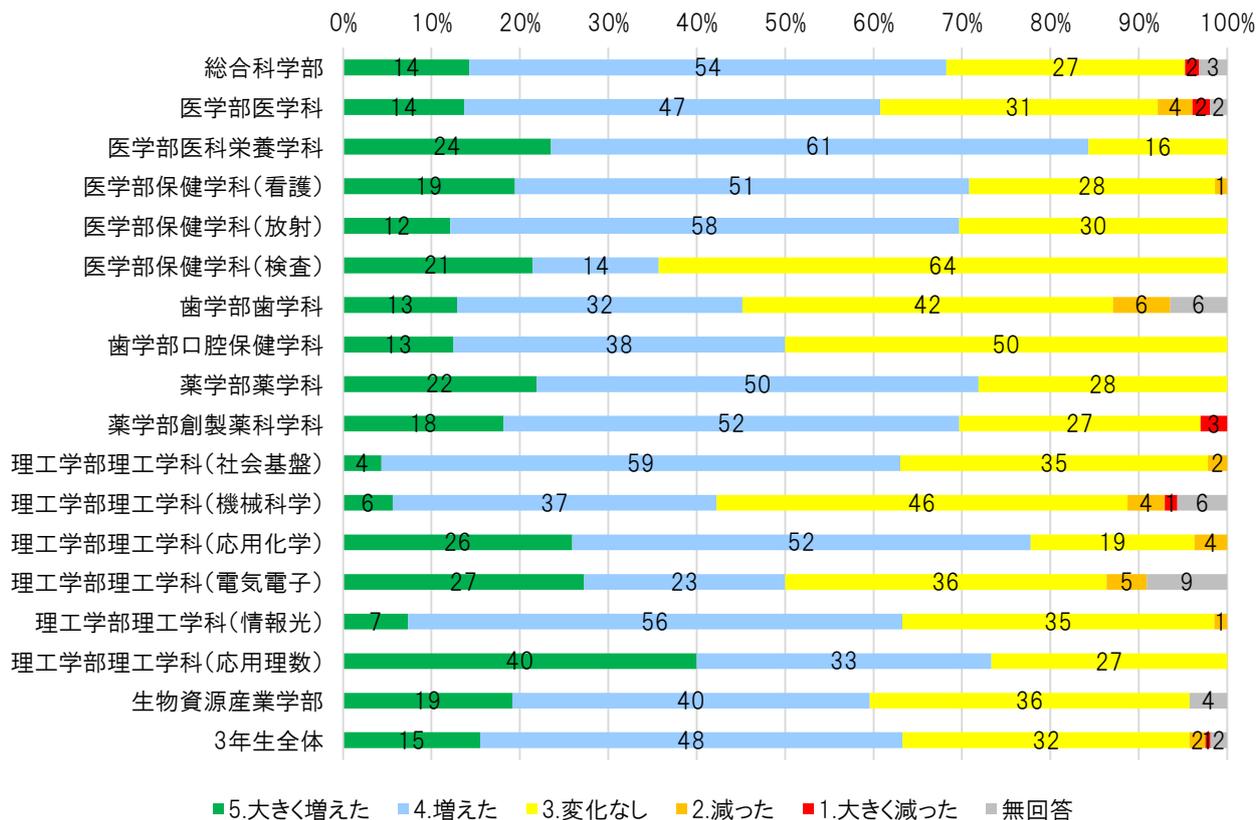
[54]外国語の運用能力



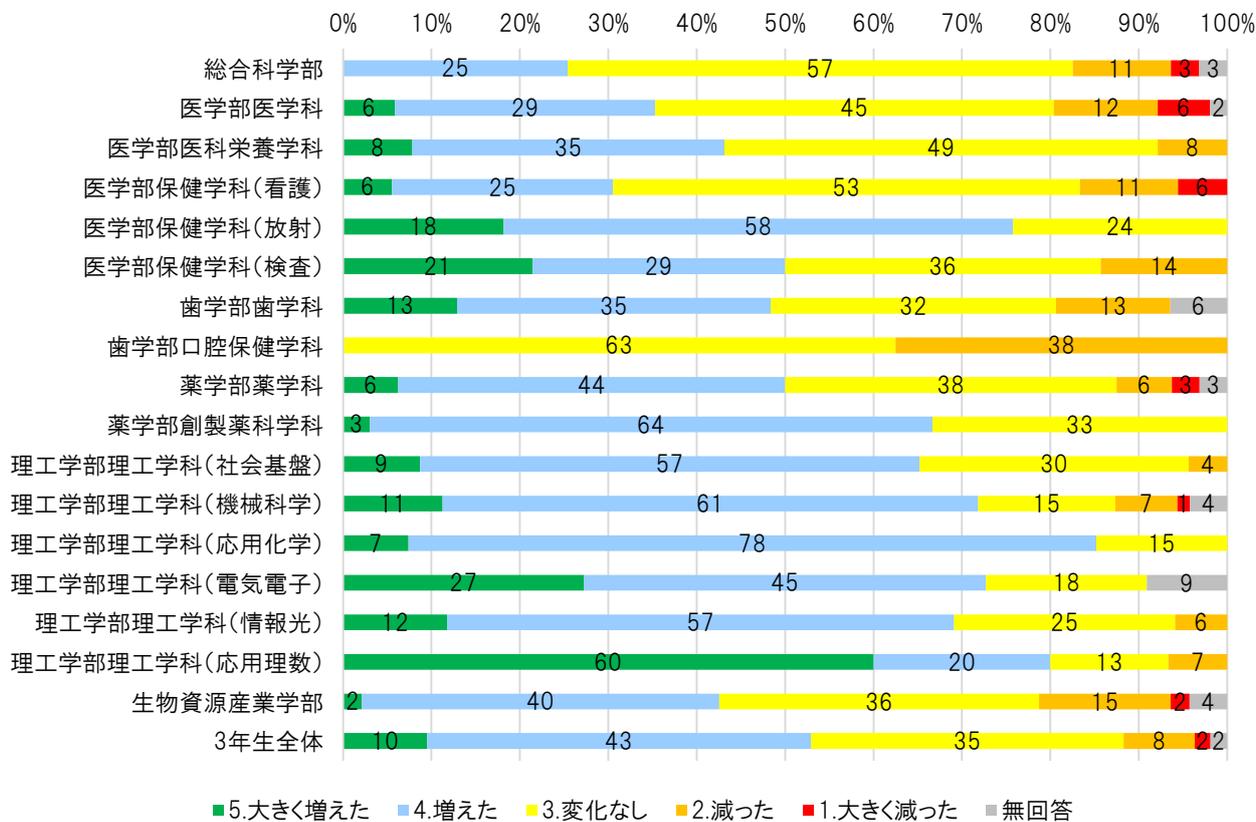
[55]コミュニケーションの能力



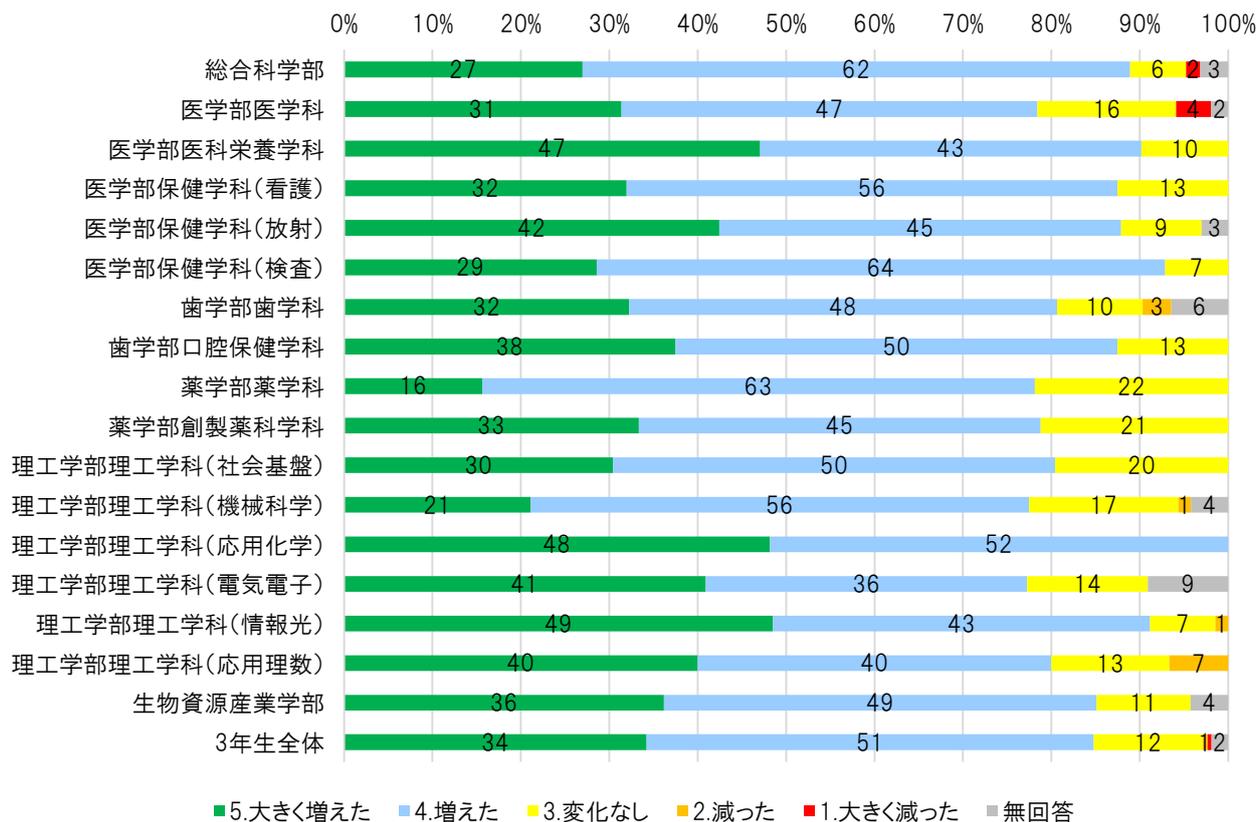
[56]プレゼンテーションの能力



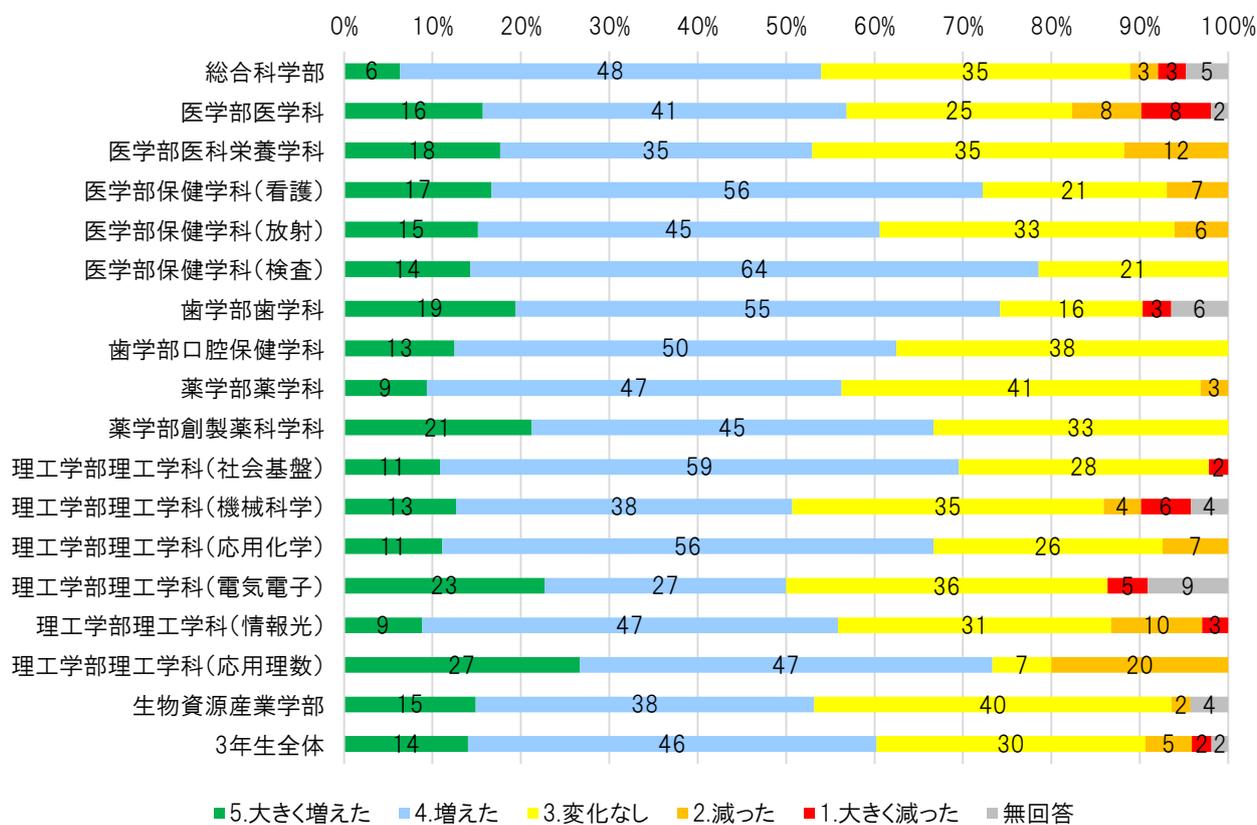
[57]数理的な能力



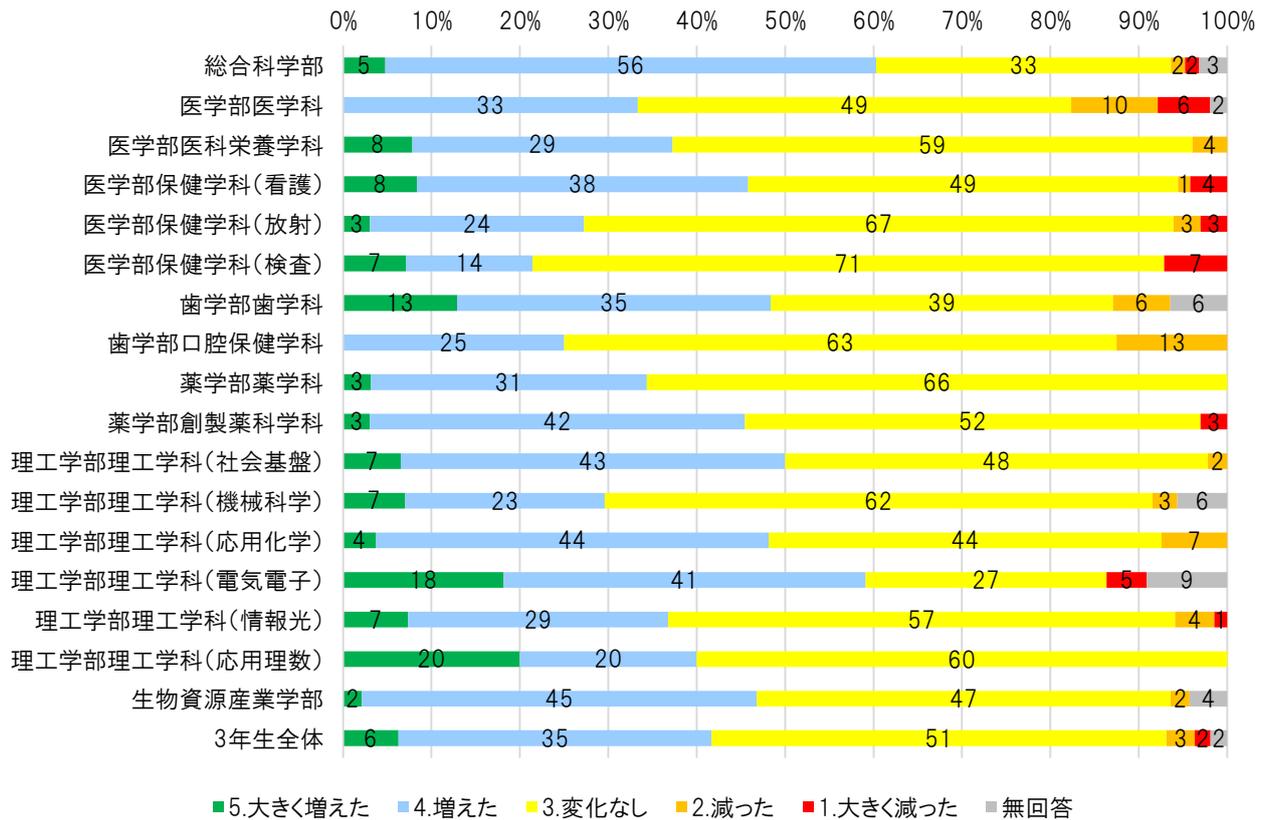
[58] コンピュータの操作能力



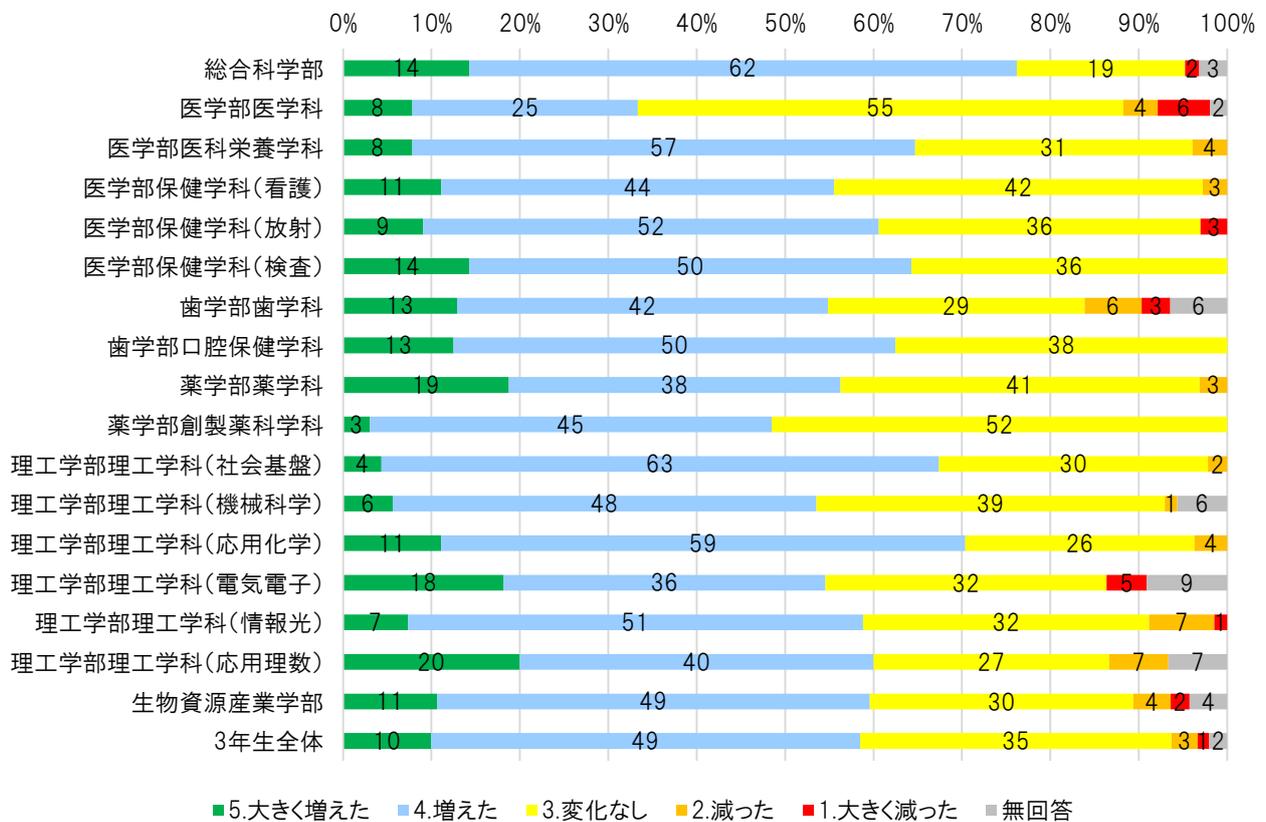
[59] 時間を効果的に利用する能力



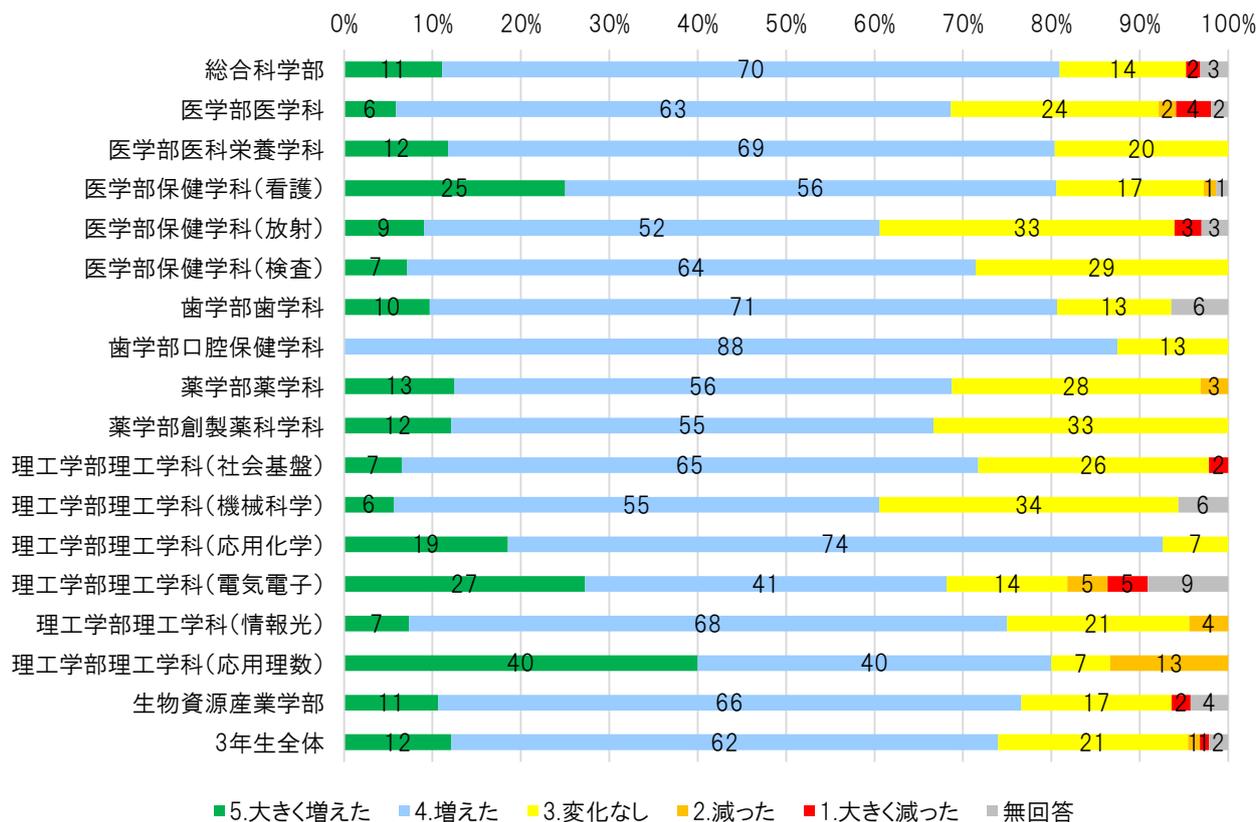
[60]グローバルな問題の理解



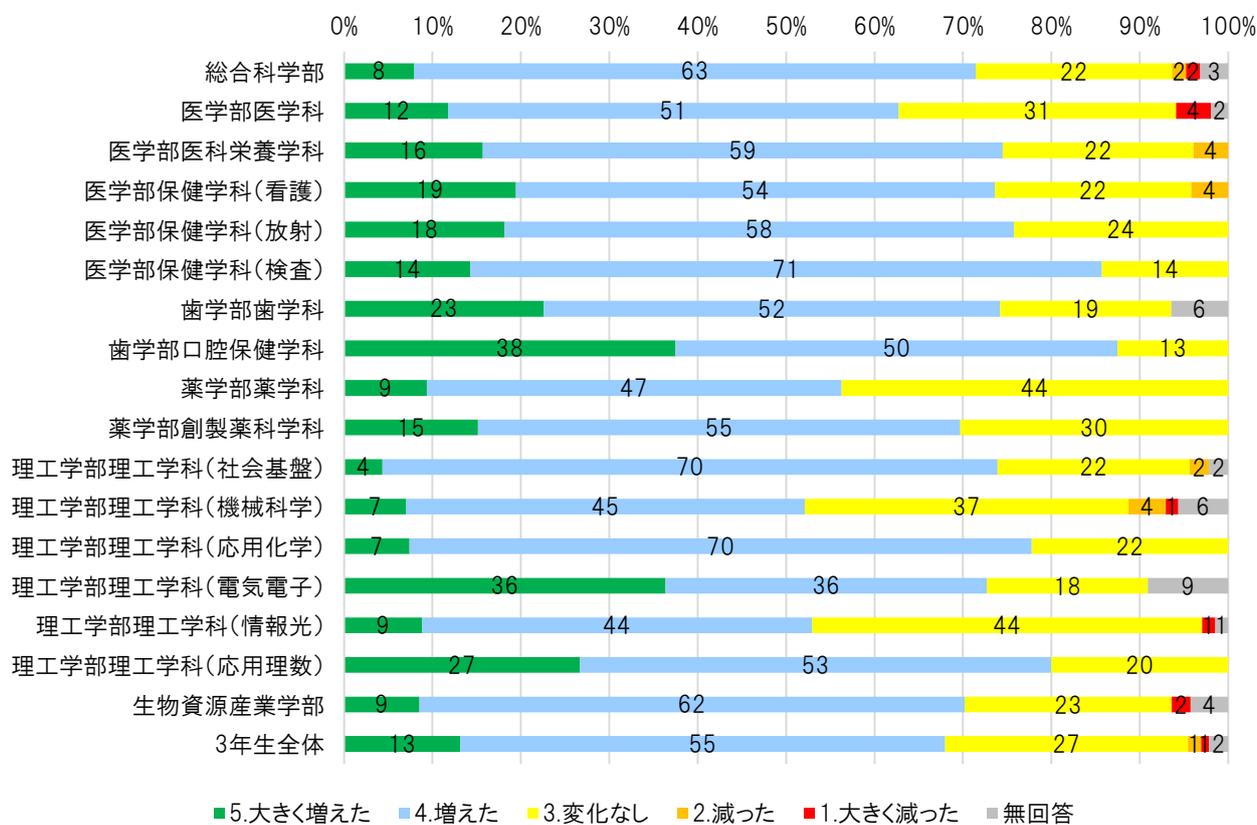
[61]卒業後に就職するための準備の度合い



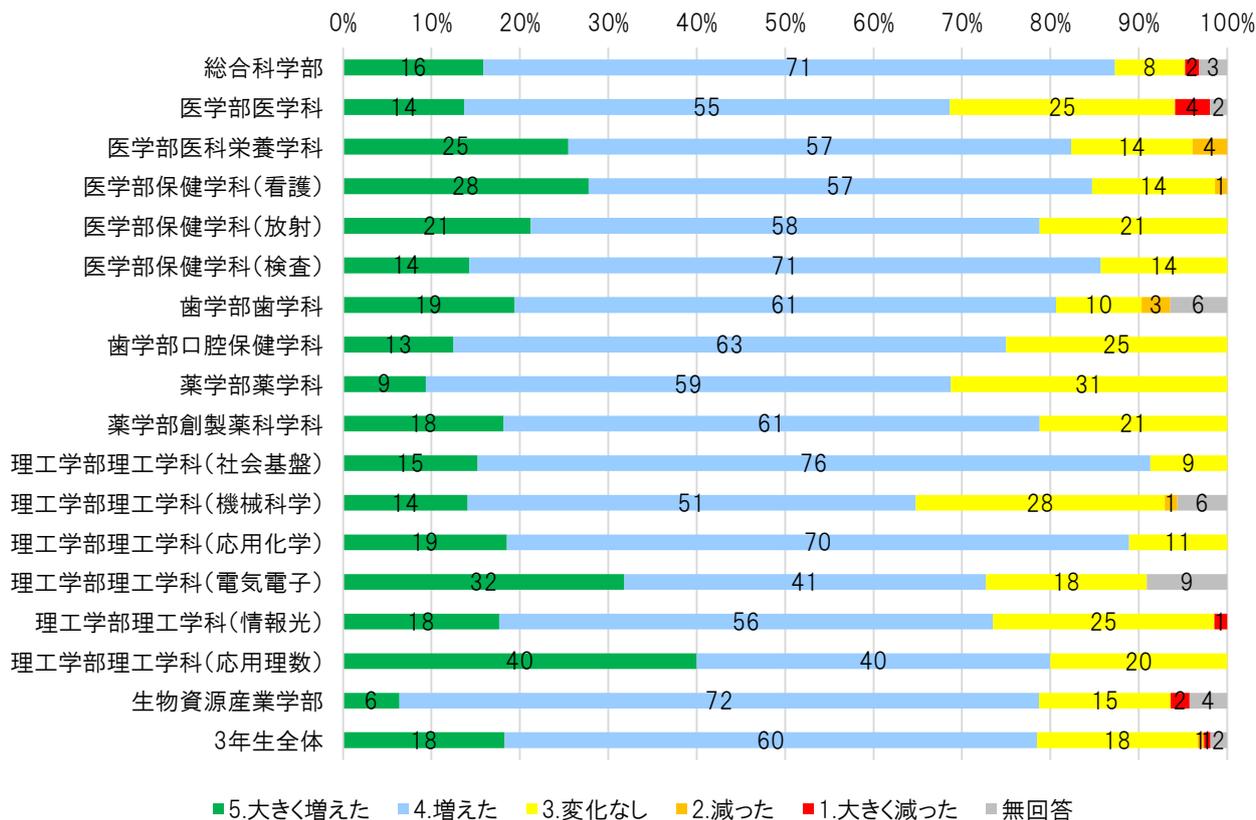
[62]職業人・社会の一員として求められる倫理観



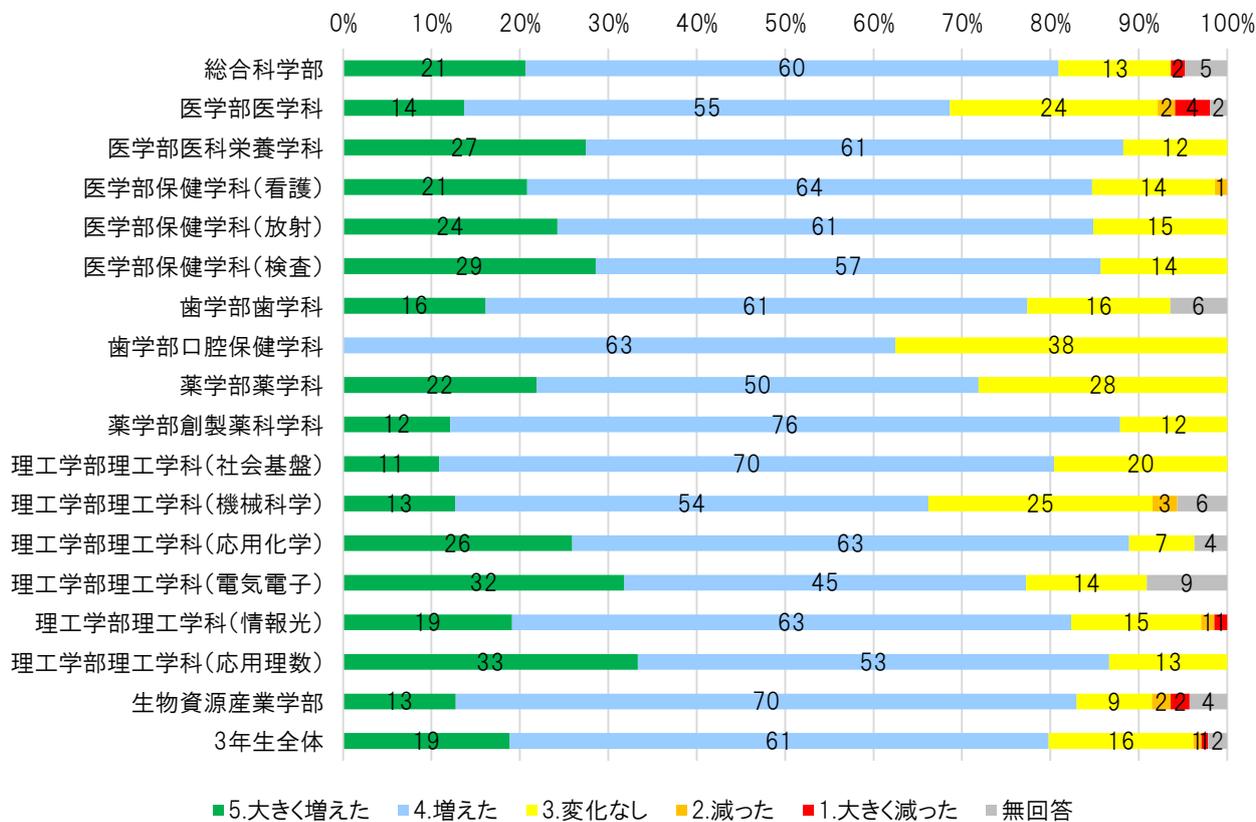
[63]生涯学び続け、教養・専門性を高める能力



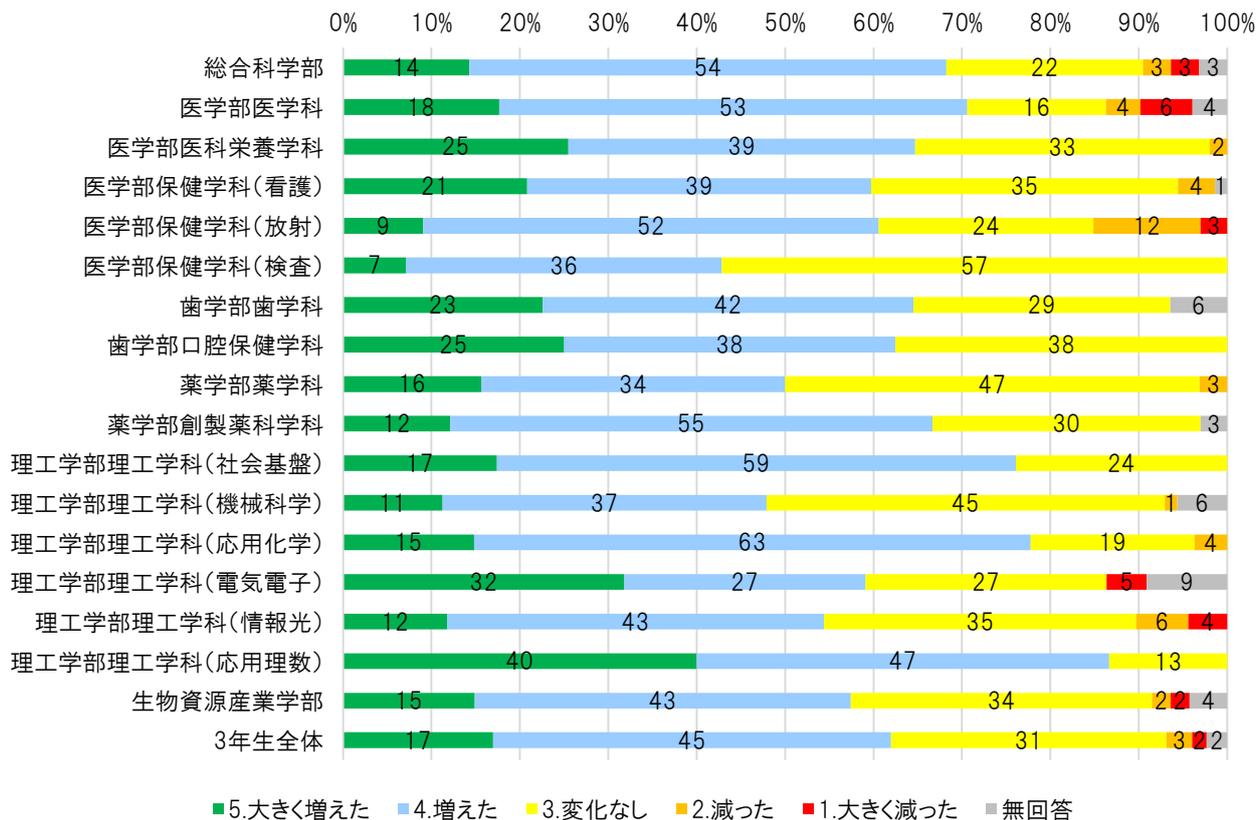
[64] 必要な情報を収集・取捨選択する能力



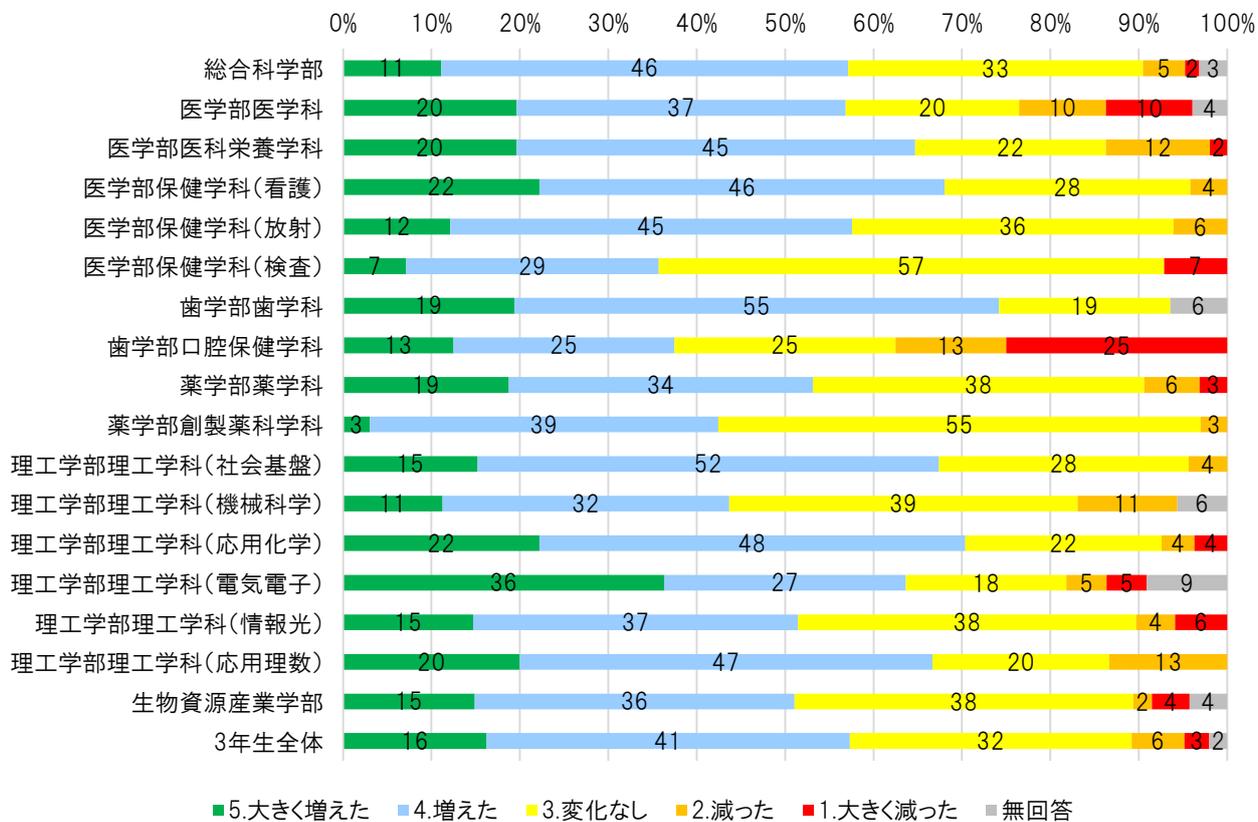
[65] データを読み、理解し、活用する能力



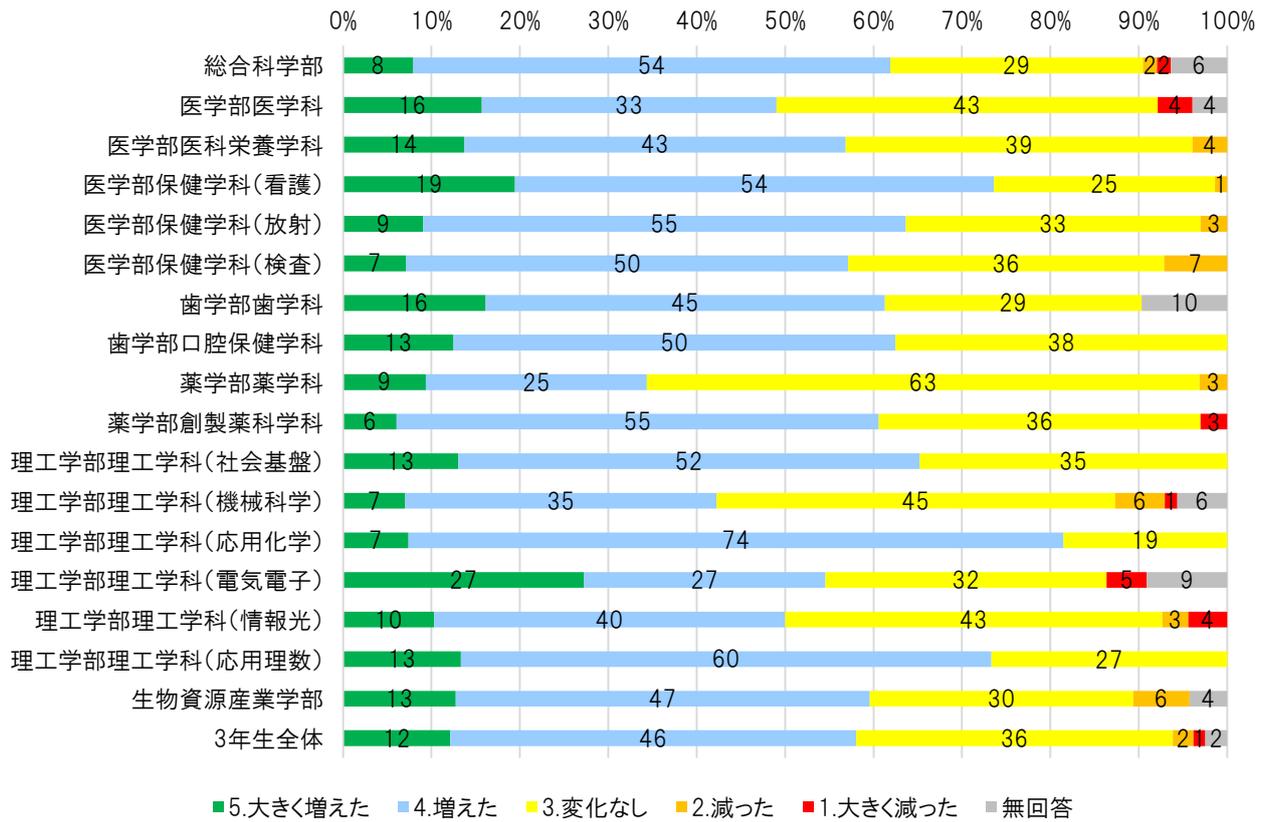
[66]新しいことに積極的に挑戦する姿勢



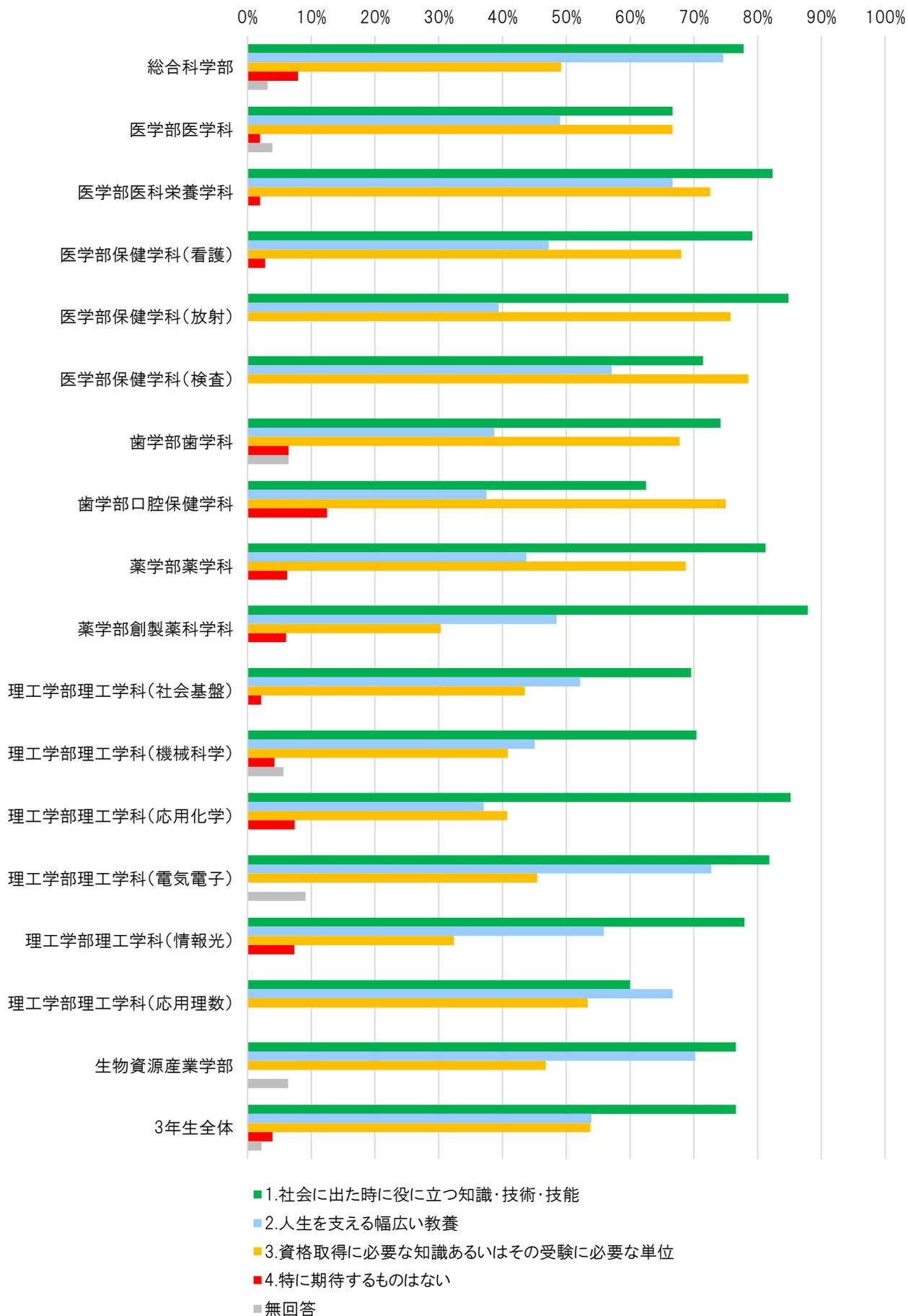
[67]ストレスに対処する能力



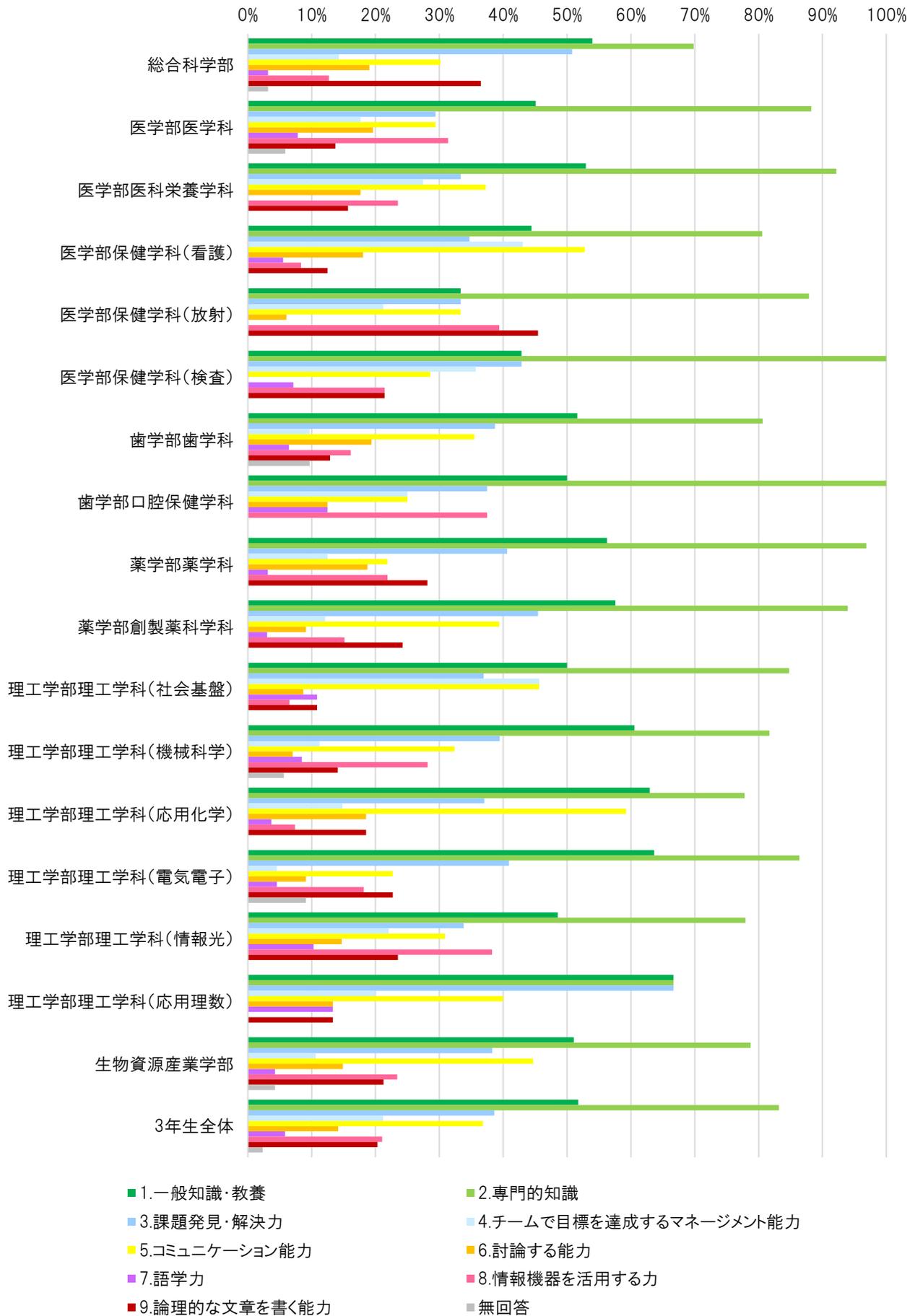
[68]柔軟に発想し、表現する能力



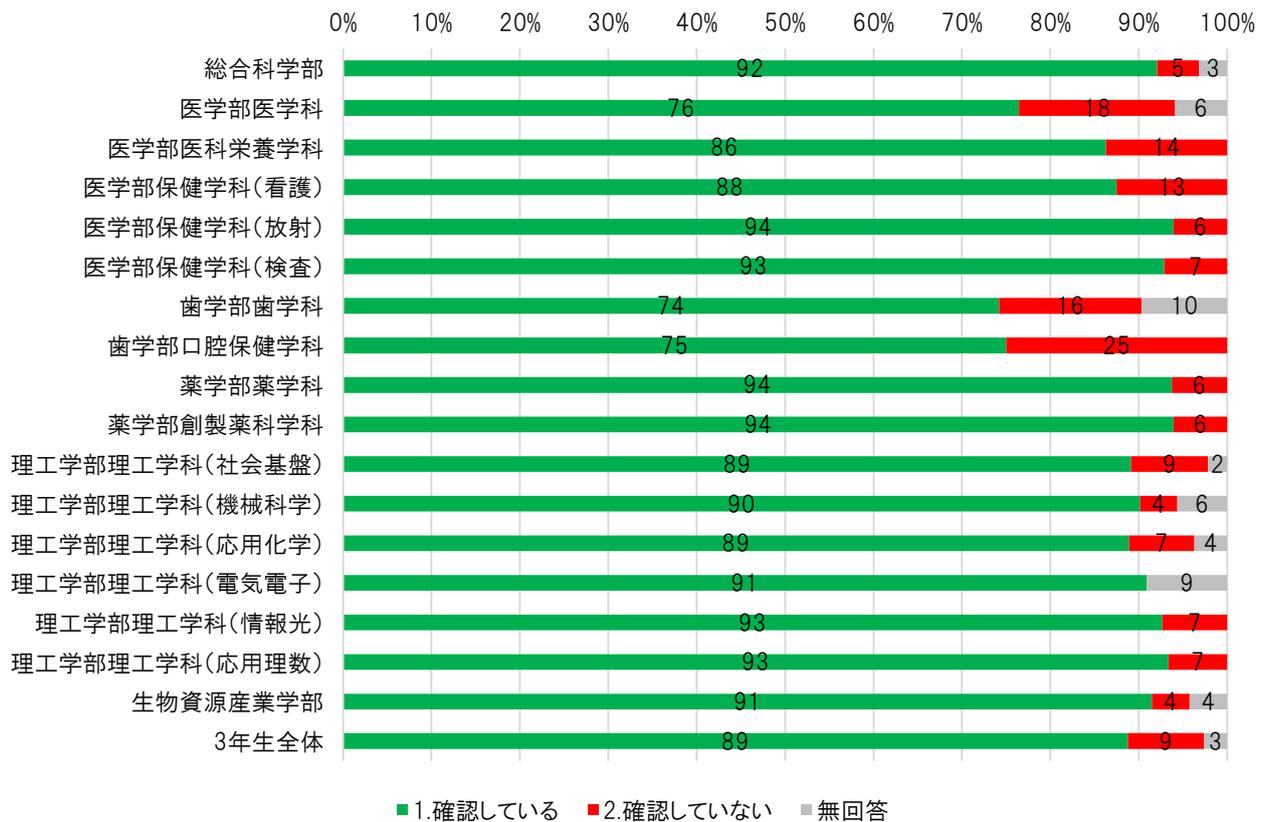
[69]大学における教育に対して、何を期待しますか。(複数回答可)



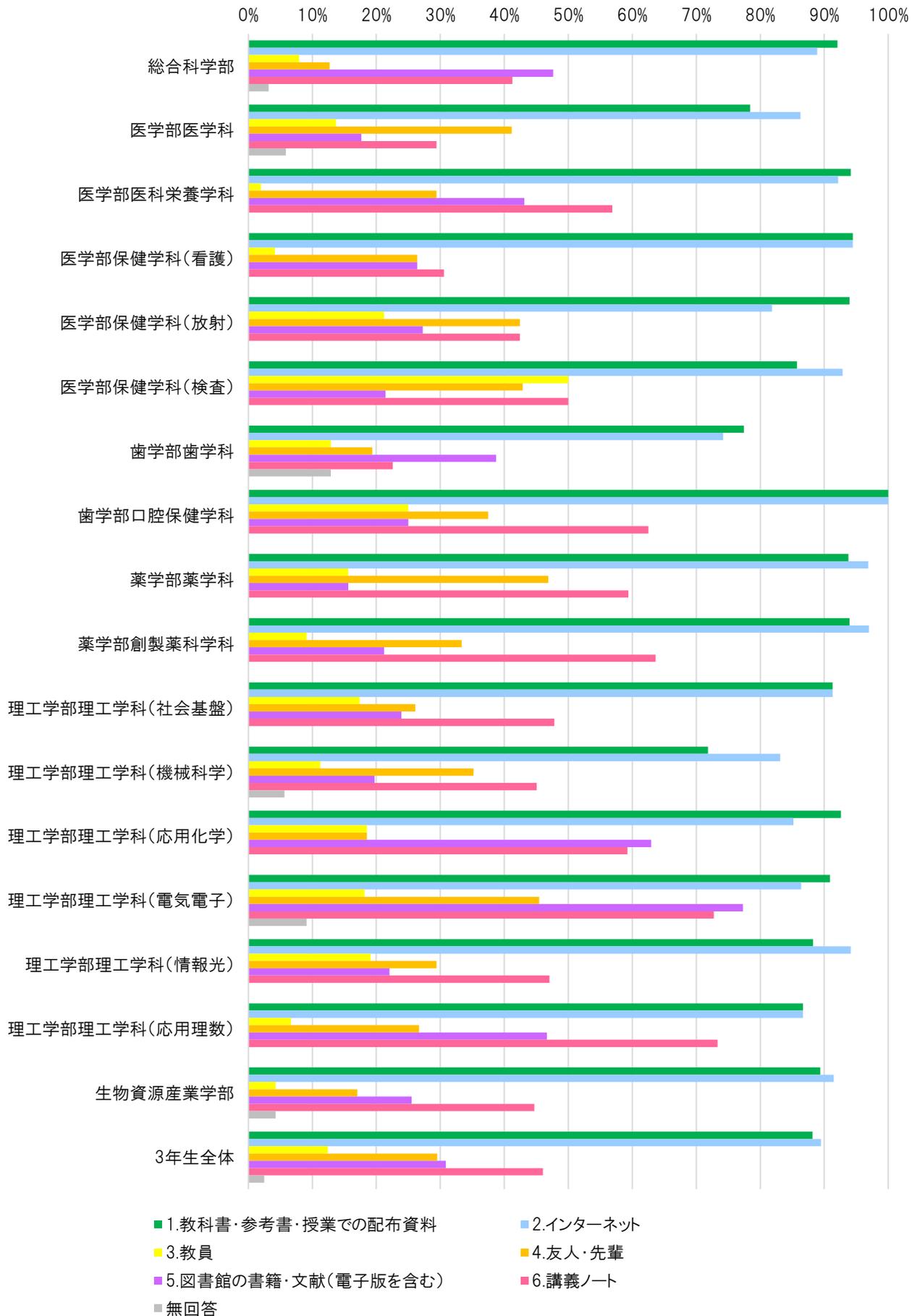
[70]大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。



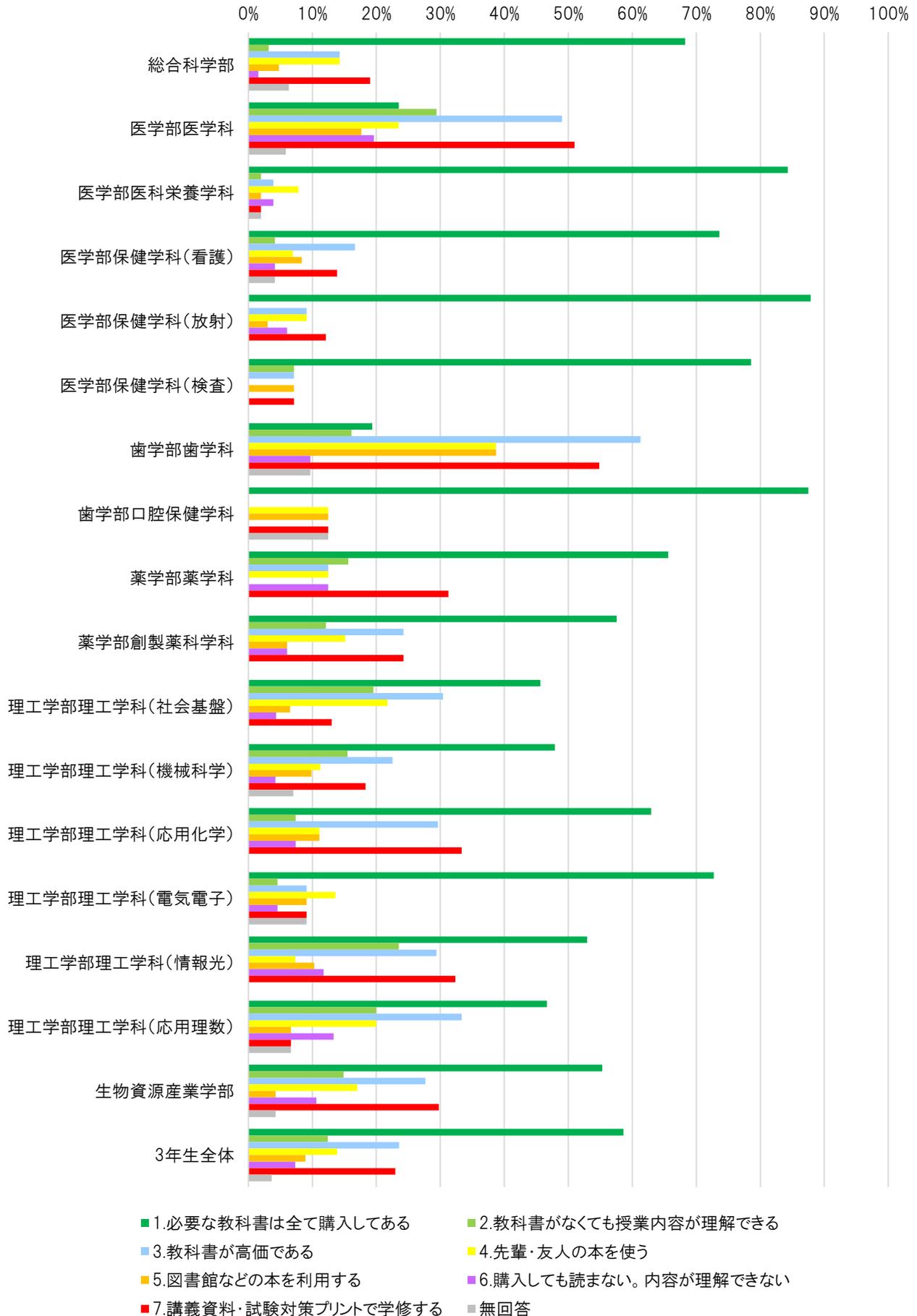
[71]徳島大学では「GPA(自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値)」を成績表に記載していません。自身の「GPA」について確認していますか。



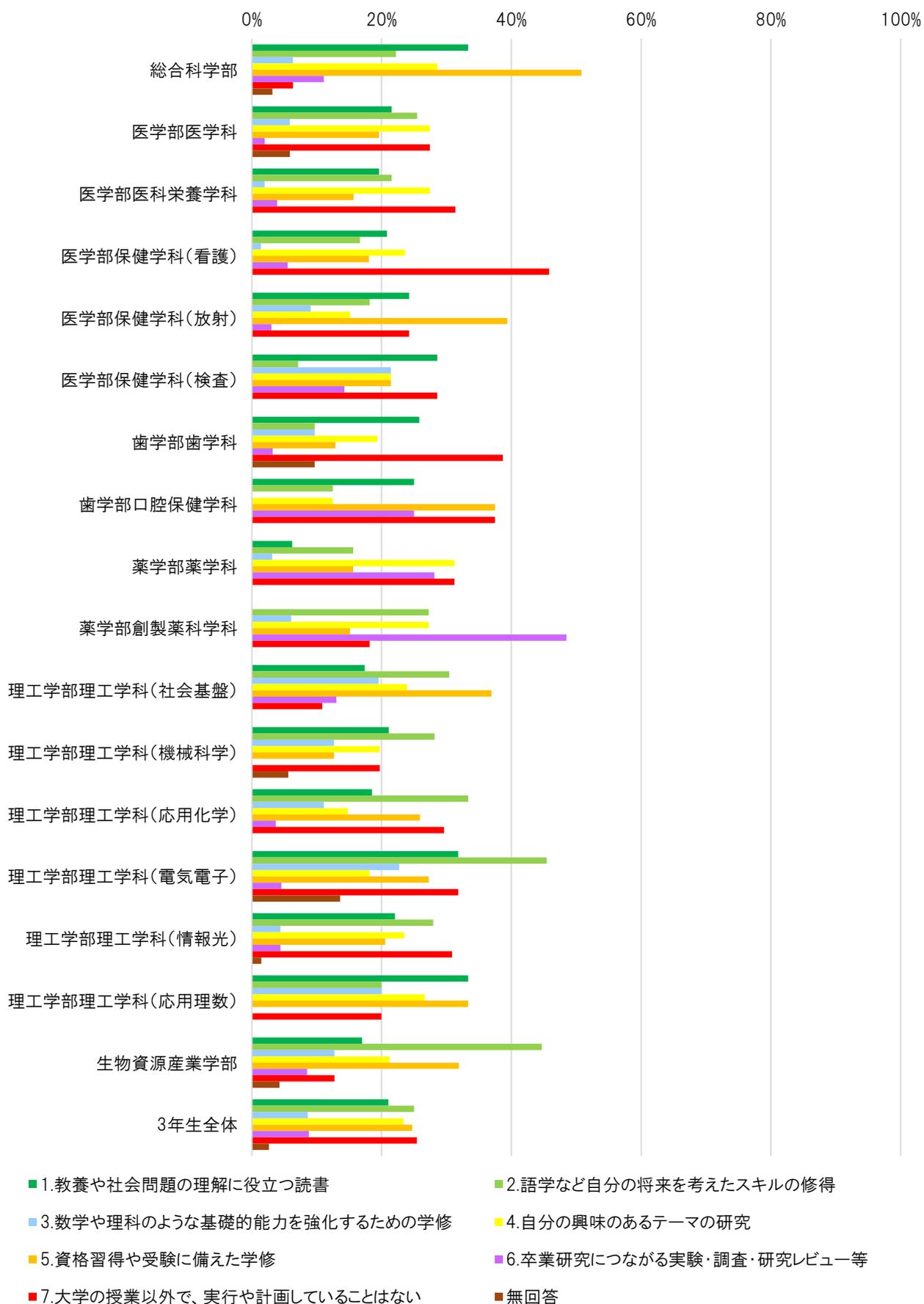
[72]レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)



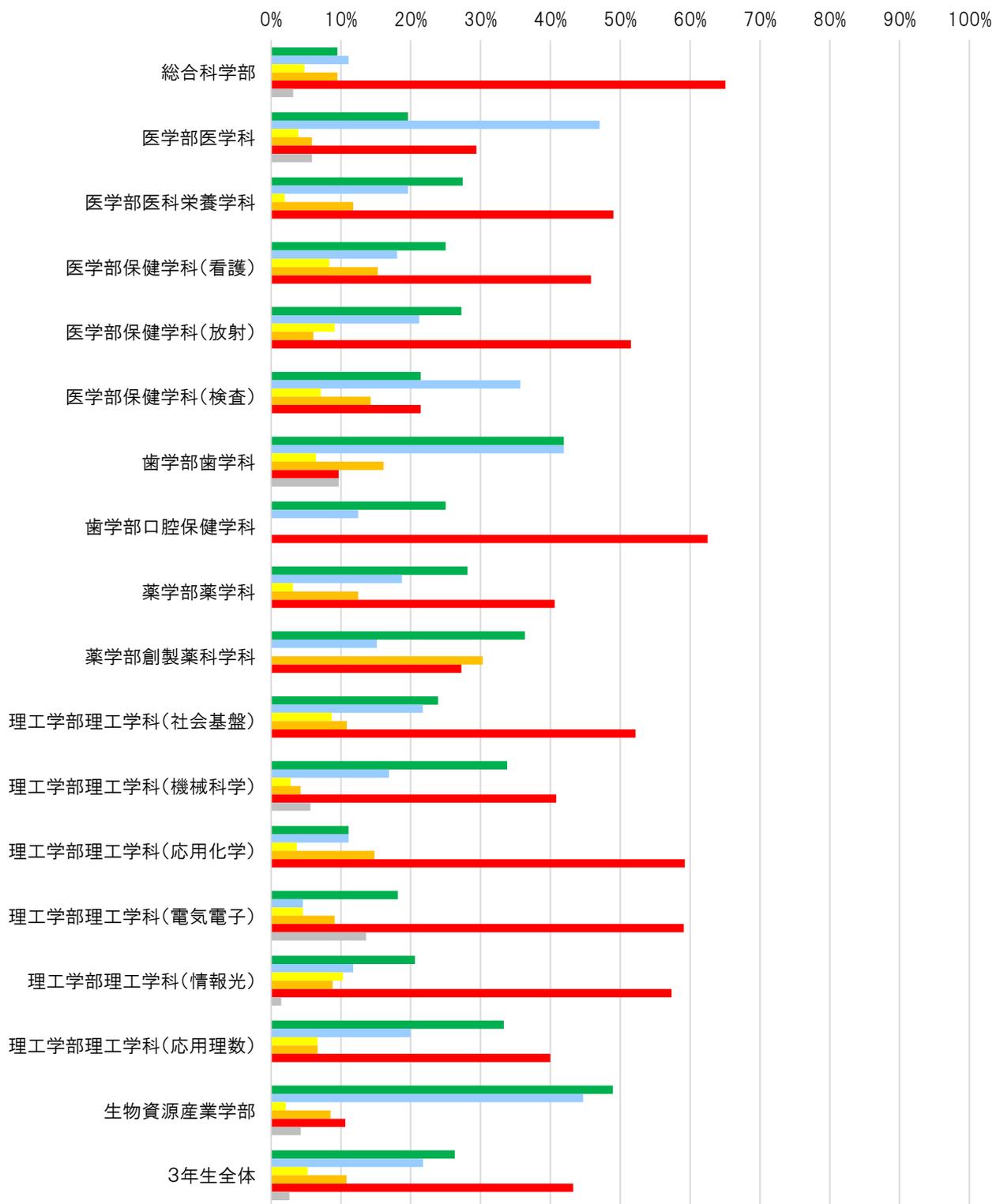
[73]教科書を購入していない場合の理由は何ですか。(複数回答可)



[74]大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)



[75]高校で履修していない数学、物理、化学、生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)



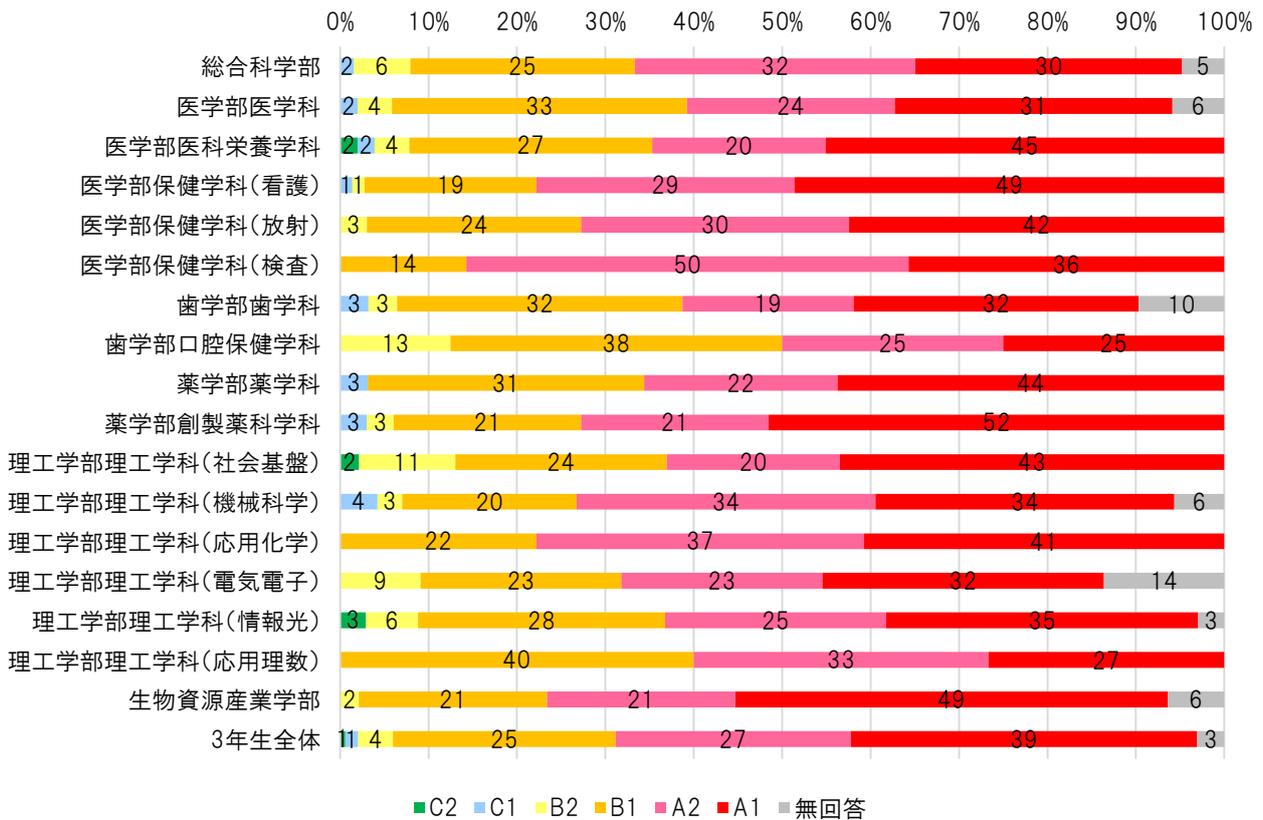
- 1.高校の教科書、参考書を使い、勉強した
- 2.教養教育で開講されている高大接続科目や自然科学入門又はその他の科目を受講した
- 3.HP上の徳島大学LMS(リメディアル教材)を利用して勉強した
- 4.勉強の必要性を感じたが、何もしていない
- 5.支障を感じないので何もしていない
- 無回答

Ⅲ. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から自己評価した場合に、現在、到達していると思うレベルを、1つ答えてください。

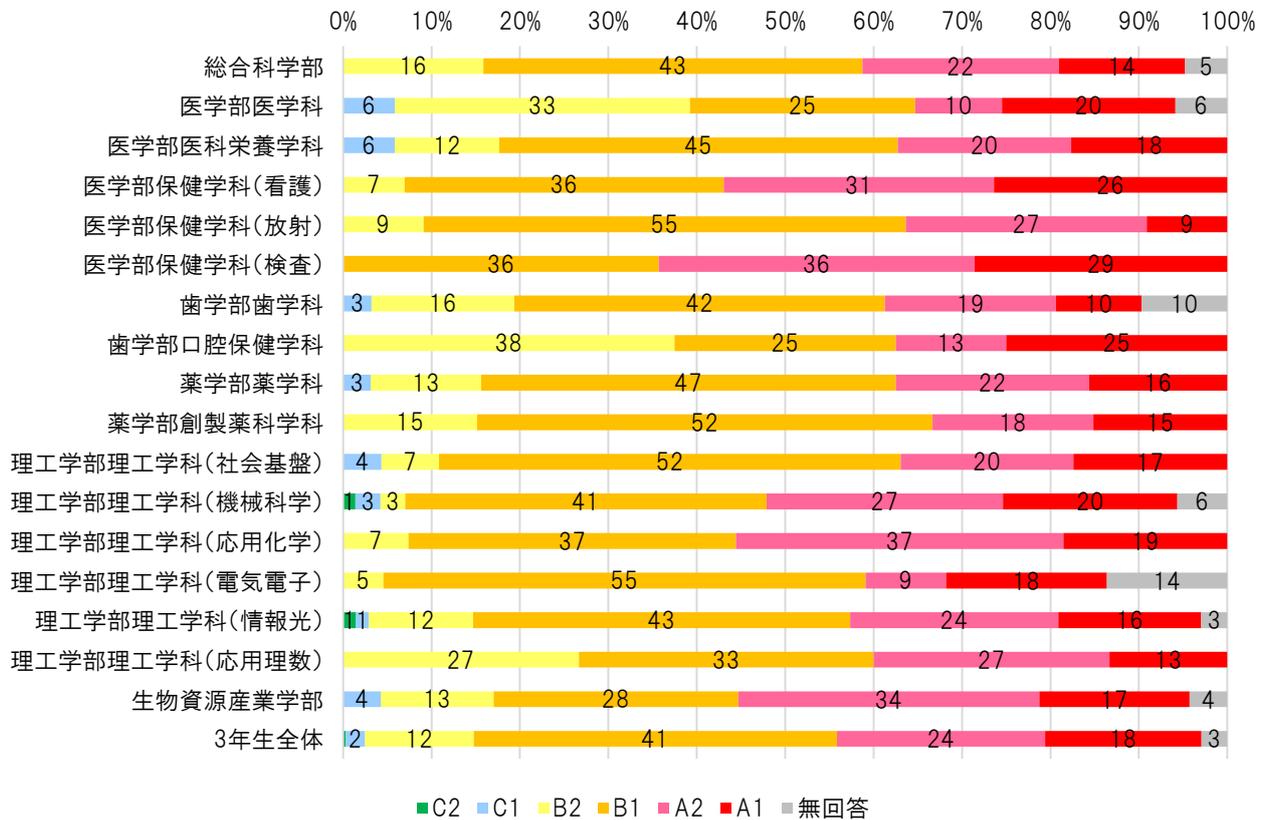
〔76〕聞く力

- A1 はっきりと、ゆっくり話してもらえれば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
- A2 最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。
- B1 身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。
- B2 テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。
- C1 特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。
- C2 母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。



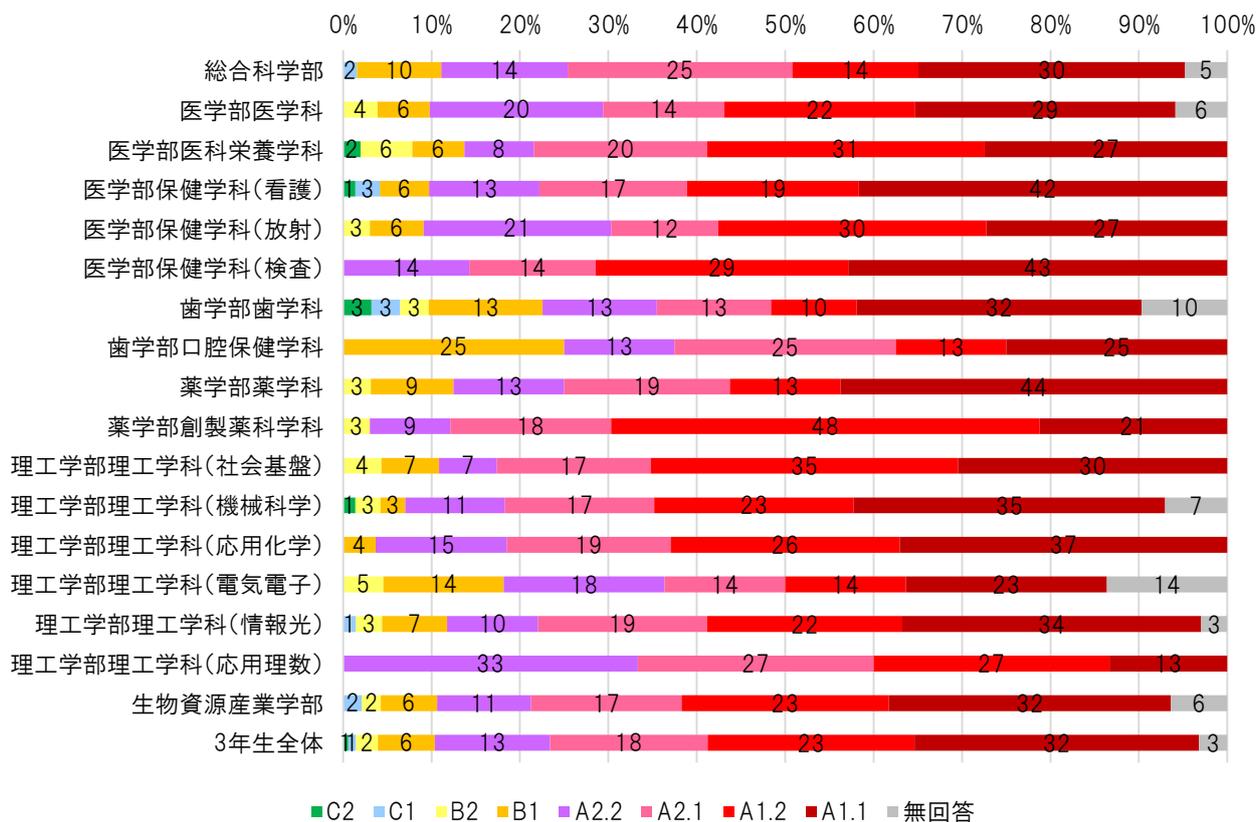
〔77〕読む力

- A1 掲示やポスター、カタログなどの中よく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
 A2 ごく短い簡単な文章や、簡単で短い個人的な手紙は理解できる。
 B1 日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単で個人的な手紙を理解できる。
 B2 現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。
 C1 複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的文章も理解できる。
 C2 抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。



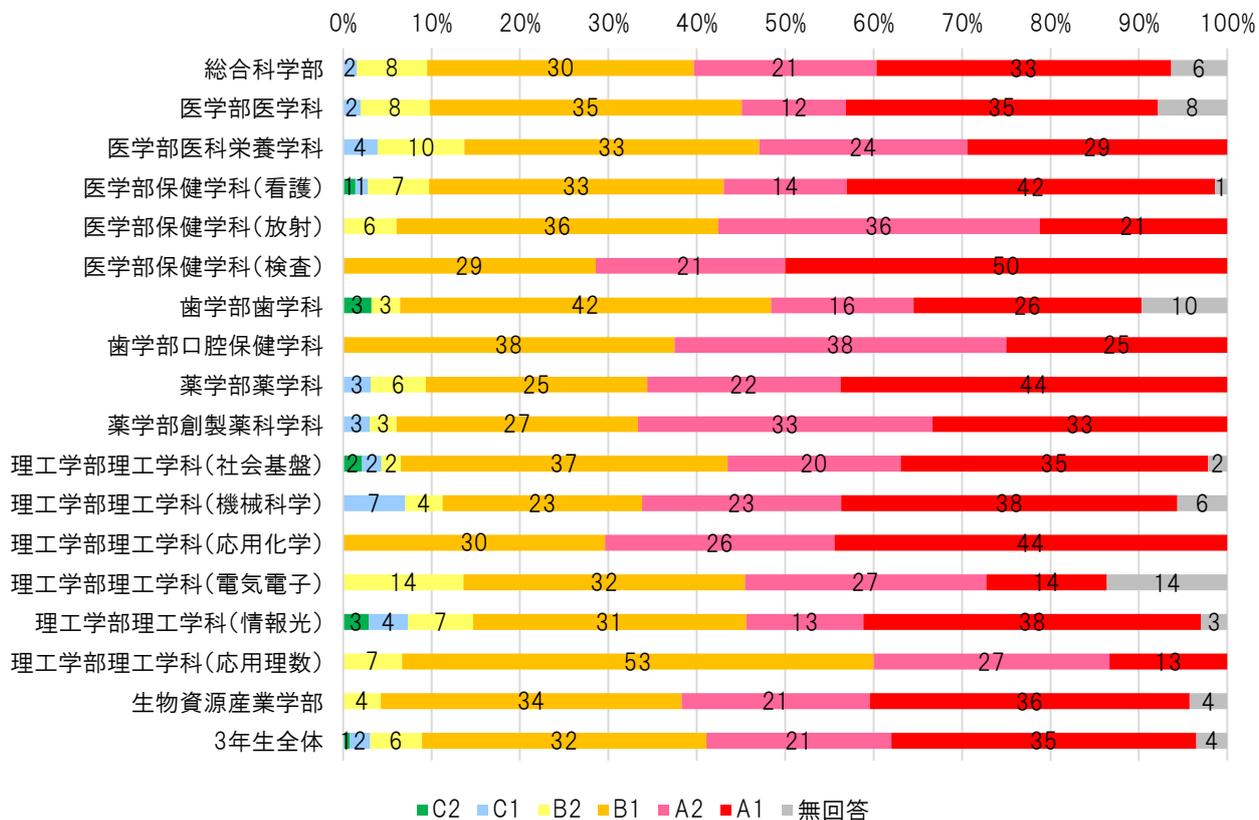
[78]会話力

- A1.1 決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。
- A1.2 家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。
- A2.1 短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくい、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。
- A2.2 準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。
- B1 日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。
- B2 身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。
- C1 社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。
- C2 いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。



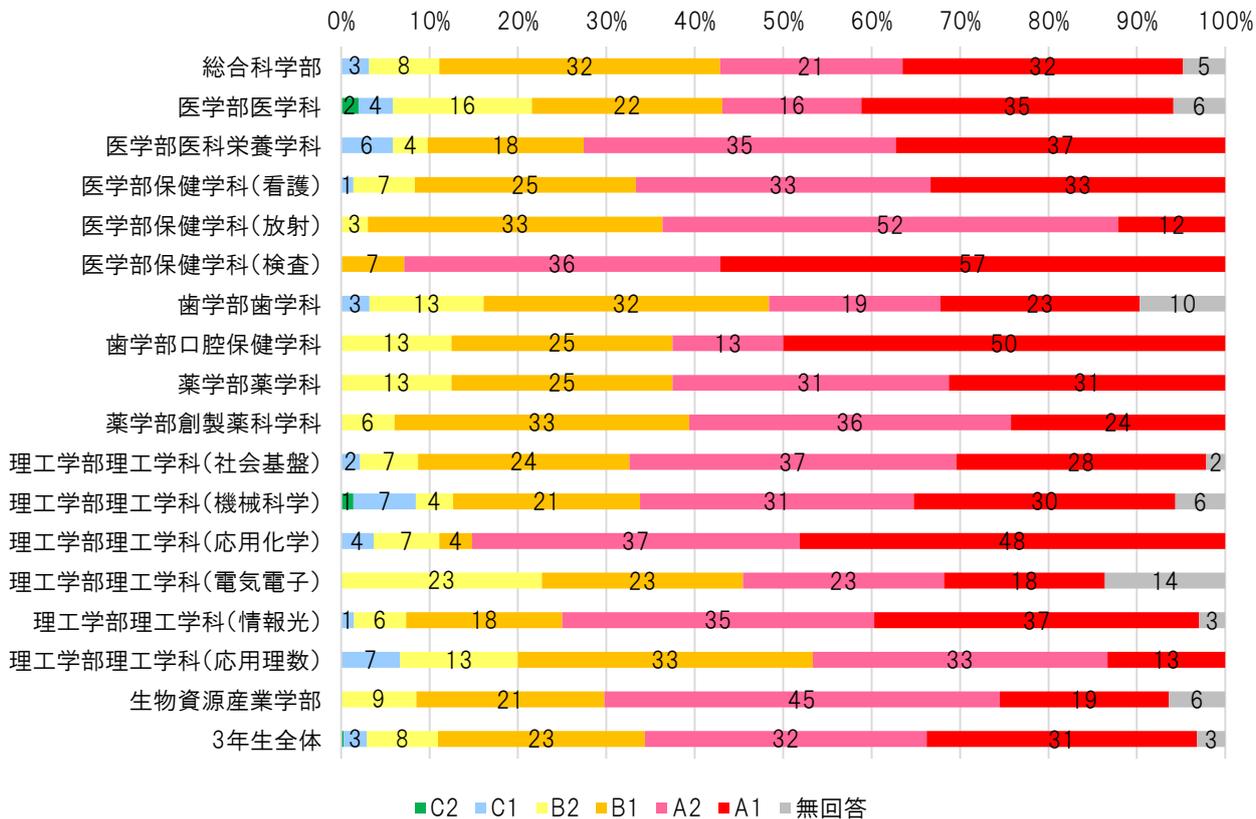
[79]表現力

- A1 住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
- A2 家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。
- B1 簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語ることができる。
- B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。
- C1 複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。
- C2 論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。

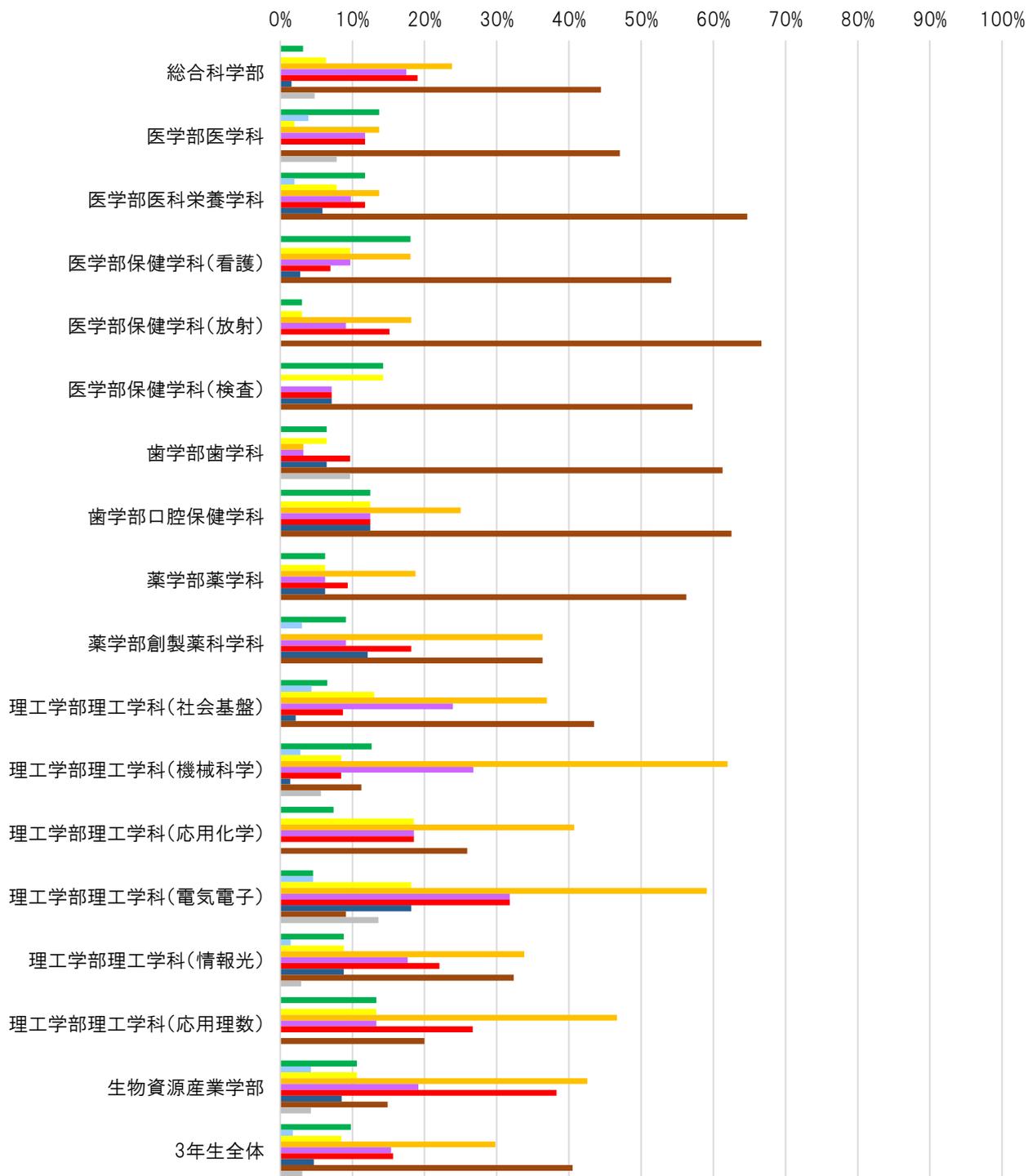


〔80〕書く力

- A1 お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。
- A2 簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。
- B1 身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。
- B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。
- C1 手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。
- C2 論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。

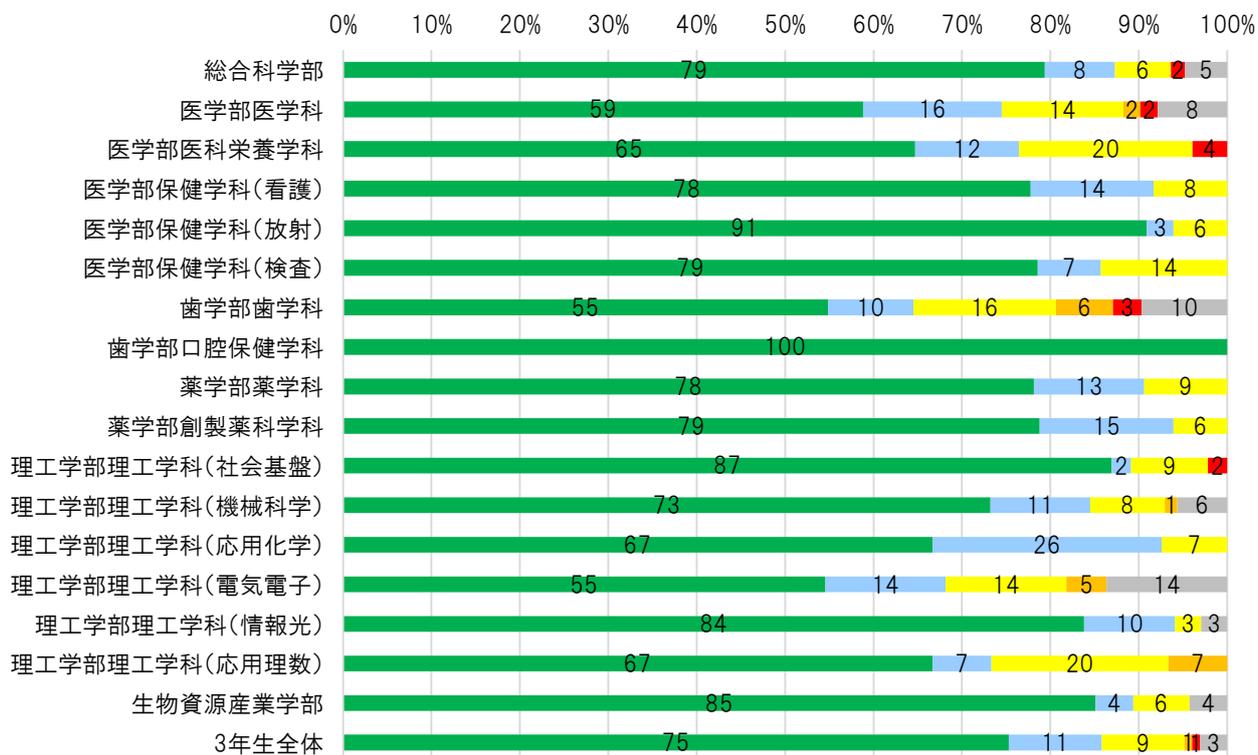


[81]どのように、英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)



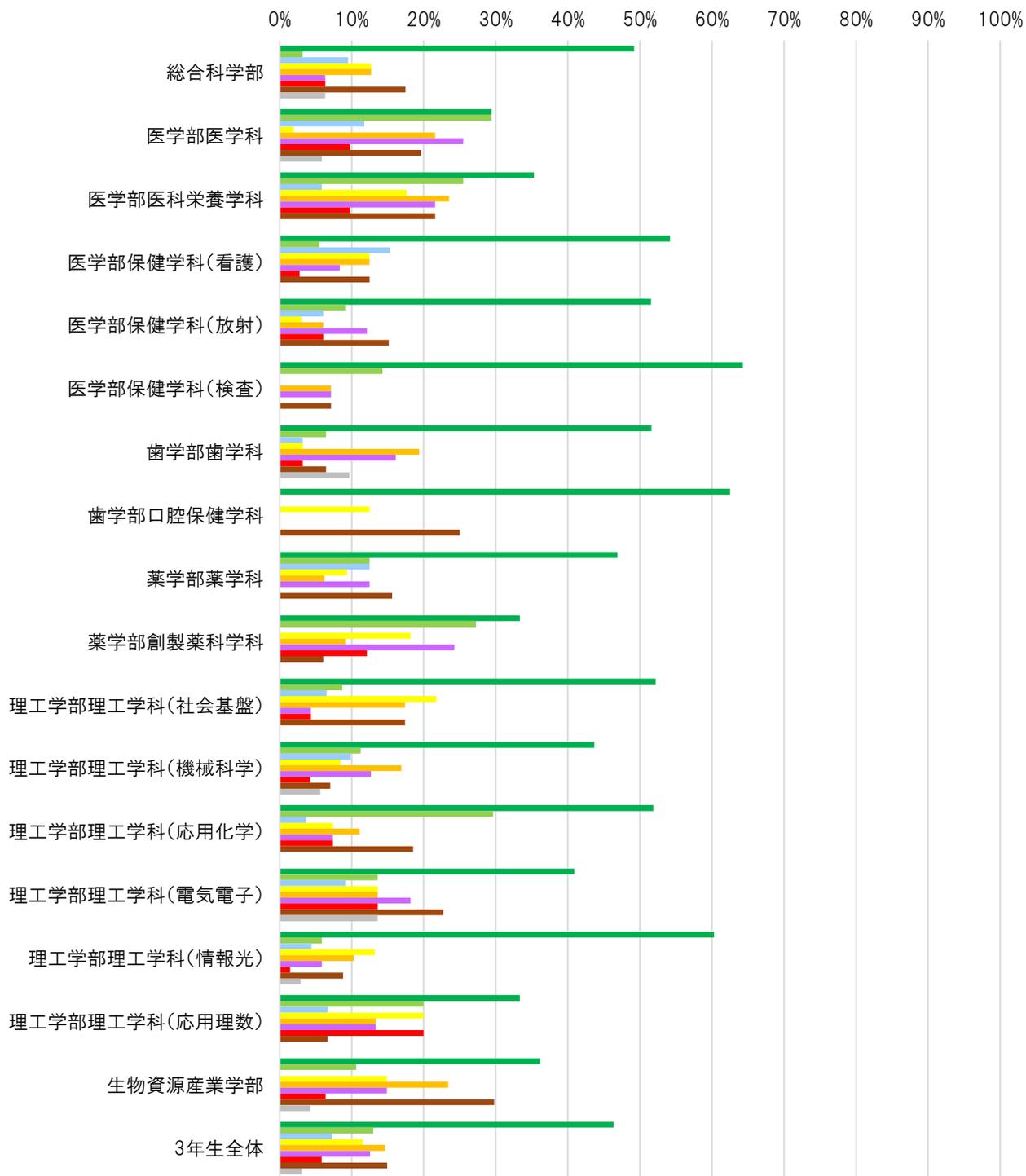
- 1. テレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
- 2. 英会話スクールを利用している
- 3. 図書館または大学の英語教材、施設を利用して英語を勉強している
- 4. TOEICなどの参考書、問題集を購入して勉強している
- 5. TOEIC, TOEFLや英検などの英語能力試験を受験している
- 6. 授業で使用している教科書、英語論文を勉強している
- 7. 大学が実施している英語のプログラムに参加して勉強している
- 8. 特に何もしていない
- 無回答

[82]アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外(インド、シンガポール等)などへの渡航経験(期間)についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを旨とした渡航経験があれば、その期間(複数回の経験がある場合は最長のもの)について1つ選んで回答してください。



■ 1. 渡航したことはない ■ 2. 10日未満 ■ 3. 10日以上1ヶ月未満 ■ 4. 1ヶ月以上6ヶ月未満 ■ 5. 6ヶ月以上 ■ 6. 無回答

[83]徳島大学における英語の授業についてどう思いますか。(複数回答可)

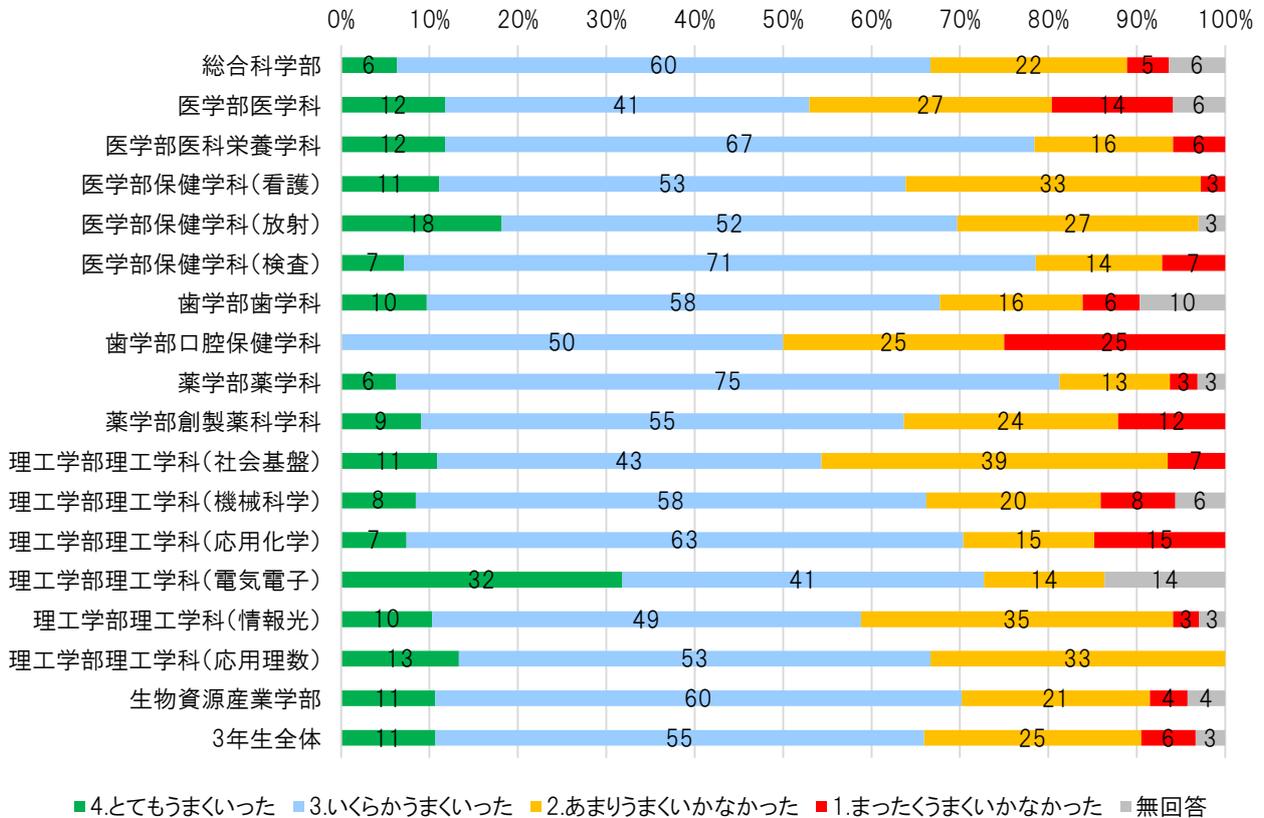


- 1. 教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である
- 2. もっと授業数を増やしてほしい
- 3. もっと授業数を減らしてほしい
- 4. もっと少人数のクラスにしてほしい
- 5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
- 6. 専門教育の英語の時間を増やしてほしい
- 7. 専門教育の英語のライティングに重点を置いた授業を増やしてほしい
- 8. 専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やしてほしい
- 無回答

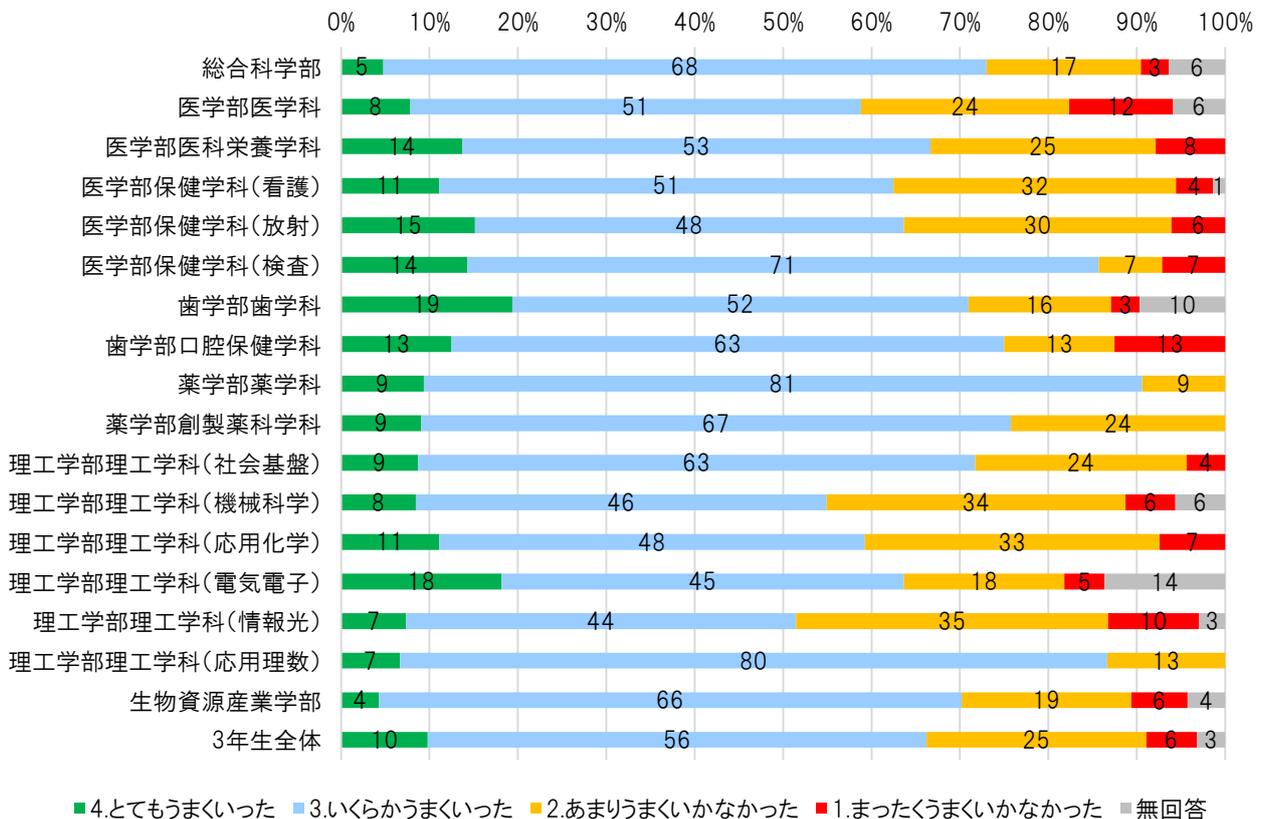
IV. 次に、大学生活に対するあなたの考えや満足度についておうかがいします。

本学に入学してから、あなたにとって次のことからはどれくらいまよりましたか

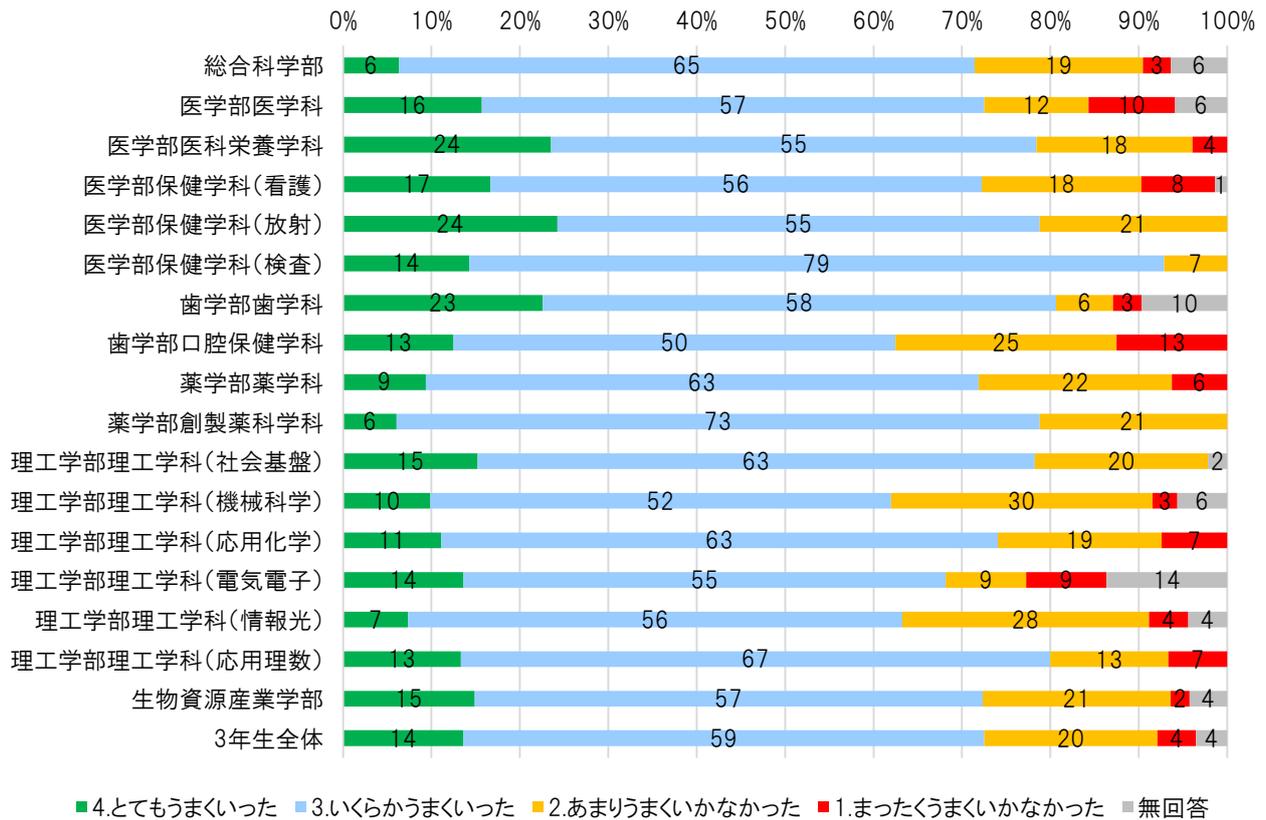
[84]大学の学生向けサービスを上手に利用する



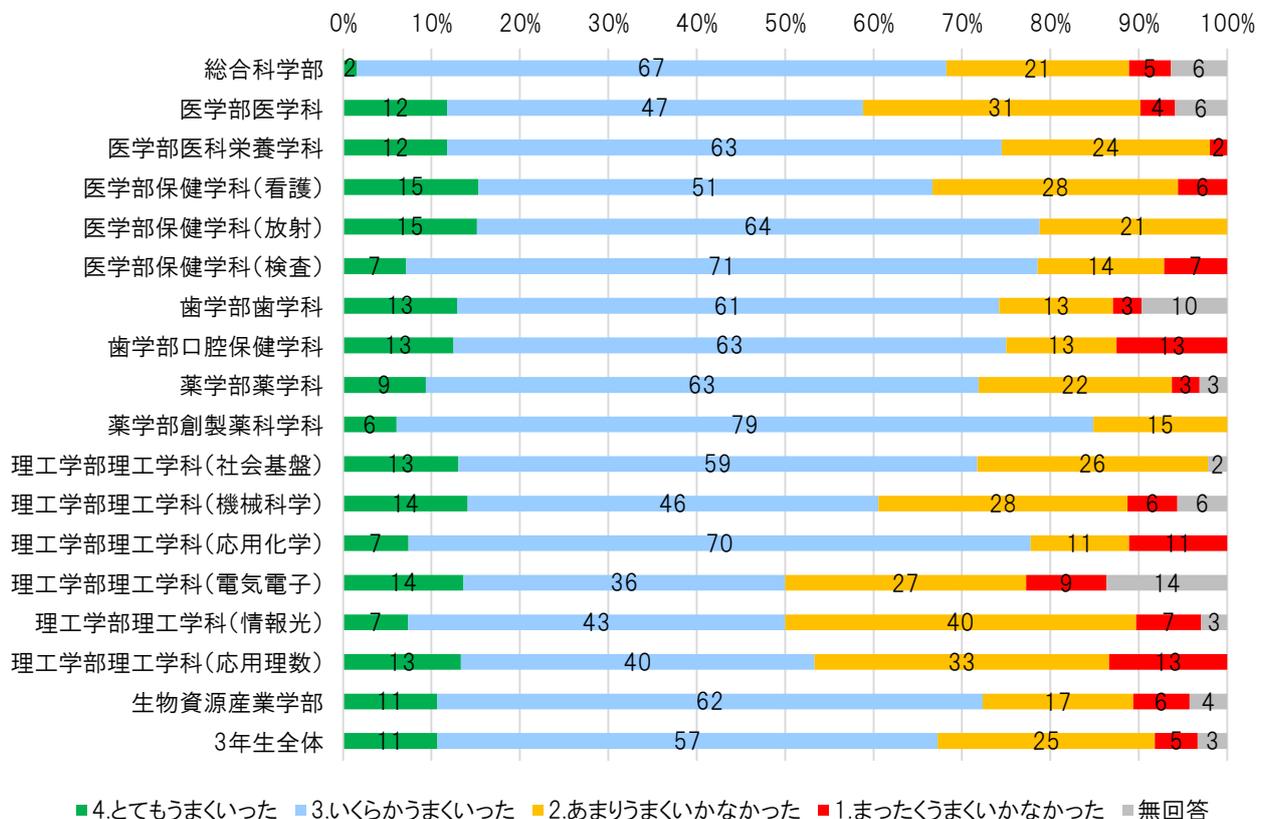
[85]大学教員の学問的な期待を理解する



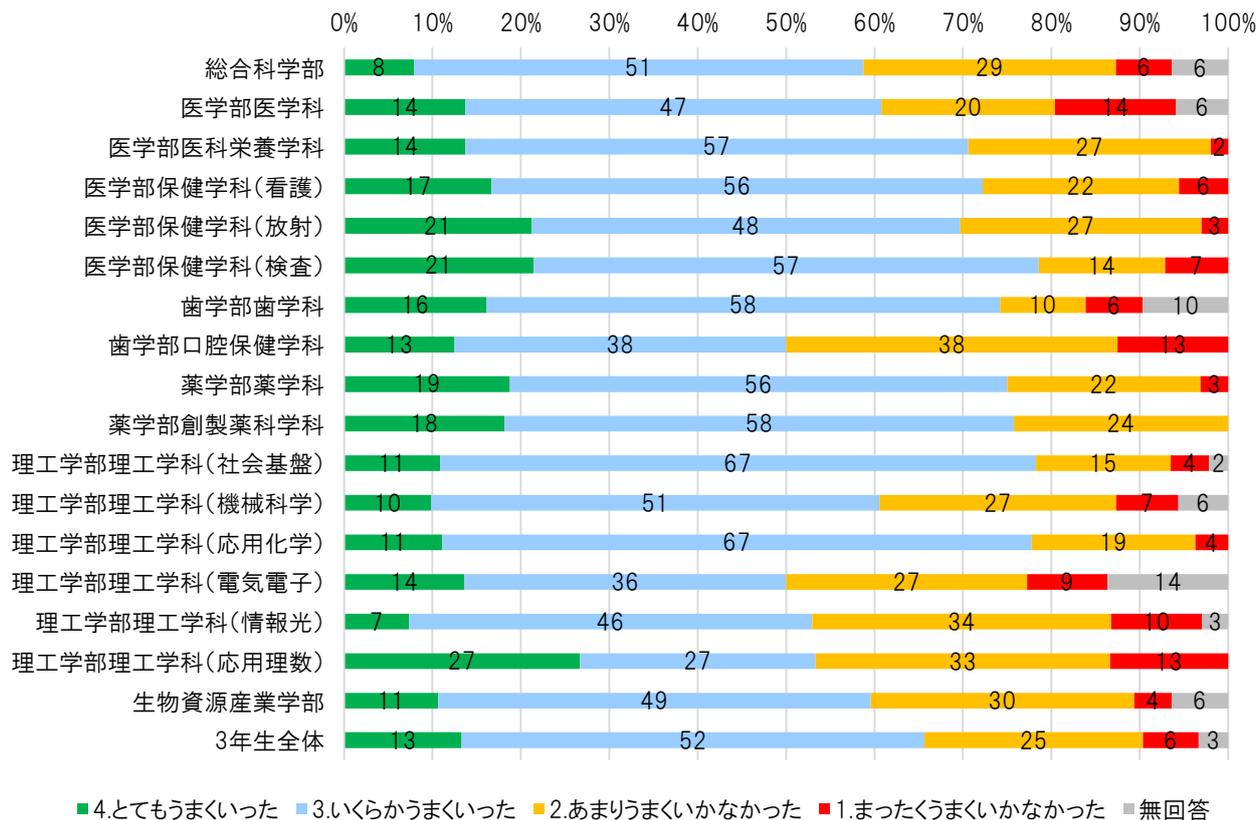
[86]効果的に学習する技能を修得する



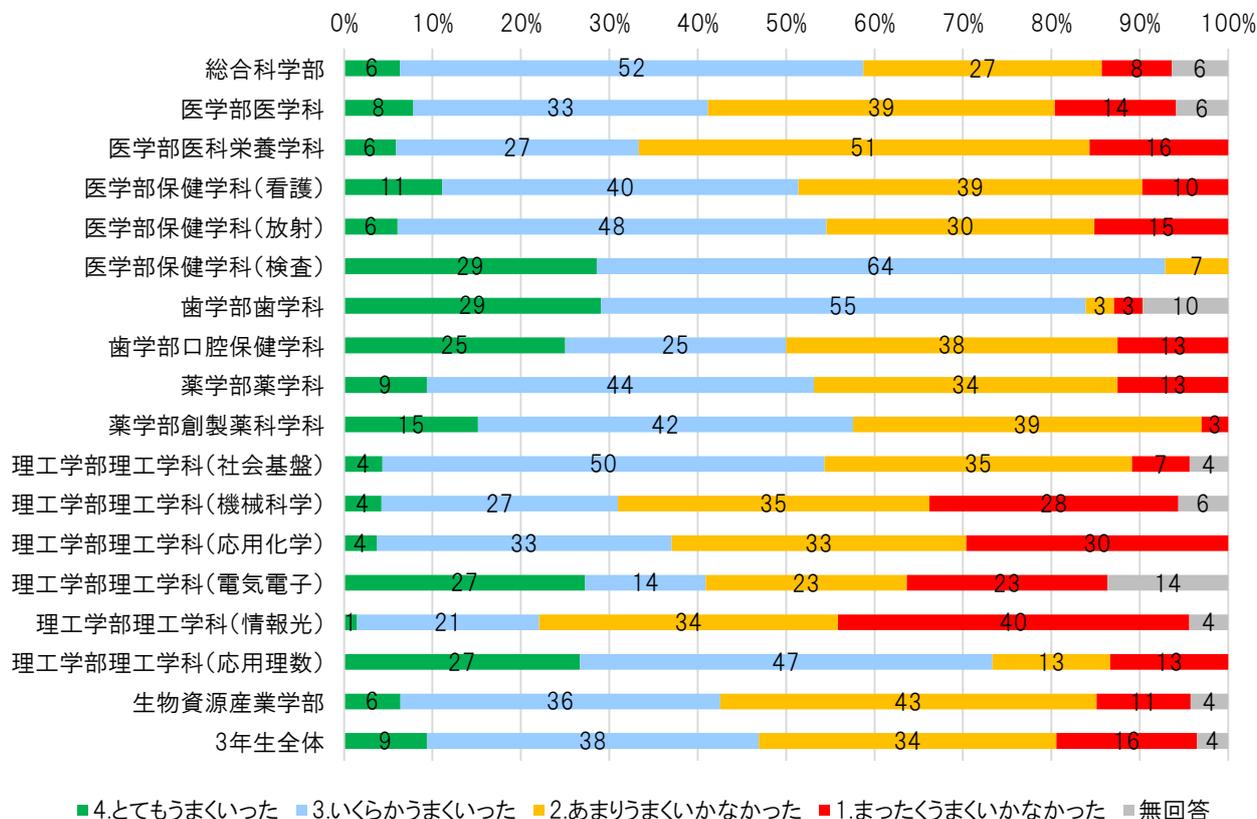
[87]大学が求める水準に応じて学習する



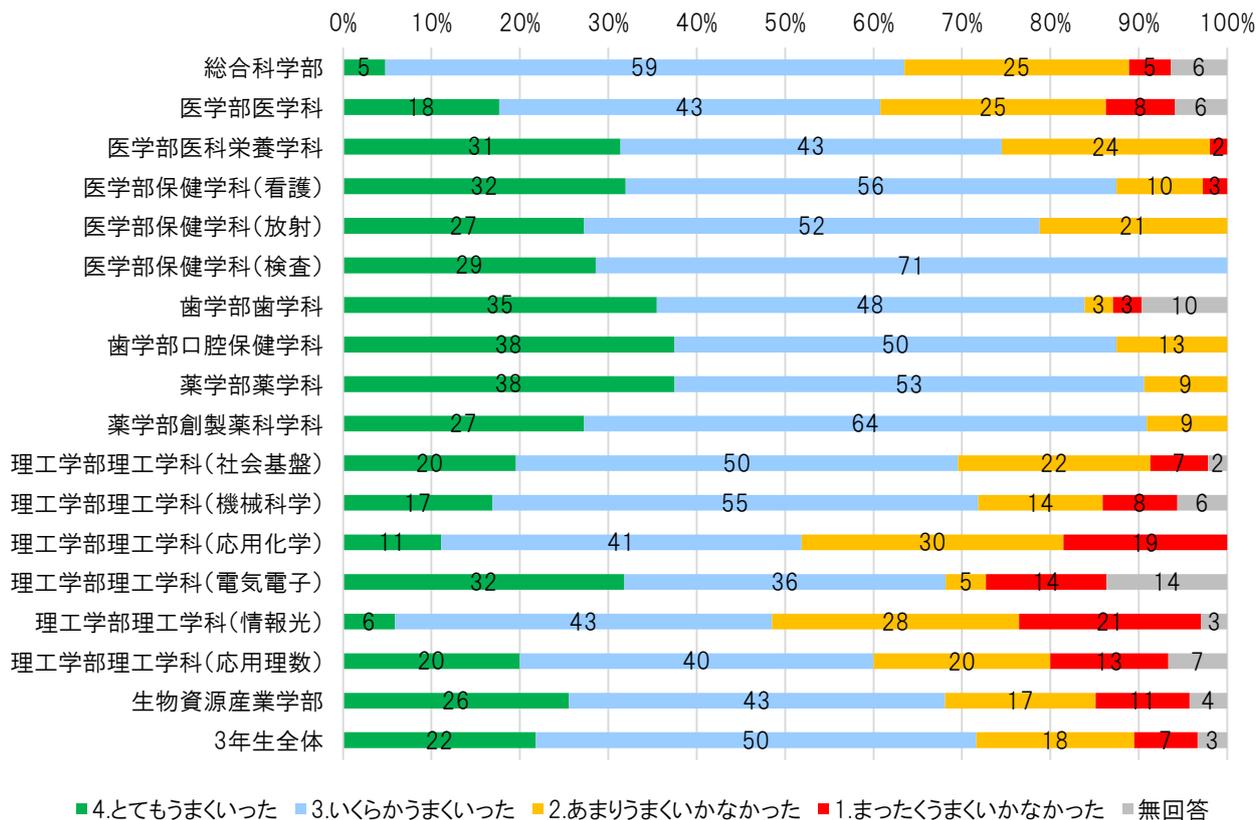
[88] 時間を効果的に使う



[89] 大学教員と顔見知りになる

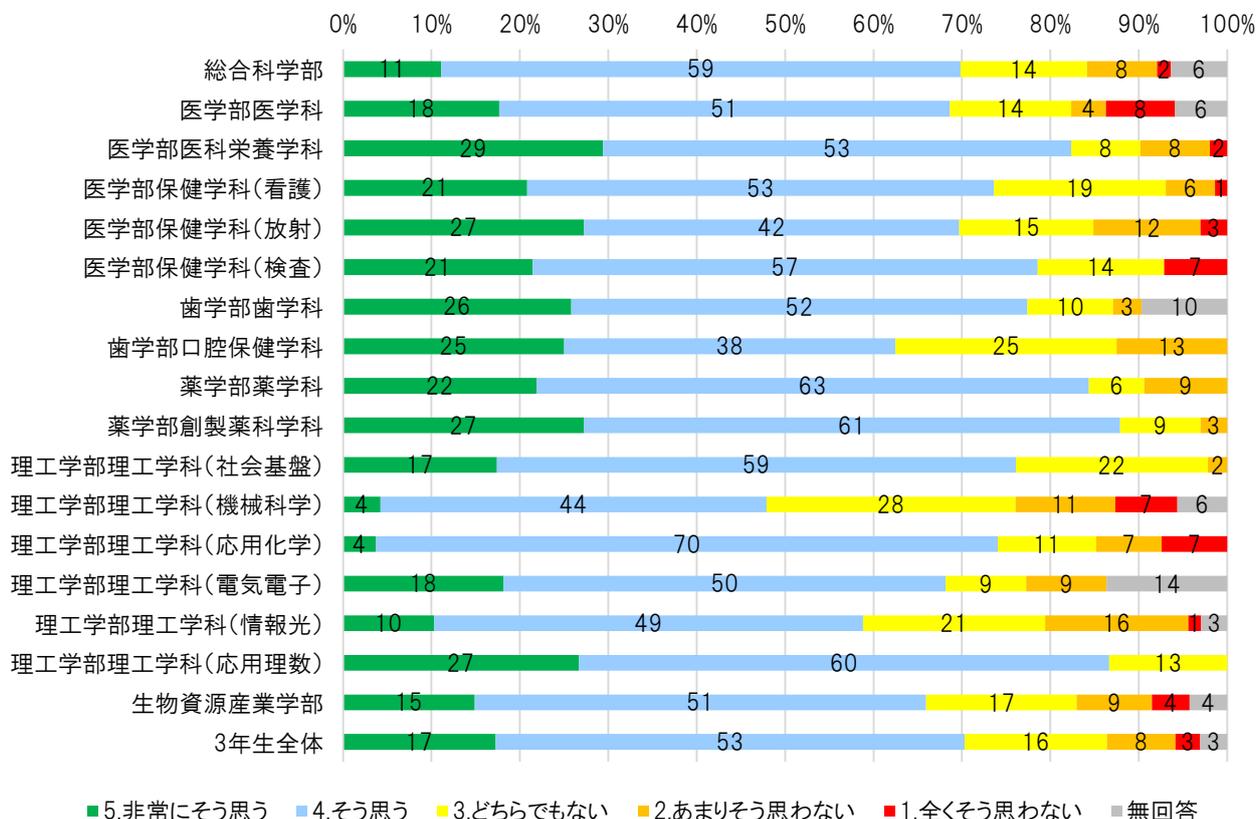


[90]他の学生との友情を深める

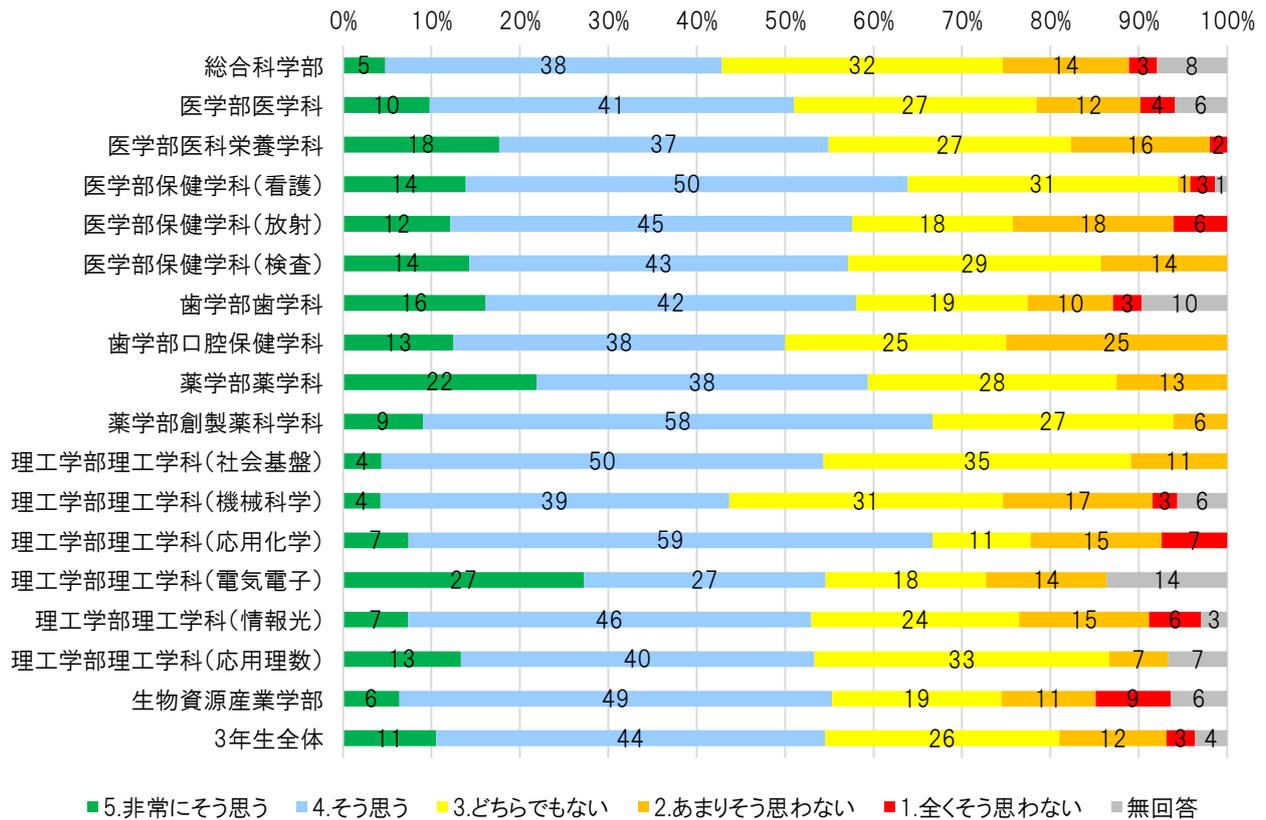


本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

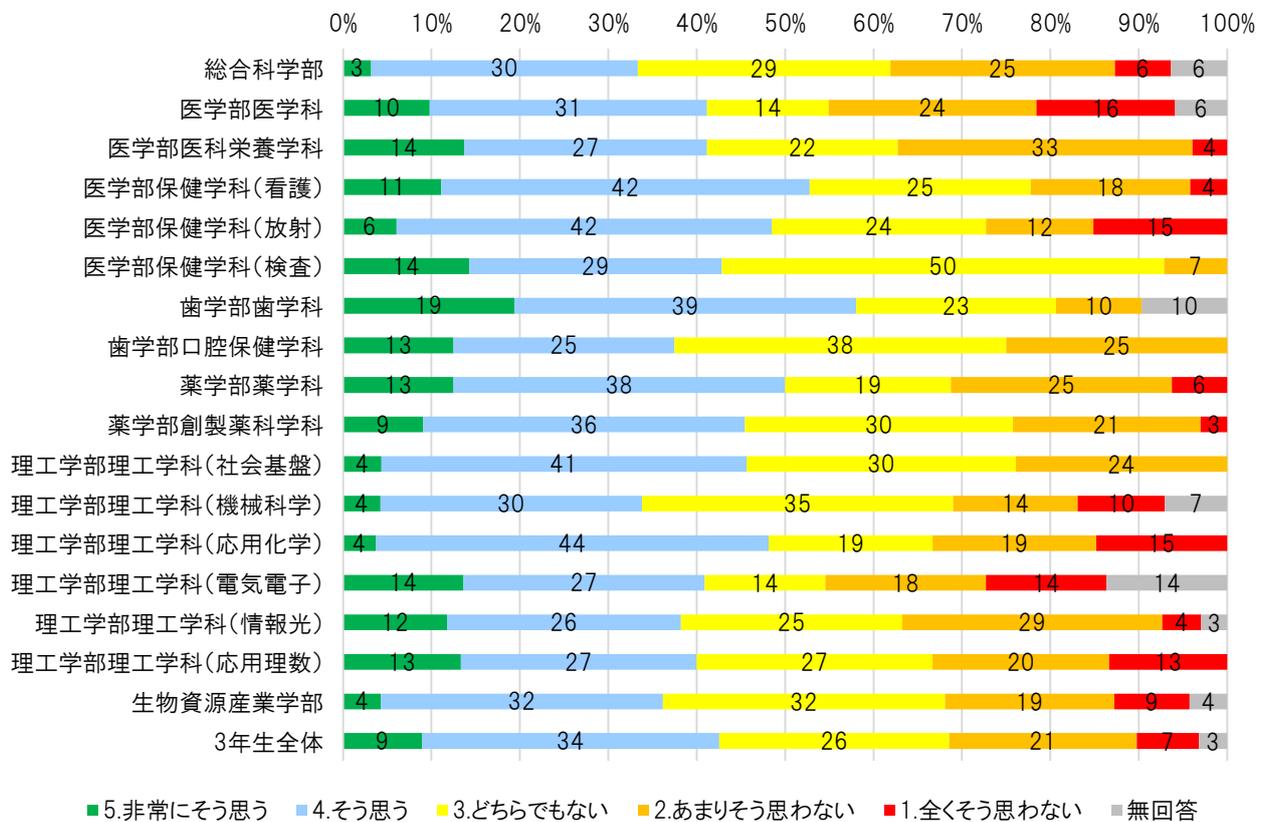
[91]自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる



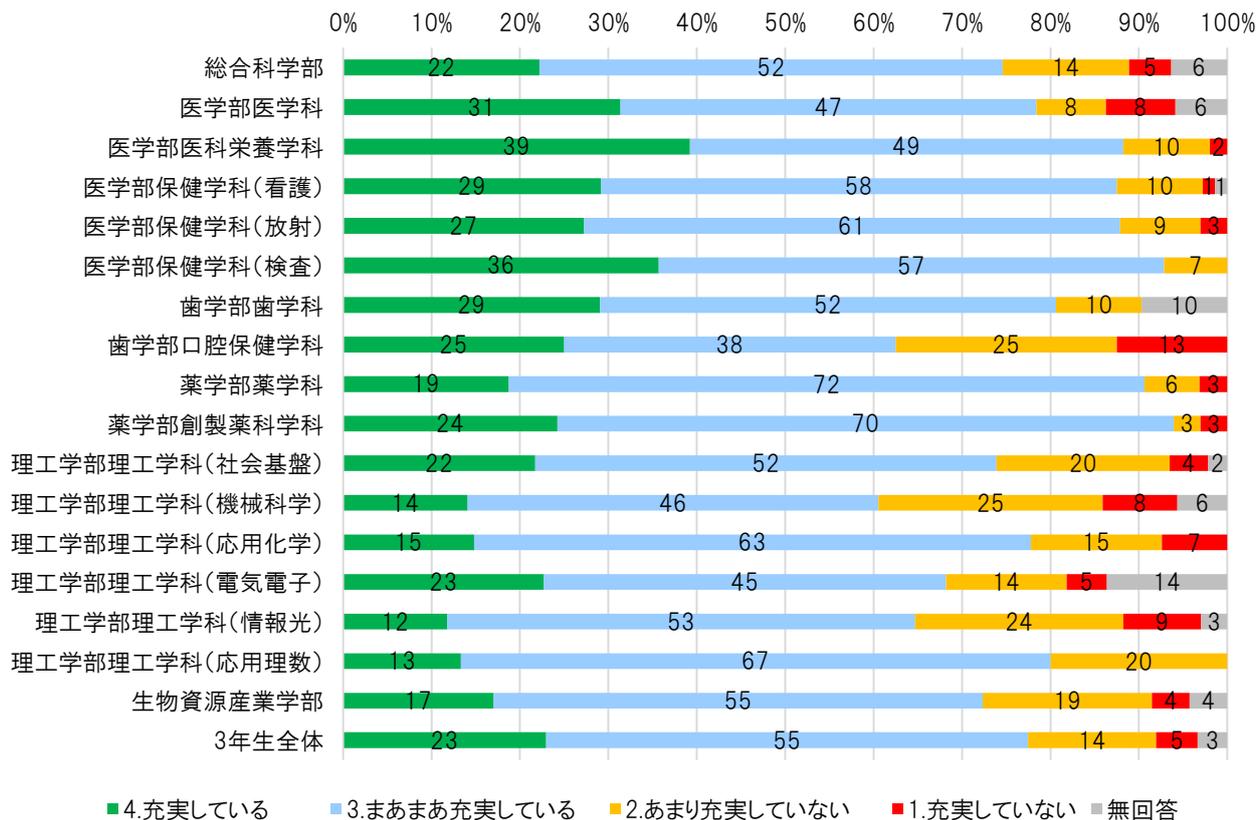
[92]日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている



[93]現在の自分の学修時間や学修態度に満足している

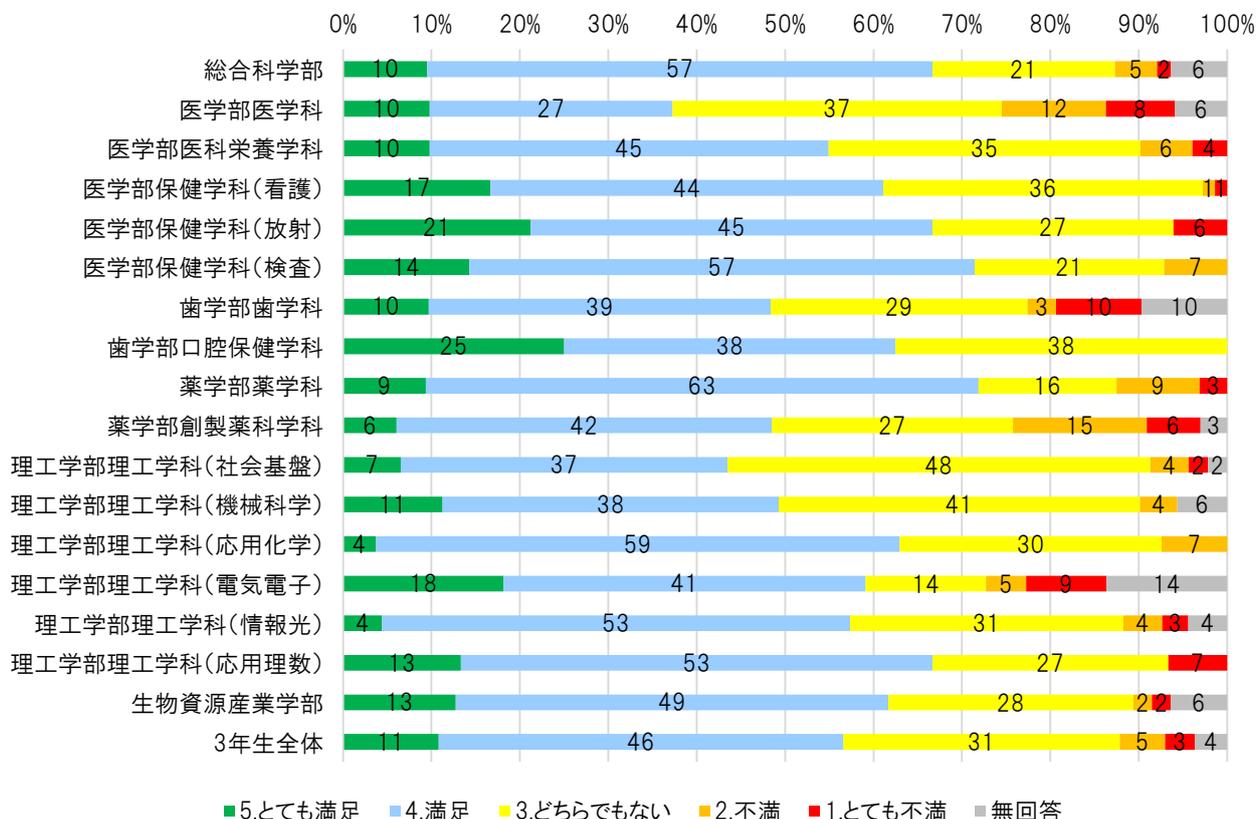


[94]あなたの学生生活は充実していますか。

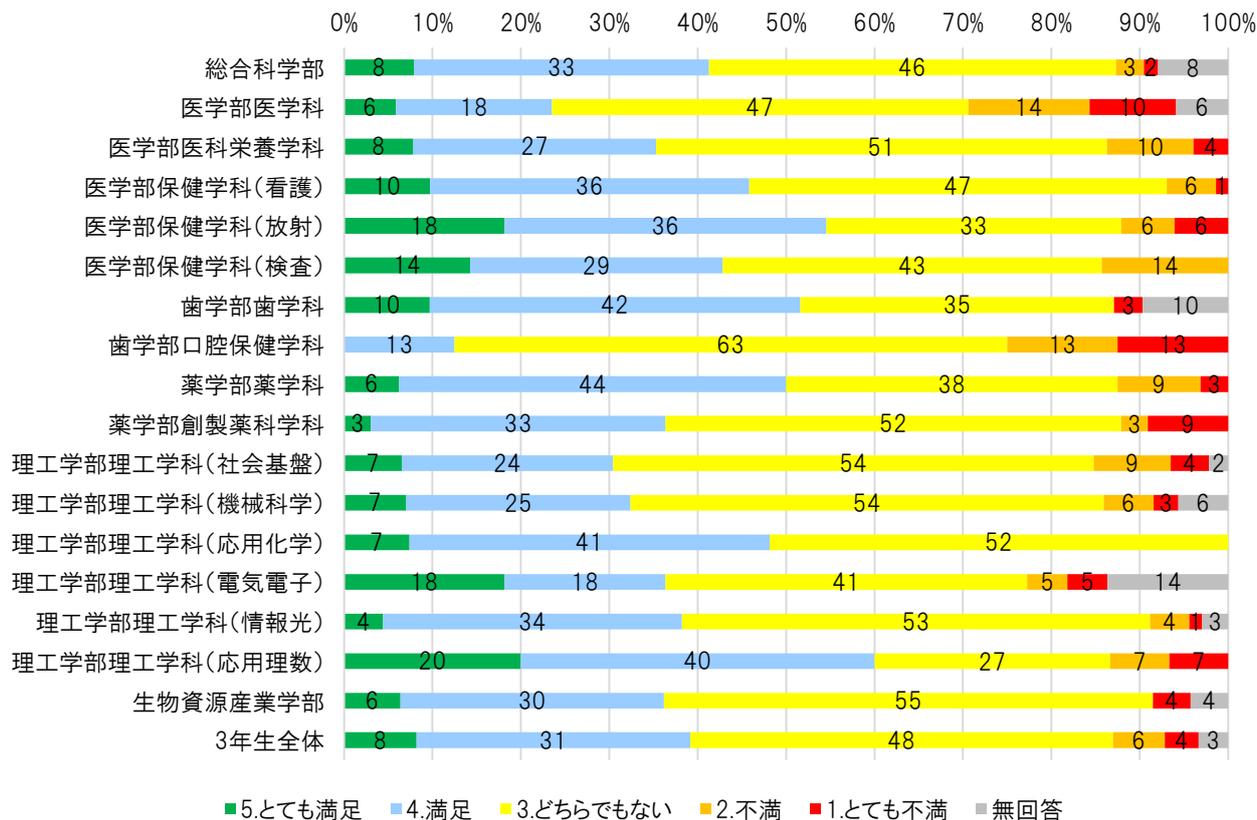


あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

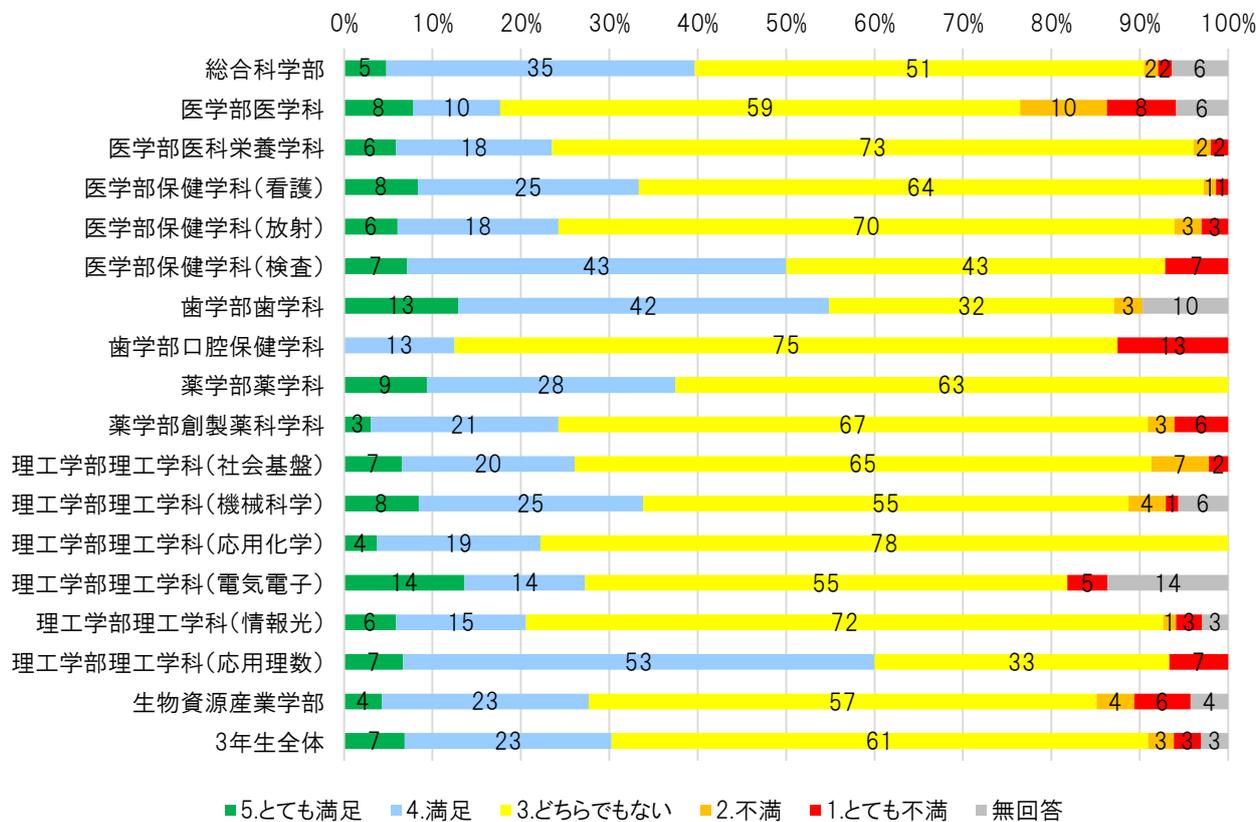
[95]共通教育あるいは教養教育の授業



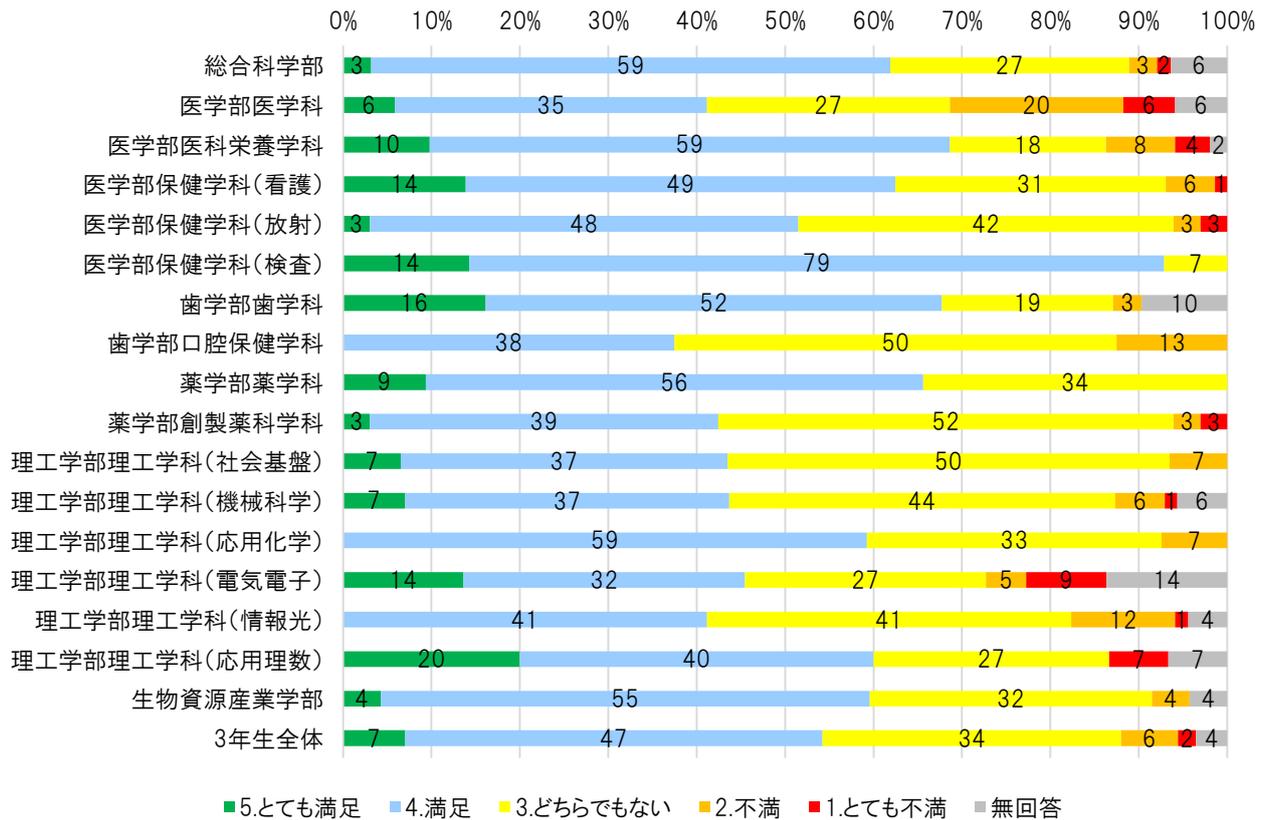
[96]1年生の時に受講した「SIH 道場～アクティブラーニング入門～」の授業



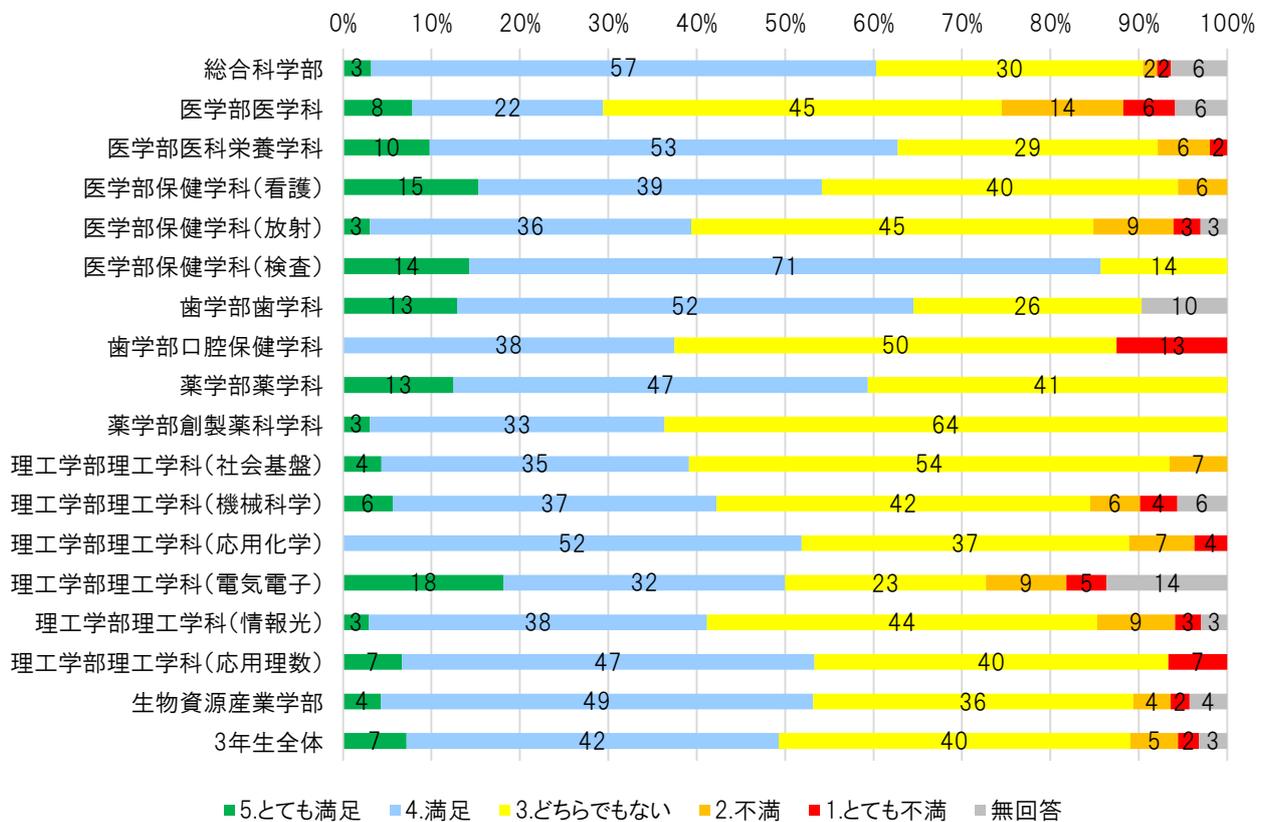
[97]初年次生を対象とした教育プログラム内容(フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど)



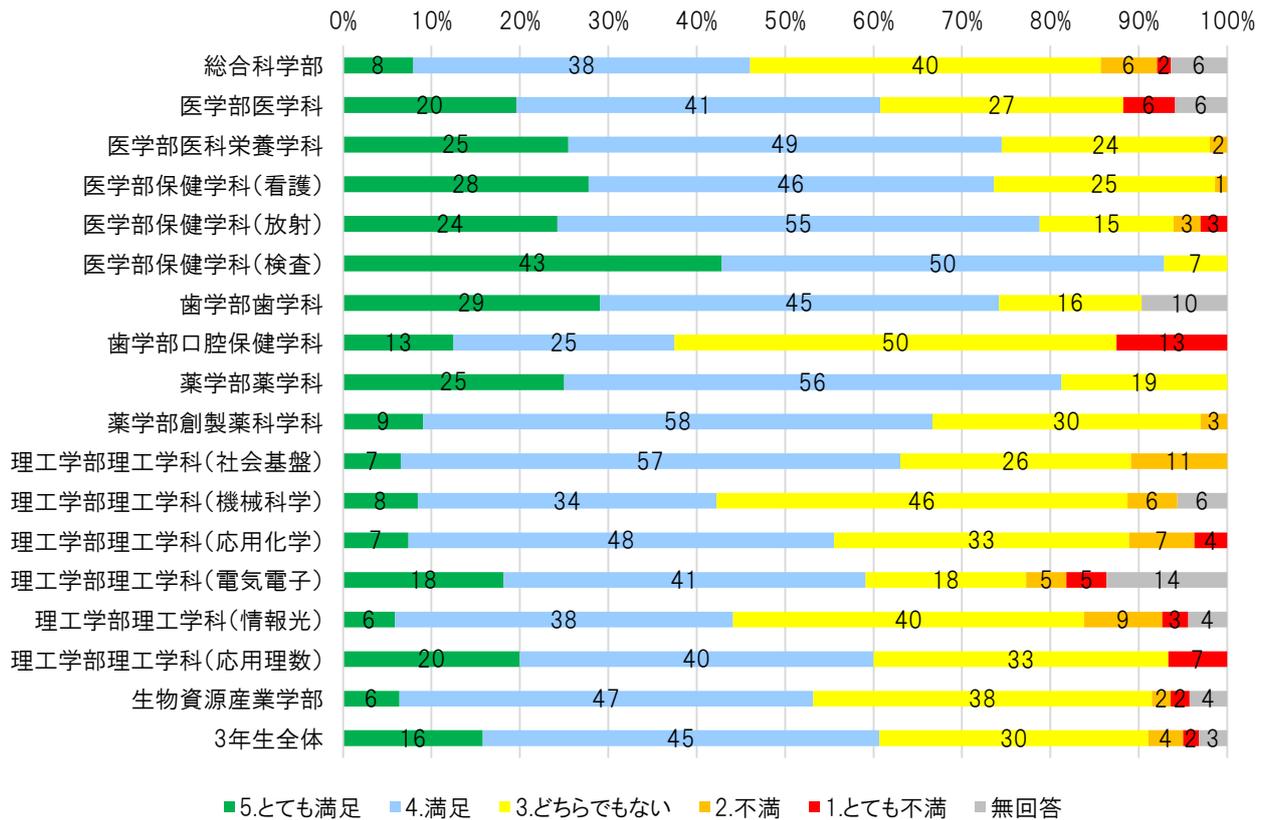
[98]授業の全体的な質



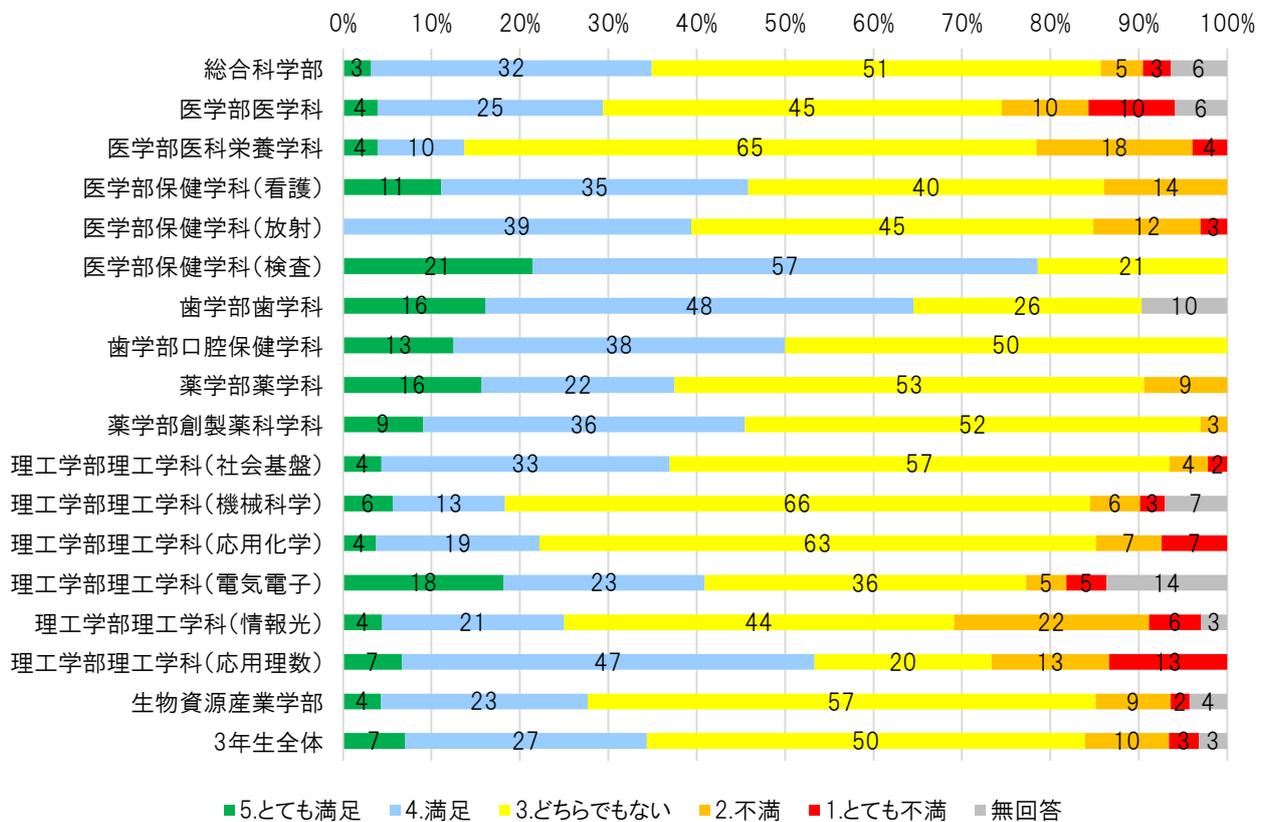
[99]生活と授業内容との関連



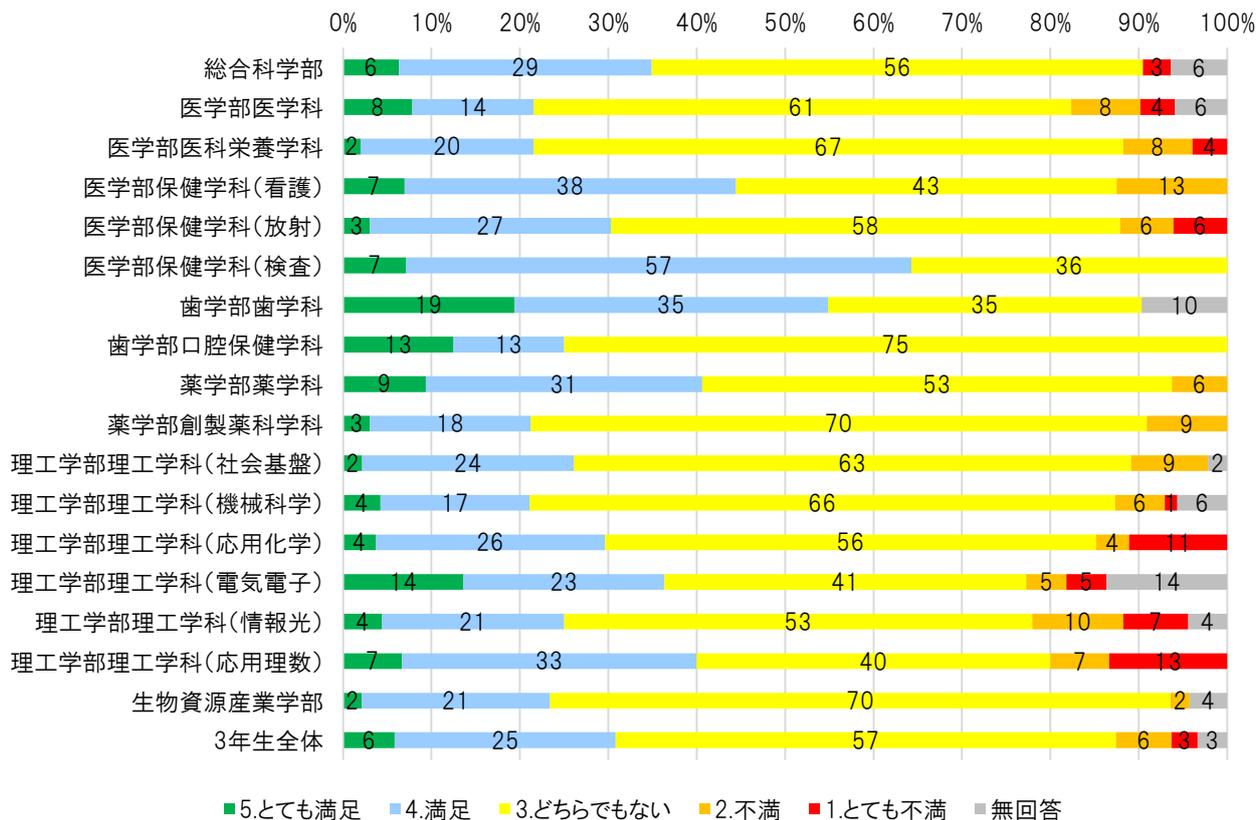
[100] 将来の仕事と授業内容の結びつき



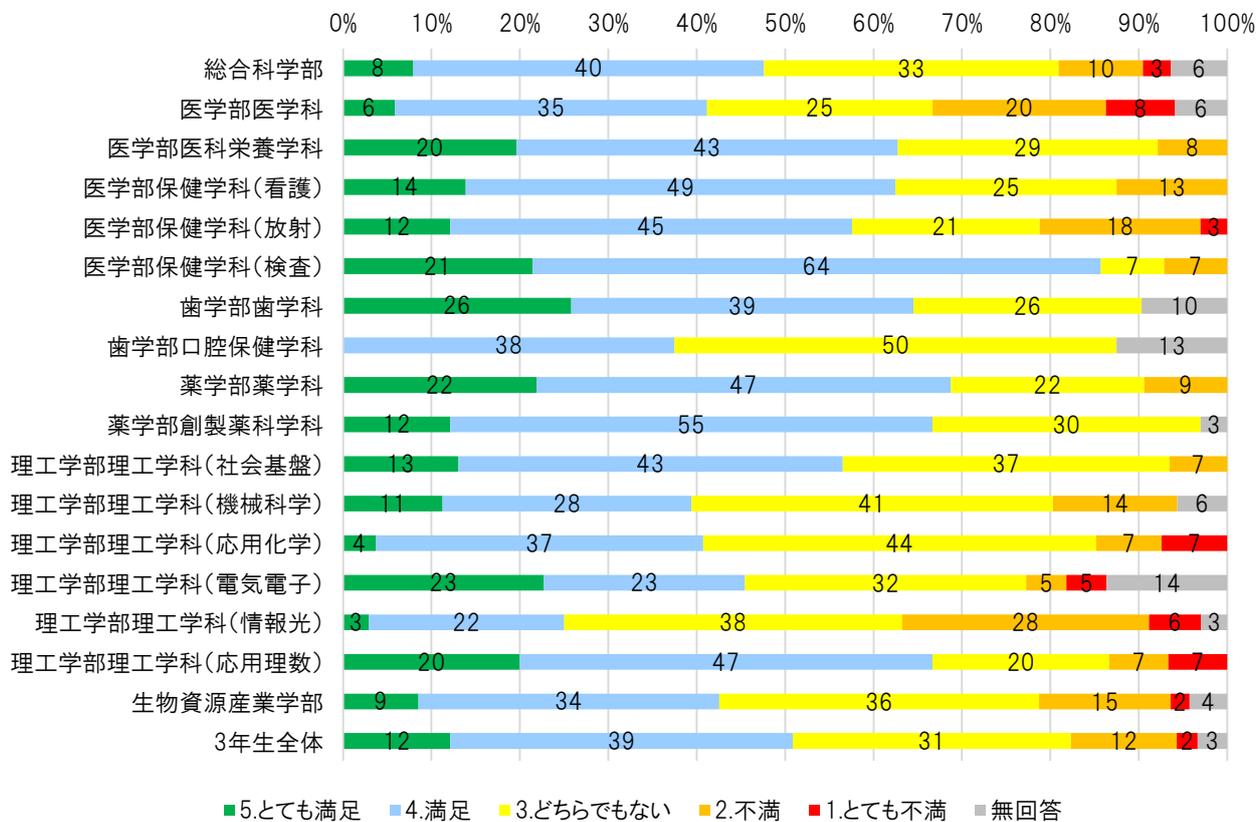
[101] 教員と話をする機会



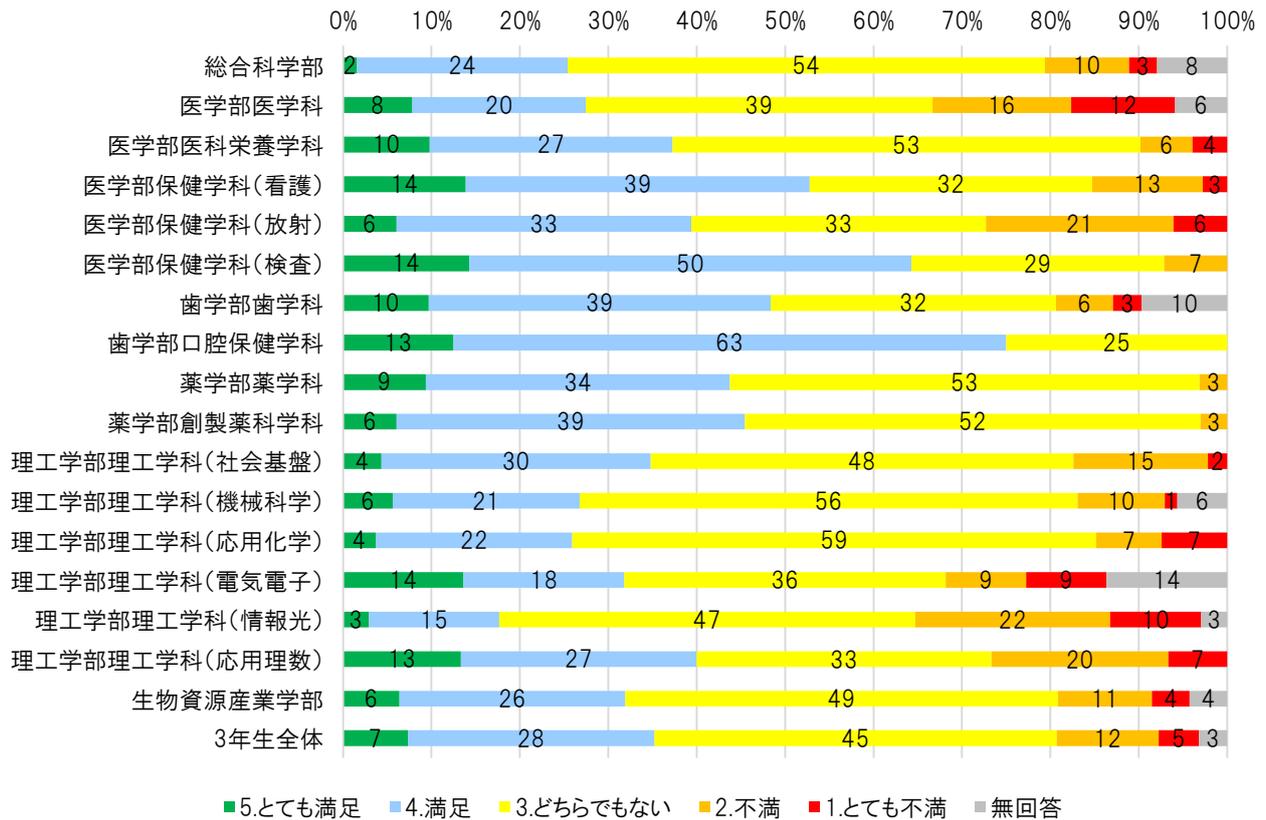
[102]学習支援や個別の学習指導



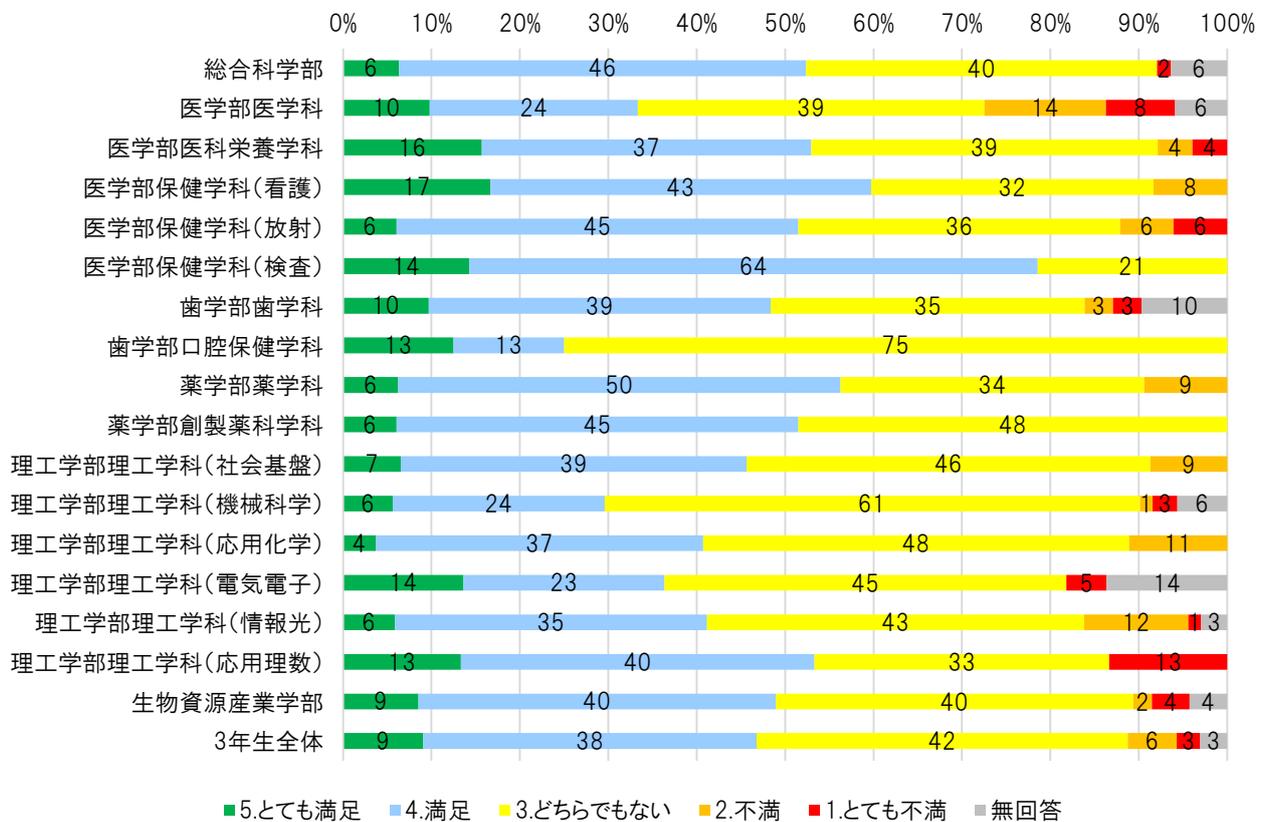
[103]他の学生と話をする機会



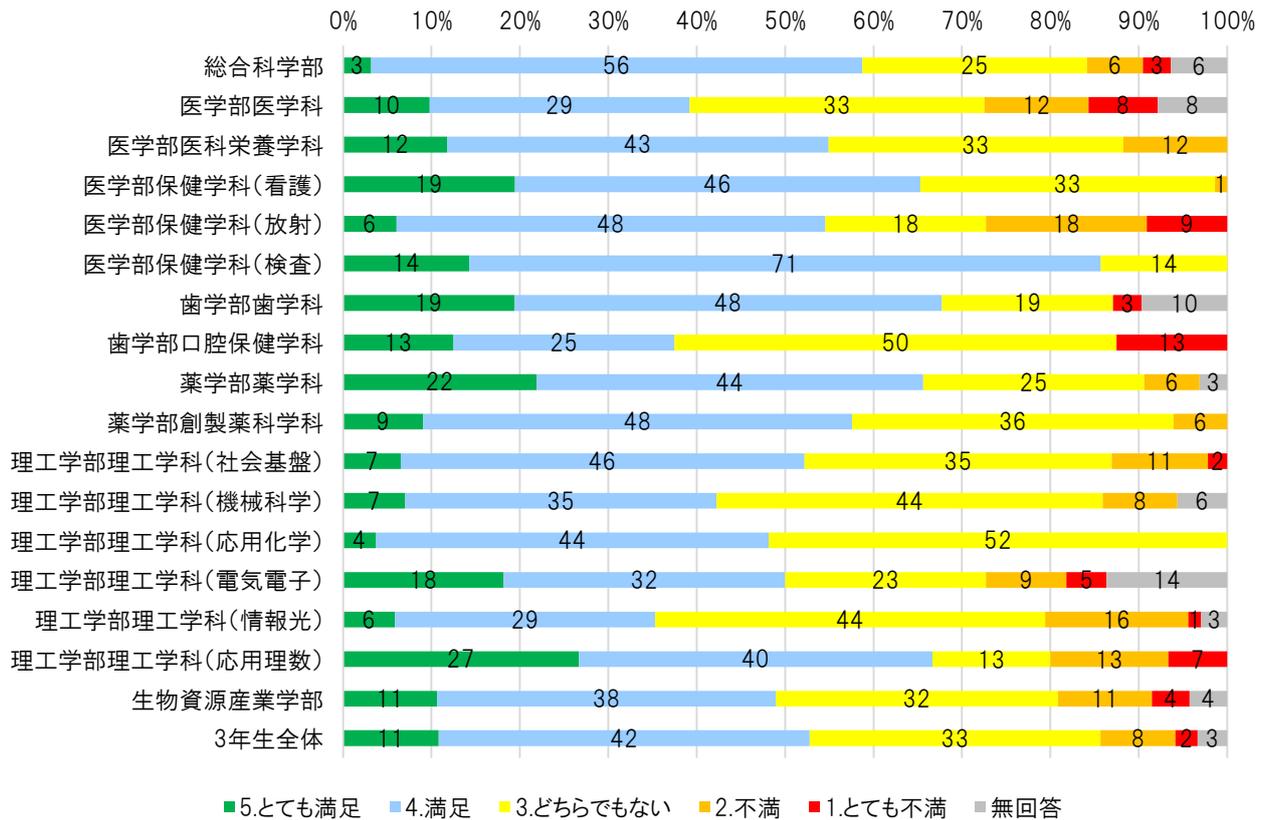
[104]大学のなかでの学生同士の一体感



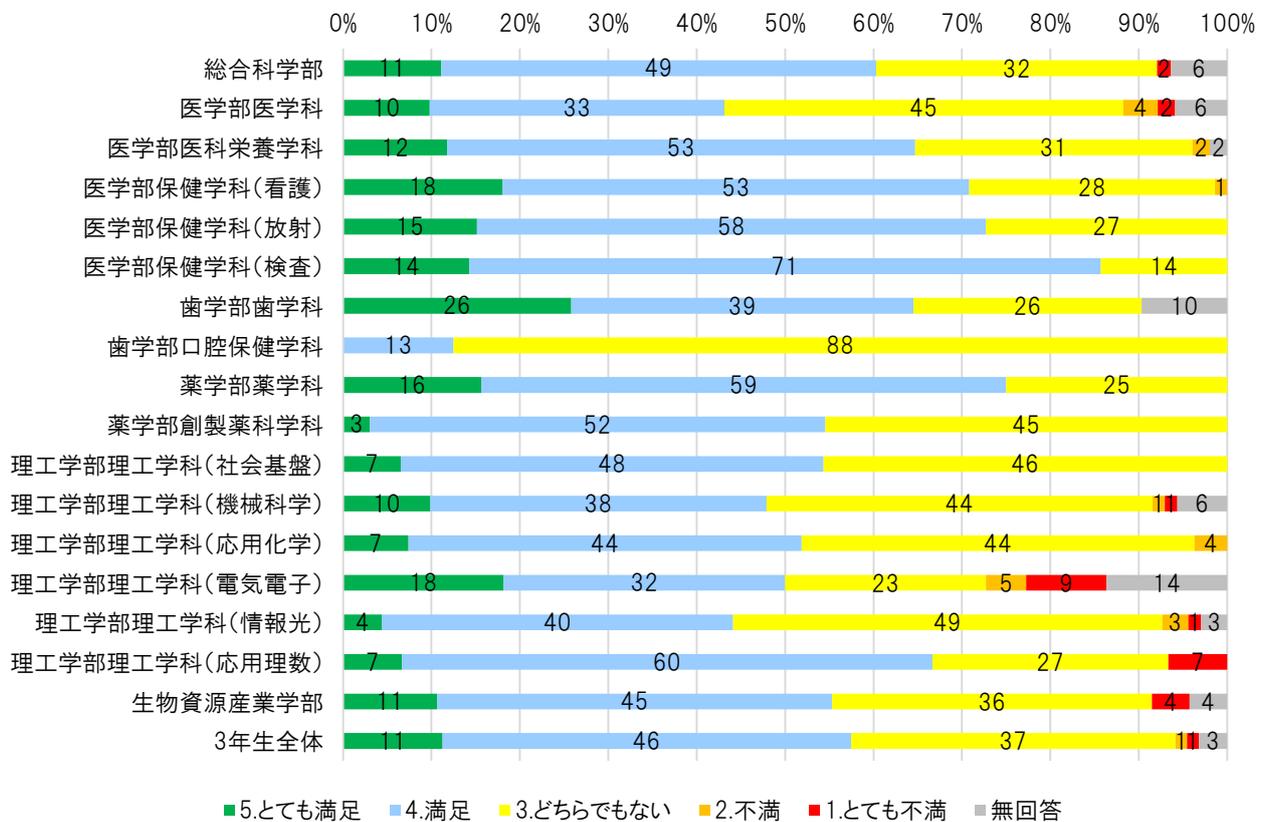
[105]多様な考え方を認め合う雰囲気



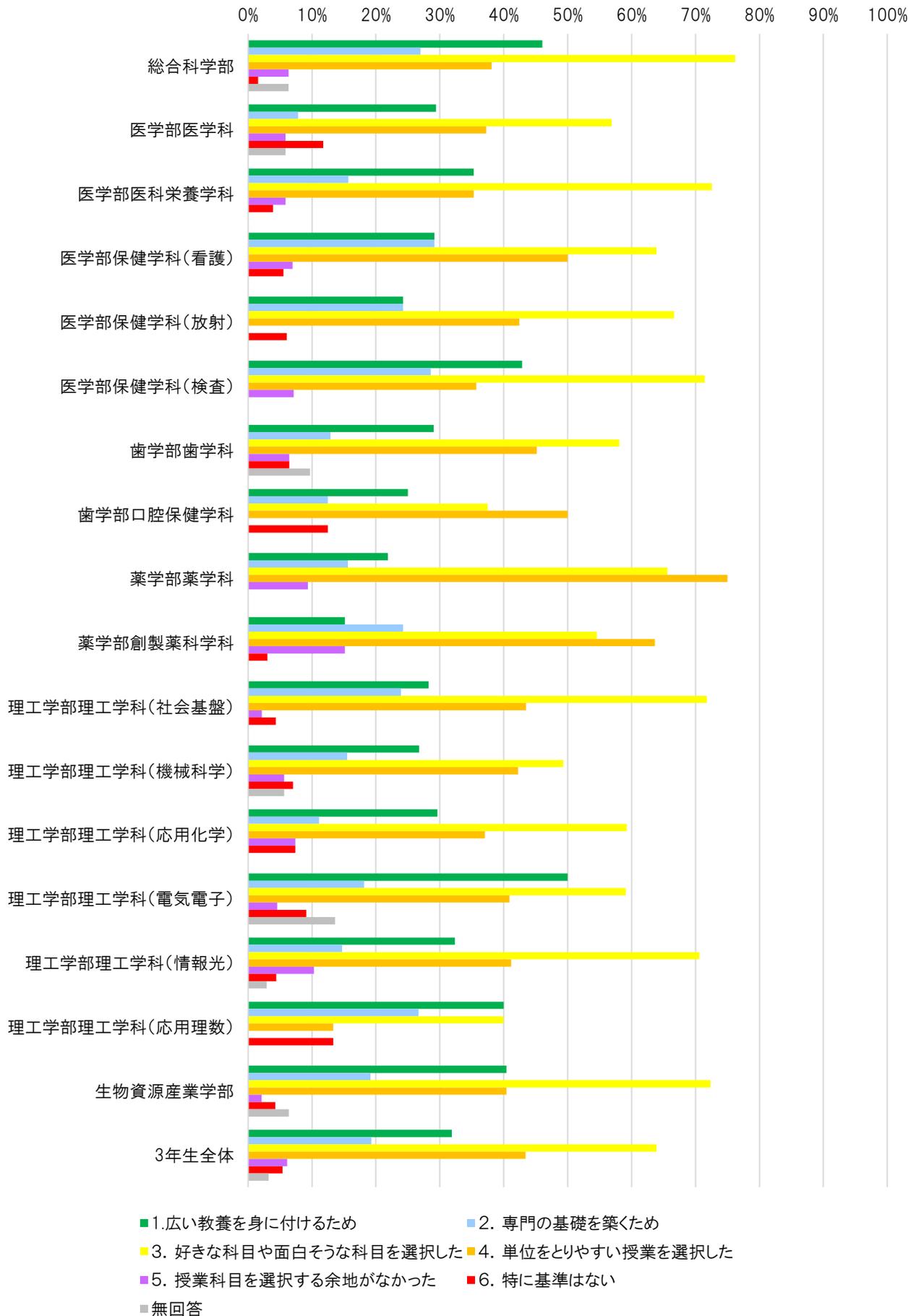
[106]大学での経験全般について



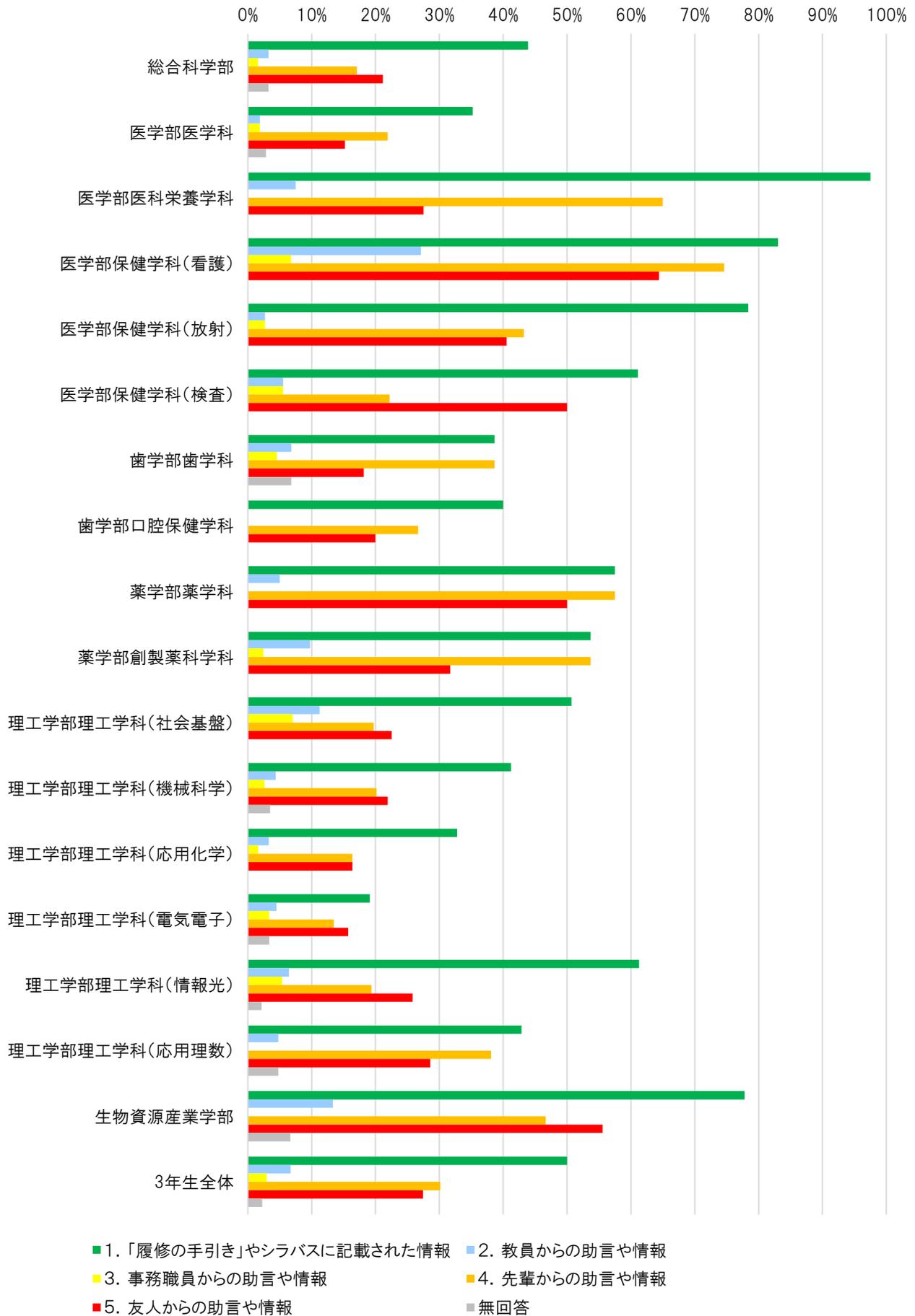
[107]1つの授業を履修する学生数



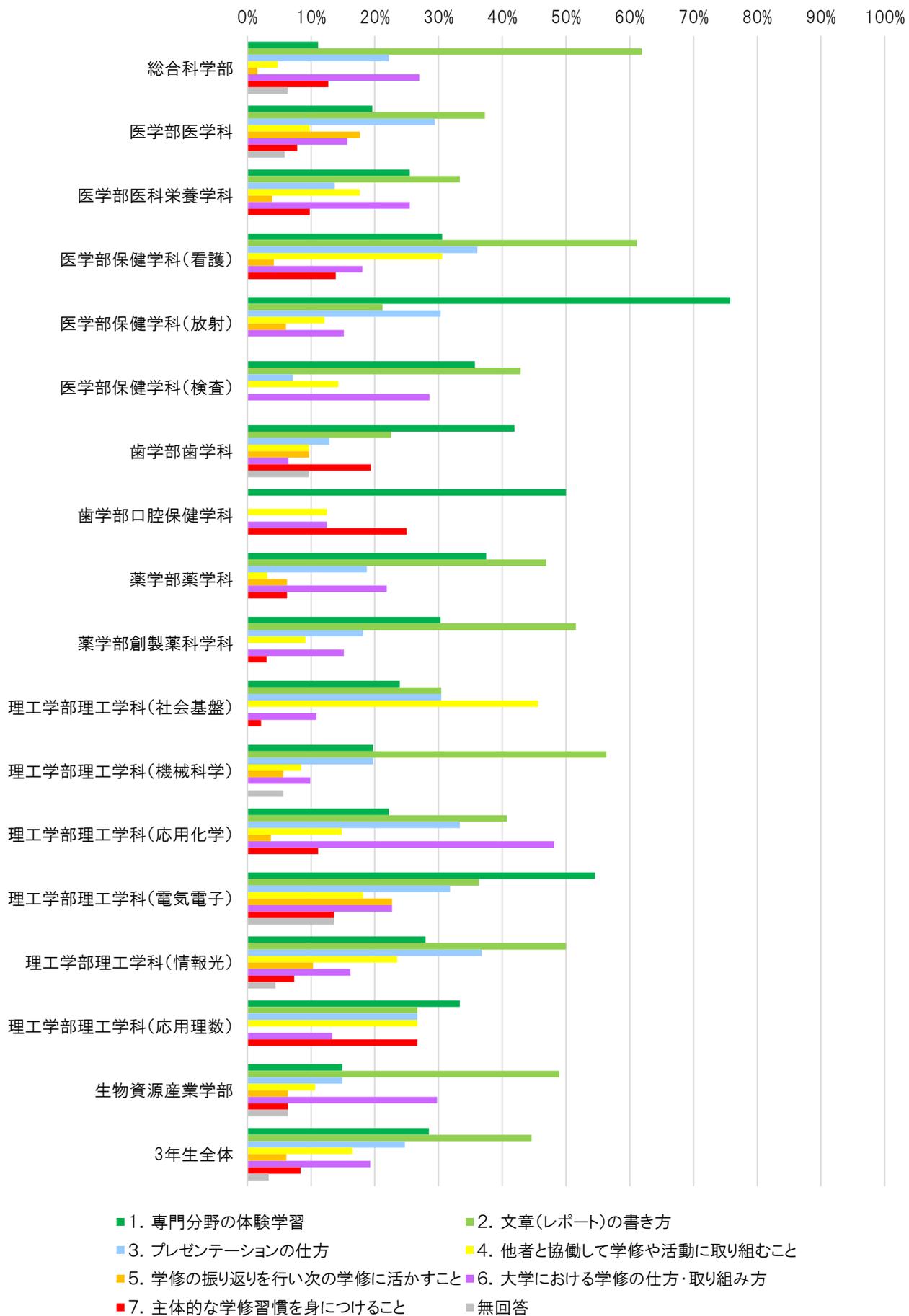
[108]教養教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。(複数回答可)



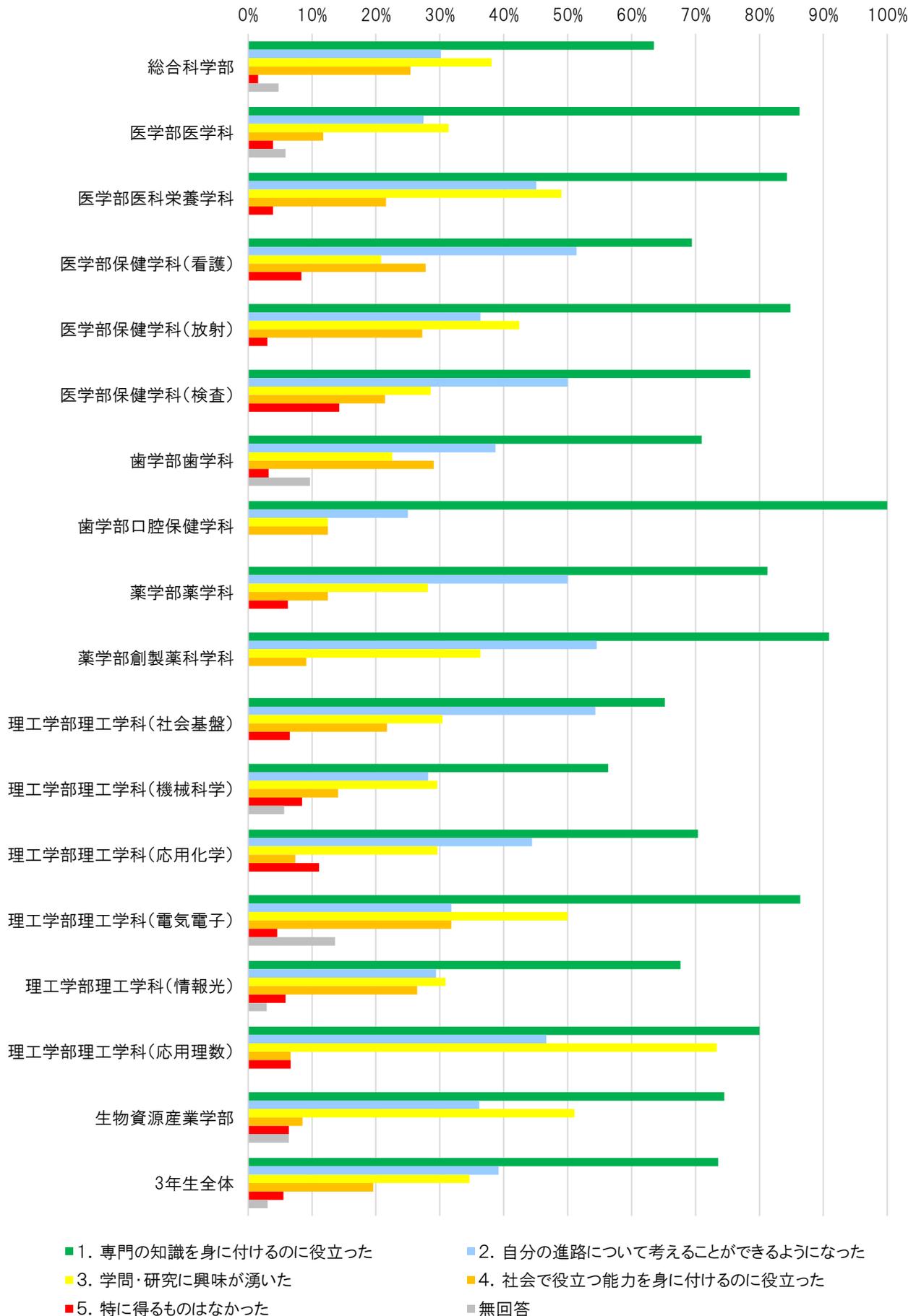
[109]教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)



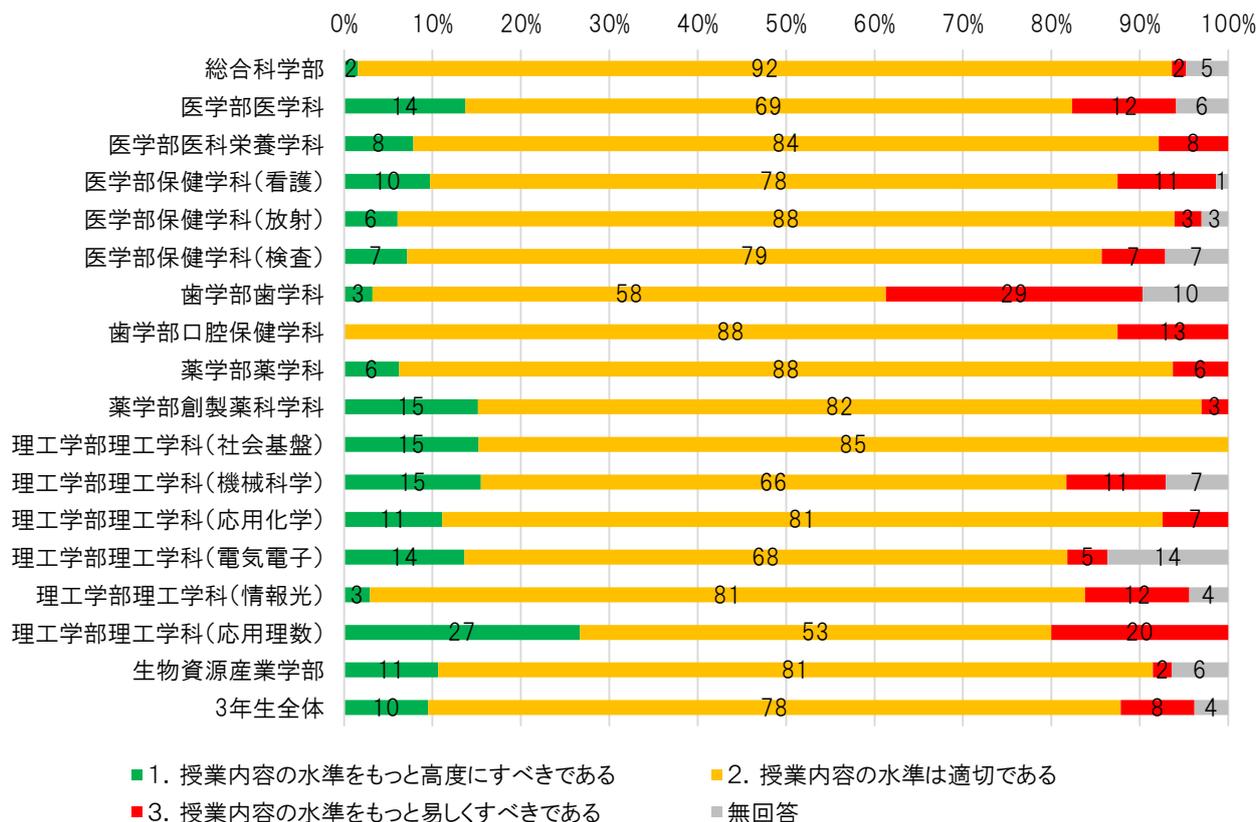
[110] 「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。(複数回答可)



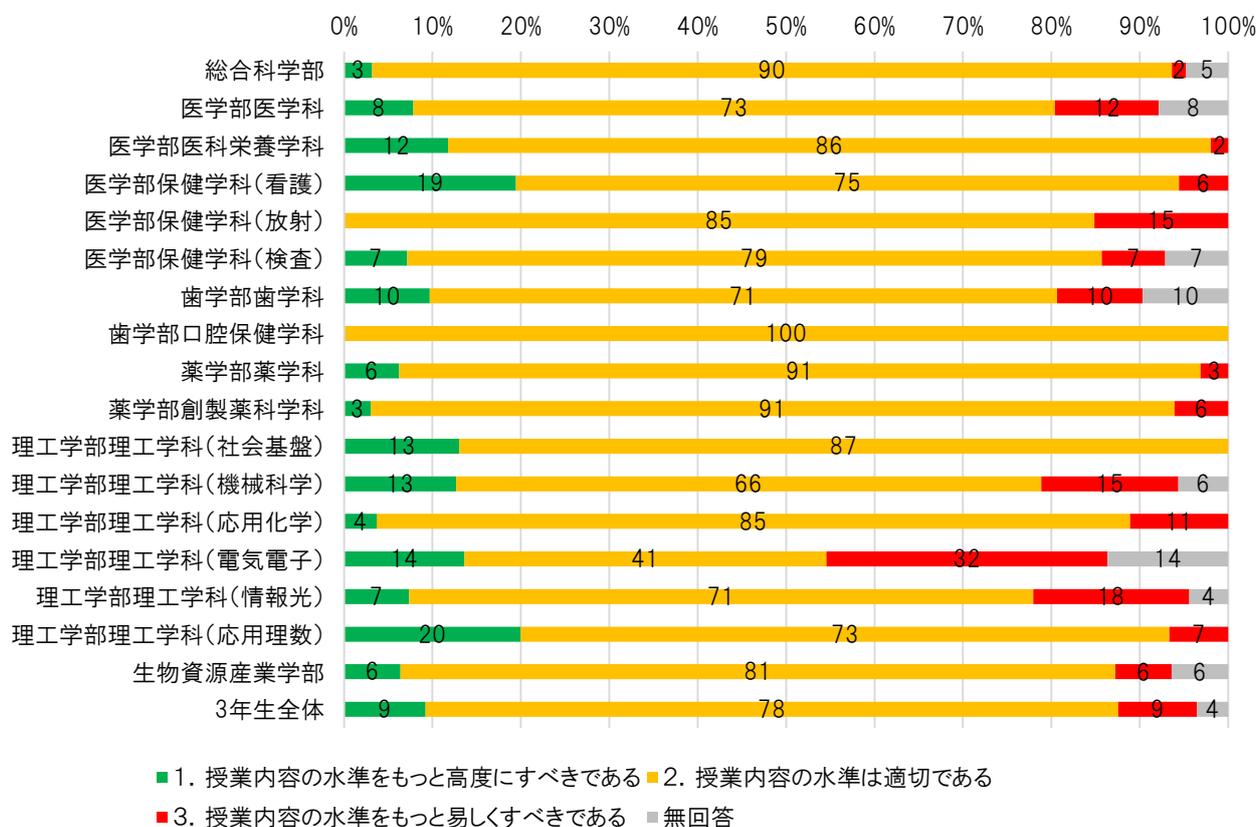
[111]専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると感じますか。(複数回答可)



[112]教養教育科目の授業内容の難易度についてどう思いますか。

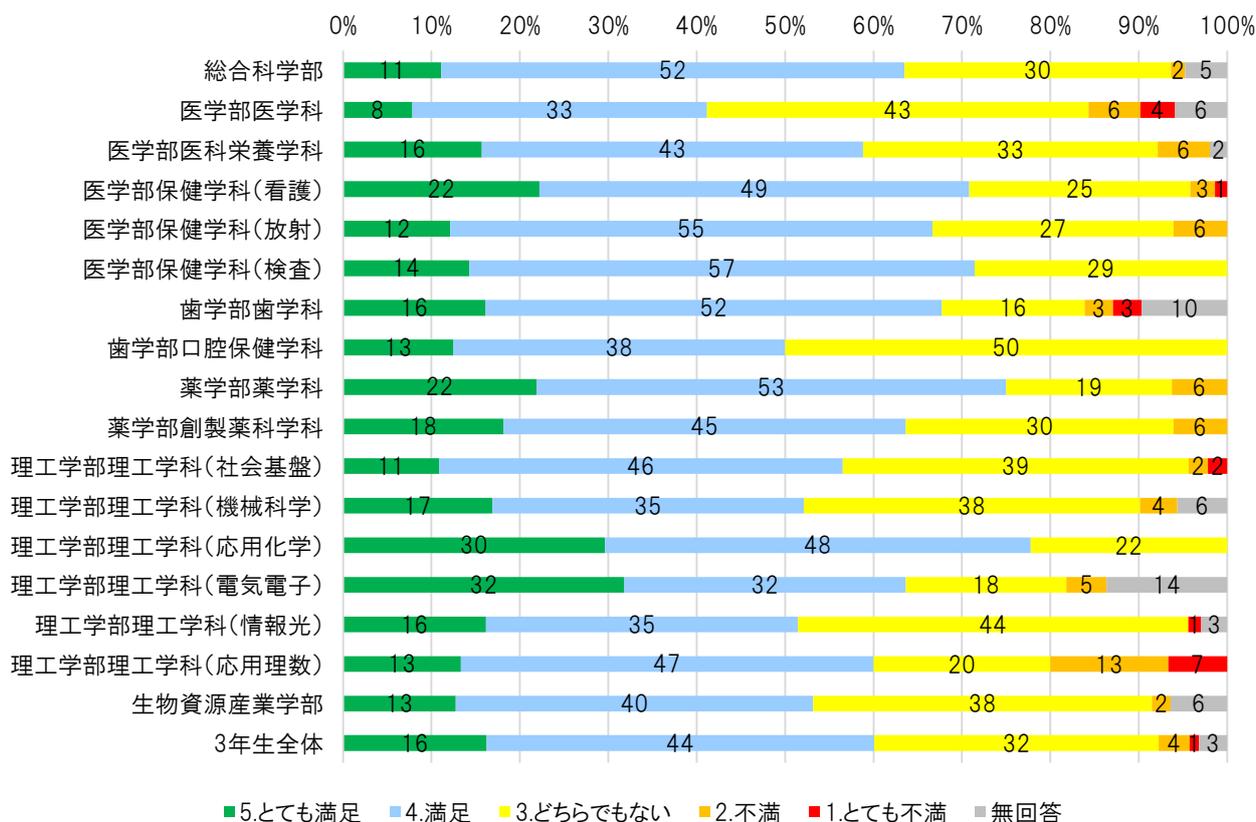


[113]専門教育科目の授業内容の難易度についてどう思いますか。

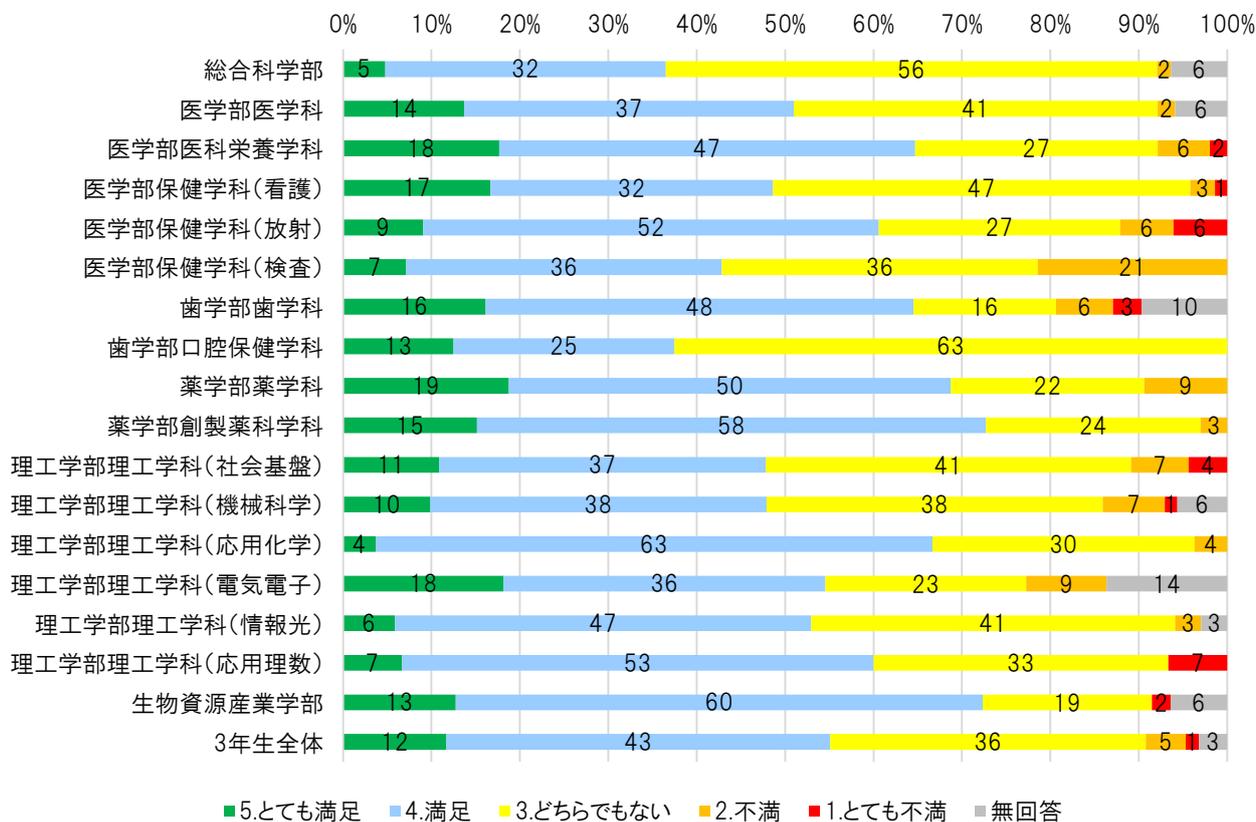


あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

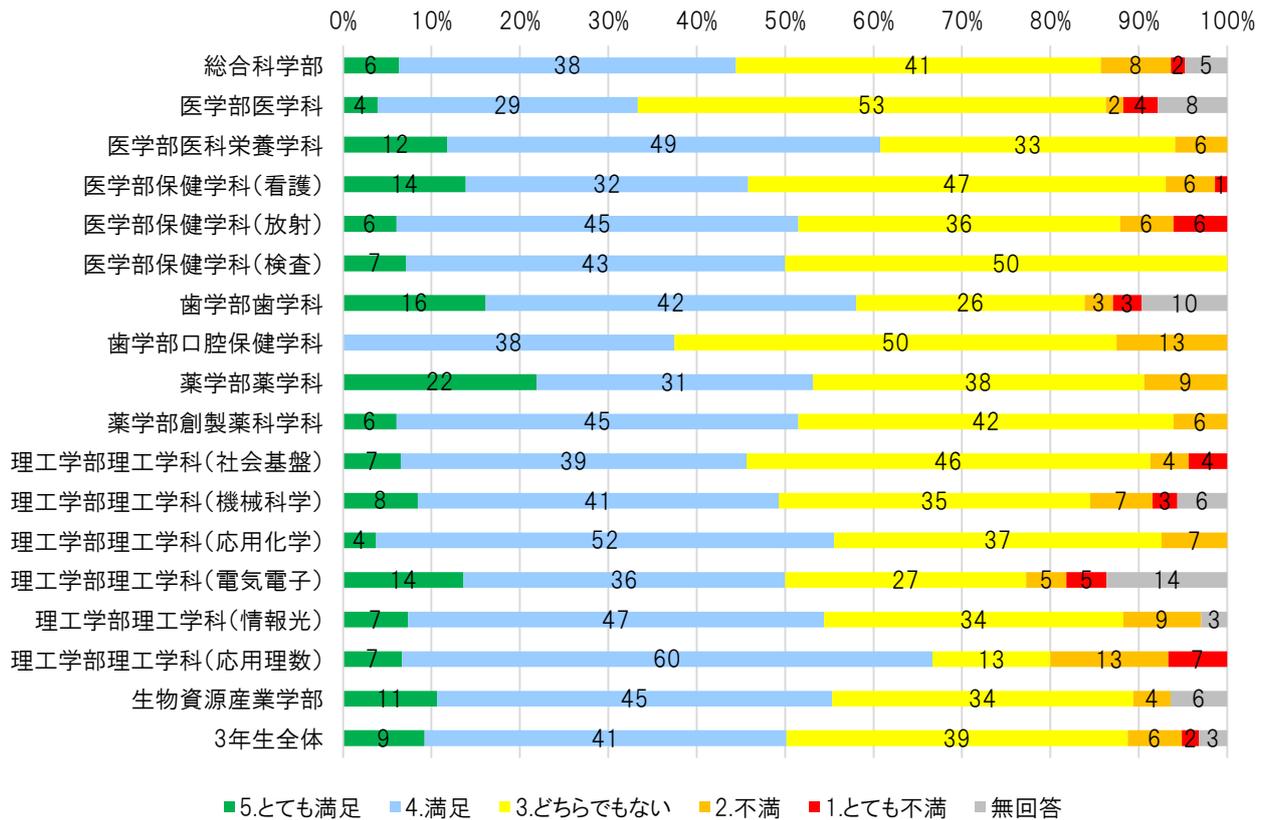
[114]図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス)



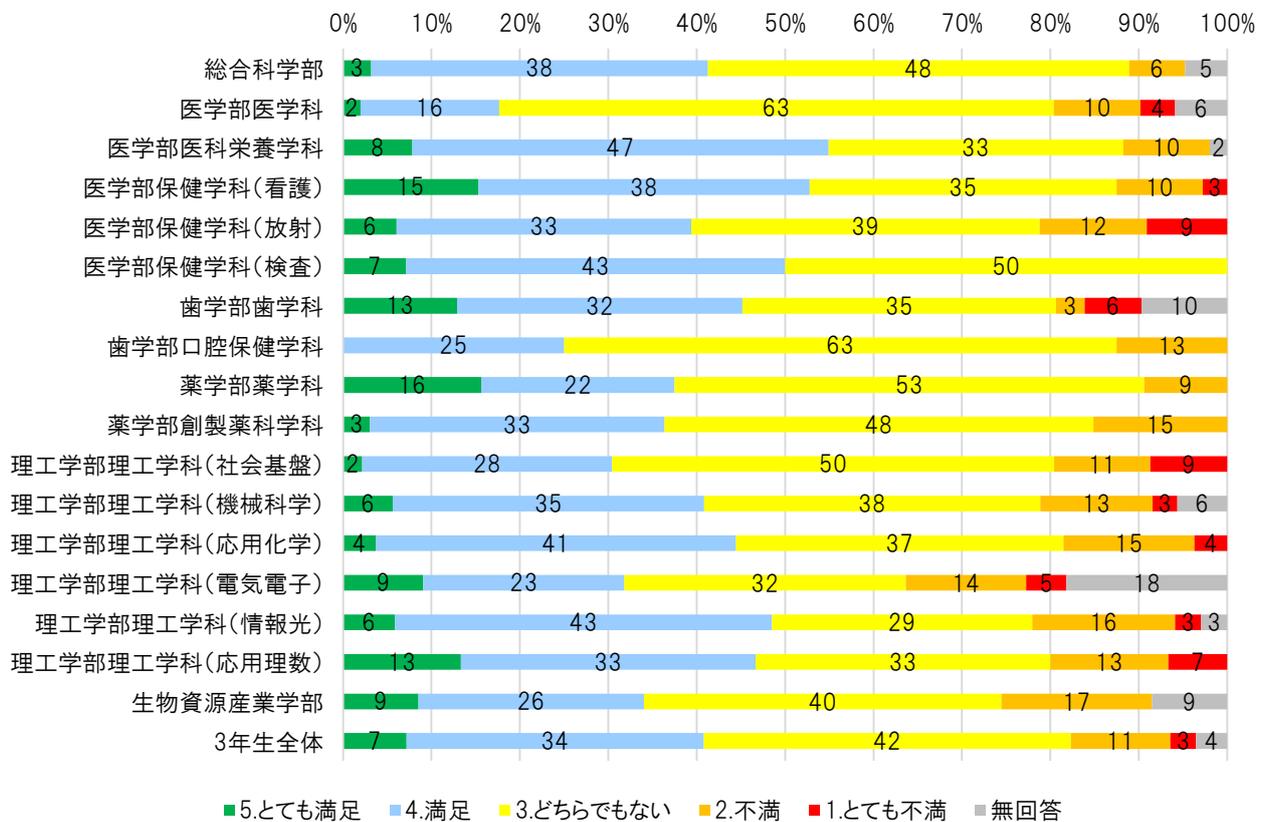
[115]実験室の設備や器具



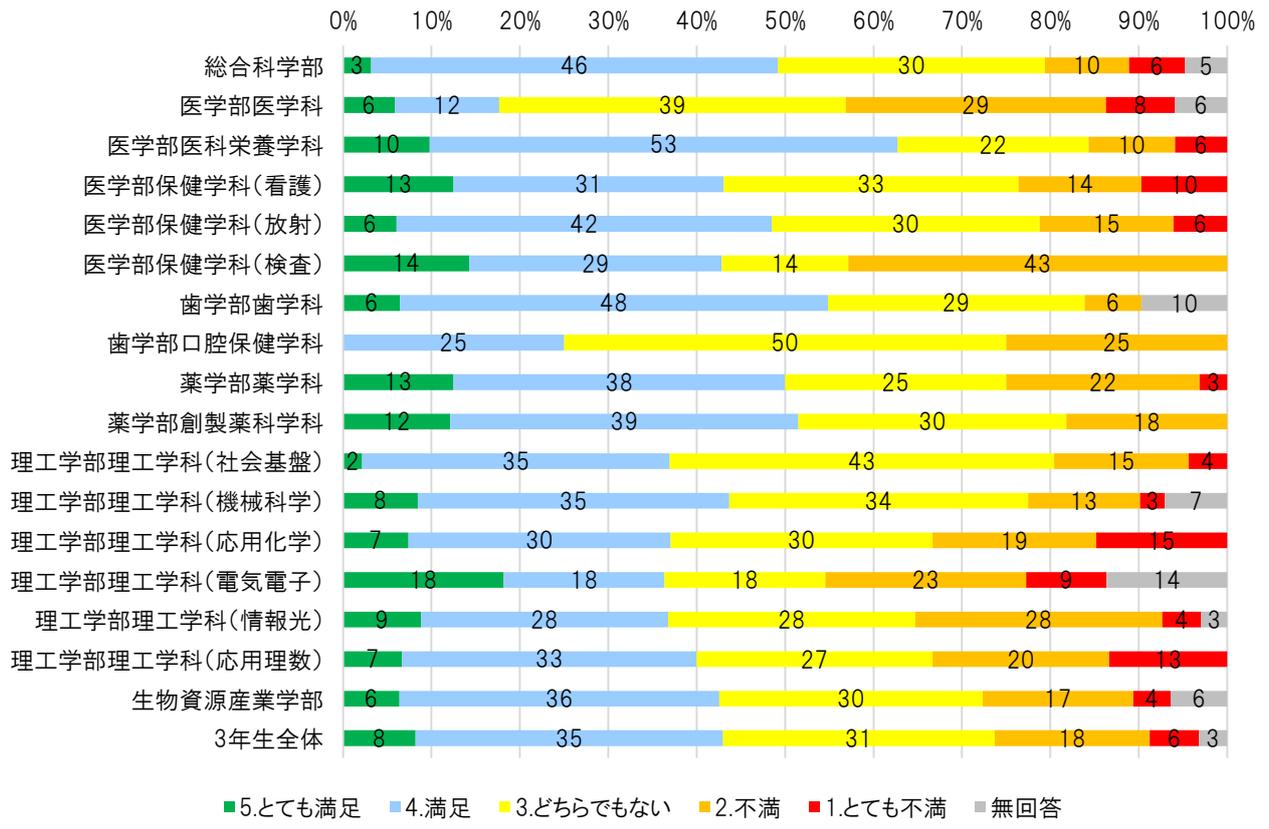
[116]コンピュータの施設や設備



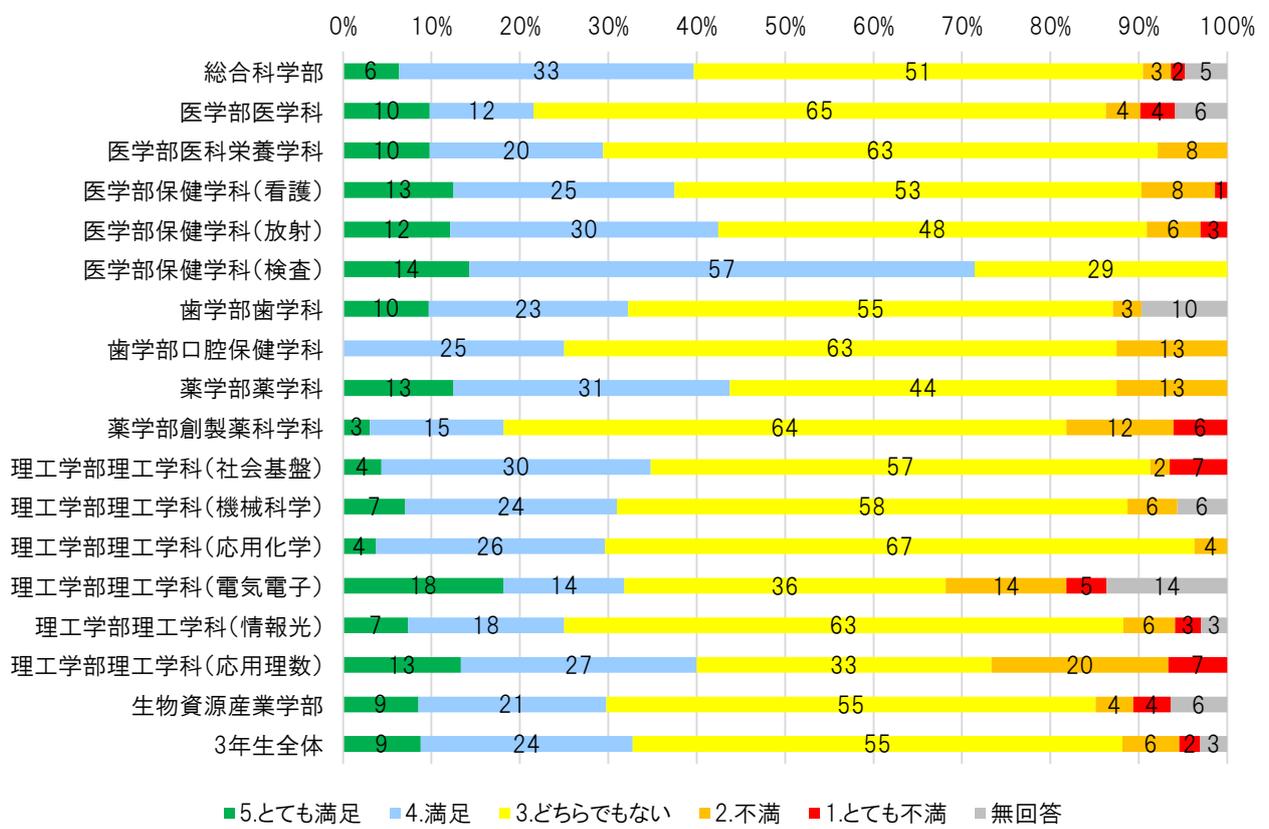
[117]コンピュータの訓練や援助



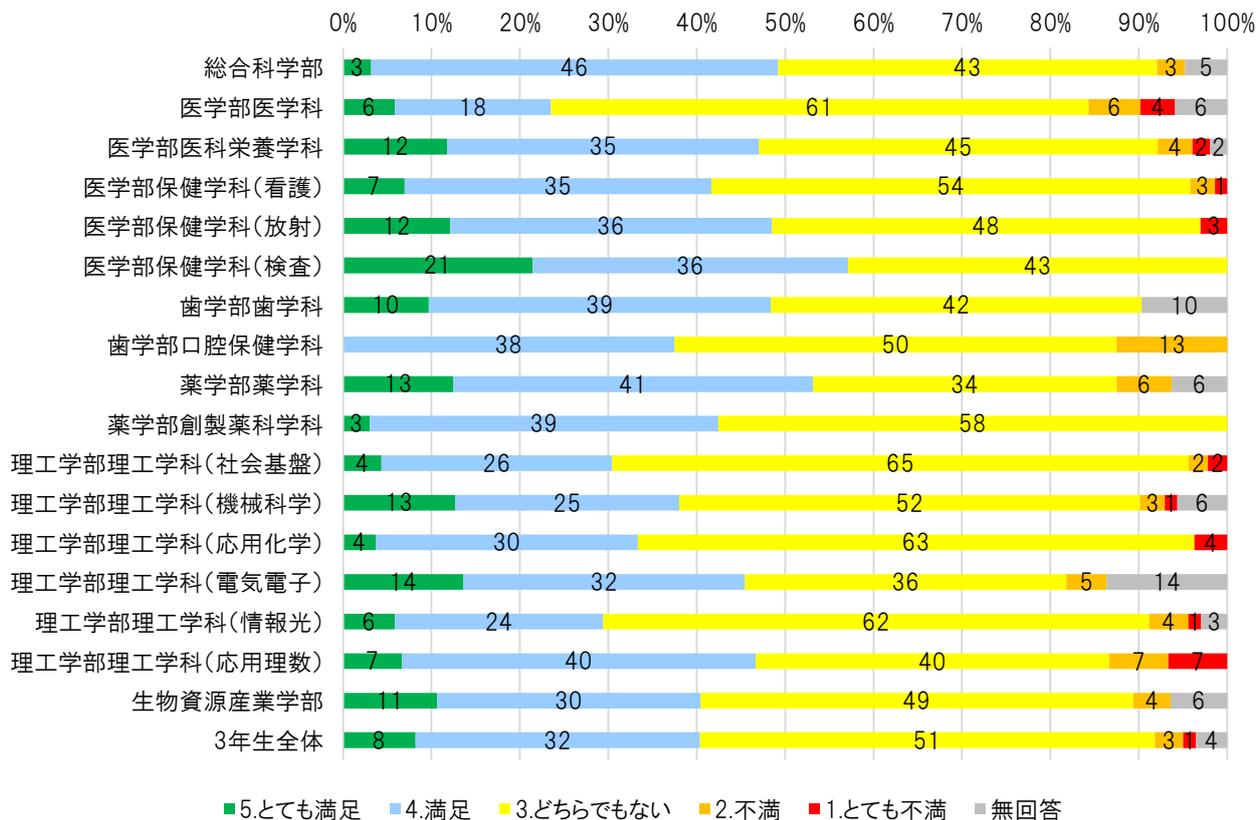
[118]インターネットの使いやすさ



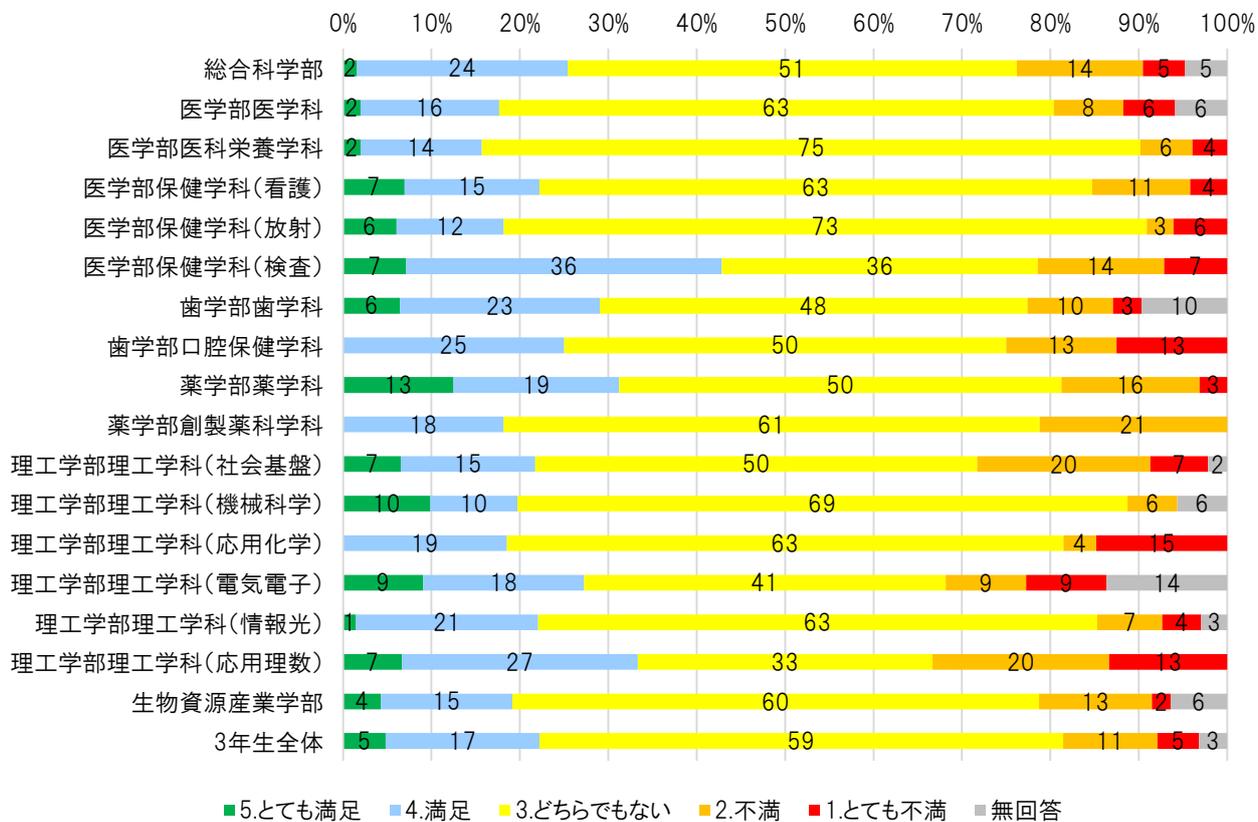
[119]奨学金など学費援助の制度



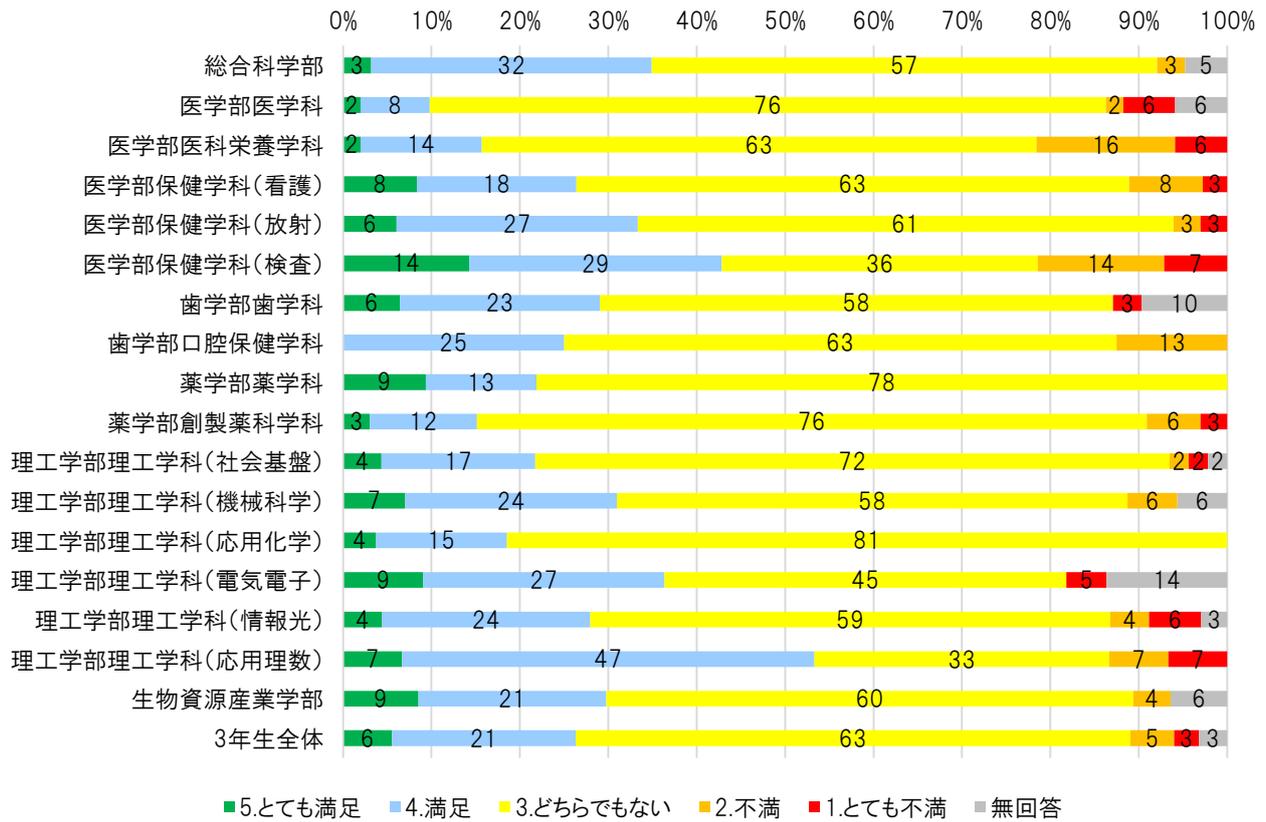
[120]健康・保健サービス(心身の健康に関わる問題についての診療や相談)



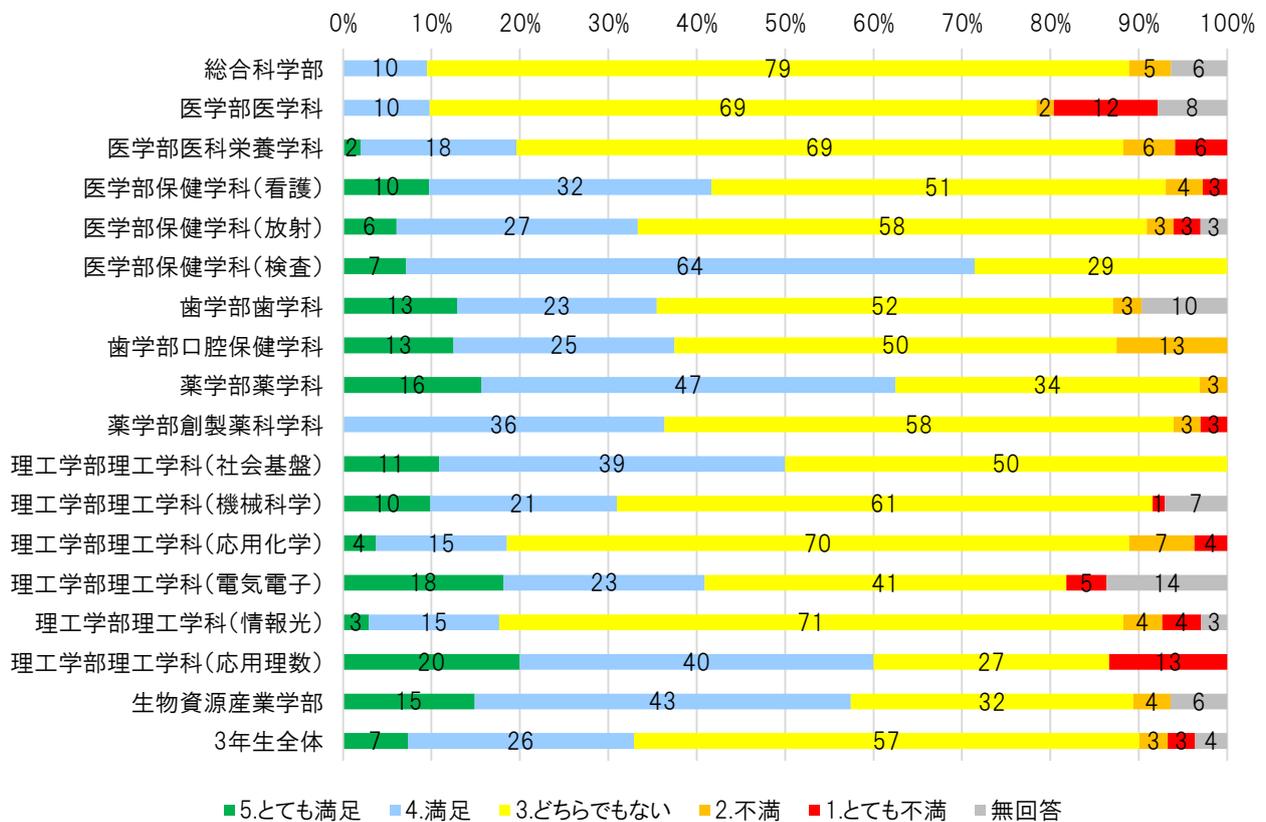
[121]レクリエーション施設(ジムの設備など)



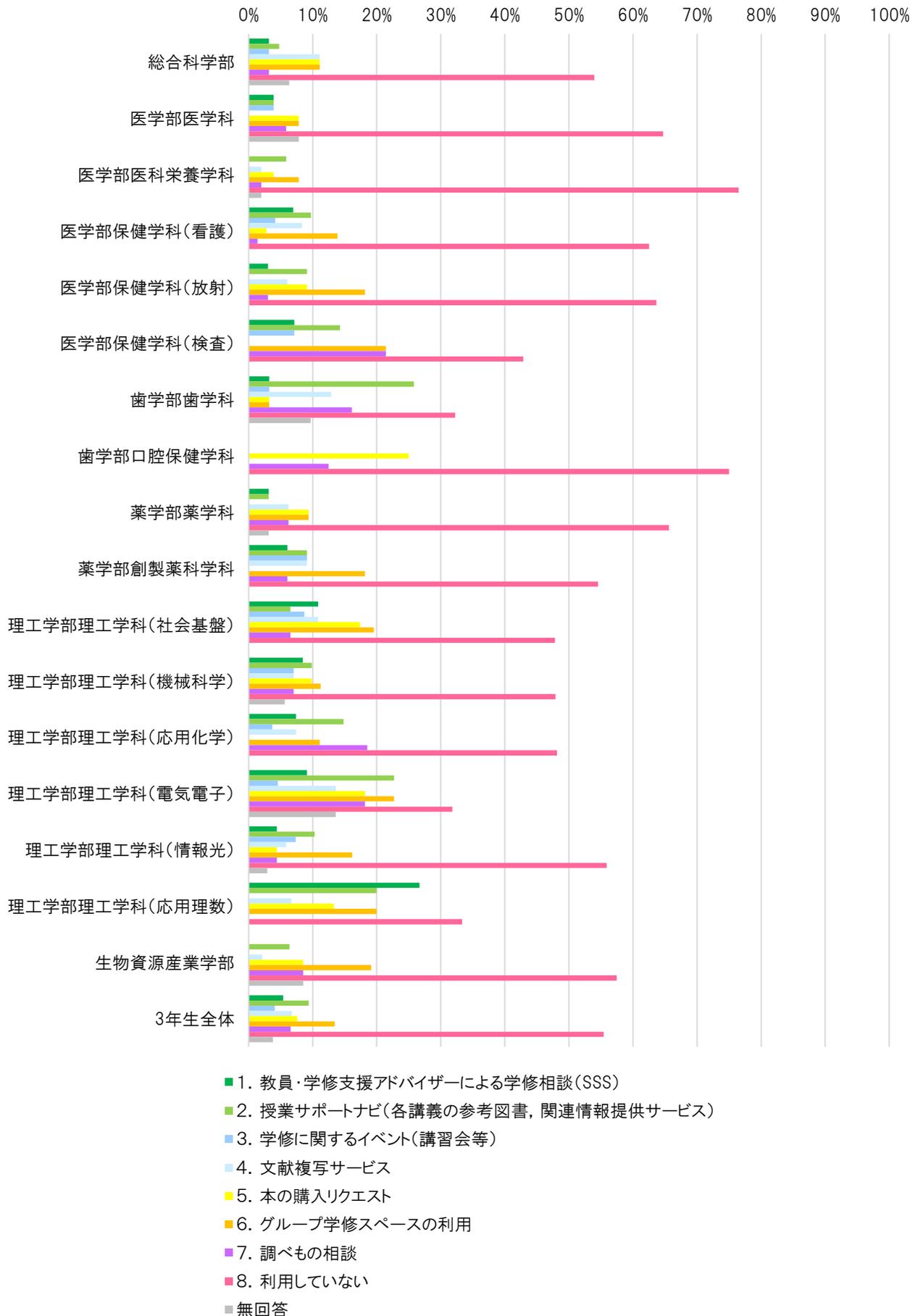
[122]キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)



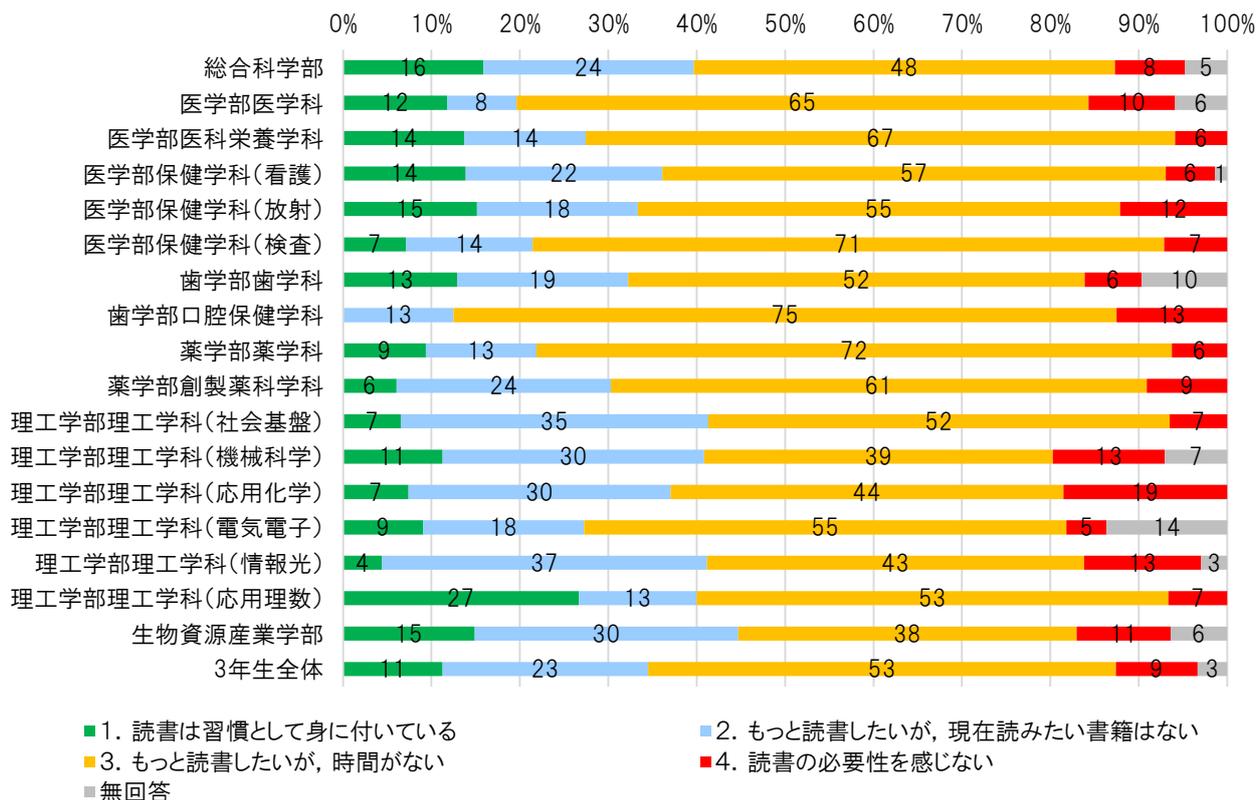
[123]クラス担任制度



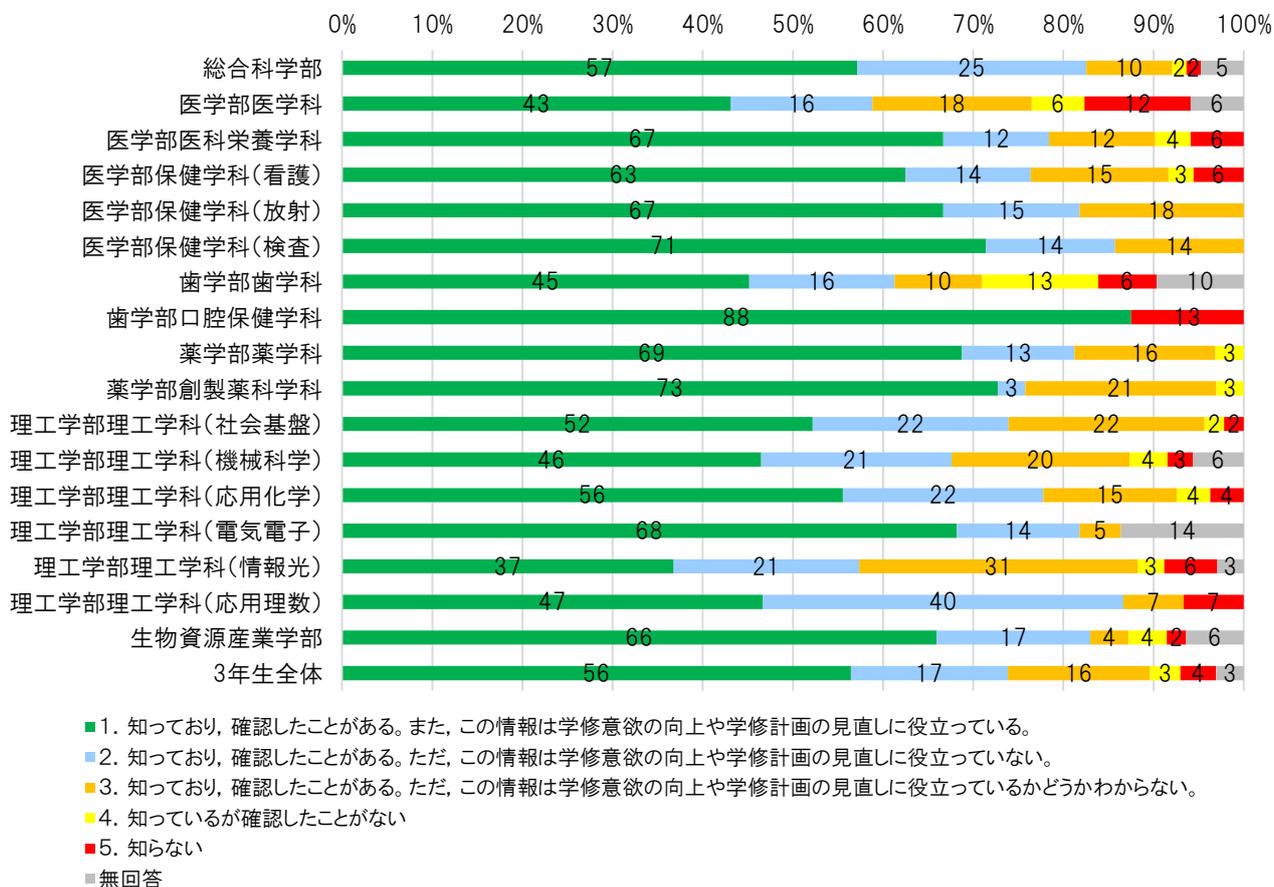
[124]図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。(複数回答可)



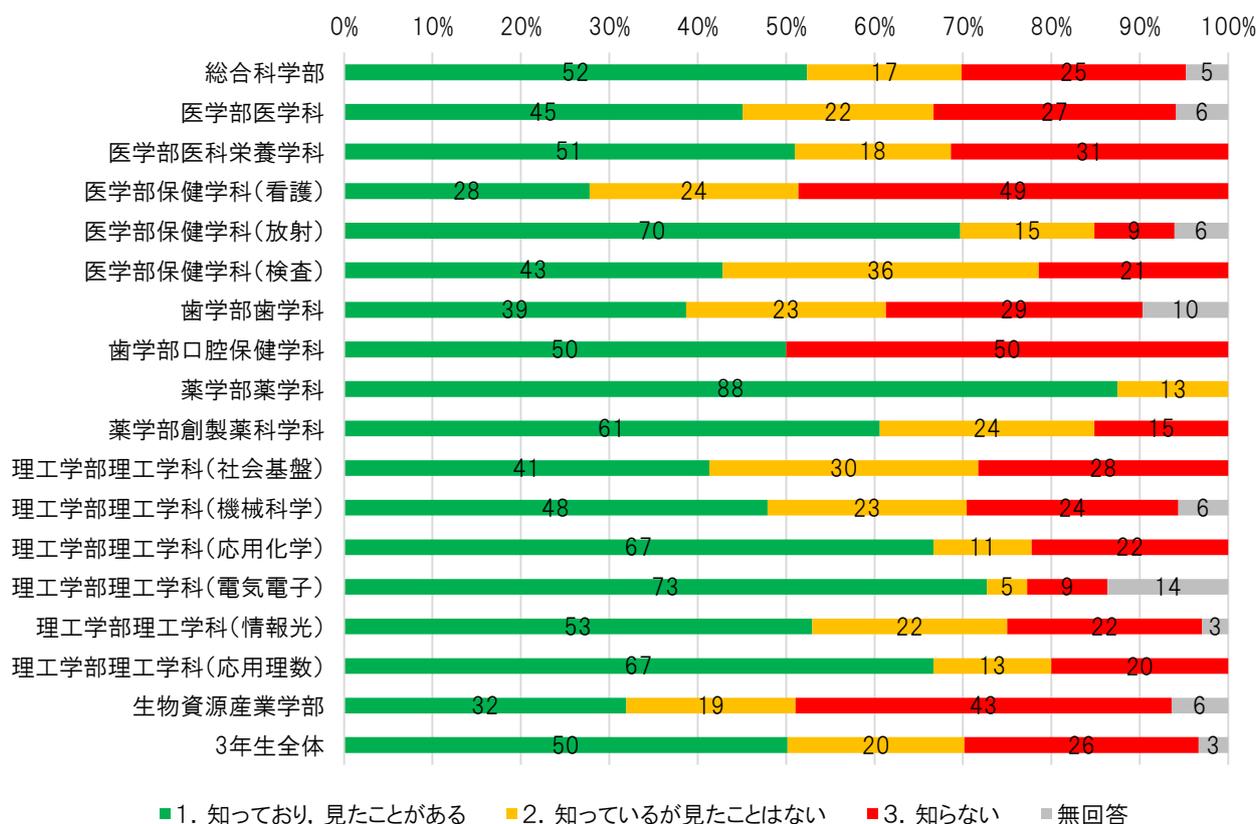
[125]あなたは、読書についてどのように考えていますか。



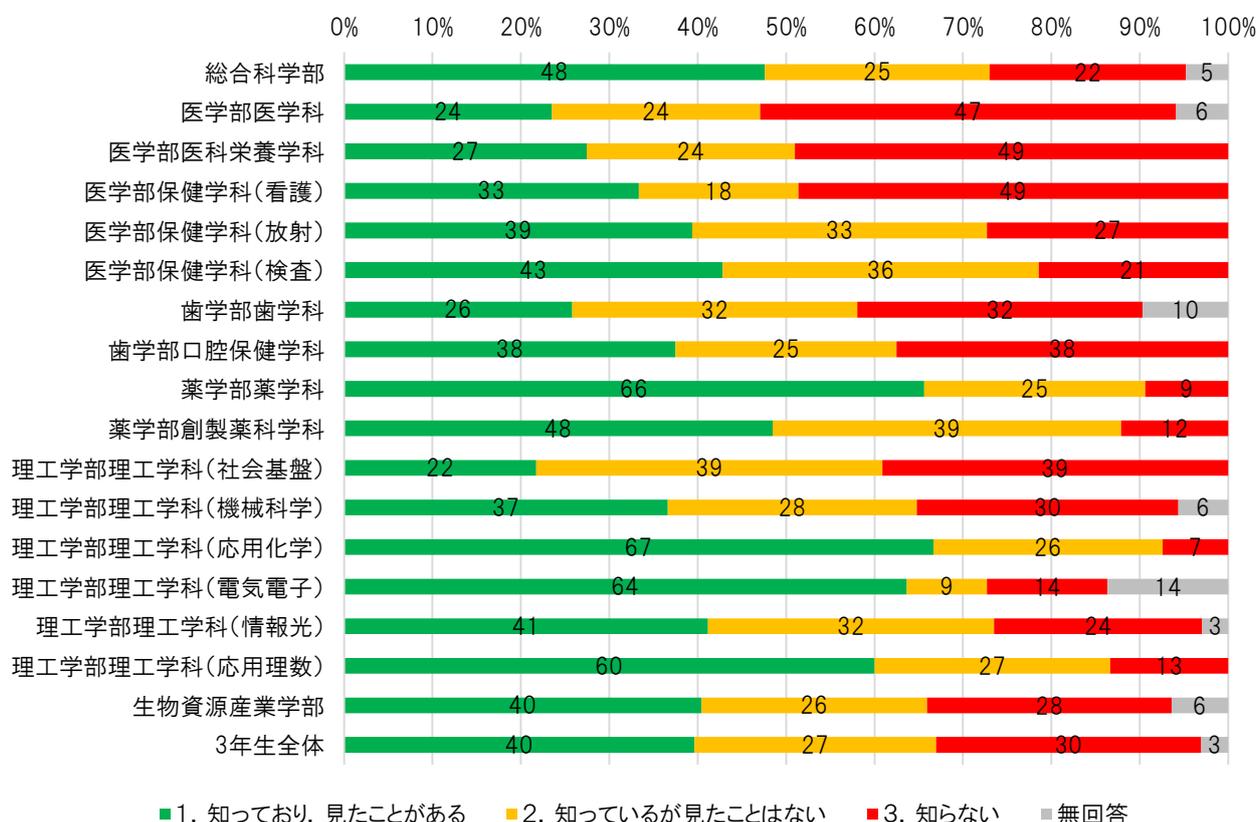
[126]徳島大学では、履修者が11名以上の授業では、自分の成績や成績の分布が確認できるようになっていることを知っていますか。また、役立っていますか。



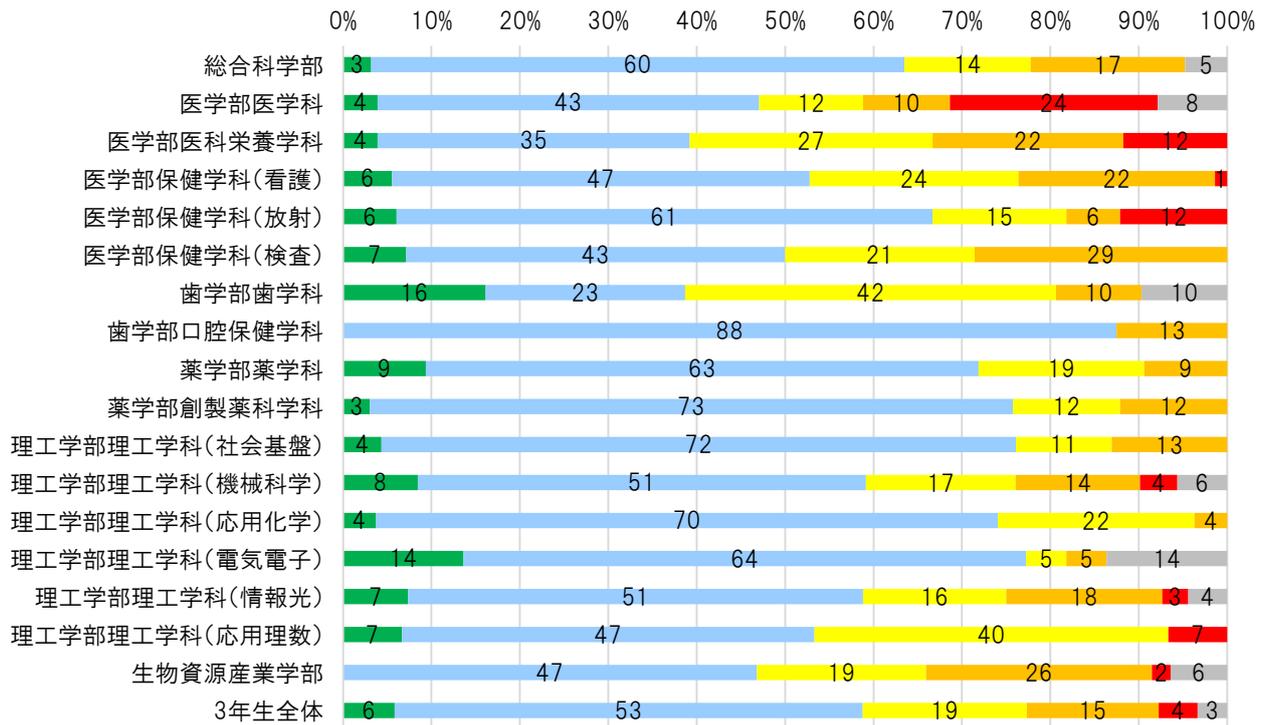
〔127〕徳島大学では、卒業に必要な履修科目やそれらの科目を学修していく順序等を一覧できる「カリキュラムマップ」を公開していることを知っていますか。



〔128〕徳島大学では、学部の授業科目のレベルに基づく学修の段階や順序を整理し適切な番号を付与した「科目ナンバリング」を公開していることを知っていますか。

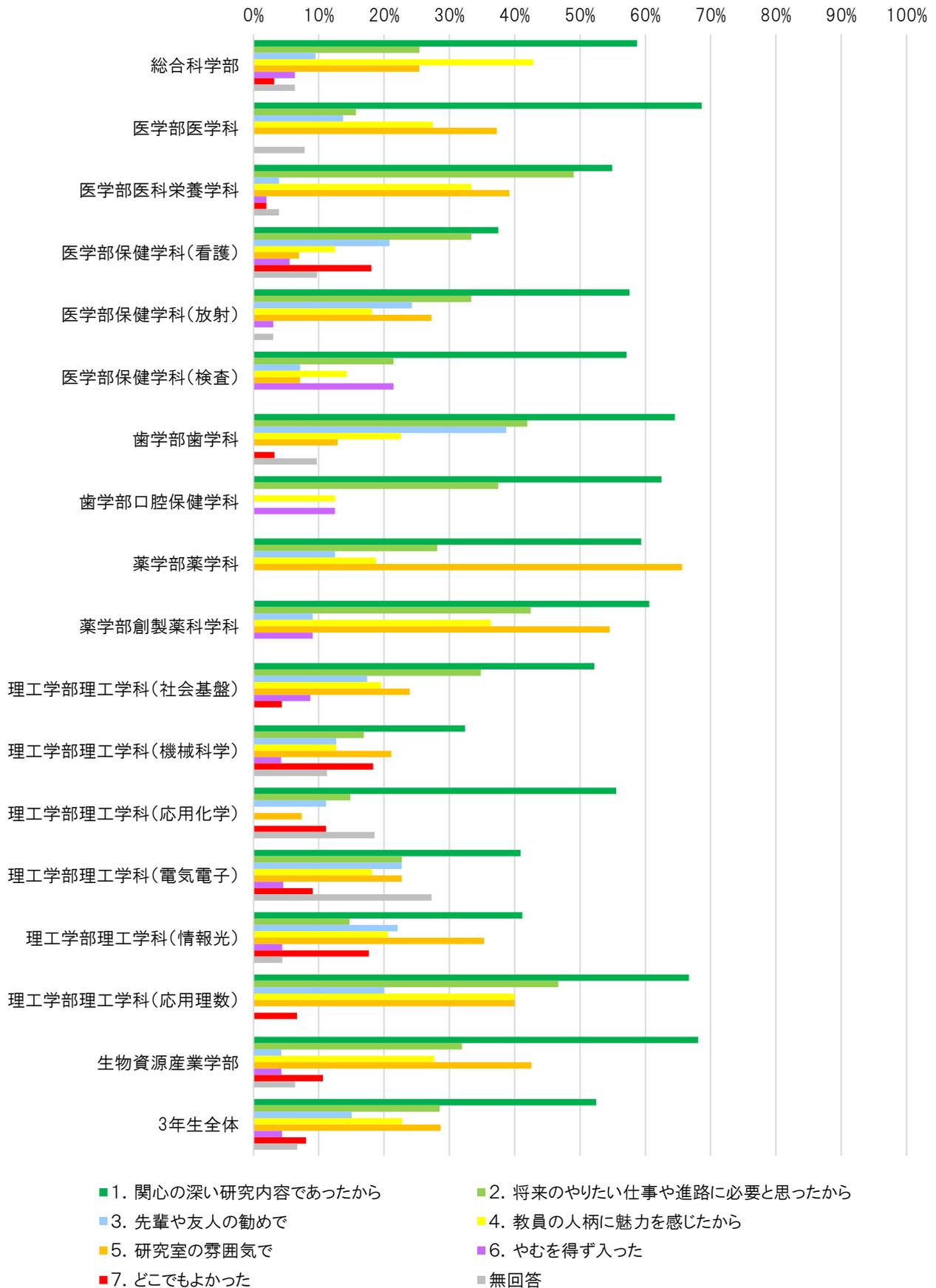


[129]シラバスはどのように利用していますか。

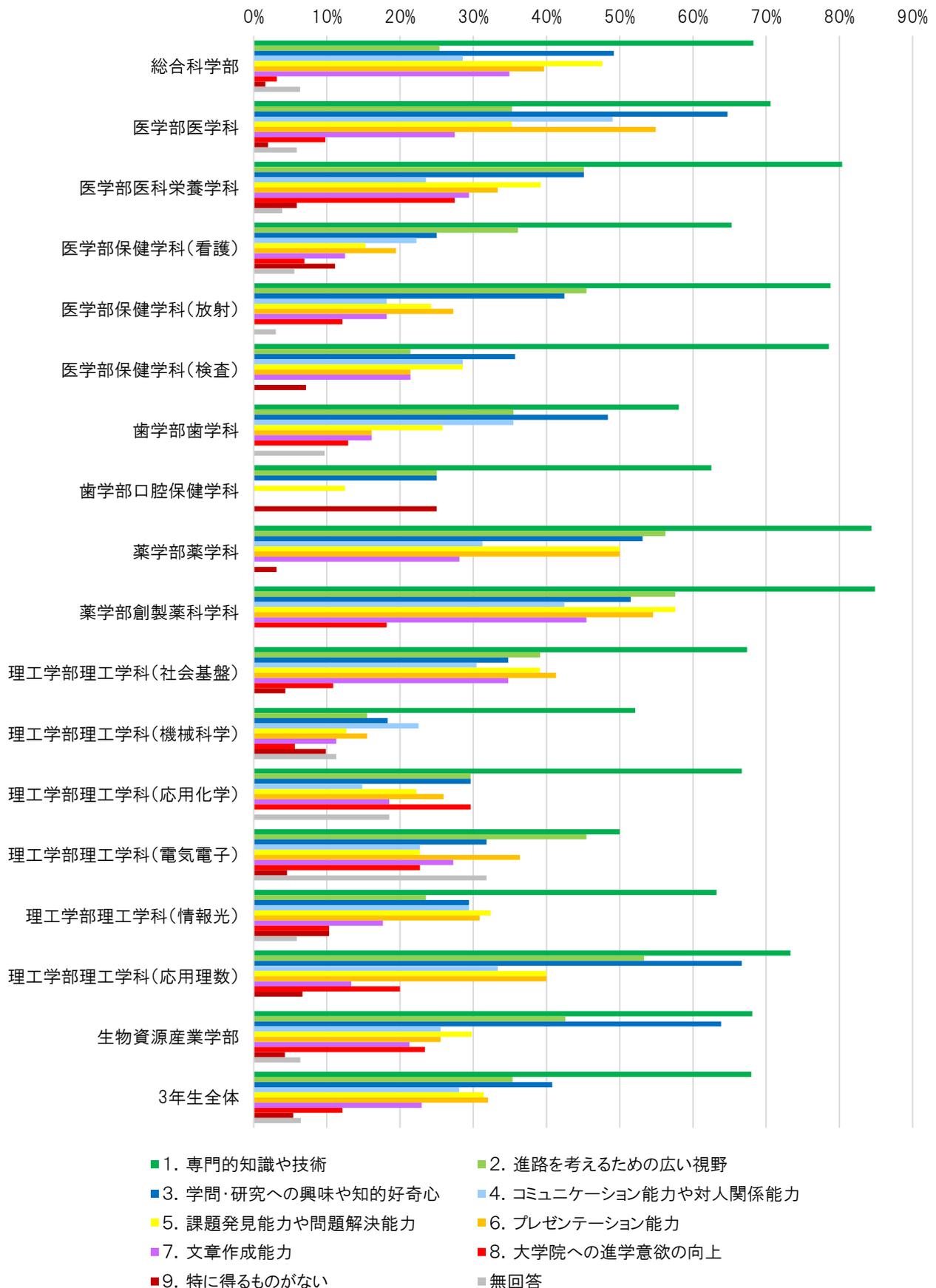


- 1. 毎週確認し、授業の予習・復習に役立っている
- 2. 気になった時に時々確認している
- 3. 初回の授業を受ける前に確認したが、その後はほとんど見ていない
- 4. 授業の選択を考える時に確認したが、その後はほとんど見ていない
- 5. 全く見ていない
- 無回答

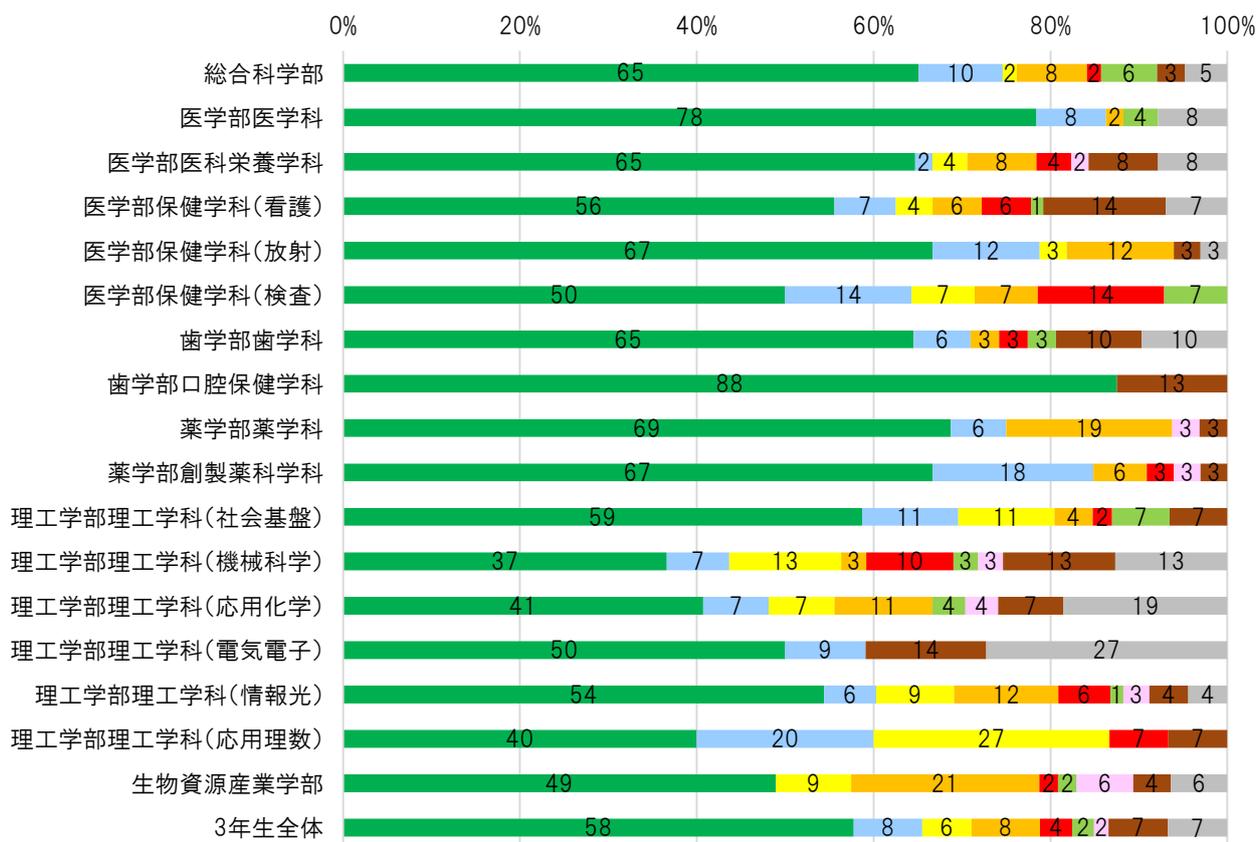
[130]卒業研究、医学研究実習(医学科)、看護研究(保健学科看護学専攻)、研究基礎ゼミ(歯学科)の研究室をどういう基準で決めましたか。(複数回答可)



[131]卒業研究、医学研究実習(医学科)、看護研究(保健学科看護学専攻)、研究基礎ゼミ(歯学科)によって何が得られると思いますか。(複数回答可)

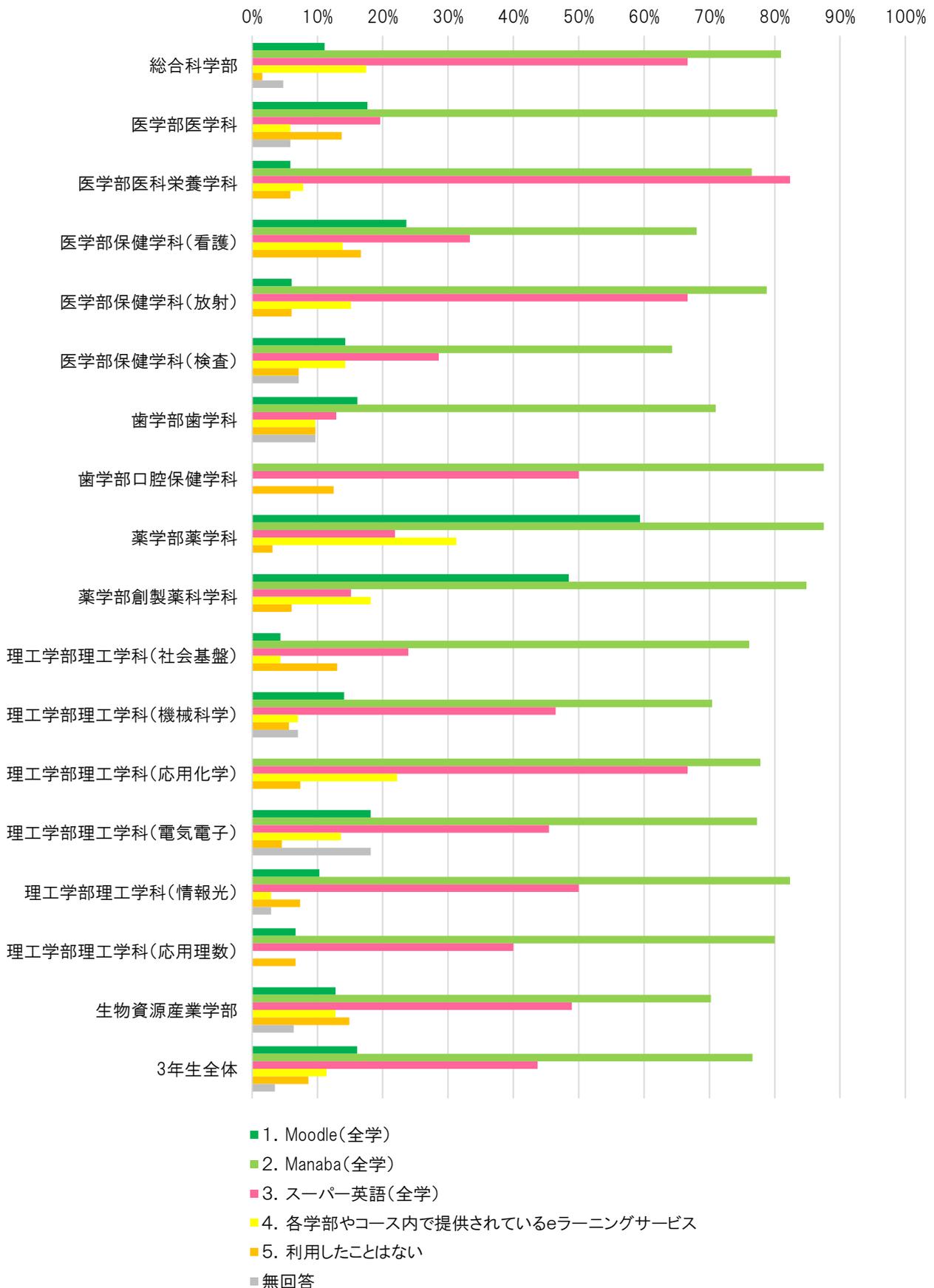


[132]研究を進めるための設備、スペース、物品等は確保されていますか。



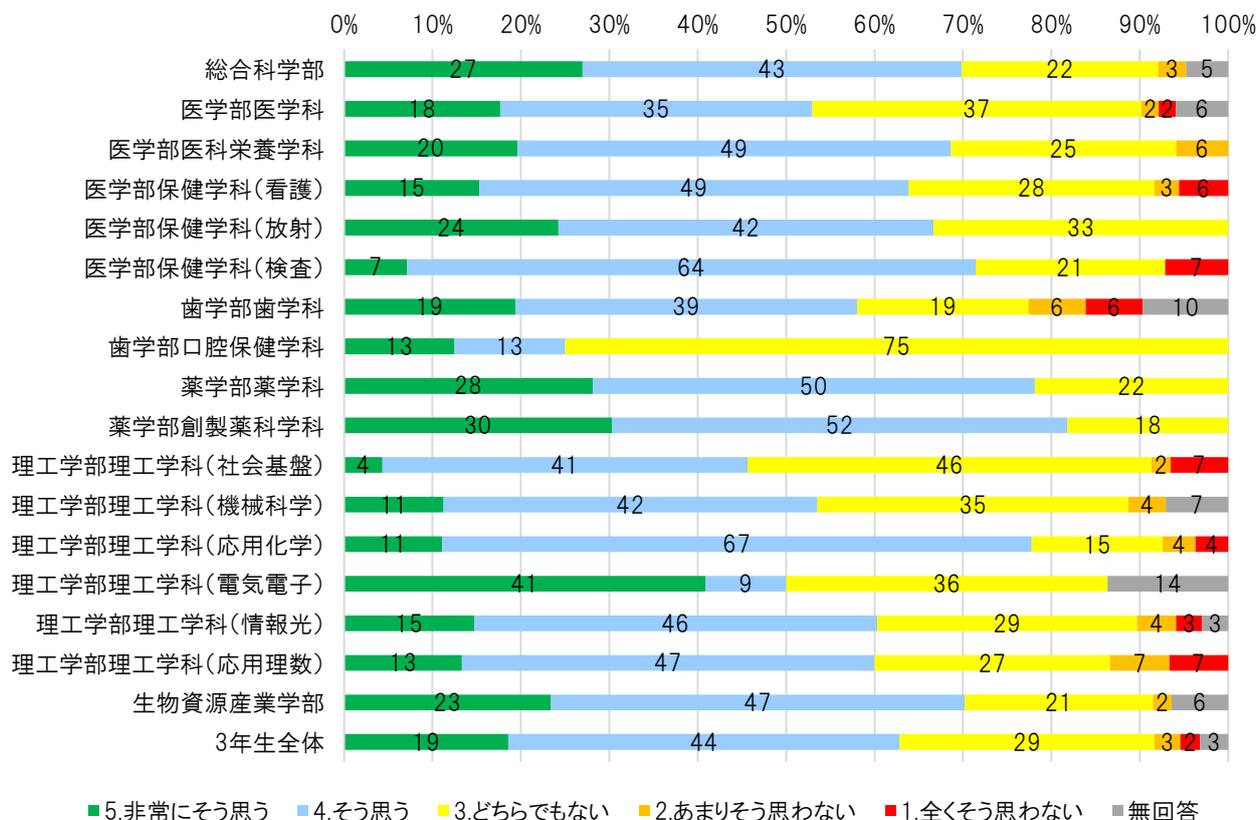
- 1. 設備, スペース, 物品等とも十分である
- 2. 設備, スペースとも十分であるが, 物品等が足りない
- 3. 設備は十分であるが, スペース, 物品等が足りない
- 4. 設備, 物品等は十分であるが, スペースが足りない
- 5. スペースは十分であるが, 設備, 物品等が足りない
- 6. スペース, 物品等は十分であるが, 設備が足りない
- 7. 物品等は足りているが, 設備, スペースが足りない
- 8. 設備, スペース, 物品等すべて足りない
- 無回答

[133]徳島大学のeラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことのある人は以下の項目から利用したことのあるサービスを選んでください(複数選択可)。

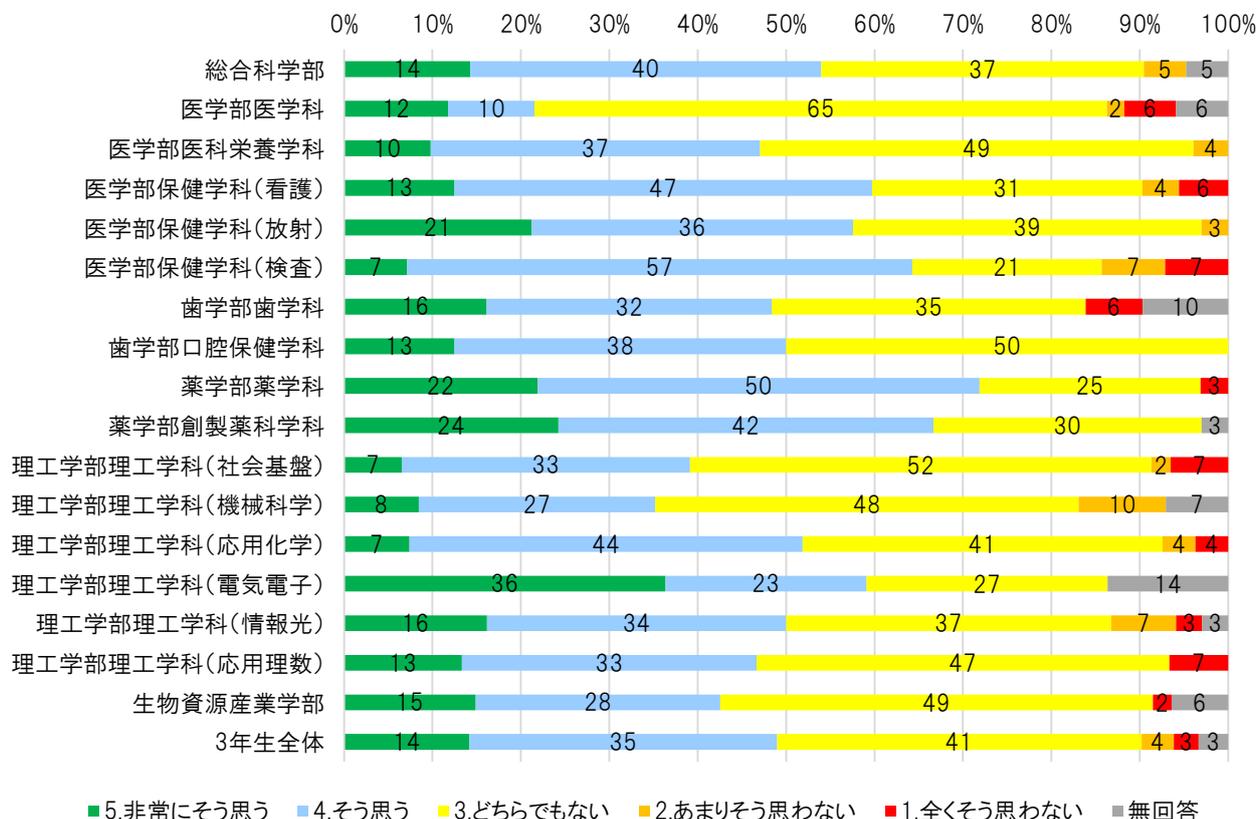


本学では、学生のみなさんに対して、上記のような e ラーニングサービスを提供しています。E ラーニングサービスに関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

[134] 本学のeラーニングサービスは、学修に役立つ

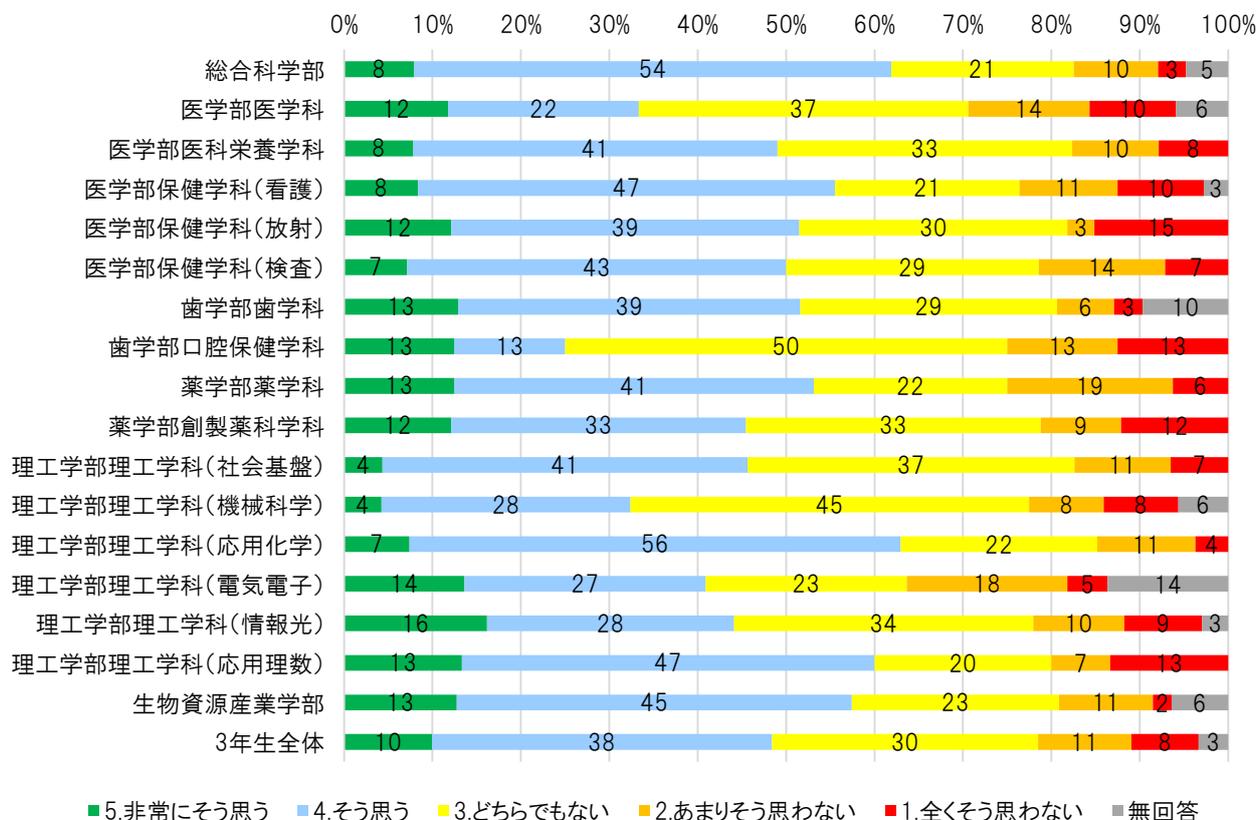


[135] 本学が提供しているようなオンライン学修科目を、今後も増やした方が良いと思うか

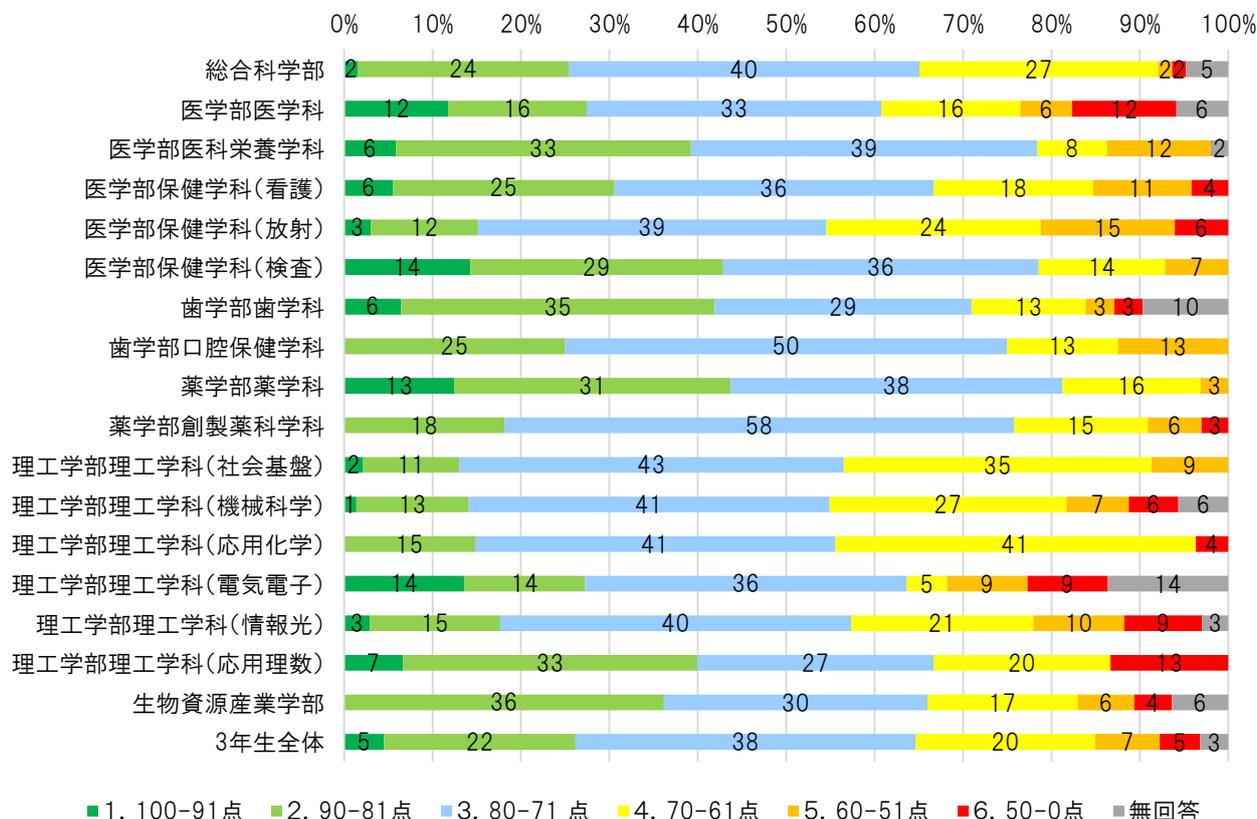


本学では、学生のみなさんに対して、授業の中間期および最後に「授業評価アンケート」をおこなっています。
この「授業評価アンケート」に関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

〔136〕「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である

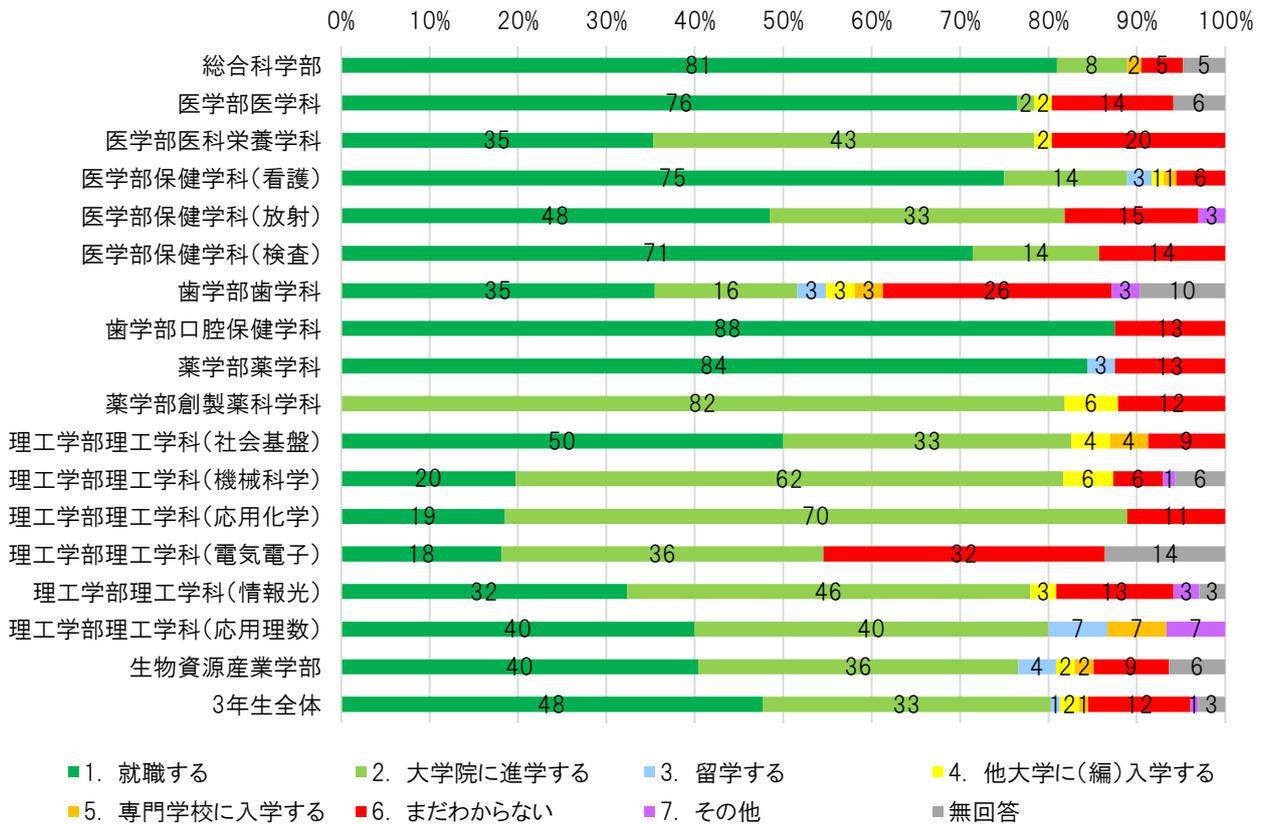


〔137〕大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか。



V. 最後に、将来のことについておうかがいします。

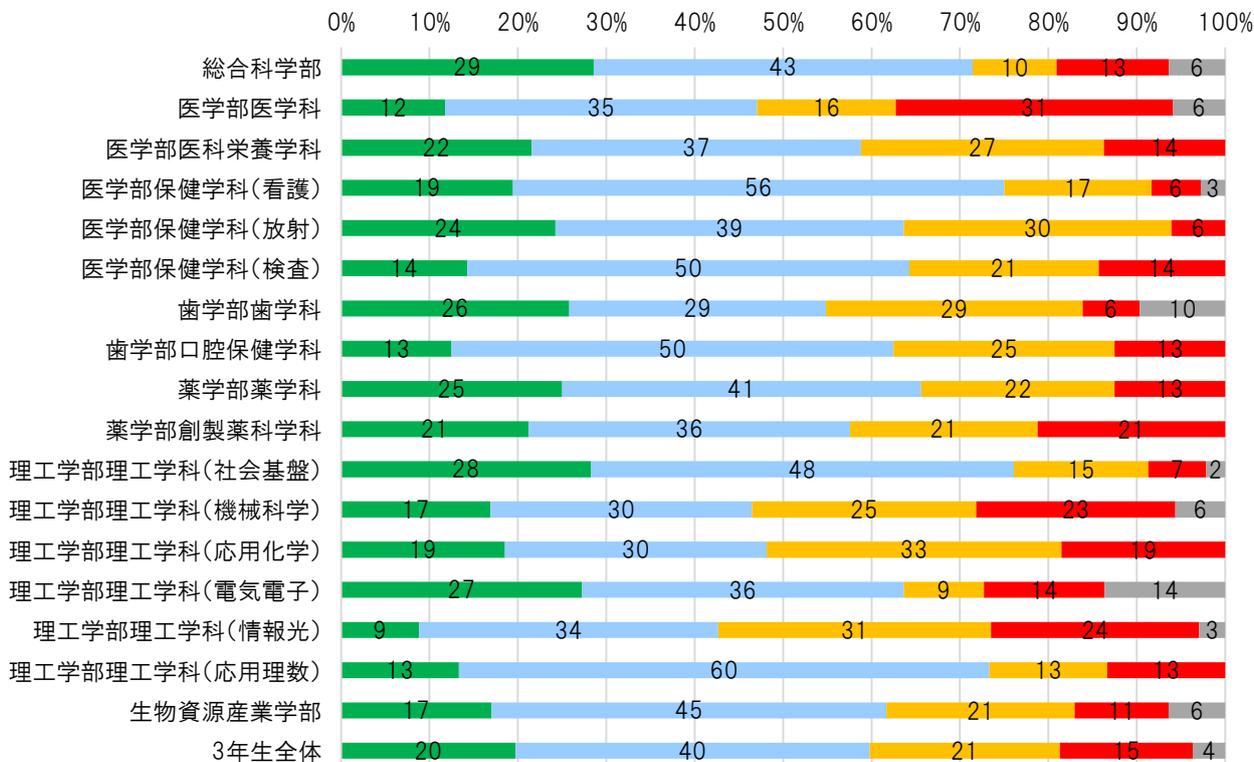
[138]あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。



[139] 将来の見通しに関する以下の2つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

・あなたは、将来の見通し(将来こういう風でありたいという考え)を持っていますか。

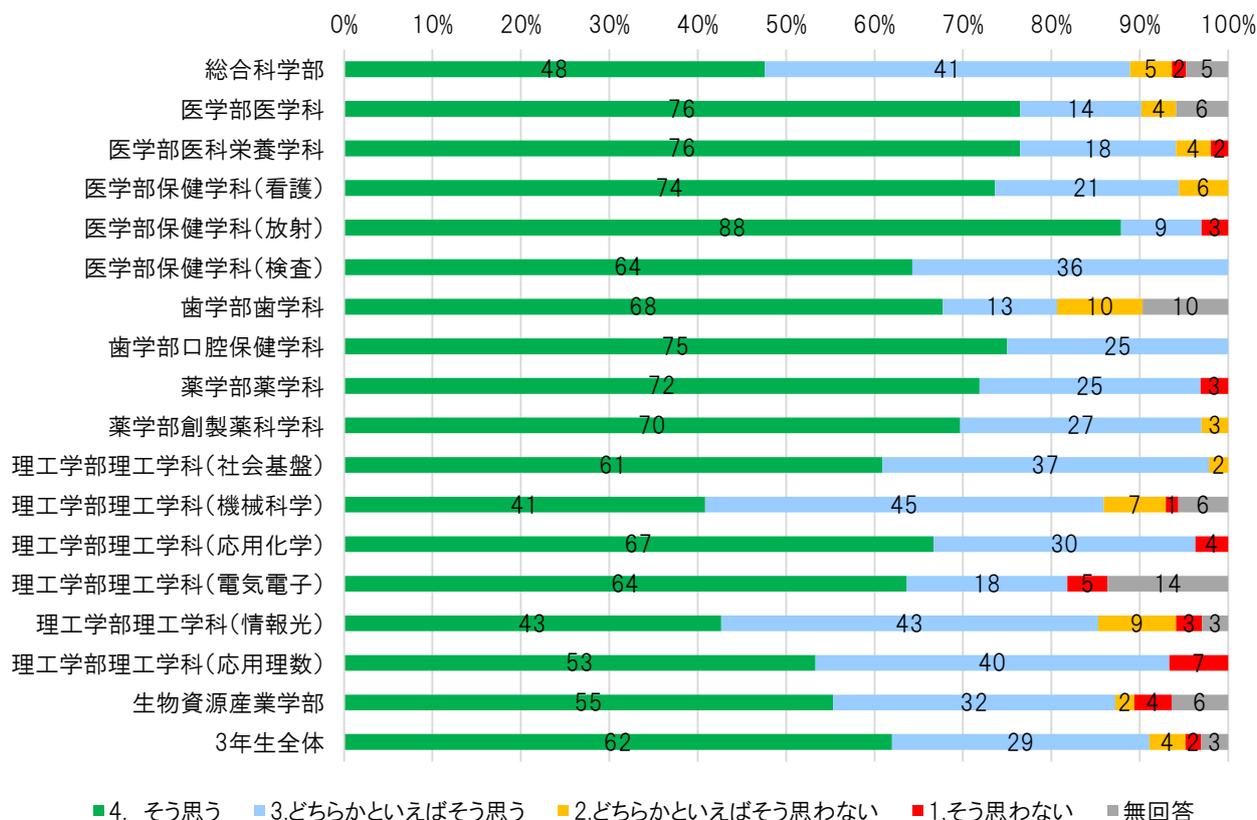
・その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。また、それを実行していますか。



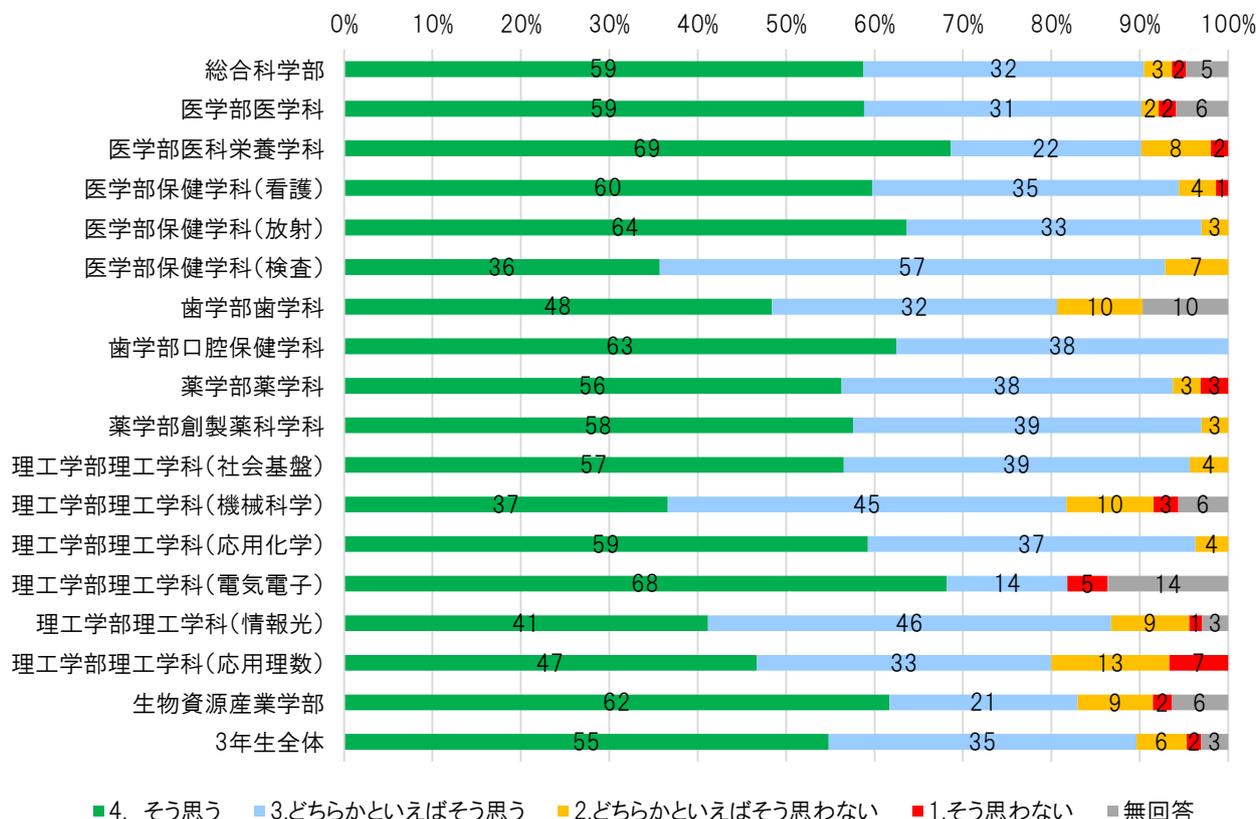
- 1. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているし、実行もしている
- 2. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているが、実行はできていない
- 3. 将来の見通しを持っている+何をすべきかわからない
- 4. 将来の見通しを持っていない
- 無回答

あなたが大学(学部)卒業後の進路の準備をしたり考えたりするために、次のようなことから大学在学中に経験したいと思いますか。

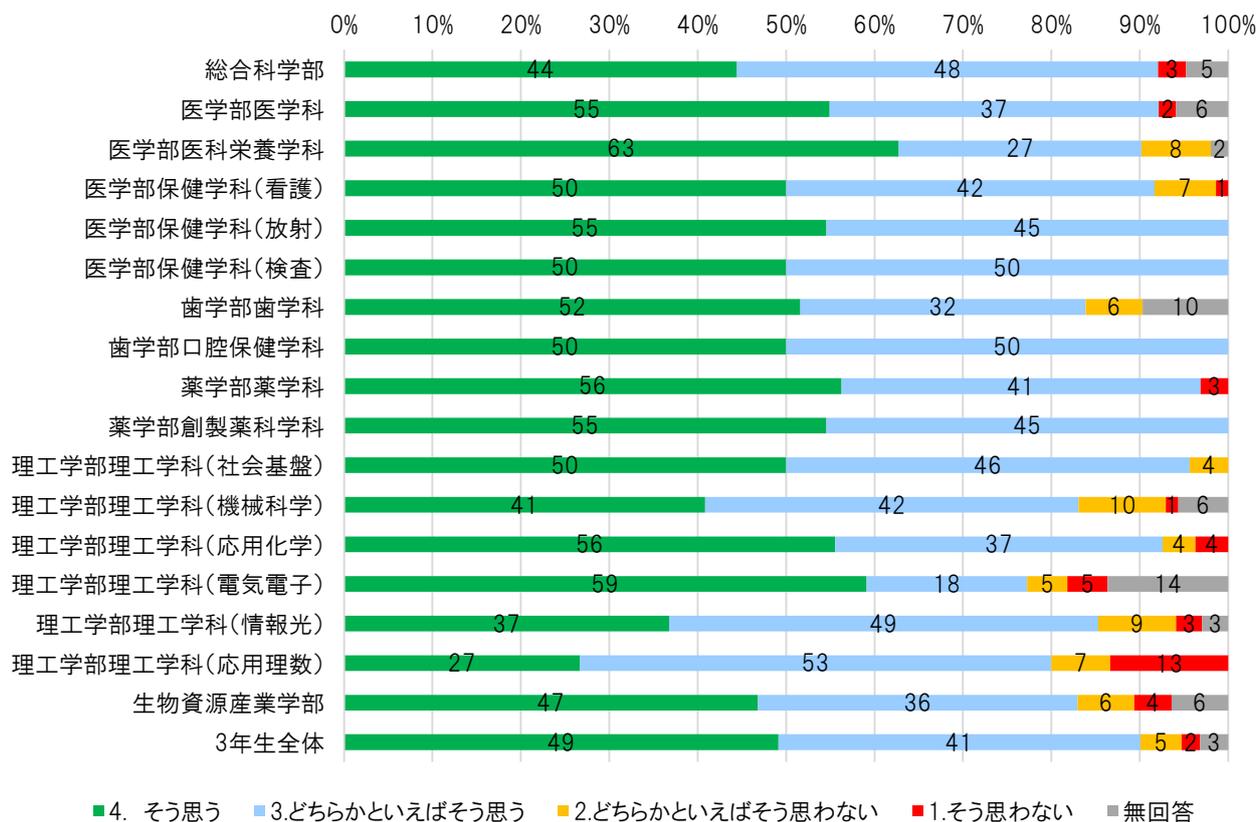
[140] 専門分野をしっかりと身につける



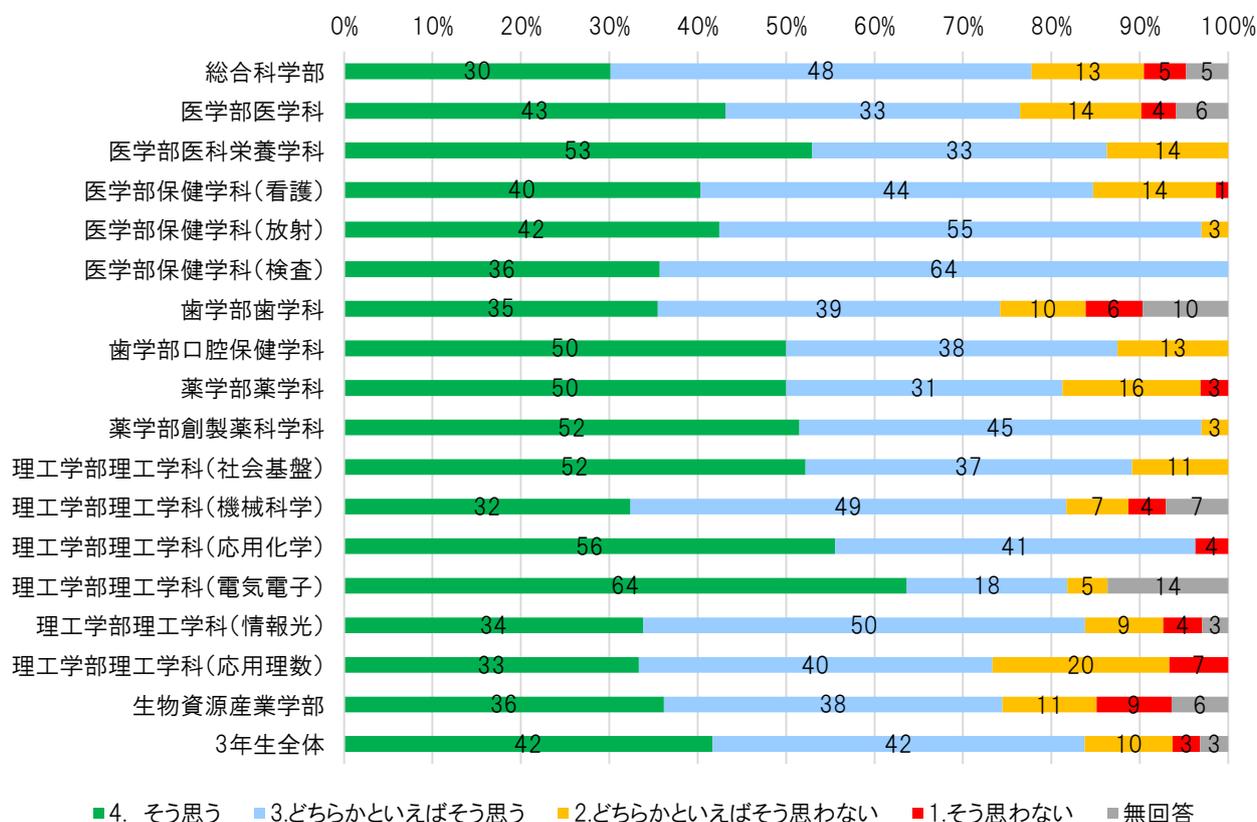
[141] 専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる



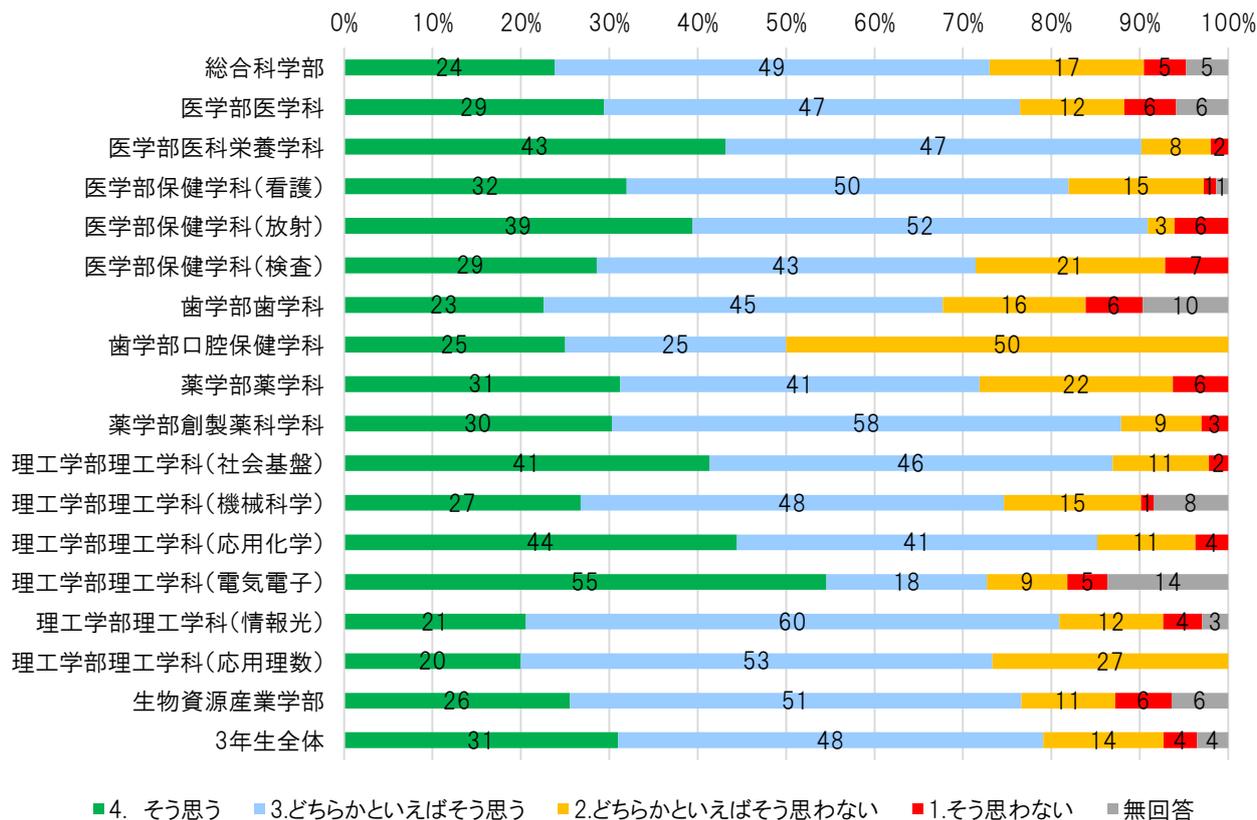
[142]就職意識の形成につながる教育を受ける



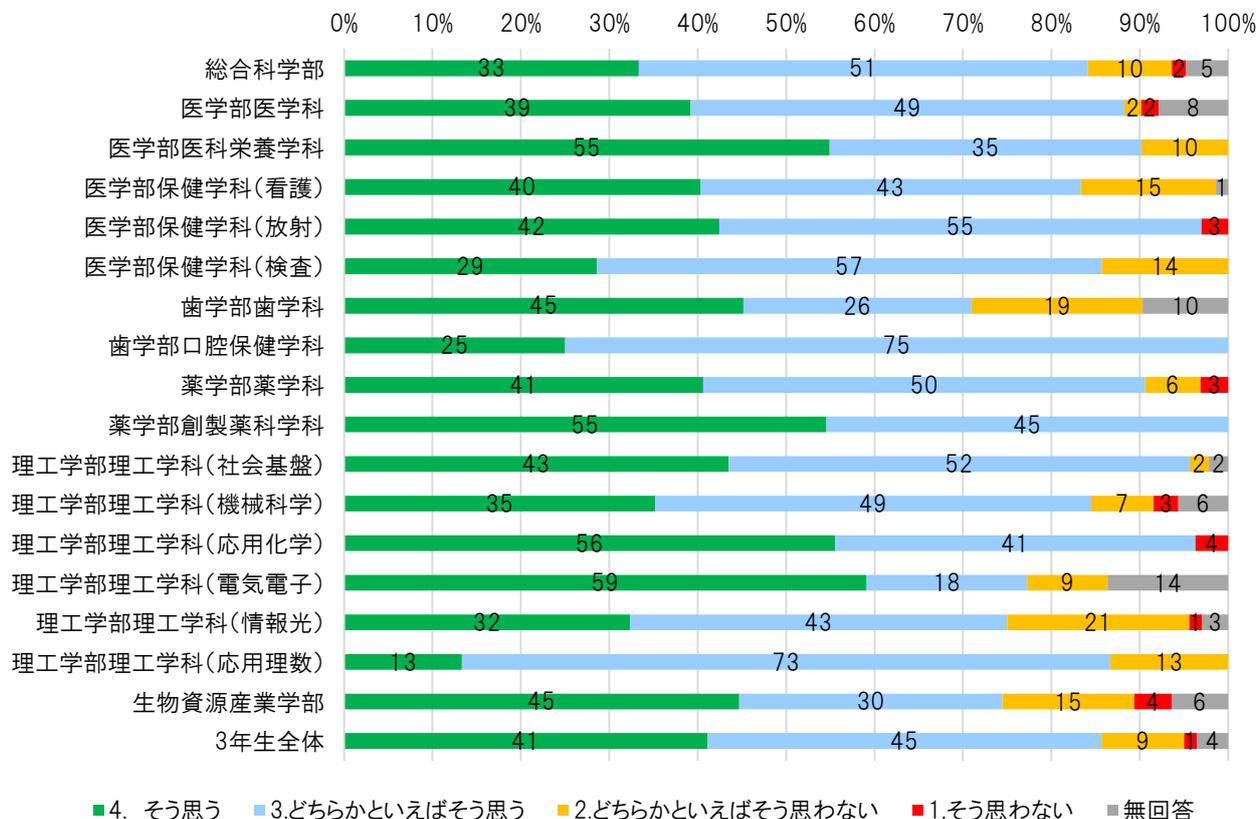
[143]企業での体験学習等を踏まえた上で、専門知識を学ぶ



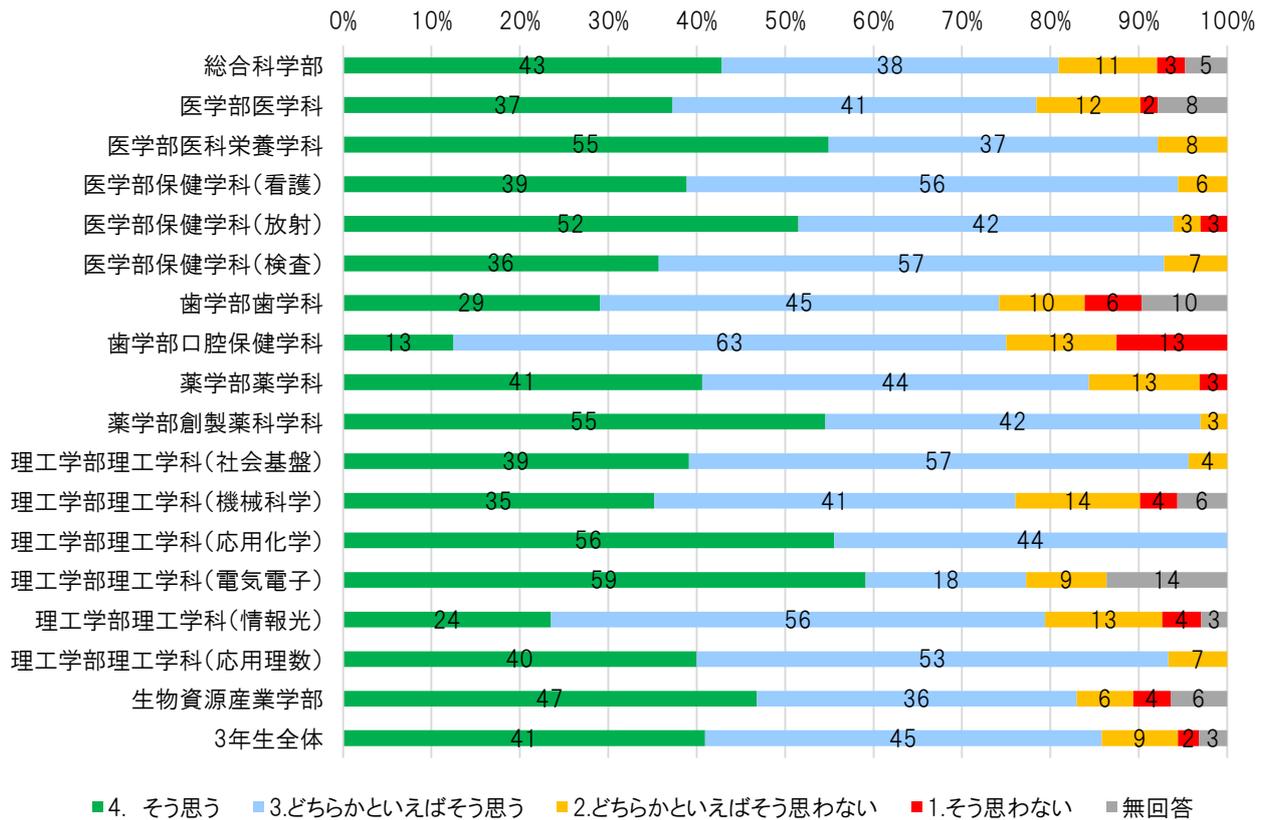
[144] 教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける



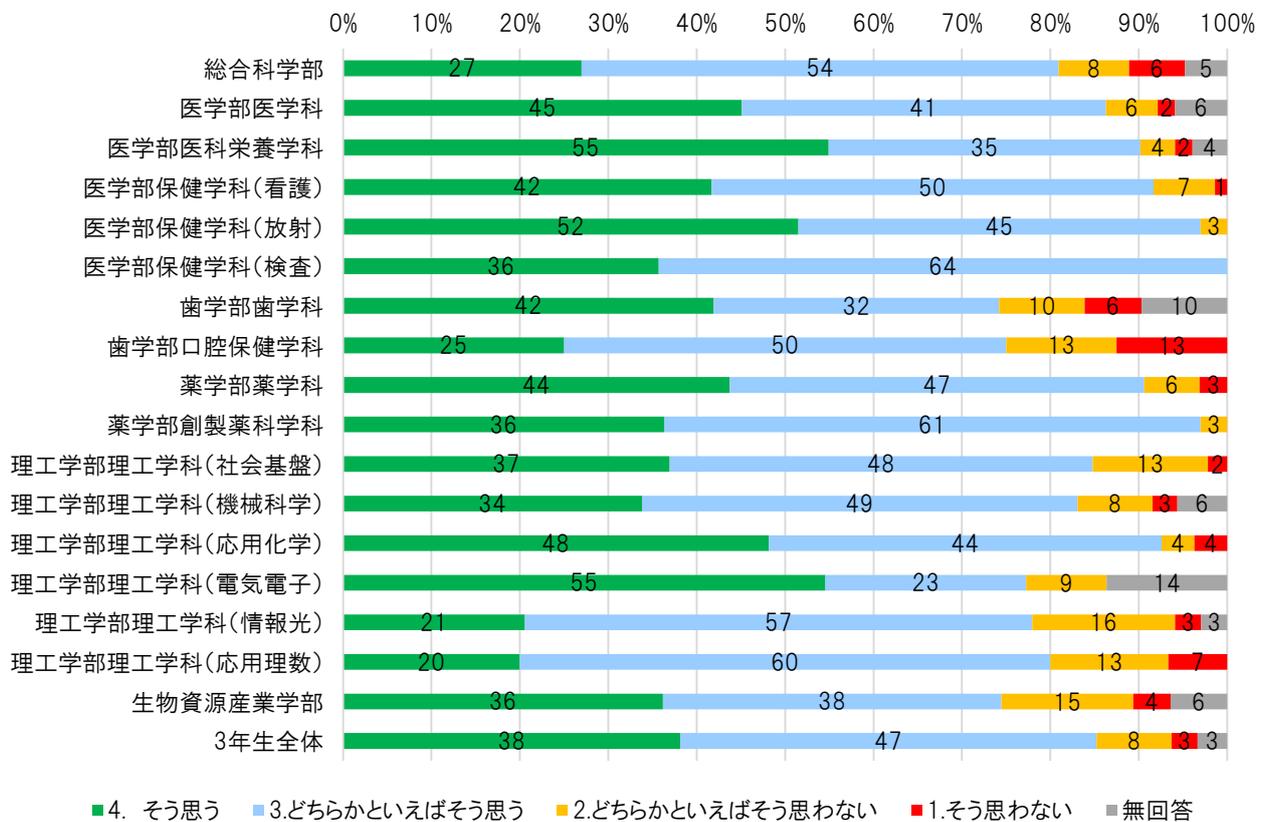
[145] 自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける



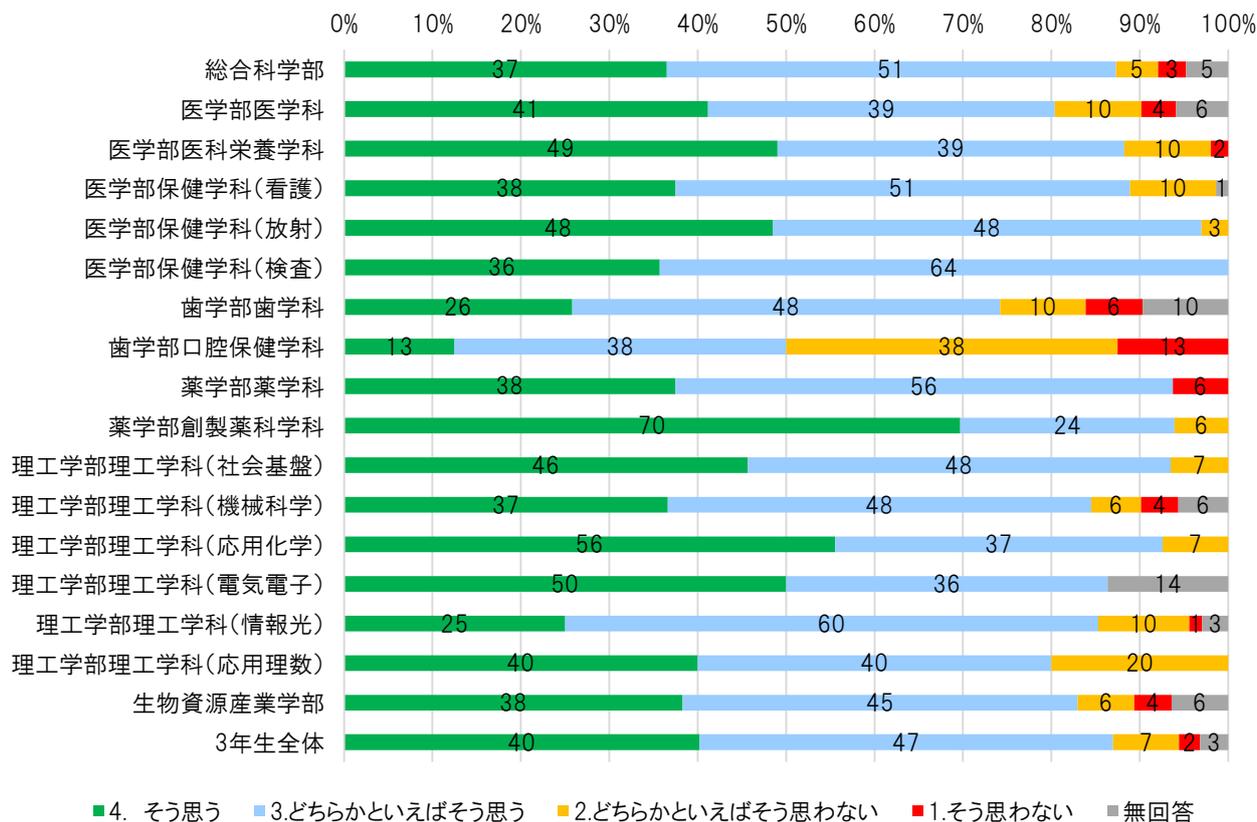
[146]ディベートやプレゼンテーションの訓練を受ける



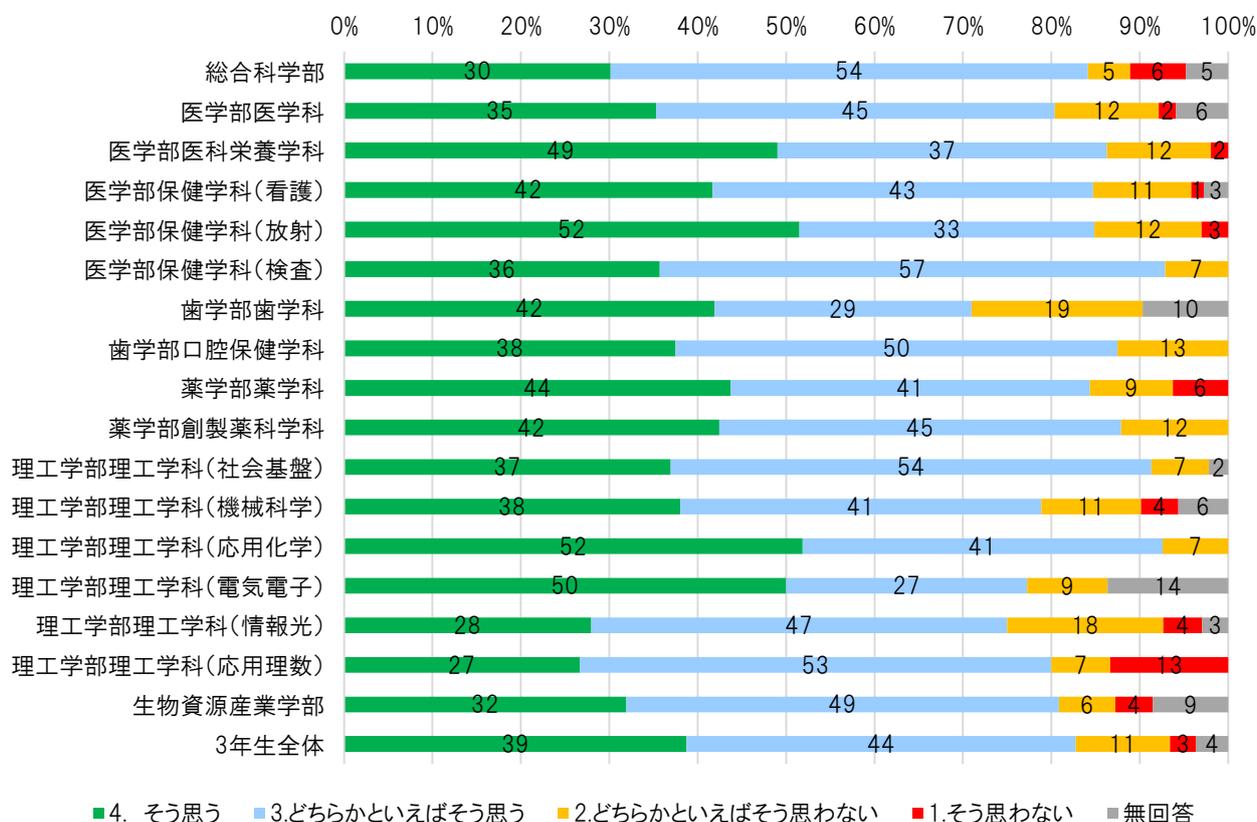
[147]実践的で専門性のある資格を取得するためのプログラムを受ける



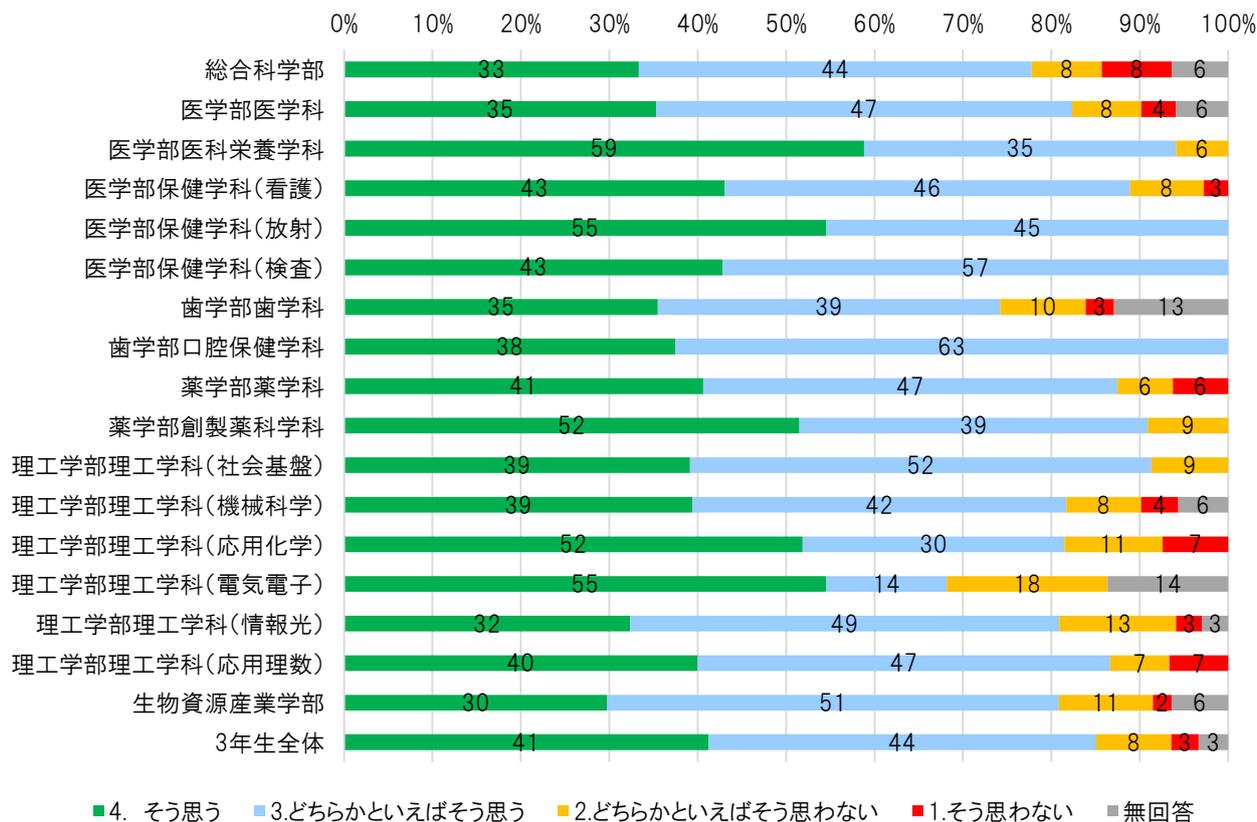
[148]レポートや論文指導により、文章作成能力を高める



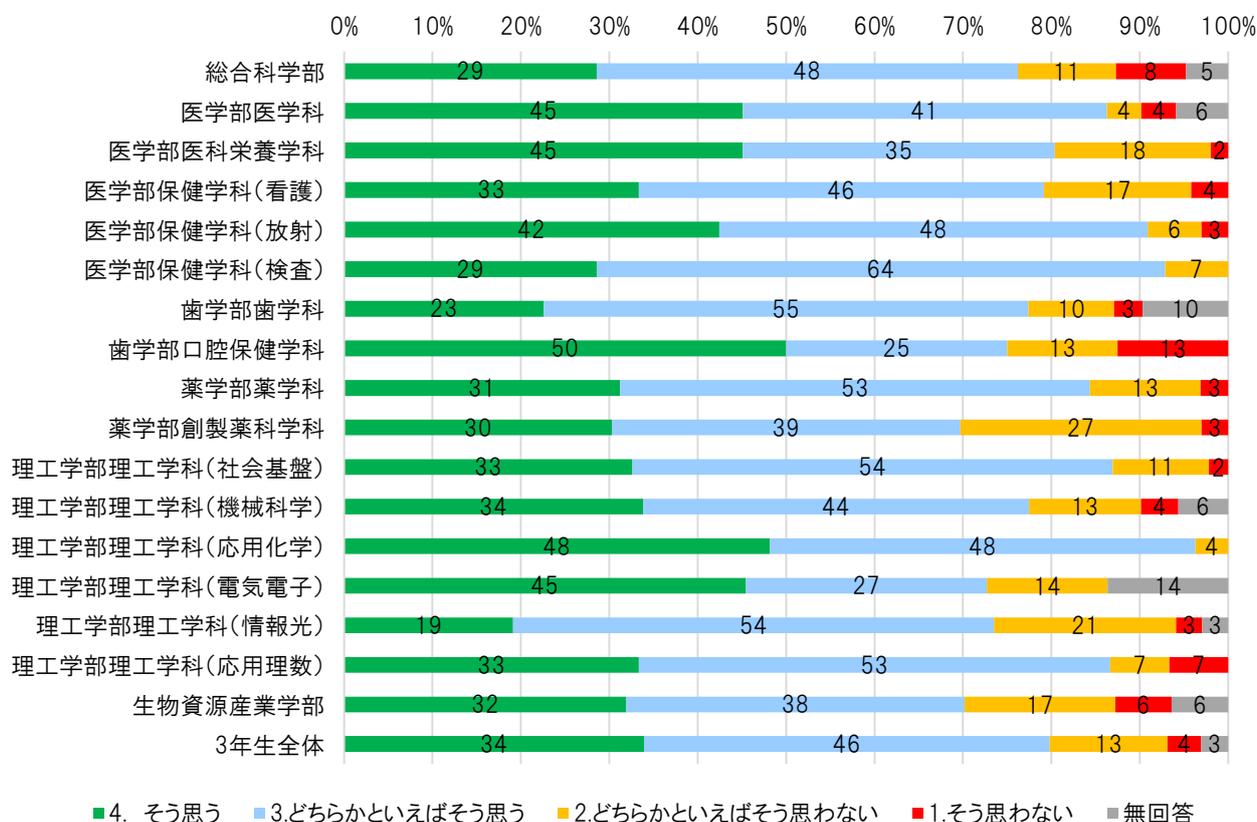
[149]卒業後の進路について、教職員に対して個別に相談する



[150]卒業後の進路について、本学の卒業生や先輩と話をする



[151]本学の教職員以外の大人と話をする



第2章 学部等の現状と課題

1 総合科学部

今回の調査ではアンケート回答率が1年生 54.3%（昨年 56.6%）、3年生 35.4%（昨年 56.8%）であり、3年生の回答率の低さが目立った。今年はコロナウイルス感染症拡大の3年目の年であり、学生・教員ともに遠隔授業の習熟度も上がったと想定されるが、果たして良好な成果を上げることができたのだろうか？

（設問4）「実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ」機会がどれくらいあったかを問うた設問において、体験的な学びの経験が「頻繁にあった」と「ときどきあった」を併せて1年生 27%（昨年度 15%）、3年生 40%（昨年度 52%）であった。我々総合科学部の実践的な学習、地域社会との協働は1年生より徐々に増加する。特に地域創成コースの学生（1学年の内、大体4分の1）はこれらの学習を重視している。この点を踏まえれば、3年生の半数弱の学生が何らかの形で体験的な学びに触れているというのは順当と言えるだろう。

学生自身による文献調査（設問8）や定期的な小テスト・レポートを体験したか（設問9）については、「ひんぱんにあった」と回答した割合は、1年生で3年前の42%から一昨年64%、昨年63%へ、3年生で46%から60%、63%へとコロナウイルスの感染拡大の下で数字を伸ばした後、一定の水準を保っている。これは今回の調査においても1年生61%、3年生同じく70%と前年と同程度または上回る数字を示した。これは遠隔授業導入による日々の課題取り組みが学生に定着していることを表している。「授業をつまらなく感じた」（設問28）ことが「ひんぱんにあった」「ときどきあった」と回答した1年生の割合が一昨年64%、昨年63%、今年度71%と60～70%の間で推移している。

感染症による入構制限の影響としては、図書館の利用（設問20）や部活動への参加（設問38）などにおいて、「あまりなかった」「まったくない」の割合（1年生では、図書館で一昨年33%、昨年42%、今年37%、部活動で一昨年44%、昨年44%、今年44%）と変化はなく。図書館利用の低迷が常態化しつつあるのは問題である。その一方、「授業課題のためにWeb上の情報を利用した」（設問21）、「インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした」（設問22）では、1、3年生ともに一昨年から昨年に増加した傾向をそのまま反映し、今年も9割以上の学生が何らかの形で携わっている。また「授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする」（設問35）では、2時間以下の割合が1年生で前回調査の一昨年約19%から昨年約4%、今年11%へ、3年生でも約30%から約12%へ、更に今年32%へと推移している。自学自習の習慣づけについてはこの2年の傾向は良好なものと評価できる。

一方で人と人とのつながりの希薄化には変化がみられる。これは特に1年生にとって深

刻な問題である。「大学教員と顔見知りになる」(設問 89) は一昨年 21%、昨年 17%の学生が「とてもうまくいった」「いくらかうまくいった」と解答した。今年度は 35%と回復傾向にある。「他の学生との友情を深める」(設問 90) も同様である。「とてもうまくいった」「いくらかうまくいった」は一昨年 51%、昨年 45%、そして今年は 74%である。総合科学部では昨年までの反省を踏まえ、web 懇親会などの企画を設けており、徐々にではあるが成果が出つつあるようだ。「あなたの学生生活は充実していますか」(設問 94) における「充実している」「まあまあ充実している」は一昨年の 49%から昨年 63%、今年度は 85%へと回復した。この改善は、我々の取り組みが奏功した一面とともに、学生個人個人の対応によると考えられる。3年生に関しても 74%の学生が充実感を覚えており、良化が著しい。

授業の在り方に関連した要素としては、以下も注意が必要である。「授業中に学生同士で議論する」(設問 12) では「ひんぱんにあった」「ときどきあった」の回答が1年生で 85%、3年生で同じく 81%であり、前回調査時(86%、86%)と変わらず高い割合を示している。これは各教員がグループワークを積極的に導入したことによるだろう。例年では1年生と3年生で差が大きくなる「授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした」(設問 24) に関しては、1年生は「ひんぱんにあった」「ときどきあった」の回答が一昨年 52%、昨年 52%、今回同じく 65%となっている(3年生は一昨年 61%、昨年 76%、今回 67%)。前述の通り設問 90 に基づく友情の深化は向上しつつあり、授業でのつながりが友人関係に転化しつつあるのか今後も見守りたい。

授業時間外学修についての問い(設問 35) では、1年生では「週 1 時間～5 時間」が一昨年 38%、昨年 49%から 41%と推移した。3年生は一昨年 53%、昨年 61%、今年 61%である。一昨年以降の遠隔授業導入で課題をこなさねばならなくなったのが反映しつつあると考えられる。今後も1年生の段階から授業外学修時間を促す学修指導は重要である。

大学における教育に対する期待(設問 69) や、大学の教育によって獲得が期待できる知識や能力(設問 70) に関して複数回答可で問うた設問について、1年生と3年生ともに「社会で役立つ知識、教養」「人生を支える幅広い教養」に期待する傾向が一致していた。求める知識については1年生、3年生とも「専門的知識」を選ぶ学生が多い。これは高校教育からの変化を学生が感じ取っている結果と言えるだろう。

異文化理解につながる外国語の修得や留学については、総合科学部で特に重視している学修である。語学マイレージ・プログラムが語学能力の向上に果たした影響は確かに感得される。それに関連した一連の問い(設問 76～83) では、聞く、読む、話す、書く技能におけるそれぞれの到達レベルについて、1年生については入学後から後期までの間にわずかながらも概ね上昇をみせている。一方3年生では、一部の学生の成長が看取できるが、英語学習を放棄し到達したレベルの自己評価も低い学生の存在も否定できない。これはコースに

よる違いが主要因と思われる。国際教養コースはTOEIC の点数による4年生進級要件が他のコースより高い為、必然的に多くの時間を英語学習に注がざるをえない。一方、その他のコースはそもそも英語を苦手とする学生が選好する場合もあり、平均をとれば英語能力は低いと言える。コースによっては学年が上がるにつれて英語学習の機会が減少することも事実であり、いかに継続的な学びを実現するかが課題である。

2 医学部医学科

医学部医学科生の学修に対する現状と課題は下記の通りである。

アンケートの回収率について：

医学科のアンケート回収率は1年生55%、3年生41%と低い。コロナの影響で対面授業の制限が続いたことも一因と考えられ、授業以外でも学生に回答を促す仕組みが必要である。同時に、自らの意見が徳島大学の教育改善にむけたPDCAサイクルの一環となっていることを学生自身が理解できるように、目に見える形でのフィードバックが必要である。

大学入学後の学修状況について：

1年生では実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ機会があった(問4)と回答している学生が34%にとどまっている。また、1年生、3年生ともに地域社会が直面する問題を理解する能力(問51)や国民が直面する問題を理解する能力(問52)が増えたと感じている学生が30-40%と少なく、他の人と協力して物事を遂行する能力(問49)、人間関係を構築する能力(問48)、コミュニケーション能力(問55)が増えたと回答している学生も半数程度にとどまっている。医学科でフィールドワークや早期臨床体験としての地域医療学修が不足している状況が反映されていると考えられ、入学後、早い段階から同僚や他の医療職メンバーと信頼関係を築くことができるような実習の機会を増やしていく必要がある。

授業時間以外に課題や予習、復習に11時間以上を費やしている学生は、1年生では42%と他学科よりも多いのに対し(問35)、3年生では24%と減少している。日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出して向上を図っている学生も、1年生、3年生ともに半数程度にとどまっており(問92)、アクティブラーニングの推進と併せて、予習・復習習慣や常に省察する習慣を涵養していくことが必要である。予習・復習時間が絶対的に不足している学生も一定数みられるが(問146)、学習時間の不足の原因はアンケートからは読み取れず、面談などで早い段階からの個別対応が必要と考えられる。

一方、学生自身が文献や資料を調べる機会(問8)や授業中に学生同士が議論をする機会(問12)があったと回答している学生が92%、95%と高く、オンライン授業においても教員

が議論の場を提供する工夫を行ってきた状況がうかがわれる。授業内容を理解できる科目の割合が70%以上と回答した学生が84%に上っており（問18）、遠隔授業に教員も学生も慣れてきたことで、対面授業に劣らない学習効果が得られていると考えられる。

英語の学習状況：

1年生では聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力（問76～80）のいずれの項目も向上が実感されておらず、3年生でも90%以上がBレベルまでの習熟度にとどまっている。教養教育、専門教育で行われる英語教育において、現状では不十分と思っている学生が約6割おり、ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい、専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい、といった希望を持つ学生も多い（問83）。その一方で、英語の勉強を特に何もしていないとの回答が40%を超えており（問81）、受動的な学びの姿勢が浮かび上がる。医学研究実習内での英文論文を用いた実践的な英語教育や、医学英語の充実など、授業の枠組みの中でのカリキュラム整備が必要と考えられる。

大学生活に対する満足度：

将来の仕事と授業内容との結びつき（問100）に「満足」と回答しているものは1年生で68%と高く、SIH道場での基礎臨床早期体験実習など、早い段階から医療への意識付けを行ってきた効果が出ているものと思われる。一方、クラス担任制度に「満足」と応えている学生は1年生、3年生の約1/4にとどまっており（問123）、学生の希望や不安を教員が十分に汲み上げられていない可能性がある。現在、学生の状況を迅速かつ適切に把握できるように、すべての学年を対象にした担任制度・メンター制度の構築をすすめている。授業の全体的な質に対して満足との回答が1年生では60%であるが3年生では41%にとどまる（問98）。他学科に比較して2年生、3年生の授業の過密化が不満の一因と推測され、水平・垂直統合の推進と合わせてカリキュラムの見直しを迅速にすすめる必要がある。

将来のことについて：

大学院進学を希望している学生が1年生で10%（問135）、3年生2%（問138）と少なく、専門医志向と研究離れがより強まっている。Student Lab活動や医学研究実習で研究の魅力を伝えることと並行して、大学院進学インセンティブや学位研究の経験によって修得される能力・資質が医師としてどのように役立つかを繰り返し説明していくことが必要と考えられる。3年生になっても将来に向けて何をすべきかわからない学生が半数近くおり、キャリア形成に対する具体的なアドバイスの継続が必要と思われる。卒業後の進路について教職員に対して個別に相談すると回答している学生が80%にのぼり（問149）、本学の卒業生

や先輩と話をする（問 150）との回答 83%と高いことから、学生が進路に関する情報を求めていることがうかがわれ、低学年から先輩医師によるメンター制度を導入することも有効と考えられる。

3 医学部医科栄養学科

医学部医科栄養学科の学修に関する現状と課題は次の通りである。

アンケートの回収率について：

回答率については、1年生 80.0%、3年生 96.2%である。他学科と比較しても高い回収率である。しかしながら引き続き維持できるように指導（特に学生自らの意見が徳島大学の教育改善につながることを理解させる）していきたい。

大学入学後の学修状況について：

「実験・実習・フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ」（問 4）、「仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ」（問 5）、「学生が自分の考えや研究を発表する」（問 11）、「授業中に学生同士が議論をする」（問 12）について「ひんばんにあった」と回答したものは、それぞれ1年次では 15%、10%、8%、15%であったが、3年次では、69%、59%、31%、10%であった。1年生と3年生の違いは、「仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ」ことを意識しながら専門課程の講義・実習を受けていることが示唆される。

「授業内容の理解の促進につながる方法」（問 19）については、1年生では、課題演習、振り返り、グループワーク、質疑応答を挙げており、3年生では、課題演習、グループワーク、振り返りを挙げている。1年次では、自分の考え・研究を発表することや、議論をする機会が少ないが、専門課程の教育では、演習や実習などが増えることが、そのような機会の増加に寄与している。「授業時間外の授業課題や準備学習、復習をする時間」についても、1週間あたり 11 時間以上と回答したものは1年次で 16%に対し、3年次では 28%であった（問 35）。3年次では、専門課程における講義・実習課題が多いことによると示唆される。

「授業課題のために Web 上の情報を利用した」ことが「ひんばんにあった」とするものは、1年次で 60%、3年次では 69%であり（問 21）、いずれも半数以上を占めており「情報の活用と情報倫理」について理解して活用しているか問う必要性があると思われる。

教員との関係性：

「教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした」（問 30）、「大学の教職員に将来のキャリアの相談をした」（問 32）、「オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する」（問 37）といった項目に関して利用頻度が低い。しかしながら、1年次に比べ3年次では頻度が増加しており、学年が進むにつれ専門科目の学習や進路について教員に相談する機会を求めていることがうかがえる。「キャリアカウンセリング」（問 122）、

「クラス担任制度」(問 123) や「教員と話をする機会」(問 101) についても 1 年生および 3 年生ともに満足度は低い。上記の内容については、教職員・学生のいずれもが対応に慣れてきており、令和 2 年度、令和 3 年度と比較して少しずつ改善されている傾向が認められるが、対面で接する重要性が再認識される。

入学後に変化した能力や知識に関して：

「専門分野や学科の知識」(問 44)、「コンピュータの操作能力」(問 58) の項目で 1 年次および 3 年次の 9 割程度の学生が増えたと回答している。「分析力や問題解決能力」(問 43)、「プレゼンテーションの能力」(問 56)、「卒業後に就職するための準備の度合い」(問 61) については、1 年次と比較して 3 年次の学生で増えたと回答した者が大幅に増加している。これは、専門教育の効果によるものと考えられる。一方で、「外国語の運用能力」(問 54) は 1 年次よりも 3 年次で増えたと回答した者が半減しており、外国語に関する教育の継続が課題である。

英語の学習状況に関して：

1 年次では「聞く力」、「読む力」、「会話力」、「表現力」、「書く」(問 76~80) のいずれも、入学前と現在で概ね自己評価は変わっていないが、3 年次では 1 年次と比べて概ね大きく低下している。昨年の調査でも同様の傾向であったため、学年が進むにつれて自己評価が低下する傾向にある。徳島大学における英語教育については、いずれの学年においても「教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である」(問 83) と回答している割合が半数と最も多い。これまで 3 年次では「専門教育の英語の時間を増やしてほしい」と回答しているものが 1 年次よりもかなり多い傾向があった。令和 2 年度入学者からは「栄養英語」が必修になっており、本アンケートに回答している 3 年生が最初の学年である。その結果、令和 4 年度においては「専門教育の英語の時間を増やしてほしい」と同程度に「専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やしてほしい」の割合が増加していた。引き続き推移を観察するとともに、講義内容についても検討したい。

大学生活に対する考えや満足度に関して：

おおむねうまくいっているとの回答が多かった。しかしながら、「現在の自分の学修時間や学修態度に満足している」(問 93)、「SIH 道場の授業」(問 96)、「教員と話をする機会」(問 101)、「学習支援や個別の学習指導」(問 102) といった項目で満足度が低いのは今後の課題と思われる。特に、1 年次でこれらの項目の満足度が低い。「SIH 道場で学んだ内容」(問 110) では、「他者と協同して学習や活動に取り組むこと」がもっとも役に立つと回答しており、高く評価されている。

本学の施設や学生支援制度に関して：

「レクリエーション施設」(問 121)、「キャリアカウンセリング」(問 122) といった項目

で満足度が大きく過半数を割っていた。「カリキュラムマップ」(問 127) や「ナンバリング」(問 128) について「知っており、見たことがある」と回答した者は、1 年次で 63%と 40%、3 年次では 51%と 27%といずれも前回調査よりも大幅に増加していた。昨年度の周知対策の効果の現れであると示唆される。引き続き周知活動を行いたい。卒業研究に関しては、研究を進めるための設備、スペース、物品等ともに十分だと評価している学生は 65%であった。「eラーニングサービスは、学修に役立っている」とするものが 1 年次で 66% (問 131)、3 年次で 69% (問 134) であった。

大学教育全体の満足度:

1 年次は 100% (問 134)、3 年次は 86% (問 137) の学生が 61 点以上をつけていた。「学部卒業後の進路」については、1 年次の調査では 48%が就職、35%が進学であったが (問 135)、3 年次の調査では 35%が就職、43%が進学であった (問 138)。学年が進むにつれて、進路が明確になってきている様子が見えてくる。ここ数年進学者減少傾向であったが、令和 3 年度の調査よりも 10%以上増加が認められた。引き続き、注視したい。

4 医学部保健学科

保健学科学生の学修に関する現状と課題は次の通りである。

将来の仕事と授業内容の結びつきに対して「とても満足」「満足」と答えた学科平均の割合は、1 年生で 85%、3 年生で 82%と全学平均の約 6 割と比べて比較的高い (設問 100)。大学教育に対して、学生の多くは「社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能」や「資格取得に必要な知識など」が得られることに期待し (設問 69)、大学で獲得を期待する知識・能力は、第一に「専門的知識」、次に「一般知識・教養」「コミュニケーション能力」の割合が高い (設問 70)。専門的学問だけでなく、教養や汎用的技能の修得に期待していることがわかる。実際、入学した時点と比べて大きく増えたと自己評価している能力や知識を 3 年生の回答でみる (設問 42~68) と、特徴的に、看護学専攻では「リーダーシップの能力」「人間関係を構築する能力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「コミュニケーションの能力」「職業人・社会の一員として求められる倫理観」「生涯学び続け、教養・専門性を高める能力」「必要な情報を収集・取捨選択する能力」「新しいことに積極的に挑戦する姿勢」「ストレスに対処する能力」「柔軟に発想し、表現する能力」、放射線技術科学専攻では「専門分野や学科の知識」「コミュニケーションの能力」「数理的な能力」「コンピュータの操作能力」「生涯学び続け、教養・専門性を高める能力」「データを読み、理解し、活用する能力」、検査技術科学専攻では「他の人と協力して物事を遂行する能力」「プレゼンテーションの能力」「数理的な能力」「データを読み、理解し、活用する能力」が全学の平均より高い割合 (大きく増えたと回答した割合が全学平均の 1.3 倍以上) を示している。

専門教育科目の授業内容の難易度が適切と答えた3年次学生は、看護学専攻 75%、放射線技術科学専攻 85%、検査技術科学専攻 79%であり、放射線技術科学専攻は全学の 78%より高い傾向にある（設問 113）。難易度に関して特に問題は無いと考えられる。一方で、看護学専攻では、授業内容の水準をもっと高度にすべき、と答えた学生の割合が 19%、放射線技術科学専攻では、もっと易くすべき、との回答割合が 15%と高い（全学の平均は共に 9%）。さらに、放射線技術科学専攻において、授業内容が理解できる科目の割合が 60%未満と回答した学生数が 21%と従来の調査と比べても大幅に高くなっている（設問 18）。放射線技術科学専攻においては、授業内容の難易度に関する回答結果との整合性を含め、教育プログラム評価委員会での分析や学生との個別の面談等を通して状況を把握する必要がある。授業内容の理解促進につながった授業方法として「課題演習」「振り返り」を挙げた学生が多い（設問 19）。特徴的に、看護学専攻では「グループワーク」、検査技術科学専攻では「質疑応答」が高い割合になっている。アクティブ型授業を導入することで理解度を高める効果があることを明確に示している。「将来の見通しを持ち、何をすべきかわかっている」と答えた1年次と3年次の学生はそれぞれ6割と7割で、全学より共に1割程度高い特徴を持つ（それぞれ、設問 136 と設問 139）。最近数年間の調査結果と同様である。幅広い学修の促進を目的として、専門性を志向した学修方法を入学直後に提示し、将来像をイメージした「学修設計」の立案を指導している。学修計画に沿った学修ができるよう継続的に指導と支援を行っており、取り組みの浸透結果が現れている。

授業時間外において、授業課題や準備学習・復習を6時間以上実施したのは、1年生では 39～50%（前回と前々回 24～44%、3年前 7～19%）、3年生では 33～63%（前回と前々回 28～63%、3年前 35～47%）（設問 35）、授業に関連しない勉強を1時間以上行ったのは、1年生では 23～42%（前回と前々回 20～44%、3年前 13～17%）、3年生では 32～42%（前回と前々回 26～56%、3年前 18～44%）（設問 36）に留まっている。大学生としての必要な学習時間の確保はまだ不十分である。ただし、前々回と前回の調査でコロナ禍以前と比べて学習時間が増加した傾向が今回の調査でも維持しているのは、遠隔授業により在宅時間が長くなったことが一因と考えられる。一方で、現在の自分の学修時間や学修態度に満足していない学生の割合は、1年生で 26～61%（前回 21～36%、前々回 28～55%）、3年生で 7～27%（前回 38～44%、前々回 17～31%）（設問 93）あり、自発的な学修意欲を高める適切な指導が効果的であろう。シラバスを毎週または気になったときに確認している3年次学生は 5～6割のみであり、ほとんどまたは全く見ていない学生が多い（設問 129）。毎回の授業の予習・復習や自学自習の指示をシラバスに明示して初回の授業で説明するなど、シラバスを教育改善に活用する工夫が求められる。

「SIH 道場」で学んだ内容のうち、在学中の学修に役立っている項目は、看護学専攻と検

査技術科学専攻では「文章の書き方」、放射線技術科学専攻では「専門分野の体験学習」が最も多く役立ったと回答している（3年生:設問110）。期待通りの項目が挙げられている。SIH 道場で実施している取り組みについては在学中だけではなく卒業後調査を通じた効果の検証も必要であろう。

英語の学修では、大学で実施している英語教育で十分であると考えている保健学科学生が多い傾向にある（設問83）。語学マイレージ・プログラムの導入による効果もあり、TOEFL受験対策の定期的な勉強などで英語学習を習慣付けたり（設問81）、スーパー英語などのeラーニングサービスを利用したりしている1年次学生が以前よりは増えている（設問130）が、英語学習方法の周知や学習相談を促す対応も必要であろう。

大学教育全体の満足度は全学の平均とほぼ同じであり、学生は教育に概ね満足していると考えられる（設問134、137）が、上述の個別の課題を解決させるなど、更なる学修活動の充実と教育課程・方法の改善を進める必要がある。

5 歯学部

はじめに：

昨年度と今年度の本調査において、2021年度の回答率は歯学科1年生68.4%、3年生92.9%、口腔保健学科歯学部1年生100%、3年生100%であり、2022年度の回答率は歯学科1年生67.6%、3年生77.5%、口腔保健学科歯学部1年生86.7%、3年生53.3%であった。今年度は、昨年度に比べて回答率が低かった。昨年度に比べて、本年度は新型コロナウイルス感染症の流行の影響は軽減したと考えられるが、対面講義・実習の制限や課外活動の停止など、学生とのコミュニケーションが取りづらい状況であったことや昨年度に比べてアンケート回答に対する指導ができてなかったことから、昨年度より回答率が減少したと考えられる。毎年、アンケート回答における指導は継続して行うべきと考えられる。

歯学部歯学科は、これまでが1年半の教養課程を経て、2年後期から3年後期までが基礎医学教育、5年前期までが臨床医学教育と基礎実習、そしてこれらが修了した時点で共用試験を受験し、5年後期から臨床実習、卒前に国家試験という流れであるが、今年度入学生から新カリキュラムがスタートし、1年間の教養課程を経て、2年前期から3年前期までが基礎医学教育、4年後期までが臨床医学教育と基礎実習、そしてこれらが修了した時点で共用試験を受験し、5年前期から臨床実習、卒前に国家試験を受験するというカリキュラムに変更された。したがって、1年生は新カリキュラム、3年生が旧カリキュラムで、3年生は本アンケートの時点では、まだ基礎医学教育が終わった段階で、将来的な展望がまだ見えていない段階にいる。一方、口腔保健学科は1年次に教養教育を終えるが、すでに基礎医学教育も後期から始まっており、2年次からは臨床教育や基礎実習も本格的に始まり、3年後期に

は臨床実習に出ている。この両学科の課程の差は、今回のアンケートでも大きく影響していると感じられた。

学習状況：

「10. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する」において、〔1年次：歯学科 56%・口腔保健学科 54%、3年次：歯学科 84%・口腔保健学科 75%〕と歯学部専門課程に進学した学生において高い値を示している。教養教育に比較して、学部専門教育ではよりきめこまやかな教育が実施されていることに加えて、学生定員が少ないことも有利に表れていると推察する。引き続きこれを維持していきたい。また、「12. 授業中に学生同士が議論する」が〔1年次：歯学科 56%・口腔保健学科 69%、3年次：歯学科 71%・口腔保健学科 88%〕と学部専門教育において高い値を示している。そして、「18. 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか」については、その閾値を60%とすれば、〔1年次：歯学科 84%・口腔保健学科 100%、3年次：歯学科 90%・口腔保健学科 100%〕で高い値を示している。「19. あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。」において、“課題演習”、次いで“振り返り”を上げており、この傾向は他の学部と類似している。今後は、様々なスタイルの講義形態を増やし、工夫していく必要があると感じられた。

大学の授業や授業外での経験：

「20. 授業課題のための図書館利用」は〔1年次：歯学科 60%・口腔保健学科 38%、3年次：歯学科 58%・口腔保健学科 51%〕の利用傾向である。「21. Web上の情報の利用」については共に全学の結果同様に高い値を示した。「22. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした」に関しては、〔1年次：歯学科 92%・口腔保健学科 100%、3年次：歯学科 94%・口腔保健学科 88%〕とmanabaなどのシステムが活用されていることが反映されている。また、「33. 教員に親近感を感じた」では、〔1年次：歯学科 32%・口腔保健学科 31%、3年次：歯学科 71%・口腔保健学科 63%〕と専門課程で高い値を示し、歯学部の教育プログラムでは、少人数であることで教員と学生の距離が近いことが要因であり、今後も教員と学生の距離感が近いことを教育に活かしていきたいと考える。そのような中で「28. 授業をつまらなく感じた」では〔1年次：歯学科 64%・口腔保健学科 69%、3年次：歯学科 61%・口腔保健学科 88%〕と専門課程においてもつまらなく感じている学生がおり、学生のモチベーションの維持や授業の工夫について改善を要すると考えられる。

1週間に費やす活動時間：

「35. 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする」に関しては6時間以上とした場

合で、〔1年次：歯学科 64%・口腔保健学科 0%、3年次：歯学科 32%・口腔保健学科 64%〕であるが、3時間以上では、〔1年次：歯学科 80%・口腔保健学科 62%、3年次：歯学科 64%・口腔保健学科 89%〕と、昨年度に比べて改善し、課題等で授業時間以外の学習時間が増えているように思われる。

「38. 部活動や同好会に参加する」は、3時間以上とすると〔1年次：歯学科 76%・口腔保健学科 61%、3年次：歯学科 61%・口腔保健学科 0%〕となっており学年が進むと、講義・実習が密になり、時間がとれてないことが影響していると考えられる。特に、歯科衛生士と社会福祉士の2つの資格取得を目指す口腔保健学科では、課外活動を行う時間的余裕がないと考えられ、カリキュラムの見直しなども見据える必要性を感じる。その他、アルバイト、読書や趣味の活動に関しては際立った特徴は認められない。

能力・知識の変化：

「42. 一般的な教養」について増えたと答えたのは〔1年次：歯学科 40%・口腔保健学科 62%、3年次：歯学科 84%・口腔保健学科 100%〕、「44. 専門分野や学科の知識」についても増えたと答えたのは〔1年次：歯学科 60%・口腔保健学科 100%、3年次：歯学科 90%・口腔保健学科 100%〕となっており、専門過程においては昨年度より高い値を示している。歯学科1年生のスコアが低いため、SIH道場を含めた教養教育の見直しをはかり、教育プログラムの充実が必要と思われる。「43. 分析力や問題解決能力」が増えたと答えた学生は、〔1年次：歯学科 36%・口腔保健学科 38%、3年次：歯学科 64%・口腔保健学科 88%〕で、1年次より3年次で向上している。両学科ともに、問題解決型の教育プログラムが組み立てられており、その効果が現れていると考える。また、「45. 批判的に考える能力」が増えたという学生は〔1年次：歯学科 60%・口腔保健学科 31%、3年次：歯学科 71%・口腔保健学科 100%〕と昨年度より大幅に高くなっている。

「47. リーダーシップの能力」が増えたのは〔1年次：歯学科 24%・口腔保健学科 8%、3年次：歯学科 42%・口腔保健学科 26%〕で他学部に比べてやや低い。高学年にむけて、リーダーシップの能力の向上が図れる教育プログラムの充実が必要である。「48. 人間関係を構築する能力」〔1年次：歯学科 64%・口腔保健学科 38%、3年次：歯学科 65%・口腔保健学科 50%〕、「49. 他の人と協力して物事を遂行する能力」〔1年次：歯学科 60%・口腔保健学科 46%、3年次：歯学科 65%・口腔保健学科 75%〕も同様な傾向を示し、高学年に向けてこれら能力のさらなる向上が必要である。「50. 異文化の人々と協力する能力」〔1年次：歯学科 28%・口腔保健学科 15%、3年次：歯学科 45%・口腔保健学科 25%〕、「51. 地域社会が直面する問題を理解する能力」〔1年次：歯学科 28%・口腔保健学科 31%、3年次：歯学科 42%・口腔保健学科 63%〕、「52. 国民が直面する問題を理解する能力」〔1年次：歯学科 32%・口腔保健学科

23%、3年次：歯学科 45%・口腔保健学科 38%] は、コロナ禍の状況でフィールドワークや外国人との交流が困難であることや人とのコミュニケーションが難しいこともあり、低い水準になっている。

「53. 文章表現の能力」、「54. 外国語の運用能力」、「55. コミュニケーションの能力」、「56. プレゼンテーションの能力」、「57. 数理的な能力」、「58. コンピュータの操作能力」においても増えたと答えた学生の割合が他学部よりやや低かった。これら能力の改善については、今後対策を講じる必要がある。「61. 卒業後に就職するための準備の度合い」に関しては〔1年次：歯学科 24%・口腔保健学科 15%、3年次：歯学科 55%・口腔保健学科 63%〕となっており、教育プログラム中での学生の置かれた卒業や就職までの残り時間の差が反映されている。

「63. 生涯学び続け、教養・専門性を高める能力」に関しては、1年次に比べて3年次に格段に向上しており、本学部において、学生たちは職能および資格獲得を目指していることが反映されている。実際に、「70. 大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力」において“専門知識”が圧倒的に上位になっている。

英語の学習状況：

英語能力に関しては、聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力のいずれにおいても、ある一定の力（設問でB1以上：留学などが困難でない程度かと考えるレベル）を有する学生の割合は、入学後、3年次とやや向上している。マイレージ・プログラムや専門過程における英語教育の効果が少しずつ現れているのではないかと推測する。しかしながら、「81. どのように、英語の勉強を行っていますか」に対して、〔特に何もしていない〕と回答する学生が多く、英語学習に時間をとることが難しいことが窺える。また、82. の設問にある渡航経験では〔1年次：歯学科 48%・口腔保健学科 92%、3年次：歯学科 55%・口腔保健学科 100%〕と、経験の少ない学生が多く、これは語学能力と密接に関連している。そのためか、「83. 徳島大学における英語の授業についてどう思いますか」の答えに、〔教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である〕が筆頭になっている。将来、歯科医師あるいは歯科衛生士を目指す学生に、将来の英語能力の必要性を十分に理解してもらう努力が必要と考える。その方策として、卒後に大学院進学から海外への進出などの歯学部教員の事例を示すことや留学生との交流、外国人研究者の講演や招聘など、留学や海外赴任などキャリアパスの多様さを提示するとともに、交換プログラムや留学生との交流など、外国人との交流機会を増やすように今後努めたい。

大学生活に対するあなたの考えや満足度：

「84. 大学の学生向けサービスを上手に利用する」、「85. 大学教員の学問的な期待を理解

する」、「86. 効果的に学習する技能を修得する」、「87. 大学が求める水準に応じて学習する」、「88. 時間を効果的に使う」においては、総じて全学平均的な値を示している。前述のとおり、歯学部の人材数の影響もあり、「89. 大学教員と顔見知りになる」は〔1年次：歯学科 48%・口腔保健学科 31%、3年次：歯学科 84%・口腔保健学科 50%〕と特に専門課程に進んでから高い値を示している。

大学に入学してから：

「93. 現在の自分の学修時間や学修態度に満足している」〔1年次：歯学科 44%・口腔保健学科 23%、3年次：歯学科 58%・口腔保健学科 38%〕学生は、あまり多くない。しかしながら、「91. 自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる」〔1年次：歯学科 56%・口腔保健学科 77%、3年次：歯学科 78%・口腔保健学科 63%〕学生は比較的多く、学修時間や学修態度の向上につながるような教育を実践していく必要がある。また、「94. あなたの学生生活は充実していますか」において、〔1年次：歯学科 80%・口腔保健学科 85%、3年次：歯学科 81%・口腔保健学科 63%〕と高く、今後も充実した生活が送れると実感できる教育プログラムをブラッシュアップし、継続していく必要がある。

本学の教育内容・環境への満足度：

「95. 共通教育あるいは教養教育の授業」に対しては満足と答えたものが、〔1年次：歯学科 36%・口腔保健学科 62%、3年次：歯学科 49%・口腔保健学科 63%（60%が無回答）〕と全学の平均よりやや低いレベルである。また「96. 1年次 SIH 道場」〔1年次：歯学科 64%・口腔保健学科 62%、3年次：歯学科 52%・口腔保健学科 13%〕、「97. 初年次生を対象とした教育プログラム内容」〔1年次：歯学科 32%・口腔保健学科 15%、3年次：歯学科 55%・口腔保健学科 13%〕の満足度も同様な傾向である。「98. 授業の全体的な質」は〔1年次：歯学科 36%・口腔保健学科 46%、3年次：歯学科 68%・口腔保健学科 38%〕で、授業の質の向上は今後の重要な課題と考える。実際に、「102. 学習支援や個別の学習指導」は〔1年次：歯学科 32%・口腔保健学科 16%、3年次：歯学科 54%・口腔保健学科 26%〕となっており、不満と回答する学生は少ないが、満足と回答する学生が低く、今後は、上述の授業の質の向上も含めて満足度を向上させる工夫も必要と考える。

SIH 道場に関しては、「110. 「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目」では、〔専門分野の体験学習〕や〔文章（レポート）の書き方〕が目立っている。一方「111. 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができますか」とは〔専門の知識を身に付けるのに役立った〕と回答する学生が圧倒的に多い。

「112. 教養教育科目の授業内容の難易度についてどう思いますか」では、適切と答えたも

のが、〔1年次：歯学科 48%・口腔保健学科 85%、3年次：歯学科 58%・口腔保健学科 88%〕となっており、歯学科ではより易しいものを求める傾向がある。また、「113. 専門教育科目の授業内容の難易度についてどう思いますか」では、適切と答えたものが、〔1年次：歯学科 80%・口腔保健学科 92%、3年次：歯学科 71%・口腔保健学科 100%〕となっており、専門教育の難易度は適切と感じる学生が大半である。専門教育では、モデルコアカリキュラムに準拠し、教育を行っていることもその要因と考える。

本学の設備や学生支援制度への満足度：

「114. 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）」に対しては〔1年次：歯学科 80%・口腔保健学科 92%、3年次：歯学科 68%・口腔保健学科 51%〕が満足と回答しており、不満と考える学生がほとんどいないことから、まずまずの評価をされていると考えられる。これは蔵本地区で最も図書館を利用しやすい位置に校舎が位置し利用も多いことが反映していると思われる。

「115. 実験室の設備や器具」においては、とても満足～どちらでもないが〔1年次：歯学科 84%・口腔保健学科 92%、3年次：歯学科 80%・口腔保健学科 100%〕となっており、歯学部改修工事も終了し、問題は少ないと考える。「116. コンピュータの施設や設備」や「117. コンピュータの訓練や援助」、「118. インターネットの使いやすさ」についても同様に満足度が高い。「120. 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）」についてもほとんどの学生に不満を訴えるものがない。

カリキュラムマップや科目ナンバリングに関しては知らない学生が4割程度おり、継続して周知していく必要がある。また、「129. シラバス」については、おおよそ個々の必要に応じて活用されているが、初回しか見ていない学生もいる。しかしながら、各教員によりかなり詳細な予定表が提示されているので問題はないと考える。「130、131. 3年次の基礎ゼミ（歯学科）、卒業研究（口腔保健学科）」については、各学生が〔関心の深い研究内容であった〕、〔将来のやりたい仕事や進路に必要と思った〕といった理由で進路を選択しており、〔専門的知識や技術〕、〔学問・研究への興味や知的好奇心〕を得ることができると考えている。今後も充実を図り、継続していきたい。

授業評価アンケート・卒後進路：

「133（1年生）. 136（3年生）. 授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である」に対して、思わないと答えたのは、〔1年次：歯学科 12%・口腔保健学科 8%、3年次：歯学科 9%・口腔保健学科 26%〕であった。尚「134（1年生）. 137（3年生）. 大学教育全体の満足度に評点を付けた場合 61 点以上」とした割合は、〔1年次：歯学科 80%・口腔保

健学科 83%、3年次：歯学科 83%・口腔保健学科 88%〕と高い評価を得ている。

「135（1年生）・138（3年生）・卒後の進路」として、「就職する」が〔3年次：歯学科 35%・口腔保健学科 88%〕であり、「大学院に進学する」は〔3年次：歯学科 16%・口腔保健学科 0%〕、「留学する」が〔3年次：歯学科 3%・口腔保健学科 0%〕であり、将来の研究者になるような進路を目指す学生も少数ながらいると考えられる。今後の歯学研究への貢献も考え、次世代の歯学研究者の養成は喫緊の課題と考える。在学中に望む教育としては、「140（3年生）・専門分野をしっかり身につける」、「141（3年生）・専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる」、「142（3年生）・就職意識の形成につながる教育を受ける」といったところの割合が高い。今後は、将来大学院に進学し、教育・研究を目指す人材を育成することに力を入れる必要がある。

6 薬学部

薬学部生の学修に関する現状と課題は以下のとおりである。

1) 対象学生

薬学部では、平成30年度より学科別募集となり、令和3年度より薬学科のみの募集となった。今回の調査対象である1年生は薬学科一本化の第2期生であり、3年生は学科別入学の第3期生（最終年度）である。両者のカリキュラムは大きく異なっており、残念ながら3年生のアンケート結果から得られる課題やその解決策を次年度学生にそのまま適応することは困難である。また、コロナ禍の中で行われた調査結果でもあり、次年度1年生への対応に関しても、アフターコロナを意識した配慮と工夫が必要であろうと考えている。したがって、アンケートの結果の解釈と課題の抽出には未だ注意が必要である。

2) 大学入学後の学修状況

1年生において、「授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する」〔問6〕機会が頻繁にあったと答えた学生は、時々を含めれば93%と、昨年の94%と遜色がなかった。また、「定期的に小テストやレポートが課される」〔問9〕機会が頻繁にあったと回答している学生の割合については時々を含めれば100%であり、昨年度の77%から大幅に増加した。また、「教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する」〔問10〕も時々を含めると93%であり、昨年の85%から比べると増加していた。学生と教員の距離感が近づいているように感じられる。また「学生が自分の考えや研究を発表する〔問11：80%〕」「授業中に学生同士が議論する〔問12：83%〕」と大幅に増えており、2020年度以来の新型コロナウイルス感染症の影響からの脱却が感じられる。

また3年生においても上記の問6、問9～12間について時々を含めれば高い傾向がみら

れ、特に創製薬科学科において高かった。これは学科の性格としてより能動性が求められるからであると考えられた。

履修登録について、1年生において、「取りたい授業を履修登録できなかった」と回答した学生は〔問 15：3%〕であり、非常に多かった令和2年度の21%、昨年度の8%と比べて漸次改善してきた。入学時ガイダンスを通じた学部としての啓蒙や、教養教育院による履修方法の見直しやサポートなどが功を奏したものと考えている。

授業内容の理解について、問 19 の授業内容の理解促進には、昨年度同様に1年生、3年生ともに課題演習を挙げている。これはレポート提出が増えたことに起因しているものと考えられた。今回の結果は1年生では、グループワークや課題解決型の授業である『コアDDS 講義』、『研究体験演習』を対面で行ったことに起因しているものと考えられる。また、新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けていた問 38 や問 39 の部活やアルバイトに費やす時間が回復傾向にあった。

3) 入学後に身に付けた能力や知識

1年生において、問 42 の「一般的な教養」において、入学後に大きく増えたと回答している項目が昨年度の8%から10%に若干増加した。問 45 の「批判的に考える能力」に関しても「大きく増えた」の割合が5%から7%に若干増加した。問 47 の「リーダーシップの能力」は、1年生は「大きく増えた」が8%から3%に減少した。3年生では薬学科で6%、創製薬科学科でも6%とあまり変わらなかった。また問 57 の「数理的な能力」に関しても、1年生は4%、3年生でも薬学科で6%、創製薬科学科で3%とあまり変わらなかった。3年生での改善が特に顕著だった項目が問 56 「プレゼンテーションの能力」であるが、創製薬科学科3年生は4月から研究室配属され卒業研究を開始しており、この影響が顕著に表れたものと考えられる。

4) 英語の学習状況

英語に関しては例年と同様に、そのレベルは、学年があがるにつれて低くなる傾向が見られる。大学からの働きかけや、少人数での英語教育やネイティブスピーカーの教員による、継続的な授業を通じて改善していく必要がある。また、1年生において、「教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である」〔問 83〕と回答する学生が最も多いが、「ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい」、「もっと授業数を増やしてほしい」、「もっと少人数のクラスにしてほしい」、「専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やしてほしい」という学生もそれぞれ10%程度存在している。3年次から卒業研究が開始されることもあり、英語に対する高い意識づけがなされているように思われる。既に卒業研究が開始されている3年生については、薬学科では「専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やしてほしい」が16%程度と高く、一方「専門教育の英語のライティングに重点

を置いた授業を増やしてほしい」と選択したものはいなかった。これに対して創製薬科学科3年生では「専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やしてほしい」が6%程度であり、「専門教育の英語のライティングに重点を置いた授業を増やしてほしい」が12%程度と高かった。薬学科学生は薬剤師として働く場合の外国人とのコミュニケーションの必要を意識しており、一方創製薬学科では学术论文を発表することを意識しているため、このような傾向があらわれたものと考えられる。

5) 大学生活に対する考えや満足度

1年生では、「効果的に学習する技能を修得すること」〔問86〕、大学が求める水準に応じて学習すること〔問87〕が「とてもうまくいった」又は「いくらかうまくいった」と回答した学生が7割を越えており、自分の学習状況について満足している学生が多かった。3年生では、問86、問87は1年生と、ほぼ同等であったが、どちらかという創製薬科学科の学生で改善傾向がみられた。

また、「現在の自分の学修時間や学修態度に満足している」〔問93〕であるが、1年生は「非常にそう思う」が7%であり、「そう思う」と回答した学生は31%と、昨年度と同値であった。否定的な回答をした学生は、振り返ってみた時、もう少しやりようがあったのではないかという反省も含まれているように思われる。3年生では、肯定的な回答をした学生が、薬51%に対して、創製では45%であり、昨年度と比べて若干減少したが、ほぼ同等であった。一方で、「学生生活は充実しているか」〔問94〕に「充実している」と回答した学生が1年生、3年生に限らず多い傾向がみられ、コロナ禍を経て従来の学生生活（課外活動やアルバイトなど）が活発になったことを反映したものと考えられる。また、「教員と話す機会」〔問101〕、「他の学生と話す機会」〔問103〕、「大学のなかでの学生同士の一体感」〔問104〕、「多様な考え方を認め合う雰囲気」〔問105〕など他学部と比べて高い傾向にあり、このことが高い充実度に反映しているのかもしれない。

教養教育の授業の満足度については、半数から3分の2以上の学生が満足しているとの回答であった〔問95 1年生68%、3年生；薬72%、創製48%〕。3年生の創製薬科学科が低い傾向となったのは、すでに卒業研究が開始されており、講義から意識がずれてしまったからかもしれない。1年生の教養教育科目の選択〔問108〕は、「好きな科目や面白そうな科目を選択した」と「単位の取りやすい授業を選択した」が拮抗した結果となった。また、「授業科目を選択する余地がなかった」との回答は極めて少なく、履修登録の改善や教養教育院による履修方法の見直しなどが功を奏している。また、問109の教養教育科目の選択にあたり重視した情報源について、1年生では「履修の手引きやシラバスに記載された情報」とほぼ同じ割合で、「先輩からの助言や情報」や関連の「友人からの助言や情報」が重視されていた。教員・事務職員からの助言や情報がほとんど重視されていない状況は、例年通り

であり、引き続き新入生オリエンテーションなどでの説明内容・方法やクラス担任による履修指導等を見直す必要があるとともに、履修の手引きやシラバスの充実を図るなどの改善が求められる。

問 110 の SIH 道場で学んだ内容のうち、「他者と協働して学修や活動に取り組むこと」が役に立ったと感じている学生が昨年度から大幅に増加した。これは、薬学科のみとなり、在籍の学生のすべてが将来薬剤師となる可能性があり、他職種とチーム医療を展開する必要性を強く認識したからであると思われる。

問 112 の授業内容の難易度が適切と答えた学生は、1 年生；93%、3 年生；薬 94% 創製 97% であり高い水準にある。これは関係委員会において、成績評価の分布状況の確認・検証、学生の成績評価結果の状況を学期ごとに分析し、学生の学修改善につながる対応を検討・実施してきた成果と考えられる。

1 年生〔問 134〕、3 年生〔問 137〕の大学教育全体に対する満足度については、可以上が学年に依らず高い水準であった〔1 年生；薬 94%、3 年生；薬 98% 創製 91%〕。3 年生に関しては、関係委員会において、成績評価の分布状況の確認・検証、学生の成績評価結果の状況を学期ごとに分析し、学生の学修改善につながる対応を検討・実施してきた成果と考えられる。

3 年生に対する「研究を進めるための設備、スペース、物品等は確保されていますか」〔問 132〕では、総じて満足度は高かったものの、研究スペースの不足を訴える意見も見られた。これは研究室のスペースが固定されている事に起因したものだと考えられる。配属人数に応じて研究室の面積を変更するなど、大学側の学生サイドに立った対応が必要であると考えられる。

薬学部では、昨年度入学者から、新 6 年制教育課程を開始した。新課程の教育効果が現れる次年後の 3 年生に対するアンケート結果を注視し、上述の課題等を踏まえたうえで学修改善に繋がる情報を得たい。新課程では、単年度終了ではなく複数年度にまたがる複合的・階層的な薬学部独自の新しいカリキュラムを構築しており、学生の教育に対する満足度を高め、学習意欲の向上が見られるかどうかについても検証したい。

7 理工学部

理工学部は、工学部および総合科学部の改組によって 1 学科 6 コース（社会基盤デザイン、機械科学、応用化学システム、電気電子システム、情報光システム、応用理数）の体制で、2016 年度にスタートした。アンケート実施時点で、アンケート対象となった理工学部の 3 年生は第 5 期生、1 年生は第 7 期生となる。理工学部全体のアンケート回答率は、3 年生が 41%、1 年生が 58%であった。昨年度は 3 年生が 41%、1 年生が 61%であり、1 年生の回収率

が若干低下した。以下では、主な結果について述べる。なお[]内の数字はアンケートの質問項目の番号を示す。

<項目 I・通学時間> 1年生について通学時間 30 分未満が 8 割程度[2]、居住形態は実家から通学が 30%程度[3]、残りが一人暮らし、または寮であった。3年生ではどちらも同程度であった居住形態は実家から通学が 20%程度であり、コロナ禍の影響が出ているのかも知れない。

<項目 II・学習状況>昨年度、内容を理解できる科目の割合[18]は、1年生で 80 %以上と答えた学生がどのコースも 25%程度はあり、70%以上と答えた学生との合計がおおよそ 65 %となっていた。しかし、今年度の1年生においては、80%以上と答えた学生が 20%を下回るコースが 3 コースあり、明らかな低下が見られた。これらのコースでは、70 %以上と答えた学生を合わせた割合も他コースに比べて相対的に低くなっていた。初年度の慣れない環境で、さらに遠隔授業ということもあり、コロナ禍の影響による学習効果の低下が懸念される。3年生においては、昨年度の状況と変わらないことから、大学での学修の不慣れと遠隔講義が重なったのが要因と思われる。理解の促進につながった方法[19]については、1年生、3年生とも 8 割近くの学生が演習を挙げている。これは、理系コースであるため演習を通じた理解の促進が重要である事を示すもので当然ではあるが、特に理論系の科目においては演習問題を多く取り入れることの重要性が読み取れる。授業課題のための図書館の利用[20]では、「頻繁にあった」の割合が1年生より3年生のほうが明らかに増えている。また、授業課題のための Web の利用[21]は1年生より3年生のほうが増えており、履修科目における専門科目の割合が増えたことが要因と考えられる。授業時間外に他の学生と一緒に勉強した[24]は、1年生では「頻繁」と「時々」を合わせて平均 80%であったが、3年生では「頻繁」と「時々」を合わせて 70%程度に減少した。コロナ禍の中で学生個々が感染対策に気を付けていたのかもしれない。授業時間外の 1 週間あたり学習時間[35]については、1年生よりも3年生の方が 10 時間以上学習している学生の割合が増えており、これも専門科目のウエイトが高くなってきていることが要因と考えられる。オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する[37]は全体としては、昨年度と同様に、まだ低い状況のため今後も継続した対応が必要と思われる。一方、大学外でアルバイトに費やす 1 週間あたりの時間[39]については、11 時間以上と答えた学生の割合が、1年生で 30%程度（昨年度 10 %程度）と増え、3年生では 25~40%程度（昨年度 30 から 40 %程度）と同程度となっている。一般教養や専門知識に関する問い[42-49]からは、1年生から3年生になるにつれてその能力が向上している実感を得ている割合が増えるが、地域社会や国民が有する問題を理解する能力[51-52]や文章表現能力[53]、外国語[54]では1年生と3年生の間で向上が見られない。コミュニケーション能力[55]の向上は3年生の方が実感している。一方プレゼン能力

[56]は、1年生においてあまり見られないが、コースにばらつきはあるものの、3年生では向上していると認識していると思われる。遠隔授業であってもプレゼンを行う授業科目が多かったものと思われる。

<項目 III・英語の学習状況> どのように英語の勉強を行っているか[81]では、1年生は授業を中心とした英語学習であるのに対し、3年生では大学院入試や就職に直結しているからか、TOEIC 等の問題集を購入して勉強する場合は最も多かった。

<項目 VI・大学生活に対する満足度> 大学生活に対する満足度[94]について、「充実している」と「まあまあ充実している」を合わせた割合は、1年生では80%程度のコースが多いのに対して、3年生では平均して70%程度と若干下がっており、コロナ禍による本来の学生生活が送れていないとの認識があるものと考えられる。本学の設備にどの程度満足しているかという質問に対して、[114]-[118]の各項目で、図書館や実験室の設備に対しては、「とても満足」と「満足」を合わせた割合が1年生および3年生で概ね50%を超えているが、コンピュータの施設やインターネットの使いやすさにおいては、1年生、3年生とも、「とても満足」と「満足」の割合が半数に達していない。今後、電子教科書の導入など、教育環境のDX化に合わせたインフラ整備が必要と思われる。e-learning サービスでは1年生、3年生ともManabaの利用が最も多く、学修に役立つかについては3年生の方が役立つとの認識が高く、広く利用しているものと思われる。大学教育全体の満足度[134]では、100点中71点以上の回答が1年生では65%程度が3年生では55%程度と若干低下している。卒業後の進路の予定[138]については、コースによって大きな違いがある3年生でみると就職希望は電気電子の18%が最も低く、社会基盤の50%が最も高い。これは各コースの専門分野の違いを反映していると思われる。

8 生物資源産業学部

生物資源産業学部においては、今年度入学の1年次学生は、現役で本学部に入学者は86%(設問137)と高いが、第一志望で入学した率は38%(設問138)と低く、大学に入学することを優先に考えた学生が多いと思われる。また、住居形態(設問3)から、家族等と暮らしている率は1年次46%、3年次34%であり、1年次学生の方が自宅生は多いことから徳島県出身者が多い可能性が窺える。

学修状況においては、実習などの体験的に学ぶ機会(設問4)について、1年次は「頻繁にあった」あるいは「時々あった」との回答が合わせて35%であるのに対し、1年次は81%とかなり高く、本学部の専門教育が体験的学修を重視した教育体系であることを学生が認識していると考えられる。学生自身が文献や資料を調べること(設問8)に対しては、1年次は、「頻繁にあった」19%と「時々あった」49%を合わせると68%であるのに対し、3年次は

「頻繁にあった」42%と「時々あった」47%を合わせて89%となっており、高学年の専門科目の学修においては文献検索が必要であり、自ら調べて論ずる術を習得していることが窺える。学生が自分の考えや研究を発表する機会(設問11)は、「頻繁にあった」あるいは「時々あった」とする回答率が、1年次55%→3年次71%、検討するテーマを学生が設定する機会(設問13)が「頻繁にあった」あるいは「時々あった」とする率が、1年次14%→3年次25%、学生同士が議論する機会(設問12)は、「頻繁にあった」あるいは「時々あった」とする率が、1年次54%→3年次68%と増加していた。このことは、専門教育においてプレゼンテーションの機会も増え、そのテーマを自ら決めることや、様々な議論をすることにより、学修効率が上がっているとも考えられる。

履修については、取りたい授業を履修できなかった(設問15)とする回答は、「頻繁にあった」あるいは「時々あった」とする率が1年次は54%、3年次は41%であった。1年次の履修では、専門科目においては履修する科目が決まっているため、希望がかなわない可能性は少ないが、教養教育科目においては抽選によって履修が左右されるため、取りたい授業が取れない状況がある。

授業課題のために、図書館の資料(設問20)を「頻繁にあった」あるいは「時々あった」とするのは、1年次は24%、3年次は41%と増えてはいるが、Web上の情報(設問21)の利用を「頻繁にあった」あるいは「時々あった」とするのは、1年次は78%、3年次は97%とかなり高い。Web上の情報を用いる際には、その選択と利用については、正しい知識を持たせることが必要と考える。

授業時間外に他の学生と一緒に勉強あるいは授業内容を話す(設問24)機会は、「時々あった」とするのは、1・3年次とも大体同様であったが、1年次は「頻繁にあった」が8%と極端に少なく、友人との交流が少ないのではと案じるが、3年次は21%と少々増えていた。授業の欠席(設問26)については、1年次では「頻繁にあった」あるいは「時々あった」は25%であるのに対し、「頻繁に欠席した」が11%と異常に高い。3年次は「頻繁にあった」あるいは「時々あった」は19%であるのに対し、「頻繁に欠席した」が2%と低く、学修に対する心構えがみてとれる。

人との関わりに関する問い、すなわちリーダーシップ(設問47)、人間関係の構築(設問48)、協力して物事を遂行(設問48)する能力については、「大きく増えた」あるいは「増えた」との回答率は、1年次は低いが、3年次は全体の平均値並みになっている。地域社会が直面する問題を理解する(設問51)能力は、「大きく増えた」あるいは「増えた」とする回答が1年次(62%)、3年次(59%)と高く、本学部の理念に沿った学生であることが窺える。数理的能力(設問57)は、1年次は「大きく増えた」3%、「増えた」24%と低く、3年次は「大きく増えた」2%、「増えた」40%となり、少々数理的能力も若干構築されているようであ

る。職業人・社会の一員としての倫理観(設問 62)、生涯学び続け、教養・専門性を高める能力(設問 63)は、「大きく増えた」あるいは「増えた」とする率が、1年次では各々57%、49%であるのに対し、3年次では各々77%、71%と高く、高学年での社会適応能力が期待できる。

大学教育に対して、1・3年次ともに、「社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能」を最も期待(設問 69)し、その中で「専門的知識」の獲得(設問 70)を最も期待しており、学部 DP に即している。

レポートや宿題で、調べものの情報源(設問 72)は、1年次はインターネットが最も多く、次いで教科書・参考書・授業での配布資料であったのに対し、3年次はこの双方が同じように最も多かった。1年次は70%程度が必要な教科書を購入しているが、3年次は60%を割っており、授業で使用する教科書を持たずに、授業に臨んでいる学生が多いことがわかった。高校で履修していない数学や理科を入学後どのように勉強したか(設問 75)の問いには、3年次では、自身で教科書や参考書で勉強をした率が49%ほどであるのに対し、1年次は14%ほどと少なく、勉強ができていないことが窺える。

英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点(設問 76~80)から自己評価した場合、3年次は、A1-2 と回答した率が1年次より少ない傾向にあり、英語能力について学年によって差がみられるようである。英語の勉強(設問 81)に関しては、1年次は「特に何もしていない」が最も多く、さらに3年次は「TOEIC などの参考書・問題集で勉強」が最も多く、両学年とも「授業で使用している教科書、英語論文を勉強」が次いで多かった。英語の授業(設問 83)については、1・3年次とも、「教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である」が一番多い。それに加え、3年次では、「専門教育の英語の会話に重点を置いた授業を増やしてほしい」が多く、学部で学ぶ専門分野について、英語で話せるようになりたいと考えていると捉える。

効果的に学修する技能(設問 86)については、その修得が「とてもあるいはいくらかうまくいった」とする率は、1年次57%、3年次72%であった。大学が求める水準までの学修(設問 87)が「とてもあるいはいくらかうまくいった」とする率は、1年次は54%、3年次73%であった。時間を効果的に使う(設問 88)ことが「とてもあるいはいくらかうまくいった」のは、1年次は51%、3年次は60%であった。

教員と顔見知りになる(設問 89)のが「とてもあるいはいくらかうまくいった」とするのは、1年次は19%と少ないが、3年次は42%と高くなっており、教員との距離も近くなっている。他の学生との友情(設問 90)を深めることについては、「とてもあるいはいくらかうまくいった」とする率が、3年次は69%であるのに対し、1年次は52%と低かった。

専門分野について興味を持ち、意欲的に取り組んでいる(設問 91)と「非常にそう思う、

そう思う」が1年次は54%、3年次は66%であった。日常的に学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている(設問92)と「非常にそう思う、そう思う」が、1年次は35%と低く、3年次でも55%とそう高くは無いと考える。現在の自分の学修時間や学修態度に満足している(設問93)については、「非常にそう思う、そう思う」率が、1年次33%、3年次36%と大変低く、改善の余地があると考え。その一方で、学生生活が「充実している、まあまあ充実している」とする(設問94)率が、1年次65%、3年次72%であった。

授業に対しては、全体的な質(設問98)に「とても満足、満足」とする率は、1年次46%、3年次59%であった。授業内容と日常生活との関連(設問99)に「とても満足、満足」とする率が1年次は43%、3年次は53%、授業内容が将来の仕事に結びつくこと(設問100)に「とても満足、満足」とする率は1年次54%、3年次53%と変わりはなかった。

教員と話をする機会(設問101)に、「とても満足、満足」しているのは、1年次16%、3年次27%であった。他の学生と話しをする機会(設問103)について「とても満足、満足」しているのは、1年次41%、3年次43%と、双方とも大変低く、友人と会う機会が少ないことが窺える。大学のなかでの学生同士の一体感(設問104)については、「とても満足、満足」とするのは、1年次は24%、3年次は32%であった。多様な考え方を認め合う雰囲気(設問105)に、「とても満足、満足」とするのは、1年次43%、3年次49%であり、もう少し他者を認める環境を期待したい。

専門教育で何を学ぶことができるか(設問111)については、1年次は「学問・研究に興味を湧いた」が最も多く、次いで「専門の知識を身に付けるのに役立った」であり、「自分の進路について考える事ができるようになった」も多かった。それに対し、3年次は「専門の知識を身に付けるのに役立った」「学問・研究に興味を湧いた」の順で多かった。専門教育科目の授業の難易度(設問113)については、「授業内容の水準は適切である」とするのは、1年次84%、3年次81%であり、水準は適切であると考え。

図書館の設備(設問114)については、1年次の87%が「とても満足、満足」としているのに対し、3年次は53%であり、満足度が低い。実験室の整備や器具(設問115)について「とても満足、満足」と感じているのは、1年次が60%であるのに対し、3年次は73%と高かった。コンピュータについては、施設や設備(設問116)に「とても満足・満足」は1年次27%、3年次56%であり、訓練や援助(設問117)に「とても満足・満足」は1年次27%、3年次35%であった。インターネットの使いやすさ(設問118)に「とても満足・満足」と感じているのは1年次19%、3年次42%であった。

奨学金などの学費援助(設問119)については、その制度に「とても満足・満足」しているのは、1年次46%、3年次30%であった。心身の健康に関わる問題についての診療や相談(設問120)については、1年次32%、3年次41%が「とても満足・満足」としていた。キ

キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）（設問 122）については、1 年次 13%、3 年次 30%のみが「とても満足・満足」としていた。クラス担任制度（設問 123）については、1 年次の 43%が「とても満足・満足」とし、3 年次は 58%と高かった。図書館の学修支援サービス（設問 124）については、1 年生の約 60%、3 年次の約 57%が利用していないと答えていた。読書の習慣が身についている（設問 125）とする 1 年次は 5%、3 年次は 15%であった。

1 年次学生は、学部卒業後の進路（設問 135）は、就職希望 30%、大学院進学希望 41%で、さらに将来の見通し（設問 136）を持っている 1 年次は 68%（内訳：何をすべきかわかっている＋実行している→8%、何をすべきかわかっている＋実行はしていない→19%、何をすべきかわからない→41%）、将来の見通しを持っていない 1 年次 24%であった。3 年次学生は、学部卒業後の進路（設問 138）は、就職希望 40%、大学院進学希望 36%で、さらに将来の見通し（設問 139）を持っている 1 年次は 83%（内訳：何をすべきかわかっている＋実行している→17%、何をすべきかわかっている＋実行はしていない→45%、何をすべきかわからない→21%）、将来の見通しを持っていない 3 年次は 11%であった。

3 年次学生については、卒業研究を決めた基準（設問 130）は、「関心の深い研究内容」が最も多く、卒業研究で得られるもの（設問 131）には「専門的知識や技術」、「学問・研究への興味や知的好奇心」が最も多く挙げられ、研究によって何を得るべきかを周知していることが窺える。研究環境（設問 132）として、設備、スペース、物品等ともに十分であるとする 3 年次学生は 49%であり、残り約 50%は、何某かの不足を感じている。

3 年次学生は、専門知識を身につけたい（設問 140）と「そう思う」が 55%、「どちらかといえばそう思う」が 32%、合わせると 87%であった。その上で、幅広い知識も身につけて視野を広げたい（設問 141）と「そう思う」が 62%、「どちらかといえばそう思う」が 21%、合わせると 83%と高い。就職意識の形成に繋がる学修（設問 142）をしたいと「そう思う・どちらかといえばそう思う」と考える率が 83%であった。さらに、課題解決の訓練、ディベートやプレゼンテーションの訓練、レポートや論文の指導を通じて、文章作成能力などを向上させたいと考えていることが読み取れた。

9 教養教育

平成 28 年に徳島大学の教養教育を担う部局として教養教育院が設立され、7 年が過ぎた。教養教育院の現状と課題を「令和 4 年度 学生の学修に関する実態調査」の結果をもとに、以下の項目について考察する。

1. 徳島大学における教養教育

「大学に入学した時点と比べて一般的な教養が身に付いたか（問 42）」という問いでは、

「大きく増えた」と回答した1年生が11%、3年生では17%だった。どちらも昨年度とほぼ同じ数値である。学年進行とともに教養が身についたと回答した割合が増えていることも昨年度と同様である。他方、「文章表現の能力（問53）」では、「大きく増えた」という回答が1年生で7%、3年生で12%であり、昨年度より低下している（昨年度1年生10%、3年生14%）。作文・レポートの能力の強化は今後も大きな課題である。また「大学における教育に対して、何を期待しますか（問69）」では、1、3年生とも1位は「社会に出て役に立つ知識・技術・技能」であり、2・3位はほぼ同数で「資格取得に必要な知識」、「人生を支える幅広い教養」となっていた。「大学の教育で獲得できる知識・能力（問70）」という問では、「一般知識・教養」と回答した1年生が58%、3年生が52%であったのに対し、「専門的な知識」という回答が、それぞれ85%、83%だった。昨年度より「一般知識・教養」という回答の割合が少し減少し、「専門的な知識」が少し増加した。学生は大学で一般的な教養よりも、専門的な知識を身につけたいと考えていることがうかがわれる。教養教育院としては、今後も学生に魅力的な教養の授業を提供することが重要である。

「大学の教育内容・環境に対する満足度（問95）」では、教養教育に対する回答として、「とても満足」、「満足」と答えた割合の合計が、1年生で63%、3年生で57%だった（昨年度はそれぞれ59%、57%）。今年度も新型コロナウイルス感染症対策で教養教育の授業の多くがオンラインで行われたが、学生の満足度でみると19年生の満足度が昨年からやや向上した。これはオンライン授業に、教員・学生の双方が慣れてきた、また大学のWi-fi環境や自習室が整ったことが考えられる。さらに対面授業においても、新型コロナウイルス感染症の予防対策の徹底を呼びかけてきたことも満足度の上昇の原因として考えられる。今後も、各学部のDPに合った、学生が意義を感じることができる教養教育の授業を展開していくことが重要である。

2. 教養教育科目の選択

教養教育の授業には「基礎科目群」や「外国語科目群」のようにクラスが指定されている授業もあるが、「教養科目群」や「創成科学科目群」では自分で所属する学部や学科の履修要件に合わせて自由に選択ができる授業も多い。その場合の「選択基準」を尋ねた問108（複数回答）では、「好きな科目や面白そうな科目」と回答した1年生が71%（昨年43%）、3年生が63%（昨年55%）と、昨年に比べ大幅に数値が上がった。また「単位のとりやすい授業」という回答が1年生で42%（昨年23%）、3年生で43%（昨年43%）だった。また「教養教育科目の選択に当たって重視した情報源（問109）」では、「履修の手引きやシラバス」が1年生で83%（昨年48%）、3年生で50%（昨年69%）であり、「先輩からの助言や情報」が1年生で50%（昨年25%）、3年生で30%（57%）だった。「友人からの助言や情報」という回

答も「先輩からの助言や情報」とほぼ同数だった。今年度の1年生は昨年度と同様に、3年生に比べ、単位の取りやすい授業よりも自分の興味で授業を選んだ傾向がある。そのための情報源として、先輩や友人からの助言よりシラバスが優先されている。これは新型コロナウイルス感染症のため、先輩・友人からの助言を得る機会が少なかったことも考えられるが、教養教育院が推進しているシラバス内容の充実の成果も現れていると考えられる。また教養教育院は、新入生に対する履修相談会を複数回行い、新入生の教養教育の履修に関して助言を行っている。さらに教養教育のすべての授業科目のシラバスのチェックを行っており、シラバスの内容は数年前より格段に充実してきている。今後も履修相談、履修の手引きやシラバスの充実を通じて、学生の授業選択をサポートしていくことが重要である。

3. リメディアル教育

徳島大学の教養教育では、高校で数学や理科の科目で未履修、あるいは大学での学修に不安のある学生のために、リメディアル科目（数学、物理学、化学、生物学、今年度から英語も開講）を高大接続科目として開講している。「高校で履修していない数学、物理、化学、生物について、大学入学後にどのように勉強したか（問75）」という質問に対し、1、3年生とも同じ選択肢の順の回答となった。最も多かったのは、「支障を感じないので何もしていない」で、1年生、3年生でそれぞれ37%、44%（昨年は50%、49%）だった。特に1年生では、支障を感じなかった学生の数が昨年より大幅に減少している。その数値を反映したためか、「高校の教科書、参考書を使い、勉強した」でそれぞれ1、3年生で28%、27%（昨年は17%、16%）で、「教養教育のリメディアル科目等を受講した」は25%、22%（昨年は9%、8%）だった。1年生に関しては、学生自身の努力、あるいはリメディアル科目を利用することにより何らかの対応をしていることがわかる。他方「勉強の必要性を感じたが、何もしていない」という学生はそれぞれ12%、11%（昨年度は9%、8%）存在し、昨年よりも少し増加している。これらの学生は専門での学修に困難をきたす可能性もある。教養教育院は、新入生オリエンテーションで行われる高校復習テストの成績を学部に報告して、学部は成績が不振な学生に対しリメディアル科目の受講を勧めているが、さらに学部と協力してこれらの学生に適切な働きかけを行う必要があると考えられる。

4. 語学教育

教養教育院では語学教育として、英語と初修外国語の授業を提供している。「入学時と比較した外国語の運用能力（問54）」という問では、「大きく増えた」、「増えた」と回答した学生が、1年生38%、3年生33%であるのに対し、逆に「減った」、「大きく減った」がそれぞれの学年で14%、24%だった。これらの数値は昨年度とほぼ変わらないとはいえ、大学入

学試験対策としての英語学習から、大学での英語の学修へ切り替えが上手くできていない学生が少なからず存在すると考えられる。さらに学年進行とともに語学力が低下したと感じる学生がある程度存在することは大きな問題である。徳島大学は、全学で語学マイレージ・プログラムを展開して語学力の向上に努めているが、学部によっては、語学マイレージ・プログラムの修了が危うい学生も存在している。そのため、教養教育院では、今年度は学生の語学力の向上を目指したプログラム（語学教育研究センターのプログラム等）を昨年度より大幅に拡大して実施した。また今年度より、英語の高大接続科目（リメディアル授業）も開講した。学生に対し、さまざまな学修機会を提供するとともに、いかにして語学学習に対するモチベーションを持たせるかが大きな課題であると考えられる。

英語の「聞く、読む、会話、表現、書く」という技能の自己評価についての問 76-80 では、1年生は最低のレベル（A1）を選択した学生が、入学時と比べて10月の段階ではすべての技能でわずかに減少したものの、高いレベルを選択した学生の割合にはほとんど変化が見られなかった。3年生では、A1を選択した学生の割合が昨年同様すべての技能で1年生より2倍以上多く（1年生の2.7-2.8倍。昨年は1.5-1.9倍）、1年生の時の英語の技能が3年生では低下した、あるいは英語に対する自己評価が3年生では1年生よりはるかに低くなったことが感じられる。「英語の学習方法（問 81）」では、1年生は「授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強」が最も多く37%、次いで「TOEICなどの参考書・問題集を購入して定期的に勉強」が30%となっていたが、その次に多かったのが「特に何もしていない」で27%だった。3年生では、驚いたことに「特に何もしていない」が最も多く41%で、次に「TOEICなどの参考書・問題集を購入して定期的に勉強」が30%、「授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強」が15%と続いた。この結果から3年生ではあきらかに英語の学習が疎かになっていることが読み取れる。徳島大学では、1、3年生はTOEICやTOEFLという外国語技能検定試験を受けることになっている。しかし語学マイレージ・ポイントが700ポイントに達した学生が受験を止めるせいか、3年生での受験率が1年次に比べ極端に悪くなっている。今後は、高学年での語学教育の強化が急務であると考えられる。そのためには、教養教育と専門教育の英語の連続性をさらに強化する必要がある。

「徳島大学における英語の授業についての質問（問 83）」では、1、3年生とも「教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分」という回答が他の選択肢に比べ圧倒的に多く（ともに52%、47%）、学生は現在の大学の英語教育に満足していることがうかがえる。「もっと授業数を増やして欲しい」という回答は、1、3年生でそれぞれ12%、14%であり、「ネイティブスピーカーの教員による授業を増やして欲しい」はそれぞれ、16%、15%だった。

全体として、学生は大学で提供されている語学教育に満足をしているが、語学力や英語に対する意欲が入学後に低下したと感じている学生が特に高学年で多い。教養教育院として

は、語学の授業内容の見直しや、語学教育研究センターのプログラムの充実等を図る必要があると考えられる。

10 FD (Faculty Development) の観点から

本年度は、コロナ禍3年目を迎え、対面による授業や実習等が再開されるようになり、オンラインか対面かを戦略的に手段として選択し、授業の中で組み合わせたり、オンライン環境を活かした授業展開をしている事例も報告されるようになった。本調査において、学生が経験する授業に変化が起きたのか、また満足度に変化があったのかについて、「1. オンライン授業」に関連する項目を考察する。また、FD委員会では、令和4年度から実施する「教学アンケート」の1つである、本学の教員を対象とした「教員アンケート」を実施しており、学生を対象とした本調査と統一した設問が設置されている。学生の自己評価、教員による他者評価を比較することができ、比較可能な21項目に焦点を当てて、「2. 学生が身に着けた能力や知識」について考察する。

1. オンライン授業

令和2年度から始まった本格的なオンライン授業は3年目を迎え、オンライン会議ツールの機能を活用して双方向性を取り入れる工夫や、オンデマンド授業であっても学生とのコミュニケーションをとるための工夫を実践している取組が、全学FDプログラム「授業について考えるランチセミナー」等で多数報告されている。本年度の調査結果について、令和3年度の調査と比較すると、3年の回答には大きな変化は見られないが、1年では肯定的な回答の割合が大きく増加している項目がある。ここでは、1年の肯定的な回答結果について昨年と比較して考察する。「4. 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ経験」について、56% (12ポイント上昇)、「20. 授業課題のために図書館の資料を利用した」ことについて、53% (21ポイント上昇)、「24. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした」ことについて、78% (12ポイント上昇)であった。このことから、対面授業が増加し(教員アンケートで対面授業は約5割、前年度比約20ポイント上昇)、実験、実習、フィールドワークなどの体験的な授業が増加し、学生は大学図書館を利用して、学生同士で学び合いを行う機会が増えたことが分かる。これは、特に1年でこの傾向が強く見られており、コロナ禍以前の授業や学生同士の学習活動が再開しつつあることが分かる。その結果が、満足度を問う設問の肯定的な回答の割合も向上している。例えば、「104. 大学のなかでの学生同士の一体感」38% (8ポイント上昇)、「105. 多様な考え方を認め合う雰囲気」52% (8ポイント上昇)、「106. 大学での経験全般について」58% (10ポイント上昇)などが挙げられる。これは、本調査の3年生が1年生であった2年前の調査と比較しても、上述の3項目の満足度(肯定的な回答の割合)は約20ポイント程度高い。

また、「96. SIH 道場の満足度」については、令和2年度から、肯定的な回答の割合は、35%、53%、57%と上昇傾向にあることも分かる。ことから、本来の大学教育及び学生にとっては学生生活を取り戻しつつあることが分かる。

2. 学生が身に着けた能力や知識

上述の「教員アンケート」と本調査の設問では、21問の統一設問が設けられている。これらの21項目(42、43、44、45、47、48、49、51、52、53、54、55、56、60、62、63、64、65、66、67、68)は、本学の多くの学部・学科のDPに学習目標として掲げている項目や、企業が卒業時に求めている能力を示している。本調査では「入学時点と比べてこれらの知識や能力はどのように変化したか」を問う設問であり、教員アンケートでは回答者(教員)が指導する主な学生(学部・学科・学年)を想定したうえで「その学生は、これらの知識や能力は身につけていると思うか」を問う設問である。ことから、単純に比較して結論付けることはできないが、FDのアイデアを考える1つの資料になる。まず、肯定的な回答の割合について1年と3年で比較したときに、15項目で3年の方が高く、1年の方が高い6項目についてもほとんど差はなかった。学生による自己評価であるが、本学での学生生活を通して、これらの能力が身についたと感じている学生がいることが分かる。次に、教員アンケートの結果と比較すると、21項目すべてにおいて肯定的な回答の割合は、教員の回答の方が低く、学生の自己評価と教員から見た評価に差があることが分かる。昨年度と同様に、「42. 一般的な教養」、「43. 分析力や問題解決能力」、「44. 専門分野や学科の知識」、「49. 他者と協力して物事を遂行する能力」、「55. コミュニケーション能力」、「56. プレゼンテーションの能力」などでは同じ傾向が見られ、教養教育科目や学部専門教育科目における知識の修得や課題解決に向けた分析力の修得、初年次教育科目 SIH 道場の効果であると推察している。一方、差の大きかった6項目は、「45. 批判的に考える能力」(教員31%、1年58%、3年67%)、「51. 地域社会が直面する問題を理解する能力」(教員30%、1年51%、3年50%)、「52. 国民が直面する問題を理解する能力」(教員28%、1年52%、3年48%)、「60. グローバルな問題の理解」(教員22%、1年49%、3年41%)、「66. 新しいことに積極的に挑戦する姿勢」(教員36%、1年62%、3年62%)、「67. ストレスに対処する能力」(教員24%、1年46%、3年57%)である。これらは、個々の授業では育成することが明示されていない項目であるが、大事な内容である。これらは学部・学科、大学としては、カリキュラム全体で育成していくことが求められる能力である。FDの対象として、近年では、個々の授業改善や教員個人の教育力向上を目的としたもの(マイクロレベルのFD)に加えて、学部・学科の教育プログラムの評価・改善を目的としたミドルレベルのFDについても、力を入れていくことが求められている。実際、徳島大学でも歯学部では、令和2年度から教務委員会委員、教育プログラム評価委員会委員、FD委員会委員が協働して、教育プログラムの評価・改善

に向けた取組を実施している。上述した能力の育成は、授業の枠を超えて取組むものであり、個々の授業担当者の努力のみでは対応できないものである。歯学部のように複数の関係者が協働して取組むことが重要であり、徳島大学全学FD推進プログラムにおいても、ミドルレベルのFDとして、継続的に学部・学科の支援を行っていく予定である。

11 eラーニング

本学において ICT を活用した学修が学生にどの程度浸透し、実質化しているのかについて、eラーニングの活用という観点から、アンケート結果を概観し、併せて今後の課題について考える。ここでは、eラーニングの利用実態、eラーニングの効果、eラーニングへの期待、および環境整備等について見ていく。結果を見る前に、今回の調査は1年生と3年生を対象におこなわれている。1年生の結果からは、主に教養教育の学修の実態を、3年生の結果からは専門教育の学修の実態を知ることが出来ると考える。2020年度以降の入学生である1年生と3年生は、修学環境においてCOVID-19の感染拡大の影響を受けたと想像される。コロナ禍前の大学生活を知ることなく入学し、授業はオンライン授業が中心といった、新たな大学の生活の実態が浮かび上がるかもしれない。なお、全体的な回答率が6割前後であることから、全体の傾向について述べることにする。ただし、特徴的な点がある場合は、個別の事例についても触れるものとする。

まず、eラーニングの利用実態から見てみる。問い130（3年生は問い133）は、本学が提供するeラーニングサービスの利用の傾向についての質問である。ここからeラーニングの利用実態を知ることができる。1年生と3年生の間に傾向の違いはみられない。本学が提供する全学LMSサービスであるmanabaに関して、1年生、3年生とも7割程度の学生が利用したと答えている。2020年度以降、COVID-19感染拡大の影響を受け、manabaの利用は全員が利用したと答えることが予想されることから、eラーニング、LMSといった言葉に対する理解の一端を知ることができる。また、知プラe科目のLMSサービスであるmoodleも一定数の学生が利用していることが分かる。全体で、1年生、3年生ともに2割程度の学生が利用していると答えている。薬学部の1年生は、6割を超える学生が知プラeを履修していることは特徴的である。知プラeの科目の利用が、本学において徐々に浸透していることが理解される。さらに、スーパー英語の利用は、1年生、3年生ともに4割程度であり、語学マイレージ等に対する理解や活用が進んでいることがうかがえる。一方で、高校との学習の接続を調べた問い75から本学のリメディアル教材の活用について知ることができる。1年生、3年生と傾向の違いは見られず、リメディアル教材を活用したと答えた学生は1割程度である。利用の部局により差がみられるが、これは推薦等の制度の関係から生じるものと想像される。高大接続の点から、入学前の学習の充実は今後も必要であると思われる。コロ

ナ禍において、eラーニングのインフラとしてのLMSの利用は学内全体に普及しているといえる。また、LMSの利用は、動画の再生や、小テスト等において、LMSとMS StreamやMS Forms等の他のサービスと連携しての利用が広がっていることが想定される。今後、LMSと連携するサービスの利用の実態についても調査する必要があると思われる。

問い130以外の項目においても、eラーニングの利用実態について知ることができる。授業の課題作成にWebを利用したかを調べた問い21、および課題配布や提出にインターネットを利用したかを調べた問い22について確認する。どちらの回答からも、資料の配付・課題の提出や授業の調べ物にWebが広く活用されていることが分かる。調べ物としてのWebの活用は、1年生、3年生どちらも9割以上の学生がおこなっている。3年生の方が1年生よりも、「ひんばんにあった」と答える学生の割合がやや多いように思われる。資料の配付や課題の提出も、1年生、3年生とも9割以上の学生がインターネットを利用している。また、学修の情報源について調べた問い72では、1年生と3年生ともに9程度の学生がインターネットを情報源としていることが分かる。インターネットは学修の有益なツールであるものの、利用のために一定のスキルが求められる。フェイクニュースを見極める能力や、安易なコピーによる剽窃をおこなわない倫理観等、ネット利用におけるリテラシーの必要性はますます高まると考えられる。

次に、eラーニングの利用によってもたらされる副次的な効果について確認する。コンピュータの操作能力の向上について調べた問い58、情報を収集・取捨する能力の増減について調べた問い64、データの理解や活用能力の増減について調べた問い65の3つの問いについて見る。いずれの質問も肯定的な答えは1年生と3年生の間で差は見られないものの、「大きく増えた」と答えた割合は3年生の方がやや多いように思われる。コンピュータの操作能力については8割前後の学生が、情報の収集・取捨選択の能力については7割以上の学生が、データの利活用の能力については7割の学生が増えたと答えている。COVID-19の影響により、授業のオンライン化が当たり前となり、日常的に情報機器を操作する必要に迫られたことから、多くの学生が操作能力や利活用能力の向上を意識したものと考えられる。以上のようなことから、本学のeラーニングの活用は、LMSの利用を中心に、普段の授業で利用されていることが分かる。eラーニングは、日常の、授業の調べもの、資料の配付、課題の提出に広く活用されている実態が理解される。

また、学生はeラーニングを用いた学習をどのように捉えているかを見てみる。問い131（3年生は問い134）のeラーニングが学修に役立つかという問いに対し、1年生と3年生の間に傾向に変化はなく、6割以上の学生が役立つと答え、eラーニングを肯定的に捉えていることが分かる。問い132（3年生は問い135）の今後eラーニングを増やした方が良いかどうかというeラーニングへの期待に関する質問についても、1年生と3年生に大きな

差はなく、5割程度の学生が増やした方が良いと答えている。また、大学での教育において獲得を期待する能力について質問した問い70では、1年生と3年生の間で傾向に大きな差は見られない。2割程度の学生が情報機器活用能力の獲得を挙げている。教養や専門知識、コミュニケーション能力や問題解決能力と並んで、本学の学生は情報活用能力の習得に対して意欲的なことが分かる。問い131、問い132、問い70等から、学生は本学のeラーニングのサービスに満足と期待していることが分かる。また、情報活用能力の必要性を理解し、修学に臨んでいることも分かる。

さらに、本学の提供するeラーニングについて環境的な面から、学生がどのように受け止めているのかを見てみる。問い116の本学コンピュータ施設や設備の満足についての質問で、3年生は50%の学生が満足していると答え、1年生は36%の学生が満足と答えており、1年生と3年生にやや違いが見られる。もっとも、不満と答える学生は1年生、3年生に差は見られない。学年が上がるにつれて満足と答える学生が増えているように思われる。このことは、1年生は、本学の基本的な設備やサービスへ対する理解が広がっていなかったことが推測される。問い117のコンピュータ利用の支援についての質問では、1年生と3年生のともに4割程度の学生が満足と答えており、1年生と3年生の間に差は見られない。問い118の本学のインターネットの使いやすさについての質問は、1年生と3年生の間に違いは見られず、4割程度の学生が満足と答えている。本学の情報機器の環境整備や支援体制に対し、多くの学生はおおむね現状に満足していることが分かる。本学は2019年度にBYODを実施し、今回の調査対象となった学生はBYOD導入以降に入学した学生である。本学の設備、サービス、支援体制へ対し、1年生はやや大学に慣れていない傾向が見られるものの、基本的に満足していることが分かる。

ここでの検討はeラーニングの活用という点からのものではあるが、ICTを活用した学修が本学において日常的に行われていることが分かる。eラーニングのサービスは授業のインフラとなっており、学生は現状に対し一定の満足を示していることも分かる。eラーニングの利用が広がった結果、教養教育や専門教育等による差、学年による差、部局等による差はあまり見られなくなったと言える。ただし、eラーニングの活用は、情報通信技術の進化を背景に、今後もますます活発になる。情報通信技術は、IoTの普及や、5Gの導入と技術革新は続くことから、本学においても学修の情報環境の整備に今後も努めなければならない。

一方で、学修の質という点から、有用性について明確な実感を持ってない(どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない)と回答した学生が、少数ではあるもののいたことも事実である。このことは、教育活動におけるICT利用が一般化する中で、情報機器を使いこなしている学生と、なじめない学生の二極化が進んでいることを示している。今後、活用能力に不安を感じる学生へのサポートの充実が必要になると考えられる。

12 附属図書館

読書傾向（問 40）を見ると1週間に1時間以上読書をすると答えた学生が、1、3年生共に30%弱となっている。読書についての考え（問 125）では、「もっと読書をしたいが、時間がない」とした学生が、1、3年生共に50%前後みられ、学年にかかわらず読書のための時間をとれない様子が見える。また、読書の必要性を感じていない学生が、昨年度と同様に1、3年生共に10%ほどいるため、無関心な層への読書推進の働きかけが継続的な課題である。

図書館の資料の利用（問 20）については、授業課題のために図書館の資料を利用したことが「ひんぱんにあった」「ときどきあった」と回答している学生が、1、3年生共に50%ほどとなっている。調べ物をするときの情報源（問 72）として図書館の書籍・文献（電子版を含む）をあげている学生の割合は1年生で約35%、3年生では30%強となっている。また、附属図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）への満足度（問 114）を見ると、1年生の85%が「とても満足」もしくは「満足」と回答しているのに対し、3年生では60%と低い値を示している。

学年が進むにつれ、インターネットだけでなく信頼性の高い図書や文献データベース等を利用するようになるのがこれまでの傾向であるが、令和2年度以降のコロナ禍により、3年生の図書館利用が制限されてきたことへの影響が大きく、1年生の図書館利用が回復していることがうかがえる。長期間の遠隔授業等の影響により、図書館サービスを十分理解できていない学生に対する利用支援の対策が必要である。

学修支援サービスの利用（問 124）については、昨年と同様に1、3年生共にグループ学修スペースの利用が最も多いが、どのサービスも利用していないという学生が1年生で60%弱、3年生で約55%存在する。本設問には自学自習などを目的とした利用は含まれず、図書館の利用動向全体を示すものではないが、コロナ禍をきっかけとした図書館の利用動向変化を踏まえ、回復してきた図書館利用に対応するとともに、自宅等からの利用を含めた学修支援サービスの充実、広報体制の強化が継続的な課題である。

なお、関連する質問として、教科書の購入（問 73）については、図書館などの本を利用する割合は1年生では数%と少ないが、3年生で10%弱となっており、教科書が高価であるとの回答が増加していることから、図書館の資料が活用されていることがうかがえる。また、英語の勉強（問 81）については、1、3年生共に10%前後が図書館等を活用して定期的に勉強していることから、図書館が一定の役割を果たしていることがうかがえる。

第3章 まとめと提言

ここに、令和4年度学生の学修に関する実態調査の結果をまとめ、報告する次第となった。本調査は、令和4年10月1日から11月30日に実施したものである。

アンケート調査を全学的にみると、授業については、学生が体験的に学ぶ(実験、実習、フィールドワークなど)が多く、学生が自分の考えや研究を発表する機会が多いのも3年次である。専門教育において、体験的学修や発表の場が必要である。また、定期的に小テストやレポートが課されるのは若干1年次が多くなっており、授業評価や教育効果を上げる方法として、有効利用していると考える。しかし、提出期限までに授業課題を完成できなかったとする率も多く、課題を成し遂げることが難しい学生も多くなっているのではと懸念する。課題のために、図書館の利用より、Webの情報を利用する方が多いのはやむを得ないと考えるが、Webの利用についてはさらに教育が必要と考える。取りたい授業を履修登録できなかったとするのは1年次の方が多く、改善の余地があると考え。授業を欠席したと回答する率が学部によっては3年次で多い状況となっており、授業への参画を促す必要を感じる。授業をつまらなく感じたことがあるとの回答が多く、少々悩ましいところである。自身の能力については、分析力や問題解決能力が増えたと考えるのは3年次の方が多く、専門分野や学科の知識については3年次が大きく増えたと考えており、学修成果と考えられる。英語能力については、1年次より3年次の方が下がっていると考えている傾向にある。その理由は定かではないが、3年次では専門領域の英語についての学修を行っており、その専門英語の難しさに直面している可能性も考えられ、専門領域の英語をトレーニングする必要性がある。教員と顔見知りになる機会、教員と話をする機会は3年次の方が多く、さらに教員と学生の間を近づける努力も必要と考える。他の学生との友情を深めることや他の学生と話をする機会、大学のなかでの学生同士の一体感は1年次も3年次も変らなかった。コロナ渦でも学生同士の交流はある程度維持されていると思われるが、学部ごとに、さらに良い環境を構築する方が望ましいと考える。図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス)については、1年次の方が満足している傾向にある一方で、特に満足している率は3年次の方が高い。図書館に求めるものが学年によって異なるのではと考える。また、図書館の学修支援サービスは利用していない率が高く、アナウンス等の充実が必要かもしれない。インターネットの使いやすさに関しては、満足している率がさほど高くないようである。キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)に対する満足度が3年次でも低く、改善の余地があると考え。

3年次においては、就職意識の形成につながる教育や、企業での体験学習等を踏まえた上で専門知識を学ぶことも望んでいる傾向にある。また、特定の課題をプロジェクト型で解決

する訓練、課題発見・解決する訓練、ディベートやプレゼンテーションの訓練、実践的で専門性のある資格を取得するプログラムなどを受けたいと考える3年次が多いことが窺える。さらに、レポートや論文指導により、文章作成能力を高めたい、卒業後の進路について、教職員や卒業生や先輩と話したいと望んでいる。

コロナ渦となって4年を超えた。その間に、大学教育の現場は様変わりした。対面による講義が実施できない中、教育の質を保持し、教育格差を生じないように、各学部によって、授業を提供する方法を模索した。そのため、教職員も学生も翻弄し、その苦労は計り知れないものであった。教員と学生、学生間の関係が疎遠となり、孤立する学生も出てきた。学生は遠隔が通常となったため、家で授業を受けることに抵抗が無くなっている。そのため、大学へ足を運ぶことを面倒と考えるようになり、大学に登校することの意義を見出せない学生もでてきた。しかし、次年度からは、特例も解除され、メディア授業の規定と、そのメディア授業科目についての卒業要件の規定が施行される。教員、学生に周知し、元の大学教育の体系に戻すには、様々な困難が伴うと想像する。その一方で、一気に発達したメディアによる授業提供方法も、さらに発展し、今まで以上に活用することになると考える。今後は、大学教育を元に戻しつつ、メディアの良いところも盛り込み、教育効率の上がる良い教育を実施すべきと誰しもが考える。

PDCA サイクルによる継続的な改善により、徳島大学の教育改善に臨むべきであろう。そのために、本調査は新たな教育の方向性を決めるために必要であり、今後の調査がカギとなると考える。今後も調査内容を精査し、その時代に応じた内容にシフトして頂きたいと考える。

最後となりますが、本調査における調査項目の選定や調査の実施、報告書の発行に際しまして、ご支援、ご協力いただきました長宗副学長はじめ事務局および大学教育委員会の方々、さらに企画・執筆・編集にもご尽力いただきました「教育の質に関する専門委員会」の先生方に厚く御礼申し上げます。併せまして、膨大なアンケートの集計・編集等の作業に尽力いただきました教育支援課・学務関係職員の皆様、TA の皆様に深謝申し上げます。また、膨大な量のアンケート調査に協力してくれた学生諸君にも感謝の意を伝えたいと思います。本調査は経年変化観察や他大学との比較が可能であり、教育や学生支援の充実に反映されるよう、努力を続けるとともに、大学の発展に繋がることを祈念しております。

教育の質に関する専門委員会委員長 金丸 芳